

ポー・カレン語文法  
A Pwo Karen Grammar

加藤昌彦  
Atsuhiko KATO

2004  
東京大学博士学位申請論文



# はじめに

## 本論文の位置づけ

ビルマ(ミャンマー)連邦カレン州(Karen State)パアン市(Hpa-an)周辺で話されるポー・カレン語(Pwo Karen)パアン方言(Hpa-an dialect)の文法記述を言語学的な立場から包括的に行うことが、この論文の目的である。カレン系言語の文法を言語学にかつ包括的に扱った研究には、カヤー語(Kayah)に関する Solnit (1997)がある。実用的な目的で編纂された文法書であれば、スゴー・カレン語(Sgaw Karen)に関するものがいくつか出版されているが(Wade 1888, Gilmore 1898, Saya Kan Gyi 1915, Ballard 1993 など)、カレン系の一つの言語を言語学的な立場から包括的に記述した文法書は、おそらくこの Solnit によるカヤー語文法しか存在しない。

ポー・カレン語の文法を多少とも扱ったものとしては、Duffin (1913) や Purser and Saya Tun Aung (1922) がある。前者は会話用の例文集であり、後者は巻末に文法の概略を付した語彙集である。これらは、80 年以上前のポー・カレン語の様子を現代の我々に垣間見せてくれる良書であるが、実用向けに編まれたものであって、また時代が時代だけに、厳密性に乏しい。また、両著書とも、基本的には西部方言を扱ったものであるにもかかわらず、キリスト教ポー・カレン文字が最初に作られた東部方言の言語現象に引きずられて説明している部分が多く、そのため異なる言語体系に属する言語現象が混在してしまっており、一言語の記述としては大きな問題がある。おそらく、ポー・カレン語の一方言の文法に関する言語学的な包括的記述は、本論文が初めてである。

本論文を書く上で、常に留意したのは次の二点である。まず一つは、できるだけたくさんの実例を挙げるということである。特に、助詞の記述を行った章においては、一つの助詞につき最低数個の実例を挙げることにした。文法の分析には作例による検証が欠かせない。しかし、それだけでは、日常的に使われている言語の姿と異なる様相が描き出されてしまう危険性がある。ポー・カレン語はあまり知られていない言語であるから、できるかぎり分析者の色眼鏡を通さないありのままの姿を提示したいという気持ちがあった。もう一つの点は、様々な言語の記述的研究に共通に使われる基礎的な概念のみをなるべく用いて記述するということである。筆者は、あまり知られていない言語のありのままを提示したいときには特に、このような態度が有効であると思っている。この考え方は、Dixon が提唱している基礎的言語理論(basic linguistic theory)を用いた記述という考え方に共通する(Dixon 1997 を参照)。言語の記述研究に携わっている研究者の多くは、理論を用いて記述をしているという意識を持っていない。しかし、例えば「語」とか「節」というような基礎的な概念を用いずに言語の記述をする研究者はいないし、どの研究者もこのような術語について共通する何らかの理論的認識を持っている。だとしたら、理論を用いずに言語の記述を行っていると考えている研究者も、実は理論に基づいて研究を行っているこ

となる。基礎的言語理論とは、基礎的な言語学的概念に理論的価値を見出し、基礎的な概念を主として用いつつ言語現象を一般化しようとする考え方である。

## ポー・カレン語の記述に関する先行研究

ポー・カレン語の文法を簡単に概観したものには、Duffin (1913) や Purser and Saya Tun Aung (1922) がある。しかし、先ほど述べたように、これらは厳密性に乏しく、また、東西の方言の特徴を混在させてしまっているという点で大きな問題がある。Kato (2003a) は、パアン方言の文法を簡単にまとめたものである。

ポー・カレン語の音声について記述したものとしては、Jones (1961) がある。この本は、カレン系諸言語を比較言語学的立場から研究したもので、ポー・カレン語に関しては、パテイン方言 (Bassein dialect) とモールメイン方言 (Moulmein dialect) を扱っている。しかし、記述の部分ではスゴー・カレン語にページ数を大きく割いており、ポー・カレン語についてはごく簡単にしか述べていない。また、音素の設定の仕方が比較に便利ようになされており、共時的な研究としては少々問題がある。Cooke et al. (1976) はタイ北部 Hot district の音素体系を、Kato (1995) はビルマ側の三つの方言の音素体系を、Phillips (1996,2000) はタイ西部の方言の音素体系を、それぞれ記述している。Cooke et al. (1976) と Phillips (1996,2000) を Jones (1961) や Kato (1995) と比べてみると、ビルマ側の方言とタイ側の方言の差異がうかがえて興味深い。

ポー・カレン語の個々の文法現象についての研究は、筆者のものを除くと皆無と言ってもよい。加藤 (1998) はパアン方言の動詞連続についての記述、Kato (1999) はパアン方言の使役構文についての記述、加藤 (2001a) はパアン方言の関係節についての記述である。

ポー・カレン語の文字について扱ったものとしては、人類学者 Stern によるものがある (Stern 1968)。キリスト教ポー・カレン文字、仏教ポー・カレン文字、レーケー文字と発音の対応について述べているが、音声の扱いが粗雑で言語研究用には利用できない。Phon Myint (1975) は、1851 年から 1970 年の間に東部ポー・カレン語で書かれてた文書 (主として仏教文書) に解題を付けたものである。著者はビルマ人 (ビルマ族) であるが、貝葉を丹念に集めてポー・カレン語を読み込んでおり、実証的な研究として高く評価できる。ポー・カレン語貝葉を扱った唯一の文献でもある。Cooke et al. (1976) は、タイ文字による Hot district の方言の表記法を提案している。加藤 (2001b,c) は、キリスト教ポー・カレン文字および仏教ポー・カレン文字の綴字法と発音との関係について述べたものである。キリスト教ポー・カレン文字については東部方言と西部方言の両方の読み方を対照して示している。

## 本論文の構成

本論文は、全 32 章から成る。これを第 I 部から第 IX 部に分ける。

第 I 部「序論」(第 1 章から第 4 章) では、本論文での議論を展開するにあたっての基本的な事項の説明や定義を行う。まず第 1 章では、本論文で扱うポー・カレン語の系統的な位置づけや話者の置かれた社会状況などについて概説する。第 2 章では、ポー・カレン語の音素体系を記述する。第 3 章では、本論文で用いる品詞分類と分類の基準を示す。第 4 章

では、ポー・カレン語の基本的語順を示し、さらに、本論文で用いる様々な概念の定義を行う。

第II部「形態論」(第5章から第7章)では、形態論レベルの現象を記述する。ポー・カレン語における形態論的現象には、接辞による派生、複合、繰り返し(reduplication)による派生がある。第5章では接辞による派生を、第6章では複合を、第7章では繰り返しによる派生を扱う。

第III部「名詞に関連する諸問題」(第8章から第14章)では、名詞や名詞句に関連する文法現象についての議論、あるいは、名詞句に付く助詞の記述を行う。第8章では、名詞句の構造を記述する。第9章では、名詞の下位範疇の一つである代名詞について論じ、第10章では、やはり名詞の下位範疇の一つである数詞および助数名詞について論じる。第11章では、様々な側置助詞を記述する。側置助詞というのは、他の言語のいわゆる前置詞や後置詞に相当する助詞である。続く、第12章と第13章では、側置名詞および場所名詞という名詞の下位範疇を取り上げて記述する。これらは、品詞としては名詞に属するが、側置助詞と共通する特徴も持ち合わせている。第14章では、様々な名詞修飾助詞を記述する。

第IV部「動詞に関連する諸問題」(第15章から第18章)では、動詞や動詞句に関連する文法現象についての議論、あるいは、動詞に付く助詞の記述を行う。第15章では、本論文で用いる動詞の分類方法およびその分類基準を示す。第16章では、動詞句という単位の定義を行い、動詞句という単位を設定する理由を述べる。第17章では、この言語の動詞連続の定義を行い、二つのタイプの動詞連続を記述する。第18章では、動詞に付く助詞である動詞助詞の記述を行う。

第V部「副詞と感嘆詞」(第19章から第20章)では、名詞と動詞以外の自由形式すなわち副詞と感嘆詞を扱う。第19章では副詞を、第20章では感嘆詞を扱う。

第VI部「従属節に関連する諸問題」(第21章から第23章)では、従属節に関連する諸問題を扱う。第21章では、様々な従属節助詞を記述する。第22章では、補語として機能する従属節を補文と定義し、様々な補文を見ていく。第23章では、関係節を定義し、三つのタイプの関係節のテキストにおける現れを観察する。

第VII部「その他の助詞」(第24章から第26章)では、それまでの章で扱うことのできなかった助詞についての記述を行う。第24章では副助詞の記述を、第25章では文助詞の記述を、第26章では一般助詞の記述を、それぞれ行う。

第VIII部「その他の重要な文法現象」(第27章から第29章)では、第VII部までで扱わなかった重要な文法現象を見る。第27章では、「疑問語」を定義し、どのような疑問語があるかを概観する。第28章では、二つのタイプの使役構文を定義し、それぞれを記述する。第29章では、類似要素反復という現象を記述する。

最後の第IX部「付録」(第30章から第32章)は参考資料である。第30章は、本論文の分析に用いた様々な資料のリストである。第31章には、第30章に示した資料の中から、パアン方言の昔話4篇を選んで挙げてある。第32章は、東部方言と西部方言の対照基礎語彙集である。

この論文全体の構成は、Kato (2003a) を大きくふくらませたものである。また、各章のうち、第2章「音論」は Kato (1995)、第17章「動詞連続」は加藤 (1998)、第23章「関係節」は加藤 (2001a)、第28章「使役構文」は Kato (1999)、第32章「語彙」は加藤 (2002)

にそれぞれ基づいている。ただし、これらはすべて大幅に加筆修正をほどこしてある。

## 研究の経緯

1992年10月から1995年3月まで、筆者は文部省アジア諸国等派遣留学生として(1992.10-1994.9)、および私費留学生として(1994.10-1995.3)、ビルマ(ミャンマー)連邦ヤンゴン市の国立外国語学院に留学した。1987年からスゴー・カレン語の調査を日本で始めた筆者は、スゴー・カレン語の研究を深めることを第一の目的としてヤンゴンに向かった。しかし、留学当初の1992年12月に、スゴー・カレンの友人に招かれてヤンゴンで開かれたカレンの新年祭を見、そこで初めてポー・カレンの伝統芸能に触れ、また、ポー・カレン語にカレン人自身が作った文字があることを知った。このときポー・カレン語に対する学問的関心が生じ、ポー・カレン語の研究を始めることにした。

調査協力者を探すのに手間取ったため、ポー・カレン語の調査を開始することができたのは1993年4月だった。最初に手をつけたのは西部方言だった。ポー・カレンの伝統芸能が発達していて、また、カレン独自の文字が作られたのは、東部方言が話されている地域であるが、93年当時は外国人のカレン州への入域が許可されておらず、また、西部方言の話者がヤンゴンに多かったこともあり、まずは西部方言を研究対象として選んだ。93年5月ごろ、西部方言の先生として来てもらっていた、チョウンビョー(Kyonbyaw)出身の元看護士の女性デリアウィン(Dahlia Win)さんが、自分を家事手伝いとして雇ってもらえないかと提案してきた。毎日ポー・カレン語に触れられるという魅力的な環境と、当時のレートで一月五千元以下という安い賃金に惹かれ、提案を受け入れることにした。その後二年近く西部方言の勉強が継続できたのはこのデリアウィンさんのおかげである。

94年の始め頃、パアンの治安が良くなってきたので外国人も入れるのではないかと噂を聞きつけ、ターマニャ山参詣という名目で、カレン州旅行の申請を出してみた。ターマニャ山というのは、ターマニャ山僧正(Thamanya Shayadaw)が暮らすカレン州パアン郊外の小さな山である。僧正は2003年暮れに亡くなるまで、ビルマ中の信仰を集め続けた。百パーセント却下されるだろうという大方の予想に反して、思いがけず教育省から旅行許可が下りた。そこで94年4月、五日間の日程でパアン市を旅行し、東部方言の簡単な調査を行い、貝葉が保存されている僧院などを見てまわった。このとき、仏教徒ポー・カレンの育んできた豊かな文化に触れ、どうしても東部方言を本格的に研究したいという気持ちが湧き起こった。

ヤンゴンに帰ってからさっそく、東部方言を教えてくれる人を探し始めたが、なかなか見つからなかった。雨期も本格化した94年6月ごろ、やっと知り合いのつてでパアン市出身の獣医師兼旅行ガイドの男性ソー・フラチツ(Saw Hla Chit)さんを紹介してもらうことができた。ソー・フラチツさんから集中的に東部方言を学んだが、9月に予定していた日本帰国が刻々と迫っていた。最終的には留学期間を半年間延長できたものの、途中、病床に伏した事情もあり、95年3月の帰国までに文法が書けるほどのデータを集めることはできなかった。

95年4月に大学院に復学したが、帰国後もまだ、自分の研究の中心を西部方言にするか東部方言にするか決められないでいた。データとしては西部方言のデータのほうが揃っていたけれども、希望としては東部方言を中心に据えたかった。それに踏み切れなかったの

は、カレン州への入域が制限されていて、東部方言の調査がしにくいということだった。ヤンゴンでも、ソー・フラチッさん以外、細かい文法調査に耐えうるほど勘の良い母語話者が見つからなかった。

その後状況が一変したのは、タイ側の町で東部方言の調査が可能かもしれないという情報を得たからである。そこで 95 年暮れから 96 年始めにかけて、タイのビルマ国境の町、メーソット (Maesot) に行ってみた。メーソット郊外にはカレン人の難民キャンプ、ホエカローク (Huaikalok) 難民キャンプがあり、住民の半数以上が東部ポー・カレン人である。初めて行ったときに驚いたのは、パアンよりも難民キャンプのほうが生き生きとしたポー・カレン語が聞けるということだった。例えば、パアンの店や市場での買い物にはビルマ語が使われることが多い。しかし、難民キャンプの中にある雑貨店では、徹底してポー・カレン語が使われている。ポー・カレン語による買い物のやり取りを聞いたのはこのときが初めてだった。この調査旅行で東部方言の本格的な調査が可能だという確信が得られ、その後の研究においては東部方言を中心に据えることを決意した。

それからは、東部方言を調査するための環境は徐々に良くなっていった。97 年頃からはパアンまでなら旅行者が無許可でカレン州に入域できるようになった。時を同じくして、AA 研の新谷忠彦教授のプロジェクトに参加させてもらい、97 年 (1-2 月)、98 年 (2-3 月)、99 年 (2-3 月) と、96 年の調査から数えれば四年連続でメーソットまたはパアンで調査することができた。その後、2000 年 (11 月) にはパアンで、2001 年 (2-3 月) にはヤンゴンで追加調査を行った。

本論文の執筆に着手したのは、98 年の半ばごろである。結局、完成までに 6 年かかってしまった。今後も調査を続行し、新しい言語事実が見つければその都度、改訂を続けようと考えている。

最近、新谷忠彦教授の調査によって、いくつもの新しいカレン系言語の存在が知られるようになった (Shintani 2003a,b,c 参照)。今後は、ポー・カレン語の研究と並行して、このような新発見の言語を含む別のカレン系言語の文法を同じように調査・研究してみたいと考えている。

## 謝辞

本論文を書くにあたっては、実に様々な方々にお世話になった。

まず、東京大学大学院在学中に指導教官として直接ご指導をいただいた土田滋先生と湯川恭敏先生に心から厚くお礼を申し上げたい。また、同大学の上野善道先生、熊本裕先生、角田太作先生、松村一登先生、菊地康人先生、福井玲先生からは、筆者の研究発表に対して様々な言語研究の視点からご意見をいただいた。土田先生と湯川先生をはじめとして、東京大学の先生方には、言語現象を謙虚に観察することの大切さを教わった。坂本恭章先生、坂本比奈子先生、新谷忠彦先生、武内紹人先生、長野泰彦先生、西義郎先生、三谷恭之先生、藪司郎先生からは、東南アジアやチベット・ビルマ諸言語の専門家としての立場から様々なご意見をいただいた。このうち三谷先生は、筆者が東京外国語大学在学中に最初にカレン語の研究を勧めてくださった。また、長野先生と藪先生には職場の同僚としても研究に多大なご協力をいただいた。他に、様々な学会や研究会で本論文の内容に直接かわる貴重なご意見をくださった方々として、沈力、澤田英夫、塩原朝子、中山俊秀、笹

間史子、峰岸真琴、野島本泰、蝦名大助、佐々木惣平、阿部優子、長田俊樹、花園悟、遠藤光暁、月田尚美、風間伸次郎、江畑冬生、星泉、宇佐美洋、高橋慶治、鈴木玲子、Randy J. LaPolla、Graham Thurgood、Audra Phillips 各氏(順不同)のお名前を挙げておきたい。これ以外の方々からも様々な場で様々なご意見を頂戴している。研究面に関して、以上の方々に厚く感謝の意を表したい。

それから、ポー・カレン語の研究そのものを可能にしてくれたポー・カレンの友人達に感謝の意を表したい。まず、筆者に最初にポー・カレン語を教えてくれた西部方言話者の Violet Kyaw さんと Dahlia Win さん。それから、10 年近くにわたって筆者に東部方言を教えてくれている Saw Hla Chit さん。東部方言に関しては、Saw Hla Chit さん以外に、Saw Thurein、U Sandawara、Saw Htalon、U Pyinnyathami に教えを乞うてきた。その他にも、筆者の Hpa-an あるいは Mae Sot 滞在中に、生活の様々な場面でポー・カレン語を教えてくれた何十人もの人々がいる。彼らがいなければこの研究は成り立たなかった。心から厚くお礼を申し上げたい。

なお、これまでの調査は、財団法人三菱信託山室記念奨学財団、および、文部省(文部科学省)の国際学術研究「シャン文化圏における言語学的・文化人類学的調査」(研究代表者新谷忠彦)、「中国・東南アジア大陸部の国境地域における諸民族文化の動態に関する人類学的調査研究」(研究代表者塚田誠之)の助成によって可能になった。

#### ポー・カレン語の表記に関する注意事項および略号など

例文番号は、章ごとに(1)からカウントしなす。

分かち書きは、基本的に単語ごとに行う。ただし、表記上の煩雑さを避けるために、この原則を破り、複数の単語を分かたずに表記することもある。逆に、単語の内部構造に言及する場合は、形態素ごとに分かち書きする場合がある。

グロスは、基本的に分かち書きのひとまとまりごとに付す。ただし、助詞についての説明を行っている箇所、その助詞が節の見出しになっている場合は、一貫して当該の助詞にグロスを付さない。グロスを付すことがかえって議論の妨げになる場合があるからである。側置名詞などの助詞に似た働きを示す一群の語についても同様。

例文の和訳に付した(V-04.86)などの番号は、筆者の手持ちの資料における整理番号である。これについては第30章を参照されたい。なお、例文によっては、読みやすくするために適格性に問題の生じない範囲で一部を改変したものもある。

ポー・カレン語の例文に付す様々な略号などの一覧を下に掲げる。

#### ● 単語ごとに付すもの

以下は代名詞に付す略号である。



1sg, 2sg, 3sg	単数人称代名詞第一形 (主に主語形・所有形として使われる)
1SG, 2SG, 3SG	単数人称代名詞第二形 (主に目的語形として使われる)
1se, 2se, 3se	単数人称代名詞強勢形
1pl, 2pl, 3pl	複数人称代名詞第一形 (主に主語形・所有形として使われる)
1PL, 2PL, 3PL	複数人称代名詞第二形 (主に目的語形として使われる)
1pe, 2pe, 3pe	複数人称代名詞強勢形
CHə	不特定のものを指す代名詞

次に挙げるのは、日本語の逐語訳を付けにくい単語に付す略号である。漢字を用いたものは音読み順に並べてある。

(のだ): 日本語の「(～する)のだ」に似た意を表す副助詞 *nó* に付す。これを付したからといって、その文が常に日本語の「のだ」を用いて訳せるわけではない。; **BO**: 文助詞の *bò* に付す。 **CHAI**: 文助詞の *chài* に付す。; **DU**: 文助詞の *dù* に付す。; **JA**: 文助詞の *jā* に付す。; **JABO**: 文助詞の *jābò* に付す。; **KANE**: 文助詞の *kənê* に付す。; **NE**: 文助詞の *nê* あるいは一般助詞の *nê* に付す。; **XO**: 文助詞の *xō* に付す。; (意外): 意外性を表す動詞助詞 *kràn* に付す。; (詠嘆): 詠嘆を表す動詞助詞 *dáchəθà* などに付す。; (遠隔): 遠方から行う動作を表す動詞助詞 *cò* に付す。; (婉曲): 婉曲、断定の回避を表す副助詞 *chū* に付す。; (遠方): 距離の遠さを表す名詞修飾助詞 *ʔò* に付す。; (引寄): 対象物を引き寄せることあるいは携帯することを表す動詞助詞 *nī* に付す。; (皆): 複数性を表す動詞助詞 *chən, kón, còN* などに付す。; (過去): 過去の時点を表す名詞修飾助詞 *dáʔò* に付す。; (下方): 下方向への移動を表す動詞助詞 *làn* に付す。; (外方): 外方向への移動を表す動詞助詞 *thán* に付す。; (学習): 動詞の表す動作によって学ぶことまたは教えることを表す動詞助詞 *ló* に付す。; (完): 完了 (perfect) を表す副助詞 *jàu* に付す。; (関): 関係節を導く従属節助詞 *lé* に付す。; (願望): 願望、希望を表す動詞助詞 *lā* に付す。; (完成): 事態の末端への到着を表す動詞助詞 *thán* に付す。; (疑): 疑問。文助詞 *bā, lê* に付す。また、補文を導く *bā, lê* にもこれを付す。; (基準): 判断の基準点を表す動詞助詞 *bá, nī* に付す。; (帰的): 再帰的な動作を表す動詞助詞 *làn* に付す。; (逆): 逆向きの動作を表す動詞助詞 *kəðà* に付す。; (逆接): 逆接を表す従属節助詞 *lānāN* などに付す。; (共): 道具、共同参加者、随伴者、相互的な状況の相手などを表す側置助詞 *dè* に付す。; (強意): 強意、強調を表す動詞助詞 *wê* や *wêdà* に付す。; (驚愕): 驚愕を表す動詞助詞 *cəu* に付す。; (強調): 強調を表す名詞修飾助詞 *lé* に付す。; (禁止): 禁止を表す副助詞 *ləxì* に付す。; (近傍): 距離の近さを表す名詞修飾助詞 *jò* に付す。; (繋): コピュラ動詞 *mwē* に付す。; (継起): 「～して(...する)」意。従属節助詞 *ʔòN* や *θəʔòN* に付す。; (経験): 経験を表す動詞助詞 *bá* に付す。; (傾向): 傾向を表す動詞助詞 *kràn* に付す。; (元位): 元の位置への移動を表す動詞助詞 *thàin* に付す。; (限界): 事象が存続する限界となる時点を表す従属節助詞 *thòn* に付す。; (限定): 限定を表す動詞助詞 *dá* や、名詞修飾助詞 *kəjē, kənī* などに付す。; (再帰): 再帰を表す動詞助詞 *θà* に付

す。； (最上): 「最も～な」の意を表す動詞助詞 tháu に付す。； (催促): 催促を表す動詞助詞 bá に付す。； (再度): 繰り返しを表す動詞助詞 thàin に付す。； (使役): 使役を表す動詞助詞 dà や mà などに付す。； (試行): 試行を表す動詞助詞 jō に付す。； (自然): 自然な成り行きを表す動詞助詞 mēin に付す。； (執拗): 執拗さを表す動詞助詞 nī に付す。； (自発): 自発を表す動詞助詞 θà に付す。； (条件): 条件や仮定を表す従属節助詞 ?è あるいは càibò に付す。?è と共に現れる bò や càibò には(条件')を付す。； (常時): 常時性を表す動詞助詞 thān に付す。； (少数): 少数を漠然と表す名詞修飾助詞 nān に付す。； (将来): 発話時点より後を表す一般助詞 khó に付す。； (上方): 上方向への移動を表す動詞助詞 thán に付す。； (新局): 新しい局面を表す動詞助詞 θà に付す。； (人名): 人の名前に付す。； (先行): 「先に～する」意を表す動詞助詞 wī に付す。； (前提): 前提となる事象を表す、nó や tā を始めとする従属節助詞に付す。； (専念): 専念を表す動詞助詞 pjáu に付す。； (相互): 相互的な動作を表す動詞助詞 lóθà に付す。； (題): 主題を表す一般助詞 nó や jò などに付す。； (代行): 代行を表す動詞助詞 khè に付す。； (対比): 対比、対照を表す一般助詞 khô に付す。； (断定): 断定を表す副助詞 lô や tàlô などに付す。； (地名): 地名に付す。； (追加): 異なる事象が累加的に生起することを表す動詞助詞 thàin に付す。； (提示): 提示を表す動詞助詞 pjà に付す。； (徹底): 徹底して行うことを表す動詞助詞 khwái に付す。； (当為): 当為、義務を表す動詞助詞 bá に付す。； (努力): 努力を表す動詞助詞 nī に付す。； (内方): 内方向への移動を表す動詞助詞 làn に付す。； (内密): 内密を表す動詞助詞 θú に付す。； (任意): 任意性を表す従属節助詞 yì に付す。； (場): 場所・起点・着点、または時間を表す側置助詞 lé あるいは thōn に付す。； (否): 否定を表す動詞助詞 lə- あるいは 副助詞 ?é に付す。(否')は、lə- と共に現れる bá(wá) に付す。； (裨益): 裨益を表す動詞助詞 phí に付す。； (非常): 程度の甚だしさを表す副詞 châ や、副助詞 mā などに付す。； (備え): 何らかの事態に備えて結果を保持することを表す動詞助詞 wè に付す。； (比較): 比較を表す動詞助詞 dá や nāin に付す。； (非現): 非現実法を表す動詞助詞 mə- に付す。； (比定): 「～のように」の意を表す側置助詞 bê(θò) ... θò の bê(θò) に付す。なお、θò に(比定')を付す。； (複): 複数を表す名詞修飾助詞に付す。； (不抗): 不可抗力的な状況「～することになる」を表す動詞助詞 bá に付す。； (別個): 別個の物や事象を表す一般助詞 dō に付す。； (変化): 状態の変化を表す動詞助詞 thán または làn に付す。； (返答): 動作が何かに対する返答であることを表す動詞助詞 thàin に付す。； (補): 補文を表す従属節助詞 lé あるいは dè に付す。； (保持): 結果の保持を表す動詞助詞 thá に付す。； (毎): 「すべての～」を表す抽象数詞 kò ... dè の kò に付す。dè には(毎')を付す。； (未来): 未来の時点を表す一般助詞 khó に付す。； (無意): 無意志的に行う動作を表す動詞助詞 bá に付す。； (無根): 根拠のなさを表す動詞助詞 kràn に付す。； (無信): 信念や確信のなさを表す動詞助詞 càu に付す。； (目的): 目的を表す従属節助詞 bê ... θò の bê に付す。θò には(目的')を付す。； (模倣): 模倣を表す動詞助詞 dōn に付す。； (遊び): 「遊び」で行うことを表す動詞助

詞 kwè に付す。； (欲求): 欲求を表す動詞助詞 báθà に付す； (理由): 理由を表す従属節助詞 ʔəkhóccòN, dè などに付す； (臨場): 事態の発生の生き生きとした描写を表す副助詞 ph̄ に付す。； (類似): 「～も」の意を表す一般助詞 θi に付す。； (列挙): 列挙を表す名詞修飾助詞 dè に付す。；

● 文の構造やイントネーションに関わるもの

以下は必要な場合にのみ付す。

	節の境界。なお、従属節を導入する助詞そのものは、厳密に考えると主節の要素だと考えられるが、見やすさを優先して、そのような助詞も従属節側の要素であるかのような表記を行う。
↵	これ以降が付け足し (afterthought) であることを表す
< >	統語構造に直接関わらない感嘆詞などの要素
[ <sub>R</sub> ]	関係節
[ <sub>C</sub> ]	補文
ㄷ ㄴ ㄷ ㄴ	類似要素反復
△	倒置された主語
[ ](v1)	連結型動詞連続を構成する最初の動詞複合体
[ ](v2)	連結型動詞連続を構成する二番目の動詞複合体
[ ](V1)	分離型動詞連続を構成する最初の動詞複合体
[ ](V2)	分離型動詞連続を構成する二番目の動詞複合体
(↑)	急激な上昇調
(↗)	緩慢な上昇調

● その他

- ▷ 各例文に関する注意事項をこの記号の後に示す。



# 目次

はじめに	i
本論文の位置づけ	i
ポー・カレン語の記述に関する先行研究	ii
本論文の構成	ii
研究の経緯	iv
謝辞	v
ポー・カレン語の表記に関する注意事項および略号など	vi
 第Ⅰ部 序論	 1
第1章 ポー・カレン語について	3
1.1 本論文で扱う方言とポー・カレン語の概況	3
1.2 通時的観点から見たカレン系諸言語	7
1.3 ポー・カレン語の文字	10
第2章 音論	15
2.1 音節構造	15
2.2 子音音素	15
2.3 子音結合	17
2.4 母音と韻母	18
2.4.1 開音節韻母	18
2.4.2 閉音節韻母	20
2.5 声調	21
2.6 軽声音節	22
2.7 イントネーション	23
2.7.1 穏やかな上昇調イントネーション	24
断定を表す副助詞 lɔ̃ の前	24
完了を表す副助詞 jàu の前	24
確認の意を込めた応答の文において	25
2.7.2 急激な上昇調イントネーション	25
2.8 本論文の表記	26

第 3 章	品詞分類	27
3.1	五つの品詞	27
3.2	助詞の分類	29
第 4 章	基本語順および本論文での記述に用いる様々な基本的概念	31
4.1	基本語順	31
4.1.1	動詞と項	31
	主語の倒置	32
4.1.2	動詞と副詞	33
4.1.3	名詞と関係節	33
4.1.4	名詞と名詞	34
4.1.5	動詞と動詞助詞	35
4.1.6	動詞と否定を表す助詞	35
4.1.7	名詞と側置助詞	35
4.1.8	主節と副詞節	36
4.1.9	疑問を表す文の作り方	36
4.2	主語と目的語と斜格補語	37
4.2.1	主語	37
4.2.2	目的語	40
4.2.3	斜格補語	43
4.3	述部と述語	44
4.4	主題化および分裂文	46
4.4.1	補語 (側置助詞句を含む)	46
4.4.2	分離型動詞連続の「主語 + V1 動詞句」	48
4.4.3	従属節	48
4.4.4	補語あるいは副詞以外の部分: 分裂文	48
4.5	意味役割	50
4.6	文の分類	51
4.7	態について	52
4.8	時制について	53
4.9	所有を表す文について	54
第 II 部	形態論	55
第 5 章	接辞	57
5.1	ʔə-	58
5.2	nó-	60
5.3	pə-	60
5.4	ʔè-	60
5.5	phà-	60
5.6	ph̃-	61

5.7	lən-	61
5.8	thôn-	61
5.9	-phó	61
5.9.1	指小辞的に	62
5.9.2	構成員	62
5.10	-lé	62
<b>第6章</b>	<b>複合</b>	<b>63</b>
6.1	複合名詞	63
6.1.1	「名詞」＋「名詞」の構成を持つもの	64
	後部要素が主要部になっているもの	65
	前部要素が主要部になっているもの	70
	両要素とも主要部であると考えられるもの	71
6.1.2	「名詞」＋「動詞文として成立可能な要素」の構成を持つもの	72
	主語	72
	目的語	74
	斜格補語	74
	非節内要素	75
	「名詞」＋「動詞文として成立可能な要素」の構成を持つものにつ いての補足	76
6.1.3	「動詞文として成立可能な要素」＋「名詞」の構成を持つもの	77
	主語	77
	斜格補語	78
	非節内要素	78
6.1.4	「動詞文として成立可能な要素」＋「動詞文として成立可能な要素」 の構成を持つもの	79
6.2	複合動詞	79
6.2.1	「名詞」＋「動詞」の構成を持つもの	79
6.2.2	「動詞」＋「名詞」の構成を持つもの	80
6.2.3	「動詞」＋「動詞」の構成を持つもの	81
6.3	その他の複合語	82
<b>第7章</b>	<b>繰り返し</b>	<b>83</b>
7.1	動詞の繰り返し	83
7.1.1	AA 型	83
7.1.2	ABAB 型	83
7.1.3	AABB 型	83
7.2	助数名詞の繰り返し	85
7.2.1	lə- AA	85
7.2.2	ʔə- AA	86
7.3	補足:動詞の繰り返しについて	86

第 III 部 名詞に関連する諸問題	89
第 8 章 名詞句	91
第 9 章 代名詞	95
9.1 第一形	96
9.1.1 主語として	96
9.1.2 名詞の前	97
9.2 第二形	98
9.2.1 目的語として	98
9.2.2 側置助詞と共に	98
9.2.3 主題として	99
9.2.4 助数名詞句の前	99
9.2.5 その他	100
9.3 強勢形	100
補足:	102
9.4 代名詞化 (pronominalization) は存在するか?	102
9.5 chə	104
9.5.1 chə の第一形と第二形	104
主語として	104
名詞修飾助詞 jò, nɔ́, ʔò の前	104
側置助詞句の前	105
名詞 (助数名詞句を含む) の前	105
関係節の前	105
9.5.2 chə の第二形	105
目的語として	105
他の代名詞の後	106
関係節の後	106
9.5.3 chə の表すもの	106
人間を含む生物を表す例	106
無生物を表す例	106
生物を表しているのか無生物を表しているのか不明な例	107
事象を表す例	107
9.5.4 修飾語を伴わない chə の様々な用法	107
9.5.4.1 特定できない行為者や被動者などを表す	107
9.5.4.2 特定できる行為者や被動者などを表す	109
9.5.4.3 感情や生理現象の経験者を表す	110
9.5.4.4 自然現象	110
9.5.5 語彙化	111



<b>第 10 章 数詞と助数名詞</b>	<b>113</b>
10.1 具体数詞	113
10.2 助数名詞	115
10.2.1 主な助数名詞	116
10.2.2 名詞句と助数名詞句の順序	118
10.2.3 補語に対応する助数名詞句——いわゆる数量詞遊離	119
10.2.4 補足	121
10.3 抽象数詞	122
10.3.1 nāN	122
10.3.2 kò ... dè	124
10.3.3 kò ... dèmèinká	125
10.3.4 thàn ... θā	126
10.3.5 xwē	126
10.3.6 khòkhô	127
<b>第 11 章 側置助詞</b>	<b>129</b>
11.1 lé (ló, lə-, lú)	129
11.1.1 空間を表す場合	129
11.1.2 時間を表す場合	131
11.2 thòn	132
11.2.1 空間を表す場合	132
11.2.2 時間を表す場合	133
11.3 dè	134
11.3.1 道具・手段	134
11.3.2 随伴者・付帯物	134
所有表現 ʔó dè (be with)	135
11.3.3 相互的な状況の相手	136
11.3.4 様態	136
11.3.5 「目的語」に付く dè	137
11.4 bê ... θò	137
11.5 nî	140
11.6 xwè	140
11.7 báchâin	141
11.8 təkhhôlé (khòkhôlé)	141
11.9 phō	142
<b>第 12 章 側置名詞</b>	<b>145</b>
12.1 ʔəyāN	146
12.2 ʔəcòN	149
12.3 ʔəʔó	150
授受を表す文において受領者を表す名詞句に付く	151
所有者を表す名詞句に付く	152

<b>第 13 章 場所名詞</b>	<b>153</b>
13.1 ʔəphâṅkhú . . . . .	154
「感情の向かう対象」を表す ʔəphâṅkhú . . . . .	154
13.2 ʔəphânlá . . . . .	157
13.3 ʔəlá . . . . .	157
13.4 ʔəphəṇ . . . . .	158
13.5 ʔəkhlóṽṽ . . . . .	158
13.6 ʔəlòṽṽ . . . . .	159
13.7 ʔəméjá . . . . .	159
13.8 ʔəkhâṇ . . . . .	160
13.9 ʔəḷāṅkhâṇ . . . . .	160
13.10 ʔəklà . . . . .	160
13.11 ʔəkháṅthài . . . . .	161
13.12 ʔəthài . . . . .	161
13.13 ʔəkhúda . . . . .	162
13.14 ʔəkhúthò . . . . .	162
13.15 ʔəṇàṇ . . . . .	163
13.16 ʔəxòṇṇàṇ . . . . .	163
<b>第 14 章 名詞修飾助詞</b>	<b>165</b>
14.1 chəlé . . . . .	165
14.2 lé . . . . .	165
14.3 chām wē . . . . .	166
14.4 kəṇī . . . . .	167
14.5 kəjē . . . . .	168
14.6 láṽdè . . . . .	169
14.7 dè . . . . .	170
14.8 指示の働きをする jò, nó, ʔò . . . . .	170
14.8.1 jò . . . . .	171
14.8.2 nó . . . . .	172
14.8.3 ʔò . . . . .	173
14.8.4 名詞化された形 ʔəjò, ʔəṇó, ʔəʔò . . . . .	174
14.9 dáʔò . . . . .	175
14.10 jàṽ . . . . .	176
14.11 複数を表す ləphá, θí, θè . . . . .	176
14.11.1 ləphá . . . . .	177
14.11.2 θí . . . . .	178
14.11.3 θè . . . . .	178
14.11.4 その他の複数を表す助詞 . . . . .	180
14.11.4.1 θíləphá . . . . .	180
14.11.4.2 θèləphá . . . . .	181
14.12 láṽ . . . . .	181

14.13xān . . . . .	182
14.14yì . . . . .	183
14.15呼びかけを表す助詞 . . . . .	183
bē . . . . .	183
bà . . . . .	184
chài . . . . .	184
 第 IV 部 動詞に関連する諸問題	 185
 第 15 章 動詞の分類	 187
15.1 「意志動詞 (volitional verb)」対「無意志動詞 (unvolitional verb)」 . . . . .	187
15.2 「動態動詞 (active verb)」対「状態動詞 (stative verb)」 . . . . .	190
15.3 「自動詞 (intransitive verb)」対「他動詞 (transitive verb)」 . . . . .	192
15.3.1 動詞の自他に関する補足 . . . . .	194
(1) 自他の対応 . . . . .	194
(2) いわゆる ‘locative alternation’ を起こす動詞 . . . . .	195
15.4 動詞の実例 . . . . .	196
15.5 三つの動詞分類の関係 . . . . .	199
 第 16 章 動詞句	 201
16.1 分離型動詞連続の単位になる . . . . .	201
16.2 一部の動詞の目的語になる . . . . .	202
16.2.1 動詞句を目的語として取ることのできる動詞 . . . . .	202
ʔánkèin . . . . .	202
θànáN . . . . .	203
báθà . . . . .	203
thōuN . . . . .	204
16.2.2 動詞句が目的語として現れた文の統語的および意味的特徴 . . . . .	204
16.2.3 動詞句が主語として現れる可能性 . . . . .	205
 第 17 章 動詞連続	 207
17.1 ポー・カレン語の動詞連続の規定 . . . . .	207
17.2 動詞連続の分類 . . . . .	208
17.3 連結型 . . . . .	208
17.3.1 連結型動詞連続が表す事象間の関係 . . . . .	209
17.3.2 連結型における自動詞・他動詞の組み合わせ . . . . .	211
17.3.3 連結型における主動詞 . . . . .	214
17.3.3.1 主語同一型の主動詞 . . . . .	214
17.3.3.2 主語非同一型の主動詞 . . . . .	219
17.3.3.3 連結型における主動詞のまとめ . . . . .	222
17.3.4 連結型における動詞の配列規則 . . . . .	222
17.3.5 V2 事象の実現が含意されない動詞連続 . . . . .	228

17.3.6	3 個以上の動詞からなる連結型動詞連続	231
17.3.7	連結型動詞連続の形態統語論上の位置づけ	233
17.3.8	連結型動詞連続のまとめ	235
17.4	分離型	236
17.4.1	描写タイプ	239
17.4.1.1	V1 が表す事象の実現の含意	239
17.4.1.2	描写タイプの V2 の特徴	240
17.4.1.3	V2 の論理的主語が指示するもの	243
	● 節の主語と同一指示の場合	243
	● V1 の目的語と同一指示の場合	244
	● V1 が表す事象の様態を指示する場合	246
17.4.2	可能タイプ	249
17.4.2.1	V2 の種類と意味的特徴	250
17.4.2.2	V2 の論理的主語が指示するもの	253
17.4.3	分離型動詞連続における主動詞について	254
17.4.4	3 個以上の動詞からなる分離型動詞連続	257
17.4.5	分離型動詞連続のまとめ	257
17.5	動詞連続と外見が類似する構造	257
17.5.1	動詞句が目的語として現れた場合	258
17.5.2	補文を表す助詞を伴わない補文が現れた場合	259
17.5.3	従属節助詞を伴わない副詞節が現れた場合	262
17.5.4	関係節を導く助詞を伴わない関係節が現れた場合	265
17.6	動詞連続と文法化	266
17.7	動詞連続の実例	267
	● 連結型、「自動詞 + 自動詞」の例	267
	● 連結型、「自動詞 + 他動詞」の例	269
	● 連結型、「他動詞 + 他動詞」の例	270
	● 連結型、「他動詞 + 自動詞」の例	271
	● 分離型、描写タイプの例	273
	● 分離型、可能タイプの例	274
<b>第 18 章</b>	<b>動詞助詞</b>	<b>277</b>
18.1	mə- < 非現実 >	277
18.2	lə- < 否定 (従属節) >	281
18.3	bá < 当為 >	285
18.4	dà < 使役 >	286
18.5	mà < 使役 >	287
18.6	phílân < 使役 >	288
18.7	kò < 使役 >	289
18.8	lò < 使役 >	289
18.9	yê < 漸次的変化 >	289
18.10	lòN < 無分別 >	290

18.11ʔánʔú < 違法、反道德 > . . . . .	290
18.12thán . . . . .	291
18.12.1 thán(1) < 上方 > . . . . .	291
18.12.2 thán(2) < 状態の変化 > . . . . .	292
18.12.3 thán(3) < 外方向への移動 > . . . . .	294
18.12.4 thán(4) < 完成 > . . . . .	296
18.13làn . . . . .	297
18.13.1 làn(1) < 下方 > . . . . .	297
18.13.2 làn(2) < 状態の変化 > . . . . .	299
18.13.3 làn(3) < 内方向への移動 > . . . . .	299
18.13.4 làn(5) < 再帰的な動作 > . . . . .	300
18.14thàin . . . . .	301
18.14.1 thàin(1) < 元の位置への移動 > . . . . .	301
18.14.2 thàin(2) < 繰り返し > . . . . .	302
18.14.3 thàin(3) < 事象の追加 > . . . . .	302
18.14.4 thàin(4) < 返答、応酬 > . . . . .	304
18.15kə̀də < 逆向き > . . . . .	304
18.16lú < 学習 > . . . . .	305
18.17dòN < 模倣 > . . . . .	306
18.18kràn . . . . .	307
18.18.1 kràn(1) < 根拠のなさ > . . . . .	307
18.18.2 kràn(2) < 傾向 > . . . . .	308
18.18.3 kràn(3) < 意外性 > . . . . .	308
18.19ôân < 最前、最近 > . . . . .	308
18.20ôú < 内密 > . . . . .	309
18.21ʔú < 違法、反道德 > . . . . .	310
18.22cò < 遠隔 > . . . . .	310
18.23lì < 慣れ > . . . . .	311
18.24j̄ < 試行 > . . . . .	312
18.25khwái < 徹底 > . . . . .	313
18.26lā < 願望 > . . . . .	315
18.27dávê < 願望 > . . . . .	320
18.28mèin < 自然な成り行き > . . . . .	323
18.29ôâ < 新局面 > . . . . .	325
18.30pl̄ . . . . .	326
18.30.1 pl̄(1) < 無価値 > . . . . .	326
18.30.2 pl̄(2) < 無料 > . . . . .	327
18.31càv . . . . .	327
18.31.1 càv(1) < 驚愕 > . . . . .	327
18.31.2 càv(2) < 信念のなさ > . . . . .	328
18.32còn < 共同 > . . . . .	328

18.33kòuN < 共同 > . . . . .	329
18.34kón < 共同 > . . . . .	330
18.35xáu < 共同 > . . . . .	330
18.36chèn . . . . .	330
18.36.1 chèn(1) < 協力 > . . . . .	330
18.36.2 chèn(2) < 一斉 > . . . . .	331
18.37thàu < 続行 > . . . . .	332
18.38thân < 常時 > . . . . .	332
18.39pjáu < 専念 > . . . . .	333
18.40wê < 強意 > . . . . .	334
18.41wêdá < 強意 > . . . . .	335
18.42tè < 甚だしさ > . . . . .	335
18.43mātè < 甚だしさ > . . . . .	336
18.44dáchəθà < 詠嘆 > . . . . .	336
18.45chón < 強制 > . . . . .	337
18.46báθà < 欲求 > . . . . .	338
18.47thá < 保持 > . . . . .	339
18.48wè < 備え > . . . . .	340
18.49wī < 先行 > . . . . .	341
18.50kwè < 遊び > . . . . .	342
18.51mábá < 過誤 > . . . . .	343
18.52bá . . . . .	343
18.52.1 bá(1) < 無意志 > . . . . .	343
18.52.2 bá(2) < 不可抗力 > . . . . .	345
18.52.3 bá(3) < 経験 > . . . . .	346
18.52.4 bá(4) < 判断の基準点の導入 > . . . . .	347
18.52.5 bá(5) < 催促 > . . . . .	348
18.53nī . . . . .	348
18.53.1 nī(1) < 努力 > . . . . .	348
18.53.2 nī(2) < 引き寄せ > . . . . .	349
18.53.3 nī(3) < 執拗 > . . . . .	351
18.53.4 nī(4) < 判断の基準点の導入 > . . . . .	351
18.54khè < 代行 > . . . . .	352
18.55phílân < 裨益 > . . . . .	353
18.56pjà < 提示 > . . . . .	356
18.57dá . . . . .	357
18.57.1 dá(1) < 限定 > . . . . .	357
18.57.2 dá(2) < 比較 > . . . . .	358
18.58náiN < 比較 > . . . . .	359
18.59tháu < 最上 > . . . . .	360
18.60θà . . . . .	361

18.60.1θà(1) <再帰> . . . . .	361
18.60.2θà(2) <自発> . . . . .	363
18.61lóθà <相互行為> . . . . .	364
18.62動詞助詞全体のまとめ . . . . .	369
 第Ⅴ部 副詞と感嘆詞 . . . . .	 373
第19章 副詞 . . . . .	375
19.1 動詞句の中に現れるもの . . . . .	375
19.1.1 動詞からの派生による副詞 . . . . .	375
19.1.2 動詞からの派生によらない副詞 . . . . .	376
19.1.3 名詞を修飾する場合 . . . . .	379
19.2 文頭に現れるもの . . . . .	379
19.2.1 文と文の文脈的な関係を表すもの . . . . .	379
dè . . . . .	379
lānân . . . . .	380
cānbò . . . . .	380
ʔəkhúcòn . . . . .	380
ʔèyòn . . . . .	381
thònnó . . . . .	381
19.2.2 話者の心情を表すもの . . . . .	381
kəbá . . . . .	381
thəmjânũ . . . . .	382
kəjān . . . . .	383
19.3 副詞的に使うことのできる名詞 . . . . .	383
 第20章 感嘆詞 . . . . .	 385
 第Ⅵ部 従属節に関連する諸問題 . . . . .	 387
第21章 従属節助詞 . . . . .	389
21.1 ʔè . . . . .	389
21.2 càibò . . . . .	391
21.3 ʔəkhúcòn . . . . .	393
21.4 yòn . . . . .	393
21.5 θèyòn . . . . .	395
21.6 lānân . . . . .	396
21.7 bê ... θò . . . . .	397
21.8 dè . . . . .	398
21.8.1 dè(1) <理由> . . . . .	398
21.8.2 dè(2) <即時性> . . . . .	399

21.8.3 dè(3) < 同時性 > . . . . .	400
21.9 thòN . . . . .	400
21.10xwè . . . . .	401
21.11dèiN . . . . .	402
21.12yì . . . . .	402
21.13xì . . . . .	403
21.14kə̀lā . . . . .	403
21.15khā . . . . .	404
21.16chə̀nchāN . . . . .	404
21.17nó . . . . .	405
21.18tā . . . . .	406
21.19nótā . . . . .	406
21.20jò . . . . .	406
21.21í . . . . .	406
21.22lé . . . . .	407
21.23lé と dè . . . . .	407
21.24bā と lê . . . . .	407
21.25従属節助詞に似た働きをする名詞 . . . . .	408
21.25.1 ʔəkhā . . . . .	408
21.25.2 ʔəyāN . . . . .	409
21.26従属節助詞を伴わない副詞節 . . . . .	409
<b>第 22 章 補文</b> . . . . .	<b>413</b>
22.1 主語相当の補文 . . . . .	413
22.2 目的語相当の補文 . . . . .	415
22.2.1 発話等を介した情報の授受に関する動詞 . . . . .	417
22.2.2 視覚に関する動詞 . . . . .	418
22.2.3 聴覚に関する動詞 . . . . .	419
22.2.4 思考に関する動詞 . . . . .	420
22.2.5 知識や記憶に関する動詞 . . . . .	421
22.2.6 喜び、好き嫌い、心配、恐れ、後悔などの様々な感情に関する動詞 . . . . .	422
22.2.7 使役を表す動詞 . . . . .	423
22.2.8 繫辞動詞 mwē . . . . .	424
22.2.9 現実法・非現実法の対立 . . . . .	425
22.3 斜格補語相当の補文 . . . . .	426
22.4 bā や lê の現れる補文 . . . . .	426
thíchà 「確かな」 . . . . .	428
lò 「話す, 物語る, 言う」 . . . . .	428
kətò 「心配する」 . . . . .	428
θíjā 「知る」 . . . . .	428
22.5 目的語として補文を取る動詞の特殊なもの . . . . .	429



<b>第 23 章 関係節</b>	<b>433</b>
23.1 ポー・カレン語の関係節の定義と種類	433
23.1.1 後置型 (postnominal type)	434
23.1.2 前置型 (prenominal type)	434
23.1.3 標識介在型 (marked type)	435
23.1.4 主要部内在型の関係節は存在するか?	436
23.2 調査と考察	437
23.2.1 関係節の使用の実態	437
23.2.2 後置型と前置型	442
主語の場合	442
非主語の場合	446
23.2.3 標識介在型	450
23.3 まとめ	451
 <b>第 VII 部 その他の助詞</b>	 <b>453</b>
<b>第 24 章 副助詞</b>	<b>455</b>
24.1 程度にかかわるもの	455
24.1.1 mā	455
24.1.2 kī	456
24.1.3 pəθàì	456
24.2 様態にかかわるもの	456
24.2.1 phō	456
24.2.2 bjāN	457
24.2.3 pōuN	458
24.2.4 tō	458
24.3 事象のアスペクト的把握にかかわるもの	459
24.3.1 dài	459
24.3.2 jàu	462
24.3.3 ləN	466
24.4 否定にかかわるもの	467
24.4.1 ?é	467
24.4.2 ləxì	469
24.5 話し手の態度にかかわるもの	470
24.5.1 chī	470
24.5.2 lō	472
24.5.3 dàlō	473
24.5.4 bōlō	474
24.5.5 nō	474

<b>第 25 章 文助詞</b>	<b>477</b>
25.1 ɸâ . . . . .	477
25.2 lê . . . . .	478
25.2.1 lê (1) . . . . .	478
25.2.2 lê (2) . . . . .	480
25.3 nê . . . . .	481
25.4 kənê . . . . .	482
25.5 jā . . . . .	482
25.6 jābò . . . . .	483
25.7 xō . . . . .	484
25.8 bó . . . . .	485
25.9 jē . . . . .	485
25.10kē . . . . .	486
25.11wê . . . . .	486
25.12jān . . . . .	486
25.13dū . . . . .	486
25.14chə . . . . .	487
25.15nà . . . . .	488
25.16bò . . . . .	488
25.17mî . . . . .	489
25.18chài . . . . .	489
25.19lāchài . . . . .	490
25.20báɸô . . . . .	491
25.21lòwê . . . . .	491
25.22dé . . . . .	492
 <b>第 26 章 一般助詞</b>	 <b>493</b>
26.1 主題化された要素にしか付かないもの . . . . .	493
26.1.1 nó . . . . .	494
26.1.2 nó 以外の主題を表す一般助詞 . . . . .	496
jò . . . . .	496
ʔò . . . . .	497
tā . . . . .	497
nótā . . . . .	497
nóʔò . . . . .	497
26.1.3 θí . . . . .	497
26.1.4 khô . . . . .	500
26.1.5 má . . . . .	502
26.1.6 thōn . . . . .	503
26.1.7 ɸō . . . . .	503
26.1.8 nê . . . . .	504
26.2 主題化された要素以外にも付くもの . . . . .	504

26.2.1	dò	504
26.2.2	khó	506
26.3	一般助詞を用いた慣用表現	508
<b>第 VIII 部 その他の重要な文法現象</b>		<b>509</b>
<b>第 27 章 疑問語</b>		<b>511</b>
27.1	名詞に属するもの	511
27.1.1	chənó	511
27.1.2	pô	512
27.1.3	pòwê	513
27.1.4	phlòuN	513
27.1.5	khòkhô	513
27.1.6	xwē	513
27.2	副詞に属するもの	513
27.2.1	bêθtθò	513
27.2.2	ɛá	514
27.2.3	phōphôbàu	514
27.2.4	cèçé	515
27.2.5	khô	515
27.2.6	khòkhô	516
27.2.7	bánó	516
<b>第 28 章 使役構文</b>		<b>517</b>
28.1	使役構文の二つのタイプ	517
28.2	TYPE 1	517
28.2.1	使役助詞を用いる場合	518
28.2.1.1	dà	520
28.2.1.2	mà	522
28.2.1.3	phılân	524
28.2.1.4	kò	525
28.2.1.5	lò	526
28.2.2	一般の動詞を用いる場合	527
28.3	TYPE 2	528
28.3.1	ʔánmêN	530
28.3.2	plètò	531
28.3.3	phılân	531
28.4	まとめ	533

第 29 章 類似要素反復	535
29.1 様々な例	536
29.1.1 名詞句の反復	536
単独の名詞から成る名詞句	536
「代名詞 + 名詞」から成る名詞句	536
29.1.2 動詞句の反復	537
単独の動詞から成る動詞句	537
「動詞 + 目的語」からなる動詞句	537
「動詞 + 斜格補語」から成る動詞句	538
「動詞助詞 (前置されるもの) + 動詞」から成る動詞句	538
「動詞 + 動詞助詞 (後置されるもの)」から成る動詞句	538
29.1.3 「主語 + 動詞」の反復	538
29.1.4 分離型動詞連続の反復	538
29.1.5 「主語 + 分離型動詞連続」の反復	539
29.1.6 副詞の反復	539
29.1.7 従属節の反復	539
29.2 動詞を含む要素の反復について	539
29.3 単独では使われない形態素を含む類似要素反復	540
29.4 対応する二音節語との関係について	542
29.5 類似要素反復の拡張	546
 第 IX 部 付録	 547
第 30 章 分析に用いた資料	549
第 31 章 テキスト	553
31.1 テキスト 1 「叩くと若くなる」(資料番号 020)	554
31.2 テキスト 2 「タマリンドの枝」(資料番号 018)	562
31.3 テキスト 3 「子供はできるさ」(資料番号 021)	564
31.4 テキスト 4 「なぞなぞ」(資料番号 019)	566
第 32 章 語彙	571
参考文献	591
索引	597

## 第I部

### 序論



# 第1章 ポー・カレン語について

## 1.1 本論文で扱う方言とポー・カレン語の概況

カレン諸語は、シナ・チベット (Sino-Tibetan) 語族チベット・ビルマ (Tibeto-Burman) 語派に属するとされる言語群で、ビルマ (ミャンマー) およびタイで 300 万から 400 万の人々によって話されている。他のチベット・ビルマ系言語の大部分が SOV を基本語順とするのに対し、カレン諸語の基本語順は SVO であり、この系統の諸言語の中では特異な存在となっている。新谷忠彦 (p.c.) によれば、カレン系言語には最低でも 30 種類以上存在し、最高では 40 種類近くにのぼる可能性があるという。このうち、最も狭義のカレン語にはスゴー・カレン語 (Sgaw Karen) とポー・カレン語 (Pwo Karen; Pho Karen) のみが含まれる。1993 年のビルマ政府の人口推計によればカレン人の人口は 286 万人で、ビルマ国内では、ビルマ人 (Burmese) の 2887 万人、シャン人 (Shan) の 398 万人に次いで多い。おそらく 286 万人のうちの大部分はスゴーおよびポーの人口であると見なしてもよいと考えられるが、その内訳は統計がないので分からない。なお、日本や欧米では、タイの山岳地帯に住むカレン人の印象が強いためか、カレン人がいわゆる山岳民族と見なされることが多いけれども、少なくともミャンマーに居住しているカレン人は、平地に住んでいることが多く、またそのうちのかなりの部分が都市に住んでいる (加藤 2000 を参照のこと)。

ポー・カレン語は、スゴー・カレン語と同様、ビルマおよびタイで話されている。ビルマで話されるポー・カレン語は、イラワジ・デルタ周辺で話される西部方言と、カレン州およびテナセリム管区周辺で話される東部方言に大きく分けることができる。西部方言と東部方言は意志疎通がほとんど不可能である。本論文で扱う方言は、東部方言のうちカレン州の州都パアン (Hpa-an; Pa-an; Burmese /phəʔàn/; East Pwo Karen /thəʔàn/) 周辺で話される方言で、この地域における最も主要な言語である。以下、ポー・カレン語と言う場合、このパアン周辺で話される東部方言を指す。この地域は、ポー・カレン人の伝統芸能が盛んな地域で、即興で歌を作って男女が愛を語り合う歌垣や、ドン (don; ビルマ語の呼称 /dóun/ にちなむ。ポー・カレン語の呼称は /tōūN/) と呼ばれる集団舞踊がある。これらはポー・カレン人のみならずビルマに住むカレン人の文化的象徴にもなっている。

Kato (1995) などに述べたとおり、ビルマに住むカレン人の間では、いわゆるカレン語に「スゴー・カレン語 (Sgaw)」「東部ポー・カレン語 (East Pwo)」「西部ポー・カレン語 (West Pwo)」の 3 言語があるとされることが多い。これはこの 3 言語の相互理解が不可能なことを根拠としている。確かに、スゴー・カレン語とポー・カレン語の間はもとより、東西のポー・カレン語の間においても、会って話した経験のない者同士の相互理解は相当に難しく、ビルマ語を使わなければ円滑な会話はできない。ただしどの 2 言語をとっても、数ヶ月一緒に暮らして慣れてくればある程度は類推できるようになるとも言われている。

ポー・カレン語の東部方言と西部方言が通じにくい最大の理由は発音の違いである。特



図 1.1: パアンの風景



図 1.2: ドンを踊る子供達



に声調は、東が「高」なら西は「低」、西が「高」なら東は「低」というように高低が逆転している場合が多く、このことが意志疎通の最大の障害になっているように思われる。また、同源語でも意味が異なる場合も多い。例えば、東部方言の cáin は「歩く walk」という意味を持つが、対応する西部方言の sàin は「走る run」という意味である(第32章の項目番号 173,174 参照)。同様に、東部方言の mə- は非現実法を表す助詞であるが、これに対応する西部方言の mô は「～したい」という意味を表す(第32章の項目番号 452,452-b 参照)。もう一つは借用語の問題であろう。スゴー・カレン語もポー・カレン語も過去にモン語(Mon)の影響を強く受けたと考えられるけれども、特にポー・カレン語東部方言は近代以降にもモン語の影響を受け続けており、他のカレン語よりもモン語からの借用語が多い。例えば、東部方言では「砂 sand」を表すのにモン語からの借用語 pətì を用いるが、西部方言ではカレン語固有の形式 meʔ を用いる(第32章の 287 参照)。仏教にまつわる語彙には特にモン語起源の語彙が多く、例えば東部方言では僧侶が「死ぬ」ことを、モン語の借用語を用いて pò とする(第32章の 137,138-c 参照)。東部方言と西部方言の差異については、第32章の対照語彙表を参照していただきたい。

東西のポー・カレン語が同じでないことは、1911年に既に Settlement Officer の Duffin が記している(Duffin 1913:viii)。また Purser and Saya Tun Aung (1922) は、東西方言の話者が会話をしたい時にはビルマ語に頼らざるを得ないことを指摘している(p.172)。また、同様に、Linguistic Survey of India も、L.F.Taylor の言として東西の方言が異なることを伝えている(Vol.1, part II, p.15)。東西方言の差異は、ポー・カレンがイラワジ・デルタに入ってから決して短くない時間が経過していることを示唆する。

東部方言の話される地域はカレン州を中心とし、モン州(Mon state)やタニンダーイー管区(Taninthayi division; Tenasserim division)を含む地域である。ポー・カレン語東部方言が話されている地域の主要な都市としては、カレン州のパアン(Hpa-an)、フラインボエー(Hlaingbwe)、コーカレイ(Kawkareik)、モン州のモラミヤイン(Mawlamyaing; Mawlamyine; Moulmein)、タニンダーイー管区のダウェー(Dawe; Dawei; Tavoy)、ベイツ(Myeik; Beik; Mergui)などがある。特にパアン、フラインボエー、コーカレイは、住民の相当多くがポー・カレンである。ベイツの対岸に広がるベイツ諸島(Myeik Archipelago; Beik Archipelago; Mergui Archipelago)の一部にも、ポー・カレン語の話者が住んでいるとの情報もある。本論文で扱うパアン方言(Hpa-an dialect)、Jones (1961) の Moulmein Pho、また Kato (1995) の扱った Tavoy dialect 等はこの方言に属する。Purser and Saya Tun Aung (1922) はこの方言群を Tenasserim Pwo と呼んでいる。主要な都市の位置については図 1.3 を参照していただきたい。

一方、西部方言の話されるのはエーヤーワディー管区(Ayeyarwadi division; Irrawadi division)を中心とする地域である。ポー・カレン語西部方言が話されている地域の主要な都市としては、パテイン(Pathein; Bassein)、チョンビョー(Kyonbyaw; Kyonpyaw)、ミャウンミヤ(Myaungmya)、パンタノー(Pantanaw)などがある。第32章で扱うチョンビョー方言(Kyonbyaw [Kyonpyaw] dialect)、Jones (1961) の Bassein Pho はこの方言に属する。Purser and Saya Tun Aung (1922) はこの方言群を Delta Pwo と呼んでいる。なお、Purser and Saya Tun Aung (同上)におさめられた語彙は西部方言が中心になっている。

ところで、タイ側のポー・カレン語諸方言の大部分もビルマ側の東部方言と同じ方言群

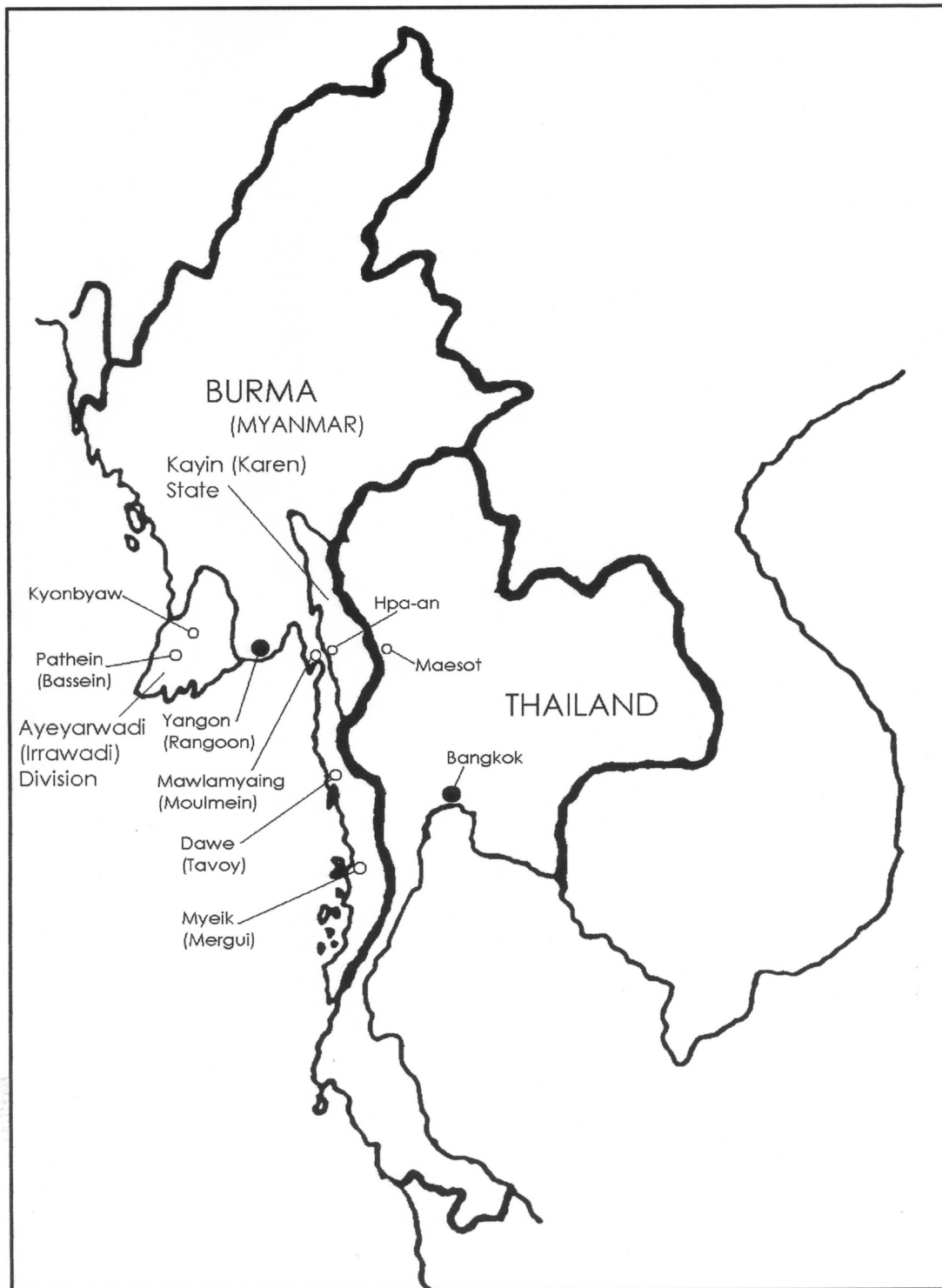


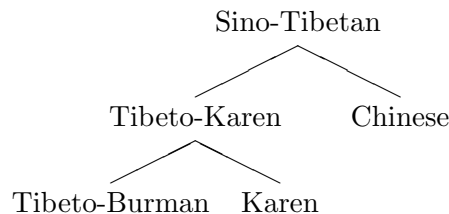
図 1.3: ポー・カレン語東西方言が話される地域の主要都市

に属すると思われる (Cooke et al.1976, Phillips 1996,2000 参照)。しかしタイ側の方言の中に、同じタイ側の諸方言との相互理解がかなり困難な方言が存在するという (Phillips p.c.)。したがって将来、ポー・カレン語を東西の二大方言に分けるのとは違った方言分類の必要が出てくることもあり得るだろう。

東部方言が話される地域と西部方言が話される地域にポー・カレン人がそれぞれどれくらいいるのかは、正確な統計がないので分からない。一説によれば、それぞれ 50 万人はいるのではないかという。民族としての人口は多いけれども、ポー・カレン語の母語話者の人口は減ってきているというのが現地のポー・カレン人達の方の意見である。東西方言を比べると、特に西部方言が話せる人の数は相当な勢いで減ってきているように見える (加藤 2003b 参照)。西部方言地域の若いポー・カレン人は、ポー・カレン語の運用能力よりもビルマ語の運用能力のほうが高い場合が多いようで、人によってはビルマ語しか話せない。ポー・カレン人が書いた様々な文章 (加藤 2003b 参照) を読むと、この状況に関してポー・カレン人自身がかなりの危機意識を抱いていることが分かる。一方、東部方言地域に住むポー・カレン人の場合は、若い世代であってもポー・カレン語が流暢に話せることが多いように見える。しかしそれでさえ、母語話者の中には言語が衰退する危険を訴える人が少なくなく、このことは東部方言さえもが決して安泰とは言えないことを物語っている (加藤 1997, 2003b 参照)。

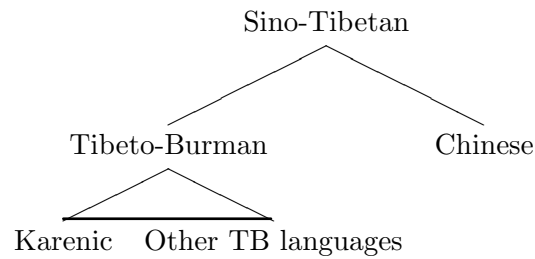
## 1.2 通時的観点から見たカレン系諸言語

カレン系言語のシナ・チベット諸語における位置づけについては、これまで様々な説が出されてきた。その中で学界に大きな影響を与えたのが、Benedict (1972) が提示した、次の系統樹に示す説である。



Benedict は、Sino-Tibetan の下に Tibeto-Karen という範疇を設定し、カレン系諸言語をチベット・ビルマ諸語に対置した。これは、カレン系諸言語の SVO 型という特徴を重視した結果である。

しかし Matisoff は、カレン系諸言語の SVO 型という特徴は Mon-Khmer 系諸言語等との接触によって生じたものであり、系統的にはチベット・ビルマ系の他の言語と同列に扱うべきだと、以前から主張してきた (Matisoff 2003 参照)。系統樹で示せば次のとおりである。



現在ではこの Matisoff の考え方が最も有力である。ただ、これが定説になるには、今後、カレン系諸言語の広汎かつ詳細な調査が必要である。

カレン系諸言語の史的音韻論の研究としては、Haudricourt (1946,53) が有名である。Haudricourt は、スゴー・カレン語とポー・カレン語を比較して、カレン祖語 (Karen commun) における有声音の系列が、スゴー・カレン語では無声無気音に、ポー・カレン語では無声有気音に変化したのだと説いた。その後、Luce や Henderson によって有声閉鎖音を持つ Bwe Karen 語の存在が報告され、Haudricourt の説が正しいことが証明された (Luce 1959,91; Henderson 1961,79,97; Weidert 1987; Shintani 2003a などを参照)。

Jones (1961) は、スゴー・カレン語について簡単な記述を行い、また、彼が調査した六つのカレン系言語 (Bassein Pwo [= Jones 自身の表記では Pho], Moulmein Pho, Pao [= Jones 自身は Taungthu と呼んでいる], Palaychi, Moulmein Sgaw, Bassein Sgaw) のデータに基づいて比較言語学的研究を行っている。Jones は図 1.2 のような分類を示した。この分類で

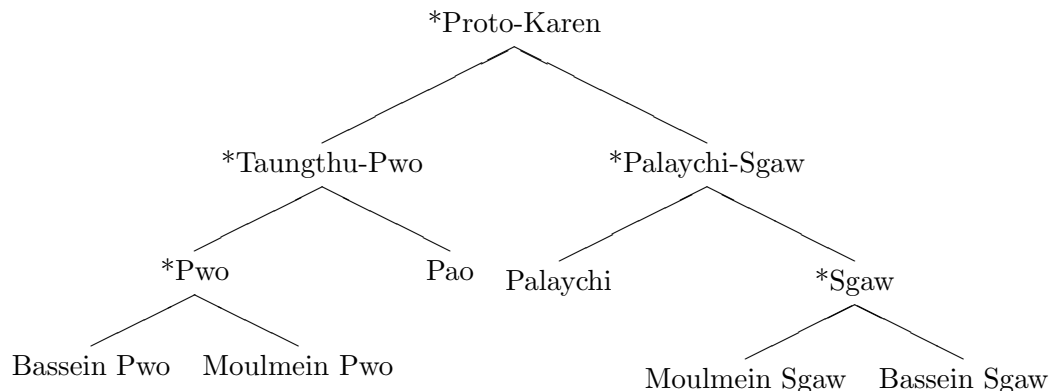


図 1.4: Jones (1961) によるカレン系諸言語の分類

目立つのは、パオ語 (Pao=Taungthu) がポー・カレン語に近い位置に置かれているということである。これに対し、西田龍雄 (1964) は、Jones の示したデータに基づいて、図 1.2 に示す分類を示した (Jones のものとは対比しやすいように改変した)。ここではパオ語がスゴー・カレン語やポー・カレン語から離れた位置に置かれている。パラチー語 (Palaychi) をこの位置に置くことが妥当かどうかはともかくとして、パオ語をスゴー・カレン語やポー・カレン語から離れた位置に置くことは妥当だと思われる。

カレン系諸言語の分類に関して、最も最近の、かつ最も信頼に足るものは、Shintani (2003a) が示した説である。Shintani は、二十言語に近いカレン系言語を調査し、声調分岐の違いや語彙の一致率に基づいてそれらを分類した。これを図 1.2 に示す。これによれ

## 1.2. 通時的観点から見たカレン系諸言語

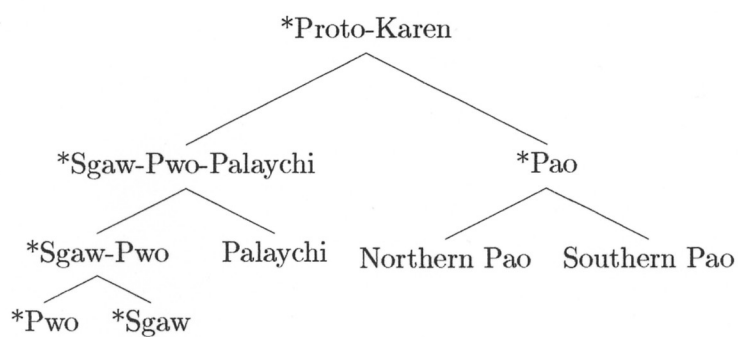


図 1.5: 西田 (1964) によるカレン系諸言語の分類

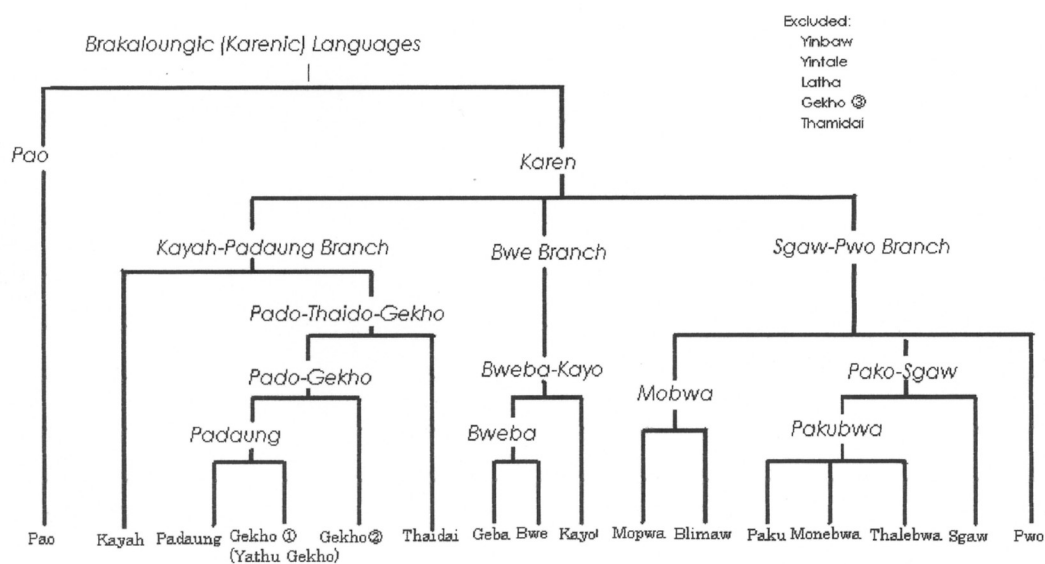


図 1.6: Shintani (2003a) によるカレン系諸言語の分類

ば、ポー・カレン語はカレン系諸言語の中で比較的スゴー・カレン語に近い位置にあるということになる。

### 1.3 ポー・カレン語の文字

ポー・カレン語の文字について語るには、カレン人が仏教やキリスト教を受容した経緯についてある程度知っておく必要がある。文字の起源が仏教やキリスト教と密接に結びついているからである。

カレン人が仏教を受容したのは、ビルマ人からではなく、モン人 (Mon) からだとカレン人の中では考えられている。ポー・カレン人の言い伝えによると、18 世紀の半ば頃にプーターマイ (Phutamai) という名のポー・カレン人僧侶がタトン (Thahton) で学んだ仏教をパアン周辺のポー・カレン人やスゴー・カレン人に伝えたことがきっかけとなって、カレン人に仏教が普及したという。ただし、これ以外の地域における仏教の受容の経緯については、ほとんど分かっていない。

その後、19 世紀のはじめ頃からアメリカのバプティスト派宣教師がカレン人に対する宣教を始め、キリスト教信者も増えていく。1931 年の国勢調査によれば、スゴー・カレンの人口約 477,000 人のうち仏教徒は 346,000 人、キリスト教徒は 131,000 人であった。一方、ポー・カレンの人口約 483,000 人のうち仏教徒は 451,000 人、キリスト教徒は 32,000 人だった (池田一人氏のご教示)。現在ではキリスト教徒の割合がこれよりも多いことが推定されるが、正確な統計がないため詳しいことは不明である。

ちなみに、カレン人は、最も先鋭的な反ビルマ政府活動を行ってきた民族として有名である。その歴史はビルマ独立 (1948 年) 直後の 1949 年以降、半世紀以上に及ぶ。カレン人とビルマ人の関係は、ビルマにおける民族間関係のうち最も険悪なものと言ってもよいかもしれない。その原因としては、イギリスの植民地政策がクローズアップされることが多い。イギリスは、英緬戦争 (1824-26, 1852, 1885) の後ビルマを植民地化した (1886 年英領インドに併合)。イギリス植民地政府は、カレン人を役人などとして積極的に登用し、ビルマ人の上に置くことで、植民地ビルマが一枚岩となることを阻止した。同時に、一部のカレン人は 1830 年代頃からキリスト教化したためイギリス人への親近感を増しており、イギリスにとっては使いやすい存在だった。様々な理由によりキリスト教に改宗するカレン人も増加した。研究者によっては、民族間関係険悪化の原因としてキリスト教化に重きを置く。例えば、人類学者の飯島茂 (1974) は、カレン人のキリスト教化が反ビルマ意識を誘発したという構図を描く。しかし、現在でもカレン人の多数派は仏教徒である。飯島の描く構図は単純に過ぎるだろう。

カレン語には上記のような宗教受容の経緯を反映した様々な文字が存在している。スゴー・カレン語には、キリスト教スゴー・カレン文字、仏教スゴー・カレン文字がある。ポー・カレン語にも、キリスト教ポー・カレン文字、仏教ポー・カレン文字がある。なお、これらは筆者による呼び名であり、定着したものではないことに留意されたい。

このうちキリスト教スゴー・カレン文字 (Sgaw Karen missionary script; 一般には単にスゴー・カレン文字 Sgaw Karen script と呼ばれる) は、1830 年代にアメリカ人のキリスト教宣教師 Wade が考案したもので、カレン系言語の文字のうち最も普及している (図 1.7)。一方、比較的最近になって、カレン州に住むスゴー・カレンの僧侶が作ったという

ဒီးပုလီ. မှ်လၢပုမၤနၤအဝဲသ့ၣ်အယံ  
အဝဲသ့ၣ်ပျံတၢ်ဒီးဘျီထီၣ်ယံလီ. ယံ  
န့ၣ်ဒိတဒါအသးလၢပုတမၤနၤအဝဲသ့ၣ်  
ဘၣ်. ဘၣ်ဆၣ်ဒီးန့ၣ်ဝဲဒၣ်လၢ အကစၢ်  
စီၤဂုၤသိ မှ်ဟဲက့ၤန့ၣ် ယံသ့ၣ်တဖၣ်အံၤ  
တလီၣ်လၢဘၣ်. မိလုအတၢ်ဘျီတၢ်ဘါ  
န့ၣ် အဆၢကတီၢ်ခဲအံၤ ပကထံၣ်ဘၣ်လၢ

図 1.7: キリスト教スゴー・カレン文字

仏教スゴー・カレン文字 (Sgaw Karen buddhist script) が現れ、仏教徒スゴー・カレンの間で使われ始めている (図 1.3)。聖書を書くために作られたキリスト教スゴー・カレン文字の使用を仏教徒達が嫌ったため、この文字が作られたと聞く。

သွဲကံလၢ: နေတ်မုသ်နိယံအး  
ယဲသ်ထူတ်ပးယံ- နွီးမုသ်နိယံ  
ဒေတ်ညးလၢ: နေတ် မုသ်နိယံဂေယံ  
ယဲသ်ထူတ်ပးယံ- နွီးမုသ်နိယံ

図 1.8: 仏教スゴー・カレン文字

さて、パー・カレンの文字のうち、キリスト教パー・カレン文字 (Pwo Karen missionary script) は、やはりアメリカのキリスト教宣教師 Braton が、1840 年代から 1850 年代頃にキリスト教スゴー・カレン文字に倣って作ったものである (図 1.3)。この文字は、東部方言の発音に基づいて作られたものであるが、仏教徒の多いこの地域のパー・カレンには受け入れられず、後に、カレン民族主義の高揚とともに仏教からキリスト教への改宗者が増えた西部方言地域で受け入れられるようになった。そのためビルマのカレン人達は、この文

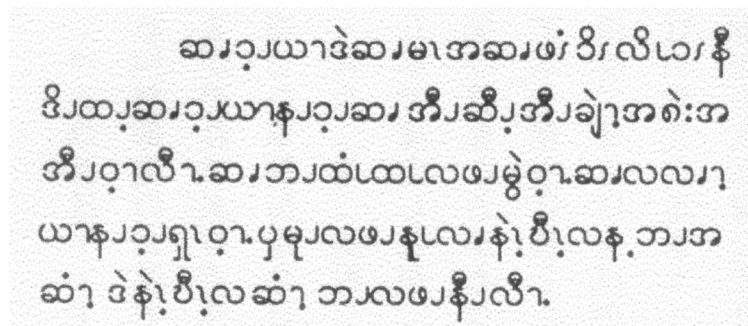


図 1.9: キリスト教ポー・カレン文字

字を「西部ポー・カレン語の文字」と呼ぶことが多い。元々は東部方言を書き表すために作られた文字なので、西部方言の発音を書き表すのには少々無理がある。この文字を使っているのはキリスト教徒が大部分なので、西部方言地域のポー・カレン仏教徒達は、自分達の言語を表す文字を持たないという状況が続いている。東部方言地域でも、キリスト教徒はこの文字を使用している。

一方、仏教ポー・カレン文字 (Pwo Karen buddhist script) は、カレン人自身が作った文字の中で最も普及しているという点で非常に重要である (図 1.3 および図 1.3)。また、本論文で扱う方言の話者の間で最も多く使用されているのがこの文字である。東部方言地

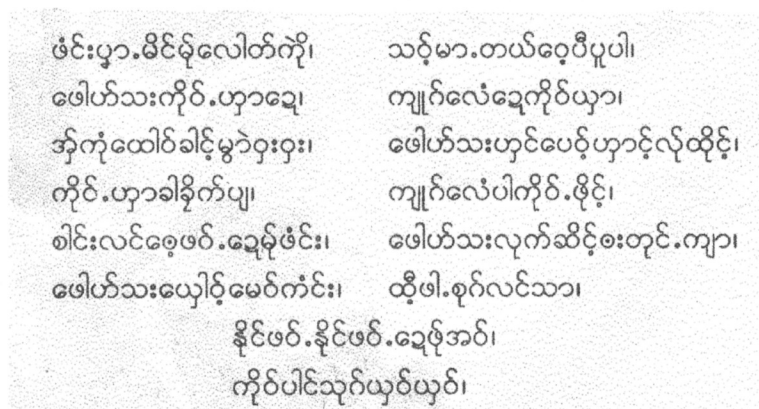


図 1.10: 仏教ポー・カレン文字 (1)

域のポー・カレンは、古くからモン人との交流が盛んであり、モン人から仏教を取り入れる過程でモン文字を改変してこの文字を作った。今でもパアン周辺の僧院にはたくさんの貝葉が残っている (図 1.3)。現存する最も古い文献は、1851 年に書かれたとされる貝葉である (Phon Myint 1975 参照)。しかし、当地の仏教徒カレン人の言い伝えでは、カレン語の文字の中でこの文字が最も古いとされる。カレン人が初めて文字を持ったのは、宣教師がキリスト教スゴー・カレン文字を作った時だという説明がしばしばなされることがある。しかし、それより以前にこの仏教ポー・カレン文字の萌芽があった可能性は否定できない。カレン州の僧院の多くは、この文字を少年僧達に教えている。この文字は、一般的





に「東部ポー・カレン語の文字」と呼ばれている。なお、筆者はこの文字をその起源にちなんで「仏教ポー・カレン文字」と呼んでいるが、この文字は狭義のカレン語を書き表す文字の中で最も宗教色の薄いものであり、そのためキリスト教徒の中にはこの文字の読み書きができる者もいる。

実は、東部地域のポー・カレンにはもうひとつレーケー文字 (Leke script) という文字がある。これは、レーケー (Leke) 教という、弥勒菩薩を信仰するポー・カレン独特のカルト的宗教において使われている文字である (図 1.3)。この文字はその形態から「鶏の足跡」と呼ばれている。この文字の成立は 19 世紀半ばだとされる。

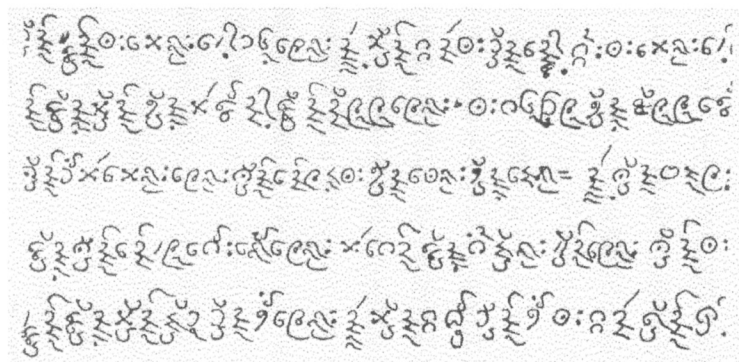


図 1.13: レーケー文字

カレン州に住むポー・カレン人は大多数が仏教徒なので、カレン州のポー・カレンの間では仏教ポー・カレン文字の普及率が最も高い。最近では、子供を対象とした暑期の文字講習が開かれていることもあり、この文字の読み書きができる人もかなり増えている。そのためか、パアンやフラインボエーなどの都市では政府のスローガンもこの文字を用いて書かれている。

キリスト教ポー・カレン文字と仏教ポー・カレン文字の体系および綴りと発音との関係については、加藤 (2001b,c) に詳しい解説がある。

## 第2章 音論

### 2.1 音節構造

ポー・カレン語の音節構造は、一般的に C1(C2)V(V2)(C3)/T と表すことができる。C は子音、V は母音、T は音節全体にかぶさる声調を表す。C1 の位置に現れた子音を頭子音 (initial)、C2 の位置に現れた子音を介子音 (medial)、C3 の位置に現れた子音を末子音 (final) と呼ぶ。また、C1(C2)- の部分を声母 (onset)、-V(V2)(C3) の部分を韻母 (rhyme) と呼ぶ。

### 2.2 子音音素

子音音素には次の 26 個がある。N を除くと、すべて C1 として現れることができる。

#### 閉鎖音

p   θ   t   c   k   ʔ  
ph   th   ch   kh  
b   d

#### 摩擦音

ɕ   x   h  
ɣ   ʙ

#### 鼻音

m   n   ɲ   ŋ   ɳ

#### 半母音

w   j

#### 流音

l  
r

次に、上に示した子音音素の音声学的説明を行い、語例を示す。

/p/ 無声無気両唇閉鎖音 [p]。

/pənā/ 水牛、/pɔ̄/ 読む (cf. Mon /pòh/), /pàu/ 開ける、/pî/ 小さい、/pàin/ 満ちる、/pàpâ/ お父さん (幼児語)

/θ/ 無声無気歯間閉鎖音 [t̪]。ビルマ語の /θ/ に比べると開放がゆるやかで、破擦音 [t̪θ] になる場合がある。話者によっては、無声歯間摩擦音 [θ] で発音する者もいる。

/θi/ 死ぬ、/θò/ 友人、/θi/ できる (能力)

/t/ 無声無気歯茎閉鎖音 [t]。

/tàin/ 作る、/tàu/ 建物、/təwân/ 村

/c/ 無声無気歯茎硬口蓋破擦音 [tɕ]。この音素は、変異音 (variant) として、無声無気の歯茎摩擦音 [s] を持つ。変異音 [s] は、主として、(1) 書かれたものを読む場合、(2) 演説などのかしこまった場面での発話、などで用いられる。通常の会話では [tɕ] と発音される。なお、同じ東部方言でも、モールメイン (Moulmein) 近郊のポー・カレン語では、パアン方言の /c/ に対応する音素が、常に [s] と発音される。

/cú/ 手、/cáin/ 歩く、/cì/ 銀

/k/ 無声無気軟口蓋閉鎖音 [k]。

/káin/ 曲がった、/ká/ 難しい、/kò/ 呼ぶ

/ʔ/ 声門閉鎖音 [ʔ]。

/ʔéin/ 狭い、/ʔá/ 多い、/mìʔàin/ もち米

/ph/ 無声有気両唇閉鎖音 [p<sup>h</sup>]。

/phó/ 欠ける、/phú/ 子供、/phā/ 父、/phjā/ 僧院, 学校 (Cf. Mon /phəa/)

/th/ 無声有気歯茎閉鎖音 [t<sup>h</sup>]。

/thi/ 水、/thé/ 切れる、/thɔ/ 収容できる

/ch/ 無声無気歯茎硬口蓋破擦音 [tɕ<sup>h</sup>]。この音素は、変異音として、無声有気の歯茎摩擦音 [s<sup>h</sup>] を持つ。この変異音は、先に挙げた /c/ が [s] と発音されるのと同じ場合において用いられる。モールメイン近郊のポー・カレン語では、これに対応する音素が常に [s<sup>h</sup>] と発音される。

/chó/ 運ぶ、/chóu/ 臼、/chən/ 雨が降る

/kh/ 無声有気軟口蓋閉鎖音 [k<sup>h</sup>]。

/khā/ 折れる、/khán/ 足、/khài/ 暗い

/b/ 両唇入破音 [β]。

/bà/ 信仰する、/bən/ 石灰、/bá/ 正しい

/d/ 歯茎入破音 [d̪]。時として egressive な [d̪] で発音されることもある。上記 /b/ はほとんどの場合 [β] である。

/dá/ 見える、/déin/ ゴマ、/dò/ (水を) ためる

/ɕ/ 無声歯茎硬口蓋音 [ɕ]。ただし、人によっては [s] に近い発音になることがある。パアン周辺のビルマ語方言でも、/ɕ/ が /s/ に近く発音されることが多い。このことと何らかの関係がある可能性もある。

/cà/ 少ない、/cá/ 星、/mèinɕā/ 義父・義母

/x/ 無声軟口蓋摩擦音 [x]。

/xé/ 刀、/xwè/ 買う、/xâin/ 乾く

/ɣ/ 有声軟口蓋摩擦音 [ɣ]。

/ɣéin/ 家、/ɣôN/ 聞こえる、/ɣì/ 良い

/ɸ/ 有声口蓋垂摩擦音 [ɸ]。ごく一部の助詞などにのみ現れる。Purser and Saya Tun Aung (1922:174) は、この音を表すために用いるキリスト教ポー・カレン文字の字母について、“voiced H”を表すとしている。現代パアン方言でも、/ɸ/が弱化して [ɦ] のように発音されることもある。なお、仏教ポー・カレン文字では、この音素は/ɣ/を表すのと同じ字母で書かれる。

/ɸâ/ ~ か(疑問を表す助詞)、/ɸɔ̄/ ~ は?(対比・対照を表す助詞)

/h/ 無声声門閉鎖音 [h]。出現頻度は多くない。

/hə-/ 人間を表す接頭辞、/hwéphəN/ 高床式家屋の床下、/hàidài/ 便所

/m/ 有声両唇鼻音 [m]。

/mâ/ 妻、/mà/ する、作る、/mí/ 火

/n/ 有声歯茎鼻音 [n]。

/néin/ 年、/nè/ 信じる、/nî/ 2(数詞)

/ɲ/ 有声硬口蓋鼻音 [ɲ]。出現頻度は極めて少ない。

/jəthəɲā/ 祈る (cf. Mon /rətəthə/), /kəɲà/ (僧侶が) 来る、/pəɲān/ あぜ道

/ŋ/ 有声軟口蓋鼻音 [ŋ]。出現頻度は極めて少ない。

/ŋèŋô/ ためらう、/khəŋāin/ (世界を) 周遊する

/N/ C3 の位置にのみ現れる。有声口蓋垂鼻音 [N]。ただし、しばしば閉鎖は完全ではなく、前の母音が鼻音化したのみで音節が終了することがある。2.4.2 を参照のこと。

/ʔáN/ 食べる、/kòN/ (腰巻きなどを) 穿く

/w/ 有声唇軟口蓋接近音 [w]。

/wē/ 兄、姉、/wá/ 竹、/ʔəwê/ 三人称単数代名詞、/wò/ 赤い(=/ɣò/)

/j/ 有声硬口蓋接近音 [j]。前舌母音の前では摩擦音 [j] となる傾向がある。

/já/ 魚、/jô/ 易しい、/jē/ 5(数詞)

/l/ 有声歯茎側面接近音 [l]。

/láí/ 文字、/là/ 月、/ʔəlāN/ 場所

/r/ 有声歯茎顫動音 [r]。あまり出現頻度は多くない。また、通常の会話では/l/と交替して [l] と発音されることのほうが多い。

/pàitərāN/ ドア、/thərài/ 費用、/thərē/ 鹿の一種

## 2.3 子音結合

C2 の位置に現れることができる子音 (介子音) は、/w, l, r, j/ の四つである。すべての子音音素のうち 19 個が、C1(頭子音) としてこれらの介子音を従えることができる。C1 と C2 との可能な組み合わせを表にして示す。

	p	θ	t	c	k	ʔ	ph	th	ch	kh	b	d	x	h	m	n	ɲ	j	l
w	+	+	+	+	+	+		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
l	+				+		+			+	+				+				
r	+				+														
j	+						+					+			+				+

例を示す。

/pwài/ 疲れた、/plò/ 無駄な、/prən/ 競う、/pjò/ 吐く、/θwí/ 血、/ʔət wà/ 問題(=/ʔək wà/)、  
/cwà/ 這う、/lók wè/ 遊ぶ、/klà/ 正確な、/krì/ ~しなければならない(=/kərì/)、/ʔwí/  
おいしい、/phlē/ 弟子、/phjâ/ 市場 (cf. Mon /phya/)、/thwí/ 犬、/chwí/ 去勢す  
る、/khwâ/ 男、/khló/ ござ、/bwé/ 盛る、/blà/ (味が) 薄い、/bjàn/ 治す、/dwé/ 燃  
やす、/xwíkàin/ だるい、/hwéphèn/ 高床式家屋の床下、/mwē/ ~である、/kəmlân/ 井  
戸、/təmjàn/ 奇妙な (cf. Mon /təmeaŋ/)、/nwē/ ジャックフルーツ、/ɲwā/ (言葉が) 達  
者な、/lwī/ 山鳩、/kəljân/ 帰る (cf. Mon /kəleaŋ/)

先に、C1として現れた/r/は/l/と交替することが多いと述べた。同じことはC2として現  
れた/r/にも言える。通常の会話では、例えば上に挙げた/prən/「競う」と/krì/「~しな  
なければならない」は、それぞれ、/plən/、/klì/と発音されることのほうが多いようである。

## 2.4 母音と韻母

母音音素には下に示す11個がある。

i	ĩ	u
ɪ		ʊ
e	ə	o
ɛ	a	ɔ

韻母は、これら11個の母音と末子音/\_N/との組み合わせで作られる。母音音素は、単  
独で現れた場合と他との組み合わせで現れた場合とで音価が異なる場合があるので、音価の  
説明は韻母ごとに行う。

### 2.4.1 開音節韻母

開音節韻母には単純母音と二重母音がある。単純母音は以下に示す11個である。

i	ĩ	u
ɪ		ʊ
e	ə	o
ɛ	a	ɔ

二重母音は以下に示す2個である。

ai

au

次に、上に示した開音節韻母の音声学的説明を行い、語例を示す。

/i/ 入り渡りに中舌母音 [ə] が現れ、[<sup>◦</sup>i] と発音される。ちなみに、母語話者たちは、この母音がビルマ語の /i/ [i] とは異なる音であることを明確に意識している場合が多いようである。

/lì/ 風、/chíchâ/ 小便する、/nī/ 笑う、/θwí/ 血

/i/ 中舌非円唇狭母音 [i̠]。

/phí/ 短い、/chì/ 民族、/chəkī/ ずいぶん

/ɯ/ 基本母音の [ɯ] にわずかな唇の突き出しが伴った [ɯ̟]。キリスト教ポー・カレン文字の表記および西部ポー・カレン語との対応を見ると、この音素は、19 世紀の半ばには存在していた 2 個の母音 \*u および \*ɯ の両方に由来していると考えられる。パアン方言ではこの二つの区別はなくなって、/ɯ/ に一本化している。

/phû/ 跳ねる；祖父、/mú/ 女、/phû/ 弟、妹、/jû/ 飛ぶ、/jû/ ねずみ、/ɛ́úmáu/ 平和な

/ɪ/ 基本母音 [i] よりもわずかに低めの前舌非円唇母音 [i̟̞]。/w/ (C1, C2 を問わない) の後ろには現れない。

/nī/ 得る、/lì/ 行く、/mì/ ご飯、/bí/ ヤギ

/u/ 基本母音 [u] よりもわずかに低めの後舌円唇母音 [u̟̞]。

/mū/ 母、/jū/ 見る、/khó/ 頭、/phó/ 子供

/e/ 基本母音 [e] に近い。

/mé/ 顔、/xé/ 刀、/dè/ ~ と共に、/nwê/ 7(数詞)

/ə/ 中舌母音 [ə]。

/ló/ 場所を表す前置詞、/jə/ 一人称単数代名詞、/klə/ いつも

/o/ 基本母音 [o] に近い。

/mó/ たばこ、/thò/ 豚、/kò/ すべての ~

/ɛ/ 基本母音 [ɛ] に近い。

/jē/ 5(数詞)、/ʔé/ 愛する、/dàuné/ 見せる、/mwē/ ~ である、/lèlɔ̃/ グラグラする

/a/ 中舌広母音の [A]。

/má/ ワニ、/nā/ 耳、/wà/ 夫、/mâ/ 妻

/ɔ/ 基本母音 [ɔ] に近い。

/ʔó/ ある、/tò/ まっすぐな、/ʔáŋkó/ 避難する、/nó/ あの

/ai/ 中舌広母音 [A] から基本母音の [i] に移行する二重母音 [Ai]。

/chái/ 田、/bài/ ふさがる、/jái/ 久しい

/aʊ/ 中舌広母音 [A] から、/ʊ/あるいは/o/と同じ母音に移行する二重母音 [Aʊ ~ aO]。したがって、音素論的には/aO/と解釈することも可能であろう。  
/dàʊ/ 部屋、/máʊ/ 快適な、/náʊ/ 入る、/láʊ/ 尽きる、/thàʊ/ こする

#### 2.4.2 閉音節韻母

閉音節韻母は子音 /N/ で終わる韻母であり、単純母音を含むものと二重母音を含むものがある。/N/ は基本的には [N] であるが、閉鎖が不完全に行われて母音が鼻音化しただけで音節が終了することがある。

「単純母音 + /N/」からなる閉音節韻母には、次に示す 4 個がある。/ɪN/ はビルマ語からの借用語にのみ見られるので括弧でくくってある。

(ɪN)	əN
aN	oN

「二重母音 + /N/」からなる閉音節韻母には、次に示す 4 個がある。上段の三つは、個々の音声学的説明に示すように、/N/ が脱落することがある。

eɪN	əuɪN	oʊN
	aiN	

次に、上に示した閉音節韻母の音声学的説明を行い、語例を示す。

/ɪN/ ビルマ語からの借用語にのみ見られる。発音は [iN]。借用語にのみ見られる音なので、ポー・カレン語の音素として認めることには問題があるかもしれない。ただし、ビルマ語が話せない話者でも楽に発音することができるので、この発音自体はポー・カレン語にかなり定着していると思われる。

/pjɪNθi/ フランス (Burmese /pyɪNθiʔ/), /pjɪN/ 直す (Burmese /pyɪN-/), /lèjɪNpjâN/ 飛行機 (Burmese /lèjɪNbyàN/, /thɪN/ 考える (Burmese /thɪN/), /kəjɪNpjɪNê/ カレン州 (Burmese /kəjɪNpyɪNè/)

/əN/ 調音位置は開音節韻母の /ə/ と同じである。すなわち、[əN]。ただし、人によっては、もっと低めの [ɐN] に近い発音をする場合もある。

/khəN/ 固い、/phəNθà/ 道、/nəN/ 臭い

/aN/ 音声学的には、後舌広母音 [ɑ] から後舌半広母音 [A] に移行する二重母音である。すなわち、[ɑAN]。ときとして [ɑN] という単純母音的な発音も聞かれる。このことも考慮して、音素論的には単純母音と見なす。また、音素論的には /ɔN/ と解釈することも可能かと思われる。

/ʔáN/ 食べる、/làN/ 落ちる、/tháN/ 上る

/oN/ 調音位置は開音節韻母の /o/ と同じである。すなわち、[oN]。

/khôN/ 外、/chón/ 強い、/thòn/ 橋



/eĩN/ 基本母音に近い [e] から基本母音の [i] に移行する二重母音。すなわち、[eĩN]。しばしば /N/ が脱落し、[eĩ] と発音されることも多い。

/mèĩN/ 名、/chêĩN/ 清らかな、/nêĩN/ 年、/ʔáNlèĩN/ 借りる

/əũN/ 唇の軽い突き出しを伴った [əũN]。しばしば /N/ が脱落し、[əũ] と発音されることも多い。

/thóũNlĩ/ 踊る、/khóũN/ 掘る、/θóũN/ 建てる

/oũN/ 開音節韻母の /o/ と同じ調音位置から、開音節韻母の /u/ と同じ調音位置に移行する二重母音 [oũN]。しばしば /N/ が脱落し、[oũ] と発音されることも多い。

/phōũN/ 穴があく、/dòũN/ 町、/θôũN/ 送る、/tōũN/ ドン・ダンス (ポー・カレンの集団舞踊)

なお、同じパアン市内でも、話者によっては /əũN/ と /oũN/ の区別がなくなって、/oũN/ 一つになっている。これが地域的差異であるのか、年代的差異であるのか、あるいは個人差なのかは現段階では不明である。

/aĩN/ 中舌広母音 [A] から基本母音の [i] に移行する二重母音。すなわち、[aĩN]。他の閉音節二重母音 /eĩN/、/əũN/、/oũN/ とは違って、/N/ が脱落することはない。

/jàĩN/ 遠い、/thàĩN/ 帰る、/khàĩN/ 尻

## 2.5 声調

ポー・カレン語の声調素には次に掲げる四つがある。

/./ 高平調 (こうへいちょう; たかだいらちょう)

/-/ 中平調 (ちゅうへいちょう; なかだいらちょう)

/˘/ 低平調 (ていへいちょう; ひくだいらちょう)

/ˋ/ 下降調 (かこうちょう)

以下にそれぞれの音声学的説明を行う。

/./ [H 44] 高く平らに発音される。この声調は Jones (1961) の Moulmein Pho の /˘ː/ に対応する。Jones の記述によれば、モールメイン方言の /˘ː/ は末尾に向けて下降するようであるが (p.69)、パアン方言の /./ は、いかなる場合も下降せずに平らに発音される。

/khá/ 苦い、/má/ 誤った、/bá/ 正しい

/-/ [H 33] 中ほどの高さで平らに発音される。単独で発音した場合やポーズの前などでわずかに上昇し、[334] のように発音されることもある。この声調と共起した母音は少し breathy に発音される。

/khā/ 折れる、/phā/ 父、/mō/ 母

/˩/ [ɿ 22] 低く平らに発音される。この声調は Jones (1961) の Moulmein Pho の /˩/ (無表記) に対応する。Jones が示した図 (p.69) において、この声調は中くらいの高さで発音されるかのように図示してある。しかし、著者の接したことのあるポー・カレン語東部方言では、これに対応する声調は低く平らに発音される場合がほとんどである。

/ɣà/ ~ 人 (助数名詞)、/thà/ 針、鉄、/mà/ する、/nà/ 夜

/˥/ [ɰ 52] 高平調よりもわずかに高い位置から、低い位置へ急激に下降する。この声調と共に起した母音は少し creaky になることがある。

/mâ/ 妻、/châ/ 痛い、/jô/ 易しい

頭子音のうち、p, t, c, k, ʔ, b, d は、/˨/ (中平調) と /˥/ (下降調) とは基本的には共起しない。ただし、少数の例外がある。例えば、/pî/ 「小さい」、/bê/ 「～のように (側置助詞)」など。この分布の偏りは、Haudricourt (1946, 53) が述べる声調の分岐に起因するものである。したがって、歴史的なものであり、共時的な共起制限ではない。その証拠に、ビルマ語やモン語などからの借用語にはこの制限がない。例えば、/kân/ 「運、業」 (Burmese /kàn/), /lèjɪnpjân/ 「飛行機」 (Burmese /lèjɪnbyàn/), /pō/ 「読む」 (Mon /pòh/) など。

Phillips (2000) は、Kato (1995) が声調と頭子音の間にこのような分布の制限があると述べていることに対して、そのような事実がないとしている。彼女のこのような主張は、この分布上の偏りが共時的な制限ではないという意味では正しい。しかし、この主張が彼女の観察不足かあるいは声調の聞き取りの誤りに起因している可能性もある。

## 2.6 軽声音節

ポー・カレン語には声調を持たない音節がある。これを軽声音節 (atonic syllable) と呼ぶ。表記上は、声調符号を付さないことによってこれを示す。軽声音節に現れる母音は、/ə/ のみである。軽声音節が発話末に現れることは決してない。一部の付属語では単語末に軽声音節が現れることがある。このような場合、後ろに別の形式が現れなければ発話が不可能であることを明確に示すため、/jə- lɪ/ (1sg-行く) 「私は行った」のように、軽声音節の後ろにハイフンをつける。下に例を示す。

/ləcè/ 少し、/həmənɪ/ 人間、/chəkhlaɪn/ 言葉、/chəʔàɪnlàn/ ポー・カレンの祭りの一種 (ビルマ語ではオーボエと呼ばれる; Burmese /ʔóbwé/), /ləpò/ 波、/kəchàn/ 象、/thəʔàn/ パアン (Hpa-an)

Phillips (2000) は、Cooke et al. (1976) や Kato (1995) が音素レベルで軽声音節を定めているのに反論し、軽声音節は音素レベルで設定すべきものではないと主張する。これらは、句や節における場所に基づいて強勢を失ったもの (reduced based on their position in a phrase or clause rather than their inherent morphemic quality) だとする。確かに、軽声音節は絶対語末には現れない。また、語中にはあまり現れない。そのため、軽声音節の本来の音素的ステイタスは、例えば /Cə/ であり、絶対語末以外の位置に現れた場合に出

現場所の影響を受けて強勢を失うのだとする解釈は不可能ではなく、また、軽声音節という範疇を設定しなくてもよいことになって魅力的である。しかし、本論文ではこの考え方を採用しない。なぜなら、このように考えると、次のような問題が生じるからである。

まず、この考え方の前提は、軽声音節としての発音と声調を持つ音節としての発音は自由変異だということである。しかし、例えば /kəchân/ 「象」が、\*/kəchân/ と発音されることはあり得ない。また、例えば /chəchəlànthò/ 「雨期の始まり」という単語を例にとると、/ə/ と /ə/ がもし自由変異であるなら、\*/chəchəlànthò/ あるいは \*/chəchəlànthò/ のような発音もあり得るはずだが、実際にはそのような発音はあり得ない。したがって、軽声音節は音素レベルで設定されていると考えるべきである。このことを確認した上で、次の例を見られたい。

(1) phílân jə láí?àv

与える 1SG 本

「私に本をください」

(2) phílân jə- láí?àv

与える 1sg 本

「私の本を (誰かに) 与えよ」

この二つの文の意味の違いを、聞き手は、一人称単数代名詞が jə と発音されるか jə- と発音されるかに基づいて判断する。確かに、(1) の構造は、

phílân [NP jə ] [NP láí?àv ]

であろうし、(2) の構造は、

phílân [NP jə- láí?àv ]

であろうから、この二つの発音の違いの原因を構造上の位置に求めることは不可能ではない。しかし、/kəchân/ や /chəchəlànthò/ では語彙レベルで決まっているものが、ここでは統語上の位置によって決定されると考えるのは極めて不自然である。したがって、代名詞の jə と jə- の違いは語彙レベルで設定されていると見なすべきである。本論文では、jə- を代名詞の第一形、jə を代名詞の第二形と呼ぶ (第 9 章)。

## 2.7 イントネーション

東南アジアの声調言語には、イントネーションがあまり自由には付かない言語がある。例えば、タイ語はそのような言語の一つである (宇佐美洋 p.c.)。その原因は、音の高低が既に音素レベルで設定されているため、イントネーションを自由にしてしまうと単語の意味が正確に伝わらない危険性が増すことにあると思われる。しかしながら、ポー・カレン語東部方言は、声調言語でありながら、イントネーションによるピッチの歪みが比較的頻繁に観察される言語である。その頻度は、明らかに、同じカレン系言語であるスゴー・カレン語やポー・カレン語西部方言よりも高い。

今のところ、イントネーションにいくつかの型があるかについてははっきりとは言えない。しかし、頻繁に用いられる二つのタイプの上昇調イントネーションについては言及しておかねばならない。一つは、[22345] くらいの穏やかな上昇調イントネーションである。以下ではこれを (↗) で表す。もう一つは、[34567] とでも表せるような、急激な上昇調イントネーションである。このイントネーションでは、通常の会話で用いられる音域を越えて、極めて高いピッチに達する。そのことを [6] および [7] という通常は用いられない表記で示した。以下ではこれを (↑) で表す。これらのイントネーションが付くと、音節固有の声調は完全にうち消され、声調の対立が失われてしまう。どちらのイントネーションとも、一つの音節に付くことが多いようである。

### 2.7.1 穏やかな上昇調イントネーション

穏やかな上昇調イントネーション (↗) がしばしば観察されるのは次のような環境においてである。

断定を表す副助詞 lǎ の前 断定を表す副助詞 lǎ(第24章)の直前の音節がしばしばこのイントネーションを伴う。

- (3) lǎ- ǵà(↗) lǎ  
 — ～人 (断定)  
 「一人だけだ」
- (4) lǎ- béin(↗) lǎ  
 — ～枚 (断定)  
 「一枚だけだ」
- (5) jǎ- mǎ- ʔán(↗) lǎ  
 1sg (非現) 食べる (断定)  
 「(もうすぐ) 私は食べる」
- (6) jǎ- mǎ- jǔ(↗) lǎ  
 1sg (非現) 見る (断定)  
 「(もうすぐ) 私は見る」
- (7) chǎ- mǎ- chǎn(↗) lǎ  
 CHǎ (非現) 降る (断定)  
 「(もうすぐ) 雨が降る」

完了を表す副助詞 jǎu の前 完了(perfect)を表す副助詞 jǎu(第24章)の前でもしばしばこのイントネーションが観察される。

- (8) bá(↗) jǎu  
 正しい (完)  
 「もう正しくなった」

- (9) nī(↗) jàv  
 得る (完)  
 「もうもらった」

- (10) yê(↗) jàv  
 来る (完)  
 「もう来た」

Phillips (2000) は、これを助詞 jàv の前における中平調への声調の交替と考えている。しかし、これは声調の交替ではない。中平調 [33(4)] の調値とこのイントネーションの旋律線 (contour) は異なるというのが理由の一つである。もう一つは、例えば、(8) を普通に次のように発音してもかまわないからである。すなわちこれは、特定の環境における声調交替ではない。

- (11) bá[44] jàv  
 正しい (完)

(8) と (11) の違いは、(8) が、「正しい」という状態が発生することを話者が強く望んでいたことを表すのに対し、(11) にはそのような意味合いがないということである。このような、特定の旋律線が特定の意味を担うという現象は、イントネーションに見られるものである。服部四郎 (1960:102) は「音調の型は或種の意味を表すのに対し、音素・強め、韻素・単語高さアクセントはそれ自身何等の意味をも表わさない。」と述べている。「音調の型」とは本論文のイントネーションに相当する。

確認の意を込めた応答の文において さらに、相手の意向を確認する質問の文、および、それに対する答えの文において、このイントネーションが現れる。

- (12) nə- mə- yê(↗) bā  
 2sg (非現) 来る (疑)  
 「あなたは本当に来ますか?」  
 — jə- mə- yê(↗)  
 1sg (非現) 来る  
 「私は本当に来ます」

### 2.7.2 急激な上昇調イントネーション

もう一つの急激な上昇調イントネーション (↑) は、話者が特に強調したい音節に付ける。

- (13) yán mjâ(↑)  
 泣く 大変  
 「ひどく泣きじゃくった」  
 (14) lì lú(↑) ləkōvN jàv  
 来る (場) (地名) (完)  
 「ヤンゴンに行ってしまった」

- (15) ʔó      nāN(↑)      mèiN      ʔé  
ある (少数)    ~ 種類 (否)  
「まったく存在しない」

このイントネーションに関して特筆すべきことがある。それは、女性の発話において、このイントネーションが付いた音節は、しばしば裏声 (falsetto) で発音されるということである。この現象は、東部方言だけでなく、西部方言においても、ひいてはスゴー・カレン語においても観察される。そのため、この裏声の起源は相当古い可能性がある。この現象は、女性の発話にのみ見られるという点でも興味深い。

### 2.8 本論文の表記

本論文におけるポー・カレン語の発音表記は、すべて音素表記である。/ / は、ビルマ語やタイ語やモン語などのポー・カレン語以外の言語の形式を引用する場合以外には用いない。

## 第3章 品詞分類

### 3.1 五つの品詞

拙論では、ポー・カレン語の単語を以下に掲げる 5 品詞に分類する。

- 名詞 (noun)
- 動詞 (verb)
- 副詞 (adverb)
- 助詞 (particle)
- 感嘆詞 (interjection)

感嘆詞は他の語と統語的な関係を持たない特殊な品詞である。これを除いた残り四つの品詞を区別するためのテストとして、(i) 単独で文を形成することができる、(ii) 動詞助詞をつけることができる、(iii) 動詞の項になることができる、の三つを設定する。これらの基準に合致するかどうかを yes/no で示すと次のとおりである。

	(i)	(ii)	(iii)
名詞	yes	no	yes
動詞	yes	yes	yes
副詞	yes	no	no
助詞	no	no	no

まず (i) について。これは助詞とそれ以外の品詞を区別するための基準である。名詞・動詞・副詞は次のように単独で文を形成することができる。

- |          |                |                |
|----------|----------------|----------------|
| (1) [名詞] | phlòuN<br>カレン人 | 「(その人は) カレン人だ」 |
| (2) [動詞] | lì<br>行く       | 「(その人は) 行った」   |
| (3) [副詞] | ləpòuN<br>たくさん | 「たくさん (ある)」    |

しかし、助詞は単独で文を形成することができない。次の例の lé は、場所を表す助詞である。

- (4) [助詞] \*lé  
(場)

次に (ii) について。これは単独で文を形成することができる単語の中から動詞を選び出すための基準である。動詞助詞には動詞の前に置かれるものと後に置かれるものがあり、その数は多い。そのうち、非現実法を表す mə- や否定を表す lə- が、どのような動詞とも共起し得るため、テストを行うためには便利である。次のように、動詞にはこれら動詞助詞をつけることができる<sup>1</sup>。

- (5) [動詞] mə- lì 「行くだろう」  
(非現) 行く

- (6) [動詞] lə- lì 「行かないこと」  
(否) 行く

しかし、名詞や副詞にこれら助詞を付けることはできない。

- (7) [名詞] \*mə- phlòuN  
(非現) カレン人

- (8) [名詞] \*lə- phlòuN  
(否) カレン人

- (9) [副詞] \*mə- ləpòuN  
(非現) たくさん

- (10) [副詞] \*lə- ləpòuN  
(否) たくさん

次に (iii) について。これは単独で文を形成することができる単語の中から副詞を選び出すための基準である。名詞や動詞は、次に示すように、動詞の項、すなわち動詞の主語や目的語になることができる。下に示すのは、名詞および動詞が、主語として現れた例である<sup>2</sup>。

- (11) [名詞] phlòuN ?ó 「人がいる」  
人 いる

<sup>1</sup>動詞助詞は、動詞に付く助詞である。一方、次節で述べるとおり、側置助詞や名詞修飾助詞は名詞句に付く助詞である。であれば、単独で文を形成することができる単語の中から名詞を選ぶために、側置助詞や名詞修飾助詞が付くかどうかを見るという方法が可能かという、そうではない。なぜなら、動詞は (iii) の基準に見るように、主語や目的語になることができる。これはすなわち文中で名詞句の役割を担っているということである。動詞が文中で名詞句の役割を担う場合に、側置助詞や名詞修飾助詞が共起することがある。したがって、この方法を、名詞を選び出すために用いることはできない。

<sup>2</sup>動詞が項になっているように見える現象は、正確には、一個の動詞から成る補文 (第 22 章を参照) が主語や目的語の位置に現れた現象と捉えるべきである。なぜなら、項になった動詞のまわりには補語が現れることができるからである。例えば、hə- lì cəpân jô (1pl-行く-日本-容易な) 「私達が日本に行くのは簡単だ」。また、動詞句も目的語の位置に現れることがあるので、一個の動詞から成る動詞句が目的語の位置に現れた場合も、動詞が項になっているように見える (第 16 章参照)。



- (12) [動詞] lì jǒ 「行くのは簡単だ」  
行く 容易な

しかし、副詞は主語になることができない。

- (13) [副詞] \*ləpòuN ʔó  
たくさん ある

つまり、単独で文を形成することができる単語のうち動詞の項になることができないものが副詞である。

以上が、名詞、動詞、副詞、助詞の4品詞を見極めるためのテストである。残り一つの感嘆詞については、第20章を見ていただきたい。

### 3.2 助詞の分類

上で定義した4品詞のうち、助詞には様々な機能を持つ単語が含まれている。これらは単独で文を形成することができないという点においてのみ共通するのであって、名詞や動詞に見られるような均質性を持たない。ある任意の助詞を取り上げれば、その助詞は一部の助詞とのみ特徴を共有するだけであり、他の助詞とは必ずしも共通する特徴を持たない。そこで、ポー・カレン語の文法記述を精度の高いものにしていくためには、助詞をさらにいくつかのグループに分類しておく必要がある。

拙論では助詞を分類する基準として次の二つを用いる。

- (1) 文中に何らかの統語的単位を導入するか。
- (2) どのような単位に付くのか。

この二つの基準により、側置助詞、従属節助詞、一般助詞、名詞修飾助詞、動詞助詞、副助詞、文末助詞という7種類の助詞を設定する。次の表にまとめた通りである。

何らかの統語的単位を導入する機能を持つもの	
助詞の種類	何に付くか?
<ul style="list-style-type: none"> <li>側置助詞(adpositional particle)</li> <li>従属節助詞(subordinate clause particle)</li> </ul>	名詞句 節
何らかの統語的単位を導入する機能を持たないもの	
助詞の種類	何に付くか?
<ul style="list-style-type: none"> <li>一般助詞(general particle)</li> <li>名詞修飾助詞(noun modifying particle)</li> <li>動詞助詞(verb particle)</li> <li>副助詞(adverbial particle)</li> <li>文助詞(sentence particle)</li> </ul>	補語, 従属節など様々 名詞句 動詞 動詞句または述語名詞句 文

まず、何らかの統語的単位を導入する機能を持つものには、側置助詞と従属節助詞がある。

側置助詞は英語等の言語における前置詞に似た働きを持つ助詞で、名詞句に付くことによって、その名詞句を補語（次章参照）として働かせる機能を持つ。名詞句は主語と目的語を除けばそのままでは補語になることはできない。しかし、側置助詞が付けば名詞句は補語として機能することができるようになる。すなわち、側置助詞は、文中に補語を導入する働きを持つと考えることができる。

節は、補語として現れた場合（すなわち補文）を除くと、従属節助詞が付かなければそのまま文中に現れることができないのが一般的である。すなわち、従属節助詞は文中に従属節を導入する働きを持つ。

一方、側置助詞と従属節助詞以外の助詞、すなわち、一般助詞、名詞修飾助詞、動詞助詞、副助詞、文助詞は、何らかの統語的単位を文中に導入する働きを持たない。これらの助詞は、いわば、付いた相手の要素を「修飾」するために使われるとすることができる。

一般助詞は、補語や従属節など、様々な要素に付く助詞であるが、助詞によって付けることのできる要素は異なる。名詞修飾助詞は、名詞句に付く助詞である。動詞助詞は、動詞に付く助詞である。副助詞は、動詞句あるいは述語名詞句に付く助詞である。最後の文助詞は、文に付く助詞である。

上記7種類の助詞については、それぞれ独立の章をもうけて詳細を記述してある。側置助詞は第11章、従属節助詞は第21章、一般助詞は第26章、名詞修飾助詞は第14章、動詞助詞は第18章、副助詞は第24章、文助詞は第25章をそれぞれ見ていただきたい。

## 第4章 基本語順および本論文での記述に用いる様々な基本的概念

ポー・カレン語は周辺の東南アジア大陸部諸言語と似て、形態論があまり複雑ではない。屈折変化は、代名詞の体系がそのように捉えられる可能性があるのみで、存在しないと言ってしまふことも可能であろう。代名詞の体系を除けば、形態論は派生と複合からなると言ってよい。一方、文中に現れる名詞句のうち、行為者や被動者を表す名詞句のような、動詞の表す意味にとって重要なものは語順によって表され、修飾語と被修飾語の関係も語順によって表されることが多いと言ってもよい。したがって、ポー・カレン語文法の類型的特徴を至極大雑把に捉えるならば、全体としては「孤立語的」と言えるような特徴を持っている。

この章では、4.1 においてまずポー・カレン語の基本語順を概観し、4.2 以降で、本論文の様々な議論のために必要となる基本的概念についての定義を行っていく。

なお、本論文では、動詞や節や文の表す動作 (action)/状態変化 (change of state)/状態 (state) などすべてを含めて、事象(event) と呼ぶ<sup>1</sup>。

### 4.1 基本語順

様々な要素の配列順序をここで概観しておく。

#### 4.1.1 動詞と項

自動詞 (厳密な定義は第 15 章) の場合の唯一項と動詞の順序は「唯一項 (=主語)+ 動詞」となる。

(1) láifàu lánthé

本 落ちる

「本が落ちた」

(2) thàfwà chinàn

(人名) 座る

「ターワーが座った」

この語順は、存在や出現を表す文においても保たれる。これは名詞の表すものが既知の場合であれ未知の場合であれ同様である<sup>2</sup>。

<sup>1</sup>Lyons (1977) は、本論文の「事象」に相当する用語として 'situation' を用いている (p.483)。

<sup>2</sup>東南アジアから東アジアにかけての SVO 型言語には、存在や出現を表す文 (いわゆる存現文) の場合に主語名詞と動詞を倒置させる言語が少なくない。

- (3) láifàu ?ó  
本 ある  
「本がある」
- (4) láif yê  
手紙 来る  
「手紙が来た」
- (5) chənó ?ó lê  
何 ある (疑)  
「何があるのか?」

次に、他動詞 (厳密な定義は第15章) の場合は、「行為者を表す名詞句 (=主語) + 動詞 + 被動者を表す名詞句 (=目的語)」という語順になる。

- (6) θà?wà dú còkhléin  
(人名) 殴る (人名)  
「タワーはチョークレインを殴った」
- (7) θà?wà pō láifàu  
(人名) 読む 本  
「タワーは本を読んだ」
- (8) θà?wà yân ?əθô  
(人名) 聞こえる 音  
「タワーには音が聞こえた」

#### 主語の倒置

次の二つの場合にのみ、主語が動詞 (+ 目的語) の後に置かれることがある。これを主語の倒置と呼ぶ。一つは、命令文において行為者を強調する場合である。この場合、主語名詞句にはしばしば名詞修飾助詞の nó「その、あの」が付く。下に例を挙げる。倒置された主語の前に △ を付ける。

- (9) phà nàin △ nò nó nàN thí dō  
当てる (返答) 2SG その (少数) ~ 回 (別個)  
「今度はあなたが (なぞなぞに) 教えてください」 (019.26)
- (10) thàin wī △ nò nó  
帰る (先行) 2SG その  
「あなたが先に帰ってください」 (001.472)
- (11) ?án kú △ nò nó  
食べる 菓子 2SG その  
「あなたが菓子を食べてください」

もう一つは、特定の助詞が文中で用いられた場合である。すなわち、限定を表す名詞修飾助詞の *kəjē* や *kənī* (第 14 章 14.4, 14.5)、また、新しい局面を表す動詞助詞の *θā* (第 18 章 18.29) が使われたときに、主語の倒置がしばしば生じる。以下に例を挙げる。

- (12) *ʔán kú △ kənī həkhwā lô*  
 食べる 菓子 (限定) 男 (断定)  
 「男だけが菓子を食べた」(001.1607)

- (13) *θàv △ kənī pəθí lô kà ʔé*  
 うるさい (限定) 1pl (断定) 限る NEG  
 「うるさいのは私達だけではない」(V-03.50)

- (14) *ʔê △ kənī ʔəkhwā lô*  
 来る (限定) 男 (断定)  
 「男だけが来た」(001.1607)

- (15) *ʔó θā △ ʔəxí dè ʔəphài*  
 ある (新局) 骨 (列挙) 皮  
 「骨と皮しか残っていなかった」(V-01.78)

- (16) *ʔóthō θā △ ʔəthàin xāin θè thəmā lô*  
 残る (新局) 枝 乾いた (複) 専ら (断定)  
 「(木々は葉が落ちて) 乾いた枝だけになってしまっていた」(V-05.5)

#### 4.1.2 動詞と副詞

動詞を修飾する副詞は動詞(+ 目的語)の後に置かれる。

- (17) *θàʔwà ʔán mì phléphlé*  
 (人名) 食べる ご飯 速く  
 「ターワーは速くご飯を食べた」

副詞には文頭に置かれるものもある。副詞については第 19 章をご覧いただきたい。

#### 4.1.3 名詞と関係節

この言語では、名詞を修飾する単独の動詞と関係節とを区別しなければならない理由はない。関係節の作り方のうち頻度が高いのは、関係節をそのまま名詞の前や後に置く方法である。主要部名詞が関係節の主語に相当する場合には、関係節を後に置く場合が多い。

- (18) *dòun [R phàdú]*  
 町 大きな  
 「大きな町」

- (19) phlòuN [R lì lé cəpân]  
人 行く (場) 日本  
「日本に行った人」

それ以外の場合には、関係節を前に置く場合が多い。

- (20) [R nə- pō] lái?àu  
2sg 読む 本  
「あなたが読んだ本」

実際には、主要部名詞が関係節の主語に相当する場合であっても、その名詞の特定性が高い場合には関係節が名詞の前に置かれるなど、単純ではない問題がある。詳細については、第23章を見ていただきたい。

#### 4.1.4 名詞と名詞

名詞と名詞の順序についての詳細は第8章を参照されたい。ここではごく大雑把に述べておく。

意味的に限定する側の名詞は、限定される側の名詞の前に置かれることが多い。

- (21) thîkhāN ?əyāin?əbjà  
国 力  
「国の力」

固有名詞も、一般の名詞の前に置かれる<sup>3</sup>。

- (22) pəjàN khāN  
ビルマ 国  
「ビルマ国」

- (23) thə?àN dòuN  
パアン 町  
「パアン市」

所有者を表す名詞は、所有物を表す名詞の前に置かれる。

- (24) chərá (?ə) lái?àu  
先生 3sg 本  
「先生の本」

<sup>3</sup>実は、地名を表す固有名詞の場合に限り、例外的に後に置かれることもある。この語順はあらゆる場合に可能というわけではなく、一部の地名にのみ見られる。

khāN pəjàN 「ビルマ国」  
国 ビルマ  
dòuN thə?àN 「パアン市」  
町 パアン

このような「逆」の語順の使用は文体を高める効果を持っているようであるが、詳しいことはまだ分からない。

側置助詞に導かれた名詞が名詞を修飾する場合、修飾される側の名詞の後に置かれる。

- (25) chərâ lé cōN jò  
先生 (場) 学校 この  
「この学校の先生」

#### 4.1.5 動詞と動詞助詞

動詞に付く助詞である動詞助詞 (いわゆる助動詞に相当する) には、次のように動詞の前に付くものや、

- (26) bá lì  
(当為) 行く  
「行かなければならない」

次のように動詞の後に付くものがある。

- (27) lì jō  
行く (試行)  
「行ってみる」

動詞助詞の詳細については第 18 章を見ていただきたい。

#### 4.1.6 動詞と否定を表す助詞

ポー・カレン語では、主節と従属節とで使われる否定の助詞が異なる。主節では、述部に副助詞の ?é が置かれる。詳細については第 24 章 24.4.1 を見ていただきたい。

- (28) jə- ?áN mì ?é  
1sg 食べる ご飯 (否)  
「私はご飯を食べなかった」

従属節では、動詞の直前に動詞助詞の lə- が置かれる。そのとき、動詞または動詞句の後に、lə- を補助するための特殊な形式 bá が置かれることが多い。詳細については、第 18 章 18.2 を見ていただきたい。

- (29) ?əwê lə- ?áN mì bá ?əkhúcòN | jə- ?áN  
3sg (否) 食べる ご飯 (否') (理由) 1sg 食べる  
「彼がご飯を食べなかったので、私が食べた」

本論文では、否定を表す lə- と ?é を否定辞と呼ぶことがある。

#### 4.1.7 名詞と側置助詞

側置助詞 (いわゆる前置詞や後置詞に相当する) には、次のように名詞の前に付くものと、

- (30) dè k̄ā  
(共) 自動車  
「自動車で」

次のように名詞の両側に付くものがある。

- (31) bē cəpān θò  
(比定) 日本人 (比定)  
「日本人のように」

側置助詞の詳細については第11章を見ていただきたい。

#### 4.1.8 主節と副詞節

副詞節のほとんどは、次のように主節の前に置かれるのが普通である。

- (32) chəchən ʔá ʔəkhúcòn | chəkáchəyè ʔá  
雨 多い (理由) 困難 多い  
「雨が多いので困難が多い」

しかし、次のように主節の後に置かれるものもある。

- (33) mə- ʔókhò | thōN ʔəwê yê thàin khó  
(非現) 待つ (限界) 3sg 来る 帰る (将来)  
「彼が来るまで待つよ」(004.34)

詳細については第21章を見ていただきたい。

#### 4.1.9 疑問を表す文の作り方

疑問を表す文において語順をかえる必要はまったくない。疑問は、文助詞の *bâ* や *lê* によって表す。疑問語(第27章参照)がない場合は *bâ* が使われ、疑問語が現れた場合には *lê* が使われる。

- (34) nə- ʔáN mì bâ  
2sg 食べる ご飯 (疑)  
「あなたはご飯を食べましたか?」

- (35) nə- ʔáN chənó lê  
2sg 食べる 何 (疑)  
「あなたは何を食べましたか?」

詳細については第25章 25.1,25.2 および第27章を見ていただきたい。

以降、本論文の様々な議論のために必要となる様々な基本的概念の定義を行っていく。



## 4.2 主語と目的語と斜格補語

文中に現れる名詞句を補語(complement)と呼ぶ<sup>4</sup>。ただし、述語になった名詞句と、名詞(句)を直接修飾する名詞句は補語とは呼ばない。補語は、主語(subject)、目的語(object)、斜格補語(oblique complement)の3種類に分けることができる。このうち主語と目的語をあわせて項(argument)と呼ぶことがある。以下に、主語、目的語、斜格補語の順に定義を示す。

### 4.2.1 主語

本論文では動詞(正確には動詞複合体。第16章参照)の直前に現れた名詞句をその節の主語と呼ぶ。すなわち、次に太字で示したような名詞句である。

(36) θàʔwà chìnàN  
(人名) 座る  
「ターワーは座った」

(37) θàʔwà ʔáN mì  
(人名) 食べる ご飯  
「ターワーはご飯を食べた」

次の文における θâN jò は主語ではない。

(38) θâN jò ʔáN ʔé  
おかず この 食べる (否)  
「このおかずは食べない」

なぜなら、この名詞句の後に別の名詞句が現れ得るからである。例えば、次のように θâN jò の後に θàʔwà を補うことができる。正真正銘の主語はこの θàʔwà である。

(39) θâN jò θàʔwà ʔáN ʔé  
おかず この (人名) 食べる (否)  
「このおかずはターワーは食べない」

文頭に現れた θâN jò は、後で述べる主題化によって目的語が文頭位置に置かれただけにすぎない。

さらに、次の(A)(B)(C)のような名詞句も主語と見なす。

(A) 分離型動詞連続(第17章参照)において、最初の動詞(V1と呼ぶ)の直前に現れた名詞句。本論文では、これをV1の主語ではなく、分離型動詞連続全体の主語だと考える。

(40) θàʔwà ʔáN mì ʔwí  
(人名) 食べる ご飯 おいしい  
「ターワーがご飯を食べたらおいしかった」

<sup>4</sup>補語という用語は、伝統的英文法などでコピュラ動詞の目的語などを表すために用いられるが、本論文ではより広い意味でこの用語を用いる。

- (41) θàʔwà ʔán mì blè  
 (人名) 食べる ご飯 腹一杯の  
 「ターワーはご飯を食べて腹一杯になった」
- (42) θàʔwà jū ʔəwê yì  
 (人名) 見る 3se 美しい  
 「ターワーが彼女を見たところ、(彼女は) 美しかった」

(B) 次のような文における最初の名詞句。この文では、名詞句が二つ並び、二番目の名詞句が、最初の名詞句が表すものの属性を表している。

- (43) ʔəwê phlòun  
 3se カレン人  
 「彼はカレン人だ」
- (44) θàʔwà phóthá dài  
 (人名) 子供 まだ  
 「ターワーはまだ子供だ」

(C) 次のような文における最初の名詞句。この文では、< > でくくった部分が「名詞句 + 動詞」という形をしており、この部分の名詞句は動詞の前に現れているので、上の定義により主語である。ところが、この主語の前にもう一つの名詞句が現れている。二番目の名詞句が指示するものは、最初の名詞句の指示するものの所有物である。

- (45) θàʔwà < khónáu yì >  
 (人名) 脳 良い  
 「ターワーは頭が良い」
- (46) θàʔwà < khán khā >  
 (人名) 脚 折れる  
 「ターワーは脚の骨が折れた」

上の(A)(B)(C)の名詞句をすべて主語と見なすのには理由がある。それは、これらの名詞句が、最初の定義による「動詞の直前に現れた名詞句」と、次に挙げる二つの点において共通だからである。

一つは、「自分」という意味の名詞 nānkəchā がこれらの名詞句のみを指示するということである。

「動詞の直前に現れた名詞句」:

- (47) θàʔwà<sub>i</sub> dú ʔəwê dè nānkəchā<sub>i</sub> lé  
 (人名) 殴る 3se (共) 自分 棒  
 「ターワーは自分の棒で彼を殴った」

(A) の例:

- (48) θàʔwà<sub>i</sub> jū ʔəwê yì lé nânkəchā<sub>i</sub> təwân phèn  
 (人名) 見る 3se 美しい (場) 自分 村 中  
 「ターワーが自分の村で彼女を見た時、(彼女は) 美しかった」

(B) の例:

- (49) ʔəwê<sub>i</sub> khóklən lé nânkəchā<sub>i</sub> təwân phèn  
 3se 首長 (場) 自分 村 中  
 「彼は自分の村の中では首長である」

(C) の例:

- (50) θàʔwà<sub>i</sub> khán khā lé nânkəchā<sub>i</sub> yéin phèn  
 (人名) 脚 折れる (場) 自分 家 中  
 「ターワーは自分の家で脚の骨を折った」

もう一つは、後置型の関係節 (第 23 章参照) を作る際の振る舞いが共通しているということである。例えば次の文の同一指示の二つの名詞句 ʔəwê を関係節化することを考える。この文における二つの ʔəwê は最初の「動詞の直前」という基準による主語である。

- (51) ʔəwê<sub>i</sub> mà thàkhú yòn | ʔəwê<sub>i</sub> tháwɩnɩ tōɩN  
 3se 作る 歌 (継起) 3se 踊る ドン舞踊  
 「彼は歌を歌って、ドン舞踊を踊った」

この例では、両方の名詞句を削除することによって、次のように関係節化することができる。

- (52) phlòɩN [R ∅ mà thàkhú yòn | ∅ tháwɩnɩ tōɩN]  
 人 作る 歌 (継起) 踊る ドン舞踊  
 「歌を歌ってドン舞踊を踊った人」

一方、次の複文における二つの節の ʔəwê を同時に関係節化することはできるだろうか。

- (53) ʔəwê<sub>i</sub> mà thàkhú yòn | chərâ dú ʔəwê<sub>i</sub>  
 3se 作る 歌 (継起) 先生 殴る 3se  
 「彼は歌を歌って、先生に殴られた」

答えは否である。次を見られたい。

- (54) \*phlòɩN [R ∅ mà thàkhú yòn | chərâ dú ∅]  
 人 作る 歌 (継起) 先生 殴る  
 (歌を歌って、先生に殴られた人)

これが不適格である理由は、関係節化された要素が先行する節では主語、後続する節では目的語であり、統語的な役割が異なるからである。すなわち、複文の二つの節に存在する同一指示の名詞句を関係節化する場合、その名詞句は統語的に同等の役割を持っていないなければならないのである。この観点から見ると、上の (A)(B)(C) は、「動詞の直前に現れた名詞句」と同等の役割を持っていると考えられる。なぜなら、(A)(B)(C) の条件に合致する名詞句は、「動詞の直前に現れた名詞句」と共に関係節化することが可能だからである。まず、次の例では、先行する節における (A) の基準に合致する名詞句と、後続する節における「動詞の直前に現れた名詞句」が同時に関係節化されている。

- (55) phlòuN [R Ø ʔán jáθéiN ʔwí yòN | Ø lì cəpân ]  
 人 食べる 生魚 おいしい (継起) 行く 日本  
 「生魚を食べるのが好きで、日本に行った人」

次の例では、先行する節における (B) の基準に合致する名詞句と、後続する節における「動詞の直前に現れた名詞句」が同時に関係節化されている。

- (56) phlòuN [R Ø phóθá dài lānân | Ø lì cəpân ]  
 人 子供 まだ (逆接) 行く 日本  
 「まだ子供なのに日本に行った人」

次の例では、先行する節における (C) の基準に合致する名詞句と、後続する節における「動詞の直前に現れた名詞句」が同時に関係節化されている。

- (57) phlòuN [R Ø khónáu yì yòN | Ø lì cəpân ]  
 人 脳 良い (継起) 行く 日本  
 「頭が良くて日本に行った人」

上の二つの理由により、(A)(B)(C) の名詞句はすべて「動詞の直前に現れた名詞句」と同じ統語的範疇、すなわち主語に属するものであると考えることができる。本論文では、(B) のような文を等式文(equational sentence)、(C) のような文を二重主語文と呼ぶ。

なお、等式文が表す命題は、いわゆる繫辞動詞 (copula verb) mwē を用いた次のような文によっても表すことができる。

- (58) ʔəwê mwē phlòuN  
 3se (繫) カレン人  
 「彼はカレン人だ」

#### 4.2.2 目的語

動詞文において動詞 (正確には動詞複合体) の直後に現れた名詞句を目的語と呼ぶ。以下の例で太字で示した名詞句が目的語である。

- (59) còkhléiN dú θàʔwà  
 (人名) 殴る (人名)  
 「チョークレインはタワーを殴った」

(60) còkhléin dá θà?wà  
 1sg 見える (人名)  
 「チョークレインにはタワーが見える」

(61) θà?wà lì phjā  
 (人名) 行く 僧院  
 「タワーは僧院に行った」

(62) θà?wà pō jō láifàu  
 (人名) 読む (試行) 本  
 「タワーは本を読んだ」

(63) còkhléin dú θi θà?wà  
 (人名) 殴る 死ぬ (人名)  
 「チョークレインはタワーを殴った」

なお、目的語を取ることでない動詞を自動詞、目的語を取ることでない動詞を他動詞と呼ぶ。自動詞と他動詞についての厳密な定義と詳しい議論は第 15 章で行う。

ところで、動詞の直後に二つの名詞句が連続して現れることがある。このような二つの名詞句も目的語と呼ぶ。二つの名詞句に従えることでない動詞は、これまでに次のようなものが見つかっている。

phílân 「与える」

(64) chànkhu?wà phílân θà?wà khòthá  
 (人名) 与える (人名) マンゴー  
 「チャウンクワはタワーにマンゴーをやった」

dàuné 「見せる」

(65) chànkhu?wà dàuné θà?wà khòthá  
 (人名) 見せる (人名) マンゴー  
 「チャウンクワはタワーにマンゴーを見せた」

?áncà 「尋ねる」

(66) chànkhu?wà ?áncà θà?wà láiphlòun  
 (人名) 尋ねる (人名) カレン文字  
 「チャウンクワはタワーにカレン文字について尋ねた」

chônmon 「考える」

(67) chànkhu?wà chônmon θà?wà cəpân  
 (人名) 考える (人名) 日本人  
 「チャウンクワはタワーを日本人だと思っている」

なお、ビルマ語からの借用語 *thîn* (cf. Burmese /*thìn-*/) も二つの目的語を従えることができる。

- (68) *ʔəwè mə- thîn bá nè cəpân*  
 (人名) (非現) 考える (無意) 2SG 日本人  
 「彼はあなたを日本人だと思ってしまうだろう」

*kò* 「呼ぶ」

- (69) *chànkhuʔwà kò θàʔwà cō*  
 (人名) 呼ぶ (人名) 兄  
 「チャウンクーワーはターワーをお兄さんと呼ぶ」

本論文では、二つ連続して現れた目的語のうち、最初のものを第一目的語(*first object*)、2番目のものを第二目的語(*second object*)と呼ぶ<sup>5</sup>。

第二目的語は、道具や随伴者を表す側置助詞の *dè* によって切り離すことができる。動詞 *phílân* を例に取って示す。

- (70) *chànkhuʔwà phílân θàʔwà dè khòθá*  
 (人名) 与える (人名) (共) マンゴー  
 「チャウンクーワーはターワーにマンゴーをやった」

下に示すとおり、他の動詞の場合も、第二目的語に *dè* を前置するパラフレーズが可能である。

- (71) *chànkhuʔwà dàuné θàʔwà dè khòθá*  
 (人名) 見せる (人名) (共) マンゴー  
 「チャウンクーワーはターワーにマンゴーを見せた」

- (72) *chànkhuʔwà ʔáncà θàʔwà dè láiphlòun*  
 (人名) 尋ねる (人名) (共) カレン文字  
 「チャウンクーワーはターワーにカレン文字について尋ねた」

- (73) *chànkhuʔwà chônmon θàʔwà dè cəpân*  
 (人名) 考える (人名) (共) 日本人  
 「チャウンクーワーはターワーを日本人だと考えている」

- (74) *ʔəwè mə- thîn bá nè dè cəpân*  
 (人名) (非現) 考える (無意) (人名) (共) 日本人  
 「彼はあなたを日本人だと思ってしまうだろう」

<sup>5</sup>Dryer (1986) は、ditransitive verb のいわゆる間接目的語が monotransitive verb の目的語と同じ振る舞いを示す場合、これらをまとめて *primary object* という言葉で呼んでいる。また、このような場合の ditransitive verb が取るいわゆる直接目的語を *secondary object* と呼んでいる。本論文における第一目的語と第二目的語という呼び方はあくまでも語順を基準としたものであり、Dryer の *primary object* / *secondary object* の概念とは異なることに留意されたい。

- (75) chànkhuáwà kò thàwà dè cō  
 (人名) 呼ぶ (人名) (共) 兄  
 「チャウンクーワーはターワーをお兄さんと呼ぶ」

また、上記の動詞のうち、phîlân「与える」を用いた文は、第一目的語に側置名詞 ?ə?ó (第12章 12.3 参照) を付けて、場所を表す側置助詞 lé を前置するパラフレーズが可能である (lé は省略可能)。

- (76) jə- phîlân láiwàu (lé) ?əwê ?ó  
 1sg 与える 本 (場) 3se ところ  
 「私は彼に本を与えた」

#### 4.2.3 斜格補語

主語と目的語以外の名詞句を斜格補語と呼ぶ。斜格補語には2種類ある。

一つは、次に太字で示したような、側置助詞に導かれて現れた名詞句である。側置助詞とそれに導かれて現れた名詞句が作る句を側置助詞句と呼ぶ。

- (77) còkhléin lì lé thə?àn  
 (人名) 行く (場) (地名)  
 「チョークレインはパアンに行った」
- (78) còkhléin lì dè kâ  
 (人名) 行く (共) 自動車  
 「チョークレインは自動車で行った」
- (79) còkhléin ?ánlū thî bē cəpân thò  
 (人名) 浴びる 水 (比定) 日本人 (比定)  
 「チョークレインは日本人と同じ方法で水浴びをした」
- (80) ?əwê cōN chərâ lé cəpân ?ò  
 3sg 学校 先生 (場) 日本 (遠方)  
 「彼は(ビルマでは商売をやっているが)日本では学校の先生である」

▷ これは名詞文に現れた斜格補語の例である。

もう一つは、次のように側置助詞なしで現れた名詞句である。側置助詞の助けがなくとも斜格補語になれるのは、時を表す名詞句と、助数名詞句 (第10章参照) に限られる。下に太字で示す。

- (81) mûyá còkhléin thán rōun  
 昨日 (人名) 上る 事務所  
 「昨日チョークレインは出勤した」
- (82) phlòun yê jò thāN yà  
 人間 来る ここ 三 ~人  
 「人間がここに3人来た」

### 4.3 述部と述語

任意の節において、主語名詞句より後の部分を述部と呼ぶ。下に挙げた例の < > でくくった部分が述部である。

- (83) θàʔwà < ʔán mì dè nóthòuN phléphlé >  
 (人名) 食べる ご飯 (共) 匙 速く  
 「ターワーは匙で速くご飯を食べた」

- (84) θàʔwà < ʔán mì blè châ mā jàu >  
 (人名) 食べる ご飯 腹一杯の (非常) (非常) (完)  
 「ターワーはご飯を食べて非常に腹一杯になった」

- (85) θàʔwà < phúθá >  
 (人名) 子供  
 「ターワーは子供だ」

- (86) θàʔwà < khónáu yì kē >  
 (人名) 脳 良い (非常)  
 「ターワーはとても頭が良い」

述部の末尾は次のように確認することができる。すなわち、従属節助詞や文助詞が現れていれば、その直前の要素までが述部である。なぜなら、従属節助詞は節に付く要素であるため、また、文助詞は文に付く要素であるため、節の内側の要素である述部の中に入ることはないからである。

- (87) θàʔwà < ʔán mì > nê  
 (人名) 食べる ご飯 NE  
 「ターワーはご飯を食べたんですね」

- (88) θàʔwà < ʔán mì > ʔəkhúcòN | jè θí ʔán  
 (人名) 食べる ご飯 ~なので 1SG (類似) 食べる  
 「ターワーがご飯を食べたので私も食べた」

次に、述部の性質を決定する要素を述語と呼ぶ。(83) を例に取ると、この文の述語は ʔán である。なぜなら、この動詞が述部全体の性質を決定しているからである。その証拠として、この述部を次のように命令文として使うことができるということが挙げられる。

- (89) ʔán mì dè nóthòuN phléphlé  
 食べる ご飯 (共) 匙 速く  
 「匙で速くご飯を食べよ」

命令文として用いることができるという性質は、意志動詞である ʔán によって決定されている。また、補語の選択も、動詞 ʔán に依存している。それは次の例が意味的に奇妙であることを考えれば分かる。



- (90) ʔán      cúkhló    dè      kəbàn    phléphlé  
 食べる 川            (共) 船      速く  
 「船で速く川を食べる」

この文が奇妙なのは、ʔán の目的語が食べられないものを表しており、かつ、食べるための道具としては使用できないものが道具として選択されているからである。この例の ʔán を例えば khānthé 「渡る」にすれば、意味の通る文になる。したがって、補語の選択も動詞 ʔán によって決定されていると言える。

上の事実から、(83) の述部の性質を決定しているのは ʔán であると考えられるだろう。すなわち、動詞 ʔán が述語である。しかし、ここでは、動詞としての ʔán が述語になっていると考えるよりも、第 15 章で述べる「動詞複合体」としての ʔán が述語になっていると考えるほうがより一般性がある。なぜなら、動詞に様々な要素が付いている場合、述部の性質は 1 個の動詞によって決定されるのではなく、動詞複合体全体の性質によって決定されるからである。例えば、次の文の動詞複合体 dàu ʔán bá を見てみたい。

- (91) jə-      dàu      ʔán      bá      ʔəwê    mì  
 1sg (使役) 食べる (無意) 3se      ご飯  
 「私は彼に (誤って) ご飯を食べさせてしまった」

この述部に二つの目的語が存在するのは、被使役者を導入する助詞 dàu と一つの目的語を取る動詞 ʔán の相互作用の結果であるし、この文の述部が無意志動詞としての性質を持つのは、動詞助詞 bá の働きによる。したがって、述部全体の性質を決定しているのは、いずれか一つの単語ではなく、dàu ʔán bá 全体である。先ほどの ʔán は、たまたま動詞複合体が一つの動詞によって形成されていると考えることができる。

(84) のような分離型動詞連続の場合は、2 番目の動詞複合体 (この場合は blè) が述語であると考えられる。なぜなら、第 17 章で述べるとおり、分離型動詞連続では、2 番目の動詞複合体が動詞連続全体の性質を決定するからである。

(85) のような等式文の場合は、属性を表す名詞句 (この場合は phú) が述語であると考えられる。この文の述部 phú は、いかなる助詞の助けがあろうとも命令文として機能することができない。これは phú が動詞ではないことに起因している。つまり、述部の特徴を phú が決定していると考えられる。

(86) のような二重主語文の場合は、述部に現れた動詞複合体が述語である。この例では yì が述語ということになる。これも例えば次の (a) と (b) を対比することによって証明されよう。

- (92) a. θàʔwà    khónáu    yì  
 (人名) 脳            良い  
 「ターワーは頭が良い」  
 b. θàʔwà    khán    khā  
 (人名) 脚            折れる  
 「ターワーは脚の骨が折れた」

1 回だけの生起に限った場合、(a) の khónáu yì 「頭が良い」は発話時点の状態を表すことができるのに対し、(b) の khán khā 「脚の骨が折れる」は発話時点より以前に生じた

事象しか表すことができない。この違いは、(a) の *yì* が状態を表す動詞であるのに対し、(b) の *khā* が瞬間的な変化を表す動詞であることに起因している。したがって、二重主語文の場合、述部に現れた動詞複合体を述語と見なすことができる。

このように、述語は動詞複合体である場合と名詞句である場合の二つの場合がある。

#### 4.4 主題化および分裂文

ポー・カレン語では、ある文が何かについての説明であるとき、その「何か」を表す要素を文頭に置くことがある。次の例を見られたい。

- (93) *kú nɔ̌ jə- ʔán khwái jàu*  
菓子 あの 1sg 食べる (徹底) (完)  
「あの菓子は私が食べてしまった」

この文は、次の文の目的語を文頭に置いたものであると考えることができる。

- (94) *jə- ʔán khwái kú nɔ̌ jàu*  
1sg 食べる (徹底) 菓子 あの (完)  
「私があの菓子を食べてしまった」

このようにして文頭に置かれた要素を主題(topic) と呼び、このように何らかの要素を文頭に置く操作を主題化(topicalization) と呼ぶことにする。そして、主題化された要素以外の部分を評言(comment) と呼ぶ。文例 (93) は表面上 OSV という語順を取っているが、ポー・カレン語の基本的な語順に OSV という語順が存在するとは考えないほうがよい。なぜなら、この文は事象の中立的な叙述ではなく、あくまでも「あの菓子」についての説明であるとしか取ることができないからである。つまり、この文は主題化によってこのような語順を取っていると考えることができる。

ポー・カレン語には、主題化された要素を明示する助詞がいくつかある。そのうち最も頻繁に現れるのが、次の例に現れた *nɔ̌* である。

- (95) *kú nɔ̌ nɔ̌ jə- ʔán khwái jàu*  
菓子 あの (題) 1sg 食べる (徹底) (完)  
「あの菓子は私が食べてしまった」

主題を表す助詞については第 26 章をご覧いただきたい。

主題を「主題化されたもの」と捉えるのではなく、もともと主題の位置にあるのだと考えることも可能だろう。しかし、主題化という概念で捉えたほうが、主題の位置に現れた要素が統語的にはどのような役割を持っているかを捉えることが容易である。したがって、本論文では、あくまでも便宜的に「主題化」という用語を用いていくことにする。

ポー・カレン語では文中の次のような要素を主題化することができる。

##### 4.4.1 補語 (側置助詞句を含む)

まず、補語が主題化可能である。次の例は主語を主題化したものである。

- (96) ?èinmú?wà nó màchèn chànkhu?wà lənìjò  
 (人名) (題) 手伝う (人名) 今日  
 「エインムーワーは今日チャウンクーワーを手伝った」

- (97) jə nó phlòuN lə  
 1SG (題) カレン人 (断定)  
 「私はカレン人だ」

次の例は目的語を主題化したものである。

- (98) chànkhu?wà nó ?èinmú?wà màchèn lənìjò  
 (人名) (題) (人名) 手伝う 今日  
 「チャウンクーワーはエインムーワーが今日手伝った」

- (99) láifàu jò nó jə- báθà ?é  
 本 この (題) 1sg 気に入る (否)  
 「この本は私は気に入らない」

次の例は斜格補語を主題化したものである。(100) は側置助詞の付いていない斜格補語、(101) は側置助詞の付いた斜格補語である。

- (100) lənìjò nó ?èinmú?wà màchèn chànkhu?wà  
 今日 (題) (人名) 手伝う (人名)  
 「今日はエインムーワーがチャウンクーワーを手伝った」

- (101) lé yéiN phèn nó ?èinmú?wà màchèn chànkhu?wà  
 (場) 家 中 (題) (人名) 手伝う (人名)  
 「家の中ではエインムーワーがチャウンクーワーを手伝った」

厳密に言うと、(101) は斜格補語そのものの主題化ではなく、側置助詞が付いているので、側置助詞句 (第 11 章参照) の主題化と考えるべきである。

なお、補語を主題化した場合、元の位置に主題化した要素と同一指示の代名詞が現れることがある。この現象がチベット・ビルマ諸語の代名詞化 (pronominalization) と呼ばれる現象の一例と考えられる可能性があるが、この問題についての議論は、第 9 章で行う。

- (102) jə nó jə- ?án kó  
 1sg (題) 1sg 食べる 菓子  
 「私は菓子を食べた」

- (103) chànkhu?wà nó ?əwê lókwè dè ?ə- phā  
 (人名) (題) 3se 遊ぶ (共) 3sg 父  
 「チャウンクーワーはお父さんと遊んでいる」

- (104) ?èinmú?wà nó jə- dá ?ə klə lə  
 (人名) (題) 1sg 会う 3SG いつも (断定)  
 「エインムーワーには私はいつも会っている」

- (105) ʔə́ nɔ́ jə- lókwé dè ʔə́ phléphlé  
 3SG (題) 1sg 遊ぶ (共) 3SG 一緒に  
 「彼女は、私が一緒に遊んだ」

#### 4.4.2 分離型動詞連続の「主語 + V1 動詞句」

次に、分離型動詞連続の V1 が形成する動詞句を V1 動詞句と呼ぶことにすると、「主語 + V1 動詞句」を主題化することもできる。

- (106) chànkhúʔwà ʔánp̄hôn mì nɔ́ θi yì  
 (人名) 炊く ご飯 (題) できる 良い  
 「チャウンクーワーのご飯の炊き方は上手だ」

- (107) chànkhúʔwà ʔánp̄hôn mì nɔ́ phlé mā  
 (人名) 炊く ご飯 (題) 速い (非常)  
 「チャウンクーワーのご飯の炊き方は大変速い」

#### 4.4.3 従属節

次に、従属節の主題化も可能である。

- (108) chànkhúʔwà ʔánp̄hôn mì ʔəkhúcòn nɔ́ | hə- θà máu  
 (人名) 炊く ご飯 (理由) (題) 1pl 心 快適な  
 「チャウンクーワーがご飯を炊いたので私達は嬉しかった」

#### 4.4.4 補語あるいは副詞以外の部分: 分裂文

一つの補語あるいは副詞を残してそれ以外の部分を主題化することもできる。例を見ら  
 たい。

- (109) ʔán khòθá nɔ́ θàʔwà lɔ́  
 食べる マンゴー (題) (人名) (断定)  
 「マンゴーを食べたのはターワーだ」

この主題化は特殊である。なぜなら、上で見てきた主題化では文の中核である述語が評言  
 の中にとどまっているのに対して、この場合の主題化では、述語を含む部分が主題化され  
 ているからである。

このような主題化は、もう一つの点で特殊である。というのは、これまで見た主題化で  
 は、連続する要素のみを主題化しているのに対し、この種類の主題化では不連続な部分を  
 主題化しているからである。

- (110) ʔán lé ləkōu nɔ́ khòθá lɔ́  
 食べる (場) (地名) (題) マンゴー (断定)  
 「ヤンゴンで食べたのはマンゴーだ」

この例で主題化されている部分は、下に示した主題化が施される前の文を見れば分かります。不連続である。

- (111) ʔáN khòθá lé ləkōuN lô  
 食べる マンゴー (場) (地名) (断定)  
 「ヤンゴンでマンゴーを食べた」

本論文では、このような文を分裂文(cleft sentence)と名付ける。なぜなら、このような文は情報論的に、一般に分裂文と呼ばれる文と共通の特徴を持つからである。英語を例にとると、“It is X that Y”では、名詞句 X が焦点となり、述語を含む Y の部分が前提となる。ポー・カレン語の分裂文では焦点と前提の部分の順序が逆になるが、補語が焦点となり、述語を含む部分が前提となるという点で、英語の分裂文と似ている。このことは次のやりとりを見れば分かるだろう。

- (112) nə- ʔáN khòθá Ɂâ  
 2sg 食べる マンゴー (疑)  
 「お前がマンゴーを食べたのか」
- ʔáN khòθá nó θàʔwà lô  
 食べる マンゴー (題) (人名) (断定)  
 「マンゴーを食べたのはターワーだ」

ポー・カレン語文法における分裂文は主題化が施された文の一種であるわけだが、述語を含む部分が主題化されているということと、不連続な部分を主題化することができるという二点において特殊であるため、これを特別扱いすることに問題はないだろう。

分裂文において評言の位置に現れる要素は補語または副詞である。下に、主語、目的語、斜格補語、副詞がそれぞれ評言の位置に現れた例を挙げる。斜格補語には側置助詞が付く場合と付かない場合がある。

- (113) [主語] tàin kú nó jə lô  
 作る 菓子 (題) 1SG (断定)  
 「菓子を作ったのは私だ」
- (114) [目的語] ʔəwê dú nó jə lô  
 3se 殴る (題) 1SG (断定)  
 「彼が殴ったのは私だ」
- (115) [斜格補語] jə- lì nó (lé) thəʔàN lô  
 1sg 行く (題) (場) (地名) (断定)  
 「私が行ったのはパアン(へ)だ」
- (116) [斜格補語] jə- lì nó (dè) k̄ā lô  
 1sg 行く (題) (共) 自動車 (断定)  
 「私が行ったのは自動車(で)だ」

- (117) [副詞]      ʔəwê    yì          nó      chā  
                          3se      美しい (題)    非常に  
                          「彼女が美しいのは、尋常でない」

分裂文において評言の位置に現れる要素の前には、次のように、繫辞動詞 *mwē* が置かれることもある。

- (118) mà      θi      phôʔwà    jò      mwē    jò      lō  
          (使役) 死ぬ (人名) (題) (繫) 1SG (断定)  
          「このボーワーを殺したのは私なのだ」(V-01.96)

## 4.5 意味役割

主語という統語役割を持つ名詞句が持つ意味役割は様々である。例えば、次の文の主語は「殴る」という動作を意志的に行う遂行者を表している。

- (119) θàʔwà    dō      ʔə  
          (人名)    殴る    3SG  
          「ターワーは彼を殴った」

次の文の主語は物の受け取り手を表している。

- (120) θàʔwà    nī      lái  
          (人名)    得る    手紙  
          「ターワーは手紙をもらった」

次の文の主語は音の知覚者を表している。

- (121) θàʔwà    yēn          thàkhó  
          (人名)    聞こえる    歌  
          「ターワーには歌が聞こえた」

次の文の主語は能力の保持者を表している。

- (122) θàʔwà    θi          phlòun    chəkhlaín  
          (人名)    できる    カレン    言葉  
          「ターワーはカレン語ができる」

このように、主語が表す意味は様々であることが分かる。

一方、目的語も様々な意味を表し得る。(119)の目的語 ʔə は動作の受け手である。(120)の目的語 lái は移動物である。(121)の目的語 thàkhó は聴覚的な刺激である。(122)の目的語 phlòun chəkhlaín は習得した能力の種類である。

本論文では、補語のうち主語と目的語として現れ得るものは、動詞にとって特別な意味を持つものとして選び取られているのだと考える。うち他動詞の主語は、自ら動こうとするものとして捉えられていると考え、これを行為者(actor)と呼ぶ。一方、他動詞の目的語は、外的な作用を受けるものとして捉えられていると考え、これを被動者(patient)と呼

ぶ<sup>6</sup>。自動詞の主語については、次のような意志動詞 (第 15 章参照) の場合、自ら動こうとするものとして捉えられていると考え、他動詞の主語と同じく行為者と呼ぶ。

- (123) θàʔwà chînàN  
 (人名) 座る  
 「タワーは座った」

一方、次のような無意志動詞の場合、外的な作用を受けるものとして捉えられていると考え、他動詞の目的語と同じく被動者と呼ぶ。

- (124) θàʔwà bóN  
 (人名) 太っている  
 「タワーは太っている」

次のような二つの目的語を取る動詞の場合には、第一目的語が優先的に被動者の意味役割を担っていると考えことにする。なぜなら、4.2.2 で示したとおり、第二目的語は斜格補語になる場合があるからである。

- (125) chànkhuʔwà phílân θàʔwà (dè) khòθá  
 (人名) 与える (人名) (共) マンゴー  
 「チャウンクーワーはタワーにマンゴーをやった」

## 4.6 文の分類

ポー・カレン語の文は、いくつかの観点から分類が可能である。本論文では、名詞文と動詞文という分類、および、命令文と非命令文という分類を記述に用いる。

4.3 で論じたとおり、ポー・カレン語の述語は動詞複合体である場合と名詞句である場合とがある。述語が動詞複合体の場合、その文を動詞文と呼ぶ。一方、述語が名詞句の場合、その文を名詞文と呼ぶ。

次に、命令文と非命令文を次のように定義する。命令文とは、否定するときに副助詞 ləxì (第 24 章 24.4.2) を用いるものである。一方、非命令文とは、否定するときに副助詞 ʔé (第 24 章 24.4.1) を用いるものである。例えば、

- (126) ʔán mì  
 食べる ご飯  
 「ご飯を食べよ」

を否定すると、ləxì を用いて次のようになる。

- (127) ʔán mì ləxì  
 食べる ご飯 (禁止)  
 「ご飯を食べるな」

そこで (126) は命令文であると判断することになる。一方、

<sup>6</sup>本論文における意味役割についてのこのような考え方は、Van Valin and LaPolla (1997) の macrorole の概念にならっている。

- (128) jə- ʔán mì  
1sg 食べる ご飯  
「私はご飯を食べる」

を否定すると次のようになる。

- (129) jə- ʔán mì ʔé  
1sg 食べる ご飯 (否)  
「私はご飯を食べない」

そこで (128) は非命令文であると判断することになる。

文の分類には、これ以外にも疑問文と平叙文、肯定文と否定文というような様々な分類が可能であるかもしれないが、本論文における記述において重要な意味を持つのは上記の二つの分類である。本論文では、疑問を表す文を疑問文と呼んだり、否定を表す文を否定文と呼んだりすることがあるが、これらはそのような文の範疇があるということを主張しているわけではないことに注意されたい。

## 4.7 態について

本論文では、ポー・カレン語文法に態 (voice) という範疇を設定する必要はないと考える。文の真理条件的意味を保ちつつ、かつそれ以外の意味をも変えずに主語のみを転換する手段がポー・カレン語にはないからである。

スゴー・カレン語にはその意味で受動態 (passive voice) と呼ぶことができるかもしれない文が存在する。(a) に対応する (b) がその例である。

[Sgaw Karen]

- (130) a. sɔwá dô nòwá  
(人名) 殴る (人名)  
「ソーワーはノーワーを殴った」
- b. nòwá bà tà dô ʔɔ́ ló sɔwá  
(人名) 当たる (名詞化) 殴る 3sg Oblique (人名)  
「ノーワーはソーワーに殴られた」

この (b) に対応するような文はポー・カレン語には存在しない。

[Pwo Karen]

- (131) a. θàʔwà dú nàNʔwà  
(人名) 殴る (人名)  
「ターワーはナウンワーを殴った」
- b. \*nàNʔwà bá chə- dú ʔə lé θàʔwà  
(人名) 当たる CHə 殴る 3SG (場) (人名)  
「ナウンワーはターワーに殴られた」



しかし、主語が交替する現象がポー・カレン語に皆無なわけではない。単文のまま主語が変わる現象には、使役を表す動詞助詞を動詞へ付加する操作と、自発を表す動詞助詞  $\theta\grave{a}$  を動詞へ付加する操作の 2 種類がある。

使役を表す動詞助詞には、 $d\grave{a}$ ,  $m\grave{a}$ ,  $ph\acute{u}l\grave{a}n$ ,  $k\grave{o}$ ,  $l\grave{o}$  の五つがある。これらを動詞に前置すると、使役者を表す名詞句が主語として導入され、元の主語は目的語の位置に現れるようになる。 $d\grave{a}$  を例にとると、元の文では次の (a) のように主語の位置に現れていた  $\text{?}\acute{o}w\acute{e}$  が、 $d\grave{a}$  が現れた (b) の文では、目的語の位置に現れている。

- (132) a.  $\text{?}\acute{o}w\acute{e}$   $kli$   
           3se     走る  
           「彼は走った」
- b.  $j\grave{a}-$   $d\grave{a}$       $kli$       $\text{?}\acute{o}w\acute{e}$   
           1sg   (使役) 走る   3se  
           「私は彼を走らせた」

使役を表す動詞助詞の詳細については、第 18 章と第 28 章を参照されたい。

自発を表す動詞助詞  $\theta\grave{a}$  の場合には、これを動詞に後置すると、元の文の目的語が主語の位置に現れるようになる。次の (a) が元の文、(b) が  $\theta\grave{a}$  を用いた文である。

- (133) a.  $\text{?}\acute{o}w\acute{e}$   $p\grave{a}u$       $th\acute{a}n$     $p\grave{a}i\acute{o}r\acute{a}n$   
           3se   開ける   (完成) 窓  
           「彼は窓を開けた」
- b.  $p\grave{a}i\acute{o}r\acute{a}n$   $p\grave{a}u$       $th\acute{a}n$     $\theta\grave{a}$   
           窓           開ける   (完成) (自発)  
           「窓が (ひとりで) 開いた」

この動詞助詞については、第 18 章 18.60 を参照されたい。

本論文では、これらの操作を態の現象と捉えることはしない。なぜなら、これらの操作を行ったとき、操作前と操作後の文の意味が異なるからである。使役を表す動詞助詞の場合、使役者が被使役者に何らかの働きかけを行ったという意味が付け加わる。また、自発を表す  $\theta\grave{a}$  の場合、操作後の文は「ひとりでに」という意味が付け加わっている。したがって、「元の文」と意味が異なっているのであり、純粹に名詞の統語的役割のみを転換する操作ではないのである。

## 4.8 時制について

ポー・カレン語に時制を表す形式はない。しかし、非現実法 (irrealis modality) を表す動詞助詞  $m\grave{o}-$  があり、これの有無が間接的に時 (とき) を表すことがある。主節に限れば、発話時点より後に生起する事象を指示するためには必ず  $m\grave{o}-$  を動詞の前に付けなければならない。逆に、主節の動詞の前に  $m\grave{o}-$  が付いていなければ、その節が指示する事象は未来のものではないということが分かる。動詞助詞  $m\grave{o}-$  については、第 18 章 18.1 に詳しく論じてあるので、そちらを見られたい。

## 4.9 所有を表す文について

所有は、動詞 ꞑꞑ 「ある」を用いて次のように表現する。

- (134) k̄ā       ꞑꞑ      lé    jə-   ꞑꞑ  
自動車 ある (場) 1sg 所  
「私は自動車を持っている」

この場合の主語は所有物を表す。なお、最後の ꞑꞑ は側置名詞 (第12章) の ꞑəꞑꞑ である。

これ以外に、所有者を表す名詞句を主語とし、ꞑꞑ dè (いる-(共); 英語に直訳すれば be with ...) という表現を用いて所有を表すことがある。次の例を見よ。

- (135) ꞑə-   phā   θí       ꞑꞑ      dè    ꞑəmèin  
3sg 父 (類似) いる (共) 名  
「彼の父にも名前があった」(023.20)

この表現が可能なのは、所有物が譲渡不可能な (inalienable) 所有物の場合に限られるようである。この表現についての詳細は、第11章 11.3 の側置助詞 dè についての記述を見られたい。

## 第II部

## 形態論



## 第5章 接辞

接辞 (affix) と考えられる形態素はあまり多くない。現在のところ、8 個の接頭辞と 2 個の接尾辞が見つまっている。なお、本論文では全編を通じて、ハイフンは軽声音節が語境の直前に現れた場合の表記に用いるが、本章でのみ、接頭辞および接尾辞を表す記号として用いる。接辞を X で表すと、X- が接頭辞、-X が接尾辞である。

接辞と助詞 (particle) は拘束形態素という点では共通の特徴を持つ。しかし、付く相手との密着度が異なる。接辞のほうが密着度が高く、助詞のほうが密着度が低い。密着度の違いは次のような事実に見れる。例えば、接尾辞 -phú と複数を表す名詞修飾助詞 ləphá は、名詞の後に付くという点では同じ特徴を持つ。

(1) thúphú 「小鳥」 ← thú (鳥) + -phú (指小)

(2) thú ləphá 「鳥たち」 : thú (鳥) + ləphá (複数)

しかし、ləphá が名詞との間に動詞などの他の要素の介在を許すのに対して、phú はそのような要素の介在を許さない。

(3) thú yì ləphá  
鳥 良い (複)  
「良い鳥たち」

(4) \*thú yì -phú  
鳥 良い (指小)  
「良い鳥たち」

同様に、接頭辞 ʔə- と使役を表す動詞助詞 mà は、動詞の前に現れるという点では同じである。

(5) ʔədú 「大きいもの」 ← ʔə- + dú (大きい)

(6) mà dú 「大きくする」 : mà (使役) + yò (大きい)

しかし、助詞 mà が動詞部分の統語的拡張を許すのに対して、ə- は許さない。例えば、dú に変化を表す動詞助詞 thán を付けることは mà の場合はできるが、ʔə- の場合はできない。

(7) mà dú thán  
(使役) 大きい (変化)  
「(徐々に) 大きくする」

- (8) \*ʔə- dú thán  
(名詞化) 大きい (変化)

このように、接辞は付く相手との密着の度合いが強いのであり、付く相手を統語的に拡張することができない。

以下に、現在までに見つかっている接辞を見ていく。それぞれの接辞がどの程度生産的に用いられるのかについては分からないことが多い。

## 5.1 ʔə-

動詞から名詞、あるいは名詞から名詞を作る。また、指示を表す名詞修飾助詞から名詞を作る。まず、動詞の前に付いた例を挙げる。

- (9) ʔəkàin 「破片」 ← ʔə- + kàin (離れる)  
 (10) ʔəkàv 「部分」 ← ʔə- + kàv (切る)  
 (11) ʔəkhú 「霧, 煙」 ← ʔə- + khú (煙る)  
 (12) ʔəkhléin 「寒さ, 冷たい物」 ← ʔə- + khléin (寒い)  
 (13) ʔəcɔ́ 「湿り気」 ← ʔə- + cɔ́ (濡れた)  
 (14) ʔəchâ 「傷」 ← ʔə- + châ (痛い)  
 (15) ʔəchā 「もろい物」 ← ʔə- + chā (もろい)  
 (16) ʔəcháin 「酸味, 酸っぱい物」 ← ʔə- + cháin (酸っぱい)  
 (17) ʔəchêN 「甘み, 甘い物」 ← ʔə- + chêN (甘い)  
 (18) ʔədú 「大きい物」 ← ʔə- + dú (大きい)  
 (19) ʔəpî 「小さい物」 ← ʔə- + pî (小さい)  
 (20) ʔədà 「敷き物」 ← ʔə- + dà (敷く)  
 (21) ʔətháuv 「終わり, 終末」 ← ʔə- + tháuv (終わる)  
 (22) ʔəphô 「花」 ← ʔə- + phô (咲く)  
 (23) ʔəamá 「間違い」 ← ʔə- + má (間違っている)  
 (24) ʔəlâ 「青」 ← ʔə- + lâ (青い)  
 (25) ʔəyò 「赤」 ← ʔə- + yò (赤い)

(26) ʔəθâN 「黒」 ← ʔə- + θâN (黒い)

(27) ʔəʔwà 「白」 ← ʔə- + ʔwà (白い)

次に、名詞に付いた例を挙げる。

(28) ʔəkhú 「屋根; 指導者」 ← ʔə- + khú (頭)

(29) ʔəthî 「液体」 ← ʔə- + thî (水)

ʔə- は助数名詞にも付き、その助数名詞が表す形状や様子を持つものを表す名詞を作る (詳細は第 10 章を参照のこと)。

(30) ʔəbòn 「細長いもの」 ← ʔə- + bòn (細長いものを数える助数詞)

(31) ʔəbéin 「平らなもの」 ← ʔə- + béin (平らなものを数える助数詞)

(32) ʔəphlóUN 「丸いもの」 ← ʔə- + phlóUN (丸いものを数える助数詞)

(33) ʔəmèin 「種類」 ← ʔə- + mèn (種類を数える助数詞)

次に、ʔə- は指示を表す名詞修飾助詞 jò 「この」、nó 「その、あの」、ʔò 「あの」に付いて、名詞を作る (詳細は第 14 章を参照のこと)。

(34) ʔəjò 「これ」 ← ʔə- + jò (この)

(35) ʔəno 「それ、あれ」 ← ʔə- + nó (その、あの)

(36) ʔəʔò 「あれ」 ← ʔə- + ʔò (あの)

なお、名詞の中には、音節 ʔə- で始まるもので、ʔə- を取り除いた部分が単語としては機能することができないものが多数見つかる。これらも起源的には接辞 ʔə- による派生であった可能性がある。以下にその例をいくつか挙げておく。

ʔəkhli 「種」、ʔəcòN 「匂い」、ʔəkhô 「コップ」、ʔəci 「右」、ʔəxò 「左」、ʔəchâN 「段階」、ʔəchón 「毛」、ʔəchân 「境目」、ʔəchânʔəthō 「時間」、ʔəchî 「民族、家系」、ʔədài 「翼」、ʔədì 「へそ」、ʔətà 「水祭り」、ʔəthá 「河口」、ʔəthón 「筋、腱」、ʔəmə 「借金」

第 12 章で述べる側置名詞や第 13 章で述べる場所名詞のうち ʔə- で始まるものも、元から音節 ʔə- を含んでいると考えられる名詞である。例えば、ʔəyāN 「～のため」、ʔəphânkhú 「上」、ʔəphânlá 「下」など。

## 5.2 nú-

動詞の前に付いて、道具を表す名詞を作る。

(37) núkwà 「フック、吊り金具」 ← nú- + kwà (掛ける)

(38) núwái 「鍵」 ← nú- + wái (回す)

(39) núwé 「ほうき」 ← nú- + wé (掃く)

(40) núwīθú 「うちわ」 ← nú- + wīθú (扇ぐ)

## 5.3 pə-

動詞や名詞の前に付いて、人間を表す名詞を作る。hə- とも発音される。

(41) pəθàbáN 「若者」 ← pə- + θàbáN (*v.* 若い)

(42) pəphlòuN 「カレン人」 ← pə- + phlòuN (*n.* カレン; 人間)

(43) pəmúnnàN 「乙女」 ← pə- + múnnàN (*n.* 乙女)

▷ (43) は、pə- が付いても付かなくてもよい。

## 5.4 ?è-

動詞 (状態動詞) の前に付いて副詞を作る。?ə- とも発音される。

(44) ?èyì 「良く」 ← ?è- + yì (良い)

(45) ?èphlé 「速く」 ← ?è- + phlé (速い)

(46) ?èthî 「正確に」 ← ?è- + thî (正確な)

## 5.5 phà-

動詞 (状態動詞) の前に付いて程度の甚だしさを表す動詞を作る。

(47) phàdú 「大変大きい」 ← phà- + dú (大きい)

(48) phàpî 「大変小さい」 ← phà- + pî (小さい)

(49) phàjàin 「大変遠い」 ← phà- + jàin (遠い)



## 5.6 ph̄-

動詞の前に付いて、動詞の表す事象がかろうじて成立することを表す動詞を作る。

- (50) ph̄yì 「ほどほどに良い」 ← ph̄- + yì (良い)  
 (51) ph̄kéké 「やっただけの、中途半端な出来具合の」 ← ph̄- + ké (成る)  
 (52) ph̄klà 「見えるだけの、やっと見える状態の」 ← ph̄- + klà (明瞭な、はっきりとした)

## 5.7 làN-

動詞に付いて、その動詞が表す事象を引き起こすような性質を持っていることを表す新たな動詞を作る。

- (53) làNʔé 「愛らしい」 ← làN- + ʔé (愛する)  
 (54) làNnī 「可笑しい」 ← làN- + nī (笑う)

品詞は動詞のままであるが、名詞句の取り方に大きな変化が起きる。làN- の付いた動詞は、感情の向かう対象を表す名詞句を主語として取るようになる。

- (55) phú jò làNʔé  
 子供 この 愛らしい  
 「この子供は可愛い」

話者によっては、làN- の後に音節 hə (一人称代名詞の第一形に由来?) を入れて、làNhəʔé, làNhənī のようにすることがある。

## 5.8 th̄N-

この後に相互関係にある親族名称を二つ置き、双方を包含する概念を表す名詞句を作る。

- (56) th̄Nphūwē 「きょうだい」 ← th̄N- + phū (年下のきょうだい) + wē (年上の兄弟)  
 ▷ しばしば təphūwē と発音される。  
 (57) th̄Nphómō 「母子」 ← th̄N- + phó (子) + mō (母)  
 (58) th̄Nphóphā 「父子」 ← th̄N- + phó (子) + phā (父)

## 5.9 -phú

名詞 phú 「子供」に由来する接尾辞。名詞や副詞の後に付く。wó とともに発音される。品詞は元の品詞のままである。次の二つの用法がある。

### 5.9.1 指小辞的に

小ささや可愛らしさを表す。

(59) thóphú 「小鳥」 ← thó (*n.* 鳥) + -phú

(60) jáphú 「小魚」 ← já (*n.* 魚) + -phú

(61) chəmúphú 「少女」 ← chəmú (*n.* 女) + -phú

(62) læcèphú 「少しだけ」 ← læcè (*adv.* 少し) + -phú

### 5.9.2 構成員

構成員を表す。

(63) phlòunphú 「ポー・カレン族」 ← phlòun (*n.* カレン; 人間) + -phú

(64) ɕànphú 「スゴー・カレン族」 ← ɕàn (*n.* スゴー・カレン) + -phú

(65) θàuphú 「兵士」 ← θàu (*n.* 軍隊) + -phú

## 5.10 -lé

動詞の繰り返しによって作られた副詞の後について、程度の甚だしさを表す。品詞は副詞のままである。

(66) ʔáʔálé 「たくさん」 ← ʔáʔá (たくさん) + -lé cf. ʔá (多い)

(67) dódólé 「大きく」 ← dódú (大きく) + -lé cf. dú (大きい)

## 第6章 複合

ポー・カレン語はいわゆる孤立語的な特徴を持つ言語であり、屈折はないと言ってもよく、また接辞も少ないので、豊富な活用や格変化を持つ言語や派生接辞を豊富に持つ言語に比べれば、形態論は豊かでないと言ってもよいかも知れない。しかし、ポー・カレン語にはかなり多くの複合語があり、複合という点から見ると形態論が貧弱であるとは言い切れない。

ポー・カレン語の複合語には、主に、複合名詞と複合動詞がある。副詞や助詞も複合することがあるが、数は少ない。複合語においては、二つの要素の複合が最も基本的である。三つ以上の要素が複合した複合語も、二つの要素の複合に還元して考えることができる。

ところで、二つの要素からなる任意の形式が複合語であるのか、それとも統語的な構造を持った句であるのかは、少なくとも一方の要素を統語的に操作できるかどうかを見れば判別することができる。統語的な操作ができなければ複合語、できれば句である。例えば、phôklò「花畑」は、phô「花」と klò「畑」からなるが、この前部要素に状態動詞を付けて統語的拡張を行うことはできない。

- (1) \*[phô phàdú] klò  
花 大きい 畑

したがって、phôklò は複合語である。一方、θèthî phûcā「金持ちの老人」は、θèthî「金持ち」と phûcā「老人」という二つの要素からなる。この例の場合、前部要素に状態動詞を付けて統語的拡張を行うことが可能である。

- (2) [θèthî phàdú] phûcā  
金持ち 大きな 老人  
「大金持ちの老人」

このことから、θèthî phûcā は、θèthî および phûcā という二つの名詞句からなる、統語的構造を持った名詞句であると考えられる。以下で見る様々な複合語は、その内部要素を統語的に操作することができない。

### 6.1 複合名詞

ポー・カレン語の複合名詞を構成する要素の組み合わせには次の四つのパターンがある。

- 「名詞」+「名詞」
- 「名詞」+「動詞文として成立可能な要素」
- 「動詞文として成立可能な要素」+「名詞」

- 「動詞文として成立可能な要素」+「動詞文として成立可能な要素」

下でこの四つのパターンについて詳しく見ていくが、その前に注意しておきたい現象がある。それは、複合名詞を作るとき、後部要素が名詞でその名詞が音節 ʔə で始まる場合、ʔə は脱落することが多いということである。次のような例である。

(3) θéin pá ← θéin + ʔə pá  
木の板 木 板

(4) khò θá ← khò + ʔə θá  
マンゴーの実 マンゴー 実

しかし、次のように、ʔə が脱落しない場合もある。

(5) kòn θò ʔə θái ← kòn θò + ʔə θái  
洗濯ばさみ 衣服 挟む物

ʔə が脱落するかどうかの条件は不明である。上の (3) と (4) のうち、(3) の ʔə pá は、pá という単語がないので、最初の音節 ʔə は接頭辞 ʔə- と見なすことはできない。一方、(4) の ʔə θá は、動詞 θá 「実る」に接頭辞 ʔə- が付いてできた語である。したがって、ʔə が脱落するか否かは、ʔə- が接頭辞であるかどうかには関係がない。

### 6.1.1 「名詞」 + 「名詞」の構成を持つもの

「名詞」+「名詞」の構成を持つ複合名詞においては、どちらかの要素が優先的に、複合名詞全体の特徴を決定していると考えられる。なぜなら、次のような現象が観察されるからである。例えば、láitàu 「郵便局」は、láí 「手紙」と tàù 「建物」からなる複合語である。「郵便局」を数えるとき、助数名詞には主に丸いものを数えるために使われる phlóun が現れる。

(6) láitàu lə- phlóun 「一つの郵便局」  
郵便局 ー (丸いもの)

各要素を見てみると、前部要素 láí 「手紙」に対応する助数名詞は平らなものを数えるための béin であり (láí lə- béin 「手紙一通」)、後部要素 tàù 「建物」に対応する助数名詞は丸いものを数えるときの phlóun である (tàù lə- phlóun 「一つの建物」)。したがって、複合名詞 láitàu に対応する助数名詞は後部要素の tàù が決定していると考えられる。このような要素を、「名詞」+「名詞」の構成を持つ複合名詞における主要部と見なす。この助数名詞の対応は、意味的に見ると、複合語全体が表すものが主要部の表すものの下位概念であることを反映していると考えられる。すなわち、「郵便局」は「建物」の一種だからこそ、このような助数名詞の選択が行われるのだと考えられる。したがって、助数名詞による主要部の判別が困難な場合は、意味的にどちらの要素が複合語全体の上位概念を表すかを考えて主要部を判断する。例えば、「病院」は「郵便局」と同じように、丸いものを数えるときの phlóun で数える。

- (7) θítàυ lə- phlóυN 「一つの病院」  
 病院 — (丸いもの)

θítàυ を構成する要素である θí「薬」も tàυ「建物」も、対応する助数名詞は phlóυN である(ただし「薬」に phlóυN が対応するのは丸薬の場合に限る)。このような場合、助数名詞によって主要部を判別することができない。しかし、意味的に考えると「病院」は「薬」の一種ではなく「建物」の一種であると考えられるので、tàυ を主要部であると見なす。

このような視点で見えていくと、「名詞」+「名詞」の構成を持つ複合名詞には、後部要素が主要部になっているものと前部要素が主要部になっているものがある。ただし、どちらの要素が主要部なのかを判別することが難しいものもある。それについては後で述べる。

後部要素が主要部になっているもの

- (8) khánmé ← khán + mé  
 くるぶし 脚 目
- (9) méthī ← mé + thī  
 涙 目 水
- (10) nòphlè ← nò + phlè  
 舌 口 舌
- (11) chāínthóυN ← chāín + thóυN  
 ポケット シャツ 袋
- (12) cìthóυN ← cì + thóυN  
 財布 お金 袋
- (13) pənāíntòn ← pənāín + tòn  
 蠟燭立て 蠟燭 柱
- (14) phôklò ← phô + klò  
 花畑 花 畑
- (15) búphân ← bú + phân  
 米倉 米 倉
- (16) θítàυ ← θí + tàυ  
 病院 薬 建物
- (17) cìtàυ ← cì + tàυ  
 銀行 お金 建物
- (18) chəbíθòkhô ← chəbíθò + hô  
 ゴミ箱 ゴミ 容器

## 第6章 複合

(19) thîkhô ← thî + khô  
バケツ 水 容器

(20) chànphô ← chàn + phô  
ユリ 霧 花

(21) θéinphô ← θéin + phô  
木に咲く花 木 花

(22) θàipəlân ← θài + pəlân  
酒瓶 酒 瓶

(23) kəbànjùθənî ← kəbànjù + θənî  
飛行場 飛行機 舟着き場

▷ 前部要素の kəbànjù は、名詞 kəbàn 「船」と動詞 jù 「飛ぶ」からなる複合名詞である。

(24) jáʔúthî ← jáʔú + thî  
魚醬で作ったタレ 魚醬 水

▷ 前部要素の jáʔú は、名詞 já 「魚」と動詞 ʔú 「腐る」からなる複合名詞である。

(25) thîkhāndòundú ← thîkhān + dòundú  
首都 国 大都市

▷ 後部要素の dòundú は、名詞 dòun 「町」と動詞 dú 「大きい」からなる複合名詞である。

(26) kòkəjànchədàuphàdú ← kòkəjàn + chədàuphàdú  
世界大戦 世界 大戦

▷ 後部要素の chədàuphàdú は、名詞 chədau 「戦争」と動詞 phàdú 「大変大きい」からなる複合名詞である。

(27) lìmòθáthîlè ← lìmòθá + thîlè  
みかんジュース みかん ジュース

▷ 前部要素の lìmòθá は、名詞 lìmò 「みかん」と名詞 ʔəθá 「実」からなる複合名詞である。一方、後部要素の thîlè は、名詞 thî 「水」と動詞 lè 「混ぜる」からなる複合名詞である。

(28) láinθóθənî ← láinθó + θənî  
自動車(バス)発着所 自動車 舟着き場

▷ 前部要素の láinθó は、名詞 láin 「車」と名詞 θó 「油」からなる複合名詞である。

(29) lânmíphlì ← lânmí + phlì  
電線 電気 紐

▷ 前部要素の lânmí は、名詞 lâN 「雷」と名詞 mí 「火」からなる複合名詞である。

- (30) móʔíkhô ← móʔí + khô  
灰皿 煙草の灰 容器

▷ 前部要素の móʔí は、名詞 mó「煙草」と名詞 ʔí「大便」からなる複合名詞である。

以下は、後部要素が音節 ʔə で始まる例である。多くの場合、ʔə は脱落する。ただし、(31) のように ʔə が脱落しない場合もある。

- (31) kòNθòʔəthái ← kòNθò + ʔəthái  
洗濯ばさみ 衣服 挟む物

▷ 前部要素 kòNθò は、kòN「穿く」と θò「着る」という動詞形態素二つからなる名詞である。

- (32) láidòuN ← láí + ʔədòuN  
封筒 手紙 袋

- (33) khólonchàu ← khólon + ʔəchàu  
谷 山 間

- (34) yáNkhúyàn ← yáNkhú + ʔəyàn  
地図 土地 絵

- (35) nòchón ← nò + ʔəchón  
口ひげ 口 毛

- (36) kháchón ← khá + ʔəchón  
あごひげ あご 毛

- (37) méchón ← mé + ʔəchón  
まつげ 目 毛

- (38) chídòuN ← chí + ʔədòuN  
膀胱 尿 袋

- (39) θwíthón ← θwí + ʔəthón  
血管 血 筋(すじ)

- (40) kháxwí ← khá + ʔəxwí  
あご骨 あご 骨

- (41) ʔəlikhwâ ← ʔəli + ʔəkhwâ  
男の孫 孫 男

- (42) nâphèn ← nâ + ʔəphèn  
鼻孔 鼻 穴

## 第6章 複合

- (43) chənânm̄ ← chənâN + ʔəm̄  
雌牛 牛 雌

▷ 前部要素が主要部と考えることができる可能性もある。次の例も同様。

- (44) chənânp̄hâ ← chənâN + ʔəphâ  
雄牛 牛 雄

- (45) θéinthàin ← θéin + ʔəthàin  
木の枝 木 枝

- (46) θéinphài ← θéin + ʔəphài  
樹皮 木 皮

- (47) θéinlá ← θéin + ʔəlá  
木の葉 木 葉

- (48) ʔəkhâinm̄ ← ʔəkhâin + ʔəm̄  
尻尾 尻 尾

- (49) méphài ← mé + ʔəphài  
まぶた 目 皮

- (50) nòphài ← nò + ʔəphài  
唇 口 皮

- (51) khánp̄hài ← khán + ʔəphài  
草履 足 皮

- (52) phêinkhláthài ← phêinkhlá + ʔəthài  
台所 灰 端

- (53) lōunpá ← lōun + ʔəpá  
石板 石 板

- (54) wòbéinjá ← wòbéin + ʔəjá  
牛肉 牛 肉

- (55) phl̄θá ← phl̄ + ʔəθá  
ココヤシの実 ココヤシ 実

- (56) míkhú ← mí + ʔəkhú  
煙 火 煙状のもの



次の諸例における後部要素は、助数名詞に接頭辞 ?ə- が付いて普通名詞化したものである。ただし、これらは ?ə- の付加を経ずに直接的に複合に関わったと見ることのできる可能性もある。そのため、後部要素の最初の音節 ?ə は括弧でくくっておく。

(57) khóbòn ← khó + (?ə)bòn  
首 喉 細長いもの

(58) cúbòn ← cú + (?ə)bòn  
指 手 細長いもの

(59) θàbòn ← θà + (?ə)bòn  
心臓 心 細長いもの

(60) pənônòn ← pənôn + (?ə)bòn  
定規 規則 細長いもの

(61) pháí?wàbòn ← pháí?wà + (?ə)bòn  
白墨 白土 細長いもの

▷ 前部要素の pháí?wà は、名詞 pháí「泥」と動詞 ?wà「白い」からなる複合名詞。

(62) θíkèbòn ← θíkè + (?ə)bòn  
ペン インク 細長いもの

▷ 前部要素の θíkè は、名詞 θí「葉」と動詞 kè「書く」からなる複合名詞。

(63) ?əjáphlóun ← ?əjá + (?ə)phlóun  
筋肉 肉 丸いもの

(64) phàibéin ← phài + (?ə)béin  
衣服 皮 薄いもの

(65) láibéin ← láí + (?ə)béin  
冊子 紙 平たいもの

(66) tàtháun ← tà + (?ə)tháun  
サトウヤシの木 サトウヤシ 幹

(67) θéintháun ← θéin + (?ə)tháun  
立木 木 幹

(68) khâinbón ← khâin + (?ə)bón  
臀部 尻 包み

(69) yòbìbón ← yòbì + (?ə)bón  
キャベツの実 キャベツ (種類としての) 包み

## 第6章 複合

- (70) láiblài ← lái + (ʔə)blài  
用紙 紙 紙片
- (71) ʔəphânkúthôn ← ʔəphânkú + (ʔə)thôn  
上階 上 層
- (72) ʔəphânláthôn ← ʔəphânlá + (ʔə)thôn  
一階 下 層

### 前部要素が主要部になっているもの

- (73) láinθó ← láin + θó  
自動車 車 油
- (74) thúthà ← thú + thà  
ガチョウ 鳥 ガチョウ
- (75) châinphânkú ← châin + ʔəphânkú  
上着 シャツ 上
- (76) phènthà ← phèn + thà  
鉄鍋 鍋 鉄
- (77) càkhòhàidài ← càkhò + hàidài  
トイレットペーパー 紙 便所
- (78) láinmí ← láin + mí  
汽車 車 火
- (79) phjâthí ← phjâ + thí  
薬屋 市場 薬
- (80) phjâphô ← phjâ + phô  
花屋 市場 花
- (81) θiyāin ← θí + ʔəyāin  
ビタミン 薬 力
- (82) cìθàuthəjā ← cì + θàuthəjā  
チップ (サービス料) お金 誠意
- (83) khrikhrâθàθi ← khrikhrâ + θàθi  
証拠物品 物品 証拠

- (84) θàvthî ← θàv + thî  
海軍 軍 水
- (85) khlàimâchəmài ← khlài + mâchəmài  
ウミガメ 亀 海
- (86) khlîjā ← khlî + jā  
帆掛け舟 舟 帆
- (87) kómí ← kó + mí  
ビスケット 菓子 火
- (88) kúcèlì ← kó + cèlì  
ゼリー菓子 菓子 ゼリー
- (89) kítàlân mí ← kítà + lân mí  
エレキギター ギター 電気
- (90) m̀búúθân ← m̀ + búúθân  
新米を炊いたご飯 ご飯 新米

▷ 後部要素の búúθân は、名詞 búú「米」と動詞 θân「新しい」からなる複合名詞。

#### 両要素とも主要部であると考えられるもの

前部要素と後部要素のうちどちらが主要部なのかを判別することが難しいものもある。例えば、次に挙げる m̀phā がそうである。

- (91) m̀phā ← m̀ + phā  
両親 母 父

m̀phā に対応する助数名詞は人間を数えるときに使われる γà であり、m̀ も phā も同様に、対応する助数名詞は γà である。意味的には、複合語全体の意味が前部要素と後部要素を足し合わせた意味になっており、どちらかの要素が上位概念を表すわけではない。このようなものについては、どちらの要素が主要部になっているのかが決定しにくい。可能性としては、どちらも主要部である可能性と、どちらも主要部でない可能性があるが、この複合名詞が名詞であるという特徴は両方から受け継がれているわけだから、どちらも主要部であると考えたほうが良いだろう。下に挙げるのも同様の例である。

- (92) cháixàv ← chái + xàv  
田畑 田 畑
- (93) ʔəl̀ʔəkhlaín ← ʔəl̀ + ʔəkhlaín  
話し方 話し方 話し方

## 6.1.2 「名詞」+「動詞文として成立可能な要素」の構成を持つもの

このタイプは、「名詞」+「動詞文として成立可能な要素」の構成を持つことから、見かけの上では、第23章で扱う、関係節が名詞句を後から修飾している構造と同じである。したがって、関係節と同様、前部要素の名詞が後部要素にとって統語的に何の役割を担っているかという視点で分類が可能である。例えば、lōŋjî「翡翠」という複合語においては、lōŋ「石」はjî「緑の」の主語に相当すると考えることができる。このことはlōŋ jî「石が緑だ」という文を考えれば明白だろう。第23章での分類に従い、前部要素としての名詞が担う統語役割に「主語」「目的語」「斜格補語」「非節内要素」を設定する。

なお、このタイプでは、全体を名詞として特徴づけているのは前部要素としての名詞であるから、常に前部要素が主要部であると考えられる。

## 主語

- (94) mēcā ← mé + cā  
瞳 目 色の濃い
- (95) thînmân ← thî + nân  
香水 水 香る
- (96) bāthîwò ← bāthî + wò  
人參 大根 赤い
- (97) ʔəkhókrən ← ʔəkhó + krən  
社長 指導者 統治する
- (98) kəbànǰù ← kəbàn + jù  
飛行機 船 飛ぶ
- (99) cáǰù ← cá + jù  
流れ星 星 飛ぶ
- (100) cáǰwŋ ← cá + ǰwŋ  
北極星 星 堅固な
- (101) thîkhólón ← thî + khólón  
氷 水 氷る
- (102) thîláchôn ← thîlá + chôn  
砂糖 塩 甘い
- (103) kəchânʔwà ← kəchân + ʔwà  
白象 象 白い

- (104) ʔəlānthô ← ʔəlāN + thô  
舞台 場所 高い
- (105) kóxâiN ← kú + xâiN  
干菓子 菓子 乾いた
- (106) yáNkhúyân ← yáNkhú + yân  
岩塩 土 塩辛い
- (107) lōuNjî ← lōuN + jî  
翡翠 石 緑色の
- (108) lōuNwò ← lōuN + wò  
ルビー 石 赤い
- (109) lōuNlâ ← lōuN + lâ  
サファイア 石 青い
- (110) thàθəwài ← thà + θəwài  
磁石 鉄 吸う
- (111) búichô ← bú + chô  
早稲 米 早い
- (112) búθân ← bú + θân  
新米 米 新しい
- (113) míphíθətài ← mí + [ phí + θətài ]  
信号機 火 与える 注意
- (114) chərâcàθí ← chərâ + [ cà + θí ]  
薬剤師 先生 混ぜる 薬
- (115) kəbànjùdàuchè ← kəbànjù + [ dàu + chə ]  
戦闘機 飛行機 闘う CHə
- ▷ kəbànjù は kəbàn 「船」 + jù 「飛ぶ」。
- (116) khəmləNjōphəNchə ← khəmləN + [ jōphəN + chə ]  
観衆 人々 観る CHə
- (117) lāNlànʔòthî ← lāN + [ làn + ʔò + thî ]  
虹 雷 下りる 飲む 水

▷ 「虹」は雷神が水を飲み、地上におりた姿だとする伝説に基づく。lāN ʔò の部分は連結型動詞連続。

## 第6章 複合

(118) mʷíʔáɴyáhəm̀wì ← mʷí + [ʔáɴyá + həm̀wì]  
ウェートレス 女 歓迎する 客

(119) phlòʊɴθàɕā ← phlòʊɴ + [θà + ɕā]  
老人 人 年齢 老いた

### 目的語

(120) chàɴjáká ← chàɴjá + ká  
焼き鳥 鶏肉 焼く

(121) θíyú ← θí + yú  
ペンキ 薬 塗る

(122) nàdìkwàlàn ← nàdì + [kwà + làn]  
掛け時計 時計 掛ける (下方)

(123) láinjáin ← láin + jáin  
自転車 車 踏む

▷ 日常会話ではビルマ語の seʔbéin の借用 cébéin を用いることが多い。

(124) phòthū ← phò + thū  
花束 花 束ねる

(125) θənʔò ← θən + ʔò  
スープ おかず 飲む

(126) chəjáɕô ← chəjá + ɕô  
揚げ肉 肉 揚げめる

▷ ɕô はビルマ語 cò「揚げる、炒める」の借用。

(127) móthū ← mó + thū  
葉巻 煙草 巻く

(128) láithū ← láí + thū  
貝葉 書物 巻く

### 斜格補語

主要部が場所を表す名詞句に相当するもの。

(129) láíʔàʊkənáin ← láíʔàʊ + kənáin  
帳面 本 書き留める

(130) kəmājāthī ← kəmā + [jā + thī]  
 プール 池 泳ぐ 水

(131) khàkèlái ← khà + [kè + láí]  
 書机 台 書く 文字

(132) phjâʔə̀θài ← phjâ + [ʔə̀ + θài]  
 飲み屋 店 飲む 酒

主要部が道具を表す名詞句に相当するもの。

(133) thàchà ← thà + chà  
 縫い針 針 縫う

(134) chāinkánchə̀chən ← chāin + [kán + chə̀chən]  
 レインコート シャツ 防ぐ 雨

(135) jwàdòmé ← jwà + [dò + mé]  
 眼鏡 ガラス かける 目

(136) dànxwèchə̀ ← dàn + [xwè + chə̀]  
 買い物かご かご 買う CHə̀

(137) thàchèθí ← thà + [chè + θí]  
 注射器 針 刺す 薬

(138) céyáubú ← cé + [yáu + bú]  
 精米器 機械 精米する 米

非節内要素

(139) khójū ← khó + jū  
 喉 首 呑み込む

(140) jwàphlókla ← jwà + phlókla  
 拡大鏡 ガラス 鮮明な

(141) chə̀châyàulì ← chə̀chá + [yàulì]  
 下痢 病気 腹 行く

▷ yàulì は「腹をこわす」意の慣用句。

「名詞」＋「動詞文として成立可能な要素」の構成を持つものについての補足

上に見てきた「名詞」＋「動詞文として成立可能な要素」の構成を持つ複合語の例では、前部要素の名詞の表すものが、複合名詞全体の表すものの上位概念になっている。例えば、 $\zeta\acute{a}$ 「星」は  $\zeta\acute{a}j\ddot{u}$ 「流れ星」の上位概念を表す。このことは、前部要素の名詞に対応する助数名詞と、複合名詞に対応する助数名詞が同一であることから見てとれる。どちらも、丸いものを数える助数名詞  $phlóun$  を用いる。 $\zeta\acute{a} l\grave{a}- phlóun$ 「星一つ」、 $\zeta\acute{a}j\ddot{u} l\grave{a}- phlóun$ 「流れ星一つ」。

ところが、下に見ていく例では、前部要素の名詞の表すものと複合名詞全体の表すものとの間に上のような関係が認められない。例えば (142) の  $khóxwí?áinc\grave{a}u$  では、「頭」は「頭痛」の上位概念ではない。このことは、 $khó$  を数える助数名詞と  $khóxwí?áinc\grave{a}u$  を数える助数名詞が異なることから見てとれる。 $khó$  は、 $khó l\grave{a}- phlóun$  のように  $phlóun$  を用いて数えるが、 $khóxwí?áinc\grave{a}u$  は、もし数えるとしたら  $khóxwí?áinc\grave{a}u l\grave{a}- m\grave{e}in$ 「1種の頭痛」あるいは  $khóxwí?áinc\grave{a}u l\grave{a}- bl\grave{a}n$ 「頭痛が1回」のように数える必要がある。少なくとも  $phlóun$  を用いて数えることはできない。このような、構成要素として名詞を含んでいながら、その名詞が複合名詞全体の上位概念を表さない複合名詞は、「名詞」＋「動詞文として成立可能な要素」の構成を持つタイプにのみ見つかっている。

まず、前部要素が後部要素の主語に相当する例を挙げる。

(142)  $khóxwí?áinc\grave{a}u \leftarrow khóxwí + ?áinc\grave{a}u$   
頭痛                      頭                      痛い

(143)  $m\ddot{u}m\acute{e}th\acute{o}uN \leftarrow m\ddot{u}m\acute{e} + th\acute{o}uN$   
正午                      太陽の光                      南中する

(144)  $m\ddot{u}th\acute{a}N \leftarrow m\ddot{u} + th\acute{a}N$   
東                      太陽                      上る

(145)  $m\ddot{u}n\acute{a}u \leftarrow m\ddot{u} + n\acute{a}u$   
西                      太陽                      入る

次に、前部要素が後部要素の目的語に相当する例を挙げる。

(146)  $ch\acute{a}kh\grave{l}ainp\grave{a}k\grave{o}uN \leftarrow ch\acute{a}kh\grave{l}ain + p\grave{a}k\grave{o}uN$   
辞書                      言葉                      集める

(147)  $m\acute{ic}hw\grave{a}i \leftarrow m\acute{i} + chw\grave{a}i$   
マッチ                      火                      こする

(148)  $khóph\acute{o}uN \leftarrow khó + ph\acute{o}uN$   
はちまき                      頭                      しばる

▷ 動詞  $ph\acute{o}uN$  は、しばる場所としばる道具のどちらをも目的語として取ることができる：  
 $ph\acute{o}uN khó$ 「頭をしばる」、 $ph\acute{o}uN khóph\acute{o}uN$ 「はちまきをしばる」。



- (149) jāndèinkhāin ← jāndèin + khāin  
 ベルト 腰 巻く
- (150) khóthái ← khó + thái  
 髪留め 頭 挟む
- (151) nādài ← nā + dài  
 イアリング 耳 (イヤリングを) する
- (152) khóchè ← khó + chè  
 ヘアピン 頭 刺す
- (153) méθákán ← méθá + kán  
 マスク 顔 隠す

次に、前部要素が後部要素の斜格補語に相当する例を挙げる。

- (154) cúphón ← cú + phón  
 ハンドル 手 つかむ
- ▷ 「手」は「つかむ」の道具に相当する。

前部要素が非節内要素に相当する例はまだ見つかっていない。

### 6.1.3 「動詞文として成立可能な要素」+「名詞」の構成を持つもの

このタイプの複合名詞は、「名詞」+「動詞文として成立可能な要素」の構成を持つものに比べると少ない。このタイプにおいては、全体を名詞として特徴づけているのは後部要素としての名詞であるから、常に後部要素が主要部であると考えられる。

やはりこのタイプも、前部要素の「名詞」が後部要素の「動詞文として成立可能な要素」にとって統語的に何の役割を持つかによって分類が可能である。今のところ、目的語に相当する例が見つかっていない。

主語

- (155) cōchəchərá ← [ cō + chə ] + chərá  
 調理師 炒める CHə 先生
- (156) nānkəbànjùʔəkhó ← [ nān + kəbànjù ] + ʔəkhó  
 パイロット 運転する 飛行機 指導者
- (157) nānláinθúchərá ← [ nān + láinθú ] + chərá  
 バスの運転手 運転する 自動車 先生

斜格補語

主要部が場所や時間を表す名詞句に相当するもの。

- (158) ʔóphléṁṁì ← ʔóphlé + ṁṁì  
誕生日 生まれる 日

- (159) jōláitàu ← [ jō + láí ] + tau  
図書館 見る 本 建物

- (160) màlóláiphjā ← [ màló + láí ] + phjā  
学校 学ぶ 本 僧院

- (161) láinθópətháulān ← [ láinθó + pətháu ] + ʔəlān  
駐車場 自動車 止まる 場所

- (162) néphlótàu ← [ né + phló ] + tau  
博物館 見せる 明らかな 建物

▷ né phló は、二つの動詞 né「見せる」と phló「明らかな」からなる連結型動詞連続。

主要部が道具を表す名詞句に相当するもの。

- (163) thánkəbànjùláiblài ← [ thán + kəbànjù ] + láiblài  
航空券 乗る 飛行機 紙片

- (164) lòunkháchónbòn ← [ lòun + kháchón ] + ʔəbòn  
ひげ剃り 剃る ひげ 細長いもの

- (165) yúθibòn ← [ yú + θí ] + ʔəbòn  
刷毛 塗る 薬 細長いもの

- (166) thàuméʔəbòn ← [ thàu + mé ] + ʔəbòn  
歯ブラシ こする 歯 細長いもの

非節内要素

- (167) phlônyáʔənáin ← phlônyá + ʔənáin  
修了証書 合格する 印

- (168) liphôphlóun ← [ lì + phô ] + ʔəphlóun  
風船 空気 膨らむ 丸いもの

### 6.1.4 「動詞文として成立可能な要素」+「動詞文として成立可能な要素」の構成を持つもの

「動詞文として成立可能な要素」+「動詞文として成立可能な要素」の構成を持つ複合名詞は非常に少ないが、存在する。今のところ次のような例が見つっている。

(169) kòNθò ← kòN + θò  
衣服 穿く 着る

(170) bàNʔwà ← bàN + ʔwà  
カーテン 黄色い 白い

▷ なぜ「黄色い」を表す動詞と「白い」を表す動詞の組み合わせが「カーテン」を意味するのは不明である。

(171) ʔóthánʔólàn ← ʔó+thán + ʔó+làn  
態度 いる (上方) いる (下方)

(172) báçàùbáphlāN ← báçàù + báphlāN  
事故;トラブル 混乱する 慌てる

これらは、前部要素、後部要素ともに動詞的な性質を持っているのに、複合語全体は名詞である。つまり複合語全体は前部要素の性質も後部要素の性質も受け継いでいないので、このタイプの複合名詞は主要部が存在しないと考えたい。

## 6.2 複合動詞

次に複合動詞を見る。ポー・カレン語の複合動詞を構成する要素の組み合わせには次の三つのパターンがある。

- 「名詞」+「動詞」
- 「動詞」+「名詞」
- 「動詞」+「動詞」

複合動詞の数は複合名詞に比べるとはるかに少ない。また、複合名詞の場合と違って、一つの単語プラス一つの単語からなるものしか見つかっていない。ただし、第17章で述べる連結型動詞連続が複合動詞であるならば、「動詞」+「動詞」のパターンには無数の複合動詞が存在することになる。

### 6.2.1 「名詞」+「動詞」の構成を持つもの

このパターンの例として θàmé「恐れる」がある。

- (173) θàmé ← θà + mé  
 恐れる 心 芽吹く

この複合動詞は、一見、次のような成句と同じ構造を持っているように見える。

- (174) θà xwî 「嬉しい」  
 心 軽い

しかし、この二つは統語上の振る舞いが明らかに異なる。否定辞 lə- を付ける場合、θàmé は、全体の前に lə- を付ける。

- (175) jə- lə- θàmé bá ʔəkhúcòN ...  
 私 (否) 恐い (否') (理由)  
 「私は恐くないので...」

一方、θà xwî の場合は、動詞要素の前に lə- を付ける。

- (176) jə- θà lə- xwî bá ʔəkhúcòN ...  
 私 心 (否) 軽い (否') (理由)  
 「私は嬉しくないなので...」

つまり、θàmé は前部要素と後部要素の結びつきが強いのである。これと同様の複合動詞として、これまでに次に挙げるものが見つかった。

- (177) θàphlī ← θà + phlī  
 嫌う 心 溶ける

- (178) θàjū ← θà + jū  
 懐かしむ 心 懐かしむ

▷ θàjū と jū の意味はあまり変わらない。

- (179) nāyêN ← nā + yêN  
 聞こえる 耳 聞こえる

▷ nāyêN と yêN の意味はあまり変わらない。

なお、このパターンでは全体を動詞たらしめているのは後部要素の動詞であることから、後部要素が主要部だと考えられる。

## 6.2.2 「動詞」+「名詞」の構成を持つもの

このパターンを持つ複合動詞としては、今のところ、次の kèpərêN しか見つからない。

- (180) kèpərêN ← kè + pərêN  
 (手紙を) 書く 書く 消息

この動詞は、一見、次のような成句と構造が似ているように見える。

- (181) máu      θà  
       快適な    心  
       「楽しい」

しかし、máu θà の場合は動詞助詞が前部要素の動詞に付くことができるのに対して、kèpərâN の場合はそれができない。動詞助詞 bá を用いた例を示す。

- (182) máu      bá      θà  
       快適な    (無意)    心  
       「(自然に) 楽しくなる」

- (183) \*kè      bá      pərâN  
       書く    (無意)    消息

(183) にアスタリスクを付けたのは、「手紙をつい書いてしまう」の意で用いた場合は不適格という意味である。この文は、「消息をつい書いてしまう」の意なら適格である。「手紙をつい書いてしまう」は次のようにしなければならない。

- (184) jə-      kèpərâN    bá      lái  
       美しい    書く      (無意)    手紙  
       「私はつい手紙を書いてしまった」

なお、この kèpərâN 全体を動詞たらしめているのは前部要素の動詞であるから、kè が主要部だと考えられる。

### 6.2.3 「動詞」+「動詞」の構成を持つもの

「動詞」+「動詞」の構成を持つ複合動詞は、すべて、似た意味の動詞を二つ重ねた次に挙げるようなものである。

- (185) xîyì      ←    xî      +    yì  
       優美な      美しい      良い

- (186) chênphlî    ←    chên    +    phlî  
       ピカピカの    清潔な    滑らかな

- (187) nêNʔú      ←    nêN    +    ʔú  
       腐臭がする    臭い    腐った

- (188) ɕú máu    ←    ɕú      +    máu  
       平和な      涼しい    快適な

- (189) yòntháu    ←    yòN    +    tháu  
       終了する    終わる    尽きる

- (190)  $\epsilon\acute{\upsilon}\kappa\omicron\lambda\omicron\text{N}$   $\leftarrow$   $\epsilon\acute{\upsilon}$  +  $\kappa\omicron\lambda\omicron\text{N}$   
 急ぐ 急ぐ 慌てる

このパターンの場合、どちらの動詞が複合動詞全体の性質を決定しているとも言えない。おそらく、前部要素と後部要素のどちらもが主要部であると考えるのが良いだろう。

### 6.3 その他の複合語

複合名詞と複合動詞以外に、副詞が複合したものや助詞が複合したものがある。複合副詞は、繰り返し(次の第7章を参照のこと)によって作られた副詞を複合することによって作られる。

- (191)  $\epsilon\acute{\upsilon}\epsilon\acute{\upsilon}\mu\acute{\alpha}\upsilon\mu\acute{\alpha}\upsilon$   $\leftarrow$   $\epsilon\acute{\upsilon}\epsilon\acute{\upsilon}$  +  $\mu\acute{\alpha}\upsilon\mu\acute{\alpha}\upsilon$   
 平和に 涼しく 快適に

- (192)  $\gamma\grave{\iota}\gamma\grave{\iota}\acute{\alpha}\acute{\alpha}$   $\leftarrow$   $\gamma\grave{\iota}\gamma\grave{\iota}$  +  $\acute{\alpha}\acute{\alpha}$   
 上手に 良く 正しく

詳細は第7章を見られたい。

また、ごく少数ながら、複合助詞もある。例えば、主題を表す一般助詞  $\text{n}\acute{\omicron}\text{?}\grave{\omicron}$  は、名詞修飾助詞  $\text{n}\acute{\omicron}$  「あの」と  $\text{?}\grave{\omicron}$  「あの ( $\text{n}\acute{\omicron}$  よりさらに遠いものを指す)」の複合によって作られたものである。

## 第7章 繰り返し

繰り返し (疊語; reduplication) には、動詞の繰り返しと助数名詞の繰り返しがある。

### 7.1 動詞の繰り返し

状態を表す動詞を重ねることによって副詞を作る。この中には単音節の動詞を重ねる AA 型、二音節の動詞を重ねる ABAB 型、および、AA 型を複合によって組み合わせた AABB 型がある。

#### 7.1.1 AA 型

単音節からなる動詞をそのまま繰り返す。

- (1) ʔáʔá 「たくさん」 ← ʔá 「多い」
- (2) phléphlé 「速く」 ← phlé 「速い」
- (3) xèxè 「ゆっくり」 ← xè 「遅い」
- (4) tántán 「厚く」 ← tán 「厚い」
- (5) yìyì 「良く」 ← yì 「良い」
- (6) jáijái 「久しく」 ← jái 「久しい」

#### 7.1.2 ABAB 型

二音節からなる動詞の最初の音節を A、二番目の音節を B で表すとする、ABAB のように繰り返す。この方法が適用できる動詞は少ないようであり、今のところ次の例しか見つかっていない。

- (7) báðábáðà 「ほどほどに」 ← báðà 「ほどほどの」

#### 7.1.3 AABB 型

AA 型によって作られた二つの副詞を複合したものである。

(8) xûixûixànxàn「一致団結して」 ← xûixû「平らに」+ xànxàn「平らに」

(9) yìybábá「上手に」 ← yìyì「良く」+ bábá「正しく」

(10) εύεύμάμαυ「平和に」 ← εύεύ「涼しく」+ máυmáυ「快適に」

(11) γῶυνγῶυνkhônkhôn「強固に」 ← γῶυνγῶυν「固く」+ khônkhôn「固く」

(12) khōkhōlèn�n「熱く」 ← khōkhō「熱く」+ lèn�n「暖かく」

さて、(8)の xûixûixànxàn「一致団結して」については、これに意味的に対応する xûixàn「一致団結した」という動詞 xûixàn が存在する。同様に、(9) から (12) の副詞についても、yìbá「上手な」、εύμάυ「平和な」、γῶυνkhôn「強固な」、khōlèn「熱い」という動詞が存在する。これらはみな「動詞 + 動詞」からなる複合動詞である。だとすると、例えば xûixûixànxàn は、複合動詞 xûixàn の第一音節と第二音節をそれぞれ繰り返して作られたものだと考えられないだろうか。結論から言うと、本論文ではそのような考え方を取らない。なぜなら、次のような例が存在するからである。

(13) εύεύbàbà「平和に」

問題は、これに対応する \*εύbà という動詞が存在しないということである。このような動詞が存在しないのだから、εύεύbàbà が \*εύbà という二音節動詞から直接作られたと考えることはできない。それでは εύεύbàbà はどのようにして形成されたと考えるべきだろうか。問題を解く鍵は、次のような表現の存在である。

(14) C ?ó εύC C ?ó bàC  
 いる 平和な いる ?  
 「暮らしが平和だ」(001.225)

これは、第29章で述べる類似要素反復の例である。bà は、意味を持たない形態素である。第29章で論じるように、本論文では、この意味を持たない形態素 bà を、成句的な類似要素反復でのみ使われる単語であると考ええる。だとすると、この εύεύbàbà は、C ... εύ ... C ... bà ... C という成句的な類似要素反復の前部要素と後部要素をそれぞれ AA 型副詞にし、さらに複合したものと考えることができる(この表記法については第29章を見よ)。このとき問題になるのは、bàbà という実際には使われない形を派生の途中に仮定しなければならないということであるが、bà は、εύ と組み合わせられた類似要素反復の中でしか使われないのだから、単独で使われる bàbà という副詞が存在しないのは当然である。また、\*εύbà という存在しない動詞を派生の前提として仮定するよりも、派生の途中過程に存在しない形を仮定することのほうが、記述として妥当性が高いと思われる。

同様に、

(15) thîthîchàchà「確実に」

という副詞も、成句的な類似要素反復の C ... thî ... C ... chà ... C から作られたと考える。この後部要素 chà も、単独では意味を持たない形態素である。下に、この類似要素反復の実例を挙げる。



- (16) ㄈ jō      thīㄟ      ㄈ jō      chàㄟ  
 見る 確かな 見る ?  
 「確かめる」(001.1466)

thīthīchàchà が cūcūbàbà と異なるのは、thīchà 「確実な」という動詞が存在するということだが、この動詞の存在は偶然であると考えられる。

## 7.2 助数名詞の繰り返し

### 7.2.1 lə- AA

数詞 lə- 「一」の後に助数名詞 (A で表す。助数名詞については第 10 章を参照) を置いた助数名詞句「lə- A」の A を繰り返し、全体として一つの名詞を作る。このようにして作られた名詞は不定を表す。ləyàyà 「誰か」(←yà 「～人」)、ləmèinmèin 「何か、何種類か」(←mèin 「～種類」)、ləcónncón 「どこか」(←cón 「～ヶ所」)、ləphlóunphlóun 「どれか」(←phlóun 「～個(丸いもの)」) など。lə- AA の統語的振る舞いは助数名詞句に準じる。すなわち、名詞であるが、そのまま副詞的に用いることができる。

- (17) jə-      phū      nó      ?è      mwē      ?án      chə      yòn      ləməinməin      nótā |  
 1sg   祖父   (題)   (条件)   (繋)   食べる   CHə   終わる   何か   (前提)

?əwē      còcò      ?ə-      nò      phən      dè      thī      yòn ...  
 3se      ゆすぐ   3sg      口      中      (共)      水      (継起)

「私の祖父は何かを食べ終わると、口を水でゆすいで...」(II-08.12)

- (18) kəchān      ?è      pəpjá      ləyàyà |  
 象      (条件)   引かれる   誰か

mwē      wè      ?ə-      nən      lə  
 (繋)   (強意)   3sg   勝つ   (断定)  
 「(象を両側から 2 人で引っばって) 象がもしどちらかの側に引っばられたら、彼 (= 引いた人) が勝ちだ」(III-03.14)

- (19) là      ləbéinbéin      nē  
 月      どれか      NE

「(お金を払うのは) 何ヶ月か後にするね」(V-03.23)

- (20) phāthúyè      lì      ləcónncón |  
 (人名)      行く      どこか

máuv      ?ə-      θà  
 快適な   3sg   心

「パートウゲーはどこに行っても楽しかった」(V-04.56)

くだけた口語では、しばしば lə- が脱落する。

- (21) nəθí dá lóθà phənphôn dài jā  
 2pl 会う (相互) 何度か また JA  
 「あなた方はその後何度か会ったでしょう?」(012.8)

▷ phôn は回数を数える助数名詞。

### 7.2.2 ?ə- AA

助数名詞に接頭辞 ?ə- を付けると、単独で発話可能な名詞になる(第5章および第10章参照)。さらに、このようにしてできた名詞の助数名詞の部分を繰り返すと、数の多さを表す名詞ができる。?əmèinmèin 「何種類も」(←mèin 「～種類」)など。ここでも、?ə- AA の統語的振る舞いは助数名詞句に準じる。

- (22) láijōkwè láibéin láipàu ?ó wê ?əmèinmèin lō  
 娯楽用の書籍 本 雑誌 ある (強意) 何種類も (断定)  
 「娯楽用の本や雑誌は何種類もある」(III-07.13)

- (23) bê mə- ?óthō thàin lānchòphóli ?əchānchān θò |  
 (目的) (非現) 残る (再度) 子々孫々 何段階も (目的')  
 pə- bá kəjōn kōnθò kō yà dè lō  
 1pl (当為) 着飾る 着る (毎) ～人 (毎') (断定)  
 「子々孫々何代も(カレンの民族衣装が)残るように、私達は皆(カレン服を)着なければならない」(IV-01.65)

▷ chān は段階を数える助数名詞。

## 7.3 補足:動詞の繰り返しについて

譲歩を表すために動詞の繰り返しを用いる人がいる。次のような例である。

- (24) chə- khū khū chə- chən chən jə- mə- lì  
 CHə 暑い 暑い CHə 降る 降る 1sg (非現) 行く  
 「暑くても雨が降っても私は行く」

- (25) θí θí lə- θí θí bá ?áncà  
 できる できる (否) できる できる (当為) 尋ねる  
 「(ビルマ語が)できようができまいが、聞いてみなくてはならない」

問題はこれがカレン語の形態法(統語法?)として認められるかということである。というのは、一部のポー・カレン語話者は、この繰り返しをビルマ語の直訳と考えているからである。したがって、本論文では譲歩を表す繰り返しの存在を指摘しておくにとどめておく。上の文の内容はどちらも従属節標識の yì を用いて、よりポー・カレン語らしく表現することができる。

- (26) chə- khō yì chə- chən yì jə- mə- lì  
 CHə 暑い (任意) CHə 降る (任意) 1sg (非現) 行く  
 「暑くても雨が降っても私は行く」

- (27) θi yì lə- θi yì bá ʔáncà  
 できる (任意) (否) できる (任意) (当為) 尋ねる  
 「(ビルマ語が) できようができませんが、聞いてみなくてはならない」



## 第III部

# 名詞に関連する諸問題



## 第8章 名詞句

名詞と同等の機能を持つ文中の要素を名詞句と呼ぶ。第3章で述べているように、名詞は、(i) 単独で文を形成することができる、(ii) 動詞助詞を付けることができない、(iii) 動詞の項になることができる、という特徴を持つ。この基準に従えば、下に挙げる音列は名詞句である。

- (1) ʔəwê xwè já phàdú lé cəpwē ʔəphânkhu lə- béin nó  
 3se 買う 魚 大きな (場) 机 上 — ~枚 その  
 「机の上の、彼が買ったその大きな1匹の魚」

なぜならこの音列は、(2) の答えの文のように単独で文になることと、(3) のように動詞の項になることは可能であるが、(4) に見るように動詞助詞 (この例では非現実法を表す mə-) を付けることはできないからである。

- (2) nə- mə- ʔán khòkhô béin lê  
 2sg (非現) 食べる どの ~枚 (疑)  
 「あなたはどれを食べますか?」

—— ʔəwê xwè já phàdú lé cəpwē ʔəphânkhu lə- béin nó  
 3se 買う 魚 大きな (場) 机 上 — ~枚 その  
 「机の上の、彼が買ったその大きな1匹の魚 (を食べます)」

- (3) ʔəwê xwè já phàdú lé cəpwē ʔəphânkhu lə- béin nó  
 3se 買う 魚 大きな (場) 机 上 — ~枚 その  
 ʔúpàv jàv  
 腐る (完)  
 「机の上の、彼が買ったその大きな1匹の魚は腐っている」

- (4) \*mə- ʔəwê xwè já phàdú lé cəpwē ʔəphânkhu lə- béin nó  
 (非現) 3se 買う 魚 大きな (場) 机 上 — ~枚 その

さて、このような特徴を持つ要素を名詞句と定義すると、名詞句を構成する要素は次のように図式化できる。括弧でくくった要素は任意の要素である。関係節は名詞の前に置かれる場合と後に置かれる場合がある。

- (5) (関係節)——名詞——(関係節)——(側置助詞句)——(助数名詞句)——(名詞修飾助詞)

実は(1)の名詞句は、ここに示したすべての要素がそろった名詞句である。

- (6) ʔəwê xwè já phàdú lé cəpwē ʔəphānkhó lə- béin nó  
 関係節 名詞 関係節 側置助詞句 助数名詞句 名詞修飾助詞

この例は名詞句が複数の単語を含んでいる場合であるが、単独で文中に現れた名詞も、最も小さな名詞句だと考えることができる。なお、側置助詞句が「助詞 lé + 空間や時間を表す名詞句」の場合、lé は省かれることがある。

- (7) phlòun (lé) pəjànkhān  
 人 (場) ビルマ  
 「ビルマの人」

- (8) phlòunmwì (lé) mùyá  
 客 (場) 昨日  
 「昨日の客」

また、名詞の後の関係節の位置に、動詞の繰り返しによって作られた副詞が現れることもある(第19章 19.1.3 を参照)。

- (9) jáʔúthî yìyì  
 魚醬 良く  
 「良い魚醬」

さて、名詞句は以下に述べる三つの方法によって拡張することができる。どの方法によった場合も理論上は名詞句を無限に拡張することが可能である。

一つ目は、(1)の「名詞」の位置に名詞句を代入する方法である。下の例を見ていただきたい。

- (10) [NP [NP chəyànmôn lé [R ʔəwê dú ] ] lé [R jə- jōphòn bá ] ]  
 映画 (関) 3se 撮る (関) 1sg 見る (経験)  
 「私が見たことのある、彼が撮った映画」

ここでは、まず名詞 chəyànmôn の後に関係節が付くことによって一つの名詞句が作られ、さらに、この名詞句の後にもう一つの関係節が現れて、より大きな名詞句ができている。このようなことができるのは、(1)の「名詞」の位置に名詞句を代入することができるからである。

二つ目は、名詞句の前にその名詞句を修飾する別の名詞句を置くことである。次の例では、yàn「絵」の前にそれを修飾する klòn「パゴダ」という単語が置かれている。

- (11) klòn yàn  
 パゴダ 絵  
 「パゴダの絵 (=パゴダを描いた絵の意)」

ここでなぜ klòn が修飾語で yàn が被修飾語だと考えられるかというと、助数名詞を用いる場合、yàn に対応する助数名詞が現れるからである。「パゴダ」を数えるときの助数詞は phlòun だが、「絵」を数えるときの助数詞は béin である。上の klòn yàn の場合、後部要素の yàn に対応する助数名詞が現れる。



- (12) klòN yàN lə- béiN  
 パゴダ 絵 ー ～枚  
 「パゴダの絵 1 枚」

したがって、後部要素 yàN を主要部だと見なすことができる。第 6 章で述べているように、複合名詞には後部要素が主要部であるものと前部要素が主要部であるものがある。しかし、名詞句と名詞句を配列する場合は、常に後部要素が主要部である。同じ名詞的要素の並べ方であっても、形態論レベルと統語論レベルでは要素の並べ方に違いがあることになる。すなわち、形態論における並べ方は不規則であるが、統語論における並べ方は規則的である。下に「名詞句 + 名詞句」の例をいくつか挙げる。

- (13) θèthî phûçā  
 金持ち 老人  
 「金持ちであるところの老人」

- (14) θikèbòn khókla  
 ボールペン 蓋  
 「ボールペンのキャップ」

- (15) θéinpân chəθíchəbá  
 科学 知識  
 「科学的な知識」

- (16) phlòunthikhāN dòundó  
 カレン州 首都  
 「カレン州の州都」

ところで、所有者と被所有者も「名詞句 + 名詞句」という構造によって表される。前の名詞句が所有者を表し、後の名詞句が被所有者を表す。

- (17) θèthî phómú  
 金持ち 娘  
 「金持ちの娘 (注: 「金持ちであるところの人物の娘」の意)」

- (18) cəʔéphlòun yéiN  
 (人名) 家  
 「チョーエープロンの家」

所有者を表す名詞句が代名詞の場合、第一形または強勢形が用いられる。

- (19) ʔə- phómú  
 3sg 娘  
 「彼の娘」

- (20) ʔəwê yéin  
3sg 家  
「彼の家」

所有者を表す名詞句が非代名詞のときに、所有物を表す名詞句の前には、三人称単数代名詞の第一形が置かれることがある。この三人称単数代名詞は、前後の名詞句が所有者と被所有者であるということを明示する働きを持っている。

- (21) 0èthî ʔə- phómú  
金持ち 3sg 娘  
「金持ちの娘」

- (22) 0èthî 0è ʔə- yéin  
金持ち (複) 3sg 家  
「金持ち達の家」

- (23) còʔéphlòun ʔə- yéin  
(人名) 3sg 家  
「チョーエープロンの家」

- (24) thilá 0í ʔə- chəkhōunchətà  
塩 pl 3sg 恩恵  
「塩の効用」

この代名詞は音声的には後の名詞句に付属している。したがって、これは一種の主要部標示 (head-marking) と言ってもよいだろう (Nichols 1986 参照)。ポー・カレン語の文法において明らかに主要部標示と考えることのできる現象はこれのみである。

名詞句を拡張する方法の三つ目は、名詞句を列挙することである。名詞句の列挙には、(25) や (26) のように名詞句をそのまま列挙する方法と、(27) のように列挙を表す名詞修飾助詞 *dè* でつなぐ方法がある<sup>1</sup>。

- (25) cúu xòunlān khán xòunlān  
手 傷 足 傷  
「手の傷や足の傷」

- (26) búkhli phēinkhli 0iləphá  
米 ケシの実 (複)  
「米やケシのみなど」

- (27) tàləphó də jáʔúthî  
雑炊 (列挙) 魚醤  
「雑炊と魚醤」

<sup>1</sup> 助詞を使わずそのまま列挙したものは、第 29 章で述べる類似形反復である可能性もある。

## 第9章 代名詞

ポー・カレン語の照応には、名詞照応 (noun anaphora)、代名詞照応 (pronoun anaphora)、ゼロ照応 (zero anaphora) の3種類がある。例えば、

- (1) còʔéphlòʊn lì Ɂâ  
(人名) 行く (疑)  
「チョーエープロンは行ったか？」

という問いに対して、次の三つの答え方が可能である。

[名詞照応]

- (2) còʔéphlòʊn lì  
(人名) 行く  
「チョーエープロンは行った」

[代名詞照応]

- (3) ʔəwê lì  
3se 行く  
「彼は行った」

[ゼロ照応]

- (4) lì  
行く  
「行った」

この章で論じる代名詞のうち、chə (第二形を引用形として用いる) を除くすべての代名詞は、代名詞照応に用いることができる。

代名詞には第一形(form I)、第二形(form II)、強勢形(emphatic form) の三つの形がある。このうち少なくとも二つの形を持つ語を代名詞と定義する。代名詞には、一人称単数代名詞、一人称複数代名詞、二人称単数代名詞、二人称複数代名詞、三人称単数代名詞、三人称複数代名詞、および chə がある。一人称代名詞および二人称代名詞はそれぞれ話し手(書き手) および聞き手(読み手) を指す。三人称代名詞はそれ以外を指す。三人称代名詞は生物も無生物も指すことができる。chə の指示対象については後述する。すべての形を示したのが下の表である。

	第一形	第二形	強勢形
1sg	jə-	jə	jəwê, jəwêdá
1pl	hə- (pə-)	hə (pə)	həwê (pəwê) həwêdá (pəwêdá)
2sg	nə-	nə	nəwê, nəwêdá
2pl	nəθí	nəθí	nəθíwê, nəθíwêdá
3sg	ʔə-	ʔə	ʔəwê, ʔəwêdá
3pl	ʔəθí	ʔəθí	ʔəθíwê, ʔəθíwêdá
	ʔəθíʔə-(名詞の前のみ)		
chə	chə-	chə	—

一人称複数代名詞には、h ではなく p で始まる変異形があり、これを括弧の中に示した。p で始まる形は、より格式張った場面で用いられることが多い<sup>1</sup>。三人称複数代名詞の第一形には二つの形があり、うち ʔəθíʔə- は名詞の前でのみ使われる。強勢形にはそれぞれ二つの形がある。

第一形、第二形、強勢形の定義は、それぞれ次の通りである。

- 第一形: 主語の位置あるいは名詞の直前に現れる形のうち、音節 wê を含まない形。
- 第二形: 目的語の位置に現れる形のうち、音節 wê を含まない形。
- 強勢形: 音節 wê を含む形。

代名詞は名詞の下位範疇である。なぜなら、動詞の項になるし、動詞助詞を付けることができないからである。実は、名詞の定義におけるもう一つの条件である、単独で文を形成することができるという条件を、第一形は満たすことができない。よってこの点から見れば第一形のみを助詞に分類するという可能性も生じる。しかしながら、上の表に示したパラダイムをなすことを考えると、これのみが別の品詞に属すると考えるのは非常に不自然である。よって第一形を助詞に分類するということはしない。

以下にまず chə を除く代名詞に関して、第一形・第二形・強勢形についての記述を行う。chə を別個に扱うのは、これが意味的に特殊だからである。

## 9.1 第一形

第一形は、主語の位置あるいは名詞の直前に現れる形のうち、音節 wê を含まない形と定義する。第一形は次に述べるような環境に現れる。

### 9.1.1 主語として

第一形は次のように主語の位置に現れる。

<sup>1</sup>他のカレン系言語との対応を見ると、歴史的には p で始まる形のほうが古いと考えられる。

- (5) jə- lɪ 「私は行った」  
1sg 行く
- (6) hə- lɪ 「私達は行った」  
1pl 行く
- (7) nə- lɪ 「あなたは行った」  
2sg 行く
- (8) nəθi lɪ 「あなた方は行った」  
2pl 行く
- (9) ?ə- lɪ 「彼(彼女)は行った」  
3sg 行く
- (10) ?əθi lɪ 「彼ら(彼女ら)は行った」  
3pl 行く

### 9.1.2 名詞の前

第一形は名詞(句)の前にも現れる。名詞の前に置かれた第一形は、その名詞が表す指示物の所有者を表す。三人称複数代名詞の二つの第一形 ?əθi と ?əθi?ə- のうち ?əθi?ə- は、この場合にのみ現れることができる<sup>2</sup>。

- (11) jə- yéin 「私の家」  
1sg 家
- (12) hə- yéin 「私達の家」  
1pl 家
- (13) nə- yéin 「あなたの家」  
2sg 家
- (14) nəθi yéin 「あなた方の家」  
2pl 家
- (15) ?ə- yéin 「彼の家」  
3sg 家
- (16) { ?əθi / ?əθi?ə- } yéin 「彼らの家」  
3pl 3pl 家

<sup>2</sup>3 人称単数の場合、“強勢形 + 第一形 + 名詞” という特殊な配列によって所有者を表すことがある。

(ex.) ?əwè ?ə- yéin 「彼の家」  
3se 3sg 家

## 9.2 第二形

第二形は、目的語の位置に現れる形のうち、音節 *wê* を含まない形と定義する。第二形は第一形が現れる環境以外のすべての環境に現れ得る。すなわち次のような環境である。

### 9.2.1 目的語として

第二形は動詞の目的語の位置に現れる。

- |      |              |           |             |              |
|------|--------------|-----------|-------------|--------------|
| (17) | <i>chərâ</i> | <i>jũ</i> | <i>jə</i>   | 「先生が私を見た」    |
|      | 先生           | 見る        | 1SG         |              |
| (18) | <i>chərâ</i> | <i>jũ</i> | <i>hə</i>   | 「先生が私達を見た」   |
|      | 先生           | 見る        | 1PL         |              |
| (19) | <i>chərâ</i> | <i>jũ</i> | <i>nə</i>   | 「先生があなたを見た」  |
|      | 先生           | 見る        | 2SG         |              |
| (20) | <i>chərâ</i> | <i>jũ</i> | <i>nəθí</i> | 「先生があなた方を見た」 |
|      | 先生           | 見る        | 2PL         |              |
| (21) | <i>chərâ</i> | <i>jũ</i> | <i>ʔə</i>   | 「先生が彼を見た」    |
|      | 先生           | 見る        | 3SG         |              |
| (22) | <i>chərâ</i> | <i>jũ</i> | <i>ʔəθí</i> | 「先生が彼らを見た」   |
|      | 先生           | 見る        | 3PL         |              |

### 9.2.2 側置助詞と共に

第二形は側置助詞によって導かれる名詞句の位置に現れる。

- |      |              |           |           |             |               |
|------|--------------|-----------|-----------|-------------|---------------|
| (23) | <i>chərâ</i> | <i>lì</i> | <i>dè</i> | <i>jə</i>   | 「先生が私と行った」    |
|      | 先生           | 行く        | (共)       | 1SG         |               |
| (24) | <i>chərâ</i> | <i>lì</i> | <i>dè</i> | <i>hə</i>   | 「先生が私達と行った」   |
|      | 先生           | 行く        | (共)       | 1PL         |               |
| (25) | <i>chərâ</i> | <i>lì</i> | <i>dè</i> | <i>nə</i>   | 「先生があなたと行った」  |
|      | 先生           | 行く        | (共)       | 2SG         |               |
| (26) | <i>chərâ</i> | <i>lì</i> | <i>dè</i> | <i>nəθí</i> | 「先生があなた方と行った」 |
|      | 先生           | 行く        | (共)       | 2PL         |               |
| (27) | <i>chərâ</i> | <i>lì</i> | <i>dè</i> | <i>ʔə</i>   | 「先生が彼と行った」    |
|      | 先生           | 行く        | (共)       | 3SG         |               |
| (28) | <i>chərâ</i> | <i>lì</i> | <i>dè</i> | <i>ʔəθí</i> | 「先生が彼らと行った」   |
|      | 先生           | 行く        | (共)       | 3PL         |               |

## 9.2.3 主題として

第二形は主題の位置に現れる。

- (29) jə́ nɔ́ lɪ́ 「私は行った」  
1SG (題) 行く
- (30) hə́ nɔ́ lɪ́ 「私達は行った」  
1PL (題) 行く
- (31) nə́ nɔ́ lɪ́ 「あなたは行った」  
2SG (題) 行く
- (32) nəθí nɔ́ lɪ́ 「あなた方は行った」  
2PL (題) 行く
- (33) ʔə́ nɔ́ lɪ́ 「彼は行った」  
3SG (題) 行く
- (34) ʔəθí nɔ́ lɪ́ 「彼らは行った」  
3PL (題) 行く

なお、主題を表す助詞は現れないこともある。その場合、代名詞の後には軽いポーズが置かれるか、音節末の母音が長めに発音される。

主題化された要素にのみ付く一般助詞の θí「～も」と共起した場合、三人称複数の ʔəθí の後には複数を表す名詞修飾助詞の θɛ を置かなければならない。これはおそらく、θí という発音の連続を避けるためではないかと思われる。

- (35) ʔəθí θɛ θí lɪ́ 「彼らも行った」  
3PL (複) (類似) 行く

## 9.2.4 助数名詞句の前

助数名詞句の前でも第二形が使われる。

- (36) jə́ lə- yà́ 「私一人」  
1SG 一 ～人
- (37) hə́ nī yà́ 「私達二人」  
1PL 二 ～人
- (38) nə́ lə- yà́ 「あなた一人」  
2SG 一 ～人
- (39) nəθí nī yà́ 「あなた方二人」  
2PL 二 ～人

- (40) ʔə lə- yà 「彼一人」  
1SG 一 ～人

- (41) ʔəθí nī yà 「彼ら二人」  
3PL 二 ～人

### 9.2.5 その他

上述した以外に、第二形は次のような環境に現れ得る。まず、名詞述語として用いられるのは第二形である。

- (42) ʔənó ʔə l̩ 「それは彼だ」  
それ 3SG (断定)

次のような代名詞一つだけからなる名詞述語だけの文も可能である。

- (43) ʔə 「(それは) 彼だ」  
3SG

次に、分裂文の焦点の位置で使われる。

- (44) l̩ nó jə l̩ 「行ったのは私だ」  
行く (題) 1SG (断定)

また、倒置された主語の位置で使われる。

- (45) ʔó θā △ jə l̩ 「もう私しか残っていない」  
いる (新局) 1SG (断定)

## 9.3 強勢形

音節 wê を含む形を一律に強勢形と呼ぶ。強勢形には2種類ある。一つは jəwê のように第一形と wê を結合した形になっているものである。もう一つは、これに更に dá を付けた形になっているものである。なお、wê も dá もその語源は分からない。動詞助詞の wê や wêdá と語源的に関連している可能性はある。

強勢形の存在意義は、代名詞を音声的により目立たせるところにあると考えられる。代名詞は、二人称複数と三人称複数を除けば子音と中舌母音 ə だけからなり、音声的に弱い。音節 wê や dá は、代名詞を音声的に強める働きをしているのだろう。

強勢形は、第一形および第二形が現れるすべての環境に現れることができる。次に一人称単数代名詞の例を示す。

- (46) jəwê(dá) l̩ 「私は行った」(主語)  
1se 行く

- (47) jəwê(dá) yéin 「私の家」(名詞の前)  
1se 家



- (48) chərâ jō jəwê(dá) 「先生が私を見た」(目的語)  
先生 見る 1se
- (49) chərâ lì dè jəwê(dá) 「先生が私と行った」(側置助詞の後)  
先生 行く (共) 1se
- (50) jəwê(dá) nó lì 「私は行った」(主題)  
1se (題) 行く
- (51) lì nó jəwê(dá) lô 「行ったのは私だ」(分裂文の焦点)  
行く (題) 1se (断定)
- (52) jəwê(dá) lə- yà 「私という人間」(助数名詞句の前)  
1se — ～人

三人称単数代名詞の場合、主節の主語の位置には第一形ではなく強勢形が現れることのほうが一般的である。

- (53) ?əwê lì lú ?àiθài ?ó  
3se 行く (場) 修験者 所  
「彼は修験者のところに行った」(006.58)
- (54) ?əwê chônmon bê nó θò yòn ...  
3se 考える (比定) それ (比定') (継起)  
「彼はそのように考えて...」(II-02.27)
- (55) ?əwê chinàn lə- yà lô  
3se 座る — ～人 (断定)  
「彼女は一人だけで座っていた」(IV-07.25)

ただし、従属節の主語には第一形が用いられることが少なくない。

- (56) bònáinjò nó màncòthônú lə- yà mwē [C ?ə- nán dài  
現在 (題) (人名) — ～人 (繫) 3sg 覚えている まだ  
?ə- chəkhlain dài] bâ nó θijâ ?é kənê  
3sg 言葉 まだ (疑) (題) 知る (否) KANE  
「今、トンドゥーおじさんが自分の(言った)言葉をまだ覚えているかどうか分らないわな」(V-03.66)
- (57) dè ?ə- kəthái ...  
(理由) 3sg きつい  
「(部屋が)窮屈だから...」(II-02.20)

- (58) jə- ʔánmôN [C ʔə- lì]  
 1sg 命じる 3sg 行く  
 「私は彼に行くように命じた」

3人称単数以外では、主節であれ従属節であれ、主語の位置には第一形が現れることが多い。3人称単数の場合に強勢形が現れる頻度が高い理由は、第一形 ʔə- の頭子音が聞こえの弱いʔであることと無関係ではないだろう<sup>3</sup>。

補足： 強勢形 (dá を含まないもの) と同じ形が、「(誰々の) もの」という意味を表すことができる。

- (59) ʔəjò mwē jəwê  
 これ (繋) 私のもの  
 「これは私のだ」
- (60) ʔəjò mwē həwê  
 これ (繋) 私達のもの  
 「これは私のだ」
- (61) ʔəjò mwē nəwê  
 これ (繋) あなたのもの  
 「これはあなたのだ」
- (62) ʔəjò mwē nəθíwê  
 これ (繋) あなた方のもの  
 「これはあなた方のだ」
- (63) ʔəjò mwē ʔəwê  
 これ (繋) 彼のもの  
 「これは彼のだ」
- (64) ʔəjò mwē ʔəθíwê  
 これ (繋) 彼らのもの  
 「これは彼らのだ」

## 9.4 代名詞化 (pronominalization) は存在するか？

第4章に述べているとおり、補語を主題化した場合、元の位置に主題化した要素と同一指示の代名詞が現れることがある。これをここでは便宜的に「主題化された要素の繰り返し」と呼んでおく。次の例を見ていただきたい。

<sup>3</sup>Phillips (p.c.) によると、タイ側のポー・カレン語では、主節の主語にも ʔə- が頻繁に現れるようである。

- (65) jə (nó) jə- ʔán kú  
 1SG (題) 1sg 食べる 菓子  
 「私は菓子を食べた」

- (66) ʔəinmúʔwà (nó) jə- dá ʔə klà l̥  
 (人名) (題) 1sg 会う 3SG いつも (断定)  
 「エインムーワールには私はいつも会っている」

上の例から主題を表す助詞を取り除くこともできる。nó を ( ) でくくってそのことを示した。主題を表す助詞が現れない場合、あたかもこの言語に代名詞化 (pronominalization) が生じているかのようにも見える。代名詞化というのは、チベット・ビルマ諸語に広く見られる現象で、代名詞に起源を持つ接辞が動詞に付いて主語や目的語との一致を示す一種の主要部標示 (head-marking) である (Nishi 1995 などを参照されたい)。LaPolla (1994) は、スゴー・カレン語の代名詞の体系を代名詞化の萌芽と見なせる可能性を示唆している。LaPolla は、戴慶厦他 (1991:400) から引用しているが、ここでは筆者自身のスゴー・カレン語のデータから例文を提示しておく。

#### [Sgaw Karen]

- (67) jā jə- l̥  
 1sg 1sg 行く  
 「私は行った」

jā はポー・カレン語の第二形に機能的に対応する形、jə- は第一形に機能的に対応する形である。スゴー・カレン語の代名詞の体系を代名詞化と捉える場合、この jə- を動詞の人称接辞と見なすことになる。LaPolla は、代名詞化をチベット・ビルマ諸語に存在する駆流 (drift; Sapir が用いた術語) に沿う言語現象の一つとして位置づけている。もしそのような現象がポー・カレン語にも見られることが確認できたら、それはチベット・ビルマ言語学にとって興味深い発見になり得る。しかし、筆者は、上に挙げたスゴー・カレン語の事例はともかくとして、ポー・カレン語に代名詞化は存在しないと考える。その理由は以下にのべる2点である。

一つ目は、「主題化された要素の繰り返し」という現象が、主に対比を表す文脈でのみ用いられるということである。したがって、主題化した要素を代名詞で繰り返さない次の (68) や (69) のような文のほうが意味的により「普通の」言い方である。

- (68) jə- ʔán kú  
 1sg 食べる 菓子  
 「私は菓子を食べた」

- (69) jə (nó) ʔán kú  
 1SG (題) 食べる 菓子  
 「私は菓子を食べた」

先に見た (65) は、「他の人は菓子を食べなかったが、私は食べた」あるいは「他の人はともかくとして、私は菓子を食べた」といったことを言いたい場合に用いられる。このよう

な意味を伴うのは、「主題化された要素の繰り返し」という現象が、そもそも主題化という現象に付随して現れるからである。一般的に主題化そのものが対比の意味を帯びやすい操作であり、なおかつ、その要素をもう一度元の位置で繰り返すのだから、対比の意味が生じるのは自然である。もし、動詞に付加された代名詞が一致を表すものだとしたら、(65)がこのような特殊なニュアンスを持つことはないだろう。

もう一つの理由は、次のような例の存在である。

- (70) ʔə (nó) jə- lókwê dè ʔə phléphlé  
 3SG (題) 1sg 遊ぶ (共) 3SG 一緒に  
 「彼女は、私が一緒に遊んだ」

ここでも主題化した要素は代名詞で繰り返されているが、この要素は側置助詞によって導入された要素であり、そのため動詞に付加されているとは考えられない。代名詞化現象は動詞に接辞が付加される現象であるから、この(70)のようなものを代名詞化と見なすことはできない。一方で、この(70)のようなものを、動詞に隣接する位置に代名詞が現れたもの(上の65や66)とは別個に扱わなければならない理由はこの言語の中にはない。

筆者は、おそらくスゴー・カレン語の事例もポー・カレン語と同様の扱いをすることができると考えている。少なくともポー・カレン語については、代名詞化は存在しないと考えたほうが良い。

## 9.5 chə

他の代名詞の基本的機能が照応であるのに対して chə は照応には用いられない。chə は、任意の生物や無生物、あるいは任意の事象を表す。言い換えると、日本語のモノ(物および者)とコト(事)の指示対象を包含する指示対象を持つ。つまり、chə は独自の所記(signifié)を持つのであり、文脈によらねば指示する対象が決定されない他の代名詞とはまったく異なる性質を持つ。これを「代名詞」として分類するのは、第一形として chə-、第二形として chə という二つの形を持つからである。ポー・カレン語の話者も chə を引用形(citation form)として用いるので、本論文でもこれを引用形として用いる。

### 9.5.1 chə の第一形と第二形

第一形 chə- が現れるのは次のような環境である。

主語として

- (71) chə- lì  
 CHə 行く  
 「人々が行く」

名詞修飾助詞 jò, nó, ʔò の前

- (72) chə- jò  
CHə この  
「このもの; この人」

- (73) chə- nɔ́  
CHə あの  
「あのもの; あの人」

- (74) chə- ʔò  
CHə あの  
「あのもの; あの人」

#### 側置助詞句の前

- (75) chə- bê ʔəjò  
CHə (比定) これ  
「このようなもの; このような人」

#### 名詞 (助数名詞句を含む) の前

- (76) chə- ʔəxàxòN  
CHə 他  
「他のもの」
- (77) chə- lə- dù  
CHə 一 ～個  
「一つのもの; 一人の人」

#### 関係節の前

- (78) chə- [R lánthé]  
CHə 落ちる  
「落ちたもの」

### 9.5.2 chə の第二形

第二形 chə が現れるのは次のような環境である。

#### 目的語として

- (79) ʔəwê kè chə  
3se 書く CHə  
「彼は(ものを)書いている」

他の代名詞の後

- (80) jə- chə  
1sg CHə  
「私のもの」

関係節の後

- (81) [R jə- kè ] chə  
1sg 書く CHə  
「私が書いたもの」

9.5.3 chə の表すもの

chə の指示対象は人間であったり動物であったり事象であったりと様々である。下に色々な例を示す。

人間を含む生物を表す例

- (82) chə- lə- yà jò khlaɪn phlé mā  
CHə — ～人 この 話す 速い (非常)  
「この人は話をするのが速い」(001.2952)

- (83) chə- [R búi làn wəbéɪn pənā ] θí  
CHə 飼う (下方) 牛 水牛 (複)  
「牛や水牛を飼っている人」(001.830)

- (84) chə- [R mà yàɣòn chəθáɪɪnchəbòn ]  
CHə (使役) 壊れる 植物  
「植物に害を与える鳥」(II-04.24)

無生物を表す例

- (85) chə- lə- dù jò dè chə- lə- dù jò  
CHə — ～個 この (列挙) CHə — ～個 この  
kwâ lóθà bēθí lê  
異なる (相互) どのように (疑)  
「これとこれとはどのように違うのですか?」(001.2060)

- (86) [R jə- mə- θôun phí ] chə θè  
1sg (非現) 送る (裨益) CHə (複)  
「私が送ってあげようとしているもの」(009.37)

生物を表しているのか無生物を表しているのか不明な例

- (87) lé      càì    ʔəphānkhú    chə-    [R dɔ́      dá ]    ʔó      lə̀N      ʔé  
 (場) 仏 上                      CHə      大きい (比較) ある もはや (否)  
 「仏よりも尊いものはない」(001.149)

事象を表す例

- (88) chə-    [R thánthô              thán      lé      ʔəyì ]  
 CHə      発展している (変化) (場) 良いこと  
 「良い方向へ発展すること」

#### 9.5.4 修飾語を伴わない chə の様々な用法

次の例における jə- のような修飾語が伴っていれば、chə が何を指示しているかは聞き手にとっても明らかである。

- (89) jə-      chə  
          1sg    CHə  
          「私のもの」

しかし、修飾語がなければ、chə の指示対象は実に多様であり得るので、聞き手にとって chə が何を指示しているかは特定困難になる。ところが、chə はしばしば修飾語を伴わずに現れる。修飾語を伴わない chə には、大別して、(1) 特定できない行為者や被動者などを表す用法、(2) 特定できる行為者や被動者などを表す用法、(3) 感情や生理現象の経験者を表す用法、(4) 自然現象を表す用法、の四つがある。以下ではこの四種類の用法について述べる。

##### 9.5.4.1 特定できない行為者や被動者などを表す

話者にとって特定することのできない行為者や被動者などを表す。例えば次の例を見ていただきたい。

- (90) chə-    thîn    wá      nè      dè    ʔəphlòuN    lə̀  
          CHə    思う (無意) 2SG (共) カレン人 (断定)  
          「皆があなたをカレン人だと思っている」(003.613)

この文で、「思う」の行為者は不特定多数であるために、話者には特定できない。そのため chə が使われている。また、次のような例でも chə は使われる。

- (91) chə-    ʔányú    jə-    cébéin  
          CHə    盗む      1sg    自転車  
          「誰かが私の自転車を盗んだ」(001.907)

この例では、「盗む」の行為者は不特定多数ではないが、話者にはそれが誰であるかは分からない。そのため chə が使われている。

このように話者が何らかの理由で特定できない指示対象を *chà* は表す。では、話者にとって特定不可能であるなら、単に名詞を「ゼロ」にすれば良いのではないかという疑問が生じる。例えば (91) を次のようにすることはできないのか。

- (92) ʔányú jə- cébéin  
盗む 1sg 自転車  
「私の自転車を盗んだ」

この文はもちろん不適格ではない。ポー・カレン語は、主語や目的語の存在が必須ではない言語だからである。しかし、この文を使うと、聞き手はこの文をゼロ照応の使われた文だと考えてしまう可能性がある。すると聞き手は文脈の中にこの文の行為者の候補を探し始めるだろう。*chə* が使われていれば、その危険は回避できる。なぜなら、*chà* が使われていれば、行為者の候補を探す必要がないということが話者に分かるからである。したがって、(91) で *chə-* を使うことには十分な理由がある。

下に、特定できない行為者や被動者を表す例をいくつか挙げておく。

- (93) *chə-* bá chəcəuchəchā  
CHə 当たる 病気  
「人々は病気にかかってしまった」(021.85)

- (94) pə- láí jò lə- yəwɪnkhəN | *chə-* nītòun ʔánkó chən  
私達の 文字 この (否) 堅固な CHə 笑う 批判する (皆)  
pə- láí jò  
1pl 文字 この  
「私達(民族)の文字が堅固でなければ、(他の民族は)皆、私達の文字をあざ笑い、批判するだろう」(IV-10.14)

- (95) nəθí phàn nəθí nòun nó  
2pl 槍 2pl 角 (題)  
*chə-* bá θámé ʔəlāN ʔó ʔé  
CHə (当為) 恐れる 必要 ある (否)  
「お前達の槍や角は、(皆にとって)恐れるに足りない」(II-05.11)

- (96) ʔè thà nī chāin bákəN nó dō |  
(条件) 織る (努力) 上着 上等の (題) (別個)  
təwāN phən nó *chə-* θithé nī bá ʔé  
村 中 (題) CHə 不慮の死を遂げる 可能な (不抗) (否)  
「上等の上着を織る場合には、村の中では誰かが不慮の死を遂げるということがあってはならない」(V-02.127)

▷ *chāin bákəN* は、不思議な霊力を持つとされる上着。

- (97) lé ʔəwī ʔò lé dōun pəkō ʔə- chəpəN *chə-* ʔánpəN  
(場) 以前 (遠方) (場) 町 (地名) 3sg 地方 CHə 作る



thilá ?á wê ?əkhúçòN | ?ə- mèn phló dǔ mā lǒ  
 塩 多い (強意) (理由) 3sg 名 目立つ 大きい (非常) (断定)  
 「昔、ペギー地方では、塩をたくさん作っていたので有名だった」(II-03.18)

- (98) chə- dá pə nàN yà ?é  
 CHə 見える 1PL (少数) ~人 (否)  
 「誰にも私達のことは見えない」(III-15.13)

- (99) khléiNθàucà chônMÓN chə  
 (人名) 考える CHə  
 「クレインタウチャーは考え事をしていた」(IV-04.51)

- (100) lǒthàN chə dè xiphàn  
 話す CHə (共) (人名)  
 「(彼は)ファイパウンとおしゃべりをした」(IV-04.307)

#### 9.5.4.2 特定できる行為者や被動者などを表す

話者にとって特定可能であっても、その文の行為者や被動者などを聞き手に知らせる必要がない場合、chə が使われる。例えば、次の文で「捕まえる」の行為者は警察か諜報機関である。そのことは話者にも容易に推測可能なので、聞き手に知らせる必要がない。

- (101) nə- ?ē lì | chə- mə- phón nǒ  
 2sg (条件) 行く CHə (非現) 捕まえる 2SG  
 「あなたは行ったら捕まるよ」(001.3020)

次の例では、やはり話者は「邪魔する」の行為者を知っている。しかし、それが誰であるかは聞き手にとって重要な情報ではない。そのため chə を使っている。

- (102) jə- mə- lì méchàv jǒ | chə- mǎthái thá jǒ  
 1sg (非現) 行く (地名) (前提) CHə 邪魔する (保持) 1SG  
 「私がメーソットに行こうとしたら、邪魔された」(001.2490)

次の例でも、「届ける」の行為者が誰であるかは聞き手にとって重要な情報ではない。そのため chə が使われている。

- (103) ?ánmêN chə- θôvN phûlân lé kǒtərài ?ò lǒ  
 命じる CHə 届ける (裨益) (場) (地名) (遠方) (断定)  
 「(彼女は手紙を)コーカレイに届けるよう(知人に)命じた」(IV-04.394)

次の例では、尋ねる内容は聞き手にとって重要な情報である。しかし、それはこの文の発話以降に知られることであり、この文で知らせる必要はない。そのため chə が使われている。

- (104) jə- mə- ?áncà nǒ chə- nāN mèn  
 1sg (非現) 尋ねる 2SG CHə (少数) ~種類  
 「私はあなたに聞きたいことがちょっとあります」(IV-04.281)

#### 9.5.4.3 感情や生理現象の経験者を表す

次に挙げる例のように、感情や生理現象の経験者を表すことがある。

- (105) jə- pō lǎi | chə- máu θà  
私 読む 本 CHə 楽しい 心  
「私は本を読んで楽しかった」(003.897)

- (106) chə- pwài θà jàu  
CHə 疲れる 心 (完)  
「(私は; あなたは; 彼は) 疲れている」(001.3100)

これらの動詞の主語には、chə を用いずに普通の代名詞を用いることもできる。

- (107) jə- máu θà  
1sg 楽しい 心  
「私は楽しかった」

- (108) ʔəwê pwài θà jàu  
3se 疲れる 心 (完)  
「彼は疲れている」

chə を用いると、感情や生理現象が経験者の意向とは無関係に自然発生的に生じたことが示されるらしい。その意味で、次に述べる自然現象を表す用法の一種と考えることができるかも知れない。

#### 9.5.4.4 自然現象

動詞の主語の位置に現れて、動詞が表す事象が自然現象であるということを示す。

- (109) chə- khō  
CHə 暑い  
「暑い」(001.1229)

- (110) chə- chən  
CHə 降る  
「雨が降る」(001.1229)

- (111) chə- khléin châ  
CHə 寒い (非常)  
「大変寒い」(003.657)

- (112) chə- khú  
CHə 煙が立つ  
「ほこりっぽい」(001.1958)

- (113) chə- phàn thán  
CHə 明るい (変化)  
「夜が明けた」(IV-04.3210)
- (114) chə- khài làn  
CHə 暗い (変化)  
「日が暮れる」(III-09.31)
- (115) hə- phlòUN thikhāN ʔəkhâjò chə- khũʔwì chāmà  
1pl カレン 国 今 CHə 蒸し暑い (非常)  
「私達のカレン州は今、大変蒸し暑いです」(016.14)

### 9.5.5 語彙化

動詞の前に chə が付いて全体としては名詞句になっている次のような例は、動詞の部分を関係節と捉えることができる。第 23 章で述べる後置型の関係節である。

- (116) chə- dú  
CHə 大きい  
「大きいもの」

つまり、次のような構造をしていると考えられる。

- (117) chə- [<sub>R</sub> verb ]

chə が表すものは様々であるから、論理的にはこのような構造が表す意味も様々であるはずである。例えば、動詞が khlàin 「話す」であれば、chə- khlàin は、「話す人」「話す内容」「話すという行為そのもの」等々の様々な意味を表すことができるはずである。ところが、chəkhlàin という音列は、普通、「言語」という意味で用いられることが多い。おそらくこれは、語彙化して意味が固定化してしまったためであろうと思われる。語彙化しているかどうかを判断することは実際には難しい作業である。ここでは、chə の後に関係節が現れた構造が語彙化したと考えられる可能性のある例をいくつか挙げておく。

- (118) chəkhlàin 「言葉」 ← chə- + khlàin (話す)
- (119) chəchâ 「病気」 ← chə- + châ (痛い)
- (120) chəmà 「仕事」 ← chə- + mà (する)
- (121) chəʔəwUN 「雲」 ← chə- + ʔəwUN (曇る)
- (122) chəʔókón 「会議」 ← chə- + ʔókón (集まる)
- (123) chəkòNchəθò 「衣服」 ← chə- + kòN (穿く) + chə- + θò (着る)  
▷ この例では chəkòN と chəθò が複合している。
- (124) chəxíchələ 「文化」 ← chə- + xî (美しい) + chə- + là (?)  
▷ この例では「美しい」ことを表す類似要素反復 (第 29 章を参照されたい) ⊂ ... xî ... ⊂ ... là ... ⊂ のそれぞれの要素に chə が付いて名詞が作られ、さらにそれらが複合している。



## 第10章 数詞と助数名詞

次の X の位置に生じることのできる形式、すなわち、「一」を表す形態素  $l\hat{a}-$  の後に現れることができる形式を助数名詞(quantifying noun)と呼ぶことにする。

- (1)  $l\hat{a}-$  X  
—

逆に、助数名詞と共に現れることのできる形式をすべて数詞(numeral)と呼ぶ。

このように数詞を定義すると、数詞には 10.1 で述べる具体的な数を表す形式と、10.3 で述べる抽象的な数量概念を表す形式が含まれる。前者を具体数詞(concrete numeral)と呼び、後者を抽象数詞(abstract numeral)と呼ぶ。

### 10.1 具体数詞

具体数詞は名詞である。なぜなら、単独で文になれる、動詞の項になれる、動詞助詞が付かない、という特徴を持つからである。まず、1 から 9 までの具体数詞は以下のとおりである。

$l\hat{o}N$	1
$n\hat{i}$	2
$\theta\hat{o}N$	3
$l\bar{i}$	4
$j\bar{e}$	5
$x\bar{u}$	6
$nw\hat{e}$	7
$x\acute{o}$	8
$khw\bar{i}$	9

これら形態素は、 $10^n$  ( $n$  は正の整数) を表す形態素の前に置かれて、 $m \times 10^n$  ( $m=\{1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9\}$ ) を表すことができる。ただし、 $l\hat{o}N$  は、 $10^n$  の位を表す形態素の前では  $l\hat{a}$  と交替する。また、下降調を伴う  $n\hat{i}$ ,  $\theta\hat{o}N$ ,  $x\bar{u}$ ,  $nw\hat{e}$  は、 $10^n$  を表す形態素の前では中平調で発音されて  $n\bar{i}$ ,  $\theta\bar{o}N$ ,  $x\bar{u}$ ,  $nw\bar{e}$  となる。 $10^n$  の位を表す形態素には  $ch\hat{i}$  “10 の位”,  $j\hat{a}$  “100 の位”,  $th\hat{o}N$  “1,000 の位”,  $l\hat{a}$  “10,000 の位” がある。1 から 9 を表す形態素と  $10^n$  を表す形態素との組み合わせを見てみよう。

## 第 10 章 数詞と助数名詞

ləchî	10	ləjà	100	ləthôn	1,000	ləlà	10,000
nīchî	20	nījà	200	nīthôn	2,000	nīlà	20,000
θə̃nchî	30	θə̃njà	300	θə̃nthôn	3,000	θə̃nlà	30,000
līchî	40	lījà	400	līthôn	4,000	līlà	40,000
jēchî	50	jējà	500	jēthôn	5,000	jēlà	50,000
xūchî	60	xūjà	600	xūthôn	6,000	xūlà	60,000
nwēchî	70	nwējà	700	nwēthôn	7,000	nwēlà	70,000
xóchî	80	xójà	800	xóthôn	8,000	xólà	80,000
khwīchî	90	khwījà	900	khwīthôn	9,000	khwīlà	90,000

100,000 未満の整数はすべて上記要素の組み合わせによって表すことができる。

xūchîθə̃n	63
ləjàxó	108
ləjànwēchîxū	176
jējàkhwīchîinî	592
līthôn nījàxūchînwē	4,267
xūthôn xójàθə̃n	6,803
ləlàləthôn ləjàləchîlôn	11,111
ləlà nīthôn θə̃njà līchîjē	12,345
khwīlàxóthôn nwējàxūchîjē	98,765

11 から 19 は、10 の位を表す ləchî- を chî- としてもよい。

ləchî	10
(lə)chîlôn	11
(lə)chîinî	12
(lə)chîθə̃n	13
(lə)chîlī	14
(lə)chîjē	15
(lə)chîxū	16
(lə)chînwē	17
(lə)chîxó	18
(lə)chîkhwī	19

100,000 以上の  $10^n$  を表す形態素にはビルマ語からの借用形式を用いるのが一般的である。

100,000 の位を表すのは θə̃in、1,000,000 の位を表すのは θān である。例えば次のとおり。

nīθə̃in	200,000
xūθān	6,000,000

100 の位と 1,000 の位には、物の値段を示すときのみ、jà と thôn ではなく、phàn と mên が使われる。

ləphàn 100 (Kyat, Baht, etc...)

ləmən 1,000 (Kyat, Baht, etc...)

## 10.2 助数名詞

最初の定義で述べたように、「一」を表す形態素 lə- の後に現れることができる形式が助数名詞である。具体数詞は助数名詞を後に従えると、1 の位が下に示すように発音される。これらは、 $10^n$  ( $n$  は正の整数) の位を表す形態素の前で 1~9 が取る形と同一である。人間を数えるときの助数名詞 yà とともに掲げる。

lə- yà 1 人

nī yà 2 人

θən yà 3 人

lī yà 4 人

jē yà 5 人

xū yà 6 人

nwē yà 7 人

xó yà 8 人

khwī yà 9 人

数詞が 10 の倍数の場合、助数名詞に接頭辞 ʔə- を付け、その後に具体数詞を置く。例えば「10 人」は次のようになる。

(2) ʔəyà ləchī

~ 人 10

「10 人」

(3) \*ləchī yà / \*chī yà

10 ~ 人 10 ~ 人

下に他の例を示す。

ʔəyà nīchī 20 人

ʔəyà θənjà 300 人

ʔəyà jēthôn 5,000 人

助数名詞は、接頭辞 ʔə- が付かなければ、助数名詞句の先頭の位置に立つことができない。この ʔə- が付いた形を、便宜的に、助数名詞の「先頭位置形」と呼んでおく。先頭位置形の一部は、後述するとおり、単独の名詞として使用できる。

助数名詞の前には、数詞だけでなく、次のように状態動詞も現れることができる。

(4) ʔá yà

多い ~ 人

「たくさんの人」

実は、助数名詞は単独で文を形成することができない。ではなぜこれを名詞と見なすかというと、助数名詞を主要部とする構成素が名詞としての特徴を持つからである。助数名詞を用いた構成素は、次のように、副詞的要素の位置に現れることができる。

- (5) ʔá lĩ néin  
 いる 四 ~年  
 「(彼は)4 年いた」

これが副詞的要素の位置に現れているのは、助数名詞の働きに他ならない。なぜなら、ĩ はこれだけではこの位置に立つことができないからである。したがって、助数名詞はこのような構成素の主要部だということができる。さて、このような構成素は次の点で名詞的である。例えば、次の (6) の nĩ yà 「二人」と (7) の ʔá yà 「たくさんの人」はどちらも動詞の主語として機能しており、しかも、名詞に付く助詞である jò 「この」や nó 「あの」が後置されている。つまり、動詞の項になったり、名詞に付く助詞が付いているということから、これらは名詞としての性質を持っていると言える。

- (6) nĩ yà jò lĩ phjá  
 二 ~人 この 行く 市場  
 「この二人は市場に行った」

- (7) jə- kò ʔá yà nó  
 1sg 呼ぶ 多い ~人 あの  
 「私はあのたくさんの人たちを呼んだ」

もちろん、これらに動詞助詞を付けることはできない。また、副詞的要素の位置には、時間を表す名詞句も現れることができるのであり、副詞的要素の位置に現れることが他の名詞句と比べて特殊なわけでもない。よって、助数名詞は名詞の一種である。本論文では、助数名詞を主要部とする構成素を助数名詞句と呼ぶ。

### 10.2.1 主な助数名詞

下に主な助数名詞を挙げる。すべて先頭位置形で挙げておく。(ʔə)yà のように、ʔə を ( ) でくくってあるものは、先頭位置形を助数名詞句以外の場所で使うことはできない。一方、ʔəbéin のように、ʔə を ( ) でくくっていないものは、先頭位置形が、単独で文を形成できる名詞として使えるものである。単独で発話を形成できる名詞の意味を、[ ] でくくってそれぞれの助数名詞の直後に示しておいた。

(ʔə)yà 人間を数える。

(ʔə)dù (1) 人間以外の哺乳類を数える。(2) 適当な助数名詞が見つからない場合に、広くこの助数名詞を用いることができる。

(ʔə)khú 乗り物を数える。



(ʔə)blàn 回数を数える (これと以下三つがそれぞれどう違うかはよく分からない)。

(ʔə)phân 回数を数える。

(ʔə)thí 回数を数える。

(ʔə)wân 回数を数える。yân とも。

(ʔə)cón 場所を数える。

(ʔə)ʔàu 書物を数える。

(ʔə)pwē 食べ物の1皿分を数える。

ʔəbéin [平らな物] (1) 平らなものを数える。布、衣服、紙、手紙、平原。(2) 哺乳類以外の生物を数える。鳥・爬虫類(蛇を除く)・両生類など。(3) 月数を数える

ʔəphlóun [丸い物] (1) 丸いものを数える。(2) 家などの建物を数える。

ʔəbòn [細長い物] 細長いものを数える。紐、糸、髪の毛、綱、棒、川、虹など。蛇にはこの助数名詞を使う。

ʔəchân [段階] 段階を数える。

ʔəthân [層] 層を数える。

ʔəθân [日] 日数を数える。

ʔəmèin [種類] 種類を数える。

ʔəthóun [木, 草] 植物を数える。

ʔəlón [塊] 塊状のものを数える。

ʔədón [グループ] 集団を数える。

ʔəkàu [部分] 物の部分を数える。

名詞によっては、名詞そのものを助数名詞として転用する場合がある。今までに見つかったものを下に挙げておく。

nì 「昼間」

nà 「夜」

néin 「年」

dòuN 「町」

khāN 「国」

chì 「民族」

kò 「島」

nàdì または nàrì 「時間」

təN 「マイル」

kòuNlwē 「グループ、集団」

どのような名詞がそのまま助数名詞として転用できるのかは分かっていない。この問題は今後の課題としたい。

動詞起源の助数名詞も 1 例だが見つかっている。

- (8) khlài thá lə- khlài  
折る (保持) — ～折り  
「1 回折っておく」

どのような動詞が助数名詞として転用できるのかという問題の解明も今後の課題としたい。

### 10.2.2 名詞句と助数名詞句の順序

助数名詞句は、次のように名詞句の後に置かれる。

- (9) phlòuN lə- yà  
人 — ～人  
「一人の人間」

- (10) phlòuN ?əyà līchī  
人 ～人 四十  
「40 人の人間」

- (11) yéiN nī phlóuN  
家 二 ～個  
「2 軒の家」

- (12) yéiN ?əphlóuN ləjà  
家 ～個 百  
「100 軒の家」

具体数詞が 10 の倍数のときは、次のように、助数名詞を用いないこともある。

- (13) phlòuN lichì  
人 四十  
「40 人の人間」

- (14) yéiN ləjà  
家 百  
「100 軒の家」

名詞そのものを助数名詞として転用するものの場合、数詞が 10 の倍数のとき、助数名詞が決して現れない。

- (15) a. kò lə- kò  
島 一 島  
「一つの島」

- b. kò xójà \*kò kò xójà  
島 八百  
「800 の島」

### 10.2.3 補語に対応する助数名詞句——いわゆる数量詞遊離

助数名詞句は、数量を表したい名詞句の後に置かれるのだった。したがって、主語や目的語をはじめとする補語の指示対象の数量を表したいときは、その補語の後に助数名詞句を置けばよい。

- (16) cəpāN nī yà yê thòN lé pəjàN khāN  
日本人 二 ~人 来る 着く (場) ビルマ 国  
「日本人が二人ビルマにやってきた」

- (17) jə- dá cəpāN θɔ̃N yà lé dòuN thəʔàN  
1sg 見える 日本人 三 ~人 (場) 町 (地名)  
「私はパアンで日本人を三人見かけた」

しかし、補語に対応する助数名詞句が、次のように副詞的要素の位置に現れることがある。対応する補語を斜字で示し、助数名詞句を太字で示しておく。

- (18) cəpāN yê thòN lé pəjàN khāN **nī yà**  
日本人 来る 着く (場) ビルマ 国 二 ~人  
「日本人が二人ビルマにやってきた」

- (19) jə- dá cəpāN lé dòuN thəʔàN **θɔ̃N yà**  
1sg 見える 日本人 (場) 町 (地名) 三 ~人  
「私はパアンで日本人を三人見かけた」

これは、いわゆる数量詞遊離 (quantifier floating) と言われる現象に似ている。しかし数量詞遊離という言葉を用いるのは良くない。なぜなら、助数名詞句は、既に述べたように、副詞的要素の位置にそのままの形で現れることができるからである。つまり、助数名詞句が「遊離」したわけではない。助数名詞句の多くは、節中に対応する補語が存在しない。下に挙げる例は、そのような例である。

- (20) jə- thàin ʔó lú ʔò jē θāN  
1sg 帰る いる (場) あそこ 五 ~日  
「私はあちらに帰って五日間滞在した」(012.28)

- (21) dá lóà dè ʔò nāN blāN dài ʔé  
会う (相互) (共) 3se (少数) ~回 まだ (否)  
「彼とはまだ一度も会っていません」(012.38)

- (22) ʔó jàin wê jē tēN lô  
ある 遠い (強意) 五 マイル (断定)  
「(私達の村とパアンは)5 マイル離れています」(I-10.5)

- (23) mà nè bá nāN mèin ʔé  
いじめる 2SG 正しい (少数) ~種類 (否)  
「(彼は) あなたをいじめることがまったくできません (直訳:あなたを 1 種類もいじめられません)」(I-01.16)

結局、上の (18) や (19) で数量詞遊離が起きているように見えるのは、補語と助数名詞句がたまたま対応しているだけである<sup>1</sup>。

以下に、補語と助数名詞句が対応している実例を挙げる。まず、主語に対応する場合である。

- (24) jə- lù thán lə- yà lô  
1sg 行く (上方) 一 ~人 (断定)  
「私は一人で行った」(IV-04.25)

- (25) lé ʔəwī dáʔò thwí cā ʔó lə- dù  
(場) 以前 (過去) 犬 老いた いる 一 ~匹  
「昔、老いた犬が 1 匹いた」(I-01.3)

- (26) phlòuN ʔéçhəN nè kò yà dè lô  
人 愛する 2SG (毎) ~人 (毎') (断定)  
「皆があなたを愛しています」(017.14)

次は目的語に対応する例である。

<sup>1</sup> 日本語の数量詞に見られる同様の現象についても、「分離」と考えることが妥当でないことを湯川 (1999:180) が議論している。

- (27) ʔəwêθí dá cò thán lānlānʔəthícón  
 3pl 見つける (遠隔) (上方) 虹  
 lé màukhúphòphân ʔò lə- bòn nó lô  
 (場) 空 (遠方) 1 ~ 本 (のだ) (断定)  
 「彼らは空に虹を一つ見つけた」(II-10.2)

- (28) ʔəwê kò nī chərā nāN yà ʔé  
 3se 呼ぶ (引寄) 教師 (少数) ~ 人 (否)  
 「彼は教師を一人も呼ばなかった」(I-08.6)

次は斜格補語に対応している例である。

- (29) bádònbáyá dè pə nāN yà ʔé  
 似ている (共) 1PL (少数) ~ 人 (否)  
 「(あなたは) 我々の誰とも似ていない (直訳:[あなたは] 私達と一人も似ていない)」  
 (II-11.6)

次は、目的語名詞句の中の所有者を表す名詞に対応している例である。

- (30) ʔəwêdá mànī ʔán ʔəphlòuN chəkhlaín nāN yà ləN ʔé  
 3se 取る 食べる 他人 言葉 (少数) ~ 人 もはや (否)  
 「彼はもはや誰の言葉にも従わなかった (直訳:彼はもはや他人の言葉に一人も従わなかった)」(I-08.20)

このように、助数名詞句は様々な補語との対応を示す。したがって、日本語の統語論的研究においてしばしば行われているような、主語や目的語の認定に数量詞遊離を利用するということは、ポー・カレン語ではできない。

なお、上の例の中には、否定文で抽象数詞(後述) *nāN* (*nāN*) を用いた文がある。このような場合、補語と助数名詞句が表面上は隣接していても、離れて対応していると見なすことができる。なぜなら、*nāN* を用いた助数名詞句は、下に示すように、決して補語の名詞句の中には存在できないからである。

- (31) phlòuN ʔó nāN yà ʔé  
 人 いる (少数) ~ 人 (否)  
 「人が一人もいない」
- (32) \*phlòuN nāN yà ʔó ʔé  
 人 (少数) ~ 人 いる (否)

#### 10.2.4 補足

序数は、*n* 番目の場合、「*n*-助数名詞-*lə*-助数名詞」と表現する。*n* が 10 の倍数の場合には、「先頭位置形-*n*-*lə*-助数名詞」となる。

- (33) θāN yà lə yà  
 三 ~ 人 一 ~ 人  
 「3人目」

- (34) ʔəduŋ ləchi lə- duŋ  
 ~ 匹 十 一 ~ 匹  
 「10 匹目」

### 10.3 抽象数詞

実は、抽象数詞は単独で文になることはない。したがってこの点だけを見れば助詞に分類すべきである。しかし、助数名詞と共に現れて助数名詞句を形成するという点で具体数詞と同じ特徴を持つ。この点を重視し、本論文ではこれらを名詞の一種だと考えることにする。

抽象数詞には、助数名詞の前に現れるものと、助数名詞を両側から挟み込むものがある。

#### 10.3.1 nāN

助数名詞の前に付き、少ない数を漠然と表す。後に具体数詞が現れる場合と現れない場合とがある。nāN と発音されることもある。

後に具体数詞が現れない場合、この単語が意味論的に表す数は、1 から 3 くらいまでの数である。けれども、語用論的には、しばしば 1 を表すために使われる。

- (35) mənçò mə- ləthəin nəθí pòuN nāN pòuN  
 おじさん (非現) 語る 2PL 昔話 ~ 篇  
 「おじさんが君たちに昔話を一つ話してあげよう」(006.4)

- (36) kè phí thəin lái nāN béin ɓ̃  
 書く (裨益) (返答) 手紙 ~ 枚 XO  
 「返事の手紙を書いてくださいね」(011.35)

- (37) jə- mə- lì lé xiphəN ʔó ʔò nāN thí  
 1sg (非現) 行く (場) (人名) ところ (遠方) ~ 回  
 「一度、ファイパウンのところに行ってみます」(IV-04.298)

- (38) jə- mə- lì chōN làn jū nāN blāN  
 1sg (非現) 行く (鳥が木に) とまる (下方) (試行) ~ 回  
 「一度、(あそこに) 下りていってみよう」(III-12.12)

- (39) ʔè mwē pə- ʔè dàulāN dè já ʔəmēN  
 (条件) (繫) 1pl (条件) 入れる (共) 魚 生きているもの  
 nāN béin tā | ləjailəmɔ́bá  
 ~ 枚 (前提) 間もなく

- já nó θi wēdá lô  
 魚 (題) 死ぬ (強意) (断定)  
 「もし(酸素のない水の中に) 生きた魚を 1 匹入れたなら、間もなく魚は死んでしま  
 う」(II-09.5)

後に具体数詞が現れることもあり、その場合は、その具体数詞の表す数に近い数を漠然と表す。この場合、その具体数詞は2あるいは3である。

- (40) jáʔúú nɔ́ ʔókí là nāN θəN béiN ʔòN |  
 魚醬 (題) 置く 月 三 ~枚 (繼起)  
 ʔánwàin ʔán ké wê lô  
 煮る 食べる 可能な (強意) (断定)  
 「魚醬は、3ヶ月ほど置いておけば、火を通して食べることができるようになる」  
 (III-13.22)

- (41) mənī ləphá lə- ʔán bá cháiphúchá mì bá  
 人間 (複) (否) 食べる (不抗) 農民 米 (否)  
 nāN nī nwê càibò | mə- bá  
 二 ~週 (条件) (非現) (当為)  
 ʔóchónlāchài lɛkà jò thíchà lô  
 別れを告げる 世界 この 確実な (断定)  
 「人間は、農民が作った米を二週間ほど食べることができなければこの世に別れを告げなければならなくなる」(IV-09.29)

▷ ʔóchónlāchài というのは別れるときなどに使う挨拶言葉であるが、ここでは「別れを告げる」という意味の動詞として臨時に使っている。

- (42) ʔē nī nɔ́ | jə- mə- báθà  
 (条件) 得る (題) 1sg (非現) 欲する  
 nāN nī θəN béiN chī lô  
 二 三 ~枚 (婉曲) (断定)  
 「もしできれば、私は二、三枚欲しい」(V-02.42)

否定文で使われると、数がゼロであることを表す。「まったく～ない」「全然～ない」。

- (43) pə- təwân jò mənī kròn ʔó nāN ʔà ʔé  
 1pl 村 この 人 邪悪な いる ~人 (否)  
 「私達の村は、悪人がひとりもいない」(I-sen.47)

- (44) báðònbáyá dè pè nāN ʔà ʔé  
 似ている (共) 1PL ~人 (否)  
 「(あなたは)我々の誰とも似ていない」(II-11.6)

- (45) ʔəwê kò nī chərà nāN ʔà ʔé  
 3se 呼ぶ (引寄) 先生 ~人 (否)  
 「彼は先生をひとりも呼ばなかった」(I-08.6)

- (46) jə- bá ʔáNXŭ ʔáN jə- chá  
 1sg (場) 探す 食べる 1sg 餌  
 ʔó nāN cóN ləN ʔé  
 ある ～箇所 もはや (否)  
 「私はどこへたりとも餌を探しに行く必要はなくなった」(I-09.18)
- (47) thī ʔó nāN cóN ʔé  
 水 ある ～箇所 (否)  
 「水はどこにもなかった」(III-06.32)
- (48) dá tònnón wê dè chəphúchəxā nāN dù ʔé  
 見える 出くわす (強意) (共) 動物 ～匹 (否)  
 「(彼は) 動物に 1 匹たりとも遭遇しなかった」(III-06.21)
- (49) mé phó nāN béiN dài ʔé  
 歯 欠ける ～枚 まだ (否)  
 「(祖父は) 歯がまだ 1 本も欠けていない」(V-02.8)

くだけの口語体では、否定文で使われたとき nāN はしばしば省かれる。

- (50) jə- dá yà ʔé  
 1sg 見える ～人 (否)  
 「ひとりも見えない」
- (51) chə- ʔó mèiN ʔé  
 CHə ある ～種類 (否)  
 「何もない」
- (52) thòN wá phôn ʔé  
 着く (経験) ～回 (否)  
 「一度も行ったことがない」
- (53) lì cóN ʔé  
 行く ～箇所 (否)  
 「どこにも行かない」

### 10.3.2 kò ... dè

助数名詞を挟み込む。文の表す命題が、助数名詞句の指示する集合の要素すべてにとって真であることを表す。「すべての～」 「毎～」。kò は kō と発音されることもある。また、kò のみが現れ、dè が現れないこともある。ただし dè のみということはない。

- (54) chônna kò yà dè jō  
 聞く ～人 XO  
 「みんな聞いてください」(006.5)



- (55) ʔəwê bú lán ʔə- phú má nó  
 3se 養う (下方) 3sg 子供 妻 (題)  
 kò néin dè lô chī  
 ～年 (断定) (婉曲)  
 「彼がいつも (=直訳:毎年) 妻子を養っていたのだった」(006.12)
- (56) chərâ thálòun dè ʔə- mâ θè  
 先生 (人名) (列举) 3sg 妻 (複)  
 ʔó máu chônkhlaín kò yà dè chī lô  
 いる 快適な 元気な ～人 (婉曲) (断定)  
 「ターロン先生と奥さんは二人ともお元気です」(012.30)
- (57) ʔəwədə ʔánmànī ʔán chəθúichəθá θiləphá nó  
 3se 取る 食べる 果物 (複) (題)  
 kò nì yá yò dè lô  
 ～日 ～夕 ～朝 (断定)  
 「彼が果物をとって食べるのは毎日、毎夕、毎朝のことだ」(II-08.17)
- (58) ʔán wê ʔwí kō blán wê lô  
 食べる (強意) 美味な ～回 (強意) (断定)  
 「(彼は何を食べても) 毎回、おいしく感じる」(II-14.12)
- (59) nī kò mēin dè lô  
 得る ～種類 (断定)  
 「何でもいいです」(001.2027)
- (60) kəbànjiù nó nân θí kò yà dè ʔé  
 飛行機 (題) 運転する できる ～人 (否)  
 「飛行機は誰にでも運転できるわけではない」(001.2026)

### 10.3.3 kò ... dèmèinká

助数名詞を挟み込む。文によって表された命題が、助数名詞句が指示する集合の要素の大部分にとって真であることを表す。「ほとんどの～」kò ... mèindèká となることもある。kò は kō と発音されることもある。

- (61) kò kòunlwē dèmèinká  
 ～集団  
 「ほとんどのグループ」(V-03.50)
- (62) phlòun thàin kō yà dèmèinká  
 人 帰る ～人  
 「人々はほとんど帰った」(001.2552)

- (63) ʔəθí thàin mèin kò phwê mèindèká  
 3pl 帰る (自然) ~ 団  
 「ほとんどの集団が帰った」(001.2552)

### 10.3.4 thən ... θā

助数名詞を挟み込む。ある期間や範囲すべてにわたって、文の表す命題が真であることを表す。「~中(じゅう)」「~全体」。thən は thən と発音されることもある。また、θā は jā と発音されることもある。

- (64) nəθí thən néin θā bê mə- ʔóchónʔókhlaín θò nó |  
 2pl ~ 年 (目的) (非現) 元気な (目的') (題)  
 jā- chūtōnpàutà jāthəpā phí dá kòmūnìkòmūnà chī lô  
 1sg 祈る 祈る (裨益) (保持) 毎昼毎晩 (婉曲) (断定)  
 「あなた方が 1 年中元気でいられますようにと、毎日お祈りしています」(012.43)

- (65) ʔwíkòyà thən phlóun θā  
 (店の名) ~ 個  
 「ウィーコーガー食堂の店中」(V-03.31)

- (66) thəɛ thən dù jā chəxò phā thən dù jā θí  
 鹿 ~ 匹 犀 オス ~ 匹 (類似)  
 jā- phú nī nī dài  
 1sg 背負う (努力) 可能な まだ  
 「鹿まるまる 1 頭、オスの犀まるまる 1 頭でさえ、私は背負うことができるのである」(III-03.16)

- (67) phəbàin thən béin θā ʔòn dè ʔəphô  
 毛布 ~ 枚 刺繍する (共) 花柄  
 「毛布の全部に花柄の刺繍がしてある」(V-02.88)

- (68) dùlā ʔə- mōcā thən dù jā  
 蠅 3sg 身体 ~ 匹  
 「蠅の体中」(II-12.3)

- (69) ʔányá làn nó thən cá θā lô  
 歓迎する (内方) (題) ~ 世 (断定)  
 「一生(あなたを)歓迎しますよ」(011.38)

### 10.3.5 xwē

助数名詞の前に置かれ、数を尋ねる文を作る。xwè と発音される。第 27 章「疑問語」も参照のこと。

- (70) ʔó xwē yà lê  
 いる ～人 (疑)  
 「(人間は) 何人いますか?」(001.3575)
- (71) nə- nī xwē θân jàv lê  
 2sg 得る ～日 (完) (疑)  
 「(こちらに来て) 何日になりますか?」(001.3575)
- (72) nə- jáv ʔó xwē néin jàv lê  
 2sg 年齢 ある ～年 (完) (疑)  
 「あなたは何歳になりますか?」(002.309)
- (73) nə- kəkū yòn xwē pàv jàv lê  
 2sg 書き写す 終わる ～篇 (完) (疑)  
 「あなたは(詩を) いくつ写し終えたか?」(003.634)

### 10.3.6 khòkhô

助数名詞の前に置かれ、何を選択するかを尋ねる疑問文を作る。「どちらの～」「どの～」。第27章「疑問語」も参照のこと。

- (74) kā ʔəjò lə- phlóvN dè ʔəjò lə- phlóvN  
 車 これ ー ～個 (列挙) これ ー ～個  
 mə- cáin lán wī khòkhô phlóvN lê  
 (非現) 出る (外方) (先行) ～個 (疑)  
 「この車とこの車では、どちらが先に出発しますか?」(001.1770)
- (75) nə- báθà châ khòkhô mèin lê  
 2sg 欲する (非常) ～種類 (疑)  
 「あなたはどれが一番欲しいですか?」(001.1770)



## 第11章 側置助詞

主語と目的語、および、時間的な概念を表す名詞句と助数名詞句を除くと、名詞句がそのまま補語として機能することは不可能である。補語として機能するためには側置助詞(adpositional particle)の助けを得なければならない。すなわち、側置助詞は、名詞句を補語として文中に導入する働きを持つ。本論文では、側置助詞とそれによって導入された補語全体を指して側置助詞句(adpositional phrase)と呼ぶことがある。

### 11.1 lé (ló, lə-, lú)

空間あるいは時間を表す側置助詞である。この助詞には様々な発音がある。日常の会話で最も一般的な発音は lé である。しかし、かしこまった場での発話では、しばしば ló あるいは軽く lə- と発音される。対応するスゴー・カレン語の ló や西部ポー・カレン語の ló と比較すると、おそらく lé よりも ló あるいは lə- のほうが古い発音を忠実に残しているのではないと思われる。また一方でこの助詞は lú と発音されることもある。これは後続する名詞句の表す空間や時間が、発話の行われている空間や時間から遠い場合に、その遠さを強調するためにしばしば使われる自由変異である。この自由変異は、空間や時間が直示中心から近い場合にはほとんど使われないようである。したがって、下の(1)では lé, ló, lə-, lú のいずれも使うことができるのに対し、(2)で lú を用いることはあまり適切ではない。

- (1) ?ó { lé / ló / lə- / lú } ?ò  
ある あそこ  
「あそこにある」

- (2) ?ó { lé / ló / lə- / ?lú } jò  
ある ここ  
「ここにある」

この側置助詞の用法は、大きく、空間を表す場合と時間を表す場合の二つに分けることができる。

#### 11.1.1 空間を表す場合

空間を表す場合、lé は場所 (locus) と起点 (source) と着点 (goal) の三つを表すことができる。場所とはある程度の面積を持ったひとまとまりの空間である。一方、A と B という二つの場所があって、何らかの物体が A から B へと移動するときの A が起点、B が着点

である。ポー・カレン語の lé は、場所、起点、着点のいずれをも表す。次の 3 例を見られたい。

- (3) phūkhwā θè ʔó lé kòtərài ʔò [地点]  
 弟 (複) いる (地名) (遠方)  
 「僕たちはコーカレイに住んでいます」(IV-04.102)

- (4) nànnân θè yê thàin lé θítàʊ ʔò [起点]  
 姉 (複) 来る 帰る 病院 (遠方)  
 「私達は病院から帰って来ました」(IV-04.96)

- (5) nànnân mə- thàin lé thəʔàn dòʊn ʔò [着点]  
 姉 (非現) 帰る (地名) 町 (遠方)  
 「私達はパアンに帰ります」(IV-04.99)

地点や着点を表す名詞句にはときとして助詞が何も付かないことがある。次の例を見よ。

- (6) nànnân mə- thàin thəʔàn dòʊn ʔò  
 姉 (非現) 帰る (地名) 町 (遠方)  
 「私達はパアンに帰ります」

lé を用いた場合と用いない場合がどのように異なるのかについて詳しいことはまだ分かっていない。ただ、確実に言えるのは、lé が現れることのほうが頻度が高いということである。この問題についての詳しい議論は、第 15 章 15.3 を参照されたい。

次に、場所・起点・着点のそれぞれを表す例を見ていく。まず場所を表す例を挙げる。

- (7) pə- təwân nó ʔó lé dòʊn thəʔàn ʔəphānkhú  
 1pl 村 (題) ある 町 (地名) 上  
 lé thīkhló phàdú ʔənàin nó lō  
 川 大きい 傍 (のだ) (断定)  
 「私達の村は、パアンの上(=川上)の、大きな川のほとりにあります」(I-10.4)

▷ ここで lé dòʊn thəʔàn ʔəphānkhú と lé thīkhló phàdú ʔənàin は同格の関係にあると考えられる。

- (8) nə- ʔè dá cò lé ʔəjàin θí ...  
 2sg (条件) 見える (遠隔) 遠く (類似)  
 「遠くで見たとしても…」(IV-07.17)

- (9) lānlānʔəthícón lé mākúphòphān nó ...  
 虹 空 (題)  
 「空の虹は…」(II-10.18)

▷ これは lé が導く側置助詞が名詞を修飾している例である。

次に起点を表す例を挙げる。

- (10) láí lə- béin jò yê lé láitəu khə ʔò  
手紙 一 ~ 枚 この 来る 郵便局 側 (遠方)  
「この手紙は郵便局から来ました」(IV-04.364)
- (11) təwəphjəphú θiləphá cáin lən wê lé cōN nótā ...  
学生 (複) 出る (下方) (強意) 学校 (前提)  
「学生たちは学校 (の建物) から出てきて...」(II-10.2)

次に着点を表す例を挙げる。

- (12) yê lé jə- ʔó jò  
来る 私の ところ (近傍)  
「私のところに来てください」(001.2)
- (13) θəucə nó lì lé xīphən yéin ʔò  
(人名) (題) 行く (人名) 家 (遠方)  
「タウチャーはファイパウンの家に行った」(IV-04.307)

lé が場所・起点・着点のいずれを表しているかは、文脈や、文中に共起した様々な要素などを総合的に見て判断するしかない。ならば、日本語の「私は京都から奈良まで歩いた」のような、一つの節に起点と着点の両方が出て来るような文は、ポー・カレン語ではどのように訳されるのだろうか。実は、「私は京都から奈良まで歩いた」を、ポー・カレン語では一つの節で表現することができない。次のように、従属節標識を用いて、二つの節で表現するのである。

- (14) jə- təi thán lé dōuN phən yōN |  
1sg 出る (外方) 街 中 (継起)  
jə- yê cáin lé nə- ʔó jò lə  
1sg 来る 歩く 2sg とところ (近傍) (断定)  
「私は街中を出て、あなたの所に歩いて来ました」(001.2085)

lé が2度現れた次の文は不適格である。

- (15) \*jə- yê cáin lé dōuN phən lé nə- ʔó jò lə  
1sg 来る 歩く 街 中 2sg とところ (近傍) (断定)  
(私は街中からあなたの所に歩いて来ました)

### 11.1.2 時間を表す場合

時間の捉え方にも、空間と同じように、少なくとも3種類の捉え方があり得る。一つは時間軸の中のある1点であり、これを「時点」と呼ぶことにする。一方、二つの時点AとBがあって、ある事象がAで始まり、Bで終わったとする。このときのAを「開始点」、Bを「終了点」と呼ぶことにする。ポー・カレン語のléは、このうち時点および開始点を表す。

まず、時点を表す例を挙げる。

- (16) lúw̃ ʔəwī dǎʔò nè hələmjā ʔó lə- yà dù  
 以前 (過去) NE 獵師 いる 一 ~人 DU  
 「昔ね、獵師が1人いた」(006.10)

- (17) lé chəchə̀n tháv ʔəkhâ ...  
 雨 終わる 時  
 「雨がやんだ時...」(II-10.2)

次に、開始点を表す例を挙げる。

- (18) lé mùyá jàv jə- thòn yéin phən ʔé  
 昨日 ずっと 1sg 着く 家 ~回 (否)  
 「私は昨日からずっと家に帰っていない」(001.2085)

- (19) thō wè lúw̃ jə- mū ʔòn ʔò jàv  
 高い (備え) 1sg 母 腹 (遠方) ずっと  
 「(私の鼻は) 母の腹の中にいたときからずっと高いのだ」(006.28)

ポー・カレン語には終了点「~まで」を表す側置助詞はない。終了点は、従属節標識 thòn (thōn) 「(~する) まで」(第 21 章を参照) を用いて次のように表現する。

- (20) jə- mə- ʔókhò nè thōn ʔə- thòn lə- nàdì  
 1sg (非現) 待つ 2SG (限界) 3sg 着く 一 ~時  
 「私は1時になるまであなたを待つ」(001.353)

thòn の後の ʔə- は漠然と時間の流れか何かを指しているものと考えられる。文字通りには、「(時間が)1 時に到着するまで」ということである。

## 11.2 thòn

lé と同様に、空間あるいは時間を表す。動詞 thòn 「到着する、着く」に由来する。thōn とも発音される。

### 11.2.1 空間を表す場合

名詞の表す地点の周辺をも含めた比較的広い範囲が場所として捉えられる。たとえば、次の例を見られたい。

- (21) jə- mə- ʔó lé jò  
 1sg (非現) いる ここ  
 「私はここにいます」

- (22) jə- mə- ʔó thòn jò  
 1sg (非現) いる ここ  
 「私はこのあたりにいます」



(21) で lé jò が表している場所は、発話時点において話者が存在している地点そのものであるが、(22) で thòn jò が表している場所は、話者が存在している地点の周辺をも含んでいる。

以下に場所を表す例を見ていく。

- (23) jə- mə- ʔáŋkhwê thòn jò lô  
1sg (非現) 釣る ここ (断定)  
「私はこのあたりで釣りをします」(I-06.62)

- (24) hələmjā nó mī wê thòn ʔàithài phjā nó lə- nà yòn ...  
獵師 (題) 寝る (強意) 修験者 道場 その 一 ~ 夜 (継起)  
「獵師はその修験者の道場に1泊した後...」(III-04.10)

- (25) lànthé wê thōN thīkhló phàdú phàn nó lô  
落ちる (強意) 川 大きい 中 (のだ) (断定)  
「(ハゲワシは) 大きな川の中に落ちた」(III-12.31)

- (26) thúphú líphú θələphá nó dō thòn θéin phàdú ʔəkhî  
小鳥 リス (複) (題) (別個) 木 大きな 先  
ʔəthàin lòn nó lì lì thàin thàin ...  
枝 上 その 行く 行く 帰る 帰る  
「小鳥やリスたちは大きな木の先あたりを行ったり来たりして...」(IV-05.9)

- (27) thòn khānməpā mə- tàv dòn khānməpāmú nó jô ʔé  
外国 (非現) 競う (模倣) 外国の女性 (題) 易しい (否)  
「外国で外国人女性を真似て競うのは易しいことではない」(IV-08.27)

- (28) ʔə- chəkhlaínphlóun nó θí  
3sg 言葉 (題) (類似)  
kəthá mēin wê thōN ʔə- khópi mā lô  
ひっかかる (自然) (強意) 3sg 喉仏 (非常) (断定)  
「彼女の(言おうとした)言葉も、喉のあたりでひっかかってしまった」(V-04.136)

### 11.2.2 時間を表す場合

空間を表す場合と同様に、thòn は、名詞の表す時点の周辺をも含めた幅のある時間を指し示す。

- (29) thōN [R khòlàʔwà pèn pəjànkhāN] ləthônkhwǵàləchīlī néin khā  
イギリス 統治する ビルマ国 1914 年 時  
dáʔò ...  
(過去)  
「イギリスがビルマを統治していた 1914 年の頃...」(III-11.10)

## 11.3 dè

道具・手段、随伴者・付帯物、相互的な状況の相手、様態を表す名詞句を導入する。dè とも発音される。なお、同じ発音の dè が名詞句の列挙に使われることがある。この dè は、名詞を補語として機能させる働きがないので、名詞修飾助詞 (第 14 章) に分類する。また、同音の助詞として、文頭に現れて順接を表す副詞の dè も参照せよ (第 19 章)。

## 11.3.1 道具・手段

道具・手段を表す例を挙げる。

- (30) pə- mə- lì dè khli  
1pl (非現) 行く 舟  
「私達は舟で行きます」(I-06.15)

- (31) pə- bá thəu pə- mé dè thilá nó lô  
1pl (当為) こする 1pl 歯 塩 (のだ) (断定)  
「私達は塩で歯を磨かなければならない」(I-07.5)

- (32) yéin nó thí θəuN thán nī wê dè wá nó lô  
家 (題) (類似) 建てる (上方) (努力) (強意) 竹 (のだ) (断定)  
「家も竹で建てるのである」(III-16.13)

二つの目的語を取る動詞を用いた場合に、第二目的語が dè で標示されることがあるということは、第 4 章 4.2.2 で述べているとおりである。

- (33) chànkhuú?wà phílân θà?wà dè khòθá  
(人名) 与える (人名) マンゴー  
「チャウンクーワーはタワーにマンゴーをやった」

この dè は、道具・手段を表す dè だと考えておく。同様に、第 15 章 15.3.1 で述べているとおり、‘locative alternation’(場所格交替) と呼べそうな現象でも dè が現れる。

- (34) ?əwê khwái thwí dè lōuN  
3se 投げる 犬 石  
「彼は犬に石を投げつけた」

この dè もやはり、道具・手段を表す dè だと考えておくことにする。

## 11.3.2 随伴者・付帯物

次の (35) は随伴者を表す名詞句を導入している例である。

- (35) jə- mə- lì cáinkwè dè xiphàn  
1sg (非現) 行く 遊ぶ (人名)  
「私はファイパウンと遊びに行く」(IV-04.162)



ʔəθí kəjənkòNθò nó thəmə lō

3pl 民族衣装 (題) 一般的 (断定)

「この世界の民族集団はどの民族でも民族衣装があるのが普通である」(IV-01.64)

### 11.3.3 相互的な状況の相手

相互的な動作・作用・状態の相手も *dè* によって表される。これは随伴者を表す用法の一部と考えることもできるかもしれない。

(43) phóθá ʔəjò máu lóθà **dè** ʔəwê

子供 これ 快適な (相互) 3se

「この子供は彼と仲が良い」(001.2358)

(44) jə- dá lóθà **dè** chərá thálòun θè

1sg 会う (相互) 先生 (人名) (複)

chərámuθi θéinpuθi θè yòN ...

女先生 (人名) (複) (継起)

「私はターロン先生やテインブ先生と会ってから…」(012.25)

(45) mə- dákhòN wê **dè** chənà kò blàn **dè** lō

(非現) 会う (強意) 災難 (毎) ~ 回 (毎') (断定)

「毎回、災難に出くわすであろう」(III-12.35)

(46) phàbàu **dè** lāin khwēkəbàn nó lō

近い 山 ゾエカビン山 (のだ) (断定)

「(パアン市は) ゾエカビン山に近いのです」(III-17.21)

(47) ʔó jàin **dè** mōphā lànân θí ...

いる 遠い 父母 (逆接) (類似)

「父母から遠く離れて暮らしているのだが…」(IV-08.25)

(48) càθənpʰó nó ʔə- khóxwí ntyòN **dè** jə- ʔíkhólón lō

人間 (題) 3sg 頭 同等の 1sg 糞 (断定)

「人間は、頭(の大きさ)が私の糞くらいしかない」(I-04.23)

(49) phlòunmuθi ċā [R bádòN **dè** θwiwòθú mō ] lə- yà

女性 老いた 似ている (人名) 母 - ~ 人

「トゥイーウォートゥーの母に似た老いた女性」(V-04.122)

### 11.3.4 様態

動作の様態を表す。下に例を挙げる。

- (50) thólèin?wà lə- mēin nó dō  
 (鳥の名) ー ～種類 (題) (別個)  
 ?ó kòUN wē dē ?ədón nó lō  
 いる (皆) (強意) 群れ (のだ) (断定)  
 「白鷺は群れで暮らしている」(II-01.12)

- (51) yē thàin wē dē ?əpwàiθà khô  
 来る 帰る (強意) 疲労 (対比)  
 「(彼は) 疲れて帰ってきた」(II-02.16)

### 11.3.5 「目的語」に付く dē

dē は目的語として現れることのできる名詞句に付き、その名詞句を「道具・手段」を表すものとして提示することがある。

下の例で、名詞句 jā 「帆」は dē がなくとも、目的語として出現可能であるが、dē が付くことによって、移動のための手段と捉えられている。

- (52) ?əθiwē dá cò làn [C khli lə- phlóUN  
 3pe 見える (遠隔) (下方) 舟 ー ～個  
 yē thán kán thán dē jā ] nó lō  
 来る (上方) 張る (上方) 帆 (のだ) (断定)  
 「彼らは舟が一艘、帆を張ってやって来るのを見た」(I-04.5)

次の例でも、phònsò 「霧吹き」は dē がなくとも、目的語として現れることができる。しかし、dē が付くことによって、「霧吹き」が、何らかの目的のために道具として(この場合は虹を作るため)用いられるということが示されている。

- (53) còthúdí nó ?ánmànī wē dē phònsò lə- bòn yòn |  
 (人名) (題) 取る (強意) 霧吹き ー ～本 (継起)  
 cò thán wē lé màukhúphòphân ...  
 吹く (上方) (強意) (場) 空  
 「チョートウディーは霧吹きを一本持ってきて、空に向かって吹き上げた」(II-10.16)

このように、dē は目的語として現れることのできる名詞句に付くことがある。つまり、これらの名詞句に dē が付く必要はない。しかし、dē が付くことによって、その名詞句の表すものが何らかの「道具・手段」であることを表すのである。

## 11.4 bê ... 00

類似物を表す。「～のように」「～のような」。最も一般的な形は bê ... 00 の形であるが、bê に 00 が付いて、bê00 ... 00 となることもある。また、bê, bê00, 00 それぞれ単独で使われることもある。「目的」を表す従属節標識 bê ... 00 「～になるように;～するように」も参照のこと(第 21 章)。

まず、bê ... θò の形で現れた例を挙げる。

- (54) ʔəjôn ʔó bê mikhú θò lô  
色 ある 煙 (断定)  
「色は煙のようである」(III-05.58)
- (55) cəθéinlá dè nānpôʔwà nī yà chinàn wê  
(人名) (列举) (人名) 二 ~人 座る (強意)  
bê [R hə- chè lān thá] lōuntən lə- tən θò lô  
1pl 刺す (下方) (保持) 石柱 一 ~柱 (断定)  
「チョーテインラーとナウンポーワの二人は、突き立てた石柱のように (動かず  
に) 座っていた」(V-01.3)
- (56) ʔē ʔékwi phloun cúlān bê jə- phúbì θò càibò ...  
(条件) 愛する カレン 工芸品 1sg 大叔父 (条件')  
「カレンの工芸品を、私の大叔父のように愛するなら...」(V-02.157)
- (57) ʔóki jə bê ʔəθíwê xōnmú lə- yà θò  
置く 1SG 3pl 女奴隷 一 ~人  
「(彼らは) 私を奴隷のように扱った」(V-04.191)
- (58) [R édú bá tē] həmtú bê ʔwàʔwà θò  
愛する (無意) (非常) 女性 (人名)  
ʔó nān yà ʔé  
いる (少数) ~人 (否)  
「(私が) ワーワーのように愛した女性は一人もいない」(V-05.98)

次に、bêθò ... θò の形で現れた例を挙げる。

- (59) jə- θà dè nə- θà nó lə- yà dè lə- yà  
1sg 心 (列举) 2sg 心 (題) 一 ~人 (列举) 一 ~人  
bêθò [R kàthəwun thá] phli θò ʔəkhúcòn ...  
結ぶ (保持) 紐 (理由)  
「私の心とあなたの心は、互いに、結びつけた紐のようなので...」(011.23)
- (60) θéinʔànjàn nó khên wê bêθò θéinxwâin θò ʔé  
(木の1種) (題) 堅い (強意) (木の1種) (否)  
「アンリャウンの木はホワインの木ほど堅くない」(I-sen.82)

次に、bê のみが現れた例を挙げる。

- (61) nò lə- yà dákhòN bá  
 2SG ー ～人 出会う (催促)  
 ʔəcá bê mōtōuN jò ləxì  
 人生 母 この (禁止)  
 「お前はこの母のような人生を歩みませんように」(V-05.17)

次に、00 のみが現れた例を挙げる。

- (62) chəʔé jò khū wê mí 00 nó  
 愛 この 熱い (強意) 火 (題)  
 nānpʰōʔwà lə- yà 0ijā wê jàu lō  
 (人名) ー ～人 知る (強意) (完)  
 「この愛が火のように熱いことをナンボーワは知った」(V-01.39)

最後に、bê00 のみが現れた例を挙げる。

- (63) ʔəjōN ʔó wê bê00 míkhúú nó lō  
 色 ある (強意) 煙 (のだ) (断定)  
 「色は煙のようである」(III-05.36)

この側置助詞が ʔəjò 「これ」や ʔənó 「あれ」に付いたとき、しばしば最初の音節 ʔə- が脱落する。

- (64) lō klàn chə bê jò 00 xì  
 語る (無根) CHə これ (禁止)  
 「このように言うなよ」(IV-04.167)

- (65) lō wê bê nó yòN...  
 語る (強意) それ (継起)  
 「そのように言ってから...」(III-01.38)

なお、次に挙げる例のように、bê が kəwê あるいは kəpê と発音される場合がある。おそらくは地域差によるものだと思われるが、詳しいことは分からない。

- (66) kəwê phlòuN 0ànan 0à phlòuN ŋō 0è 00  
 人 忘れる (再帰) 人 気を失う (複)  
 「気を失った人のように」(024.45)

この側置助詞は、以下に挙げる例のように、しばしば補文を取る。

- (67) jə- pō bá nə- láí lə- béin nó |  
 1sg 読む (不抗) 2sg 手紙 ー ～枚 (前提)

bê [C phlòuN pwàithà khâ ?ò bá thî khléin lə- khwà ] θò  
人 疲れる 時 飲む (不抗) 水 冷たい ー ～杯

khléinchó khwái lé θà phàn

涼しい (徹底) (場) 心 中

「あなたの手紙を読んだところ、疲れた人が冷たい水を 1 杯飲んだかのように、心  
の中が涼しくなりました」(009.7)

(68) bê [C thókò ?əno thô ] θò nó  
サイチョウ 嘴 長い (題)

thóçá jò thî ?əmi thô chī lô

クジャク この (類似) 尾 長い (婉曲) (断定)

「サイチョウが嘴が長いと同じように、このクジャクも尾が長い」(II-02.35)

(69) bêθò [C nə- ?ántàin làn ] nó  
2sg 計画する (下方) (題)

mə- tàin dá phí wê lô

(非現) 作る (保持) (裨益) (強意) (断定)

「あなたが計画しているとおりに作っておいてあげましょう」(001.327)

(70) bê [C θà ?ó ] θò mà báθà | mà  
心 ある する (欲求) する

「あなたの思っているとおりやりたければやりなさい」(IV-07.42)

## 11.5 nî

同じ程度の大きさであることを表す。「～くらい」「～くらいの」。nî ととも発音される。  
おそらく、動詞の nîyòN 「同じ大きさの」と何らかの語源的つながりを持つ。bê ... θò と  
同様、?əjò 「これ」や ?əno 「あれ」に付くとき、しばしば ?ə- が脱落する。

(71) ?ó nî jò lô  
ある これ (断定)

「(それは) このくらいの大きさだ」

(72) sàu dá lé ?ə- lé nî cúkhó lə- kàu jò  
こする (保持) (強調) 3sg 棒 腕 ー ～部分 この

「(彼は) この腕 1 本分と同じくらいの大きさの棒をこすっていた」(020.34)

## 11.6 xwè

同じ程度の量であることを表す。「～くらい」「～くらいの」。xwē あるいは xwê ととも  
発音される。動詞の xwè 「満ちた」に由来する。bê ... θò や nî と同様、?əjò 「これ」や  
?əno 「あれ」に付くとき、しばしば ?ə- が脱落する。



- (73) ʔó thán thàin xwē jò lō  
 ある (変化) (追加) これ (断定)  
 「(借金が)これくらいになってしまった」(V-03.124)

- (74) xwē nó lō. lō ʔáʔá ʔé  
 それ (断定) 語る 沢山 (否)  
 「(語ったのは)それくらいだ。多くは語らなかった」(V-03.98)

## 11.7 báchhân

「～に関して」「～について」の意を表す。動詞 báchhân 「関係する」に由来する。この動詞はビルマ語 /shàin-/ 「関係する」の借用語である可能性がある。

- (75) báchhân dōunlāuthōunthōxómēin nó hə- ʔè chōnmón thàin càibò ...  
 八正道 (題) 1pl (条件) 考える (再度) (条件)  
 「八正道について再び考えるなら...」(014.21)

限定を表す動詞助詞 dá および強調を表す名詞修飾助詞の lé が付いて、báchhân dá lé という形で使われることもある。dá が付くのは báchhân が動詞だったときのなごりであると考えられる。あるいは、báchhân がいまだに動詞性を保持しているという可能性も捨てきれない。

- (76) jə- mə- ləpərən báθà nè báchhân dá lé  
 1sg (非現) 知らせる (欲求) 2SG (限定) (強調)  
 jə- chəphàichəmə ʔəyāin θí chī lō  
 1sg 仕事 事情 (複) (婉曲) (断定)  
 「私はあなたに、私の仕事の状況についてお知らせしたい」(012.16)
- (77) jə- ləthàin cōn chəkhlaín báchhân dá lé  
 1sg 語る (皆) 言葉 (限定) (強調)  
 [R nəθí yē cáinkwè] ʔəcōn dài  
 2pl 来る 遊ぶ 事柄 まだ  
 「私は(友人達と)あなたが遊びに来たことについても語り合った」(012.25)

## 11.8 təkhlé (khòkhôlé)

ある時点まで継続して生じている事象の開始時点を表す。「～からずっと」「～以来」。この側置助詞が使われると、名詞の後に「ずっと」の意を表す名詞修飾助詞の jàu がしばしば現れる。lé の部分は lú と発音されることがある。この発音が使われるのは、開始時点が基準となる時点よりもはるか以前であることを表す場合である (lé を参照)。

- (78) təkhlé ʔəjàu ləchīnī néin khā ʔò jàu  
 年齢 十二 ～才 時 (遠方) ずっと

lò bóuIN θà dù ?əkhúcòn ...

語る 勇気のある 心 勇敢な (理由)

「12 才の頃から、(自分の意見を言う) 勇敢さを持っていたので…」(V-04.29)

以下の例では、この助詞が補文を従えている。

(79) təkhlé [C cáIN làn tékəθò] ?ò jàv lànphà

出る (下方) 大学 (遠方) ずっと 別れる

「大学を出てからずっと離ればなれだった」(V-03.37)

(80) khòkhólú [C dú BÀN] ?ò

大きい (変化) (遠方)

mà wá chə?əNchəθôn θè nó ?ó nàN mèn ?é

する (無意) 悪行 (複) (題) ある (少数) ~種類 (否)

「大きくなってから、悪行を働いたことはまったくない」(024.53)

## 11.9 ph̃

時間的概念を表す名詞を導入し、「名詞が表す期間以内に」ということを表す。「~の最中」「~以内に」ph̃ と同発音される。

(81) ph̃ mūnàp̃i

昨晚

「晩のうちに」(001.2895)

(82) ph̃ [R nə- lì n̄] khâ lì wè

2sg 行く 可能な 時 行く (備え)

「行ける間に行っておきなさいよ」(001.2892)

(83) ph̃ [R nə- n̄ ?əkhâ] khâjò kl̄c̄ lā təcà

2sg 得る 時 今 努力する (願望) きちんと

「時間の得られる今のうちに、きちんと努力せよ」(001.2893)

(84) mí jò ph̃ [R khè thán lə- dú dài bá] khâ

火 (題) 輝く (変化) (否) 大きい まだ (否') 時

pə- bá jūthwē kətò thá wè wē l̄

1pl (当為) 見守る 心配する (保持) (備え) (強意) (断定)

「火というのは、まだ大きくなならないうちに、注意しておかなければならないのである」(IV-08.21)

(85) ph̃ [R ?əθiwē thán tékəθò] khâ

3pl 上る 大学 時

ʔəθiwê    th̄iθò    θ̄    náu    làn    chəmə

3se        友人    (複)    入る    (内方)    仕事

「彼らが大学に通っている最中に、彼らの友人達は就職してしまった」(V-03.116)



## 第12章 側置名詞

本論文では、側置助詞に似た機能を持つ名詞を側置名詞(adpositional noun)と呼ぶ。

側置名詞には、ʔəyāN と ʔəcòN と ʔəʔó の三つがある。これらは、名詞句の後に付いて、その名詞句を補語として文中に導入する機能を持つ。例えば下の例の ʔəyāN がそのような役割を担っている。

- (1) klìcì      mà      thìkhāN    ʔəyāN  
努力する    行う    国            ため  
「国のために努力して行う」(I-sen.20)

ʔəyāN を取り除いてしまったら、名詞 thìkhāN の文中における役割が分からなくなり、この文は不適格な文になる。このことから、この文における ʔəyāN は、側置助詞とちょうど同じような機能を担っていると言える。

実は、側置助詞と同様、側置名詞は単独で文を形成することができない。単独で名詞句を形成することもできない。

- (2) \* ʔəyāN  
      ため  
      「???」

次の (3) や (4) のように他の名詞の後に置かれることによって初めて文を形成することができる。

- (3) chərâ    yāN  
      先生    ため  
      「先生のため」

- (4) nə-    yāN  
      2sg    ため  
      「あなたのため」

したがって、この特徴に基づき、側置名詞を助詞として分類することも不可能ではない。

しかし、本論文では側置名詞を名詞の下位範疇と考える。というのは、これらが名詞としての特性を持ちあわせているからである。例えば、上の (4) のように、代名詞の第一形を前に置くことができる。このような性質は助詞にはない。

- (5) \*nə-    dè  
      2sg    (共)  
      「???」

また、(1) のように側置助詞に代わる働きをする場合もある一方で、次の (6) のように側置助詞が共起する場合もある。

- (6) kl̥c̥ì      mà      dè      thikhāN      ʔəyāN  
 努力する 行う (共) 国      ため  
 「国のために努力して行う」

この例では、側置助詞 dè が名詞の前に現れている。二つの側置助詞が同時に一つの名詞句に付くことはない。このことは、側置名詞が側置助詞とは別の範疇に属することを示している。

以上述べたことを表にまとめておく。

	名詞を補語として働かせる機能	単独での文形成可能	代名詞第一形と共起可能	側置助詞と共起可能
一般の名詞	no	yes	yes	yes
側置名詞	yes	no	yes	yes
側置助詞	yes	no	no	no

このように、側置名詞は、側置助詞と共通する特徴を持っているのと同時に、一方で名詞としての特徴も兼ね備えているのである。

三つの側置助詞 ʔəyāN, ʔəcòN, ʔəʔó はすべて音節 ʔə で始まる。この ʔə はしばしば脱落する。特に、(4) のように、代名詞第一形の後ではほぼ義務的に脱落する。

## 12.1 ʔəyāN

ʔəyāN は様々な意味を表す名詞句を導入する。現在までに分かっている限りでは、受益者、代替される対象、目的、判断の基準点、依拠する情報、感情の対象を表す。ʔəyāN は側置助詞 dè と共起することがある。この場合の dè は様態を表す dè と考えておく。

最初に受益者を表す例を挙げる。「～のために」。

- (7) kl̥c̥ì      mà      thikhāN      ʔəyāN      (=1)  
 努力する 行う 国  
 「国のために努力して行う」(I-sen.20)

- (8) nə-      lò      pjà      phí      phlòuN      ch̥ì      ʔəyāN  
 2sg 話す (提示) (裨益) カレン 民族  
 「あなたはカレン民族のために (彼に) 話してきかせてあげた」(016.30)

- (9) c̥òc̥òθéiN      lə-      yà      təwāN      ʔəyāN      ch̥ìphú      ʔəyāN      θè  
 (人名)      一      ~ 人 村      民族      (複)  
 kō      mèiN      nó      tət̥wè      wê      cú      dè  
 (毎)      ~ 種類 (題)      つなぐ (強意) 手 (共)

təwânpʰú θàbáN θèyòN ...

村人 若い (継起)

「チョーチョーテインは、村や民族など色々なことのために、若い村人と協力して...」  
(V-05.36)

次に、代替される対象を表す例を挙げる。「～の代わりに」。

- (10) [R həpʰlòuN chṭ ꠌꠌꠌꠌꠌ phlòuN dòuNləkòuN θè lì thóuNlī tōuN  
カレン 民族 人 ヤンゴン (複) 行く 踊る ドン

lə- cìnkəpʰu ] bìdìʔòkhwè nɔ́

(場) シンガポール ビデオテープ その

「カレン人の代わりにヤンゴンの人たちがシンガポールに行ってドン [カレンの民族  
舞踊] を踊った (のを撮った) ビデオテープ」 (016.34)

次に、目的を表す例を挙げる。「～のために」。

- (11) pə- yê ꠌáNxiú cì ꠌəcá [R pətòN lé jâ ] ꠌꠌꠌꠌꠌ

1pl 来る 探す 金 人生 築く (場) 将来

「私達は将来築く人生のために (ここに) やって来て金をためているのだ」 (IV-03.11)

次に、判断の基準点を表す例を挙げる。「～にとって」。

- (12) mə- nà nī təcā lé ꠌəwè ꠌꠌꠌꠌꠌ nɔ́ lɔ́  
(非現) 大変な (執拗) 本当に (強調) 3sg (のだ) (断定)

「彼にとっては本当に困難なことだろうよ」 (001.2662)

- (13) [R thəlôn khwái lé ꠌəlāNkhâin ] ꠌꠌꠌꠌꠌꠌꠌꠌ mwē lànân θí |  
過ぎる (徹底) (場) 後 事柄 (繋) (逆接) (類似)

ꠌwàꠌwà lə- yà ꠌꠌꠌꠌꠌ bē là yàn θò

(人名) — ～人 (比定) 月 姿 (比定')

pjáu ꠌə- khâin kō nī kō nà lɔ́

付き従う 3sg 後 (毎) ～日 (毎) ～夜 (断定)

「過去に過ぎ去った事柄ではあるけれど、ワーワーにとっては、月のように、(過去の  
のつらい出来事が) 毎日毎晩、追いかけてくる (ことがつらいのだ)」 (V-05.19)

- (14) phlòuNmiú ꠌꠌꠌꠌꠌ ꠌə- dú tháu θəna nɔ́  
女性 名詞化 大きい (最上) 敵 (題)

mwē wē nèꠌánjô chə lɔ́

(繋) (強意) 信じやすい CHə (断定)

「女性にとって最大の敵は、信じやすいということである」 (V-05.95)

次の例は、依拠する情報を表す例である。

- (15) [<sub>R</sub> chərāmú lə ] chə ʔəyān nɔ  
 女先生 語る CHə (題)  
 phón nī dá wē phlòun lə- yà jàu  
 捕まえる 得る (保持) (強意) 人 ー ~人 (完)  
 「先生の語ったところによると、人を1人逮捕してあるということだ」(015.18)

次の例は、感情を表す動詞と共に用いられ、感情の向かう対象を表す例である。感情を表す動詞は、心配や憐れみを表す動詞であることが多い。

- (16) θàucà kətò bá nə- yān chā mā lō  
 (人名) 心配する (無意) 2sg (非常) (非常) (断定)  
 「僕(=タウチャー)は君のことをすごく心配しているんだよ」(IV-04.31)

- (17) ʔə- mō ʔə- phā θè khō kətò bá  
 3sg 母 3sg 父 (複) (対比) 心配する (無意)  
 dè ʔə- phómū ʔəyān chī  
 (共) 3sg 娘 (婉曲)  
 「両親も娘のことを心配している」(IV-04.353)

- (18) cō bá kətò lé xīphān ʔəyān khō ʔé  
 兄 (当為) 心配する (強調) (人名) (対比) (否)  
 「あなたは私(=ファイパウン)のことを心配する必要はないわ」(IV-04.268)

- (19) càdīθān nō ʔə- θà yàyòn wē  
 ライオン (題) 3sg 心 壊れる (強意)  
 dè ʔə- θó kəchān ʔəyān nō chī lō  
 (共) 3sg 友人 象 (のだ) (婉曲) (断定)  
 「ライオンは、友人の象を気の毒に思った」(I-04.29)

▷ θà yàyòn は「がっかりする、落胆する」の意。

- (20) nə- θáun thēin θà thēin hə- chī ʔəyān  
 2sg 肝臓 親しい 心臓 親しい 1pl 民族  
 「あなたは私達の民族に親しみを感じてくれている」(016.38)

▷ θáun thēin θà thēin は「親しさを感じる」意のイディオム。

ʔəyān は目的を表す節を導入することもできる。統語的には、ʔəyān の前に置かれた従属節は、名詞 ʔəyān を修飾する関係節であると考えられる。

- (21) [<sub>R</sub> jə- mə- máló láí phlòun ] ʔəyān nō  
 1sg (非現) 学ぶ 文字 カレン (題)  
 jə- yē pəjàn khān tālō  
 1sg 来る ビルマ 国 (断定)  
 「カレン語を勉強するために、私はビルマに来たのです」



- (22) [<sub>R</sub> mə- ʔán ] ʔəyāN chəthəuɪnchəbòn dè  
(非現) 食べる 植物 (列挙)

[<sub>R</sub> mə- kònθò ] yāN chəthəuɪnchəbòn  
(非現) 着る 植物

「食べるための植物と着るための植物」(II-04.16)

## 12.2 ʔəcòN

原因や理由を表す名詞句を導入する。「事柄、事情」という意味を表す一般名詞 ʔəcòN に由来する。「名詞句 + ʔəcòN」には様態を表す側置助詞 dè が前置されることが多い。ビルマ語 /ʔəcáuN/ 「事柄」と語源的に関連がありそうである。

- (23) (dè) chōyú ʔəcòN ʔəwē θi lō  
(共) マラリア 3se 死ぬ (断定)  
「マラリアが原因で彼は死んだ」(001.47)

- (24) thəmjanūlō dē nə- ʔəcòN nó  
まったくもって (共) 2sg (題)  
jə- bá cāN bá já  
1sg (当為) 貧しい (当為) 破れる  
「まったくもってあなたのおかげで私は大変な苦勞をした」(001.3269)

- (25) ʔè bátè khlaínʔá lóthà dè láí ʔəcòN càibò |  
(条件) 喧嘩する 口喧嘩する (相互) (共) 文字 (条件')  
chì xāxòN ləphá mə- nīdò bá pə nó thichà lō  
民族 他 (複) (非現) 笑う (無意) 1PL (題) 確実な (断定)  
「(カレン) 文字のことで(私達カレン人が) 喧嘩するようなことがあったなら、他の民族は私達のことを笑うことは確かだ」(IV-10.15)

- (26) nānpōʔwà lə- yà dè cəθéinlá ʔəcòN nó  
(人名) — ～人 (共) (人名) (題)  
ʔó lə- máu nī bá ...  
いる (否) 快適な (執拗) (否')  
「ナウンパワーは、チョーテインラーのせいで病気になってしまい...」(V-01.72)

- (27) lé chənó ʔəcòN xé nó bá thàin θā  
(強調) それ 刀 (題) 当たる (元位) (新局)  
wē lé thókò ʔə- nó nó lō  
(強意) (場) サイチョウ 3sg 嘴 (のだ) (断定)  
「それが原因で、刀は(はねかえって) サイチョウの嘴に当たった」(II-02.30)

## 12.3 ʔəʔó

生物であるか無生物であるかを問わず、ある物体を、起点・地点・着点などの場所的な概念として捉えなければならないとき、ポー・カレン語では、名詞をそのまま使うことができない。そのままの形で場所的な概念を表す名詞として用いることができるのは、地名や建造物などを表す名詞に限られる。次の例を見られたい。これらは、地名や建造物なので、そのまま場所として捉えることができる。

(28) jə- lɪ lé ləkōŋ  
1sg 行く (場) (地名)  
「私はヤンゴンに行った」

(29) jə- lɪ lé cōŋ  
1sg 行く (場) 学校  
「私は学校に行った」

(30) jə- lɪ lé phjá  
1sg 行く (場) 市場  
「私は市場に行った」

一方、次の例は不適格である。

(31) \*jə- lɪ lé k̄a  
1sg 行く (場) 自動車

(32) \*jə- lɪ lé tàp̄a  
1sg 行く (場) お父さん

これは、k̄a「自動車」tàp̄a「お父さん」のような名詞を、着点を表す名詞としてそのまま用いているからである。上の(32)(31)を適格な文にするためには、それぞれの名詞の後にʔəʔóという側置名詞を置かなければならない。

(33) jə- lɪ lé k̄a ʔó  
1sg 行く (場) 自動車  
「私は自動車の(置いてある)ところに行った」

(34) jə- lɪ lé tàp̄a ʔó  
1sg 行く (場) お父さん  
「私はお父さんのところに行った」

このように、地名や建造物ではない物体を表す名詞を場所的な概念として捉えるのが側置名詞 ʔəʔó の機能である。ʔəʔó は、語源的には動詞 ʔó「ある、いる」に名詞化接頭辞 ʔə- が付いて派生したと考えられる。以下に例を見ていく。

(35) thán phló wán ʔə- phó mēin θàŋkhâ ʔó  
あがる 名付ける (上方) 3sg 子供 名前 僧侶  
「(父親は) 僧侶のところに子供の名前をつけに行った」(005.4)

- (36) ʔəwê lî lú ʔàithài ʔɔ  
 3sg 行く (場) 修験者  
 「彼は修験者のところに行った」(006.58)
- (37) [R nə- kəpəŋ phí jə] láí lə- béin nó  
 2sg 書く (裨益) 1SG 手紙 一 ～枚 (題)  
 thòN lé jə ʔɔ mūnì nīchîlə- θāN nó lô  
 着く (場) 1sg 日付 二十一 ～日 (のだ) (断定)  
 「あなたが書いた手紙は21日に私のところに着きました」(016.5)
- (38) dīthú dè khichiphōN yê thòN kəchāN ʔɔ lə- blāN ...  
 (蛙の1種) (共) 虎 来る 着く 象 一 ～回  
 「蛙と虎は象のところに着くと...」(III-03.28)
- (39) jə- mə- lî lé xīphāN ʔɔ ʔò nāN thí  
 1sg (非現) 行く (場) (人名) (遠方) (少数) ～回  
 「ちょっとファイパウンのところにきてくる」(IV-04.298)
- (40) chəphúxā lé mēinlā klā θi nó  
 動物 (場) 森 中 (複) (題)  
 lî wê lé yānkhú yāN ʔɔ yòN |  
 行く (強意) (場) 土 塩辛い (継起)  
 ʔānlāin wê yānkhú yāN nó chū lô  
 舐める (強意) 土 塩辛い (のだ) (婉曲) (断定)  
 「森の中の動物たちは、岩塩の(ある)ところに行って、岩塩を舐めるのだ」(II-03.10)

以下に、ʔəʔɔ の統語論的に重要な用法を二つ挙げておく。

授受を表す文において受領者を表す名詞句に付く

第4章 4.2.2 に述べているとおり、授受を表す *phîlāN* は、二つの目的語を取ることができる。

- (41) jə- phîlāN ʔəwê láíʔəu  
 1sg 与える 3sg 本  
 「私は彼に本を与えた」

この文における動詞の後に現れた二つ目の名詞句には、側置助詞 *dè* を付けることができるのだった。

- (42) jə- phîlāN ʔəwê dè láíʔəu  
 1sg 与える 3sg (共) 本  
 「私は彼に本を与えた」

phílân を用いた文は、もう一つのパラフレーズが可能である。それは、次のように、受領者を表す名詞句を着点として捉えなおし、この名詞句に ʔəʔó を付けて斜格補語にする方法である。

- (43) jə- phílân láíʔàv (lé) ʔəwê ʔó  
 1sg 与える 本 (場) 3se  
 「私は彼に本を与えた」

- (44) nə- mə- bá phílân chəkəlò lé thóθânwò ʔó nó lô  
 2sg (非現) (当為) 与える 謝礼 (場) 梟 (のだ) (断定)  
 「あなたは梟に謝金を渡さなければならない」(I-03.18)

所有者を表す名詞句に付く

第 4 章 4.9 に述べているとおり、ポー・カレン語に所有を表す文は 2 種類ある。そのうちの 하나가、所有物を表す名詞句を動詞 ʔó 「ある」の主語の位置に置き、所有者を表す名詞句に側置名詞 ʔəʔó を付ける方法である。

- (45) kā ʔó (lé) jə- ʔó  
 自動車 ある (場) 1sg  
 「私は自動車を持っている(直訳:私のところに自動車がある)」

この表現で所有者は、所有物が存在する場所として捉えられている。

## 第13章 場所名詞

側置名詞以外にも、名詞句の後に付いて、その名詞句を補語として文中に導入する機能を持つ名詞がある。場所的な概念を表す一群の名詞である。例えば、次の文で、名詞句 *thî klà* には側置助詞がついていない。

- (1) *bá      òi      wè      thî klà      nó      mwēbò      lō*  
(当為) 死ぬ (強意) 水 中 その ~というわけだ (断定)  
「(彼は) 水の中で死ぬことになってしまったというわけだ」(III-12.34)

側置助詞がついていないにもかかわらず名詞句 *thî klà* が補語として働くことができるのは、*ʔəklà* 「中」という名詞が現れているからである。場所的な概念を表し、かつ、このような働きを持つ名詞を本論文では場所名詞(location noun)と呼ぶ。

場所名詞は、側置名詞と同様、下の(2)のように代名詞の第一形を前に置くことができるし、(3)のように側置助詞と共起することもできる。つまり側置名詞とよく似ている。

- (2) *nə-    phānkhú*  
2sg 上  
「あなたの上」
- (3) *lé      cəpwē    ʔəphānkhú*  
(場) 机 上  
「机の上に」

しかし、次の一点において場所名詞は側置名詞と異なっている。それは、場所名詞が単独で文を形成することができるという点である。

- (4) *ʔəphānkhú*  
上  
「上だ!」

単独で文を形成することができるのだから、当然のことながら次のように単独で名詞句を形成することもできる。

- (5) *ʔè      mwē    ʔè      jū      lé      ʔəphānkhú      nó |*  
(条件) (繋) (条件) 見る (場) 上 (題)
- nə-    mə-      dá      bá      ʔədài    nī      khô      nó      lō*  
2sg (非現) 見える (不抗) 羽 二 ~面 (のだ) (断定)  
「(ゴキブリは) 上から見ると二つの羽が見える」(II-06.13)

側置名詞は単独で名詞句を形成することもできない。

上で述べた特徴を一般の名詞、側置名詞、側置助詞と対比して示しておく。

	名詞を補語として導入する機能	単独で文形成可能	代名詞第一形と共起可能	側置助詞と共起可能
一般の名詞	no	yes	yes	yes
場所名詞	yes	yes	yes	yes
側置名詞	yes	no	yes	yes
側置助詞	yes	no	no	no

場所名詞は側置名詞と同様に、音節 ʔə で始まり、前に名詞が付いたときにはこの ʔə がしばしば脱落する。特に、代名詞の第一形の後ではほぼ義務的に脱落する（上に挙げた例 (2) を見よ）。

以下に様々な場所名詞を見ていく。以下に挙げる例には、単独で名詞句を形成しているものは含まない。すべて、名詞句に後置されて側置助詞と同じような機能を担っていると考えられる例である。

### 13.1 ʔəphâṅkhú

ある物体に対して地球の中心とは逆方向にある空間。すなわち「上」を表す。

- (6) jwàdòmé ʔó lé láithû ʔəphâṅkhú

眼鏡 ある (場) 貝葉

「眼鏡は貝葉の上にあります」(I-sen.15)

- (7) chəʔótunkàijè nó ʔó wêdá lé yáṅkhú ʔəphâṅkhú

綿雲 (題) ある (強意) (場) 地面

ʔəphài jējà nó | thòn cò ʔətən læchì nó lî

(長さの単位) 五百 (前提) 到着する (遠隔) マイル 十 (のだ) (断定)

「綿雲は、地面の上 500 パイ (1 パイ=約 30cm) から 10 マイルのところにある」(III-05.21)

「感情の向かう対象」を表す ʔəphâṅkhú

ʔəphâṅkhú には、感情を表す動詞と共に現れて、感情の向かう対象を表す用法がある。この ʔəphâṅkhú は、既に「上」という意味を失っている。よって、単独で発話を形成することのできる「上」とは別物である可能性があり、もしそうであるならば、側置名詞に分類すべきである。本論文では便宜的に場所名詞を論じる中で扱うことにする。下に例を挙げる。

- (8) jə- θà tòlòn lé ʔəwê ʔəphâṅkhú

1sg 心 まっすぐな (場) 3sg

「私は彼に誠実な心で接している」

側置名詞の Ꞥəyān(前章 12.1) にも同様の用法があるが、Ꞥəyān と Ꞥəphānkhú は次の二つの点において異なる。

まず一つは、Ꞥəyān が心配や憐れみを表す動詞と共に用いられることが多いのに対し、Ꞥəphānkhú の場合にはそのような制限がないということである。

もう一つは、Ꞥəyān が目的語として現れ得る名詞句には付かないのに対し、Ꞥəphānkhú は目的語として現れ得る名詞句にも付くということである。例えば、Ꞥəphānkhú が用いられた次の例を見られたい。

- (9) jə- Ꞥé phlòun chichá Ꞥəphānkhú  
1sg 愛する カレン 民族  
「私はカレン民族を愛している」

この例の Ꞥəphānkhú は、取り除いて下のようにすることもできる。

- (10) jə- Ꞥé phlòun chichá  
1sg 愛する カレン 民族  
「私はカレン民族を愛している」

Ꞥəyān の場合には、Ꞥəyān を取り除くことができない。

このように Ꞥəphānkhú は目的語として現れ得る名詞句にも付くので、これが付いた名詞句が目的語なのか斜格補語なのか区別がつかないという問題が生じる。例えば、(9) において、phlòun chichá という名詞句が、(10) と同じようにあくまでも目的語としての地位を保っているのか、それとも Ꞥəphānkhú に導かれた斜格補語なのかの判断は難しい。今のところこの問題に対する結論は出すことができない。また、Ꞥəphānkhú が付いた場合と付いていない場合とで意味がどのように異なるのかは今のところよく分かっていない<sup>1</sup>。

下に例を見ていく。まず、感情の向かう対象を表す名詞句が目的語として現れることのできる場合の例を挙げる。

- (11) həphlòun θiləphá təmjan |  
カレン (複) 驚く  
pàdú jàuján bá nə- phānkhú θèyòn |  
尊重する 尊敬する (無意) 2sg (継起)  
ʔánʔàu bá nə chá mā  
誉める (無意) 2SG (非常) (非常)  
「カレンの人々は驚いて、あなたを尊敬し、讃えていますよ」(017.11)

- (12) chiphú kō chī dè nó  
民族 (毎) 民族 (毎') (題)

<sup>1</sup>他動性の低い二項述語のときに、名詞の格標示が典型的な他動詞の場合と異なるということが様々な言語に見られる(角田 1991 などを参照)。感情を表す動詞の目的語に Ꞥəphānkhú が付き得るという現象は、この通言語的な傾向と軌を一にするものかもしれない。日本語でも、「のこと」という形式が、感情を表す述語の場合に多く現れる。例えば「私は父のことを愛している」。なお、ビルマ語でも、感情の向かう対象を表す名詞句にしばしば /ʔəpò/ 「上」という名詞が付加される(澤田英夫 p.c.)。ポー・カレン語と似た現象であり、興味深い。

lé ʔəθí ch̀ichá phānkhú nó  
(場) 3pl 民族 (題)

mə- bá ʔédú wê thəmā l̄  
(非現) (当為) 愛する (強意) 専ら (断定)  
「一般的に言って、どのような民族でも、自分達の民族のことは、愛するべきである」(IV-01.70)

次に、感情の向かう対象を表す名詞句が目的語として現れることのできない場合の例を挙げる。

- (13) nə- phānkhú jə- θóuNθà ʔú pēθíθò lê nó  
2sg 1sg 心 ある どのように (疑) (題)  
nə- θijā thá ch̀ l̄ bā  
2sg 知る (保持) CHə (断定) (疑)  
「あなたに対して私がどのような感情を抱いているかをあなたは知っていますよね」  
(011.23)

- (14) máuchôn jə- phānkhú càibò |  
親しい 1sg (条件)  
kəpərân θôuN phí lā láí nāN béin chàí  
書く 送る (裨益) (願望) 手紙 (少数) ～枚 CHAI  
「私に親しみを感ずるなら、手紙を書いて送ってください」(017.31)

- (15) lə- yà dè lə- yà ʔəphānkhú θóuN tò θà lòn  
一 ～人 (列举) 一 ～人 心 まっすぐな 心 まっすぐな  
ʔè lə- ʔú bá nó | ch̀iphú mômó lànāN θí |  
(条件) (否) ある (否') (題) 民族 同じ (逆接) (類似)  
nèʔán lóθà mə- θí mwē ʔé l̄  
信じる (相互) (非現) できる (繫) (否) (断定)  
「ひとりひとりが互いに対して誠実な心を持たなければ、同じ民族であっても、信じていることができるわけがない」(IV-01.85)

- (16) lé pə- ch̀ phānkhú θàucà lə- phlóuN nó  
(場) 1pl 民族 忠誠心 一 ～個 (題)  
dau yàyon ʔé  
(使役) 壊れる (否)  
「私達の民族に対して、(私達は) 忠誠心を失わない」(IV-01.100)

- (17) lé xīphāN phānkhú khô θóuNθà thēin  
(場) (人名) (対比) 心 親しい  
ʔú mjā kō nì dè l̄  
ある (非常) (毎) ～日 (毎') (断定)  
「ファイパウンに対しては、親しみを毎日強く感じています」(IV-04.266)



- (18) cō ʔəthàibòn phlòuN ch̀phú phānkhú nó  
 兄 血筋 カレン 民族 (題)  
 chəʔé lànçà bá xì  
 愛情 減る (催促) (禁止)  
 「あなたの民族であるカレン人に対しては、愛情が減りませんように」(V-05.112)

## 13.2 ʔəphânlá

ある物体に対して地球の中心と同じ方向にある空間。すなわち「下」。

- (19) lé kəml̩n phən lé th̩kh̩ló phən lé yānkhú phānlá  
 (場) 井戸 中 (場) 川 中 (場) 地面  
 nó θí th̩ ʔó wê ch̩ l̩  
 (題) (類似) 水 ある (強意) (婉曲) (断定)  
 「井戸の中、川の中、地面の下にも水は存在する」(I-02.4)
- (20) lé ʔədài çā phānlá nó ʔədài bən ʔó dài  
 (題) 羽 硬い (題) 羽 薄い ある まだ  
 lə- th̩n dài nó dá bá wê ch̩ l̩  
 一 ~層 まだ (題) 見える (不抗) (強意) (婉曲) (断定)  
 「硬い羽の下に薄い羽がもう一層あるのを見た」(II-06.11)
- (21) nóN θài khwái lān̩n | pəl̩u l̩n θà lé pháipàp̩n  
 池 乾く (徹底) (逆接) 入れる (下方) (再帰) (場) 泥  
 phānlá nó | chə- dá pə n̩n yà ʔé  
 (前提) CHə 見える 3PL (少数) ~人 (否)  
 「池が乾いてしまっても、泥の下に隠れば、誰にも私達のことは見えない」(III-15.13)

## 13.3 ʔəlá

これも ʔəphânlá と同じく「下」という意味である。ʔəlá のほうが使われる頻度が少ないということ以外、ʔəphânlá との違いは分からない。

- (22) dáθáth̩u lé yānkhú lá ʔò θí ʔó ʔá wê ʔəkhúc̩n |  
 鉱物資源 (場) 地面 (遠方) (類似) ある 多い (強意) (理由)  
 dúçā c̩kl̩ wédá ch̩ mwēbò l̩  
 発展した 賑やかな (強意) (婉曲) ~というわけだ (断定)  
 「(ビルマは) 地下の鉱物資源も豊富なので、裕福である」(II-07.19)

## 13.4 ʔəphə̀N

ある物体の内側の空間。すなわち「中」。名詞に後置され、さらに ʔə が脱落したとき、wə̀N と発音されることがある。例えば、yéiN wə̀N 「家の中」。

- (23) hə- thikhāN phə̀N jò ʔəkhə̀jò  
1pl 国 (題) 現在  
ʔánlè thán kò mèiN dè chī lō  
変える (完成) (毎) ~種類 (毎') (婉曲) (断定)  
「私達の国では、現在、何もかもを変えてしまっている」(014.12)

- (24) ʔó wē lé kò phàdó lə- kò phə̀N nó lō  
いる (強意) (場) 島 大きな 一 島 (のだ) (断定)  
「(彼らは) ある大きな島に住んでいた」(I-04.3)

- (25) pə- mə- lì ʔánkhwē lé thīkhló phə̀N ʔò  
1pl (非現) 行く 釣る (場) 川 (遠方)  
「あちらの川で釣りをしましょう」(I-06.48)

▷ ここで thīkhló phə̀N 「川の中」が指しているのは川岸をも含んだ部分である。水の中に入っ  
て釣りをするわけではない。

- (26) jálū jádòN ləphá cáin wéiNwá mòθō  
鰻 鰻の一種 (複) 出る 動き回る 騒ぐ  
nóN phə̀N nó chàì  
池 あの CHAI  
「鰻たちは外に出て、池の中で動き回って騒ぎ立ててくれ」(III-15.20)

- (27) mənī lə- yà kə̀tə̀tō thán dòuNláu phə̀N nó̀tā ...  
人間 一 ~人 生まれる (外方) 世界 (前提)  
「人間がこの世に生まれ出て...」(III-16.9)

- (28) yéiN phə̀N θí ʔó wē máu ʔé  
家 (類似) いる (強意) 快適な (否)  
「家の中でも、(彼女は) 楽しくなかった」(IV-04.349)

## 13.5 ʔəkhlòuN

ある物体の外側の空間。すなわち「外」。

- (29) thònnóyòN cáin thán wē lé chāiN khlòuN nó chī lō  
それから 出る (外方) (強意) (場) 店 (のだ) (婉曲) (断定)  
「それから、店の外に出たのです」(001.1936)

- (30) jə- méθá khlòuN nə- ʔébòuN jò  
1sg 目 2sg 裏切る 1SG  
「私の見えないところで、お前は私を裏切った」(004.159)

## 13.6 ʔəlòN

物体の表面。「表面」「上」。

- (31) lé dùlâ khán lòn ʔəchón klà nó  
 (場) 蠅 足 毛 間 (題)  
 chəʔúchəʔòN ləphá bàuthá wèdá tā ...  
 ばい菌 (複) 付着する (強意) (前提)  
 「蠅の足の表面の毛の間にはばい菌がくっついていて…」 (II-12.13)

- (32) yê thàin ʔópwài wê lé  
 来る 帰る 休む (強意) (場)  
 θéin khánthài θéinwī lòn nó lô  
 木 下 木の根 (のだ) (断定)  
 「(カエルは) やって来て、木の下根の上で休んでいた」 (III-03.6)

- (33) chəchá ʔó hə- lòn nó | hə- bá  
 病氣 ある 1pl (前提) 1pl (当為)  
 ʔó jū làn θà kō yà dè lô  
 いる 見る (帰的) (再帰) (毎) ~人 (毎') (断定)  
 「身体に病氣があるなら、どの人も自愛しなければならない」 (IV-04.132)

- (34) lé ʔə- mūtôuN cú lòn [R xilà chéinpràn tè]  
 (場) 3sg 母 手 美しい 清潔な (非常)  
 ʔə- mé nó jū thán thàin ʔə- mō  
 3sg 目 (題) 見る (上方) (返答) 3sg 母  
 「母親の腕の中で、(赤ん坊の) とても美しい目は、母親を見上げ返した」 (V-05.18)

## 13.7 ʔəméjâ

生物の顔のある側に隣接した空間。あるいは建物などの正面側の空間。すなわち「前」。

- (35) phúθá lókwè lé phjā ʔəméjâ  
 子供 遊ぶ (場) 寺  
 「子供が寺の前で遊んでいる」 (I-sen.7)
- (36) lé mōləmjàin phjā phàdú kəbàn θəni méjâ  
 (場) (地名) 市場 大きな 船 埠頭  
 khəmlōN θələphá yê lòn tháu kəbàn ʔá mā chī lô  
 民衆 (複) 来る 追う 乗る 船 多い (非常) (婉曲) (断定)  
 「モールメインの大市場の船着き場の前に、人々が船に乗るためにたくさんやって来ていた」 (IV-04.18)

- (37) càu lán pjà wê jə- méjá nó lô  
 引く (下方) (提示) (強意) 1sg (のだ) (断定)  
 「(大叔父は毛布を) 私の前に引きずり出してみせた」(V-02.82)

### 13.8 ʔəkhâiN

生物の顔のある側とは逆側の部分。あるいは建物などの裏側の部分。すなわち「後」「裏」。  
 名詞 khâiN「尻」に由来する。

- (38) lì pjáu lā jə- khâiN  
 行く つき従う (願望) 1sg  
 「私に付いてきてください」(006.69)

▷ pjáu「つ付き従う、ついていく」は「つき従われる人」を目的語として取る動詞である。ほとんどの場合、「つき従われる人」を表す名詞句に ʔəkhâiN を付ける。

- (39) yê thàiN pjáu yàmú khâiN lé xîphàn ʔó ʔò  
 来る 帰る つき従う 叔母 (場) (人名) (遠方)  
 「ファイパウンの家まで私のあとについて来なさい」(IV-04.444)

### 13.9 ʔəlāNkhâiN

生物の顔のある側とは逆側に隣接した空間。あるいは建物などの裏側の空間。すなわち「後」。ʔəlāNkhâiN と同発音する。前節の ʔəkhâiN との違いは、ʔəlāNkhâiN が後側の「空間」を表すのに対し、ʔəkhâiN が顔とは逆側の「部分」を表すということである。lāN は元々「場所」の意味。khâiN は「尻」に由来する。

- (40) ʔóthō lú hə- lāNkhâiN ʔò  
 残る (場) 1pl (遠方)  
 「(彼は) 私達のずっと後に取り残されている」(001.223)
- (41) lāNphlāNchân lé ʔəphlòuN lāNkhâiN  
 落ちぶれる (場) 他人  
 「他人の後で落ちぶれている」(IV-03.59)

### 13.10 ʔəklà

物体と物体に挟まれた空間。すなわち「間」。

- (42) lāNbèn thî klà | θámá θî wê lô  
 沈む 水 窒息する 死ぬ (強意) (断定)  
 「(猿は) 水の中に沈んで、窒息して死んでしまった」(III-12.32)

- (43) chə- bá tōUN chəchəN klà nó mwē jə  
 CHə (当為) 苦しむ 雨 (題) (繫) 1SG  
 「雨の中で苦しんでいるのは私だ」(IV-09.20)

- (44) lé chəkəthái klà ...  
 (場) 窮屈さ  
 「困難の中で…」(IV-10.3)

### 13.11 ʔəkhánthài

物体が地面と接しているあたりの部分。「足もと」。kháN は「足」、thài は次節に示す ʔəthài で、元々の意味は「足のそば」。

- (45) klōN ləkōUN khánthài  
 仏塔 (地名)  
 dà làn θà dè lōUNpá ʔwà lōUNpá θəN yōN ...  
 敷く (下方) (再帰) (共) 石板 白い 石板 黒い (継起)  
 「ヤンゴン・パゴダ(=シュエダゴン・パゴダ)の(絵の)基壇には白や黒の石がちりばめてある」(V-02.25)
- (46) chəjəkhā làxwè lə- nà lé klànklaín cā thəUN  
 暑期 満月 一 ~夜 (場) インドカリン 老いた 木  
 khánthài nó ʔwàʔwà lə- yà  
 (題) (人名) 一 ~人  
 ʔəkhò jū làn cəcəθéin ʔəkhā nó ...  
 待つ 見る (内方) (人名) 時 (題)  
 「暑期の満月のある夜、古いインドカリンの木の下でワーワーがチョーチョーティンを待っていたとき…」(V-05.50)

### 13.12 ʔəthài

物体に接している空間。「傍ら」「そば」「横」「隣」。

- (47) cō yē thōN lé nə- yàN thài jàU  
 兄 来る 着く (場) 2sg 姿 (完)  
 「僕は君の隣に帰って来たよ」(IV-04.457)
- (48) jə- chīnàN phūbì yàN thài nó ...  
 1sg 座る 大叔父 姿 (前提)  
 「私は大叔父さんの横に座って…」(V-02.19)
- (49) lé ʔə- yéin thài ʔə- klò phəN nó ...  
 (場) 3sg 家 3sg 畑 中 (題)  
 「彼の家の横の畑の中には…」(II-08.16)

- (50) méθá thài dá bá wê  
目 見える (不抗) (強意)  
[C phlòunchèphú chə- thè chə- thôn]  
カレン人 CHə (足の甲で) 蹴る CHə (足の裏で) 蹴る  
「(私は) 目の前で (1 人の) カレン人が蹴られているのを見ていた」 (IV-07.3)

### 13.13 ʔəkhúdà

物体の、地球の中心とは反対側の平らな面。「おもて」「表面」。名詞 khú「頭」、動詞 dà「敷く」に由来する。

- (51) wāplàn phən θéinthò khúdà  
野原 中 切り株  
chōn làn ʔópwài bá xì  
とまる (下方) 休む (催促) (禁止)  
「野原の中の切り株の上にとまって休むな」 (III-12.11)
- (52) lé yáŋkhúkhloŋ dōŋláu khúdà jò ...  
(場) 地球 世界 この  
「この地球上で...」 (II-03.2)
- (53) chì dú kòkəjàn khúdà jò  
民族 大きな 世界 (題)  
ʔə- chì láilè θè pàdúpàprè wê ʔəkhúcòn ...  
3sg 民族 文学 (複) 敬う (理由)  
「世界中の大きな民族は、自分達の文学を敬っている...」 (IV-01.22)
- (54) thán màn lān lé ʔəlānthô khúdà yòn ...  
上がる 取る 場所 (場) 舞台 (継起)  
「舞台の上の (適当な) 場所を取って...」 (V-04.78)

### 13.14 ʔəkhúthò

細長い物体の先端部分。「先」「先端」。khú は名詞「頭」、thò は動詞「突く」に由来する。

- (55) jáphú jáli ləphá lì ʔókhò wè  
小魚 小魚 (複) 行く 待つ (備え)  
lé lāin khúthò ʔò yòn ...  
(場) あか汲み (遠方) (継起)  
「小魚達は、あか汲み (= 農業用具の一種) の先端に予め行って待っており...」 (III-15.21)

- (56) lé ʔə- nâ khúthò nó dàu lànchàn dè  
(場) 3sg 鼻 (場) (使役) 垂れる (共)

ʔəθí nâthî nóṯā ...

3pl 鼻汁 (前提)

「(蠅は) 鼻の先から分泌液を垂らして...」(II-12.13)

- (57) ʔəbònxwí ʔə- khúthò ʔè bádòN lóṯà chī càibò |  
棒 3sg (条件) 同じ (相互) (婉曲) (条件')

θəwàì lóṯà ləN ʔé

吸う (相互) もはや (否)

「(磁石) の棒の先端がもし互いに同じなら、もはや吸い寄せ合わない」(III-01.12)

### 13.15 ʔənàin

物体から近い距離にある空間。ʔəthài よりも少し遠い場所を指す。「近く」「そば」。

- (58) lé ɕókhló nàin lì cáinkwè wê  
(場) 川 行く 遊ぶ (強意)

「川べりに遊びに行った」(IV-07.44)

- (59) [R mídòuN phàn θùrîθùrî] ʔənàin  
電球 明るい チラチラと

twà khənāN ↔ jə- phókhwâ

計算する 数字 1sg 息子

「電球がチラチラと光る横で、算数の勉強をしていた。私の息子が」(V-03.98)

- (60) jə- lì chînàN lé ʔə- nàin  
1sg 行く 座る (場) 3sg

「私は彼の近くに座った」(V-03.98)

### 13.16 ʔəxònnàin

ʔənàinxòN とも言う。ある物体から近い距離にある空間。「近く」「そば」。ʔənàin と類似しているが、意味の違いは明らかでない。

- (61) xíphàn yê thàin ʔó bàu thán  
(人名) 来る 帰る いる 近い (変化)

lé khléinθàucà ʔó xònnàin nóṯā ...

(場) (人名) ところ (前提)

「ファイブンはクレインタワーの近くに帰って来ていて...」(IV-04.209)

- (62) kòkəjàN khúda jò ʔē mwē  
 世界 表面 この (条件) (繋)  
 θitá ʔē ʔó lé wēcò xònnàin càibò ...  
 (人名) (条件) いる (場) 兄 (条件')  
 「この世界で、ティーダーが僕の近くにいてくれるなら…」 (V-01.48)
- (63) khāN pəjàN ʔə- nàinxòN lé khánthàilá lə- khô nó  
 国 ビルマ 3sg 近く (場) 北 ー ～面 (題)  
 təràu khāN ʔó wêdá lî  
 中国 国 ある (強意) (断定)  
 「ビルマの北側の隣には、中国がある」 (II-07.3)



## 第14章 名詞修飾助詞

名詞修飾助詞(noun modifying particle)は名詞句に付く助詞であり、その点では側置助詞と共通する。しかし、側置助詞が文中に補語を導入する機能を持つものに対して、名詞修飾助詞にはそのような機能がない。つまり、名詞修飾助詞は名詞句を修飾する機能しか持っていないのだと考えられる。

名詞修飾助詞には名詞の前に置かれるものと後に置かれるものがある。

### 14.1 chəlé

名詞句の前に付く。主題化された名詞句に付き、その名詞を目立たせる働きをする。

- (1) chəlé thī θí jò ʔó wê kò cón dè l̥  
水 (複) (題) ある (強意) (毎) ~箇所 (毎') (断定)  
「水というのは、どこにでも存在する」(I-02.3)

- (2) chəlé càθôn θí jò  
人間 (複) (題)  
ʔánmônʔán chò θí kò mèn dè l̥  
使役する CHə できる (毎) ~種類 (毎') (断定)  
「人間というのは、何にでも仕事をさせることができる」(I-04.9)

- (3) chəlé thílá θí jò  
塩 (複) (題)  
ʔó wê ʔá mèn nó ch̄ l̥  
ある (強意) 多い ~種類 (のだ) (婉曲) (断定)  
「塩というのは、沢山の種類がある」(II-03.11)

### 14.2 lé

名詞句の前に付く。主語や目的語に付いて、強調を表す。l̥とも発音される。側置助詞の lé と同じ形であるが、名詞修飾助詞の lé は、補語を導入するという働きを持たない。

- (4) ʔəwê jō thán lé θéin khī nó |  
3se 見る (上方) 木 先 (前提)  
dá cò thán wê lé láí θwī lə- θwī nó l̥  
見える (遠隔) (上方) (強意) 鳶 巢 一 巢 (のだ) (断定)  
「彼は、木の先を見上げると、鳶の巣を一つ発見した」(I-01.5)

- (5) ʔəθiwē lòn blú ʔán khwái wē lé chəphúchəxā  
 3pe 追う 滑空する 食べる (徹底) (強意) 昆虫  
 [R mà yàyon bú dè chəthəwɪnchəbòn] θí nó ʔəkhúçòn ...  
 (使役) 壊れる 稲 (列挙) 植物 (複) (のだ) (理由)  
 「彼ら(鳥)は、稲や作物を害する昆虫を追って滑空し食べるので…」(II-01.19)
- (6) [C mùmè ʔəljā phàn chəcɔ làn bá thí ʔəkhú nó lə- phən |  
 太陽 光 光る 輝く (下方) 当たる 水 煙 その 1 ~ 回  
 ké thán wē lé lānlànʔəthícón] nó  
 成る (完成) (強意) (場) 虹 (題)  
 ʔəwēθí dá bá wē kō yà dè chū lō  
 3se 見える (不抗) (強意) (毎) ~ 人 (毎') (婉曲) (断定)  
 「太陽の光が光り輝いてその霧に当たったらその時、虹になったのを、彼らはみな  
 見ることができた」(II-10.17)
- (7) ʔán lé ʔəʔwí nó  
 食べる 美味しい物 その  
 「美味しい物を食べなさい」(II-14.1)
- (8) lé ʔə- wəkhwā lə- yà nó chəkhlaɪn  
 3sg 兄 一 ~ 人 (題) 言葉  
 lé [R ʔə- phā máláu wē] ʔəkhəpəjō nó  
 (関) 3sg 父 注文する (備え) 意味 (題)  
 ʔəwədə θijā wē yiyibábá nó lō  
 3se 知る (備え) 良く (のだ) (断定)  
 「彼の兄はといえば、父が命じた言葉の意味を、良く理解していた」(II-14.9)
- (9) lé phjā bàə̀nkhā lə- yà ɸó kəthū kē  
 もの 仏教徒 一 ~ 人 (題) 愚かな 大変  
 「仏教徒のほうは大変愚かだった」(025.9)

### 14.3 chāmwē

名詞句の前に付く。文の表す命題が、当該名詞句が指示する集合の要素すべてにとって真であることを表す。「すべての ~」<sub>o</sub> chāmwē と同発音される。

- (10) kəkəjàn phən chāmwē mənīchì dó ləphá  
 世界 中 民族 大きな (複)  
 láipərən ʔó wē thəmə chū lō  
 新聞 ある (強意) もっぱら (婉曲) (断定)  
 「世界の中の大きな民族は、新聞を有しているのがふつうである」(III-07.11)

- (11) lɛ̀kà khú **chàm wē** ch̀b̀b̀n [R ʔó] ləphá nó d̀ò  
 世界 表面 民族 いる (複) (題) (別個)  
 ʔó wē d̀è ch̀b̀b̀n dú ch̀b̀b̀n pī dài chī l̀ò  
 いる (強意) (共) 民族 大きい 民族 小さい まだ (婉曲) (断定)  
 「世界にいるすべての民族には、大民族と小民族とがいる」(IV-01.6)

- (12) **chàm wē** [R jə- θ̣j̄â] thən ləphá nó  
 1sg 知る 洞穴 (複) (題)  
 jə- k̀è l̀àn l̀ò  
 1sg 書く (下方) (断定)  
 「私が知っている洞穴はすべて挙げておいた」(V-06.58)

- (13) chəphúchəxā **chàm wē** ʔəθí ləphá  
 動物 3pl (複)  
 ʔó wēdà x̣úx̣úx̣ànx̣àn nó l̀ò  
 いる (強意) 平等に (のだ) (断定)  
 「動物たちのすべては、平等に暮らしていた」(II-02.2)

▷ chàm wē は ʔəθí に付いている。

ごくごくまれに、chàm wē は名詞の後に置かれることがある。

- (14) thú khəml̥ouN **chām wē** [R ʔó] nó bá yê kón  
 鳥 民衆 いる (題) (当為) 来る 集まる  
 bá ṭàin phí ṇàn phàdú nó k̀ò ṇì d̀è l̀ò  
 (当為) 作る (裨益) 宮殿 大きな (題) (毎) ~日 (毎') (断定)  
 「存在するすべての鳥の民衆は、集まって大宮殿を毎日作らなければならなかった」  
 (II-02.7)

## 14.4 kənī

名詞句の前に付く。文の表す命題が、当該名詞句が指示する集合の要素にとってのみ真であることを表す。すなわち、「限定」を表す。「～のみ」「～だけ」。主語に付いたとき、主語の倒置が生じる。

- (15) yê △ **kənī** ʔəkhwâ l̀ò  
 来る 男 (断定)  
 「男だけが来た」(001.1607)

- (16) ʔó △ **kənī** ʔəmú l̀ò  
 いる 女 (断定)  
 「女しかいない」(001.1607)

- (17) θàv      △ kən̄    pəθí    l̄      kà    ?é  
 うるさい                      1PL (断定) 限る (否)  
 「うるさいのは私達だけではない」(V-03.50)

- (18) ?án      kú      △ kən̄    həkhwà    l̄  
 食べる 菓子                      男                      (断定)  
 「男だけが菓子を食べた」(001.1607)

- (19) hə    jò      ?án      kən̄    kú      l̄  
 人    この    食べる                      菓子 (断定)  
 「この人は菓子ばかり食べている」(001.1607)

- (20) l̄      kən̄    phlòon    chəkhlaín    l̄  
 語る                      カレン 言葉                      (断定)  
 「カレン語だけを話している」(001.1607)

kən̄ が前置された名詞句の後に、一般助詞の θí や má が置かれると、「～でさえ」という意味を強調する。

- (21) kən̄    θéinlá    θè    θí      ?əjôn    j̄      yòn |  
                     木の葉    (複)    (類似)    色      緑色の    (継起)  
                     ?ánlè    thán    θà      lé      ?əbàn    θí      wê      dài      l̄  
                     変える    (完成)    (自発)    (場)    黄色      できる    (強意)    まだ    (断定)  
                     「木の葉でさえ、緑色だったのが黄色に変化することができるのだ」(V-01.36)
- (22) kən̄    jò      θí      má      ?əwê    báθà      dài    ?é  
                     これ    (類似)    ～さえ    3se    気に入る    まだ    (否)  
                     「それにもかかわらず彼はまだ気に入らないようだ」(001.1608)

## 14.5 kəjē

名詞句の前に付く。kən̄ と同様、「限定」を表す。「～のみ」「～だけ」。やはり、主語に付いたとき、主語の倒置が生じる。kəjē と kən̄ は、意味と統語的な振る舞いが似ている。どのような違いがあるのかは今のところ分からない。

- (23) lé      chə?əuN    kàijài    lànphí    ?əphàn    nó  
 (場) 雲                      綿      低い      中                      (題)  
                     ?ó      wêdá    △ kəjē    thîphlóunphó    nó      l̄  
                     ある    (強意)                      水滴                      (のだ)    (断定)  
                     「低い綿雲の中には、水滴しか存在しない」
- (24) n̄      ?án      θā      wê      kəjē    khlaí  
                     取る    食べる    (新局)    (強意)                      亀

dè thèinthòun θí láukhlà nó lô  
 (列挙) 鰻 (複) 全部 (のだ) (断定)  
 「(人間達は) 亀と鰻だけを全部取って食べてしまった」(III-15.37)

- (25) cháiphúchá θiləphá mə- θijá làn wê kəjē [R bá  
 農民 (複) (非現) 知る (内方) (強意) (当為)  
 θóuun ʔán bú ] ʔəyāincón lô θí càibò ...  
 植える 食べる 稲 事柄 (断定) (類似) (条件)  
 「農民が、稲を植えて生活することしか知らなかったならば...」(IV-09.5)

kənī と同様、kənī が前置された名詞句の後に、一般助詞の θí や má が置かれると、「～でさえ」という意味を強調する。

- (26) kəjē chənəŋ pənā θè θí má  
 牛 水牛 (複) (類似) ～さえ  
 hə ʔánmən hə dú pjáu dài  
 1pl 使役する 1pl 叩く (専念) まだ  
 「(人間は) 牛や水牛でさえ使役したり叩いて働かせたりするのだ」(IV-04.80)

## 14.6 láudè

名詞句の前に付く。後に名詞句を列挙し、文の表す命題が、列挙された名詞句の指示対象すべてにとって真であることを表す。「～のうちのすべて」「～の全部」。láu は「尽きる」という意味の動詞 láu、dè は側置助詞の dè に由来する。

- (27) láudè thúchànchî thwēphókà θí  
 (鳥の名) (鳥の名) (複)  
 bá yē wê kò yà dè chī lô  
 (当為) 来る (強意) (毎) ～人 (毎') (婉曲) (断定)  
 「チャンチ鳥もトエボンカ鳥も、みな、来なければならなかった」(II-02.8)

▷ ここでは人間を数える助数名詞 yà が使われている。これは、物語の中で鳥が擬人化されているからである。本来、鳥を数える助数名詞は béin である。

- (28) láudè chəphúchəxā chəphúchəbòn θiləphá  
 動物 植物 (複)  
 bá ʔán wê thilá nó thəmā lô  
 (当為) 食べる (強意) 塩 (題) もっぱら (断定)  
 「(どの) 動物も植物も、塩を養分としなければならないことが普通である」(II-03.8)

## 14.7 dè

名詞句の前に付く。列挙を表す。dē とも発音される。道具や随伴者などを表す側置助詞の dè (第 11 章) や、理由や即時性を表す接続詞の dè (第 21 章) と同源である。

(29) thwíwūθān dè kəchān

狼 ～と 象

「狼と象」(I-09.1)

(30) ʔəwēdā dè phú dè mā θiləphá mādòn ʔándòn wē  
3sg (列挙) 子 (列挙) 妻 (複) 真似て作る 真似て食べる (強意)

ʔə- wēkhwā chəʔānchəʔò nó ʔəkhúcòn ...

3sg 兄 食べ物 (のだ) (理由)

「彼と子供と妻は、彼の兄の食べ物を真似て、作って食べたので...」(II-14.25)

## 14.8 指示の働きをする jò, nó, ʔò

jò, nó, ʔò の三つは指示の働きをする。すべて名詞句の後に付く。これらは意味的に関連があるのでここでまとめて論じる。これらの助詞には三つの用法がある。すなわち、現場指示 (deictic reference)、文脈指示 (anaphoric reference)、遠近表示 (distance representation) の三つの用法である。三つの助詞のうち ʔò には文脈指示の用法がない。次の表を参照せよ。yes はその用法が存在することを示し、no は存在しないことを示す。

	現場指示	文脈指示	遠近表示
jò	yes	yes	yes
nó	yes	yes	yes
ʔò	yes	no	yes

現場指示の用法は、話し手が目に見えるものを直接指し示す用法である。次の例における jò, nó, ʔò を見よ。

(31) phlòuN { jò / nó / ʔò } thô mā

人 高い (非常)

「{ この/その(あの)/あの } 人は背が高い」

現場指示の用法においては、jò は指示対象が話し手の領域にあることを表す。一方、nó は指示対象が話し手の領域の外にあることを表す。最後の ʔò は、指示対象が話し手の領域の外にあることを表すという点で nó と共通しているのだが、指示対象が話し手から非常に遠い場所にある場合にのみ、遠さを強調するために用いられる。ʔò が示す範囲は nó に含まれているので、ʔò を nó に置き換えても意味的な齟齬は生じない。

文脈指示の用法は、談話の中に既に出てきた名詞を指し示す用法である。

(32) lú ʔəwī dāʔò ʔəkhwā ʔó lə- yà

(場) 以前 (過去) 男 いる ー ～人

「昔男が 1 人いた」

phlòuN jò / nó thô mā  
 人 高い MA  
 「{ この/その } 人は背が高かった」

文脈指示の用法を持つのは、jò と nó の二つのみである。しかし、この二つの文脈指示の用法における差異は今のところ明らかでない。

現場指示の用法と文脈指示の用法におけるこれら助詞の役割は、名詞句が指示し得る対象物の集合の中からある部分集合を選び出すことである。ところが、これらの助詞がこの目的のために使われているのではない場合がある。

(33) yê lé cəpāN jò  
 来る (場) 日本  
 「日本に来てください」

(34) yê lé cəpāN ?ò  
 来る (場) 日本  
 「日本に来てください」

ここでの jò と ?ò の役割は、ある集合の中の部分を特定することではなく、「日本」が発話地点から近いところに存在するか遠いところに存在するかということを表すことにある。このような働きを遠近表示と呼ぶことにする。(33) では、話者は日本でこの文を発話しているが、(34) では、話者は日本とは別の場所で発話しているのである。遠近表示用法における三つの助詞の使い分けは、現場指示用法における使い分けと同じである。

以下に、jò、nó、?ò の順に様々な例を見ていく。

### 14.8.1 jò

まず、現場指示の例を挙げる。

(35) pə ləphá jò mwē pō ?əjáu dú tháu lê  
 人 (複) (繫) 誰 年齢 大きい (最上) (疑)  
 「この人たち (の中で) は、誰が一番年上か」(III-10.9)

(36) chəmú lə- yà jò jə- jō  
 女 ー ～人 1sg 見る  
 bádōN phlòuNmú lô  
 似ている カレンの女 (断定)  
 「この女性は見たところカレンの女性のようにだ」(IV-04.48)

(37) láí lə- béin jò yê lé láitáu khô ?ò  
 手紙 ー ～枚 来る (場) 郵便局 (対比) (遠方)  
 「この手紙は郵便局から送られてきました」(IV-04.364)

次に文脈指示の例を挙げる。

- (38) lənínó báʔəthò chəphàichəmə lànp̄hōn nótā |  
 先日 都合良く 仕事 開く (前提)  
 lì thán cáinkwè mēin lé  
 行く (上方) 遊ぶ (自然) (場)  
 təwān khóthí phū̀bì ʔó ʔò lō.  
 村 頂門 大叔父 ところ (遠方) (断定)  
 phū̀bì jò mwē wē lé mōthài khō | təphū̀wē dè phī |  
 大叔父 (繫) (強意) (強調) 母方 側 兄弟 (共) 祖父  
 ʔə- pī tháu nó lō  
 (名詞化) 小さい (最上) (のだ) (断定)  
 「先日、都合良い時間に仕事が終わわり、村はずれにある大叔父のところに遊びに行っ  
 た。この大叔父は、母方で、祖父の兄弟であり、末っ子である」(V-02.4)

次に遠近表示の例を挙げる。

- (39) nə- phlē khli lé ʔəméjā nó.  
 2sg 漕ぐ 舟 (場) 前  
 jə- mə- phlē lé ʔəlānkhāin jò lō  
 2sg (非現) 漕ぐ (場) 後 (断定)  
 「君は前で漕ぎなさい。私は後で漕ぐから」(I-06.23)
- (40) ʔənānchā mə- yān nə- yà jò |  
 彼女自身 (非現) 聞こえる 2sg ~人  
 dè nə- lū ʔō  
 (理由) 2sg 声 音がする  
 「彼女が君の声を聞いてしまうよ、声が高いのだから」(IV-04.74)
- (41) ʔókhò thāin wēcò lé təwān jò  
 待つ (返答) 兄 (場) 村  
 「私を村で待っていてくれ」(V-01.21)

▷ 恋人同士が別れる場面。男がヤンゴンに行ってしまう。「村」は、今、二人が住んでいる村である。この文から jò を取ってしまってもまったく問題がない。

## 14.8.2 nó

次に nó に移る。まず、現場指示の例を挙げる。

- (42) chəmú lə- yà nó nə- jō yì chī bā  
 女 一 ~人 2sg 見る 美しい (婉曲) (疑)  
 「あの女はお前が見て美しいと思うか?」(IV-04.53)



(43) tháwɪN lə- phlówN nɔ́ mwē ʔəwē chə lɔ́  
 袋 一 ～個 (繫) 3sg CHə (断定)  
 「その袋は彼のものです」(001.942)

(44) phlòwNmú lə- yà nɔ́ chəkhlaɪN ʔá mā  
 女性 一 ～人 言葉 多い (非常)  
 「あの女は口数が多い」(001.975)

(45) dàì phô nɔ́  
 髪に飾る 花  
 「あの花を髪に飾りなさい」(001.1226)

(46) phlòwN nɔ́ nə- pōN xì  
 人 2sg つきあう (禁止)  
 「あの人とはつきあうな」(001.3085)

次に文脈指示の例を挙げる。

(47) ʔəkhâ nɔ́ jə- ʔán báθà mì ʔé  
 時 1sg 食べる (欲求) ご飯 (否)  
 「その時、私はご飯を食べたくなかった」

(48) kəjāN chəkhlaɪN phjā nɔ́ bá lɔ́ ʔé  
 思うに 言葉 もの (当為) 語る (否)  
 「思うに、そのようなことは言う必要がない」(002.756)

次に遠近表示の例を挙げる。

(49) nə- phlē khli lé ʔəméjâ nɔ́ .  
 2sg 漕ぐ 舟 (場) 前  
 jə- mə- phlē lé ʔəlāNkhâɪN jò lɔ́ (=39)  
 2sg (非現) 漕ぐ (場) 後 (断定)  
 「君は前で漕ぎなさい。私は後で漕ぐから」(I-06.23)

### 14.8.3 ʔò

次に ʔò に移る。まず、現場指示の例を挙げる。

(50) jə- mi lé khàvkhó ʔò  
 1sg 寝る (場) ベッド  
 「私はあのベッドの上で寝る」(001.1829)

次に遠近表示の例を挙げる。

- (51) ʔəwê thòN wê lú lāN káNthài ʔàithài phjā ʔò  
 3sg 着く (強意) (場) 山 ふもと 修験者 道場  
 「彼は山のふもとの修験者の道場に到着した」(006.15)
- (52) mə- θəuN thán thàN phjā lé chəlāN θāN ʔò  
 (非現) 建てる (完成) (再度) 僧院 (場) 場所 新しい  
 「新しい場所に僧院を建てます」(010.8)
- (53) jə- thàN kəcó klòN thədèn  
 1sg 帰る 喜捨する パゴダ 傘  
 lú jə- təwāN kləuθhēN ʔò chū lō  
 (場) 1sg 村 (村の名) (婉曲) (断定)  
 「私は自分の村であるクラオトゥンに帰ってパゴダの傘を喜捨しました」(012.29)
- (54) ʔəwədə lī chōN làn lé thwí ʔàNthài ʔò  
 3se 行く とまる (下方) (場) 犬 傍ら  
 「彼 (=鳥) は犬のかたわらに下りていってとまった」(I-01.23)
- (55) ləjailəmō θwíwò nō ʔē thàN làn  
 間もなく (人名) (題) 来る 帰る (下方)  
 lé kəbāN ʔəphāNkhó lə- thēN ʔò  
 (場) 船 上 一 ~ 階  
 「間もなくトゥイーウォーは客船の 1 階に下りてきた」(IV-04.21)
- ▷ これは短編小説の 1 文である。もしこの文の発話者が客船の 1 階にいたのならば、ʔò ではなく jò が使われるところである。ʔò が使われているのは、これが地の文であり、小説の書き手はその場にいないからである。
- (56) lé jə- nāNphlòN ʔəkhā ʔò nè  
 (場) 1sg 独身 時 NE  
 「私が独身のときにね」(004.346)

#### 14.8.4 名詞化された形 ʔəjò, ʔəno, ʔəʔò

jò, nō, ʔò にはそれぞれ、接頭辞 ʔə- が付いて名詞化した ʔəjò, ʔəno, ʔəʔò という、意味的に対応する名詞が存在する。これらは名詞なので、本来ならこの章で扱うべきではないが、jò, nō, ʔò と共通の性質を持つのでここで述べておく。

名詞化された形は、次のように文中において名詞句として機能することができる。

- (57) ʔəjò chənó lē  
 これ 何 (疑)  
 「これは何ですか?」

このような名詞句は、他の名詞句 (下の例では phlòuN) の後に置かれることがある。

- (58) phlòuN ʔəjò pò lê  
 人 これ 誰 (疑)  
 「この人は誰ですか?」

名詞化された形が後置された phlòuN ʔəjò と、名詞化されていない形が後置された phlòuN jò とでは、意味的にあまり違いはないようである。

名詞化された形式には遠近表示の用法はない。表にまとめると次のとおり。

	現場指示	文脈指示	遠近表示
ʔəjò	yes	yes	no
ʔənó	yes	yes	no
ʔəʔò	yes	no	no

まず、現場指示の例を挙げる。ʔəjò, ʔənó, ʔəʔò の違いは jò, nó, ʔò の違いと同様である。すなわち、ʔəjò は指示対象が話し手の領域にあることを表す。一方、ʔənó は指示対象が話し手の領域の外にあることを表す。ʔəʔò は、指示対象が話し手の領域の外にあり、かつ指示対象が話し手から非常に遠い場所にあることを表す。

- (59) { ʔəjò / ʔənó / ʔəʔò } chənó lê  
 何 (疑)  
 「{ これ/それ/あれ }は何ですか?」

次に文脈指示の例を挙げる。文脈指示の用法は ʔəjò と ʔənó にのみ見られる。

- (60) A: cé yàyòn khwái jàu  
 機械 壊れる (徹底) (完)  
 「機械が壊れてしまった」  
 B: { ʔəjò / ʔənó } ká chī  
 難しい (婉曲)  
 「それは問題だ」

## 14.9 dáʔò

名詞句の後に付いて、過去を表す。時間についての概念を表す名詞は、基本的には側置助詞の lé によって導入されるか、何も伴わずに文中に置かれる。しかしそれだけでは、その時間と発話時点との相対的關係が分からない可能性がある。dáʔò には、発話時点より以前ということを明示する働きがある。

- (61) lé thəlôn khwái làmá láu dáʔò  
 (場) 過ぎる (徹底) 3月 末  
 jə- cáin lán khwái chəmə jàu  
 1sg 出る (外方) (徹底) 仕事 (完)  
 「この前の3月に私は仕事を辞めました」(012.18)

- (62) lúwī ɣəwī dǎʔò nè hələmǰā ʔó lə- yà dùr  
 (場) 以前 NE 獵師 いる 一 ~ 人 DU  
 「昔、獵師がひとりいたんですよ」(006.10)
- (63) lə- phən dǎʔò lé kò phàdú [R ʔó lə- kò]  
 一 ~ 回 (場) 島 大きい ある 一 島  
 ʔəphən ʔò kəchən phāthī ʔó wēdǎ lə- dùr lǎ  
 中 (遠方) 象 オス いる (強意) 一 ~ 匹 (断定)  
 「かつて、ある大きな島に、オスの象が 1 頭住んでいた」(I-09.3)
- (64) yē thàin thòn dòun ləkōun lé  
 来る 帰る 着く 町 (地名) (場)  
 ləchinī θān lə- nì dǎʔò chī lǎ  
 十二 日 一 ~ 日 (婉曲) (断定)  
 「12 日にヤンゴンに帰ってきました」(015.6)

## 14.10 jàu

名詞句の後に付く。何らかの事象が、過去のある時点から基準時点にわたって継続することを表す。「ずっと」。

- (65) lé mūyá jàu jə- thòn yéin phən ʔé  
 (場) 昨日 1sg 着く 家 ~ 回 (否)  
 「私は昨日からずっと家に帰っていない」(001.2085)
- (66) thō wè lú jə- mū ʔòn ʔò jàu  
 高い (備え) (場) 1sg 母 腹 (遠方)  
 「(私の鼻は) 母の腹の中にいたときからずっと高いのだ」(006.28)
- (67) ʔò θài θí lé yàn pī khā dǎʔò jàu  
 飲む 酒 できる (場) 姿 小さい 時 (過去)  
 「(カレン人は) 小さい頃からずっと酒がのめるのだ」(V-03.5)
- (68) təkholé [C cáin làn tékəθò] ʔò jàu lànphà  
 ~ から 出る (下方) 大学 (遠方) 別れる  
 「大学を出てからずっと離ればなれだった」(V-03.37)

## 14.11 複数を表す ləphá, θí, θè

複数を表す助詞には、基本的には ləphá, θí, θè の三つがある。すべて名詞句の後に付く。これらの使い分けの原理は、実は今のところよく分かっていない。しかし、名詞の複数性を表すときの方法として、次の 3 種類が確認できている。一つ目は次の例のようなもので、名詞句の指示対象と同類のものが複数あることを表す方法である。これを A(+A+A+...) で表す。

- (69) phlòuN θè  
 カレン人  
 「カレン人たち」

二つ目は次のようなもので、別々の名詞句を列挙し、それらが全体として複数であることを表す方法である。これを A+B+C+... で表す。

- (70) phlòunchì dè pəjànchì θè  
 カレン民族 (列挙) ビルマ民族  
 「カレン民族とビルマ民族」

三つ目は次のようなもので、名詞句を一つだけ挙げ、それに複数を表す助詞をつけることによって、他の指示対象の存在を暗示する方法である。これを A(+B+C+...) で表す。

- (71) còʔéphlòuN θè  
 (人名)  
 「チョーエーブロン達」

筆者が集めた資料の中では、三つ目の A(+B+C+...) は、θè の場合にしか見つかっていない。他の助詞も A(+B+C+...) を表し得るのかはまだ分からない。

また、もう一つ分かっていることは、θí が比較的かしこまった場面で用いられることが多いのに対して、θè が格式張らない話し言葉や親しい者同士の手紙のやりとりなどで用いられることが多いということである。ləphá はどちらの場合にも用いられる。

以下に具体的な用例を見ていく。

#### 14.11.1 ləphá

まず、ləphá を見る。A(+A+A+...) の例を挙げる。

- (72) phlòuN thikhānkənān ləphá  
 人 カレン州  
 「カレン州の人たち」(008.11)
- (73) nə- thìθò ləphá  
 2sg 友人  
 「あなたの友人たち」(016.33)
- (74) [R ʔó xwà khánthài] ʔəməphàdú ləphá  
 いる 王 下 大臣  
 「王に仕える大臣たち」(III-08.4)

次に A+B+C+... の例を挙げる。

- (75) jù cəxwà dè pəjàn cəxwà ləphá  
 モン 王 (列挙) ビルマ 王  
 「モン王とビルマ王」(III-08.22)

- (76) khlài dè thèinthòun ləphá  
亀 (列挙) 鰻  
「亀と鰻」(III-15.11)

▷ この例で「亀」と「鰻」は、物語の登場人物を表す。つまり固有名詞的に使われている。

#### 14.11.2 θί

次に θί に移る。まず、A(+A+A+...) の例を挙げる。

- (77) phódiprí θí  
若者  
「若者たち」(006.105)

- (78) càθân θí  
人間  
「人間たち」(I-04.9)

- (79) thê θí khrā θí  
鋤 鍬  
「鋤(すき)や鍬(くわ)」(II-04.14)

- (80) thî θí  
水  
「水」(II-09.14)

▷ このように、「水」のような物質を表す名詞に複数を表す助詞がつくことがある。

次に A+B+C+... の例を挙げる。

- (81) còθàçú dè còphô?wà θí  
(人名) (列挙) (人名)  
「チョーターシューとチョーパワー」(II-06.2)

- (82) klà dè thóyú θí  
鳥 (列挙) 梟  
「鳥と梟」(I-03.3)

▷ この例では、鳥の種類の名が、物語の中で固有名詞として使われている。

#### 14.11.3 θè

最後に θè を見る。まず、A(+A+A+...) の例を挙げる。

- (83) nə- chəphóchəli θè  
2sg 荷物  
「あなたの荷物」(015.7)
- (84) həphlòunphú θè  
カレン人  
「カレン人たち」(016.17)
- (85) còNθà θè jə- phūkhwá θè  
学生 1sg 弟  
「学生たちと私の弟たち」(017.25)
- (86) chì xāxòN θè  
民族 他のも  
「他の諸々の民族」(IV-01.12)

次に A+B+C+... の例を挙げる。

- (87) nə- phómú nə- mâ θè  
2sg 娘 2sg 妻  
「あなたの娘さんと奥さん」(012.5)
- (88) chərâ thálòun dè ʔə- mâ θè  
先生 (人名) (列举) 3sg 妻  
「ターロン先生とその奥様」(012.30)
- (89) kòtəràikəNân mìpətìkəNân lātəkòθəNìkəNân θè  
(地名) (地名) (地名)  
「コータライ地区、ミーパティー地区、ラータコータニ地区」(III-17.11)

次に A(+B+C+...) の例を挙げる。この用法が見つかっているのは θè のみである

- (90) còláiθèin θè  
(人名)  
「チョーライティンたち」(008.14)

θè の重要な用法に、概数を表す用法がある。この用法の場合、格式張った文体においても θè は使われる。概数は、名詞句で明示された数値以外にも候補がいくつかあるという点で、複数性と関連している。したがって、本稿では、概数を表す θè も、複数を表す θè と同じ語と見なす。

- (91) [<sub>R</sub> mūmé xāin làn] lə- nādì θè nó  
太陽 傾く (下方) ー ～時 (題)

kəbàn cáin thán lô  
船 出る (外方) (断定)  
「午後の 1 時頃に船が出る」(IV-04.16)

(92) bàu bán lə- nàrì θè bó ...  
近い (変化) — ～時間 pl NO  
「約 1 時間近く経ったところ...」(024.57)

#### 14.11.4 その他の複数を表す助詞

複数を表す助詞としては、上に挙げた三つ以外にも、θíləphá, θèləphá という助詞が使われる。前者は θí と ləphá を組み合わせたもの、後者は θè と ləphá を組み合わせたものである。やはり、前者は格式張った場面、後者はくだけた場面で使われることが多いようである。どちらとも、A(+A+A+...) を表す用法と A+B+C+... を表す用法のみ見つっている。

##### 14.11.4.1 θíləphá

まず、A(+A+A+...) の例を挙げる。

(93) ?əxā θíləphá  
ばい菌  
「ばい菌」(II-13.15)

(94) kəbànjùchā θíləphá  
パイロット  
「パイロットたち」(III-05.54)

(95) thúphú θíləphá  
小鳥  
「小鳥たち」(IV-05.18)

(96) cháiphúchā θíləphá  
農民  
「農民たち」(IV-09.5)

次に A+B+C+... の例を挙げる。

(97) thílákhá thílá?ú dè thíláθéindó θíləphá  
(塩の種類) (塩の種類) (列举) (塩の種類)  
「苦塩(?), 腐り塩(?), そしてテインドー塩」(II-03.2)



- (98) bú déin búkhê bwèyáŋkhó bèbwè ròbà píl̄ θíləphá  
 米 胡麻 玉蜀黍 シカクマメ 綿花 ゴム タピオカ  
 「米、胡麻、玉蜀黍、シカクマメ、綿花、ゴム、タピオカ」(II-07.11)

- (99) ʔəljāwòlâcā ʔəljājîlâ ʔəljāʔəjî ʔəljāʔəbàn  
 紫色 藍色 緑色 黄色  
 ʔəljābàŋcā ʔəljāʔəwò θíləphá  
 橙色 赤色  
 「紫色、藍色、緑色、黄色、橙色、赤色」(II-10.14)

- (100) nóthū nówá nóthái phəŋkhwàinkhwàn θíləphá  
 串 しゃもじ 竹鋏 柄杓  
 「串、しゃもじ、竹鋏、柄杓」(III-16.17)

#### 14.11.4.2 θèləphá

まず、A(+A+A+...) の例を挙げる。

- (101) phlòunchèphó thùrû bóuθ θèləphá  
 カレン民族 伝統 祭り  
 「カレンの伝統の(いろいろな)祭り」(011.12)
- (102) ʔə- phó ʔə- lì θèləphá  
 3sg 子供 3sg 孫  
 「彼の子孫たち」(IV-01.12)

次に A+B+C+... の例を挙げる。

- (103) nəθí chəʔáŋchəʔò dè pòuθ θèləphá  
 2pl 食べ物 (列挙) 写真 pl  
 「あなた方の食べ物と写真」(011.17)

## 14.12 láu

「数詞＋助数名詞」すなわち助数名詞句の後に置かれ、その「数詞＋助数名詞」が指す物すべてということを表す。数詞は2以上の数を表す数詞である。動詞 láu 「尽きる」に由来する。数詞のうち、1の位が下降調を伴う nî 「2」, θəN 「3」, xú 「6」, nwê 「7」で終わる数詞は、これらの音節が助数名詞の前では中平調で発音され、nī, θəN, xū, nwē となることは第10章に述べるとおりである。ところが、名詞修飾助詞 láu が後に現れると、これらは下降調のままで発音される。

- (104) nî béin láu  
 二 ～枚  
 「2枚とも」

(105) ʈə̀N dṹ láu  
三 ～匹  
「3 匹とも」

(106) lĩ̀ bòn láu  
四 ～本  
「4 本とも」

(107) jḗ khó láu  
五 ～台  
「5 個とも」

(108) xṹ yà láu  
六 ～人  
「6 人とも」

(109) nwê blàn láu  
七 ～回  
「7 回とも」

(110) xó néin láu  
八 ～年  
「8 年間ずっと」

(111) khwĩ́ phlóuN láu  
九 ～個  
「9 個とも」

(112) ʈə̀Nchĩnĩ́ yà láu  
三十二 ～人  
「32 人全員」

(113) hə̀θè nó ʔéchə̀N ʔə̀θĩ́ nĩ́ yà láu lô  
1pl (題) 愛する 3PL 二 ～人 (断定)  
「私達は彼らを二人とも愛している」(009.34)

### 14.13 xāN

「lə̀+ 助数名詞」(lə̀ は数詞「1」) の後に置かれ、この助数名詞句が表す範囲の中で事象が生じることを表す。

(114) mə̀ θĩ́jā làn lé ʈà phə̀N lə̀ thĩ́ xāN lô  
(非現) 知る (内方) (場) 心 中 一 ～回 (断定)  
「1 回で分かることであろう」(IV-09.3)

- (115) ʔəwədə́ jò cáin làn cōN  
 3se (題) 出る (下方) 学校  
 də hò lə- néin xāN lō  
 (共) 1PL ー ～年 (断定)  
 「彼は、私達と同じ年に学校を卒業した」(V-03.48)

## 14.14 yì

名詞句の後に付く。任意性を表す。yìyì あるいは ʔəyì となることもある。「～であれ、～であれ」。必ず、二つの名詞を対にした形をとる。従属節標識の yì を参照のこと(第21章)。

- (116) lənéinjò yìyì nōnéindò yìyì  
 今年 来年  
 mwē nə- ʔē khlaʊ | ʔwíθàchèn yê cáinkwè lāchài  
 (繋) 2sg (条件) 暇な どうか 来る 遊びにくる ～してください  
 「今年でも来年でも、あなたがもし暇なら、是非遊びに来てください」(015.21)

- (117) láipərân lə- mēin yì lə- mēin yì  
 過ぎる ー ～種類 ー ～種類  
 jō là kò yà də chàì  
 有名な (願望) (毎) ～人 (毎') CHAI  
 「どの新聞であれ、みんなに読んでほしい」(III-07.21)

## 14.15 呼びかけを表す助詞

呼びかけとして使われた名詞(すなわち文中の要素ではない)に付いて、その名詞が呼びかけであることを表すいくつかの助詞がある。これまでに見つかっているものを下に挙げておく。

ʔē 呼びかけを表す助詞のうち最も普通に使われる。ʔē, ʔé, ʔé などとも発音される。

- (118) phóθá θí ʔé  
 子供 (複)  
 「子供達よ」(I-05.15)
- (119) bē nó θò lô nè chərâ ʔē  
 (比定) それ (比定') (断定) NE 先生  
 「そういうことなんですよ、先生」(012.42)

hà 相手を非難するような意味合いがある。

- (120) hə- lə lóθà chàchā khlàu lə θó hà  
 1pl 語る (相互) ゆっくり 暇な (断定) 友  
 「(そのようなことについては後で) ゆっくり話す暇があるよ、友よ」(001.1072)

chài あらたまって重々しい口調で呼びかけるときに用いられる。

- (121) phlòuN chiphú θí kō yà dè chài  
 カレン 民族 (複) (毎) ～人 (毎)  
 「すべてのカレン民族よ」(IV-01.121)

## 第IV部

### 動詞に関連する諸問題



## 第15章 動詞の分類

本論文では、動詞を三つの観点から分類する。うち二つは意味的な観点からの分類であり、もう一つは統語的な観点からの分類である。意味的な観点による分類の第一は、意志動詞であるか無意志動詞であるかという意志性 (volitionality) による分類である。第二は、動態動詞であるか状態動詞であるかという語彙的アスペクト (lexical aspect) による分類である。統語的な観点からは、目的語を取り得るかどうかという点で動詞を分類する。このような三つの観点で分類する理由は、これらの分類法がポー・カレン語文法の記述において極めて有効だと考えるからである。特に、動詞連続など、動詞に関連する文法現象を記述する際に、これらの分類が重要な役割を果たす。

### 15.1 「意志動詞 (volitional verb)」対「無意志動詞 (unvolitional verb)」

東南アジアの言語には、動詞の表す事象が意志的に制御可能であるか制御不可能であるかということ、すなわち意志性 (volitionality) が、語彙のレベルで指定されている言語が多い。ポー・カレン語もそのような言語の一つである。意志的な制御を伴う事象を表す動詞を意志動詞、意志的な制御を伴わない事象を表す動詞を無意志動詞と呼ぶ<sup>1</sup>。意志動詞は、主語の指示対象の意志によって生起した事象を表す。逆に、無意志動詞は、主語の指示対象の意志によらずに生起した事象を表す。例えば、次の例の ʔán は意志動詞なので、「食べる」という動作は「私」が意志的に行ったと解釈される。言い換えると、この文は「うっかり食べた」というような意味を表さない。

- (1) jə- ʔán  
1sg 食べる  
「私は食べた」

もし「うっかり食べた」ということが言いたければ、無意志を表す動詞助詞 bá を動詞の後に付けなければならない。

- (2) jə- ʔán bá  
1sg 食べる (無意)  
「私はうっかり食べた」

<sup>1</sup>Van Valin and LaPolla (1997) は、‘agency (動作主性)’ を動詞の logical structure (論理構造) の中に表記することを提案している。彼らの言う ‘verbs which lexicalize agency (動作主性を語彙化した動詞)’ (p.119) は、本論文の意志動詞のような動詞を指していると思われる。彼らの表記法によるとこれらは、DO(x, [do’(x, [...と表記される。

一方、次の例の lánthîphā は無意志動詞なので、「転ぶ」という事象は「私」の意志で生じたとは解釈されない。具体的には、「わざと転んだ」というような意味を表すことができない。

- (3) jə- lánthîphā  
1sg 転ぶ  
「私は転んだ」

「わざと転んだ」ということが言いたければ、使役を表す助詞を用いて次のようにする必要がある。

- (4) jə- mà lánthîphā lán θà  
1sg (使役) 転ぶ (帰的) (再帰)  
「私は故意に転んだ」

▷ lán および θà は「再帰」を表す動詞助詞。

例えば日本語で「私は転んだ」と言ったら、「わざと転んだ」のか「うっかり転んだ」のか聞き手には分からないが、ポー・カレン語の (3) の文は、「うっかり転んだ」という意味に一義的に決まってしまうのである。

本論文では、任意の動詞が意志動詞であるか無意志動詞であるかを見るためのテストとして、次の二つを考える。

一つ目は、その動詞が他の形式の助けなしに命令文になり得るかどうかのテストである。命令文になる場合は意志動詞、命令文にならない場合は無意志動詞であると判断できる。例えば、chínàn「座る」は次のように命令文になり得る。したがって chínàn は意志動詞である。

- (5) chínàn  
座る  
「座れ」

一方、θî「死ぬ」は命令文にならない。したがって θî は無意志動詞である。

- (6) \*θî  
死ぬ  
(死ね)

このとき、「他の形式の助けなしに」という点に注意していただきたい。一部の動詞助詞には、無意志動詞を命令文として機能させる働きがある。例えば「願望」を表す動詞助詞 lā「～であれ」にはそのような働きがあり、この動詞助詞を θî に付けると、その全体は命令文になり得る。

- (7) θî lā  
死ぬ (願望)  
「死ね」



したがって、このテストを用いるときには、そのままの形で命令文になるかどうかを見なければならない。本論文では動詞句などの構造体が意志動詞的であるか無意志動詞的であるかを考えることがある。このような場合も、その構造体そのままの形で命令文になるかどうかを考えて意志性を判断する。

二つ目は、使役を表す動詞助詞の *mà* を付けることができるかどうかのテストである。動詞助詞 *mà* を付けることができなければ意志動詞、付けることができれば無意志動詞である。例えば、上で見た *chínàn* は、*mà* を付けることができないので、意志動詞である。

- (8) \**mà*      *chínàn*  
(使役) 座る

一方、*θi* は、*mà* を付けることができるので、無意志動詞である。

- (9) *mà*      *θi*  
(使役) 死ぬ  
「殺す」

使役を表す動詞助詞 *mà* の振る舞いについては、第 18 章および第 28 章を参照していただきたい。

さて、動詞の意志性を見るテストとして上記二つを設定した場合、次のような問題が生じる。それは、この二つのテストが食い違いを示すことがあるということである。食い違いは、第一のテストでは意志動詞、第二のテストでは無意志動詞という結果がでるという形で現れる。

例えば、動詞 *nī* 「笑う」は、命令文になり得るので、このテストによれば意志動詞である。

- (10) *nī*  
笑う  
「笑え」

ところが、動詞助詞 *mà* を付けることもできるので、このテストによれば無意志動詞ということになる。

- (11) *mà*      *nī*  
(使役) 笑う  
「笑わせる」

この問題はどのように解決するべきだろうか。本論文では、この *nī* のような場合、意志動詞としても無意志動詞としても使えるのだと解釈する。実際、次の文をみただけでは、「私」が「笑おうとして笑った」のか「つい笑ってしまった」のかは分からない。

- (12) *jə-*      *nī*  
1sg 笑う  
「私は笑った」

しかし、このような意志動詞としても無意志動詞としても使える動詞は、全体から見ると少数であり、*lì* 「行く」や *chîthóun* 「立つ」のような移動や体勢を表す動詞と、上述の *nī* のような生理現象を表す動詞に限られる。

## 15.2 「動態動詞 (active verb)」対「状態動詞 (stative verb)」

動作や、状態の変化などを表す動詞を動態動詞、状態を表す動詞を状態動詞と呼ぶ。

動態動詞と状態動詞は、副詞の phléphlé「速く (fast); 早く (early)」または xèxè「ゆっくり (slowly); 遅れて (late)」で修飾できるかどうかによって区別することができる。phléphlé「速く」あるいは xèxè「ゆっくり」で修飾することができれば動態動詞、修飾することができなければ状態動詞である。

例えば、yà̀yòn「壊れる」は、どちらの副詞によっても修飾することができる。したがって動態動詞である。

- (13) yà̀yòn phléphlé / xèxè  
 壊れる 速く / ゆっくり  
 「速く (早く) 壊れる/ゆっくり (遅れて) 壊れる」

逆に、khō「暑い」は、どちらの副詞によっても修飾することができない。したがって状態動詞である。

- (14) \*khō phléphlé / xèxè  
 暑い 速く / ゆっくり

phléphlé も xèxè も、動作や変化の速度が速いか遅いかということ、および、基準となる時点から事象が生起するまでの時間が長いか短いかということの両方を表すことができる。すなわち、それぞれ、英語で表せば fast と early が表す意味の両方、slowly と late が表す意味の両方を表すことができる。上の (13) は、このどちらの意味にも解釈することができる。しかし、動詞の表す事象によっては、fast や slowly の意味に取れず、early や late の意味にしか取れないものがある。例えば、動態動詞 ʔóxáu「結婚する」が表す事象は、「結婚した状態」に入ることを表す。「結婚した状態」は、何らかの社会的手続きを行うことによって瞬時に始まるわけだから、この状態の変化を内側から見て速度を論じることとはできない。そのため、ʔóxáu phléphlé は、early の意味にしか取ることができないし、ʔóxáu xèxè も late の意味にしか取ることができない。いずれの意味に取るにせよ、状態動詞の場合にこの二つの副詞を用いることはできないから、テストとしては問題がない。

動態動詞を ‘fast’ や ‘slowly’ のような意味を表す副詞で修飾することができるのは、動態動詞の表す事象が、その内側に、速度によって捉えることのできる特徴、言い換えれば何らかの動きを含んでいるからにほかならない。状態動詞の表す事象は、何の変化も含まないから、これらの副詞で修飾することができないのである。上の ʔóxáu のような、‘early’ や ‘late’ の意味でのみ解釈可能なケースの場合は、動態動詞の表す事象は開始の時間が明確だからこそ、これらの副詞で修飾することができるのだろう。逆に、状態動詞が表す事象の場合には開始の時間が明確ではないとポー・カレン語では捉えられるため、early や late の意味でさえ解釈が不可能なのだろう。なお、状態動詞が表す事象を動的に捉えたい場合には、状態の変化を表す動詞助詞の thán あるいは lán を状態動詞の後に付けければ良い。

- (15) máu thán phléphlé  
 快適な (変化) 速く  
 「速く快適になる」

thán を付けるか lán を付けるかは、動詞によって決まっている。この二つの動詞助詞については、第 18 章を参照していただきたい。

ところで、動詞の中には、動態動詞としても状態動詞としても用いることができると考えられるものがある。それは存在を表す ʔó 「いる、ある」である。意志性の観点から見ると、ʔó は命令文としても使えるし、使役の助詞 mà を付けることもできるから、意志動詞としても無意志動詞としても用いられる動詞である。

- (16) ʔó  
       いる  
       「いよ」

- (17) mà      ʔó  
       (使役) ある  
       「出現させる」

これらに副詞 xèxè を付けてみると、後者の場合のみ容認されない文ができる。

- (18) ʔó      xèxè  
       いる    ゆっくり  
       「ゆっくりしていなさい」

- (19) \*mà      ʔó      xèxè  
       (使役) ある    ゆっくり

▷ xèxè が ʔó を修飾する読みの場合に不可。xèxè が mà ʔó 全体を修飾する読み、すなわち「存在する状態にゆっくりとする」という読みなら可。

xèxè が共起できる場合と共起できない場合があることから、ʔó は、動態動詞と状態動詞の二つの特徴を持ち合わせていることになる。この事実は、次のように解釈できるだろう。xèxè が命令文では共起できることから、ʔó は意志動詞のときは動態動詞である。一方、mà を用いた文には使われないことから、ʔó は無意志動詞のときは状態動詞である。

なお、ポー・カレン語の動態動詞は、他の形式の助けなしに、動詞が表す事象を二つのやり方で捉えることができる。一つは、動詞が表す事象を、時間的な幅の有無に関わらず凝縮していわば点的に捉えるやり方である。もう一つは、動詞が表す事象を時間的な幅を持ったものとして、すなわち線的に捉えるやり方である。次の文を見ていただきたい。

- (20) ʔəkhâjò    ʔəwê    p̄      láíʔàv  
       今            3se    読む    本  
       「今、彼は本を読んだ / 今、彼は本を読んでいる」

この文において、「読む」という行為と「今」という時との関わりは少なくとも 2 種類に解釈することができる。ひとつは、「読む」という行為がたった今終わったという解釈であり、もうひとつは、「読む」という行為が「今」まさに継続しているという解釈である。前者の解釈は、「読む」という行為を点として捉えた場合に生じる。この場合、「読む」という行為を点として捉えているため、発話時点である「今」をまたぐことができず、そのため、事象の生起が発話時点の直前であると解釈されるのである。一方、後者の解釈は、「読む」という行為を線として捉えた場合であり、そのため、「読む」という行為が「今」という時点をまたいで継続しているという解釈が可能になるのである。

### 15.3 「自動詞 (intransitive verb)」対「他動詞 (transitive verb)」

最後の動詞分類は、統語的な観点によるものである。本論文では、目的語を取ることのできない動詞を自動詞、目的語を取ることのできる動詞を他動詞と呼ぶ。

例えば、動詞 ʔópwài 「休む」は、決して目的語を取ることがない。したがって、自動詞である。

- (21) jə- ʔópwài  
1sg 休む  
「私は休んだ」

一方、次に挙げる dú 「殴る」と phílân 「与える」は、目的語を取ることができるので他動詞である。

- (22) ʔəwê dú jə  
3se 殴る 1SG  
「彼は私を殴った」

- (23) ʔəwê phílân jə láipàu  
3se 与える 1SG 本  
「彼は私に本をくれた」

動詞が二つの目的語を取ったとき、最初の目的語を第一目的語、次の目的語を第二目的語と呼ぶことは第 4 章 4.2.2 で述べたとおりである。

自動詞であるか他動詞であるかを認定するときに問題となるのが、lì 「行く」や yê 「来る」などの移動を表す動詞である。移動を表す動詞が用いられたとき、到着点を表す名詞句は、場所を表す側置助詞 lé によって導かれる場合と、目的語として現れる場合とがある。下の ( ) でくった lé は、あってもなくてもよい。

- (24) jə- lì (lé) ʔə- yéin  
1sg 行く (場) 3se 家  
「私は彼の家に行った」

- (25) ʔəwê yê (lé) jə- yéin  
3se 来る (場) 1sg 家  
「彼は私の家に来た」

このような問題が生じる動詞は、lì 「行く」と yê 「来る」以外に、thàin 「帰る」、thòn 「到着する」、thán 「上がる」、làN 「下がる」がある。

本論文では、このような移動動詞を自動詞に分類する。その理由は次の通りである。

一つは、lé が使われるという事実そのものである。普通、他動詞の目的語には助詞が付かない。まれに、次のような lé と同形の助詞が付く。

- (26) ʔán lé ʔəʔwí nó  
食べる (強調) 美味しい物 その  
「美味しい物を食べなさい」 (II-14.1)

しかし、このような lé は、目的語を特に強調するためのみに使われる。したがって本論文では、このような lé を、側置助詞ではなく名詞修飾助詞であるとする (第 14 章を参照のこと)。移動の到着点を表す名詞句に lé が付いても、強調の意味は伴わない。ちなみに、手持ちの資料<sup>2</sup>の中で動詞 ʔán が被動者名詞句を取った例が 98 例あったが、そのうち lé が付いた例は 6 例 (6.1%) だった。しかもこの 6 例は、上の (26) の文が同一テキストの中で繰り返し出現したものであった。

二つ目は、lé が使われる頻度である。同じ資料をデータとして用い、移動の到着点を表す名詞句がどのような標示を受けているかを調べた。具体的には、lì, yê, thàin, thòn の四つの動詞について、到着点を表す名詞句が現れた場合の、lé が付いているものと付いていないものの度数を数えた。移動動詞には他に thán と làn があるが、この二つは頻繁に使われる同形の動詞助詞があり、それが移動動詞なのか動詞助詞なのかを見極めるのが難しいことがあるため、今回の調査からは省いた。調査結果は次の通りである。「lé が付いている」としたのが、到着点を表す名詞句に側置助詞 lé が付いていた度数、「lé が付いていない」としたのが、到着点を表す名詞句がそのまま動詞の後に置かれていた度数である。

	lì	yê	thàin	thòn	計
lé が付いている	18	2	11	43	74 (66.7%)
lé が付いていない	8	2	4	23	37 (33.3%)
計	26	4	15	66	111 (100.0%)

全部で 111 個の到着点を表す名詞句が現れていたが、このうち lé が現れていたのは、74 個 (66.7%) で、lé が現れていない場合よりも多かった (binomial test,  $p=0.00057$ )。このように、到着点を表す名詞句には lé が付いていることのほうが多いのである。

三つ目は、連結型動詞連続における振る舞いである。第 17 章で述べるように、連結型動詞連続では、「他動詞 + 自動詞」という組み合わせがあった場合、二つの動詞の論理的主語が同一であることはなく、他動詞の論理的目的語と自動詞の論理的主語が同一になる。次に示すのがその一例である。

- (27) jə- dɔ̌ ɔ̌i thwí  
 1sg 殴る 死ぬ 犬  
 「私は犬を殴り殺した」

ところが、「移動動詞 + 自動詞」という組み合わせでは、常に二つの動詞の論理的主語は同一である。

- (28) jə- lì klí  
 1sg 行く 走る  
 「私は走りに行った」

これは、他の「自動詞 + 自動詞」という組み合わせで二つの動詞の論理的主語が同一になるのと同様である。

<sup>2</sup>本章の調査では、第 30 章に掲げた資料のうち、005 から 017、I-01 から I-10、II-01 から II-14、III-01 から III-17、IV-01 から IV-10、V-01 から V-06 を用いた。

- (29) jə- chinàn kòcà  
 1sg 座る 叫ぶ  
 「私は座って叫んだ」

したがって、動詞連続における移動動詞の振る舞いも自動詞的である。

以上に述べた三つの理由により、本論文では、移動を表す動詞を自動詞であるとする。第 4 章で、動詞の直後に現れた名詞句を目的語と呼ぶこと、および、他動詞の目的語は被動者という意味役割を担っていると見なすということを述べた。この定義に従うと、移動動詞は自動詞であるから、到着点を表す名詞句が側置助詞を介さずに現れていた場合、その名詞句は、目的語ではあるが被動者という意味役割は担っていないと考えることになる。

### 15.3.1 動詞の自他に関する補足

#### (1) 自他の対応

チベット・ビルマ諸語では、意味的に対応する自動詞と他動詞が音声的にも対応することがよくある。例えばビルマ語では、無声無気音で始まる自動詞と無声有気音で始まる他動詞が意味的に対をなすことが少なくない。次の pye?-「壊れる」と phye?-「壊す」はそのような対の一つである。

[Burmese]

- (30) a. se?béin pye? tè  
 自転車 壊れる (現実法)  
 「自転車が壊れた」  
 b. ɲà se?béin phye? tè  
 私 自転車 壊す (現実法)  
 「私は自転車を壊した」

ビルマ語の場合、チベット・ビルマ祖語の使役を表す \*s- が現代ビルマ語の無声有気音に反映していると考えられている (西田 2003:284-5 など参照)。ポー・カレン語にはこのような自動詞と他動詞の対はない。ビルマ語でこのような対をなす場合の他動詞は、phye?-「壊す」、châ-「落とす」、chó-「折る」、kháu?-「曲げる」など、対象に変化をもたらすような動作を表す他動性の高い動詞である場合が多いが、ポー・カレン語にはこのような他動性の高い他動詞があまりなく、ビルマ語のこれらの他動詞が表すような事象は、使役を表す動詞助詞を用いて表す場合が多い。例えば、(30) の (a)(b) の文をポー・カレン語に訳すと次のようになる。

- (31) a. cébéin yàyon  
 自転車 壊れる  
 「自転車が壊れた」  
 b. jə- mà yàyon cébéin  
 1sg (使役) 壊れる 自転車  
 「私は自転車を壊した」

しかし、少数ながら、他動性の高い他動詞のみがあって、対応する自動詞が存在しないという場合がある。例えば、pàu「開ける」や ʔò「剥く」に対応する自動詞は存在しない。このような場合、「自然に開(あ)く」という事象は、自発を表す動詞助詞 θà を用いた動詞複合体によって表すことができる(第18章 18.60 参照)。

(32) a. ʔəwê pàu thán pàitərân

3se 開ける (完成) 窓

「彼は窓を開けた」

b. pàitərân pàu thán θà

窓 開ける (完成) (自発)

「窓が開いた」

## (2) いわゆる ‘locative alternation’ を起こす動詞

英語にはいわゆる ‘locative alternation’(場所格交替)という現象がある。(a) He sprayed the paint on the wall. と (b) He sprayed the wall with paint. のような、場所を表す名詞句と道具を表す名詞句の両方が目的語として現れることができるという現象である。これと似た現象を引き起こす動詞がポー・カレン語にもある。現在のところ確認の取れているのは、chû「入れる」と xwí「(粉末などを)かける」と khwái「投げる」の三つである。

(33) a. ʔəwê chû làn thílá lé mì phèn

3se 入れる (下方) 塩 (場) ご飯 中

「彼は塩をご飯の中に入れた」

b. ʔəwê chû làn mì phèn dè thílá

3se 入れる (下方) ご飯 中 (共) 塩

「彼は塩をご飯の中に入れた」

(34) a. jə- xwí làn thílá lé mì phèn

1sg かける (下方) 塩 (場) ご飯 中

「私は塩をご飯にかけた」

b. jə- xwí làn mì phèn dè thílá

1sg かける (下方) ご飯 中 (共) 塩

「私は塩をご飯にかけた」

(35) a. ʔəwê khwái lōun lé thwí ʔó

3se 投げる 石 (場) 犬 ところ

「彼は犬に石を投げつけた」

b. ʔəwê khwái thwí dè lōun

3se 投げる 犬 (共) 石

「彼は犬に石を投げつけた」

上の各 (a) では、場所を表す名詞句が lé に導かれて斜格補語として現れている。しかし、(b) では、場所を表す名詞句が目的語として現れ、(a) で目的語として現れていた名詞句が道具を表す dè に導かれて現れている。

(33) と (34) の (a) は、ご飯に何を入れたりかけたりしたかということに話者が関心を持っているときに使われ、(b) は、何に塩を入れたりかけたりしたかということに話者が関心を持っているときに使われる。同様に、(35) の (a) は、犬に何を投げたかということに話者が関心を持っているときに使われ、(b) は、何に石を投げたかということに話者が関心を持っているときに使われる。この現象が英語の場所格交替や他の言語の類似の現象とどのような共通性あるいは差異を持っているかについては、今後の調査を待たねばならない<sup>3</sup>。

## 15.4 動詞の実例

次に動詞の実例を見てみよう。服部四郎編 (1957) 『基礎語彙調査票』の必須語彙に該当するポー・カレン語語彙の中から、代表的な動詞を選び出した。下に表にして示す。下の表は自動詞と他動詞に分けてある。「意志性」の欄の「意志」は意志動詞を表し、「無意志」は無意志動詞を表す。「意志/無意志」は、意志動詞として用いられる場合も無意志動詞として用いられる場合もあることを示す。「語彙アスペクト」の欄の「動態」は動態動詞を表し、「状態」は状態動詞を表す。

### 自動詞の例

	意志性	語彙アスペクト
chíchâ 小便をする (to urinate)	意志	動態
ʔichâ 大便をする (to void excrement)	意志	動態
chînàn 座る (to sit)	意志	動態
cáin 歩く (to walk)	意志	動態
ʔóxáu 結婚する (to marry)	意志	動態
ʔópwài 休む (to rest)	意志	動態
klí 走る (to run)	意志	動態
khwè 這う (to creep)	意志	動態
lókwe 遊ぶ (to play)	意志	動態
kwé ほどける (to be unfastened)	無意志	動態
nó (nán) 目覚める (to awake)	無意志	動態
cà 負ける (to be defeated)	無意志	動態
yàyon 壊れる (to be broken)	無意志	動態
já 裂ける (to tear[Vi])	無意志	動態
thé 切れる (to be cut)	無意志	動態
lànthe 落ちる (to fall)	無意志	動態

<sup>3</sup>まだ確認は取れていないが、例文に現れた側置助詞の現れ方などから、このような交替の可能性があると予測できる動詞には、dàulàn「A に B を入れる」、yú「A に B(塗料, バターなど) を塗る」、kà「A に B(蓋など) をかぶせる」などがある。



cau 驚く (to be amazed)	無意志	動態
khólón 氷る (to freeze)	無意志	動態
phlī 溶ける (to melt)	無意志	動態
làn bèn 沈む (to sink)	無意志	動態
làn jwà 流れる (to flow)	無意志	動態
làn jí 枯れる (to wither)	無意志	動態
làn thîphā 転ぶ (to tumble, to fall down)	無意志	動態
pwài thà 疲れる (to be tired)	無意志	動態
khè 禿げた (to be bald)	無意志	状態
mêin 熟した (to be ripe)	無意志	状態
?wí おいしい (to be delicious)	無意志	状態
chân 甘い (to be sweet)	無意志	状態
yân 塩辛い (to be salty)	無意志	状態
cháin 酸っぱい (to be sour)	無意志	状態
?úipàu 腐った (to be rotten)	無意志	状態
dú 大きい (to be big)	無意志	状態
môn 生きた (to be alive)	無意志	状態
bón 太った (to be bold)	無意志	状態
càuchâ 病気だ (to be sick)	無意志	状態
châ 痛い (to ache)	無意志	状態
cā 老いた (to be old)	無意志	状態
có 濡れた (to be wet)	無意志	状態
xâin 乾いた (to be dry)	無意志	状態
phàn 明るい (to be light, to be bright)	無意志	状態
khài 暗い (to be dark)	無意志	状態
khū 熱い (to be hot)	無意志	状態
khléin 冷たい (to be cold)	無意志	状態
lèn 暖かい (to be warm)	無意志	状態
?áin 鋭い (to be sharp)	無意志	状態
thô 長い, 高い (to be long, high)	無意志	状態
phé 短い, 低い (to be short, low)	無意志	状態
cí cá 汚い (to be dirty)	無意志	状態
phlī 滑らかな (to be smooth)	無意志	状態
lē 広い (to be wide)	無意志	状態
?á 多い (to be many)	無意志	状態
cà 少ない (to be few)	無意志	状態
lì 行く (to go)	意志/無意志	動態
yê 来る (to come)	意志/無意志	動態
náu 入る (to enter)	意志/無意志	動態
thán 上がる, のぼる (to ascend)	意志/無意志	動態
làn 下がる, おりる (to descend)	意志/無意志	動態

chîthóuN 立つ (to stand)	意志/無意志	動態
kəchi くしゃみする (to sneeze)	意志/無意志	動態
nī 笑う (to laugh)	意志/無意志	動態
yáN 泣く (to weep)	意志/無意志	動態
pjò 吐く (to vomit)	意志/無意志	動態
ʔó いる, ある (to exit, to be)	意志/無意志	動態 (意志のとき), 状態 (無意志のとき)

## 他動詞の例

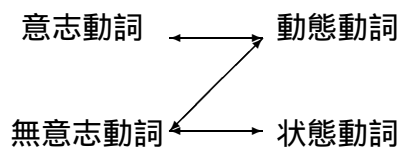
	意志性	語彙アспект
chônna 聞く (to listen)	意志	動態
thò 着る (to wear)	意志	動態
kwé 脱ぐ (to take off)	意志	動態
chà 縫う (to sew)	意志	動態
ʔánphôn 炊く, 煮る (to cook)	意志	動態
ʔán 食べる (to eat)	意志	動態
thóuN 建てる (to build)	意志	動態
lòN 追う (to pursue)	意志	動態
ʔányú 盗む (to steal)	意志	動態
ʔáncà 尋ねる (to ask)	意志	動態
pō 読む (to read)	意志	動態
kò 呼ぶ (to call)	意志	動態
phílân (phlân) 与える (to give)	意志	動態
ʔáncâ 売る (to sell)	意志	動態
ʔókhò 待つ (to wait)	意志	動態
màchèn 手伝う (to help)	意志	動態
plètò 許す (to allow)	意志	動態
thàu 拭く (to wipe)	意志	動態
phú 背負う (to carry on one's back)	意志	動態
kòkí 置く (to put)	意志	動態
dàné 見せる (to show)	意志	動態
cân 裂く (to tear)	意志	動態
ʔánθijà 洗う (to wash)	意志	動態
chè 刺す (to stab)	意志	動態
chônmon 考える (to consider)	意志	動態
màlú 教わる (to study), 教える (to teach)	意志	動態
nèʔán 信じる (to believe)	意志	動態
jā 泳ぐ (to swim)	意志	動態
ʔáin 咬む (to bite)	意志	動態
nèn 勝つ (to win)	無意志	動態

θànáN 忘れる (to forget)	無意志	動態
θà thán 怒る (to get angry)	無意志	動態
náθí 分かる (to understand)	無意志	動態
dá 見える (to see)	無意志	動態
nāyêN 聞こえる (to hear)	無意志	動態
θàmé 恐れる (to fear)	無意志	状態
θàxwî 嬉しい (to be glad)	無意志	状態
θújâ 知っている (to know)	無意志	状態
mwē ~ である (to be)	無意志	状態

## 15.5 三つの動詞分類の関係

ポー・カレン語の動詞を見ていくと、自動詞には意志動詞も無意志動詞も多いが、他動詞には意志動詞が多いようである。おそらく、非対格動詞 (unaccusative verb)/非能格動詞 (unergative verb) という概念を用いる生成文法理論等の一部の言語理論の枠組みで捉えた場合 (影山 1993 などを参照)、ポー・カレン語の自動詞の意志動詞は非能格動詞、自動詞の無意志動詞は非対格動詞に分類されるだろう。しかし、非対格動詞/非能格動詞の概念とここで述べた意志動詞/無意志動詞の概念は、まったく別物である。なぜなら、非対格動詞/非能格動詞という捉え方では、自動詞にだけ二種の動詞類を認めるが、意志動詞/無意志動詞の分類は、自動詞にも他動詞にも適用されるものだからである。確かに他動詞には意志動詞が多いが、無意志の他動詞も存在する。他動詞に意志動詞が多いのは、他動詞が表す事象の性質に原因を求めることができると思う。ポー・カレン語の他動詞が表す事象は、行為者が被動者に何らかの働きかけを行う事象である場合が多い。他の物体に何らかの働きかけを行うとき、行為者は意志を持っていることが多いと考えられる。そのため、他動詞には意志動詞が多いのだろう。

意志動詞/無意志動詞および動態動詞/状態動詞の対応関係は、次に図示するようになっているようである。



ここから言えることは、任意の動詞が意志動詞であればその動詞は動態動詞であるということと、任意の動詞が状態動詞であればその動詞は無意志動詞であるということである。つまり、ポー・カレン語においては、動きと意志とは関係があり、状態と意志とは無関係であるという捉え方の傾向があると言える。この傾向は人間一般の世界の捉え方に関係している可能性があるが、ここで深く論じられる問題ではないので、これ以上は立ち入らない。



## 第16章 動詞句

本論文では、次のような構成をなす要素を動詞句と呼ぶ。

- (1)  $\underbrace{(\text{動詞助詞}) - \text{動詞} - (\text{動詞助詞})}_{\text{動詞複合体}} - (\text{目的語名詞句}) - (\text{副詞的要素})$

下に注意事項を述べる。

- ( ) でくくった要素は任意の要素である。
- 動詞助詞には動詞の前に現れるものと動詞の後に現れるもの (第 18 章を参照) がある。それぞれ複数個現れることができる。
- 動詞の位置には連結型動詞連続 (第 17 章を参照) が現れる場合もある。
- (動詞助詞) – 動詞 – (動詞助詞) の部分を「動詞複合体」(verb complex) と呼ぶ。この部分に名前を付けるのは、この部分がひとまとまりになって一個の動詞のように振る舞うからである。
- 目的語名詞句は二つまで現れることがある (第 4 章 4.2.2 を参照)。
- 副詞的要素として立つことのできる要素には、副詞 (第 19 章を参照)、副助詞 (第 24 章を参照)、助数名詞句 (第 10 章を参照)、時を表す名詞 (第 19 章を参照) が含まれ、それぞれ複数個現れることができる。

さて、動詞句という統語的単位を設定するのには二つの理由がある。それは、上に図示した要素が、分離型動詞連続を形成する単位になるということと、一部の動詞の目的語になり得るということである。この二つの事実をもって動詞句という範疇を設定する根拠としたい。詳細を以下に述べる。

### 16.1 分離型動詞連続の単位になる

第 17 章で述べるように、動詞連続には、連結型動詞連続と分離型動詞連続という二つのタイプがある。このうち分離型動詞連続は、最小の場合、次のような構造を持つ (以降、VP は動詞句を表す)。

VP VP

次に挙げるのは分離型動詞連続の一例である。

- (2) ʔəwê [VP ʔán mì dè cú] [VP mə- yì dá jə]  
 3se 食べる ご飯 (共) 手 (非現) 良い (比較) 1SG  
 「彼は、手でご飯を食べるのが私より上手だろう」

動詞句は、このような動詞連続を構成するときの単位である。動詞連続についての詳細は、第 17 章を参照されたい。

## 16.2 一部の動詞の目的語になる

動詞句は、一部の動詞の目的語として現れることができる。現在までに、動詞句を目的語として取る動詞としては、ʔánkèin, θànáN, báθà, thōuN の四つが見つまっている。以下に、目的語として現れた動詞句に共通する特徴を列挙しておく。

- 目的語として現れた要素はあくまでも動詞句であるから、当然のことながら、この動詞句が独自に取る主語は現れない。また、この位置に分離型動詞連続が現れることもない。
- 目的語として現れた動詞句の論理的主語は、主動詞 (動詞句を取る側の動詞をこう呼んでおく) の主語と常に同一である。
- 目的語として現れた動詞句には決して非現実 (irrealis) を表す動詞助詞 mə- や否定を表す動詞助詞 lə- が付くことはない。

### 16.2.1 動詞句を目的語として取ることのできる動詞

動詞句を目的語として取ることのできる動詞で、現在までに見つまっているものは次に挙げる四つである。以下、これらの動詞の意味を見、また、それぞれの動詞が動詞句を目的語として取った例を挙げる。

ʔánkèin 「(物を) 欲しいと頼む」の意を表す。動詞句を従えと、動詞句の表す動作を行う許可を願い出ることを表す。

- (3) yê ʔánkèin [VP ʔán láithêin phú] nó kò nì dè lî  
 来る 頼む 食べる 薦 子供 (題) (毎) ~日 (毎') (断定)  
 「(彼が) 薦の子供を食べたいと言いに来るのは毎日のことだった」(I-01.12)

- (4) ʔəwêdá ʔánkèin [VP mî wê lé thúchànchî ʔə- θwî phèn]  
 3se 頼む 寝る (強意) (場) (鳥の名) 3sg 巢 中  
 nó lî  
 (のだ) (断定)  
 「彼はチャンチ鳥の巣の中で寝たいと申し出た」(II-02.19)

- (5) θàupərái lə- yà nó ?əwê ?ánkèin [VP jō jə- léma]  
 警官 — ～人 (題) 3se 頼む 見る 1sg 切符  
 「警官が私の切符を見せろと言ってきた」(IV-04.26)

名詞句を目的語として取った例を下に挙げておく。

- (6) ?ánkèin láimù  
 頼む 原稿  
 「原稿を依頼した」(IV-02.7)

θànáN 「(物を; 出来事を) 忘れる」の意を表す。動詞句を従え、動詞句の表す動作を行うことを忘れることを表す。

- (7) jə- θànáN [VP yê chó láipàu]  
 1sg 忘れる 来る 運ぶ 本  
 「私は本を持ってくるのを忘れた」(001.550)

名詞句を目的語として取った例を挙げておく。

- (8) θànáN thóun lə- phlóun  
 忘れる 袋 — ～個  
 「袋を一つ忘れてきた」(001.548)

báθà 「(物を) 欲する」の意を表す。動詞句を従え、動詞句の表す動作を行うことを欲することを表す。

- (9) nə- báθà [VP thán khòkhô mèn] lê  
 2sg 欲する 上る どの ～種類 (疑)  
 「あなたはどれに乗りたいですか?」(001.693)

- (10) ?əwê báθà [VP ?ò thî] nó ...  
 3se 欲する 飲む 水 (前提)  
 「彼は水が飲みたくて...」(IV-05.21)

- (11) báθà [VP nī] mjâ | nī wê bóun ?é  
 欲する 笑う (非常) 笑う (強意) 勇気のある (否)  
 「(彼は) 非常に笑いたかったが、笑う勇気はなかった」(IV-04.185)

名詞句を目的語として取った例を挙げておく。

- (12) jə- báθà khánphài nān cōun  
 1sg 欲する 草履 (少数) ～足  
 「私は草履が一足ほしい」(001.1156)

thōuN 「(苦難等を) 受け入れる, 我慢する」の意を表す。動詞句に従えと、動詞句の表す状態や状態変化を被るだろうことを受け入れることを表す。

- (13) còthúdí lə- yà thōuN [VP cà ʔə- yòphán]  
 (人名) — ～人 受け入れる 負ける 3sg 友人  
 lə- ké bá ʔəkhúcòn ...  
 (否) 可能な (否') (理由)  
 「チョートウディーは友人に負けたくなかったので...」(II-10.15)

- (14) báchâin dè chèchá ʔəyāN nó |  
 関する (共) 民族 ため (前提)  
 thōuN [VP θi] θà bá báuN kō yà dè  
 受け入れる 死ぬ (再帰) (当為) 勇気のある (毎) ～人 (毎')  
 「民族のためには、死を受け入れる勇気がなければならない」(IV-01.96)

名詞句を目的語として取った例を挙げておく。

- (15) bá thōuN tətáu  
 (当為) 受け入れる 災難  
 「災難に耐えなければならない」

### 16.2.2 動詞句が目的語として現れた文の統語的および意味的特徴

今議論している動詞句が目的語としての役割を持つと考えるのは、これらの動詞句を、文脈指示機能を持つ名詞 ʔənó 「それ」で置き換えることができるという事実があるからである。ʔánkèin を例にとると、下の (a) の問いに対して、(b) のように答えることができる。

- (16) a. ʔəwê ʔánkèin [VP xwè já] bâ  
 3se 頼む 買う 魚 (疑)  
 「彼は魚を買いたいと乞うたか？」  
 b. ʔəwê ʔánkèin ʔənó lô  
 3se 頼む それ (断定)  
 「(はい、) 彼はそれを乞うた」

これが、これらの動詞句が目的語になっていると考える理由である。

次に、動詞句が目的語として現れた構造には、意味的に共通する特徴がある。それは、動詞句が表す事象は、主動詞が表す事象が生じた時点では常に未実現であるということである。ʔánkèin の場合は、「頼む」という行為を行ったとき、行為者がしたいと思っている行為はまだ実現していない。θànáN の場合は、「忘れる」という変化が生じたとき、行為者が本来はすべきだった行為はまだ実現していない。báθà の場合は、「欲する」という心理状態が生じたとき、行為者が行うことを欲している行為はまだ実現していない。



thòun の場合は、「受け入れる」という心理的態度が生じたとき、行為者が被るだろう状態はまだ実現していない。

本論文では、このような意味的特徴を、ポー・カレン語において動詞句を目的語として取るという構文そのものに与えられた特徴であると見なしたい。それは次に述べるような事実があるからである。四つの動詞のうち θànáN は、第 22 章で述べるとおり、目的語として補文を取ることもできる。次はこの動詞が補文を取った例である。

- (17) jə- θànáN [C jə- yê chó láifàu]  
 1sg 忘れる 1sg 来る 運ぶ 本  
 「私は本を持ってきたことを忘れた」

この (17) と、動詞句が目的語になった次の文では、文の表す意味がまったく異なる。

- (18) jə- θànáN [VP yê chó láifàu] (=7)  
 1sg 忘れる 来る 運ぶ 本  
 「私は本を持ってくるのを忘れた」(001.550)

(17) が意味するのは、「私が本を持ってきた」という既に実現済みの事象を「忘れた」ということである。その点で、「私が本を持ってくる」というまだ実現していない事象を「忘れた」ことを意味する (18) とはまったく異なるのである。(17) では、補文中の主語を取り除くことができ、その場合は見かけ上 (18) と同じ音列になる。しかし、もしその音列が「私は本を持ってきたことを忘れた」ということを意味するなら、その文は、補文を取った文であると解釈することができる。

動詞句が目的語として現れた構造における「動詞句が表す事象は主動詞が表す事象が生じた時点では常に未実現」という特徴が、このような構造そのものに与えられた意味であると解釈するならば、(17) と (18) の二つの文の意味的差異は、その原因を文の構造の差異に帰すことができる。また、このような意味的な差異が生じるということも、動詞句という範疇を認める根拠になるだろう。

### 16.2.3 動詞句が主語として現れる可能性

さて、動詞句が目的語として現れることがあるなら、動詞句が主語として現れることもあるのだろうか。どうやらその可能性は薄い。例えば、次の文の [ ] で括った部分は、一見、動詞句に見える。

- (19) [ khlàin phlòun ] ká  
 話す カレン 難しい  
 「カレン語を話すことは難しい」

しかし、この動詞句には、次のように主語を補うことができる。

- (20) [ hə- khlàin phlòun ] ká  
 1pl 話す カレン 難しい  
 「私達がカレン語を話すことは難しい」

したがって、(19) の [ ] で括った部分は動詞句ではなく、第 22 章で論じる補文である。現在までに、主語の部分に動詞句らしき要素が現れた文で、動詞句の主語を補ったときに、前節で述べた  $\theta\acute{\alpha}\nu\acute{\alpha}\nu$  のような違いを生じる事例は見つかっていない。したがって、動詞句のようなものが主語の位置に現れていても、それは単に補文の主語が現れていないということに過ぎない。結論として、動詞句そのものが主語として現れるということはないと言えそうである。

## 第17章 動詞連続

動詞連続 (verb serialization; serial verbs; serial verb construction) というのは、複数の動詞が同一の節や文の中で動詞間の関係を示す標識を伴わずに現れる現象で、様々な地域や系統の言語に見られる (Sebba 1987, Lefebvre 1991 などを参照)。一般的に動詞連続は、継起的に連なる複数の事象を表すことが多い。東アジアから東南アジアにかけての諸言語には広くこの現象が見られ、地域特徴の一つとして挙げられることも少なくない。例えば Goral (1986) は、東南アジア諸言語の動詞連続をこうした視点から観察している。この地域の言語の多くにおいては、あたかも形態論の乏しさを補うかのように動詞連続が発達しており、動詞連続はそれぞれの言語の文法の中で極めて重要な役割を担っている。ポー・カレン語に隣接する諸言語の動詞連続を扱った最近の研究としては、ビルマ語についての澤田 (1989)、タイ語についての Thepkanjana (1986)、Muansuwan (2002)、スゴー・カレン語についての加藤 (1993) などがある。

### 17.1 ポー・カレン語の動詞連続の規定

ポー・カレン語も他の東南アジア諸語の例にもれず、動詞連続を豊富に持っている。本論文では、ポー・カレン語の動詞連続を次のように規定する。

動詞連続: 同一節中に、動詞間の関係を示す標識を伴わずに複数の動詞が現れる現象。ただし、その節の中に埋め込まれた従属節の中の動詞や、補語の中の動詞は、動詞連続を構成する動詞と考えない。

ポー・カレン語には動詞連続と紛らわしい構造がある。これについては 17.5 で議論する。下に動詞連続の例を挙げる。

- (1) ʔəwè    yê       cáinkwè  
3se    来る    遊ぶ  
「彼が遊びに来た」
- (2) jə-    phūkhwā    lì       málú    láipəjàn  
1sg    弟            行く    学ぶ    ビルマ語  
「私の弟はビルマ語を勉強しに行った」
- (3) jū       ʔáin       chó    kú  
ねずみ    くわえる    運ぶ    菓子  
「ねずみが菓子をくわえて持って行った」

- (4) jə- ʔán mì ʔwí mā  
 1sg 食べる ご飯 美味な (非常)  
 「ご飯を食べたら大変おいしかった」

ここに挙げた例もそうであるように、ポー・カレン語の動詞連続は二つの動詞で構成されるものが最も多い。三つ以上の動詞からなる動詞連続も、すべて二つの動詞からなる動詞連続の関係に還元して考えることができる。以降、動詞連続を構成する二つの動詞のうち、最初に現れた動詞を V1、2 番目に現れた動詞を V2 と表すことにする。

## 17.2 動詞連続の分類

上で規定したポー・カレン語の動詞連続は、これらが従属節で否定された場合に否定辞 lə- の付く位置に基づき、連結型と分離型の二つのタイプに分類することができる。

### i) 連結型

否定辞をつけたときに lə- V1 V2 となるもの。V1 と V2 の間に補語や副詞などをはじめとする他の要素は決して介在できない。

- (5) jə- lə- lì xwè bá ʔəkhúcòn ...  
 1sg (否) 行く 買う (否') (理由)  
 「私は買いに行かなかったので...」

### ii) 分離型

否定辞をつけたときに V1 lə- V2 となるもの。V1 と V2 の間には補語や副詞などの要素が入り得る。

- (6) jə- khlàin phlòun lə- θí bá ʔəkhúcòn ...  
 1sg 話す カレン (否) できる (否') (理由)  
 「私はカレン語が話せなかったので...」

以下では、「連結型」「分離型」の順に、それぞれのタイプの動詞連続が持つ性質について考察を進める。

## 17.3 連結型

連結型動詞連続は、V1 と V2 の間に他の要素が割って入ることはなく、V1+V2 全体で一つの動詞複合体を形成する。上で述べたとおり、連結型動詞連続は、否定辞 lə- が V1 の前に付く動詞連続であると定義できる。

- (7) jə- lə- lì xwè bá ʔəkhúcòn | ʔəwé lì xwè  
 1sg (否) 行く 買う (否') (理由) 3se 行く 買う  
 「私が買いに行かなかったのに、彼が買いに行った」

- (8) ʔəwê lə- ʔánphôn ʔán mì bá nó  
 3se (否) 炊く 食べる ご飯 (否') (前提) |  
 xwè ʔán dālô  
 買う 食べる (断定)  
 「彼はご飯を作って食べないときは、(外で)買って食べる」

否定辞 lə- が V1 と V2 の間に割って入ることはない<sup>1</sup>。

- (9) \*jə- lì lə- xwè bá ʔəkhócòn ...  
 1sg 行く (否) 買う (否') (理由) 3se 行く 買う  
 (10) \*ʔəwê ʔánphôn lə- ʔán mì bá nó ...  
 3se 炊く (否) 食べる ご飯 (否') (前提)

連結型動詞連続の V1 と V2 のそれぞれは、単独の動詞である場合だけでなく、動詞に動詞助詞のついたものである場合もある。したがって、実際には連結型動詞連続の V1 と V2 は単独の動詞というよりも動詞複合体であると考えたほうがよい。

- (11) pəu thán pō lán lái  
 開ける (完成) 読む (下方) 手紙  
 「手紙を開けて読んだ」

ここでは、pəu 「開ける」に動詞助詞の thán (この場合は「完成」を表す) が付いて全体として V1 となり、pō 「読む」にやはり動詞助詞の lán (この場合は「下方向への動作」を表す) が付いて全体として V2 となっている。このように、動詞に助詞の付いたものが連結型動詞連続の V1 あるいは V2 になる場合もある。

### 17.3.1 連結型動詞連続が表す事象間の関係

連結型の V1 と V2 はそれぞれの表す事象が開始した順序に従って並べられるのが原則である。つまり、時間的には、V1 の表す事象の開始は V2 の表す事象の開始に先行する。次の二つの例を比べてみよう。

- (12) jū ʔáin chó kú  
 ねずみ くわえる 運ぶ 菓子  
 「ねずみが菓子をくわえて運んだ」

<sup>1</sup> ちなみに、ポー・カレン語に隣接するビルマ語では、(7) や (8) に相当する動詞連続では否定辞 mə- が動詞と動詞の間に置かれるのが普通である。次のビルマ語の例を見よ。

- (a) θwá mə- wè bú  
 行く (否) 買う 動詞文標識  
 「買いに行かなかった」  
 (b) cheʔ mə- sá bú  
 炊く (否) 食べる 動詞文標識  
 「(ご飯を) 作って食べるということはしなかった」

- (13) jū      chó    ʔáin      kó  
       ねずみ    運ぶ    くわえる    菓子  
       「ねずみが菓子を運んでくわえた」

この二つの動詞連続は明らかに意味が異なる。動詞の並んでいる順番どおり、ʔáin chóの場合は、「くわえる」という動作の後、「運んだ」のである。逆に、chó ʔáinの場合は、何らかの方法によって「運んだ」後、「くわえた」のである。すなわち、動詞の並べ方は、動詞が表す事象が開始した時間的順序にそのまま従っている。この性質は、連結型動詞連続に見られる一般的傾向である。ただし、動詞の配列が時系列に従わないケースもあり、このことについては 17.3.4 で述べる。

次に、連結型における V1 と V2 がそれぞれ表す事象の間には、いくつかの密接な関係が観察される。「原因 - 結果」「手段 - 目的」「様態 - 動作」などの関係である。例えば、次の動詞連続を見ていただきたい。

- (14) ʔəwê    lánthé    ʔi  
       3se    落ちる    死ぬ  
       「彼は（高所から）落ちて死んだ」

- (15) ʔəwê    xwè    ʔán      kó  
       3se    買う    食べる    菓子  
       「彼は菓子を買って食べた」

- (16) ʔəʔí    ɛ̀kəlôn      phòunwòun    lóʔà  
       3pl    素速く行く    抱く            (相互)  
       「彼らはすぐに抱き合った」

まず、(14) の例では、「落ちる」という事象が原因になって「死ぬ」という事象が生じたことが表されており、V1 が表す事象と V2 が表す事象の間には、「原因 - 結果」の関係がある。また、(15) では、V1 が表す「買う」という動作は V2 が表す「食べる」という目的を遂行するための手段となっている。逆に「食べる」という動作は「買う」という動作の目的になっている。つまり、V1 が表す事象と V2 が表す事象の間に、「手段 - 目的」の関係がある。また、(16) では、V1 は「素速く行く、急ぐ」という意味を表す動詞で、これは V2 が表す「抱く」という動作が「速い」ということを表している。つまり、「様態 - 動作」とでも呼べるような関係が見出される。また、下の例は、「手段 - 目的」とも「様態 - 動作」とも考えられる例である。

- (17) ʔəwê    chinàn    p̄      láip̄àv  
       3se    座る    読む    本  
       「彼は座って本を読んだ」

V1 が表す「座る」という動作は、「本を読む」という動作を行うための手段とも考えられるし、単に「本を読む」という動作を行ったときの様態であるとも考えられる。また、次の例は、後で述べる主語非同一型の動詞連続であるが、このような場合、V1 が表す事象と V2 の表す事象の間には、「原因 - 結果」あるいは「手段 - 目的」とも呼ぶべき関係が見出される。

- (18) jə- dó θi thwí  
 1sg 殴る 死ぬ 犬  
 「私は犬を殴り殺した」

ここで V2 が表す「死ぬ」という事象は、「殴る」という動作によってもたらされたものである。その意味で、V1 が表す事象と V2 が表す事象は「原因 - 結果」の関係にある。一方で、後で述べるように、ここでの「死ぬ」という結果は、「殴る」という動作の結果として「期待された」事象である。そのような意味では、V1 と V2 がそれぞれ表す事象には「手段 - 目的」と呼べるような関係がある。

V1 が表す事象と V2 が表す事象の間には、このように、「原因 - 結果」「手段 - 目的」「様態 - 動作」などの緊密な関係が見出される。ここに挙げた三つの関係のいずれの関係にあるとも解釈できないような二つの事象は、連結型動詞連続によって表現することはできない。例えば、次の文が表す二つの事象を、連結型動詞連続を用いて表現することはできない。

- (19) jə- thè ?ə yòN | dó ?ə  
 1sg 蹴る 3SG (継起) 殴る 3SG  
 「私は彼を蹴って殴った」

これを、次のように動詞連続を用いて表現することはできない。

- (20) \*jə- thè dó ?ə  
 1sg 蹴る 殴る 3SG

「蹴る」という事象と「殴る」という事象の連続を動詞連続で表現できないのは、「蹴る」とことと「殴る」ことが独立した事象であることに原因がある。この場合、「蹴る」のは「殴る」ためではない。また、「蹴りながら殴る」という状況も考えにくい。「殴る」という動作が「蹴る」という動作の結果であるというのも考えにくい。したがって、ここでの「蹴る」という事象と「殴る」という事象は、「手段 - 目的」「様態 - 動作」「原因 - 結果」といった関係にはない、互いに独立した事象である。このことが、この二つの事象を動詞連続で表すことのできない理由である。

このように、連結型動詞連続で表された二つの事象は、「手段 - 目的」「様態 - 動作」「原因 - 結果」などの緊密な関係にある。逆に、このような関係のいずれとも考えられないような場合には、連結型動詞連続を用いて二つの事象を表現することはできない。事象間の意味関係として、この三つのみを設定すればよいのか、あるいは、より多くの意味関係を設定すべきなのか、逆に減らすべきなのかは、今後も引き続き検討しなければならない課題である。ともかく、互いに緊密な関係にない独立した事象を、連結型動詞連続を用いて表現することはできないということは確実である。

### 17.3.2 連結型における自動詞・他動詞の組み合わせ

V1 と V2 の自動詞・他動詞による組み合わせを考えると、連結型の動詞連続には当然のことながら「自動詞 + 自動詞」「自動詞 + 他動詞」「他動詞 + 他動詞」「他動詞 + 自動詞」の四つのパターンが存在する。これら四つのパターンの動詞連続全体が目的語を取るか取

らないか、すなわち、全体が自動詞としての振る舞いを示すか他動詞としての振る舞いを示すかということに着目すると、「自動詞 + 自動詞」は自動詞、「自動詞 + 他動詞」は他動詞、「他動詞 + 他動詞」は他動詞、「他動詞 + 自動詞」は他動詞として振る舞う。

- (i) 自動詞 + 自動詞 → 自動詞
- (ii) 自動詞 + 他動詞 → 他動詞
- (iii) 他動詞 + 他動詞 → 他動詞
- (iv) 他動詞 + 自動詞 → 他動詞

具体例を見てみよう。まず最初に、「自動詞 + 自動詞」の例である。

- (21) ʔəwê lánthîphā θi  
 3se 転ぶ 死ぬ  
 「彼は転んで死んだ」

見ての通り、lánthîphā θi 全体では、目的語を取らない。つまり、動詞連続全体は自動詞と同様の振る舞いを示す。次は、「自動詞 + 他動詞」の例である。

- (22) jə- lì xwè já phàdú  
 1sg 行く 買う 魚 巨大な  
 「私は大きな魚を買いに行った」

ここで、lì xwè の後には名詞句が現れている。つまり、動詞連続全体は他動詞と同様の振る舞いを示している。次は、「他動詞 + 他動詞」の例である。

- (23) jə- xwè ʔán kú  
 1sg 買う 食べる 菓子  
 「私は菓子を買って食べた」

xwè ʔán の後には名詞句が現れている。つまり、動詞連続全体は他動詞と同様の振る舞いを示している。最後に、「他動詞 + 自動詞」の例である。

- (24) jə- ɕân já cakhô  
 1sg 引く 裂ける 紙  
 「私は紙を引き裂いた」

ここでも、ɕân já の後には名詞句が現れている。つまり、動詞連続全体は他動詞と同様の振る舞いを示している。

これら 4 パターンのうち、(i) から (iii) のパターンすなわち「自動詞 + 自動詞」「自動詞 + 他動詞」「他動詞 + 他動詞」のパターンと、(iv) のパターンすなわち「他動詞 + 自動詞」のパターンの間には決定的な違いがある。それは、V1 と V2 の論理的主語の同一指示性である。(i) から (iii) のパターンでは、論理的主語は同一指示であり、一方、(iv) のパターンでは、論理的主語は同一指示ではない。最初に、(i) から (iii) のパターンを見てみよう。これらのパターンにおいて論理的主語が同一指示であることは、動詞連続が表す二つの事象を、真理条件的意味を変えずにそれぞれの動詞を用いて別々の文で表したときに主語になる名詞句を見れば分かる。例えば、(21) の文を、次のように「分解」する。



(25) a. ʔəwê lánthîphā  
           3se 転ぶ  
           「彼は転んだ」

b. ʔəwê θi  
           3se 死ぬ  
           「彼は死んだ」

すると、(a)(b) どちらの文においても、ʔəwê「彼」が主語になっている。したがって、(21)の動詞連続における V1 と V2 の論理的な主語は同一指示であると見なすことができる。同様に、(22) と (23) も次に示す通り、論理的な主語が同一指示である。

(26) a. jə- lì  
           1sg 行く  
           「私は行った」

b. jə- xwè já phàdú  
           1sg 買う 魚 巨大な  
           「私は大きな魚を買った」

(27) a. jə- xwè kú  
           1sg 買う 菓子  
           「私は菓子を買った」

b. jə- ʔáN kú  
           1sg 食べる 菓子  
           「私は菓子を食べた」

(26) では主語が (a)(b) とも jə- で同一指示であり、(27) ではやはり (a)(b) とも主語が jə- で同一指示である。まとめると、自動詞と他動詞の組み合わせのうち、「自動詞 + 自動詞」「自動詞 + 他動詞」「他動詞 + 他動詞」の三つのパターンは、V1 と V2 の論理的な主語が同一指示であるという点で共通している。そこで、以降、これら三つのパターンを、主語同一型と呼ぶことにする。

一方、「他動詞 + 自動詞」の場合には事情が異なる。(24) の例に同様のテストをほどこしてみる。

(28) a. jə- cāN càkhô  
           1sg 引く 紙  
           「私は紙を引いた」

b. càkhô já  
           紙 裂ける  
           「紙が裂けた」

これまでの場合とは違って、ここではそれぞれの文の主語が異なっている。(a) の主語は jə-「私」であるが、(b) の主語は càkhô「紙」である。すなわち、V1 と V2 の論理的な主語は、このパターンでは同一指示ではない。そこで以降、「他動詞 + 自動詞」のパターンを主語非同型と呼ぶことにする。

### 17.3.3 連結型における主動詞

連結型の動詞連続における V1 と V2 は対等な立場にはないと考えられる。なぜならば、動詞連続全体の性質は、どちらか一方の動詞が優先的に決定していると考えられるからである。具体的には、動詞連続の「項の取り方」と「意志性」が、一方の動詞によって決定される。このような、動詞連続全体の性質を決定する上で優先権を持つ側の動詞を、以後、主動詞(head verb)と呼ぶことにする。

連結型動詞連続において V1 と V2 のどちらが主動詞になるかは、主語同一型と主語非同一型で異なるので、以下では主語同一型と主語非同一型に分けてこの問題について論じる。

#### 17.3.3.1 主語同一型の主動詞

まず、主語同一型の例を下に挙げておく。

- (29) ʔəwê lánthiphā θî (自動詞 + 自動詞)  
 3se 転ぶ 死ぬ  
 「彼は転んで死んだ」

- (30) jə- chinàn kòcà (自動詞 + 自動詞)  
 1sg 座る 叫ぶ  
 「私は座って叫んだ」

- (31) jə- chinàn ʔáŋkhò ʔəwê (自動詞 + 他動詞)  
 1sg 座る 待つ 3se  
 「私は座って彼を待った」

- (32) jə- ʔánphôn ʔán mì (他動詞 + 他動詞)  
 1sg 炊く 食べる ご飯  
 「私はご飯を炊いて食べた」

最初に、項の取り方を見てみよう。(31) のような「自動詞 + 他動詞」の組み合わせの場合、項の取り方については、動詞連続全体は V2 の特徴を受け継いでいる。このことは、動詞連続が取っている項をそのままにし、V1 と V2 を一方ずつ取り除くテストを施してみれば明らかである。次の (33) は、(31) にこのようなテストを施した結果である。

- (33) a. \*jə- chinàn ʔəwê  
 1sg 座る 3se  
 b. jə- ʔáŋkhò ʔəwê  
 1sg 待つ 3se

別の例を挙げる。

- (34) phà thán ké thán dùlā  
 生まれる (完成) 成る (完成) ハエ  
 「(ウジが) 発生してハエになる」

これに先のテストを施す。

(35) a. \*phà      thán      dùlâ  
         生まれる (完成) 八工

b. ké      thán      dùlâ  
         成る (完成) 八工

(33) と (35) を見れば明らかなように、V2 を取り除いたときにのみ不適格になる。したがって、「自動詞 + 他動詞」の場合、動詞連続全体は V2 の項の取り方を受け継いでいると考えることができる。

一方、「自動詞 + 自動詞」の場合と「他動詞 + 他動詞」の場合、問題はこれほど簡単ではない。なぜなら、これらの場合、項の取り方が V1 と V2 で共通であることが多いからである。例えば、(30) (自動詞 + 自動詞の例) や (32) (他動詞 + 他動詞の例) では、項をそのままにし、V2 を取り除いて V1 だけを残しても、逆に V1 だけを取り除いて V2 だけを残しても、適格な文が成立する。

(36) a. jə-      chinàn  
         1sg 座る

b. jə-      kògà  
         1sg 叫ぶ

(37) a. jə-      ʔánphôn      mì  
         1sg 炊く      ご飯

b. jə-      ʔán      mì  
         1sg 食べる      ご飯

これだけを見ると、「自動詞 + 自動詞」あるいは「他動詞 + 他動詞」の場合、動詞連続全体が V1 と V2 のどちらの項の取り方を受け継いでいるのかは分からない。しかしながら、次に挙げる点から、これらの組み合わせにおいても、項の取り方は V2 が決定していると考えられる。

まず、「自動詞 + 自動詞」の組み合わせにおいては、V1 が移動を表す自動詞である場合に、V1 の到着点に相当する場所を表す名詞句が常に側置助詞を伴わなければならないということが挙げられる。次の例を見てみよう。ここでは、場所を表す側置助詞 lé が現れていないと不適格になる。

(38) jə-      thàin      mî      \*(lé)      yéin  
         1sg 帰る      寝る (場)      家  
         「私は家に帰って寝た」

(39) jə-      lì      ʔópwài      \*(lé)      thəʔàn  
         1sg 行く      休む (場)      (地名)  
         「私はパアンに行って休養を取った」

移動を表す動詞が動詞連続を構成する動詞としてではなく単独で現れた場合、到着点を表す名詞句は、側置助詞句を介さずに動詞の直後に置くことができる。例えば下の文では、lé は現れても現れなくてもよい。

- (40) jə- thàin (lé) yéin  
1sg 帰る (場) 家  
「私は家に帰った」

- (41) jə- lì (lé) thəʔàn  
1sg 行く (場) (地名)  
「私はパアンに行った」

一方、(38) や (39) の動詞連続が場所を表す側置助詞を伴わなければならないのと同じように、それぞれの V2 は、場所を表す名詞句を側置助詞なしに従えることはない。

- (42) jə- mî \*(lé) yéin  
1sg 寝る (場) 家  
「私は家で寝た」

- (43) jə- ʔópwài \*(lé) thəʔàn  
1sg 休む (場) (地名)  
「私はパアンで休んだ」

すなわち、(38) や (39) の動詞連続は、場所を表す名詞句の取り方において、V1 の特性ではなく V2 の特性を引き継いでいる。

次に、「他動詞 + 他動詞」の場合、下に挙げる文のように、動詞連続の目的語が V1 の項としては解釈できないことがある。

- (44) jə- pàv thán jū chəkhloŋ  
1sg 開ける (完成) 見る 外  
「私は (戸を) 開けて外を見た」

この例では、動詞連続の目的語が指示するのは V2 の動作の被動者であって、V1 の動作の被動者ではない。この動詞連続に先ほどからのテストを施せば、このことは明らかである

- (45) a. \*jə- pàv thán chəkhloŋ  
1sg 開ける (完成) 外  
(私は外を開けた)  
b. jə- jū chəkhloŋ  
1sg 見る 外  
「私は外を見た」

また、V1 の被動者を表す名詞句を動詞連続の目的語の位置に置くと、不適格になる。

- (46) \*jə- pàv thán jū pàitəŋ  
1sg 開ける (完成) 見る 戸  
「私は戸を開けて (外を) 見た」

同様の例を下に示す。

- (47) jə- xwí làn ʔán mì dē thílá  
 1sg かける (下方) 食べる ご飯 (共) 塩  
 「私はご飯に塩をふりかけて食べた」

ここで、動詞連続の後に現れている名詞句は、V2 の動作の被動者を表す。V1 の動作の被動者である thílá「塩」を動詞連続の後に置いた次の文は、塩を何かにふりかけてその塩そのものを食べたということしか意味しない。つまり「塩」は、V2 が表す動作の被動者としてしか解釈されない。

- (48) jə- xwí làn ʔán thílá  
 1sg かける (下方) 食べる 塩  
 「私は塩をふりかけて(塩を)食べた」

上の観察から分かることは、「他動詞 + 他動詞」の組み合わせにおいて V1 と V2 が被動者を共有しない場合、動詞連続の目的語として現れることができるのは、V2 の動作の被動者のみだということである。

以上の議論から、主語同一型の連結型動詞連続では、V2 が主導権を握って項の取り方を決定していると見なすことができる。

次に、動詞の意志性を見てみよう。主語同一型の場合、V1 と V2 の意志性が異なることは少ない。加藤(1998)では、「意志性から見ると、このパターンでは、V1 と V2 は両方とも意志動詞であるか無意志動詞であるかのどちらかである。V1 と V2 が意志動詞の場合には、動詞連続全体も意志動詞の特徴を帯び、V1 と V2 が無意志動詞の場合には、動詞連続全体も無意志動詞の特徴を帯びる」と述べた。確かに、今まで見てきた例を含め、主語同一型の場合、V1 と V2 が自動詞であれ他動詞であれ、「無意志 + 無意志」あるいは「意志 + 意志」の組み合わせが多い。

- (49) ʔəwê lánthíphā θi (無意志 [自] + 無意志 [自]) (=29)  
 3se 転ぶ 死ぬ  
 「彼は転んで死んだ」

- (50) jə- chinàn kòcà (意志 [自] + 意志 [自]) (=30)  
 3sg 座る 叫ぶ  
 「私は座って叫んだ」

- (51) phà thán ké thán dùlâ (無意志 [自] + 無意志 [他]) (=34)  
 生まれる (完成) 成る (完成) ハエ  
 「(ウジが)発生してハエになる」

- (52) jə- chinàn ʔánkò ʔəwê (意志 [自] + 意志 [他]) (=31)  
 1sg 座る 待つ 3se  
 「私は座って彼を待った」

- (53) ʔəθí θíjā náθí ʔəyāinʔəcón (無意志 [他] + 無意志 [他])  
 3pl 知る 理解する 事情  
 「彼らは事情を知って理解している」

- (54) jə- ʔánphôn ʔán mì (意志 [他] + 意志 [他]) (=32)  
 1sg 炊く 食べる ご飯  
 「私はご飯を炊いて食べた」

「無意志 + 無意志」の場合に動詞連続全体も無意志動詞の振る舞いを示し、「意志 + 意志」の場合に動詞連続全体も意志動詞の振る舞いを示すことは、命令文になるかどうかを見れば明らかである。

- (55) \*lànthìphā θí (無意志 [自] + 無意志 [自])  
 転ぶ 死ぬ  
 (転んで死ぬ)

- (56) chìnàn kòcà (意志 [自] + 意志 [自])  
 座る 叫ぶ  
 「坐って叫べ」

- (57) \*phà thán ké thán dùilâ (無意志 [自] + 無意志 [他])  
 生まれる (完成) 成る (完成) ハエ  
 (発生してハエになれ)

- (58) chìnàn ʔánkhò ʔəwê (意志 [自] + 意志 [他])  
 座る 待つ 3sg  
 「座って彼を待て」

- (59) \*θíjā náθí ʔəyāinʔəcón (無意志 [他] + 無意志 [他])  
 知る 理解する 事情  
 (事情を知って理解しろ)

- (60) ʔánphôn ʔán mì (意志 [他] + 意志 [他])  
 炊く 食べる ご飯  
 「ご飯を炊いて食べる」

これらを見る限りでは、主語同一型において、V1 と V2 の意志性が異なることはなさそうに見える。しかし、実際には、次のように V1 と V2 の意志性が異なる例が存在することが分かった。

- (61) khìchìphōn jō làn dá làn wê díθítí  
 虎 見る (下方) 見つける (下方) (強意) カエル  
 「虎が下を見るとカエルがいた」(III-03.41)

この動詞連続は命令文になることができない。したがって全体として無意志動詞としての特徴を持つ。

- (62) \*jō      làN      dá              làN      díθú  
       見る (下方) 見つける (下方) カエル  
       (下を見てカエルを見つけれ)

この動詞連続における V1 の jō làN は、次のように命令文になれるので意志動詞である。

- (63) jō      làN      díθú  
       見る (下方) カエル  
       「カエルを見下ろせ」

一方、V2 の dá làN は、次のように、命令文になることができない。

- (64) \*dá      làN      díθú  
       見える (下方) カエル  
       「カエルを見つけれ」

つまり、(61) の動詞連続は「意志動詞 + 無意志動詞」という組み合わせになっており、全体としては無意志動詞の特徴を帯びている。この事実は、意志性の側面から見ても、主語同一型の連結型動詞連続が V2 の特徴を受け継ぐことを意味する。つまり、主語同一型の連結型動詞連続は、項の取り方においても意志性においても、動詞連続全体としては V2 の特徴を受け継ぐということになる。なお、「無意志動詞 + 意志動詞」という組み合わせは現時点で見つかっていない。

以上見てきたように、主語同一型の連結型動詞連続においては、V2 が動詞連続全体の特徴を決定する主導権を握っている。

### 17.3.3.2 主語非同型型の主動詞

次に、主語非同型型について考察する。このタイプの動詞連続は、一般的に、V1 が何らかの動作を表し、V2 はそれによって被動者に生じる状態や状態変化を表す。

例を下に挙げる。

- (65) jə-      dó      θi      thwí  
       1sg 殴る 死ぬ 犬  
       「私は犬を殴り殺した」

- (66) jə-      kwà      lànchè      châin  
       1sg 掛ける ぶら下がる シャツ  
       「私は服を（掛けて）ぶら下げた」

- (67) ʔəwê      thàv      chêin      ʔə-      mé  
       3se こする 清潔な 3sg 歯  
       「彼は（自分の）歯をみがいてきれいにした」

まず、項の取り方を見てみよう。(65)～(67) の V1 と V2 を一方ずつ取り除いてみる。以下、(a) が V2 を取り除いたもの、(b) が V1 を取り除いたものである。

(68) a. jə- dú thwí  
1sg 殴る 犬  
「私は犬を殴った」

b. \*jə- θi thwí  
1sg 死ぬ 犬

(69) a. jə- kwà châin  
1sg 掛ける シャツ  
「私はシャツを掛けた」

b. \*jə- lanchè châin  
1sg ぶら下がる シャツ

(70) a. ʔəwê thàu ʔə- mé  
3se こする 3sg 歯  
「彼は歯をみがいた」

b. \*ʔəwê chên ʔə- mé  
3se 清潔な 3sg 歯

V1 を取り除いたものはすべて不適格になる。このことから、主語非同一型では、V1 が動詞連続全体の項の取り方を決定していると考えることができる。

一方、意志性を見てみると、主語非同一型は、動詞連続全体が意志動詞としての特性を帯びる。それは、次に示すように、これらの動詞連続がそのままの形で命令文になることから明らかである。

(71) dú θi thwí  
殴る 死ぬ 犬  
「犬を殴り殺せ」

(72) kwà lanchè châin  
掛ける ぶら下がる シャツ  
「服を（掛けて）ぶら下げろ」

(73) thàu chên nə- mé  
こする 清潔な 2sg 歯  
「歯をみがいてきれいにしろ」

個々の動詞は、常に V1 が意志動詞、V2 が無意志動詞である。主語非同一型で、V1 と V2 の組み合わせが「意志動詞 + 意志動詞」「無意志動詞 + 無意志動詞」「無意志動詞 + 意志動詞」となるような例は見つかっていない。例えば、次は、「意志動詞 + 無意志動詞」の組み合わせ以外で主語非同一型として解釈できそうな文を無理に作ってみたものである。



(74) \*jə- dú chinàn thwí  
 1sg 殴る 座る 犬  
 (私は犬を殴って座らせた)

(75) \*jə- bá yàyòn pàitəràn  
 1sg ぶつかる 壊れる 戸  
 (私は戸にぶつかって戸を壊してしまった)

(76) \*jə- bá chinàn thwí  
 1sg ぶつかる 座る 犬  
 (私は犬にぶつかって犬を座らせた)

(74) は「意志動詞 + 意志動詞」、(75) は「無意志動詞 + 無意志動詞」、(76) は「無意志動詞 + 意志動詞」の例である。いずれも不適格な文になっている。まとめると、主語非同一型は全体として常に意志動詞としての特徴を持ち、また常に、V1 は意志動詞、V2 は無意志動詞である。すなわち、動詞連続全体の意志性は V1 が決定していると言える。

上で見てきたことから、主語非同一型においては、項の取り方についても意志性についても、動詞連続全体が V1 の特徴を受け継いでいると考えることができそうである。ところが、この一般化に反するかのように見える次のような例がある。

(77) jə- khóuN lànòn phlòuncú  
 1sg 掘る 埋まる 死体  
 「私は死体を埋めた」

ここで動詞連続の目的語になっている phlòuncú「死体」は、V1 の khóuN「掘る」の被動者ではない。「掘る」という動作の被動者は「死体」ではなくて「土」である。したがって、この文の V2 を削除して V1 だけを残すと、次のような容認できない文ができる。

(78) \*jə- khóuN phlòuncú  
 1sg 掘る 死体

動詞連続の目的語である phlòuncú「死体」は、V1 が表す動作とは何の関係もなく、V2 の lànòn が表す事象の被動者としてしか解釈できない。つまり、この例においては、動詞連続全体の特徴すべてを V1 のみが決定していると言ってしまうことはできないのである。しかしこの場合でも、全体として見れば、動詞連続の特徴の決定は V1 に優先権があるように思われる。その理由は次のとおりである。

- ・ 動詞連続全体は他動詞として働く。これは V1 の特徴である。V2 の自動詞としての特徴は動詞連続には受け継がれていない。
- ・ 動詞連続全体は意志動詞として働く。すなわち、命令文 khóuN lànòn phlòuncú「死体を埋めろ」が可能である。一方、V1 の khóuN「掘る」は意志動詞で、V2 の lànòn「埋まる」は無意志動詞である。よって動詞連続の意志性は V1 と同一である。

すなわち、動詞連続全体のありとあらゆる特徴を V1 が決定するわけではないが、V1 に決定の優先権が与えられていると考えてよいのではないだろうか。

結論として、主語非同一型の連結型動詞連続においては、V1 が動詞連続の性質を決定する主導権を握っていると言ってよいと思われる。

## 17.3.3.3 連結型における主動詞のまとめ

上で見たように、連結型動詞連続の主動詞は、主語同一型と主語非同一型とで異なる。主語同一型では V2 が主動詞であると考えられ、主語非同一型では V1 が主動詞であると考えられる。上で述べたことを表にまとめておく。

	論理的主語	主動詞
自動詞 + 自動詞	同一指示	V2
自動詞 + 他動詞		
他動詞 + 他動詞		
他動詞 + 自動詞	非同一指示	V1

## 17.3.4 連結型における動詞の配列規則

連結型の動詞連続における動詞の配列は、17.3.1 に述べたとおり、事象開始の時間的順序に従うのだった。今一度次の文を見ていただきたい。

(79) jū      ?áiN      chó      kó      (=12)  
       ねずみ    くわえる    運ぶ    菓子  
       「ねずみが菓子をくわえて運んだ」

(80) jū      chó      ?áiN      kó      (=13)  
       ねずみ    運ぶ    くわえる    菓子  
       「ねずみが菓子を運んでくわえた」

(79) と (80) の動詞連続は、V1 と V2 の位置が逆になっているだけである。V1 と V2 は事象の開始した順に並べられるので、「くわえる」という事象と「運ぶ」という事象の開始した順序は、(79) の場合には、「くわえる」が先で「運ぶ」が後、(80) の場合には、「運ぶ」が先で「くわえる」が後ということになる。そこで、

(81) < 配列規則 1 > 動詞は事象開始の時間的順序に沿って並べられる。

という連結型動詞連続における動詞の配列規則を設定することにする。

連結型動詞連続には、この規則以外に、動詞の配列についての規則が二つある。一つは、自動詞と他動詞の組み合わせにおける配列の規則であり、もう一つは、移動動詞を含む場合の配列の規則である。

最初に、自動詞と他動詞の組み合わせに関する配列規則を見てみよう。17.3.3 で見たように、連結型における自動詞および他動詞の組み合わせには、「自動詞 + 自動詞」、「自動詞 + 他動詞」、「他動詞 + 他動詞」、「他動詞 + 自動詞」という四つの組み合わせがあり得、このうち前者三つは主語同一型、最後の一つは主語非同一型と規定できるのだった。ここで生じる疑問は、最後の「他動詞 + 自動詞」の組み合わせの場合に、論理的主語が同一指示になることはないのかということである。

実は、そのようなケースは現段階で一つも見つかっていない。おそらくは、「他動詞 + 自動詞」という組み合わせで、論理的主語が同一指示になることは不可能である。というのは、次のような動詞連続は不適格だからである。

- (82) \*ʔə ʔəpwài  
 飲む 休む  
 「(酒などを)飲んで休む」

- (83) \*phón chíthəwɔn thán  
 つかむ 立ち上がる  
 「(綱などを)つかんで立ち上がる」

「酒を飲んで休む」「綱をつかんで立ち上がる」という内容を表現したければ、例えば、次のように二つの節に分解して表現する必要がある。

- (84) jə- ʔə θàì yòN | jə- ʔəpwài  
 1sg 飲む 酒 (継起) 1sg 休む  
 「私は酒を飲んで休んだ」

- (85) jə- phón phlì yòN | jə- chíthəwɔn thán  
 1sg つかむ 綱 (継起) 1sg 立ち上がる  
 「私は綱をつかんで立ち上がった」

そこで、本論文では、連結型動詞連続の配列規則に、次のような規則があるのだと考える。

- (86) <配列規則 2> V1 と V2 の論理的主語が同一指示であるような「他動詞 + 自動詞」という配列の連結型動詞連続は許されない。

実は、この規則を守るために、<配列規則 1>を破ったと思われる動詞連続の例がある。

- (87) jə- mî kòN thədòn  
 1sg 眠る 穿く 腰布  
 「私は眠りながらサロン(腰布)を穿いた / 私はサロンを穿いて眠った」

この動詞連続は、二つの解釈が可能である。一つは、「眠りながらサロンを穿いた」といういささか不自然な解釈、もう一つは、「サロンを穿いて寝た」という解釈である。前者の場合、「眠る」という事象が開始した後で、「穿く」という事象が開始している。一方、後者の場合はその逆で、「穿く」という事象が開始してから「眠る」という事象が開始している。この文に接したポー・カレン語話者は、普通、後者の解釈をする。ところが、「サロンを穿いて寝た」という解釈の場合、この文の動詞連続は、配列が時系列に従っていないことになる。もし、時系列に従って動詞を配列するとすれば、kòN mî(はく + 眠る)となるはずである。ところが、このような動詞の配列は許されない。

- (88) \*jə- kòN mî  
 1sg はく 眠る

(87) の動詞連続は、論理的主語が同一指示であるところの「他動詞 + 自動詞」という組み合わせを避けるため、あえて、<配列規則 1>を破ったのではないか。しかし、このことをもって、<配列規則 2>を、「V1 と V2 の論理的主語が同一指示である場合、『他動詞 + 自動詞』という配列の連結型動詞連続は、V1 と V2 を入れ換えなければならない」と変え

ることはしない。なぜなら、これは極めてまれなケースだと考えられるからである。実は (87) は、著者のデータにおいて、下で述べる移動動詞を含む場合を除くと、時系列に従わない唯一の例である。これが特殊なケースであることの証拠に、先ほどの (82) と (83) は、V1 と V2 を入れ換えると、言いたいことが言い表せない。

(89) ʔópwài ʔò  
休む 飲む

(90) chítháun thán phón  
立ち上がる つかむ

これらは、「休みながら（酒などを）飲む」「立ち上がって（綱などを）つかむ」という意味は表せても、「（酒などを）飲んで休む」「（綱などを）つかんで立ち上がる」という意味は表すことはできないのである。つまり、V1 と V2 を入れ換えると、表したい意味は得られない。(87) が可能になるのがいかなる理由によるのかは分からない。ひょっとすると、ここでは「はく」行為と「眠る」行為が同時的と捉えられており、＜配列規則 1＞を破っているのではないのかもしれない。いずれにせよ、論理的主語が同一指示の「他動詞＋自動詞」という組み合わせは、ただ単に「自動詞＋他動詞」という組み合わせに変えれば適格になるというわけではないことは明らかである。

次に、移動を表す動詞が現れた場合の配列規則を見ていく。まず、次の例を見ていただきたい。V2 の kò は、元来、「（名前などを）呼ぶ」という意味であるが、「誘う」という意味も表す。

(91) jə- yê kò ʔəwê  
1sg 来る 誘う 3se

「私は彼を誘いに来た / 私は彼を誘って連れて来た」

この動詞連続 yê kò は、「誘いに来た」あるいは「誘って連れて来た」という二つの状況を表すことができる。前者の状況は、「私」がどこかに移動して、その後、「彼」を「誘う」という状況である。後者の状況は、「彼」を誘い、その後、「私と彼」が一緒に移動するという状況である。前者の場合、「来る」という事象が生起した後に「誘う」という事象が生起するのであるから、動詞は時系列に従って並んでいる。一方、後者の状況では、「誘う」という事象が生起した後に、「来る」という移動が生じるのだから、この動詞の配列は時系列に沿っていない<sup>2</sup>。

次の動詞連続も同様である。

(92) jə- yê klí  
1sg 来る 走る

「私は来て走った（走るために来た） / 私は走って来た」

この例の動詞連続 yê klí は、「走りに来た（走るために来た）」、すなわち「来る」という移動の後で「走る」という動作を行うという状況と、「走って来た（走りながら来た）」、すなわち、「走る」という動作を行うことによって「来る」という移動を行うという状況の

<sup>2</sup>ちなみにカレン語に隣接するビルマ語の動詞連続では、「誘いに来る」は là khò dè(来る-誘う-現実法)、「誘って来る」は khò là dè(誘う-来る-現実法)となる。

両方を表すことができる。後者の場合、「走る」という事象と「来る」という事象は、ほぼ同時に生じてはいるが、「走る」という動作を行うことによって初めて「来る」という移動が生じるはずであるから、やはり、動詞の配列が時系列に沿っていないと考えることができる。

このように、時系列に沿わない配列になるのは、V1 が *lì* 「行く」や *yê* 「来る」などの移動を表す動詞であり、かつ、(i) V2 の表す動作の被動者が動作主とともに移動するような場合 (上の (91))、あるいは、(ii) V2 の表す事象が移動を必然的に伴う動作である場合 (上の (92)) である。次の (93) は (i) に該当する例、(94) は (ii) に該当する例である。

- (93) *jə- lì chó nówé*  
 1sg 行く 持ち上げる 箒  
 「私は箒を持って行った」

- (94) *jə- lì cáin*  
 1sg 行く 歩く  
 「私は歩いて行った」

(i)(ii) の条件に合わない例を見てみよう。次の動詞連続は、V2 の表す動作の被動者が、動作主とともに移動しないので、(i) の条件には合わず、時系列に沿った解釈のみが可能である。

- (95) *jə- yê jōphən chəyànmên*  
 1sg 来る 見る 映画  
 「私は映画を見に来た / \*私は映画を見てきた」

「映画を見てきた」ということを言うためには、例えば次のようにする必要がある。

- (96) *jə- jōphən chəyànmên yòn | yê jò*  
 1sg 見る 映画 (継起) 来る ここ  
 「私は映画を見てからここに来た」

次の動詞連続は、話者によって、時系列に沿わないほうの解釈「ご飯を食べて来た」を良くないとする場合がある。

- (97) *jə- yê ?án mì*  
 1sg 来る 食べる ご飯  
 「私はご飯を食べに来た / (?) 私はご飯を食べて来た」

この動詞連続に対する適否判断は、おそらく、食べ物が体内に残っていてそれが動作主とともに移動したと考えるか、食べ物は食べた時点でなくなっているのであって動作主とともに移動することはないと考えるかによって、分かれるのではないと思われる。次に (ii) の条件に合わない例を見てみる。(98) に示す動詞連続は、V2 の表す事象が移動を含むものではないので、時系列に沿った解釈のみが可能である。

- (98) *jə- yê ?ópwài*  
 1sg 来る 休む  
 「私は休みに来た / \*私は休んで来た」

「休んで来た」すなわち、「休んでからやって来た」ということを言い表すためには、例えば次のようにする必要がある。

- (99) jə- ʔópwàì yòN | yê jò  
 1sg 休む (継起) 来る ここ  
 「私は休んでからここに来た」

ところで、上に挙げたような、V1 として移動動詞を持ち、時系列に沿わない動詞連続の V1 と V2 を入れ換えることはできるのだろうか。もしこれらが < 配列規則 1 > に従うのであれば、入れ換えは可能なはずである。そこで、lì と yê が使われた動詞連続を例に取り、V1 と V2 を入れ換えてみよう。下に示すように、V1 と V2 を入れ換えて V2 の位置に移動動詞を持ってくると、ことごとく不適格となる。

(100) lì 「行く」の例

- lì klí (行く + 走る intr.) 「走って行く」  
 \*klí lì  
 lì cáin (行く + 歩く intr.) 「歩いて行く」  
 \*cáin lì  
 lì kò (行く + 誘う tr.) 「誘って行く」  
 \*kò lì  
 lì chó (来る + 持ち上げる tr.) 「持って行く」  
 \*chó lì

(101) yê 「来る」の例

- yê klí (来る + 走る intr.) 「走って来る」  
 \*klí yê  
 yê cáin (来る + 歩く intr.) 「歩いて来る」  
 \*cáin yê  
 yê kò (来る + 誘う tr.) 「誘って来る」  
 \*kò yê  
 yê chó (来る + 持ち上げる tr.) 「持って来る」  
 \*chó yê

このように、lì と yê の場合、時系列に沿うように V1 と V2 を入れ換えると、容認不可能となる。そこで、ポー・カレン語の連結型動詞連続の配列の規則に、やはり < 配列規則 1 > よりも強力な、次の規則があるのだと考える。

- (102) < 配列規則 3 > 移動動詞は、時間的順序に関わらず、常に非移動動詞よりも先に現れなければならない。

lì と yê 以外でこの「移動動詞」に含まれる動詞は、thàin「帰る」、thán「のぼる、あがる」、làn「おりる、さがる」の三つである。これらの動詞を V1 として取った動詞連続は、次に示すように、時系列に沿わない解釈を許す。これまで見てきた lì や yê と同様である。

(103) jə- thàin klí  
1sg 帰る 走る  
「私は走って帰った」

(104) jə- thán klí  
1sg 上る 走る  
「私は走って上がった」

(105) jə- làn klí  
1sg 下りる 走る  
「私は走って下りた」

また、これらが V2 として現れることもない<sup>3</sup>。したがって、(102) で「移動動詞」と呼んだ動詞には、lì, yê, thàin, thán, làn という五つの動詞が含まれることになる。

ところで、移動動詞は同一の連結型動詞連続の中で複数個現れることができる。また、移動動詞だけで連結型動詞連続を形成することもできる。移動動詞が複数個現れる場合、移動動詞の配列は常に、次に図示する順序に従う。この表は、同一スロットに属するもの、つまり lì と yê あるいは thán と làn が連結型動詞連続の中では決して共起しないということ、また、左側のスロットにあるものが、常に右側のスロットにあるものよりも常に優先的に左側に現れるということを表している。

(106)

lì「行く」		thán「のぼる」
yê「来る」	thàin「帰る」	làn「おりる」

以下に例を示す。下に挙げる例は、いずれも、移動動詞のみからなる連結型動詞連続である。これらの V1 と V2 の順を逆にすることはできない。

(107) ʔəwê yê thàin lé ləkōun  
3se 来る 帰る (場) ヤンゴン  
「彼はヤンゴンから帰って来た」

(108) ʔəwê lì thán lé nū phàn  
3se 行く 上る (場) 宮殿 中  
「彼は宮殿の中へとあがって行った」

<sup>3</sup> klí thàin, klí thán, klí làn という形じたいは存在する。それぞれ、「再び走る」「上に向かって走る」「下に向かって走る」という意味を表す。この thàin, thán, làn は動詞助詞である。つまり、これらは動詞連続ではない。なぜなら、klí dàin, klí bán, klí bàn という発音が可能だからである (第 18 章参照)。

- (109) ʔəwê thàin làn yéin  
 3se 帰る 下りる 家  
 「彼は (山を) 下りて (山のふもとの) 家に帰った」

下に挙げた例は、上に示したすべてのスロットに移動動詞が現れた動詞連続である。

- (110) ʔəwê lì thàin làn chái phèn  
 3se 行く 帰る 下りる 田 中  
 「彼は帰って行って田んぼに下りた」

この三つの動詞の順序を変えることはできない。

以上見てきたように、連結型動詞連続における動詞の配列には三つの配列規則がある。下に三つをまとめて挙げておく。

< 配列規則 1 > 動詞は事象開始の時間的順序に沿って並べられる。

< 配列規則 2 > V1 と V2 の論理的主語が同一指示であるような「他動詞 + 自動詞」という配列の連結型動詞連続は許されない。

< 配列規則 3 > 移動動詞は、時間的順序に関わらず、常に非移動動詞よりも先に現れなければならない。

< 配列規則 2 > と < 配列規則 3 > は、どちらも、< 配列規則 1 > より強力である。したがって、動詞が事象開始の時間的順序に従って並べられていたとしても、論理的主語が同一指示で「他動詞 + 自動詞」という配列になっていれば、その動詞連続は < 配列規則 2 > によって排除される。また、動詞が事象開始の時間的順序に従って並べられていたとしても、移動動詞が非移動動詞の後ろに現れた動詞連続は < 配列規則 3 > によって排除される。< 配列規則 2 > と < 配列規則 3 > は、互いに無関係な規則である。

まとめると、連結型動詞連続における動詞の配列は、時間的順序に従って並べるということを基本的原則としながらも、自動詞・他動詞の組み合わせや、移動動詞の存在をにらみあわせながら決められていくということが言える。

### 17.3.5 V2 事象の実現が含意されない動詞連続

連結型動詞連続の中には、V2 が表す事象の実現が含意されない動詞連続がある。次の二つの場合である。

- ・ 主語非同一型の動詞連続
- ・ V1 として移動動詞を持つ動詞連続

これらの動詞連続では、たとえ過去に生じた事象に言及した動詞連続であっても、V2 が表す事象が実現したことは意味論的に含意されない (語用論的には含意される可能性もある)。したがって、V2 の実現を否定するような表現を後ろに置いても矛盾をきたさないという現象が見られる。

まず、主語非同一型の動詞連続について見てみる。



(111) jə- dó θi thwí (=65)

1sg 殴る 死ぬ 犬

「私は犬を殴り殺した」

(112) jə- kwà lanchè chàin (=66)

1sg 掛ける ぶら下がる シャツ

「私は服を（掛けて）ぶら下げた」

(113) ?əwê thəu chēin ?ə- mé (=67)

3sg こする 清潔な 3sg 歯

「彼は（自分の）歯をみがいてきれいにした」

これらの動詞連続においては、V2 が表す事象の実現は含意されない。そのため、次のように、V2 が表す事象の実現を否定する表現を動詞連続の後ろに置いても、矛盾をきたさない。

(114) jə- dó θi thwí. lānān θi θi ?é

1sg 殴る 死ぬ 犬 しかし 死ぬ (否)

「私は犬を殴り殺した。しかし、死ななかった」

(115) jə- kwà lanchè chàin. lānān θi lanchè ?é

1sg 掛ける ぶら下がる シャツ しかし ぶら下がる (否)

「私は服をぶら下げた。しかし、かからなかった」

(116) ?əwê thəu chēin ?ə- mé. lānān θi chēin ?é

3sg こする 清潔な 3sg 歯 しかし 清潔な (否)

「彼は歯をみがいてきれいにした。しかし、きれいにならなかった」

おそらく、主語非同型型の動詞連続において V2 の表す事象は、行為者が「実現を期待した」事象なのと思われる。このように考えれば、V2 の表す事象は行為者の頭の中に思い描かれたものに過ぎないことになり、V2 の表す事象の実現が含意されないことが説明できる。

次に、もう一つの、移動動詞を含む場合を見てみよう。主語同一型の動詞連続であっても、移動動詞を含む動詞連続は、V2 の表す事象の実現が含意されない。したがって、V2 が表す事象の実現を否定する表現を後ろに置いた、次のような例は矛盾をきたさない。

(117) jə- lì xwè já. lānān θi xwè ?é

1sg 行く 買う 魚 しかし 買う (否)

「私は魚を買いに行った。しかし、買わなかった」

(118) ?əwê yê jūphən chəyànəmən. lānān θi jūphən ?é

1sg 来る 買う 映画 しかし 見る (否)

「彼は映画を見に来た。しかし、見なかった」

- (119) jə- thàin mî. lānân θí mî ʔé  
 1sg 帰る 寝る しかし 寝る (否)  
 「私は寝に帰った。しかし、寝なかった」

しかし、移動動詞を含む場合であっても、時系列に従わない配列の動詞連続では、V2 の表す事象の実現が含意されるということに注意しなければならない。したがって、このような動詞連続では、V2 の表す事象の実現を否定する表現を後ろに置くと、矛盾を生じてしまう。

- (120) \*ʔəwê lì tháu kâ. lānân θí tháu kâ ʔé  
 1sg 行く 乗る 自動車 しかし 乗る 自動車 (否)  
 (彼は自動車に乗って行った。しかし自動車に乗らなかった)

- (121) \*jə- yê xwè já. lānân θí xwè ʔé  
 1sg 行く 買う 魚 しかし 買う (否)  
 (私は魚を買ってきた。しかし買わなかった)

移動を表す動詞を含み、動詞の配列が時系列に沿う場合、V2 が表す事象は、行為者が「計画した」事象と捉えることができるだろう。このように考えれば、ここでも V2 の表す事象は行為者の頭の中に思い描かれたものに過ぎないことになり、V2 の表す事象の実現が含意されないということが説明できる。

以上のように、主語非同一型の動詞連続と、V1 として移動動詞を持つ動詞連続（時間順に沿った配列の場合）では、たとえ過去の事象についての言及であっても、V2 の事象の実現は含意されない。これ以外の場合、V2 が表す事象の実現は常に含意される。したがって、次のように、V2 が表す事象の実現を否定する表現を後ろに置くと、矛盾をきたしてしまう。

- (122) \*jə- chinàn pō láipàu. lānân θí pō ʔé  
 1sg 座る 読む 本 しかし 読む (否)  
 (私は座って本を読んだ。しかし、読まなかった)

- (123) \*jə- ʔánphôn ʔán mì. lānân θí ʔán ʔé  
 1sg 炊く 食べる ご飯 しかし 食べる (否)  
 (私はご飯を炊いて食べた。しかし、食べなかった)

ポー・カレン語の動詞連続において、V1 あるいは V2 が表す事象の実現が含意されないものとしては、ここで述べたもの以外に、分離型動詞連続の可能タイプにおいて V1 が表す事象の実現が含意されないという事実がある。しかし、V2 が表す事象の実現が含意されないのは、ポー・カレン語の動詞連続すべてを通じて、ここで述べた二つのケースのみである。なお、実現が含意されないというのはあくまでも意味論的にであって、語用論的には実現したと解釈するほうが自然な場合も多々あることに注意されたい。

## 17.3.6 3 個以上の動詞からなる連結型動詞連続

連結型動詞連続は、2 個の動詞からなるものが多い。しかし、3 個以上の動詞からなる連結型動詞連続もある。例えば次のようなものである。

- (124) kəlôn yê thàiN phón jū xíphàn khán tã ...  
 急ぐ 来る 帰る つかむ 見る (人名) 足 (前提)  
 「急いで帰ってきてファイバウンの足を見ると…」(IV-04.390)

この文の動詞連続は、kəlôn「急ぐ」、yê「来る」、thàiN「帰る」、phón「つかむ」、jū「見る」という 5 個の動詞からなっている。このような動詞連続も、「V1+V2」という 2 個づつの動詞の組み合わせに還元して考えることができる。この動詞連続を見てみると、意味的に緊密な部分が何ヶ所かあるのが分かる。5 個の動詞のうち、yê「来る」と thàiN「帰る」は、ともに移動動詞であり、この 2 個で、直示中心への移動を表す。この 2 動詞はともに自動詞なので、全体としては自動詞として働く。次に、phón「つかむ」と jū「見る」も、「つかんで見る」という一続きの動作と考えることができる。この 2 動詞はともに他動詞なので、全体としては他動詞として働く。さらに、yê thàiN「帰ってくる」と phón jū「つかんで見る」は、全体で「帰ってきて、つかんで見る」という一続きの動作と考えることができるだろう。yê thàiN は自動詞、phón jū は他動詞の特徴を持つので、yê thàiN phón jū 全体は他動詞の特徴を持つ。最後に、kəlôn「急ぐ」は、yê thàiN phón jū 全体の様態を表していると考えられる。kəlôn は自動詞であり、yê thàiN phón jū は他動詞の特徴を持つので、kəlôn yê thàiN phón jū は、全体としては他動詞として機能する。つまり、各動詞がこのような小さなまとまりを形成し、それぞれが V1 や V2 として大きなまとまりになっていくと考えることができる。これを図示すると次のようになる。同じ大きさの括弧は、同レベルにおける V1 と V2 を表す。

(125)

$$\left[ \begin{array}{c} \text{kəlôn} \\ V_1 \end{array} \right] \left[ \begin{array}{c} \left[ \begin{array}{cc} V_1 & yê \end{array} \right] \left[ \begin{array}{c} V_2 \text{ thàiN} \end{array} \right] \\ V_2 \end{array} \right] \left[ \begin{array}{cc} V_1 \text{ phón} & V_2 jū \end{array} \right] \right]$$

主動詞について考えてみると、kəlôn は自動詞であり、yê thàiN phón jū は他動詞としての振る舞いを示すから主語同一型であり、よって yê thàiN phón jū がこのレベルの主動詞と考えられる。また、yê thàiN は自動詞としての振る舞いを示し、phón jū は他動詞としての振る舞いを示すから主語同一型であり、よって phón jū がこのレベルの主動詞であると考えられる。そして、phón も jū も他動詞であるから主語同一型であり、jū がこのレベルの他動詞であると考えられる。kəlôn yê thàiN phón jū 全体の主動詞も、やはりこの jū であると思えることができるだろう。

上では、動詞と動詞のまとまり方(切れ方)が自明であるかのような説明をしたが、実際には一義的には決まらなないと考えるべきである。この動詞連続においては、最初の動詞の kəlôn「急ぐ」は、意味的に、yê thàiN phón jū 全体にかかっているのではなく、もしかすると、yê thàiN だけにかかっているのかもしれない。もしそうだとすれば、この動詞連続の構成は次のようになっているのかもしれない。

(126)

$$\left[ \begin{array}{cc} [_{V1} \text{ kəlôn }] & [_{V2} \text{ [}_{V1} \text{ yê }] \text{ [}_{V2} \text{ thàiN }]} \end{array} \right] \left[ \begin{array}{cc} [_{V1} \text{ phón }] & [_{V2} \text{ jū }] \end{array} \right]$$

このように一つの動詞連続に対して、複数の解釈があてはまる場合も十分にあり得る。しかし、複数の解釈があてはまる場合があるにせよ、三つ以上の動詞からなる連結型動詞連続は、上で述べたように、動詞二つからなる動詞連続が複数個合わさったものと見ることができる。

別の例を見てみよう。まず、次の文の動詞連続は、「歩いて探す」と「水を飲む」に切るのが自然だと思われる。

- (127) cáin ʔángxû ʔò thî  
 歩く 探す 飲む 水  
 「歩いて水を探しあてて飲む」(III-06.20)

そこで、この動詞連続の構成は次のように図示できる。

(128)

$$\left[ \begin{array}{cc} [_{V1} \text{ cáin }] & [_{V2} \text{ ʔángxû }] \end{array} \right] \left[ \begin{array}{c} [_{V2} \text{ ʔò }] \end{array} \right]$$

この動詞連続は、cáin ʔángxû というまとまりが「自動詞 + 他動詞」なので、他動詞として機能し、このまとまりに対応する同レベルの動詞 ʔò はやはり他動詞なので、全体としてこの動詞連続は主語同一型の組み合わせ「他動詞 + 他動詞」となる。そこで、動詞連続全体の主動詞は ʔò であると考えられる。

次の動詞連続は、「置く」と「腐って乾く」に切るのが自然であろう。

- (129) ʔókí ʔú thán θài  
 置く 腐る (変化) 乾く  
 「発酵して乾くように、(魚醤を)置いておく」(III-13.14)

そこで、この動詞連続の構成は次のように図示することができる。

(130)

$$\left[ \begin{array}{c} [_{V1} \text{ ʔókí }] \end{array} \right] \left[ \begin{array}{cc} [_{V2} \text{ [}_{V1} \text{ ʔú thán }] & [_{V2} \text{ θài }] \end{array} \right]$$

後半の ʔú thán θài は「自動詞 + 自動詞」なので、自動詞として機能する。最初の動詞 ʔókí は他動詞なので、動詞連続全体としては「他動詞 + 自動詞」となる。そこで、動詞連続全体の主動詞は ʔókí であると考えることができる。この動詞連続は、全体として、主語非同一型の動詞連続になっているのである。

このように、3 個以上の動詞からなる連結型動詞連続は、2 個の動詞からなる連結型動詞連続に還元して理解することができる。一つの連結型動詞連続にいったい最高いくつまでの動詞が含まれ得るのかは、今のところ分からない。無限な数の動詞を並べることができるという事実はあり得なさそうに見える。長くなりすぎると意味的な齟齬も出てくるだろうし、記憶の負担も大きくなるだろうからである。筆者のデータの中では、(124) に示した kəlôn yê thàiN phón jū が最も動詞の数の多い連結型動詞連続 (5 個) である。

## 17.3.7 連結型動詞連続の形態統語論上の位置づけ

連結型動詞連続が形態論レベルの現象なのか、それとも統語論レベルの現象なのかは、ポー・カレン語文法の記述における非常に大きな問題の一つである。実は、現在に至るまで、この問いに対する答えを筆者は得られていない。というのも、連結型動詞連続は、ある一面では形態論的であり、また別の面では統語論的だからである。

まず、形態論的な特徴を述べる。次の文を見ていただきたい。

- (131) jə- pəu θán jū chəkhloʊN (=44)  
 1sg 開ける (完成) 見る 外  
 「私は(戸を)開けて外を見た」

上で論じたとおり、この動詞連続における V1 は被動者名詞句を取ることができないのだった。ポー・カレン語の統語的現象の中で、動詞の取る名詞句が現れない(すなわちゼロとなる)現象には次の二つがある。以下の議論では、あくまでも便宜的に「現れない名詞句」を ∅ で示しておく。

一つは、次の (132) に対して (133) のように答える場合に典型的に見られる任意のゼロ照応である。

- (132) ?əwê lì bā  
 3se 行く (疑)  
 「彼は行ったか?」

- (133) ∅ lì  
 行く  
 「(彼は) 行った」

このような場合、統語論的には名詞句を顕在化することはまったく問題がない。したがって、答えの文を次のようにしてもまったくかまわない。

- (134) ?əwê lì  
 3se 行く  
 「彼は行った」

任意のゼロ照応は、副詞節と主節の間でも生じる。

- (135) ?əwê lì phjā θəyòN | ∅ xwè kú  
 3se 行く 市場 (継起) 買う 菓子  
 「彼は市場に行って菓子を買った」

この文の主節の主語を顕在化しても、くどい表現にはなるが、統語論的にはまったく問題がない。

- (136) ?əwê lì phjā θəyòN | ?əwê xwè kú  
 3se 行く 市場 (継起) 3se 買う 菓子  
 「彼は市場に行って菓子を買った」

ポー・カレン語の副詞節では、名詞句が統語論的に義務的に削除されることはない。以上のようなゼロ照応は、任意に生じるものであり、名詞句を顕在化してもまったく問題がない。

名詞句が現れない現象のもう一つは、名詞句が生じないことが義務的なゼロ照応で、この現象は、動詞句が目的語として現れた (137) のような場合と、次節で論じる (138) のような分離型動詞連続に見られる。

- (137) jə- θánán Ø ʔán mì  
 1sg 忘れる 食べる ご飯  
 「私はご飯を食べるのを忘れた」

- (138) jə- ʔán mì Ø blè  
 1sg 食べる ご飯 腹一杯の  
 「私はご飯を食べて腹一杯になった」

これらの Ø は、決して顕在化することがない。しかし、Ø が指示するものは文中に探し求めることができる。(137) のような動詞句が目的語として現れた構造では、目的語位置に現れた動詞句の主語は、常に動詞主要部の主語と同一である。また、(138) のような分離型動詞連続では、V2 の論理的主語は、動詞連続全体の前に現れた名詞句 (すなわち主語) を指示するか、V1 の目的語を指示するか、V1 が表す事象の様態を指示するかのいずれかである。すなわち、動詞句が目的語として現れた構造では Ø の指示するものが一義的に決まり、分離型動詞連続では Ø の指示するものは一義的には決まらないものの、同一文中に探し求めることができる。

ひるがえって、(131) の「開ける」の被動者を表す名詞句は、任意のゼロ照応の場合のように顕在化できないし、分離型動詞連続の場合のように同一文中に探し求めることもできない。つまり、「開ける」の被動者を表す名詞句は、完全に抑圧されてしまっているのである。名詞句を顕在化できないという点は、(139) のような複合語において、(140) のように被動者を表す名詞句を顕在化できないのに似ている。

- (139) chəʔán ← chə- + ʔán  
 食べ物 CHə 食べる

- (140) \*chəʔánkúmí ← chə- + ʔán + kúmí  
 ? CHə 食べる ビスケット

この複合語は、この語だけでも文として機能できる。そのような場合、当然のことながら同一文中に行為者を表す名詞句を探し求めることもできない。すなわち、(131) の「開ける」の被動者が現れないという現象は、多分に形態論的なのである。

ところが、一方で、連結型動詞連続は、統語論的な特性をも持っている。それは、V1 や V2 を統語論的にどんどん拡張できるということである。

- (141) jə- lì jū ʔənó  
 1sg 行く 見る それ  
 「私はそれを見に行った」

V2 の jū には様々な動詞助詞を付けることができる。例えば、下方向への動作を表す làN を付けることができる。次の例を見ていただきたい。意味的に考えて、làN は jū に付いているものと考えられる。

- (142) jə- lù jū làN ʔənó  
 1sg 行く 見る (下方) それ  
 「私はそれを見下ろしに行った」

動詞助詞は語である。語であるからこそ、次のように動詞助詞の語順を相互に入れ換えることが可能である。cò は「遠方から行う動作」を表す動詞助詞である。

- (143) jū cò làN  
 見る (遠隔) (下方)  
 「(遠くのものを) 見下ろす」

- (144) jū làN cò  
 見る (下方) (遠隔)  
 「(遠くのものを) 見下ろす」

もちろんのこと、これ全体を連結型動詞連続を構成する動詞として機能させることもできる。下の例ではこれ全体を V2 の位置に置いている。

- (145) jə- lù jū cò làN  
 1sg 行く 見る (遠隔) (下方)  
 「(遠くのものを) 見下ろしに行った」

さらに、上の動詞連続の V1 に動詞助詞を付けることもできる。

- (146) jə- lù thán jū cò làN  
 1sg 行く (上方) 見る (遠隔) (下方)  
 「(遠くのものを) 見下ろしに上って行った」

すなわち、連結型動詞連続を構成する動詞は、動詞以外の語(この場合は動詞助詞)を付けることによってどんどん拡張することができるのである。語を様々な組み合わせることができるというのは統語論的な特徴にほかならない。

このように、連結型動詞連続は、一面では形態論に似た特徴を示し、別の面では統語論に似た特徴を示す。したがって、連結型動詞連続は、形態論と統語論の中間に位置するものである可能性もある。この問題は結論を出すのがかなり困難な問題である。結論は今後の研究の進展を待って出したいと思う。

### 17.3.8 連結型動詞連続のまとめ

上で考察してきた連結型動詞連続の特徴を、箇条書きにしてまとめておく。

- 否定辞 lə- が V1 の前に付く動詞連続である。

- V1 が表す事象と V2 が表す事象の間に緊密な意味的關係が觀察できる。
- V1 と V2 が自動詞であるか他動詞であるかが重要な意味を持つ。自動詞・他動詞の組み合わせを条件として主動詞が決まる。
- 動詞は基本的に、事象の開始順に並べられる。ただし、移動動詞を含む場合はその限りでない。
- 論理的主語が同一指示である場合、「他動詞 + 自動詞」という組み合わせはあり得ない。
- 三つ以上の動詞からなるものは、二つの動詞からなる連続を組み合わせたものと考えることができる。
- 形態論的な特徴と統語論的な特徴を持ち合わせている。

## 17.4 分離型

次に、分離型動詞連続の考察に移る。最小の分離型動詞連続は、次のように図示することができる。

$$\underbrace{\text{VP} \quad \text{VP}}_{\text{分離型動詞連続}}$$

したがって、正確に言えば、分離型動詞連続は動詞の連続というより動詞句の連続である。もちろん、動詞句は動詞一つだけからなる場合もある。

分離型動詞連続は、否定辞 *lə-* が V2 の前に付く。否定辞をつけた例を次に示す。

- (147) *jə- ʔán m̀l lə- bĺ̩ bá ʔəkhúçòn ...*  
 1sg 食べる ご飯 (否) 腹一杯の (否') (理由)  
 「私はご飯を食べて満腹にならなかったの...」

- (148) *jə- kh̀ĺ̩àin ph̀lòun lə- θ̩́ bá ʔəkhúçòn ...*  
 1sg 話す カレン (否) できる (否') (理由)  
 「私はカレン語が話せなかったの...」

分離型動詞連続は、大きく、描写タイプ(*depictive type*)と可能タイプ(*potential type*)の2種類に分けることができる。まず、描写タイプの例を下に挙げる。このタイプの動詞連続の V2 は、V1 が表す事象の参加者に生じる結果や状態を表したり、V1 が表す事象の「生じ方」を表したりする。詳細は後述する。

- (149) *jə- ʔán m̀l bĺ̩*  
 1sg 食べる ご飯 腹一杯の  
 「ご飯を食べて腹一杯になった」



- (150) jə- ʔò θàì mən̩  
1sg 飲む 酒 酔っている  
「酒を飲んで酔ってしまった」
- (151) jə- dú táintòθá théphà  
1sg 殴る スイカ 割れる  
「私がスイカを叩いたら割れてしまった」
- (152) lən̩jò ʔəwê khlàin̩ chə thô mā  
今日 3se 話す CHə 長い 非常に  
「今日、彼が話をしたところ、(話が)長くなった」
- (153) jə- phû ɕəɕó ʔə- nòphən̩ chēinpràn  
1sg 祖父 うがいする 3sg 口の中 清潔な  
「祖父は口の中をうがいで、清潔になった」
- (154) jə- ʔán khòθá ʔwí mā  
1sg 食べる マンゴー 美味な (非常)  
「マンゴーを食べたらおいしかった」
- (155) ʔəwê khà phlā tò  
3se 撃つ 矢 まっすぐな  
「彼が鉄砲を放ったところ、(矢が)まっすぐ飛んだ」
- (156) jə- mì nó mēin̩ yì  
1sg ご飯 (題) 炊けた 良い  
「私のご飯はよく炊けている」
- (157) ʔəwê klí phlé  
3se 走る 速い  
「彼の走り方は速い」
- (158) ʔəwê chôn̩món̩ thíchà  
3se 考える 正確な  
「彼の考え方は正確だ」
- 次に、可能タイプの例を挙げる。このタイプの動詞連続の V2 は、V1 が表す事象の生起の可能性を表す。詳細は後述する。
- (159) ʔəwê kè láipəjàn̩ θí  
3se 書く ビルマ文字 できる  
「彼はビルマ文字を書くことができる」
- (160) jə- lì ʔə- ʔó khlàu  
1sg 行く 3sg ところ 暇な  
「私は彼のところに行く暇がある」

- (161) jə- lə ʔəwê bóuN ʔé  
 1sg 話す 3se 勇気のある (否)  
 「私は彼に話す勇気がない」

描写タイプと可能タイプとの違いは、描写タイプが、意味論的に、V1 が表す事象の実現を含意するのに対し、可能タイプは、V1 が表す事象の実現を含意しないということである。このことは、次に示すように、文の後ろに V1 の事象の実現を否定する表現を置いてみることによって検証できる。描写タイプでは、V1 が表す事象の実現を含意するから、V1 の事象の実現を否定する表現を置くと、矛盾をきたす。

- (162) \*lənjò ʔəwê klí phlé. lānāN θí klí ʔé  
 今日 3se 走る 速い しかし 走る (否)  
 「今日、彼は走り方が速かった。しかし走らなかった」

しかし、可能タイプでは矛盾をきたさない。

- (163) lənjò ʔəwê lì khlàv. lānāN θí lì ʔé  
 今日 3se 行く 暇な しかし 行く (否)  
 「今日、彼は行く暇があった。しかし行かなかった」

描写タイプと可能タイプへの分類は、この、V1 が表す事象の実現を含意するかどうかという基準に基づいている。

ところで、第 4 章 4.2.1 で、分離型動詞連続の前に現れた名詞句がその節の主語であることを示した。このことを今一度ここで確認しておこう。根拠の一つは、「自分」という意味の名詞 nānkəchā がこの名詞句のみを指示するということだった。

- (164) ʔəwê<sub>i</sub> dákhòN ʔəwê máu lé nānkəchā<sub>i</sub> yéiN phèn  
 3se 会う 3se 楽しい (場) 自分 家 中  
 「彼は自分の家で彼女に会えて楽しかった」

- (165) ʔəwê<sub>i</sub> jū ʔəwê yì lé nānkəchā<sub>i</sub> təwāN phèn  
 3se 見る 3se 美しい (場) 自分 村 中  
 「彼は自分の村で彼女を見たら美しかった」

- (166) ʔəwê<sub>i</sub> jūkhwā ʔə- phú yì lé nānkəchā<sub>i</sub> yéiN phèn  
 3se 面倒をみる 3sg 子供 良い (場) 自分 家 中  
 「彼は自分の家では子供の面倒のみかたがよい」

- (167) ʔəwê<sub>i</sub> jūkhwā ʔə- phú khlàv lé nānkəchā<sub>i</sub> təwāN phèn  
 3se 面倒をみる 3sg 子供 暇な (場) 自分 村 中  
 「彼は自分の村では自分の子供の面倒をみる暇がある」

もう一つは、通常の主語と同時に後置型の関係節で関係節化できるということだった。

- (168) phlòvN [R ʔò θài mən yòN | thán rōvN]  
 人 飲む 酒 酔った (継起) のぼる 事務所  
 「酒を飲んで酔い、事務所に行った人」

- (169) phlòuN [R ʔánphôn mì khũyó ɕàu yòN | xwè bá mì]  
 人 炊く ご飯 焦げる (驚愕) (継起) 買う (不抗) ご飯  
 「ご飯を炊いて焦がしてしまい、ご飯を買わねばならなかった人」
- (170) phlòuN [R mà kə̀lòuN phlé mā yòN | n̄ chəkə̀lj̄]  
 人 する 仕事 速い 大変 (継起) 可能な 贈り物  
 「仕事をするのが非常に速く、賞をもらった人」
- (171) phlòuN [R p̄ lāiʔàu khlàu lānāN | lə- p̄ bá]  
 人 読む 本 暇な (逆接) (否') 読む (否')  
 「本を読む暇があるのに読まない人」

以上の理由により、この名詞句を、分離型動詞連続の現れた節における主語と見なす。

以下に、描写タイプと可能タイプの分離型動詞連続の性質を順に見ていくことにする。

#### 17.4.1 描写タイプ

##### 17.4.1.1 V1 が表す事象の実現の含意

既に述べたように、描写タイプでは、V1 が表す事象の実現が含意される。したがって、次に示すように、文の後に V1 の事象の実現を否定する表現を置くと、論理的に矛盾する文ができあがる。

- (172) \*ʔəwê klí phlé. lānāN θí klí ʔé  
 3sg 走る 速い しかし 走る (否)  
 「彼の走り方は速かった。しかし、走らなかった」

ただし、このような文が論理的矛盾をきたすのは、V1 が表す事象と否定される事象とが同一の解釈の場合である。同一でない場合、例えば、「彼の走り方は(いつも)速いが、今日は走らなかった」というように、V1 が習慣的な事象を表し、否定される事象が一回限りの事象である場合、このような論理的矛盾は起こらない。V1 が表す事象と否定される事象が同一であれば、描写タイプは、V1 が表す事象の実現を否定する表現を後に置くと論理的に矛盾をきたす。他の例を見てみよう。下のすべての例において、V1 が表す事象と否定される事象は同一であると考ええる。

- (173) \*ʔəwê chônmon thichà. lānāN θí chônmon ʔé  
 3sg 考える 正確な しかし 考える (否)  
 「彼の考え方は正確だった。しかし、考えなかった」

- (174) \*jə- ʔán mì blè. lānāN θí ʔán ʔé  
 1sg 食べる ご飯 腹一杯の しかし 食べる (否)  
 「ご飯を食べて腹一杯になった。しかし、食べなかった」

- (175) \*jə- phû ɕəgó ʔə- nòphən chēinpràn. lānāN θí ɕəgó ʔé  
 1sg 祖父 うがいする 3sg 口の中 清潔な しかし うがいする (否)  
 「祖父は口の中をうがいして清潔になった。しかし、うがいをしなかった」

- (176) \*jə- mǐ nǒ mǐn yì. lānān θí mǐn ?é  
 1sg ご飯 (題) 炊けた 良い しかし 炊けた (否)  
 「私のご飯はよく炊けている。しかし、炊けていない」

この、V1 が表す事象の実現が含意されるという事実は、描写タイプを可能タイプから分け隔てる重要な特徴である。

#### 17.4.1.2 描写タイプの V2 の特徴

次に、描写タイプの動詞連続の V2 の特徴について見てみよう。描写タイプの動詞連続の V2 は、無意志動詞である。V1 には動詞の種類の制限はない。先に挙げた (149) ~ (158) の文でも、V2 として使われているのはすべて無意志動詞である。V2 が意志動詞だと、V1 と V2 の間に名詞句や前置詞句の介在を許す動詞連続の許容度は低くなってしまう。そのことを見るために、まず次の分離型動詞連続を見ていただきたい。

- (177) ?əwê ?án mǐ blè  
 3se 食べる ご飯 腹一杯の  
 「彼はご飯を食べて腹一杯になった」

この文は適格な文であるが、この文の V2 を意志動詞に換えると、その文はとたんに落ち着きが悪くなる。次を見られたい。

- (178) ??əwê ?án mǐ mínàn  
 3se 食べる ご飯 寝転がる  
 「彼はご飯を食べて寝転がった」

意志動詞が分離型動詞連続の V2 になれないということは重要である。というのは、このことがポー・カレン語の動詞連続を特徴づける重要な要素になっているからである。東南アジアの SVO 型の諸言語には、V1 と V2 の間に補語などを介在させることのできる動詞連続が豊富に存在することが知られている。例えば、ポー・カレン語に隣接する言語であるタイ語には、次のような動詞連続が存在する。

hǔŋ khâaw kin  
 炊く ご飯 食べる  
 「ご飯を炊いて食べる」  
 kin khâaw maa  
 食べる ご飯 来る  
 「ご飯を食べて、来る」

ところが、ポー・カレン語ではこれに類する、意志動詞の間に補語が介在する動詞連続は許されない。

- (179) \*?əwê ?ánphôn mǐ ?án  
 3se 炊く ご飯 食べる  
 (彼はご飯を炊いて食べた)

- (180) \*ʔəwê ʔán mì yê  
 3se 食べる ご飯 来る  
 (彼はご飯を食べて、来た)

- (181) \*ʔəwê kòn thədòn ʔánlū thî  
 3se 穿く 腰巻 浴びる 水  
 (彼は腰巻を穿いて水を浴びた)

これらを適格な文にするためには、次のように、従属節助詞を用いて二つの動詞を分離する必要がある。

- (182) ʔəwê ʔánp̄hôn mì yòn | ʔán  
 3se 炊く ご飯 (継起) 食べる  
 「彼はご飯を炊いて食べた」

- (183) ʔəwê ʔán mì yòn | yê  
 3se 食べる ご飯 (継起) 来る  
 「彼はご飯を食べて、来た」

- (184) ʔəwê kòn thədòn yòn | ʔánlū thî  
 3sg 穿く 腰巻 (継起) 浴びる 水  
 「彼は腰巻を穿いて水を浴びた」

また、可能な場合には、連結型動詞連続を用いて同じ状況を表すことも考えられる。上に挙げたもののうち (182) と (183) は、次のように連結型動詞連続を用いて同じ事象を表すことができる(ただし、17.3.4 で述べたとおり、(186) は良くないとする話者もいる)。(184) は、各動詞が別々の目的語をとっているため、連結型動詞連続を用いて言い換えることはできない。

- (185) ʔəwê ʔánp̄hôn ʔán mì  
 3se 炊く 食べる ご飯  
 「彼はご飯を炊いて食べた」

- (186) ʔəwê yê ʔán mì  
 3se 来る 食べる ご飯  
 「彼はご飯を食べて、来た」

ポー・カレン語の分離型動詞連続はこのような特徴を持つため、動詞連続を持つ言語によく見られる、道具や随伴者や場所などを表す名詞句を動詞連続におけるいずれかの動詞の目的語として動詞連続の中に取り込むという現象が見られない。例えば次のタイ語の例では、「ナイフ」という道具を表す名詞句が、動詞連続の最初の動詞 ʔaw 「取る」の目的語として現れている。

kháw ʔaw mîit pay tàt yâa  
 彼 取る ナイフ 行く 切る 草

「彼はナイフで草を切った」(Foley and Van Valin 1984:207)

ポー・カレン語にはこのような動詞連続は存在しない。

- (187) \*ʔəwê mǎn̄ xé phé nó  
3sg 取る ナイフ 切る 草

「ナイフで草を切る」をポー・カレン語で表現する最も普通の方法は、次のように「ナイフ」を表す名詞を側置助詞で導入することである。

- (188) ʔəwê phé nó dē xé 「彼はナイフで草を切った」  
3sg 切る 草 ~で ナイフ

以上に述べたように、描写タイプの V2 は無意志動詞である。したがって、V2 は自動詞であることが多いが、次のように他動詞が現れた例も見ついている。

- (189) jə- ʔánxú khánphài dá jào  
1sg 探す 草履 見つける (完)  
「私は草履を探して見つけた」

ところで、分離型動詞連続における V2 が状態動詞の場合、V2 が V1 を副詞的に修飾しているように見えるかもしれない。しかし、実際はそうではない。このことは、分離型動詞連続をそのまま命令文として使うことができないことから明らかである。

- (190) klí phlé  
走る 速い  
「走り方が速い / \*速く走れ」

- (191) ʔáN mì blè  
食べる ご飯 腹一杯の  
「ご飯を食べて腹一杯になった / \*腹一杯食べろ」

- (192) chônMón thíchà  
考える 正確な  
「考え方が正確だ / \*正確に考えよ」

これらを命令文として用いるためには、V2 を副詞化する必要がある。副詞化は、次の各 (a) のように接辞 ʔè を用いるか (第 5 章参照)、あるいは (b) のように繰り返し (reduplication) を用いることによって行う (第 7 章参照)。

- (193) a. klí ʔèphlé  
走る 速く  
「速く走れ」  
b. klí phléphlé  
走る 速く  
「速く走れ」

(194) a. ʔán mì ʔèblè  
 食べる ご飯 腹一杯に  
 「腹一杯食べろ」

b. ʔán mì blèblè  
 食べる ご飯 腹一杯に  
 「腹一杯食べろ」

(195) a. chônmon ʔèthichà  
 考える 正確に  
 「正確に考えよ」

b. chônmon thithichàchà  
 考える 正確に  
 「正確に考えよ」

もし、V2 が単に V1 を副詞的に修飾しているのだとしたら、分離型動詞連続をそのまま命令文として用いることができるはずである。これができないことから、V2 は V1 を副詞的に修飾しているのではないことが見てとれる。

#### 17.4.1.3 V2 の論理的主語が指示するもの

次に、V1 と V2 がそれぞれ取る項の同一指示性について考えてみる。V1 の論理的主語は、常に節の主語と同一指示である。問題は、V2 の論理的主語が何を指示するかである。これには、「節の主語と同一指示の場合」「V1 の目的語と同一指示の場合」「V1 が表す事象の様態を指示する場合」の三つの場合がある。以下にこの三つの場合について述べていく。

● 節の主語と同一指示の場合 最初に、V2 の論理的主語が節の主語と同一指示になっている例を次の各 (a) に挙げる。これらの例の V2 の論理的主語が節の主語と同一指示であることは、(b) と (c) を見れば明らかである。(b) は、(a) の V2 を単独で用いた文の主語位置に (a) の主語を置いた文、(c) は、(a) の V2 を単独で用いた文の主語位置に (a) の V1 の目的語を置いた文である。ただし V1 が自動詞の場合には (c) に相当する文が存在しない。V2 の論理的主語が節の主語と同一指示の場合、(b) が適格、(c) が不適格になる。

(196) a. jə- chinàn máu  
 1sg 座る 快適な  
 「座り心地が良い」

b. jə- máu  
 1sg 快適な  
 「私は快適だ」

(197) a. jə- jəphən chəyànmon máu  
 1sg 見る 映画 快適な  
 「私は映画を見て楽しかった」

b. jə- máu  
1sg 快適な  
「私は楽しかった」

c. \*chəyànməN máu  
映画 快適な  
(映画は楽しかった)

(198) a. jə- ʔáN mì blè jàv (=149)  
1sg 食べる ご飯 腹一杯の (完)  
「私はご飯を食べて腹一杯になった」

b. jə- blè jàv  
1sg 腹一杯の (完)  
「私は腹一杯になった」

c. \*mì blè jàv  
ご飯 腹一杯の (完)  
(ご飯は腹一杯になった)

(199) a. jə- ʔò θài mən (=150)  
1sg 飲む 酒 酔っている  
「私は酒を飲んで酔ってしまった」

b. jə- mən  
1sg 酔っている  
「私は酔ってしまった」

c. \*θài mən  
酒 酔っている  
(酒は酔ってしまった)

V2 の論理的主語が節の主語と同一指示の場合、V2 は、V1 が表す事象の生起と同時的に節の主語の指示対象に生じる状態や、V1 が表す事象の生起によって節の主語の指示対象に生じた結果を表す。

● V1 の目的語と同一指示の場合 次に、V2 の論理的主語が V1 の目的語と同一指示になっている例を各 (a) に挙げる。V2 の論理的主語が V1 の目的語になっている場合、先ほどとは逆に、(b) が不適格、(c) が適格となる。

(200) a. jə- ʔáN khòθá ʔwí mā (=154)  
1sg 食べる マンゴー 美味な (非常)  
「マンゴーを非常においしく食べた」



- b. \*jə- ʔwí mā  
1sg 美味な (非常)  
(私は非常においしかった)
- c. khòθá ʔwí mā  
マンゴー 美味な (非常)  
「マンゴーは非常においしかった」

(201) a. jə- dú táintòθá théphà (=151)  
1sg 殴る スイカ 割れる  
「私がスイカを叩いたら割れた」

- b. \*jə- théphà  
1sg 割れる  
(私は割れた)
- c. táintòθá théphà  
スイカ 割れる  
「スイカが割れた」

(202) a. jə- phû còçó ʔə- nòphàn chéinpràn (=153)  
1sg 祖父 うがいする 3sg 口の中 清潔な  
「祖父は口の中をうがいして、清潔になった」

- b. \*jə- phû chéinpràn  
1sg 祖父 清潔な  
(祖父は清潔だ)
- c. ʔə- nòphàn chéinpràn  
3sg 口の中 清潔な  
「口の中が清潔だ」

V2 の論理的主語が V1 の目的語と同一指示になっている場合、V2 は、V1 が表す事象の生起と同時的に V1 の目的語の指示対象に生じる状態や、V1 が表す事象の生起によって V1 の目的語の指示対象に生じた結果を表す。なお、(202b) は適格な文ではあるが、(a) が意味するのは「祖父が清潔だ」ということではなく、「口の中が清潔だ」ということであり、(a) によってこのような意味は含意されないので\*をつけてある。

V2 の論理的主語が V1 の目的語と同一指示であり、なおかつ V2 が V1 の目的語の指示対象に生じた結果を表す場合、文は使役的な状況を表す。この点において、分離型動詞連続は、主語非同一型の連結型動詞連続と類似する。下の (203) が分離型動詞連続、(204) が主語非同一型の連結型動詞連続である。

(203) jə- dú táintòθá théphà (=151) 「私がスイカを叩いたら割れてしまった」  
1sg 殴る スイカ 割れる

- (204) jə- dú théphà táintə́θá  
 1sg 殴る 割れる スイカ  
 「私はスイカを叩き割った」

しかし、分離型と連結型の表す意味には大きな違いがある。それは、分離型の場合、V2 が表す事象の実現が含意されるが、連結型では含意されないということである。したがって、動詞連続の後に V2 が表す事象の実現を否定する表現を置くと、分離型の場合は下の (205) のように意味的に矛盾してしまうが、連結型の場合には (206) のように意味的に矛盾をきたさない。

- (205) \*jə- dú táintə́θá théphà. lànân θí théphà ?é  
 1sg 殴る スイカ 割れる しかし 割れる (否)  
 「私がスイカを叩いたら割れてしまった。しかし、割れなかった」

- (206) jə- dú théphà táintə́θá. lànân θí théphà ?é  
 1sg 殴る 割れる スイカ しかし 割れる (否)  
 「私がスイカを叩き割ろうとした。しかし、割れなかった」

この違いは、連結型の V2 が表す事象は行為者が実現を期待したものに過ぎないのに対し、分離型の V2 の場合は、行為者が期待したかどうかに関わらず、実際に生起した事象を表すということに起因しているのだと考えられる。

● V1 が表す事象の様態を指示する場合 最後に、V2 の論理的主語が、V1 が表す事象の様態を指示していると考えられる場合を見る。次に例として挙げるようなものである。

- (207) a. ?əwê phón θéinthàin khôn  
 3se つかむ 枝 安定した  
 「彼の枝のつかみ方はしっかりしていた」  
 b. \*?əwê khôn  
 1sg 安定した  
 (彼は安定している)  
 c. \*θéinthàin khôn  
 枝 安定した  
 (枝は安定している)

この例では、V2 の論理的主語と同一指示の名詞句が、文中に見つからない。意味的に考えると、V2 の論理的主語は、文の中に現れた具体的な名詞ではなく、V1 の「つかむ」という行為の「行い方」を指示しているように思われる。同様の例を下に挙げる。

- (208) a. ?əwê phû thô  
 3sg 跳ぶ 高い  
 「彼の跳び方は高かった」

- b. \*ʔəwê thô  
1sg 高い  
(彼は高い)
- (209) a. nəθí ʔányá làn jè dàupàin  
2pl 歓待する 1sg 満ち足りた  
「あなた方の私に対する歓待ぶりは十分なものだった」
- b. \*nəθí dàupàin  
2pl 満ち足りた  
(あなた方は満ち足りている)
- c. \*jə- dàupàin  
1sg 満ち足りている  
(私は満ち足りている)
- (210) a. ʔəwê ʔán mì cícá  
3sg 食べる ご飯 汚い  
「彼のご飯の食べ方は汚い」
- b. \*ʔəwê cícá  
1sg 汚い  
(彼は汚い)
- c. \*mì cícá  
ご飯 汚い  
(ご飯が汚い)

このケースでは、V2 は状態動詞であり、動態動詞であることはない。ここで注意しなければならないのは、あくまでも V2 の論理的主語は、V1 が表す事象そのものを指示しているのではなく、V1 が表す事象の「行われ方」や「生じ方」、すなわち様態を指示するということである。V2 の論理的主語が、V1 の表す事象そのものを指示する場合、その文はもはや分離型動詞連続ではなく、V1 を述語とする節が、主語に相当する補文になっていると考えられる。次のような文である。

- (211) [<sub>C</sub> hə- khlàin phlòun] ká  
1pl 話す カレン 難しい  
「カレン語を話すのは難しい」

この問題については、17.5 を参照していただきたい。

以上、V2 の論理的主語の指示するものについて、「節の主語と同一指示の場合」「V1 の目的語と同一指示の場合」「V1 が表す事象の様態を指示する場合」の三つの場合を見てきた。しかし、しばしば、V2 の論理的主語が何であるのか、判断が難しい場合がある

- (212) ʔəwê klí phlé (=157)  
 3se 走る 速い  
 「彼の走り方は速い」

では、V2 の論理的主語が ʔəwê 「彼」なのか、「彼の走り方」なのか、判断することは難しい。おそらく、V2 の論理的主語は、「彼の走り方」である可能性が高いと思われるが、ポー・カレン語では ʔəwê phlé 「彼は速い」という言い方も可能なので、論理的主語が ʔəwê である可能性も否定はできない。

ところで、V2 の論理的主語の指示対象が決定される仕組みはどうなっているのだろうか。次の三つの文を見られたい。

- (213) jə- ʔán mì máu  
 1sg 食べる ご飯 楽しい  
 「私はご飯を食べるのが楽しかった」

- (214) jə- ʔán mì ʔwí  
 1sg 食べる ご飯 美味な  
 「ご飯を食べたらおいしかった」

- (215) jə- ʔán mì cícá  
 1sg 食べる ご飯 汚い  
 「私のご飯の食べ方は汚い」

V2 の論理的主語は、(213) では節の主語と同一指示である。(214) では V1 の目的語と同一指示である。(215) では V1 が表す事象の様態を指示している。この三つの文における動詞連続は、V2 の動詞のみが異なっている。逆に、次の二つの文は、V2 が同一であるにもかかわらず、(216) では、V2 の論理的主語は節の主語と同一指示であり、(217) では、V2 の論理的主語は V1 の目的語と同一指示になっている。

- (216) ʔəwê ʔánlū thî chênpràn  
 3se 浴びる 水 清潔な  
 「彼は水を浴びてきれいになった」

- (217) ʔəwê thàu khôun chênpràn  
 3se こする 腰掛け 清潔な  
 「彼は腰掛けをきれいに磨いた」

このように、V1 が同一であるにもかかわらず、あるいは、V2 が同一であるにもかかわらず、V2 の論理的主語が指示するものは場合によって異なる。このことから、おそらく、V2 の論理的主語が指示する対象は V1 や V2 の種類によって一義的に決まるのではなく、複数ある候補の中から、意味的あるいは語用論的に最も自然なものが選ばれるのではないかと推測される。

実は、これまで見てきたのは、V2 が目的語を取らない動詞の例ばかりである。そこで最後に、V2 が目的語を取り得る動詞の場合、目的語は V1 の項とどのような関係を持つの

かについて見てみよう。V2 として現れることのできる動詞は無意志動詞なので、目的語を取り得る動詞が V2 として現れることは少ない。しかし、このようなケースは皆無ではなく、次のような例が見つっている。

- (218) jə- ʔánxú khánphài dá jàu (=189)  
 1sg 探す 草履 見つける (完)  
 「私は草履を探して見つけた」

V1 の目的語と V2 の目的語は同一の名詞句でなければならない。このことは次の文の許容度が低いことから例証される。

- (219) ʔə- ʔánxú khánphài dá thə̀dòn jàu  
 1sg 探す 草履 見つける 腰布 (完)  
 「私は草履を探していて、腰布を見つけた」

このように、V1 と V2 の目的語は同一の名詞句でなければならず、かつ、V2 の目的語は表面に現れてはならない。ただし、これは V1 と V2 の目的語が同じ意味役割を持つ場合に限った話である。(219) の「草履」と「腰布」は、V1 および V2 が表す動作の対象に相当する。しかし、V2 の目的語が V1 の目的語と意味役割が異なれば、次のように、別の名詞句を取ることができる。

- (220) ʔəwê θáun yéin bàu rōun  
 3se 建てる 家 近い オフィス  
 「私は仕事場に近いところに家を建てた」

この (220) においては、V1 の目的語 yéin 「家」が V1 の動作の対象に相当するのに対して、V2 の目的語 rōun 「オフィス」は、「近さ」を判断する基準点を表す。また、V2 が動詞助詞 dá によって比較の対象物を表す名詞句を目的語として取った次の例でも、V1 の目的語 θí 「薬」が動作の対象であるのに対して、V2 の目的語は「比較の対象」を表すので、文は不適格にならない。

- (221) jə- yú θí xī dá ʔə  
 1sg 塗る 薬 美しい (比較) 3sg  
 「私は彼よりきれいにペンキを塗った」

V1 が目的語を取らない動詞であれば、次のように、V2 の目的語は問題なく現れることができる。

- (222) thóxwài nó jù thán dá chəphú lə- bēin  
 スズメ (題) 飛ぶ (上方) 見つける 虫 一 ~ 匹  
 「スズメは飛び上がって虫を一匹見つけた」

#### 17.4.2 可能タイプ

次に可能タイプの考察に移る。

## 17.4.2.1 V2 の種類と意味的特徴

描写タイプの分離型動詞連続の V2 が、無意志動詞であればどのような動詞でもかまわないのに対し、可能タイプの V2 に現れることのできる動詞は限られている。それは次の 4 個であり、描写タイプに現れる V2 と同じくすべて無意志動詞である。

- θí 「できる」
- bá 「正しい」
- khlàu 「暇な」
- bóuN 「勇気がある」

以下、これらの表す意味的特徴について述べる。最初の θí は、「～することができる」という意味の他動詞である。

- (223) ʔəwê θí phlòuN chəkhlaín  
 3se できる カレン 言語  
 「彼はカレン語ができる」

この θí が可能タイプの V2 として使われると、V1 が表す行為を行うことが能力的に可能であることを表す。

- (224) jə- nân kâ θí  
 1sg 運転する 自動車 できる  
 「私は車を運転することができる」

- (225) hə- kè láiphlòuN θí ʔé  
 1pl 書く カレン文字 できる (否)  
 「私たちはカレン文字を書くことができない」

- (226) nə- ʔàu thán chə θí mā  
 2sg ほめる (上方) CHə できる (非常)  
 「あなたは人をほめるのがたいへんうまい」

次の bá は、「正しい」という意味の自動詞である。

- (227) láí jò bá  
 文字 この 正しい  
 「この文字は正しい」

この bá が可能タイプの V2 として使われると、V1 が表す行為を規範等に照らし合わせて正しく行うことが能力的に可能であることを表す。

- (228) nə- mə- yê bá vâ  
 2sg (非現) 来る 正しい (疑)  
 「あなたは来ることができるか？」

- (229) jə- nân kâ bá  
 1sg 運転する 自動車 正しい  
 「私は車を運転することができる」

- (230) hə- kè láiphlòuN bá ?é  
 1pl 書く カレン文字 正しい (否)  
 「私たちはカレン文字を書くことができない」

bá は θí と同様に能力可能を表す。θí との違いは、bá の場合、正しくできるかどうかに重点が置かれるということである。θí の場合は正しくできるかどうかは問題にならない。例えば、(228) では、道を間違えずに、あるいは乗り物を間違えずに来ることができるかどうかということに重点が置かれている。同様に、(229) では交通法規に則った運転ができるかどうか、(230) では綴りを間違えずに書けるかどうか、重点が置かれている。しかし、能力可能であることには違いがなく、多くの場合、bá を θí で言い換えても齟齬はきたさない。

次の khlàu は、「暇な」という意味の自動詞である。

- (231) ləyǝjò nə- mə- khlàu nānmlái vâ  
 今朝 2sg (非現) 暇な 少しの時間 (疑)  
 「今朝あなたはちょっと暇ですか?」

この khlàu が可能タイプの V2 として使われると、V1 が表す行為を行う時間があることを示す。

- (232) hə- lə lóθà chàchā khlàu lô  
 1pl 語る (相互) ゆっくり 暇な (断定)  
 「ゆっくり話す暇くらいあるよ」

- (233) nə- yê lé jò mə- khlàu vâ  
 2sg 来る (場) ここ (非現) 暇な (疑)  
 「あなたはここに来る暇がありますか?」

- (234) jə- ?án mì θí khlàu ?é  
 1sg 食べる ご飯 (類似) 暇な (否)  
 「私はご飯を食べる暇もない」

最後の bóuN は、「勇気がある、勇敢な」という意味の自動詞である。

- (235) jə- bóuN ?é  
 1sg 勇気がある (否)  
 「私には勇気がない」

この bóuN が可能タイプの V2 として使われると、V1 が表す行為を行う勇気があることを表す。

- (236) jə- náu yúú bóuN  
 1sg 入る こっそり 勇気がある  
 「私は潜入する勇気がある」

- (237) dē kā nó jə- tháu bóuN ?é  
 (共) 車 (題) 1sg 乗る 勇気がある (否)  
 「(道が危険なので) 車では行く勇気がない」

- (238) yê ?è bóuN | yê  
 来る (条件) 勇気がある 来る  
 「来る勇気があるのなら来なさい」

以上の動詞が V2 として現れた分離型動詞連続を、描写タイプと別扱いする根拠は、これらが V2 として使われると、V1 が表す事象の実現が含意されないということである。17.4.1.1 で見たように、描写タイプでは、V1 が表す事象の実現は必ず含意されるのだった。ところが、可能タイプでは、V1 が表す事象の実現は意味論的には含意されない。したがって、可能タイプの動詞連続を用いた文は、V1 が表す事象の実現を否定するような表現を後に置いても、意味的な矛盾をきたさない。

- (239) ?əkhâ nó jə- lì θí. lānân θí lì ?é  
 時 その 1sg 行く できる しかし 行く (否)  
 「その時私は (道を知っていて) 行くことができた。しかし行かなかった」

- (240) ?əkhâ nó jə- lì bá. lānân θí lì ?é  
 時 その 1sg 行く 正しい しかし 行く (否)  
 「その時私は (道を間違えずに) 行くことができた。しかし行かなかった」

- (241) təyá?ò nə- yê khláu. lānân θí yê ?é  
 一昨日 2sg 来る 暇な しかし 来る (否)  
 「おととい、あなたはここに来る暇があった。しかし来なかった」

- (242) ?əkhâ nó jə- ?ò θài bóuN. lānân θí ?ò ?é  
 時 その 1sg 飲む 酒 勇気がある しかし 飲む (否)  
 「その時私は酒を飲む勇気があった。しかし飲まなかった」

この、V1 が表す事象の実現が含意されないという特徴は、ポー・カレン語のすべての動詞連続を通じて、このタイプにしか見られない。

なお、一見、可能タイプの分離型動詞連続に見える次の例は、補文が主語の位置に現れた構造だと考えられる。17.5 を参照していただきたい。

- (243) [C nə- ?ò thî ] nī  
 2sg 飲む 水 可能な  
 「あなたは水を飲んでもよい」

▷ nī は「得る」という意味の他動詞に由来する。



- (244) [C jə- chó lōUN ] ké  
 1sg 運ぶ 石 可能な  
 「私は石を運ぶことができる」

▷ ké は「～に成る」という意味の他動詞に由来する。nī と同様に「可能な」という意味を表すが、nī に比べると、実現困難な事象の可能性について述べるときに使われることが多い。

#### 17.4.2.2 V2 の論理的主語が指示するもの

次に、可能タイプの分離型動詞連続における、V1 と V2 の項の同一指示性について見ていきたい。V1 の論理的主語は常に節の主語と同一指示である。V2 を見てみると、可能タイプの V2 になり得る 4 個の動詞のうち θi のみは他動詞である。しかし、V2 として現れたとき、これは目的語を取ることがない。したがって、いずれの動詞の場合も、V2 の論理的主語が何を指示するかを考えればよい。

最初の θi の論理的主語は、常に節の主語と同一指示である。

- (245) jə- nân kā θi (=224)  
 1sg 運転する 自動車 できる  
 「私は車を運転することができる」

- (245') jə- θi  
 1sg できる  
 「私はできる」

- (245'') \*kā θi  
 自動車 できる  
 (自動車はできる)

θi は、次のように、「身につけた能力」を表す名詞句を目的語として取ることができる。

- (246) jə- θi láiphlòUN  
 1sg できる カレン文字  
 「私はカレン文字ができる」

しかし、可能タイプの V2 として現れた場合、「身につけた能力」を表す名詞句が θi の目的語として現れることはない。

- (247) jə- kè láiphlòUN θi  
 1sg 書く カレン文字 できる  
 「私はカレン文字を書くことができる」

- (248) \*jə- kè θi láiphlòUN  
 1sg 書く できる カレン文字

次の bá の論理的主語は、V1 が表す事象の様態を指示すると考えたほうがよい。

- (249) jə- mə- yê bá  
 1sg (非現) 来る 正しい  
 「私は来ることができる」

- (250) jə- nân kâ bá  
 1sg 運転する 自動車 正しい  
 「私は車を運転することができる」

なぜなら、(249) で「正しい」のは「私」ではないし、(250) で「正しい」のはやはり「私」でも「自動車」でもないからである。したがって、可能タイプの bá については、V2 の論理的主語は、V1 が表す事象の様態を指示すると考える。

次の khlàu の論理的主語は、常に節の主語と同一指示である。

- (251) jə- pō láíʔàu khlàu ʔé  
 1sg 読む 本 暇な (否)  
 「私は本を読む暇がない」

- (251') jə- khlàu ʔé  
 1sg 暇な (否)  
 「私は暇がない」

- (251'') \*láíʔàu khlàu ʔé  
 本 暇な (否)  
 (本は暇がない)

次の bóuN の論理的主語も、常に節の主語と同一指示である。

- (252) jə- ʔán ʔəjò bóuN ʔé  
 1sg 食べる これ 勇気がある (否)  
 「私はこれを食べる勇気がない」

- (252') jə- bóuN ʔé  
 1sg 勇気がある (否)  
 「私は勇気がない」

- (252'') \*ʔəjò bóuN ʔé  
 これ 勇気がある (否)  
 (これは勇気がない)

### 17.4.3 分離型動詞連続における主動詞について

連結型動詞連続においては、どちらか一方の動詞が動詞連続全体の特徴を優先的に決定しているということを述べ、優先的に全体の特徴を決定する側の動詞を主動詞と呼んだ(17.3.3)。連結型動詞連続の場合、動詞連続全体の項の取り方と意志性を、主動詞が優先的に決定していたのだった。ここでは、分離型動詞連続の場合に V1 と V2 のどちらの動詞が主動詞と考えられるかを見てみたい。

まず、項の取り方についてみてみよう。

- (253) jə- ʔán mì blè (=149)  
 1sg 食べる ご飯 腹一杯の  
 「ご飯を食べて腹一杯になった」

のような例を見ると、項の取り方は、V1 が決定しているかのように見えるかもしれない。なぜなら、連結型について行ったのと同じく、V1 と V2 をそれぞれ取り除くテストをほどこしてみると、次を見れば分かるとおり、V1 を残したときにのみ文は適格になるからである。

- (254) a. ʔəwê ʔán mì  
 3se 食べる ご飯  
 「彼はご飯を食べた」  
 b. \*ʔəwê mì blè  
 3se ご飯 腹一杯の

確かに、分離型ではこのような場合が多い。ところが、実際には、V1 と V2 のどちらの特徴が全体の特徴を決定しているとも断言できない。なぜなら、次のように、V2 が目的語を取る場合には、V1 と V2 のどちらを取り除いても、不適格な文ができあがるからである。

- (255) ʔəwê θáʉN yéin bàʉ rōʉN (=220)  
 3se 建てる 家 近い オフィス  
 「私は仕事場に近いところに家を建てた」

- (256) a. \*ʔəwê θáʉN yéin rōʉN  
 3se 建てる 家 オフィス  
 b. \*ʔəwê yéin bàʉ rōʉN  
 3se 家 近い オフィス

V2 は目的語を取らない動詞であることが多いため、このような例は少ない。しかし、「比較の対象」を表す名詞句を目的語として動詞に取らせる働きのある動詞助詞 dá を V2 の後に置くと、V2 は比較的自由に目的語を取れるようになる。下に示すのは描写タイプの例である。

- (257) jə- ʔó pəjànkhāN máʉ dá cəpāN  
 1sg 住む ビルマ国 快適な (比較) 日本  
 「私は日本に住んでいるのよりビルマに住んでいるほうが楽しい」

- (258) jə- ʔán mì ʔwí dá khənôn  
 1sg 食べる ご飯 美味な (比較) 麺  
 「私は麺よりもご飯のほうが好きだ」

- (259) ʔəwê klí phlé dá jə  
 3se 走る 速い (比較) 1sg  
 「彼は私より走るのが速い」

下は可能タイプの例である。

- (260) ʔəwê khlaín pəjàn θí dá jə  
 3se 話す ビルマ できる (比較) 1SG  
 「彼は私よりビルマ語が話せる」

したがって、項の取り方は V1 と V2 のどちらが決定しているとも言いがたい。V1 の論理的な主語は常に節の主語と同一指示なので、V1 が V2 よりも項の取り方において有利に働いている可能性はあるが、V1 は動詞連続全体の項の取り方を決定するほどの力を持っていない。

一方、意志性はどうなっているだろうか。既に見たように、分離型動詞連続における V2 は、描写タイプであれ、可能タイプであれ、無意志動詞であった。V1 は、意志動詞でも無意志動詞でもよい。重要なのは、分離型動詞連続が常に無意志動詞としての特徴を持つということである。つまり、分離型動詞連続は、意志性において V2 と同じ特徴を持っている。このことは、分離型動詞連続がそのままでは命令文として働くことができないという事実によって実証される (描写タイプの動詞連続が命令文として機能しないことは、既に 17.4.1.2 でも述べた)。以下の文を見ていただきたい。これらの文に\*をつけたのは、命令文として機能しないという意味においてである。

- (261) \*ʔán mì blè  
 食べる ご飯 腹一杯の  
 (ご飯を腹一杯に食べよ)
- (262) \*dú táintəθá théphà  
 殴る スイカ 割れる  
 (スイカを叩いて割れ)
- (263) \*klí phlé  
 走る 速い  
 (速く走れ)
- (264) \*chôn món thichà  
 考える 正確な  
 (正確に考えろ)
- (265) \*kè láipəjàn θí  
 書く ビルマ文字 できる  
 (ビルマ文字を書けるようにしろ)
- (266) \*lò ʔəwê bóuN  
 話す 3sg 勇気のある  
 (彼に話す勇気を出せ)

ここで挙げた例の V1 はすべて、意志動詞である。もし分離型動詞連続が V1 の特徴を受け継いでいるのであれば、これらは命令文として働くことができるはずである。ところが、

これらは命令文になることはできない。このことは、これらの動詞連続が意志性において V2 の特徴を受け継いでいるということを意味する。

まとめると、分離型動詞連続は、項の取り方においてはどちらの動詞の特徴を受け継いでいるとも言えない。一方で、意志性においては V2 の特徴を受け継いでいる。この事実から、分離型動詞連続の主動詞は V2 であると結論づけたい。

#### 17.4.4 3 個以上の動詞からなる分離型動詞連続

分離型動詞連続の場合も、まれではあるが、2 個より多い動詞からなる動詞連続が現れる。ただし、今まで、4 個以上の動詞からなる分離型動詞連続は見つかっていない。3 個の動詞からなる分離型動詞連続は、次のようなものである。

- (267) ʔəwê ʔánp̥hôn θân θí yì  
 3se 料理する おかず できる 良い  
 「彼は上手におかずを料理することができる」  
 （彼は料理をすることができる。そしてその料理ができる程度は高い）

この例では、既に分離型動詞連続である ʔánp̥hôn θân θí (彼は料理をすることができる) にさらに動詞 yì 「良い」が後続している。yì の論理的主語が指示するのは、「料理をすることができる」という事象の様態である。

#### 17.4.5 分離型動詞連続のまとめ

上で考察してきた分離型動詞連続の特徴を、箇条書きにしてまとめておく。

- 否定辞 lə- が V2 の前に付く動詞連続である。
- 描写タイプと可能タイプの二つに分けることができる。
- V2 の論理的主語は、節の主語と同一指示であるか、V1 の目的語と同一指示であるか、V1 が表す事象の様態を指示するかのいずれかである。
- V2 が主動詞であると考えられる。

### 17.5 動詞連続と外見が類似する構造

本論文では、ポー・カレン語の動詞連続を、「同一節中に、動詞間の関係を示す標識を伴わずに複数の動詞が現れる現象。ただし、その節の中に埋め込まれた従属節の中の動詞や、名詞句の中の動詞は、動詞連続を構成する動詞と考えない」と定義した。問題は、「従属節や補語の中の動詞」が文中に存在するとき、外見上、それらが動詞連続を構成する動詞の一つに見えてしまうことがあるということである。「従属節や補語の中の動詞」が動詞間の関係を示す標識なしに存在しているために、動詞連続に見えてしまうのは、具体的には次のような場合である。

- 動詞句が目的語として現れた場合

- 補文を表す標識を伴わない補文が現れた場合
- 従属節助詞を伴わない副詞節が現れた場合
- 関係節を導く標識を伴わない関係節が現れた場合

以下では、このようなものをどのようにして動詞連続と区別するかについて述べる。動詞連続と外見が似た構造は、しかるべきテストによって動詞連続と区別することができる。

### 17.5.1 動詞句が目的語として現れた場合

このケースは、二つの動詞が隣接して現れる点と、否定辞の *lə-* が前側の動詞に前置されるという点で、連結型動詞連続と似ている。例えば次のようなものである。

(268) *jə- θànáN ?áN mì*  
 1sg 忘れる 食べる ご飯  
 「私はご飯を食べるのを忘れた」

否定辞 *lə-* は V1 の前に現れる。

(269) *bè lə- θànáN ?áN mì bá θò ...*  
 (目的) (否) 忘れる 食べる ご飯 (否') (目的')  
 「ご飯を食べるのを忘れないように...」

動詞句が目的語として現れた構造が連結型動詞連続と異なるのは次のような点である。まず第一に、動詞句が目的語として現れた文では、次のように、後側の動詞を主要部とする動詞句を主題化することができる。

(270) *?áN mì nó jə- θànáN jābò*  
 食べる ご飯 (題) 1sg 忘れる JABO  
 「ご飯を食べることは、私は忘れてしまったのですよ」

しかし、連結型動詞連続ではこのようなことは不可能である。次の (a) の V2 およびそれに続く目的語を主題化し、(b) のようにすることはできない。

(271) a. *jə- ?ánpôn ?áN mì*  
 1sg 炊く 食べる ご飯  
 「私はご飯を炊いて食べた」  
 b. *\*?áN mì nó jə- ?ánpôn jābò*  
 食べる ご飯 (題) 1sg 炊く JABO

第二に、目的語として現れた動詞句は、文脈指示機能を持つ名詞 *?ənó* 「それ」で置き換えることができる。したがって、次の問いに対する答えの文において、動詞句を *?ənó* で受けることができる。

- (272) nə- θànáN ʔán mì bá  
 2sg 忘れる 食べる ご飯 (疑)  
 「あなたはご飯を炊くのを忘れたのですか?」  
 — jə- θànáN ʔənó  
 1sg 忘れる それ  
 「私はそれを忘れた」

これに対して、連結型動詞連続では、V2 とそれに続く名詞句等を ʔənó で置き換えることができない。

- (273) nə- ʔánphôn ʔán mì bá  
 2sg 炊く 食べる ご飯 (疑)  
 「あなたはご飯を炊いて食べたのですか?」  
 — \*jə- ʔánphôn ʔənó  
 1sg 炊く それ

このように、目的語として動詞句が現れた構造と連結型動詞連続は明らかに異なっている。なお、第 16 章で述べたとおり、動詞句が主語の位置に現れることはない。動詞句の定義等については第 16 章を参照していただきたい。

### 17.5.2 補文を表す助詞を伴わない補文が現れた場合

補文を含む文では、主文の動詞と補文の動詞の間に名詞句などが現れるので、一見、分離型動詞連続に似ている。まず、目的語位置に補文が現れた文の場合は、分離型動詞連続との区別は簡単である。

- (274) jə- jū [C ʔəwê klí]  
 1sg 見る 3se 走る  
 「私は彼が走るのを見た」

目的語位置に現れた補文の場合、補文の前に、補文を表す助詞 lé が現れることができる。次のとおり。

- (275) jə- jū lé ʔəwê klí  
 1sg 見る (補) 3se 走る  
 「私は彼が走るのを見た」

分離型動詞連続の場合、このように助詞 lé が間に入ることはない。

- (276) a. jə- jū ʔəwê yì  
 1sg 見る 3se 美しい  
 「私は彼女を美しいと思う」  
 b. \*jə- jū lé ʔəwê yì  
 1sg 見る (補) 3se 美しい

一方、補文が主語の位置に現れた次のような構造では、補文の前に lé が現れるということがないので、問題はこれほど容易ではない。

- (277) [C hə- ʔán chədòchəlá ] yì  
 1pl 食べる 野菜 良い  
 「私達が野菜を食べることは良いことだ」

- (278) [C hə- khlàin phlòun ] ká  
 1pl 話す カレン 難しい  
 「私達がカレン語を話すことは難しい」

- (279) [C nə- ʔò thî ] nī  
 2sg 飲む 水 可能な  
 「あなたは水を飲んでもよい」

- (280) [C jə- chó lōun ] ké  
 1sg 運ぶ 石 可能な  
 「私は石を運ぶことができる」

しかし、このような構造と分離型動詞連続との間には、次のような違いがある。第一に、補文の場合は、補文を文脈指示機能を持つ名詞 ʔənó 「それ」で置き換えることができる。したがって、次の各例における問いに対する答えの文において、補文を ʔənó で受けることができる。

- (281) hə- ʔán chədòchəlá yì bâ  
 1pl 食べる 野菜 良い (疑)  
 「野菜を食べることは良いことか？」

— ʔənó yì  
 それ 良い  
 「それは良いことだ」

- (282) hə- khlàin phlòun ká bâ  
 1pl 話す カレン 難しい (疑)  
 「カレン語を話すことは難しいか？」

— ʔənó ká  
 それ 難しい  
 「それは難しい」

- (283) jə- ʔò thî nī bâ  
 1sg 飲む 水 可能な (疑)  
 「水を飲んでもいいですか？」

— ʔənó nī  
 それ 可能な  
 「それはよい」



- (284) nə- chók lōUN ké vâ  
 2sg 運ぶ 石 可能な (疑)  
 「あなたは石を運ぶことができるか？」  
 — ʔənók ké  
 それ 可能な  
 「それは可能だ」

一方、分離型動詞連続の場合はそれができない。

- (285) ʔəwê klí phlé vâ  
 3sg 走る 速い (疑)  
 「彼は走り方が速いか？」  
 — \*ʔənók phlé  
 それ 速い

- (286) nə- khlàin phlòUN θí vâ  
 2sg 話す カレン できる (疑)  
 「あなたはカレン語を話すことができるか？」  
 — \*ʔənók θí  
 それ できる

第二に、補文の場合は、分裂文化によって補文を後置することができる。

- (287) ɣì nó hə- ʔán chədòchələ nó lô  
 良い (題) 1pl 食べる 野菜 その (断定)  
 「良いのは私達が野菜を食べることである」  
 (288) ká nó hə- khlàin phlòUN nó lô  
 難しい (題) 1pl 話す カレン その (断定)  
 「難しいのは私達がカレン語を話すことである」  
 (289) nī nó nə- ʔò thî nó lô  
 可能な (題) 2sg 飲む 水 その (断定)  
 「してもよいのはあなたが水を飲むことである」  
 (290) ké nó jə- chók lōUN nó lô  
 可能な (題) 1sg 運ぶ 石 その (断定)  
 「できるのは私が石を運ぶことである」

一方、分離型動詞連続の場合は、対応する部分を後置することはできない。

- (291) \*phlé nó ʔəwê klí nó lô  
 速い (題) 3se 走る その (断定)

- (292) \*θí      nó    nə-    khlàin    phlòun    nó    lō  
 できる (題) 2sg 話す カレン その (断定)

第三に、補文の場合には補文の中の動詞を否定辞 lə- で否定することができる。

- (293) hə-    lə-    ʔán      chədòchəlá    bá    yì  
 1pl (否) 食べる 野菜 (否') 良い  
 「私達が野菜を食べないことは良いことだ」

- (294) hə-    lə-    khlàin    phlòun    bá    ká  
 1pl (否) 話す カレン (否') 難しい  
 「私達がカレン語を話さないことは難しい」

- (295) nə-    lə-    ʔò      thî    bá    nī  
 2sg (否) 飲む 水 (否') 可能な  
 「あなたは水を飲まなくてもよい」

- (296) jə-    lə-    chó    lōun    bá    ké  
 1sg (否) 運ぶ 石 (否') 可能な  
 「私は石を運ばなくてもよい」

一方、分離型動詞連続の場合には、V1 を否定することができない。

- (297) \*ʔəwê    lə-    klí    bá    phlé  
 3se (否) 走る (否') 速い
- (298) \*nə-    lə-    khlàin    phlòun    bá    θí  
 2sg (否) 話す カレン (否') できる

以上のような点で、補文を主語として取った構文と分離型動詞連続は異なるのであり、それゆえ、これらは別の構文と見なさなければならない。補文については第 22 章を参照していただきたい。

### 17.5.3 従属節助詞を伴わない副詞節が現れた場合

次に、やはり分離型動詞連続と似たケースとして、従属節標識を伴わない副詞節が現れた場合を見る。例えば次のようなものである。

- (299) ʔəθí    bón    nī      chəbáinchəbón | cáinyà    wê    lō    jābò  
 3pl 包む (努力) 荷物                      逃げる (強意) (断定) JABO  
 「彼らは荷物をまとめて、逃げ出したのだった」(021.89)

- (300) ʔəwê    ʔánc̣hâ    láip̣àu | xwè    khómó  
 3se 売る 本                      買う 傘  
 「彼は本を売って傘を買った」

これらは次の4点において分離型動詞連続と異なる。第一に、従属節標識を伴わない副詞節の場合は、通常、節と節の間にポーズが置かれるか、あるいは前の節の最後の音節を少し長めに発音する。このことを節と節の間に # を置いて表す。

(301) ʔəθí bón nī chəbáínchəbón # cáinyà wê lô jābò  
3pl 包む (努力) 荷物 逃げる (強意) (断定) JABO

(302) ʔəwê ʔánc̣hâ láíʔàʊ # xwè khómó  
3se 売る 本 買う 傘

一方、分離型動詞連続の場合には一気に発音される。したがって、次のように最初の動詞句と次の動詞句の間にポーズを入れると不自然である。

(303) ʔəwê ʔán mì # blè  
3se 売る 本 腹一杯の

第二に、従属節標識を伴わない副詞節の場合は、副詞節の動詞と主節の動詞の両方に主語名詞句を置くことができる。

(304) ʔəθí<sub>i</sub> bón nī chəbáínchəbón | ʔəθí<sub>i</sub> cáinyà wê lô jābò  
3pl 包む (努力) 荷物 3pl 逃げる (強意) (断定) JABO

(305) ʔəwê<sub>i</sub> ʔánc̣hâ láíʔàʊ | ʔəwê<sub>i</sub> xwè khómó  
3se 売る 本 3se 買う 傘

一方、分離型動詞連続の場合にはそれができない。

(306) \*ʔəwê<sub>i</sub> ʔán mì ʔəwê<sub>i</sub> blè  
3se 食べる ご飯 3se 腹一杯の

第三に、従属節標識を伴わない副詞節の場合は、最初の動詞を否定辞 lə- で否定することができる。

(307) ʔəθí lə- bón nī chəbáínchəbón bá | cáinyà wê lô jābò  
3pl (否) 包む (努力) 荷物 (否') 逃げる (強意) (断定) JABO  
「彼らは荷物をまとめずに、逃げ出した」

(308) ʔəwê lə- ʔánc̣hâ láíʔàʊ bá | xwè khómó  
3se (否) 売る 本 (否') 買う 傘  
「彼は本を売らず、傘を買った」

分離型動詞連続の場合はこれができない。

(309) \*ʔəwê lə- klí bá phlé  
3se (否) 走る (否') 速い

(310) \*nə- lə- khlàin phlòʊn bá θí  
2sg (否) 話す カレン (否') できる

第四に、従属節標識を伴わない副詞節の場合は、時間を表す語句や場所を表す語句などの周遍的な補語を、二つの動詞が別個に取ることができるのに対して、分離型動詞連続の場合には、このような語句を別個に取ることができないということである。例えば、(299) と (300) では、次のように、個々の動詞を別々の周遍的な補語で修飾することができる。

(311) ʔəθí bón nī chəbáínchəbón mūyá | cáinyà wè lənìjò lî jābò  
 3pl 包む (努力) 荷物 昨日 逃げる (強意) 今日 (断定) JABO  
 「彼らは昨日荷物をまとめて、今日逃げ出したのだった」

(312) ʔəwê ʔánc̣hâ láíʔàv lə- thəʔàn | xwè khómó lə- ləkōvN  
 3se 売る 本 (場) (地名) 買う 傘 (場) (地名)  
 「彼はパアンで本を売ってヤンゴンで傘を買った」

ところが、分離型動詞連続の場合には、描写タイプのものであれ、可能タイプであれ、それぞれの動詞が別個の周遍的な補語を取ることはできない。

(313) \*ʔəwê klí mūyá phlé lənìjò  
 3se 走る 昨日 速い 今日

(314) \*jə- ʔán mī mūyá blè lənìjò  
 1sg 食べる ご飯 昨日 腹一杯の 今日

(315) \*ʔəwê khlàin phlòvN məyī θí lənéinjò  
 3se 話す 去年 カレン できる 今年

周遍的な補語は、普通、次のように一つしか現れることができない。

(316) ʔəwê klí phlé lənìjò  
 3se 走る 速い 今日  
 「今日、彼は走るのが速かった」

(317) jə- ʔán mī blè lənìjò  
 1sg 食べる ご飯 腹一杯の 今日  
 「今日私はご飯を食べて腹いっぱいになった」

(318) ʔəwê khlàin phlòvN θí lənéinjò  
 3se 話す カレン できる 今年  
 「彼は今年はカレン語を話すことができる」

以上のような理由により、従属節標識を伴わない副詞節が現れた文は、分離型動詞連続とは異なるのである。従属節標識を伴わない副詞節については、第 21 章 21.26 でも議論するので、参照していただきたい。

## 17.5.4 関係節を導く助詞を伴わない関係節が現れた場合

ポー・カレン語の関係節には、後置型、前置型、標識介在型がある。ここで問題になるのは、関係節を導く助詞を伴わない後置型、前置型の場合である。(319) が後置型の例、(320) が前置型の例である。

- (319) ʔəwê ʔán já [R phàdú]  
 3se 食べる 魚 大きな  
 「彼は大きな魚を食べた」

- (320) [R ʔəwê ʔán] já phàdú  
 3se 食べる 魚 大きな  
 「彼が食べた魚は大きかった」

これらは、外見上、次のような分離型動詞連続と似ている。

- (321) ʔəwê ʔán já ʔwí  
 3se 食べる 魚 おいしい  
 「彼は魚を食べたらおいしかった」

しかし、次のようなテストをすればこれらが分離型動詞連続ではないことが分かる。関係節の場合には、関係節を含む名詞句部分を文脈指示機能を持つ名詞 ʔənó 「それ」で置き換えることが可能である。

- (322) ʔəwê ʔán já [R phàdú] b̂a  
 3se 食べる 魚 大きな (疑)  
 「彼は大きな魚を食べたか？」

— ʔəwê ʔán ʔənó  
 3se 食べる それ  
 「彼はそれを食べた」

- (323) [R ʔəwê ʔán] já phàdú b̂a  
 3se 食べる 魚 大きな (疑)  
 「彼が食べた魚は大きかったか？」

— ʔənó phàdú  
 それ 大きい  
 「それは大きかった」

しかし、動詞連続の場合、対応する部分を ʔənó で置き換えることはできない。

- (324) ʔəwê ʔán já ʔwí b̂a  
 3se 食べる 魚 おいしい (疑)  
 「彼は魚を食べたらおいしかったか？」

— \*ʔəwê ʔán ʔənó  
 3se 食べる それ

- (325) ʔəwê ʔán já ʔwí ɛâ  
 3se 食べる 魚 おいしい (疑)  
 「彼は魚を食べたらおいしかったか」  
 — \*ʔənó ʔwí  
 それ おいしい

## 17.6 動詞連続と文法化

本論文で動詞助詞 (第 18 章) と呼んでいる助詞のうち、動詞に起源を持つもののいくつかは、連結型動詞連続の V1 あるいは V2 が文法化 (grammaticalize) したものと考えられる。例えば、次の例の試行を表す jū は、V2 位置に現れた動詞 jū 「見る」が文法化したものである。

- (326) ʔəwê ʔán jū  
 3se 食べる (試行)  
 「彼は食べてみた」

動詞助詞が動詞起源か否かについては第 18 章の各助詞の記述を見ていただきたい。

それでは、分離型動詞連続の V1 あるいは V2 のいずれかが文法化した例というのはないのだろうか。今のところ、完全に文法化したと考えられる例は見つかっていないけれども、一部の V2 については文法化の途上にあると考えてもよいかもしれない。その可能性のあるのが、láu 「尽きる」と θí 「できる」である。

まず、láu は「尽きる」という意味の動詞であるけれども、次のように、主語の指示対象の全部が何かを行うという意味で使われることがある。

- (327) ʔəθí kòun láu jàu  
 3pl 集まる すべて (完)  
 「彼らは全員集まった」

この láu は、単独で使われたときに「すべて」という意味を表すことはできないから、おそらく副助詞に近づいているのではないと思われる。しかし、(327) を否定した場合に、否定を表す動詞助詞 lə- は láu の前に付く。したがって、まだ動詞としての特徴を失っていないと考えられ、そのために本論文ではこれを副助詞には入れていない。

- (328) ʔəθí kòun lə- láu bá ʔəkhúcòn | jə- bá lì chōn  
 3pl 集まる (否) すべて (否') (理由) 1sg (当為) 行く 迎える  
 「彼らは全員は集まらなかった (注:部分否定) ので、私が迎えに行かなければならなかった」

「尽きる」という元の意味で使われた例を下に挙げておく。

- (329) ʔəwê ʔán mì láu jàu  
 3se 食べる ご飯 尽きる (完)  
 「彼はご飯を食べ尽くした」

次に、 $\theta i$ 「できる」は可能タイプの分離型動詞連続に使われる動詞であるが、これが習慣を表すことがある。

- (330)  $h\grave{o}$   $j\grave{o}$   $l\grave{o}kw\grave{e}$   $kl\grave{a}n$   $ch\grave{o}$   $\theta i$   
 人 この 冗談を言う (傾向)  $CH\grave{o}$  (習慣)  
 「こいつはやたら冗談を言うくせがある」(001.2009)

この  $\theta i$  も、単独で使われたときに「習慣がある」という意味を表すことはできないから、おそらく副助詞に近づいているのではないと思われる。しかし、やはりこの  $\theta i$  にも、否定を表す動詞助詞  $l\grave{a}$  が付くことができるので、本論文ではこれを副助詞には入れていない。

- (331)  $l\grave{o}kw\grave{e}$   $kl\grave{a}n$   $ch\grave{o}$   $l\grave{a}$   $\theta i$   $b\acute{a}$   $l\grave{a}n\grave{a}n$  |  $ch\grave{a}khl\grave{a}i\grave{n}$   $\text{?}\acute{a}$   
 冗談を言う (傾向)  $CH\grave{o}$  (否) (習慣) (否') (逆接) 言葉 多い  
 「冗談を言うくせはないが、口数が多い」

ビルマ語でも能力を表す動詞に由来する形態素  $/ta\text{?}/$  が習慣を表すので、 $\theta i$  が習慣を表す用法はこの影響によって生じた可能性もある。

この二つの動詞は、動詞としての特徴を完全には失っていないとはいえ、元の意味を失っており、また、「全部」「習慣」を表す意味では単独では使われないのだから、ある程度の文法化が生じていると考えられる。今後これらが完全に助詞化するかどうかは興味深い問題である。

## 17.7 動詞連続の実例

以上の議論で用いた文例は、作例あるいは実例に改変を加えたものが多かった。この欠点を補うため、以下に、様々なテキストに現れた動詞連続の実例を挙げておくことにする。 $[ ](v1\pm)$  は連結型動詞連続を構成する最初の動詞複合体を表し、 $[ ](v2\pm)$  は連結型動詞連続を構成する二番目の動詞複合体を表す。また、 $[ ](V1\pm)$  は分離型動詞連続を構成する最初の動詞複合体を表し、 $[ ](V2\pm)$  は分離型動詞連続を構成する二番目の動詞複合体を表す。‘+’ は、それぞれの動詞複合体が意志動詞としての特徴を持つことを表す。一方、‘-’ は、それぞれの動詞複合体が無意志動詞としての特徴を持つことを表す。

### ● 連結型、「自動詞 + 自動詞」の例

- (332)  $ch\grave{o}\text{?}\acute{a}u$   $kh\grave{o}$   $\theta\grave{a}m\acute{e}$   $m\grave{a}$ -  $[l\grave{a}n\theta\acute{e}](v1-)$   $[ \theta i ](v2-)$   $\text{?}\acute{a}kh\acute{u}c\grave{o}n$ ,  
 猿 (対比) 恐れる (非現) 落ちる 死ぬ (理由)  
 $\text{?}\acute{a}w\acute{e}$   $ph\acute{o}n$   $th\acute{a}$   $l\grave{a}nk\theta\acute{h}\acute{a}$   $kh\acute{a}n$   $ch\acute{a}ich\acute{a}i$   $n\acute{o}$   $ch\bar{u}$   $l\acute{o}$   
 3se つかむ (保持) ハゲワシ 足 しっかり (のだ) (婉曲) (断定)  
 「猿は落下して死ぬのがいやだったので、ハゲワシの足をしっかりつかんでいた」  
 (III-12.30)

- (333)  $k\acute{e}$   $th\acute{a}n$   $l\grave{a}n\grave{a}n$   $\text{?}\acute{a}khw\acute{a}$   $l\grave{a}$ -  $y\grave{a}$   $\theta i$  |  
 なる (完成) (逆接) 男 - ~ 人 (類似)

méthi [ʔóuN thán](v1-) [xwè](v2-) ʔəkhwàn phàn  
 涙 たまる (完成) 満ちる 眼窩 中  
 「男ではあるけれども、涙が出てきて目にたまった」(V-01.78)

- (334) nādèin phli nó θí thán thán wê dè phlithōn  
 豎琴 糸 (題) (類似) 付ける (完成) (強意) (共) 銅線  
 θi nó ʔəkhúcòn | ʔəlū θô châ |  
 (複) (のだ) (理由) 音 鳴る (非常)  
 ʔəlū [θô](v1-) [phlò](v2-) jàin wê chī lō  
 音 鳴る 伝わる 遠い (強意) (婉曲) (断定)  
 「豎琴の糸も、銅線を取り付けるのでよく鳴り、音が遠くまで鳴り響くのである」  
 (III-09.22)

▷ v2 の後の jàin は、分離型動詞連続の描写タイプの 2 番目の動詞として機能している。つまり、v1 と v2 全体で、分離型動詞連続の V1 として機能している。

- (335) ləchòtādánə nó lə- θéinthò ʔó wāplàn ʔò  
 一生 (題) (場) 切り株 ある 原っぱ (遠方)  
 [chōN làn](v1+) [ʔópwài](v2+) bá ləxì  
 止まる (下方) 休む (催促) (禁止)  
 「(鳥の父親が息子に) 一生、切り株のある原っぱには、降りていって休んだりする  
 なよ」(III-12.4)

- (336) [káu](v1+) [yè](v2+) dá wè làn dè khōθwê  
 努力する 活動する (保持) (備え) (下方) (共) 汗  
 láu khwái ʔəkhâ θèlaphá nó  
 尽きる (徹底) 時 (複) (題)  
 ké thán ʔəkhōuNʔətà ʔó nān mèin ʔé chī lō  
 成る (完成) 利益 ある (少数) ~ 種類 (否) (婉曲) (断定)  
 「汗水たらして努力して得たものが失われたら、働いて得たものが何もなかったと  
 いうことになる」(IV-03.40)

- (337) jō thàin thólêinʔwà phó  
 見る (再度) 白サギ 子供  
 [yê thàin](v1+) [jū](v2+) nī bēin  
 来る 帰る 飛ぶ 二 ~ 羽  
 「白サギの子が 2 羽飛んで帰ってきたのを再び見た」(IV-04.216)

- (338) xīphàn ʔə- mōtōuN nó [chínàn](v1+) [ʔó](v2-) lé yéin  
 ファイパウン 3sg 母 (題) 座る いる (場) 家  
 méjā nótā | ləjáiləmō θōuNláichā ʔáncà thán wê...  
 前 (前提) 間もなく 郵便配達 尋ねる (完成) (強意)  
 「ファイパウンの母は家の前に座っていたが、郵便配達はすぐに(彼女に次のように)  
 尋ねた」(IV-04.359)



## ● 連結型、「自動詞 + 他動詞」の例

- (339) ʔə̀lêin phó ʔə̀nkhài lə- béin lə- nán wê lən  
 九官鳥 子供 愚かな ー ～羽 (否) 思い出す (強意) もはや  
 ʔə- mō chə̀khlaín | [ phû ɬən ](v1+) [ ʔánlū ](v2+) wê thî  
 3sg 母 言葉 跳ぶ (下方) 浴びる (強意) 水  
 lə- thîkhló phən ʔò chū lô  
 (場) 川 中 (遠方) (婉曲) (断定)  
 「愚かな九官鳥の子供は、母の言葉をもはや思い出さず、(川岸に) 跳ねて降りて、川  
 の中で水浴びを始めたのだった」(IV-07.40)

- (340) jə- [ chînən ](v1+) [ ʔáin thé ](v2+) nī ʔə̀jó  
 1sg 座る かじる 切れる (努力) 芽  
 nó jə- nán dài thîchà dài lô  
 (題) 1sg 覚えている まだ 確かな まだ (断定)  
 「私は、座って木の芽をかみ切ったことを確かに覚えている」(III-10.15)

(注)v2 は、それ自体が「他動詞 (v1+) + 自動詞 (v2-)」の連結型動詞連続である。jə- [ nán ](V1-) dài [ thîchà ](V2-) dài は、描写タイプの連結型動詞連続である。

- (341) dè ʔə- cú lākhô [ ɬū ](v1+) [ phón thá ](v2+) wê  
 (共) 3sg 手 両方 急ぐ つかむ (保持) (強意)  
 lānkəthá ʔə- kán nó chū lô  
 ハゲワシ 3sg 足 (のだ) (婉曲) (断定)  
 「両方の手で、急いでハゲワシの足をつかんだのだった」(III-12.22)

- (342) khə̀mlən θí θijā wê tə̀wənpʰú chē lən lāintən |  
 民衆 (類似) 知る (強意) 村人 突き刺す (下方) くみ出し機  
 mə- θà θai nón nó lə- blən tā |  
 (非現) 干拓する 乾く 池 その ー 回 (前提)  
 θà kətò | [ ʔókón ](v1+) [ lə̀thəin lóθà ](v2+) lô  
 心 心配する 集まる 話す (相互) (断定)  
 「(魚の) 民衆も、村人が水の汲み出し機を設置して池を干拓しようとしていることを知り、心配になって、集まって話し合った」(III-15.7)

▷ [ θà ](v1+) [ θai ](v2-) 「干拓して乾かす」の部分は、「他動詞 + 自動詞」の連結型動詞連続。

- (343) ʔānwə̀phú ʔè [ yē ](v1+) [ dí lən ](v2+) lé klà θwī phən |  
 カッコウ (条件) 来る 生む (下方) (場) カラス 巢 中  
 klà lə- θijā lən θà nān chò bá càibò ...  
 カラス (否) 知る (帰的) (再帰) (少数) 瞬間 (否') (条件)  
 「カッコウがもしカラスの巣の中に (卵を) 生みに来て、カラスのほうは全然そのことに気づかなかったとしたら...」(IV-09.52)

● 連結型、「他動詞 + 他動詞」の例

- (344) jə- [pjá lən] (v1+) [jū] (v2+) chànp̄lōn nó ...  
 1sg 広げる (下方) 見る 上着 (前提)  
 「私が上着を広げて観察したところ...」(V-02.98)

- (345) já phjā jò [phón] (v1+) [nī] (v2-) lú dən phən ?ò  
 魚 もの この 獲る 得る (場) 湖 中 (遠方)  
 「この魚は、あの湖からとってきました」(002.647)

- (346) phúbì má màn̄ thàin ?ə- chànbákən yòn |  
 大叔父 妻 取る (再度) 3sg 高級上着 (継起)  
 [dó thán] (v1+) [plau lən thàin] (v2+) pàutà phən  
 畳む (完成) 入れる (下方) (再度) 行李 中  
 「大叔父さんの妻は、高級な民族衣装を再び手に取り、畳んで行李の中に入れた」  
 (V-02.148)

- (347) ?è lə- [lì phú] (v1+) [θôun] (v2+) jə- bá |  
 (条件) (否) 行く 背負う 送る 1SG (否')  
 jə- cáin ké ?é  
 1sg 歩く 可能な (否)  
 「もし私を背負って送ってくれないのだったら、私は行くことができない」(III-04.23)

▷ v1 は、これ自体が「自動詞 (移動動詞)(v1+) + 自動詞 (v2-)」の連結型動詞連続であり、「背負って行く」という意味である。

- (348) chē phīphū ləwī khlothō lən thá cútlan yì ləphá  
 民族 祖先 以前 残す (下方) (保持) 技術 良い (複)  
 bē lə- lənmā bá θò | hə- bá  
 (目的) (否) 消える (否') (目的') 1pl (当為)  
 [yáθá] (v1+) [jū yì] (v2) wē dālō  
 保存する 見る 良い (強意) (断定)  
 「昔の先祖たちが残してくれた良い技術が消えないように、私たちは保存して、良いものになるよう見守らなければならない」(IV-01.118)

▷ v2 は、これ自体が「他動詞 (v1+) + 自動詞 (v2-)」の連結型動詞連続であり、「見守って良くする」という意味である。

- (349) [lò] (v1+) [màláu] (v2+) wē yòn | θī wē lô  
 語る 注文する (強意) (継起) 死ぬ (強意) (断定)  
 「そう言い残して(ことづけて)亡くなった」(III-12.5)

- (350) θàucà nó [phón] (v1+) [phəyôun] (v2+) nī thàin xīphàn tã |  
 (人名) (題) つかまえる 抱く (引寄) (元位) (人名) (前提)

xíphàn nó ʔánjàyáu làn θà  
 (人名) (題) 動かす (帰的) (再帰)  
 「タウチャーがファイパウンを再びつかまえて抱くと、ファイパウンはもがいた」(IV-04.234)

- (351) xíphàn [ ʔánphôn ](v1+) [ dàu ʔán ](v2+) khwái θàucà mì yòn |  
 (人名) 炊く (使役) 食べる (徹底) (人名) ご飯 (継起)  
 yê thàin θôun wê lə- yàmú yéin ʔò  
 来る 帰る 送る (強意) (場) 叔母 家 (遠方)  
 「ファイパウンはご飯を炊いてタウチャーに食べさせて、(タウチャーを) 叔母の家まで送ってきた」(IV-04.321)

▷ v2 は「使役を表す動詞前接辞 + 動詞」という構成になっている。

- (352) xíphàn [ kè ](v1+) [ lə yêN ](v2+) bá dè lái jò chū lô  
 (人名) 書く (使役) 聞こえる (不抗) (共) 手紙 この (婉曲) (断定)  
 「私 (ファイパウン) はこの手紙を書いて (あなたに) 知らせます」(IV-04.403)

- (353) ʔwí bá ʔəθí nò nó |  
 美味な (基準) 3pl 口 (前提)  
 [ tàin ](v1+) [ ʔò ](v2+) wê kləklə chū lô  
 作る 飲む (強意) いつも (婉曲) (断定)  
 「彼らの口に合ったので、彼らはいつも作って飲んでいる」

- (354) phlòun chəxilà jə- bá [ rēθê ](v1+) [ mən̄ ](v2-)  
 カレン 文化 1sg (当為) 尊敬する 取る  
 「私はカレンの文化を敬ってかつ身につけねばならない」(IV-06.25)

- (355) cəθéinlá khô dō mà wê lə- bá lən nān mēin |  
 (人名) (対比) (別個) する (強意) (否) 正しい もはや (少数) ~ 種類  
 [ ʔánjā ](v1+) [ lə ](v2+) wê plètò lā jə  
 謝罪する 言う (強意) 許す (願望) 1SG  
 「チョーテインラーはというと、もはや何も言えなくなって、『私を許してくれ』と謝って言った」(V-01.87)

● 連結型、「他動詞 + 自動詞」の例

- (356) chəlá θānwò nó dō ʔè mwē ʔəwē ʔè dá klà nó |  
 先生 カッコウ (題) (別個) (条件) (繋) 3se (条件) 会う カラス (題)  
 ʔánkèin θixwè lə- ʔəwē [ bjān ](v1+) [ blá ](v2-) thúpəyú  
 頼む 薬の代金 (関) 3se 治す 治る フクロウ

nó klò lō

(のだ) いつも (断定)

「医者のカッコウは、もしカラスに会くと、フクロウを治してやった薬代を請求するのが常だった」(I-03.34)

- (357) ʔəwədə́ bá [yú] (v1+) [phà] (v2-) phí wê θānwò ʔədí nó  
3sg (当為) 暖める 生まれる (裨益) (強意) カッコウ 卵 (題)

khōnbònáinjò dàì chī lō

現在まで まだ (婉曲) (断定)

「彼(カラス)はカッコウの卵を、現在にいたるまで、かえしてやらねばならないのだ」(I-03.40)

- (358) mwē ʔədichân [khóuN] (v1+) [bàn] (v2-) θà ʔəlānklè  
(繫) ヘそ 掘る 埋まる (再帰) 場所

nó bá θijā ʔé

(のだ) (疑) 知る (否)

「ヘそが埋まる場所なのかもしれない(「ヘそが埋まる場所」はイディオムで、「一生住む場所」の意)」(V-04.50)

▷ 動詞連続 khóuN bàn は、全体として他動詞としての機能を果たすが、動詞助詞 θà の働きで、この動詞連続は自動詞化(かつ無意志動詞化)している。

- (359) [θàv] (v1+) [bàv thán] (v2-) thàin mókhô təmjan lə- khô  
動かす 近い (変化) (元位) タバコ入れ 驚くべき 一 ~個

nó lō

(のだ) (断定)

「その見事な出来映えのタバコ入れを近くに引き寄せた」(V-02.56)

- (360) báchâin dè chibòn ʔəpī θèlaphá nó | ʔəkhàjò  
関する (共) 民族 小さい物 (複) (前提) 現在

lə- chibòn ʔədú θèlaphá nóʔò [ʔánjũ] (v1+) [lānbài] (v2-)  
(場) 民族 大きい物 (複) (題) 飲み込む つぶれる

khwái wê chibòn ʔəpī θèlaphá nó ʔá wê jàv chī  
(徹底) (強意) 民族 小さい物 (複) (題) 多い (強意) (完) (婉曲)  
「小さな民族に関しては、現在、大きな民族が小さな民族を飲み込んでしまうということが多くなっている」(IV-01.7)

- (361) bá [ʔánlũ] (v1+) [xâin] (v2-) thàin nī θân θân dò lō  
(当為) 干す 乾く (再度) 二 三 日 (別個) (断定)  
「(魚醤を) ふたたび 2~3 日干して乾かさなければならない」(III-13.15)

- (362) thōN ʔə- [lò] (v1+) [ʔá] (v2-) chəkhlain nāN mēin ʔé  
~さえ 3sg 語る 多い 言葉 (少数) ~種類 (否)  
「彼は言葉を多く語ることさえしなかった」(IV-04.28)

- (363) dè ʔəθí pònɲâ nó [ khláu ](v1+) [ bái ](v2-) wê  
 (共) 3pl 知恵 (題) 覆う ふさがる (強意)  
 pəcháiphúchá ʔə- khónáu jò lō  
 農民 3sg 脳 この (断定)  
 「(知識人達は) 彼らの知恵で、農民の脳みそを覆い隠してしまおうとしているのだ」  
 (IV-09.15)

● 分離型、描写タイプの例

- (364) [ ʔó θú wê ](V1+) [ xè ](V2-) chī lō  
 いる (内密) (強意) 静かな (婉曲) (断定)  
 「静かに隠れていた」(V-04.196)
- (365) múθwíwò dè còʔúthú nī yà [ chīthóuN ](V1+) [ thōyòN ](V2-)  
 (人名) (列举) (人名) 二 ~人 立つ 平坦な  
 「ムートウイーウォーとチョーウートウの2人は、並んで立った」(V-04.246)
- (366) pə- təwân nó [ ʔó ](V1-) [ jàiN ](V2-) mā chī lō  
 1pl 村 (題) ある 遠い (非常) (婉曲) (断定)  
 「私たちの村は大変遠くにある」(I-sen.78)
- (367) thàθəwài nī khlóuN nó [ θəwài lóθà ](V1+)  
 磁石 二 ~本 (題) 吸う (相互)  
 [ bàuthá khwái wêdá ](V2-) chī lō  
 近い (徹底) (強意) (婉曲) (断定)  
 「2本の磁石は引き寄せあって近づいた」(III-01.42)
- (368) xīphàn [ ʔó ](V1+) yéin [ máu ](V2-) ləN ʔé  
 (人名) いる 家 快適な もはや (否)  
 「私(=ファイパウン)は家にいても楽しくありません」(IV-04.314)
- (369) θai nó bònáinjò [ tàin wê ](V1+)  
 酒 (題) 現在 作る (強意)  
 [ ʔánlè thán thàin θà ](V2-)  
 変える (完成) (再度) (再帰)  
 「酒の作り方は現在また変わってしまった」(IV-05.52)
- ▷ ʔánlè「変える」は他動詞かつ意志動詞であるが、動詞助詞 θà によって自動詞化かつ無意志動詞化されている。
- (370) jáijái lə- blàn phlòuN chəkhlaín nó  
 そのうち 一 ~回 カレン 言葉 (題)

[ khlàin wê ](V1+) [ lòn ](V2-) lòn ?é lô  
 話す (強意) まっすぐな もはや (否) (断定)  
 「そのうちカレン語も、きちんと話すことができなくなるだろう」(IV-06.18)

(371) mí [ khè thán ](V1-) [ dú ](V2-) mā  
 火 点く (完成) 大きい (非常)  
 「火がたいへん大きく燃えている」(IV-08.22)

(372) mwē yê pəjànkhān | hə- [ ?áNyá lān ](V1+)  
 (繫) 来る ビルマ国 1pl 迎える (内方)  
 lə- [ dàupàin ](V2-) ?əcón nó bā  
 (否) 十分な 理由 (のだ) (疑)  
 「(彼が) ビルマに来たときに、歓迎の仕方が十分じゃなかったせいですか?」(009.32)

(373) múp hówē ?əcá θí phō [ khánkhā ](V1+) lə- [ thəlôn ](V2-)  
 少女 人生 (類似) ~の間に 踏み出す (否) 過ぎる  
 dài bá | ?əcá mí tətáu lə- khè thán dài bá khā  
 まだ (否') 人生 火 厄災 (否) 点く (完成) まだ (否') 時  
 mə- bá ?ó dè θəθài lô  
 (非現) (当為) いる (共) 注意 (断定)  
 「少女の物である人生も、踏み出し方が度を過ぎないうちに、そして業火が燃えさ  
 からないうちに、気をつけねばならないのだ」(IV-08.23)

● 分離型、可能タイプの例

(374) báchâindè chèchá ?əyān nó  
 ~に関して 民族 ため (題)  
 [ thōuN θí θà ](V1+) [ bá bóuN ](V2-) kō yà dè  
 受ける 死ぬ (再帰) (当為) 勇気のある (毎) ~人 (毎')  
 「民族のためには、甘んじて死ぬ勇気がなければならない」(IV-01.96)

(375) thó bá lān lé khōuN phən nó ?án báθà ?əchá  
 鳥 (当為) 降りる (場) 腰掛け 中 (題) 食べる (欲求) えさ  
 cwá ?əkhúcòN | [ chōnmón wê ](V1+) ?əyūyà lə- [ bá ](V2-) lən |  
 (非常) (理由) 考える (強意) 他のこと (否) 正しい もはや  
 chōN lān ?án wē nó | [ jū thán ](V1+)  
 とまる (下方) 食べる (強意) (前提) 飛ぶ (上方)  
 lə- [ θí ](V2-) lən bá ...  
 (否) できる もはや (否')  
 「腰掛けの上に降りた鳥が、非常にえさを食べたくて、他のことを正しく考えること  
 ができず、とまって食べていたところ、飛び上がることができなくなってしまう...」  
 (V-01.56)

- (376) nò      nɔ́      nə-    [ lɛ́ ](V1+)    nə-    mâ    [ θɪ́ ](V2-)    bádon  
 2SG (題) 2sg    あやす            2sg    妻        できる        ~のようだ  
 「あなたは、奥さんをなだめるのが上手なようだ」(009.47)





## 第18章 動詞助詞

動詞の直前や直後に付く助詞を動詞助詞(verb particle)と呼ぶ。動詞助詞には実に様々なものがあり、これまでに60個以上が見つかった。第16章で述べたとおり、動詞と動詞助詞からなる部分を動詞複合体と呼ぶ。

動詞助詞はポー・カレン語の助詞の中でも特に重要である。なぜなら動詞助詞は、節の中核部分とも言える動詞複合体の性質を、動詞と一緒にあって決定するからである。例えば、一部の動詞助詞には、動詞複合体が取ることでできる項の数を増やしたり減らしたりする機能がある。このように重要な助詞であるので、以下の記述では助詞が使われた実例をなるべく多くしてある。以下、18.1から18.11までが動詞の前に置かれるもの、18.12から18.61までが動詞の後に置かれるものである。

なお、動詞助詞の中には動詞に起源を持つものがかなりある。それらは元の動詞とは多少なれ少なかれ意味が異なっている。また、元の動詞とは異なる発音で発音できるものも少なくない。

### I. 動詞の前に置かれるもの

まず、動詞の前に置かれる動詞助詞を見ていく。

#### 18.1 mə- <非現実>

非現実法(irrealis modality)を表す助詞である。常に動詞複合体の先頭に置かれる。məあるいはm̄と発音されることもある。歴史的に古い発音を残しているのはm̄である。というのは、この助詞は西部ポー・カレン語のm̄やスゴー・カレン語のm̄と同源だと考えられるからである。また、19世紀半ばに出版されたポー・カレン語の聖書(キリスト教ポー・カレン文字による)では、この形式が現在の発音でm̄と読まれる綴りで書かれているからである。西部ポー・カレン語のm̄とスゴー・カレン語のm̄は、どちらの形式も「～したい」という意味を表す。このことから、東部ポー・カレン語のm̄も元来は「～したい」という意味を表していたと考えられる。

ポー・カレン語は、ある事象が現実のものかどうかという判断に関して敏感に反応する。それをmə-の有無で表す。下の(a)と(b)を見ていただきたい。

- (1) a. m̄yá ʔəwê thównlī  
昨日 3se 踊る  
「昨日、彼は踊った」

- b. mùyá ʔəwê mə- thóʊnlī  
 昨日 3se 踊る  
 「昨日、彼は踊っただろう」

mə- のない (a) は、話者が「昨日、彼が踊った」ということについて確信を持っているときに使われる文である。一方、動詞助詞 mə- を伴った (b) は、「昨日、彼が踊った」ということについて確信を持っていないときに使われる文である。このように、ポー・カレン語は、事象が現実のものであると話者が判断できるかできないかを、動詞の前に置かれる動詞助詞 mə- の有無で表す。mə- があるかないかはまさに認識的法 (epistemic modality) に関わっている。そこで、mə- の現れない動詞複合体は現実法 (realis modality) を表し、mə- の現れた動詞複合体は非現実法 (irrealis modality) を表すと考える。

主節において mə- が使われないとき、その節が言及できる事象は次のとおりである。

- 発話時点より前 (すなわち過去) に生じたすべての事象。
- 発話時点において存在している事象。具体的には、発話時点においてまさに継続中の動作や状態と、発話時点にまたがって習慣的・反復的に生起する動作や状態変化。

つまり mə- の現れていない主節は、発話時点より後 (未来) の事象に言及することができない。したがって、次の (d) は不適格である。

- (2) a. mùyá ʔəwê thóʊnlī  
 昨日 3se 踊る  
 「昨日、彼は踊った」
- b. ʔəkhájò ʔəwê thóʊnlī  
 今 3se 踊る  
 「今、彼は踊っている」
- c. ʔəwê thóʊnlī kò nì dè  
 3se 踊る (毎) ~ 日 (毎)  
 「彼は毎日踊っている」
- d. \*kèkhó ʔəwê thóʊnlī  
 明日 3se 踊る  
 (明日、彼は踊る)

一方、mə- の現れた主節は、過去・現在・未来すべての時点の事象に言及することができる。

- (3) a. mùyá ʔəwê mə- thóʊnlī  
 昨日 3se 踊る  
 「昨日、彼は踊っただろう」
- b. ʔəkhájò ʔəwê mə- thóʊnlī  
 今 3se 踊る  
 「今、彼は踊っているだろう」

c. ʔǝwê mǝ- thǝwnlī kò nì dè  
 3se 踊る (毎) ~日 (毎)  
 「彼は毎日踊っているだろう」

d. kèkhó ʔǝwê mǝ- thǝwnlī  
 明日 3se 踊る  
 「明日、彼は踊るだろう」

以上を図示すると次の通りである。

mǝ- の有無による主節が表すことのできる事象の違い

	発話時点より前	発話時点	発話時点より後
mǝ- のない主節 (realis)	yes	yes	no
mǝ- のある主節 (irrealis)	yes	yes	yes

ただし、発話時点が基準として関わるのは、主節の場合のみである。従属節の場合、mǝ- が付くかどうかは、主節の事象が生起する時点を基準として決定される。次の例を見られたい。

(4) pè jáu mǝ- thô òò |  
 (目的) 年齢 長い (目的)  
 ʔǝwê mǝbóun  
 3se お布施する  
 「長生きするよう、彼はお布施した」

この文の従属節に mǝ- が現れているのは、「長生きする」という事象が発話時点以降に生じるからではなく、これが主節が表す事象よりも後で生じるからである。「彼」は発話時点で既に死んでしまっていると仮定しよう。その場合、従属節が表す事象は、発話時点以降に生じる可能性がゼロである。したがって、ここで従属節の動詞に mǝ- が付いているのは、発話時点以降に生じる事象だからではなく、主節の動詞が表す事象よりも後に生じる事象だからである。従属節における mǝ- の選択は、このように、主節との時間的相対関係によって決まる。従属節の事象が主節の事象より後に生じるものであれば、必ず mǝ- を従属節の動詞の前に付けなければならない。次に挙げる例も同様であり、従属節が表す事象は主節の事象より後に生じる事象なので、たとえ発話時点より前に生じた事象であったとしても、従属節の動詞には mǝ- を付けなければならない。

(5) jǝ- thǝjà [C ʔǝwê mǝ- yê òǝn nǝrì]  
 1sg 予測する 3se 来る 三 ~時  
 「私は、彼が3時に来ると予測した」(002.909)

(6) jǝ- chǝnmón [C nǝ- mǝ- yê cáin dàì]  
 1sg 考える 2sg 来る 遊ぶ また  
 「私は、あなたがまた遊びに来るものと思っていた」(008.9)

- (7) lé [ mə- ʔán ] ʔəyāN chəthəwɪnchəbòN  
 (強調) 食べる ため 植物  
 dè [ mə- kòNθò ] ʔəyāN chəthəwɪnchəbòN θi nɔ́  
 (列挙) 着る ため 植物 (複) (題)  
 ʔəθiwê θəwɪN ʔá thán  
 3se 植える 多い (変化)  
 θəwɪN lē thán wê dài chī lō  
 植える 広い (変化) (強意) まだ (婉曲) (断定)  
 「食べるための植物や衣料を作るための植物を、彼らは植えては増やしていったのである」(II-04.16)

ところで、mə- が決して現れない環境がある。それは、(1) 否定を表す助詞 ʔé, lə- が使われた節、(2) 使役構文における補文、(3) 条件や仮定を表す助詞 ʔè に導かれた節、である。これらの環境では現実法しか現れない。つまり、mə- が現れない。以下に例を見る。まず、否定を表す助詞が現れた節を見てみよう<sup>1</sup>。(8) と (9) は、それぞれ、否定の助詞 ʔé および lə- が現れた例である。なお、ʔé については第 24 章、lə- については次節を参照されたい。

- (8) kèkhó jə- lì ʔé  
 明日 1sg 行く (否)  
 「私は明日行かない」  
 (9) kèkhó jə- lə- lì bá ʔəkhócòN |  
 明日 1sg (否) 行く (否') (理由)  
 lì khè phí jə xō  
 行く (代行) (裨益) 1SG XO  
 「明日、私は行かないので、代わりに行ってくれ」

これらの文は、mə- を用いると次のように不適格になる。

<sup>1</sup>隣接する言語であるビルマ語にも、これと類似の現象が観察される。肯定文においては現実法 (realis mood) と非現実法 (irrealis mood) の対立が見られるが、否定文においてはこの対立が中和してしまう。次の例文で、dè は現実法を表す助詞、mè は非現実法を表す助詞である。

- (a) ɲà mənégá θwá dè  
 1sg 昨日 行く (現実法)  
 「俺は昨日行った」  
 (b) ɲà mənəʔphàn θwá mè  
 1sg 明日 行く (非現実法)  
 「俺は明日行く」  
 (c) ɲà mənégá mǎ θwá bú  
 1sg 昨日 (否) 行く (否')  
 「俺は昨日行かなかった」  
 (d) ɲà mənəʔphàn mǎ θwá bú  
 1sg 明日 (否) 行く (否')  
 「俺は明日行かない」

Honda (1996) によれば、否定文における動詞にまつわる文法的範疇の対立は、通言語的に、対応する肯定文より少ない傾向があるという。

- (10) \*kèkhó jə- mə- lì ?é  
 明日 1sg 行く (否)
- (11) \*kèkhó jə- mə- lə- lì bá ?əkhúcòN |  
 明日 1sg (否) 行く (否') (理由)
- lì khè phí jə xō  
 行く (代行) (裨益) 1SG XO

▷ もちろんこの文は mə- と lə- の位置を替えて lə- mə- lì bá としても不適格である。

次に、補文を取る使役構文である (第 28 章で TYPE 2 と呼んでいるもの)。下の例を見られたい。なお、補文を取る使役構文の詳細については、第 22 章および第 28 章を参照せよ。

- (12) jə- ?ánmâN [C ?əwê lì kèkhó ]  
 1sg 命じる 3se 行く 明日  
 「私は彼に明日行くよう命じた」

この文の補文の動詞には、mə- を付けることができない。

- (13) \*jə- ?ánmâN ?əwê mə- lì kèkhó  
 1sg 命じる 3sg 行く 明日

最後に、条件や仮定を表す従属節助詞 ?è が導く節の例である。この助詞については、第 21 章を参照されたい。

- (14) jə- ?è yê | nə- mə- ?ó Ɂâ  
 1sg (条件) 来る 2sg (非現) いる (疑)  
 「私が行ったら、あなたはいますか?」(002.93)

ここでも同様に、?è が導く節の中で mə- を用いることはできない<sup>2</sup>。

- (15) \*jə- ?è mə- yê | nə- mə- ?ó Ɂâ  
 1sg (条件) 来る 2sg いる (疑)

## 18.2 lə- < 否定 (従属節)>

否定を表す。lə- も mə- と同様、常に動詞複合体の先頭に置かれる。主節の否定は、副助詞 ?é(第 24 章) を述部に置くことによって行われるが、従属節の場合は lə- を動詞の前に置く。lə- が現れると、次の (16) のように動詞の直後、あるいは (17) のように動詞句末に、lə- を補助する形式 bá が置かれることが多い。bá は wá と発音されることもある。この bá 自体には否定を明示するための機能しかない。

- (16) nə- ?è lə- lì bá cəpâN nó | jə- mə- lì  
 2sg (条件) 行く 日本 (題) 1sg (非現) 行く  
 「あなたが日本に行かないのなら、私が行く」(003.296)

<sup>2</sup>これは英語の条件節で助動詞 will が現れない現象と似ている。

- (17) nə- ʔè lə- lì cəpân bá nó | jə- mə- lì  
 2sg (条件) 行く 日本 (題) 1sg (非現) 行く  
 「あなたが日本に行かないのなら、私が行く」(003.297)

この bá は(18)のように動詞の直後と述語末の両方に現れることもある。また、(19)のようにまったく現れないこともある。

- (18) nə- ʔè lə- lì bá cəpân bá nó | jə- mə- lì  
 2sg (条件) 行く 日本 (題) 1sg (非現) 行く  
 「あなたが日本に行かないのなら、私が行く」(003.298)

- (19) nə- ʔè lə- lì cəpân nó | jə- mə- lì  
 2sg (条件) 行く 日本 (題) 1sg (非現) 行く  
 「あなたが日本に行かないのなら、私が行く」

以下に、様々な従属節に現れた lə- の例を示す。まず、副詞節の中に現れた例を挙げる。

- (20) jə- ʔó lə- chón bá ʔəkhúcòn |  
 1sg いる 元気な (理由)  
 jə- lì cōN ké ləN ʔé  
 1sg 行く 学校 可能な もはや (否)  
 「私は元気ではないので学校には行けない」(001.84)
- (21) ʔè lə- khlaʊ bá | thàin  
 (条件) 暇な 帰る  
 「暇ではないのなら帰りなさい」(001.351)
- (22) bê chəkhléin lə- bá nə wá θò | θətài  
 (目的) 寒さ ぶつかる 2SG (目的) 注意する  
 「風邪をひかないように気を付けて」(001.444)
- (23) lə- ʔán báθà lānāN θí | bá ʔán  
 食べる (欲求) (逆接) (類似) (当為) 食べる  
 「食べたなくとも、食べなければならない」(001.2082)
- (24) kə̀lā lə- ʔán mī dàì bá |  
 とき 食べる ご飯 まだ  
 θijà khwái wī nə- cú nó  
 洗う (徹底) (先行) 2sg 手 その  
 「ご飯を食べる前に手を洗いなさい」(001.3519)
- (25) ʔó | bê lə- θijā bá θò | xì  
 いる (目的) 知る (目的') (禁止)  
 「知らないふりをするな」(003.539)

次に、補文に lə- が現れた例を挙げる。

- (26) [C lə- dá bá ] jái mā jàu  
 会う 久しい (非常) (完)  
 「ずいぶん久しぶりです」(002.24)
- (27) [C lə- lə bá ] nó yì tháu lô  
 語る (題) 良い (最上) (断定)  
 「言わないのが一番良い」(003.474)
- (28) klà nó θjâ bá wê  
 烏 (題) 知る (不抗) (強意)  
 [C thópəyú ?ə- chəkhlaɪn lə- təlòN bá ] nó  
 梟 3sg 言葉 まっすぐな (のだ)  
 「烏は、梟の言葉が正直でないことを知った」(I-03.35)
- (29) jə- dá bá [C nə- cú nə- khaN  
 1sg 見える (不抗) 2sg 手 2sg 足  
 lə- ?ó bá ] jò | jə- kətò khè bá nè dè  
 ある (前提) 1sg 心配する (代行) (不抗) 2SG そして  
 jə- jânθà bá nè dómā lô  
 1sg 哀れむ (不抗) 2SG 大変 (断定)  
 「私はこのようにお前 (=蛇) の手足がないのを見て、お前に代わって心配だし、大  
 変かわいそうに思う」(II-11.9)
- (30) mwē [C hə- lə- dá thàin bá ] dàlô dùr  
 (繫) 1pl 会う (再度) (断定) DU  
 「たまたま会わなかっただけなんだよ」(001.3726)

最後に、関係節に lə- が現れている例を挙げる。

- (31) láipàuv [R lə- ká bá ]  
 本 難しい  
 「難しくない本」(002.561)
- (32) phlòuN [R lə- lì bá ] nó  
 人 行く その  
 「行かなかった人」(003.286)
- (33) chəkhlaɪn [R ?əθú?əjàin lə- dàupàin bá ]  
 言葉 味わい 満ち足りた  
 「味わいのない言葉」(001.19)

- (34) lé [R mí lə- ʔán dàì bá ] ʔəkhā jò  
 (場) 火 食べる まだ 時 この  
 cáin wè lā ʔèjàin chàì  
 出る (備え) (願望) 遠くに CHAI  
 「火事起きない今のうちに遠くへと逃げておきなさい」(II-11.10)

否定の仕方の点から見ると、分裂文の前提部は従属節と同じ扱いを受ける。例えば次の例を見ていただきたい。

- (35) ʔəwê ʔán ʔé  
 3se 食べる (否)  
 「彼は食べなかった」

この文を分裂文化して主語名詞句を焦点位置に持っていくと、次のようになる。

- (36) lə- ʔán bá nó ʔəwê lō  
 食べる (題) 3se (断定)  
 「食べなかったのは彼だ」

分裂文の前提部に lə- が現れている例を下に挙げる。

- (37) lə- yì bá nə- phú nə- lì lō  
 良い 2sg 子 2sg 孫 (断定)  
 「良くないのはお前の子や孫たちだ」(001.3761)

- (38) nə- lə- yê bá nó mwē báchənó lê  
 2sg 来る (題) (繫) なぜ (疑)  
 「お前が来なかったのはどうしてか」(002.116)

実は、lə- が主節に現れたように見える文がある。次の (39) に例を示すようなものである。

- (39) lə- kònjā bá  
 治る  
 「(病気が) 治らないのです」(003.705)

このような文を聞くと、後に何か言い残したことがあるように感じるという。おそらくこのような文を発した話者の頭の中には例えば次のような文が想定されているのだろう。

- (40) lə- kònjā bá | (jə- θà cáN)  
 治る 1sg 心 貧しい  
 「(病気が) 治らないので、気が滅入っているのだ」



( ) でくくった主節の部分は話者の想像にまかせ、そのことによって表現に憤み深さ (modesty) を持たせているのではないか。同様の例を下に挙げる。

- (41) lə- yê dài bá nó  
来る まだ (のだ)  
「(私の友人は) まだ来ていないんですよ」(001.2088)

- (42) lə- lánthé bá kəmlân phən bá m̄  
落ちる 井戸 中 ~ですよ  
「(運良く) 井戸に落ちなかったんですよ」(002.740)

- (43) lə- klò lóthà bá  
理解する (相互)  
「互いに理解していなかったのだよ」(003.466)

### 18.3 bá < 当為 >

当為を表す。「～しなければならない」。否定文で用いられると、不必要すなわち「～しなくてもよい」「～する必要はない」を表す場合と、禁止すなわち「～してはならない」を表す場合とがある。動詞 bá 「当たる; 正しい」に由来する。

- (44) nə- bá lì phúu jə  
2sg 行く 背負う 1SG  
「お前は私を背負って行かなければならない」(006.75)

- (45) kò yà dè bá káu təcā lô  
(毎) ~人 (毎) 努力する 本当に (断定)  
「皆、きちんと努力しなければならない」(014.7)

- (46) nə- mə- bá phılân chəkəlò lé thóthânwò ?ó nó lô  
2sg (非現) 与える 謝礼 (場) カッコウ ところ (のだ) (断定)  
「あなたはカッコウに謝礼を払わなければならない」(I-03.17)

- (47) ?əwədə bá θi khái mēin wē  
3se 死ぬ (徹底) (自然) (強意)  
lé ?ə- kù phən nó chī lô  
(場) 3sg 殻 中 (のだ) (婉曲) (断定)  
「彼 (= 亀) は、殻の中で死ななければならなかった」(II-11.18)

- (48) mí nó pə- bá pàthətài  
火 (題) 1pl 注意する  
「火には気を付けなければならない」(I-sen.12)

- (49) mōphā khô θí θà bá cáN |  
 父母 (対比) (類似) 心 貧しい  
 múphó khô θí bá yáN  
 娘 (対比) (類似) 泣く  
 「両親もみじめな思いをせねばならず、娘も泣かねばならないことになる」(IV-08.19)

- (50) plètò lóthà bá ké wê klò lō jābò  
 許す (相互) 可能な (強意) いつも (断定) JABO  
 「いつも互いに許せるようであればならない」(V-04.233)

- (51) nə- bá kətò ?é  
 2sg 心配する (否)  
 「お前は心配する必要はない」(IV-04.152)

- (52) nə- bá lònən thàin jè bē nó θò ?é  
 2sg 言い勝つ (返答) 1SG (比定) それ (比定') (否)  
 「そうやって悪口を言い返すべきじゃないわ」(001.3356)

- (53) [<sub>R</sub> bá kətò ] ?əlāN ?ó ?é  
 心配する 場所 ある (否)  
 「(私達は) 心配する必要がない」(III-15.12)

▷ bá V ?əlāN ?ó ?é は、文字通りには「～する必要がある場所がない」という意味であるが、  
 「～する必要がない」ということを表すときによく使われる慣用句である。

bá は次のように、「～するはずだ」という意味を表すこともある。

- (54) phlòun bá θijā jè nāN yà lê  
 人 知る 1SG (少数) ～人 (疑)  
 「他人が私のことを知っているはずがあろうか」(V-03.31)

英語の助動詞 must のように、様々な言語で、義務的法 (deontic modality) を表す形式が  
 認識的法 (epistemic modality) を表す用法を持つ。カレン語の bá のこの用法もその一例  
 である。

## 18.4 dà <使役>

「間接的な」使役を表す。dàv, dài とも発音される。この助詞の振る舞いの詳細につい  
 ては、第 28 章を見ていただきたい。ここでは例文だけを示すことにする。

- (55) xíphāN ?ánphôn dàu ?án khwái θàucà mì yòN ...  
 (人名) 炊く 食べる (徹底) (人名) ご飯 (継起)  
 「ファイパウンは、タウチャーにご飯を炊いて食べさせた後…」(IV-04.3210)

- (56) ləphəŋjò màncə̀θàbjò ʔē yē | **dəu** ʔò θàì ləxi  
 今度 (人名) (条件) 来る 飲む 酒 (禁止)  
 「今度タービョーおじさんが来たら、酒を飲ませるな」(V-03.23)
- (57) jə- mà **dəu** ʔán bá nə θən yìyìbábá  
 1sg 妻 食べる (不抗) 2SG おかず 上等のもの  
 「私の妻が上等なおかずをあなたに食べさせてあげることができた」(011.21)
- (58) chə- [R búì lán] wə̀béin pənā θí nó  
 CHə 飼う (下方) 牛 水牛 (複) (題)  
 bá **dəu** ʔán wē dè thilá nó klə̀ lə  
 (当為) 食べる (強意) (共) 塩 (題) いつも (断定)  
 「牛や水牛を飼っている人はいつも(家畜に)塩を食べさせなければならない」(II-03.9)
- (59) **dəu** jū wē cə̀phə̀ʔwà lé phlə̀θánā ʔə- khàinthò nó lə  
 見る (強意) (人名) (強調) ゴキブリ 3sg しっぽ (のだ) (断定)  
 「(彼は) チョーパワーにゴキブリのしっぽを見させた」(II-06.16)
- (60) jə- phī **dəu** ʔò ʔə- lì dè bínūthī  
 1sg 祖母 飲む 3sg 孫 (共) ヤギの乳  
 「私の祖母は孫にヤギの乳を飲ませている」(I-sen.6)
- (61) lé pə- chē phānkhó  
 (場) 1pl 民族 上  
 θàucà lə- phlóun nó **dəu** yà̀yòn ʔé  
 忠誠 — ～個 (題) 壊れる (禁止)  
 「私達の民族に対して、忠誠を尽くさぬ(直訳=壊す)などということはない」(IV-01.100)

## 18.5 mà < 使役 >

「直接的な」使役を表す。この助詞の振る舞いの詳細については、第 28 章を見ていただきたい。ここでは例文だけを示すことにする。

- (62) jə- mà thé phlì  
 1sg 切れる 糸  
 「私は糸を切った」(001.2491)
- (63) jə- mà lə̀njwà láìʔàv  
 1sg 流れる 本  
 「私は本を(川に)流した」(003.867)

- (64) bēin mà yì pè θi nàN mèin ?é  
 麻薬 良い 1PL ~する習慣の (少数) ~種類 (否)  
 「麻薬は私達を良くする性質をまったく持たない」(I-sen.94)
- (65) hə- bá mà pràN chēinphlî khwái wêdâ nó lô  
 1pl (当為) きれいな 清潔な (徹底) (強意) (のだ) (断定)  
 「私達はきれいに掃除をしなければならない」(II-12.16)
- (66) mà θi phô?wâ jò mwē jə lô  
 死ぬ (人名) (題) (繫) 1SG (断定)  
 「このパワーを殺したのは私なのだ」(V-01.96)
- (67) ?è mwē pə- mà khō thán  
 (条件) (繫) 1pl 熱い (変化)  
 dè mí bjàbjà nó càibò ...  
 (共) 火 穏やかな (のだ) (条件')  
 「(水を) 穏やかな火で暖めると...」(II-09.2)
- (68) cò ?án khwái wê bú xā lé  
 つつく 食べる (徹底) (強意) 米 虫 (関)  
 [R mà yà?òn bú ] θiləphá nó lô  
 壊れる 米 (複) (のだ) (断定)  
 「(鳥は) 米をだめにする害虫をつついて食べてしまう」(II-01.15)
- (69) mí khè thán dú má |  
 火 点く (完成) 大きい ~してはじめて  
 mə- mà lànphái thàin nó jô ləN ?é lô  
 (非現) 消える (再度) (題) 易しい もはや (否) (断定)  
 「火が点いてしまってから消すのは容易ではない」(IV-08.22)

## 18.6 phîlân < 使役 >

裨益的な使役を表す。phîlân と発音される。動詞 phîlân 「与える」に由来する。この助詞の振る舞いの詳細については、第 28 章を見ていただきたい。ここでは例文だけを示すことにする。

- (70) jə- mə- phîlân θijâ nè  
 1sg (非現) 知る 2SG  
 「あなたに知らせてあげます」(003.458)
- (71) phîlân lì jə bálê  
 行く 1SG なぜ  
 「私を行かせてくれませんか」(004.3)

## 18.7 kò &lt; 使役 &gt;

呼び寄せあるいは呼びかけによる使役を表す。動詞 kò 「呼ぶ、連れていく」に由来する。この助詞の振る舞いの詳細については、第 28 章を見ていただきたい。ここでは例文だけを示すことにする。

- (72) cəxwà ʔəníròundá nó thàin kò pjá wê θānkhəmi θənthôn  
 王 (人名) (題) 帰る 付き従う (強意) 僧侶 三千  
 də dounphú khəmlən cúθíkhánmə ʔəyà θənlà nó lə  
 (列挙) 市民 民衆 技術 ~人 三万 (のだ) (断定)  
 「アノーヤター王は、僧侶三千人と、技術者三万人を付き添わせて帰ったのだった」  
 (III-08.14)

## 18.8 lə &lt; 使役 &gt;

この助詞も使役を表す。話しかけた相手に何らかの状況を引き起こすことを表す。動詞 lə 「語る」に由来する。この助詞の振る舞いの詳細については、第 28 章を見ていただきたい。ここでは例文だけを示すことにする。

- (73) ʔaiθai lə yən cəxwà  
 修験者 聞こえる 王  
 「修験者は王に語って聞かせた」(III-04.23)

## 18.9 yê &lt; 漸次的変化 &gt;

状態動詞に付き、変化が漸次的に起きることを表す。動詞 yê 「来る」に由来する。下に挙げる例では、すべて、動詞助詞 thán (動詞の後に置かれて変化を表す) が共起している。変化だけを表すのなら、この thán だけで十分である。yê は、その変化がゆっくりと生じることを表している。

- (74) jə θi ʔəkhəjə lə- nì də lə- nì  
 1SG (類似) 今 ー ~日 (列挙) ー ~日  
 yê máin thán | nī pəu lə- phlóon jəu  
 太る (変化) 得る 米籠 1 ~個 (完)  
 「私も、最近日に日に太ってきて、米籠一つ分腹が出てしまった」(016.14)
- (75) thilá jə chəʔánchəʔə ʔəljə  
 塩 この 食べ物 味  
 yê ʔə thán θi kà dài ʔé  
 ある (変化) (類似) 限る まだ (否)  
 「塩 (の効用) は、食べ物の味が出てくるということだけではない」(II-03.5)

- (76) θóuN ʔán θóuN ʔò chò  
植える 食べる 植える 飲む CHə  
yê ké thán lé ʔəkhánthài ʔəyāin  
成る (完成) (場) 始まり 事柄  
「食用植物の栽培が確立していったことについて」(II-04.1)

- (77) yê mé thán θá thán thàin wêdá lô  
芽生える (完成) 実る (完成) (追加) (強意) (断定)  
「(育てた植物が) 芽生えて実をつけるようになってきた」(II-04.6)

- (78) chəθíchəbá θí yê ʔá thán yòN |  
知識 (類似) 多い (変化) (継起)  
mənī chəxíchəlà θí yê dúcā thán wêdá chī lô  
人間 文化 (類似) 豊かな (変化) (強意) (婉曲) (断定)  
「知識も増えてきて、人間の文化も豊かになっていった」(II-04.20)

## 18.10 lòN < 無分別 >

動作動詞に付き、分別なく動作を行うことを表す。「やたらと～する」「むやみに～する」。動詞 lòN「追う」に由来する。

- (79) ʔə- mâ θí ʔəwê lòN lò pjáu dáiN  
3sg 妻 (類似) 3se 語る (専念) (追加)  
thōN ʔə- yéinthàixānthài dèklè chī lô  
(場) 3sg 近所 全部 (婉曲) (断定)  
「彼の妻ときたら、(その噂を) 近所中に話してまわった」(006.45)
- (80) ʔəwê lòN ʔáncà nótā ...  
3sg 尋ねる (前提)  
「彼はやたらと聞きまくって...」(006.49)

## 18.11 ʔáNyú < 違法、反道德 >

動詞の表す動作が法や道德的規範に反していることを表す。動詞 ʔáNyú「盗む」に由来する。18.21 で見る動詞助詞の yú と意味が類似する。

- (81) nə- mwē phlòuN pəjàn khāN  
2sg (繋) 人 ビルマ 国  
[<sub>R</sub> ʔáNyú náu làn θāin khāN phèn] lə- yà  
入る (内方) タイ 国 中 ー ～人  
「お前はタイに不法に入ってきたビルマ人だ」(IV-07.10)

この ʔáɴyú は、ビルマ語の khó-「盗む」を用いた動詞連続を思い出させる。例えば、/khó sá dè/(盗む-食べる-現実法)「こっそり食べる」。ひょっとすると、ビルマ語の影響で、最近になって生じてきたのかもしれない。後述する yú と意味があまり変わらないこと、そして ʔáɴyú を「違法」の意味で使うことに違和感を感じる話者がいるということがその根拠である。

## II. 動詞の後に置かれるもの

これより以降は動詞に後置される動詞助詞である。

### 18.12 thán

動詞 thán 「のぼる」「あがる」に由来する。lán あるいは bán と発音される。動詞助詞 thán の用法は、その表す意味により、次のように分類することができる。

#### 18.12.1 thán(1) < 上方 >

動作や移動が上方向に向かうことを示す。

- (82) thwí cā nó lò cò thán wê lái  
 犬 老いた (題) 語る (遠隔) (強意) とんび  
 「老いた犬はとんびに向かって語った」(I-01.6)

▷ 「とんび」は木の枝にとまっていて、犬はそれを見上げて話している。

- (83) ʔəwê thó wà thán ʔə- nākùr nó lô  
 3se 揺らす 揺れる 3sg 耳 (のだ) (断定)  
 「彼(犬)は耳を揺らした」(I-01.25)

▷ 耳を上に向かって揺らしたということ。

- (84) khà thán wê dè khíchānphloun nó lô  
 撃つ (強意) (共) 弓 (のだ) (断定)  
 「弓で(矢を)上に向かって放った」(I-03.4)

- (85) ʔómūlənì ʔəθíwê thānθó nī dù  
 ある日 3pl 友人同士 二 ~ 匹  
 lì thán wê lé khólòn dàndí ʔò yòn...  
 行く (強意) (場) 山 頂上 (遠方) (継起)  
 「ある日彼ら二人の友達は山の頂上に登って…」(I-04.4)

- (86) təphúwē nī yà tháu thán khli yòn ...  
兄弟 二 ～人 乗る 舟 (継起)  
「姉と弟の二人は舟に乗って…」 (I-06.25)
- (87) chərā phón thán wē thàθəwàikhlóun nó yòn ...  
先生 つかむ (強意) 磁石 (のだ) (継起)  
「先生は磁石をつかみあげると…」 (III-01.23)
- (88) lì thán wē lé yéin phèn nó lô  
行く (強意) (場) 家 中 (のだ) (断定)  
「家の中へ上がっていった」 (V-01.76)
- (89) ʔəchá lə- blè bá ʔəkhúcòn |  
食べ物 (否) 砕ける (否') (理由)  
mə- khəʔə thán ...  
(非現) げっぷする  
「食べ物が消化できないのでげっぷが出てくる」 (II-08.24)
- (90) phón nī jù cəxwà mákútá yòn |  
捕える 得る モン人 王 (人名) (継起)  
thàin nī thán wē lé dòun pəkàn ʔò lô  
帰る (引寄) (強意) (場) 町 (地名) (遠方) (断定)  
「(アノヤーター王は) モン人の王マヌーハーを捕まえて、パガンへと連れて帰った」  
(III-08.12)

▷ この例では、かつてモン族の王朝のあったタトンからビルマ族の王朝のあったパガンへの北向きの移動を上昇と捉えている。これは、北部の標高が南部よりも高いことと関係があると思われる。この 700km から 800km におよぶ行程は比較的平坦であるが、北の標高が相対的に高いことは、イラワジ川等の川が北から南へと流れていることなどから実感できる。

## 18.12.2 thán(2) < 状態の変化 >

状態動詞に付いて、その動詞が表す状態の程度が甚だしくなることを表す。この場合の thán には、状態動詞を動態動詞に変換する働きがある。

状態の変化を表す動詞助詞にはもう一つ、18.13.2 に述べる làn がある。状態の変化を表すときに thán と làn のどちらが付くかは状態動詞によって決まっている。現在、分かっているものを見ておく。まず、thán が付く状態動詞を挙げる:

mèn 「酔った」, mēin 「熟した」, ʔwí 「おいしい」, chên 「甘い」, yân 「塩辛い」, yé 「辛い」, khá 「苦い」, cháin 「酸っぱい」, ʔú 「腐った」, bón 「太った」, châ 「痛い」, θà 「かゆい」, kwí 「くすぐったい」, cā 「老いた」, phlé 「速い」, phàn 「明るい」, khū 「暑い、熱い」, khwàn 「丸い」, cù 「尖った」, dó 「大きい」, thô 「長い、高い」, yì 「良い」, yò 「赤い」, lâ 「青い」, ʔwà 「白い」, θên 「黒い」, nòn 「固い」, bàu 「近い」, jàin 「遠い」, lē 「広い」, ʔá 「多い」, dúcā 「豊かな」



次に、làn が付く状態動詞を挙げる:

xwē 「痩せた」, bān 「若い」, ?wì 「のろい」, khài 「暗い」, khléin 「寒い、冷たい」、pî 「小さい」、phí 「低い、短い」、?ən 「悪い」、pháu 「柔らかい」、?éin 「狭い」、cà 「少ない」、pwài 「疲れた」、cán 「貧しい」

?á 「多い」には thán が付き、cà 「少ない」には làn が付くことにも現れているとおり、何かが増加する場合には thán が付き、何かが減少する場合には làn が付くという傾向があるようである。しかし、thán が bàu 「近い」と jàiin 「遠い」のどちらにも付くことから分かるように、これによってすべてを説明することはできない。この問題については今後の課題としたい<sup>3</sup>。

下に、状態の変化を表す thán の実例を挙げる。

- (91) bē chəthəuŋchəbòn dè chəθúichəθá  
(目的) 木 (列挙) 果物  
mə- yì thán mə- ?á thán θò ...  
(非現) 良い (非現) 多い (目的)  
「(栽培している) 木や果物が良くなるように、そして多くなるように...」(II-04.23)
- (92) kəlōuŋkəmə ?á thán chī bá  
仕事 多い (婉曲) (疑)  
「仕事が増えてきたのですか？」(011.8)
- (93) ?əkhəjò phlòuŋ thikhān mūmì līchīlī blān θí  
今 カレン 国 日 四十四 ~ 回 (類似)  
bàu thán jàu  
近い (完)  
「そろそろ第 44 回カレン州記念日も近づいてきました」(011.10)
- (94) mənəmúnnàn θí lə- néin dè lə- néin  
姪 (類似) 一年 (列挙) 一年  
dú thán chī bádòn  
大きい (婉曲) たぶん  
「お嬢さんも、年ごとに大きくなっているのでしょう」(011.25)
- (95) pə- ?è dòn khō thán thī nó |  
1pl (条件) 沸かす 熱い 水 (前提)  
mə- ké thán wē ?əkhú?ə?wì lô  
(非現) 成る (完成) (強意) 水蒸気 (断定)  
「水を沸かすと水蒸気になるだろう」(I-02.9)

<sup>3</sup> スゴー・カレン語の対応する「助動詞」thō と lō がどのような動詞に付くかについては、加藤 (1993) に簡単な記述がある。

▷ 2 番目の *thán* は「完成」を表す。

- (96) ʔəwədə ʔə- phú θiləphá θawī **thán** ʔəchá nó ʔəkhúcòn ...  
 3se 3sg 子供 (複) 食べたい 餌 (のだ) (理由)  
 「彼女(鳥)の子供達も餌が食べなくなってきたので...」(II-02.17)

- (97) pə- thikhān bê mə- dúcā **thán** ləjā θò |  
 1pl 国 (目的) (非現) 発展した 将来 (目的')  
 kləcə tàin yì jū yì lā kò yà dè chàì  
 努力する 作る 良い 見る 良い (願望) (毎) ~人 (毎') CHAI  
 「私達の国が将来発展するように努力して良くして行ってください」(II-07.21)

- (98) ʔəwədə ʔə- θà cā **thán**  
 3se 3sg 年齢 老いた  
 「彼は年老いた。そして...」(II-14.2)

- (99) lānānθí lé chə- phān **thán** lə- khô ...  
 しかし (場) CHə 明るい — ~面  
 「しかし、(明け方)明るくなってきたときに」(II-02.15)

### 18.12.3 *thán*(3) <外方向への移動>

移動する物体が囲まれた空間の中から外へ移動することを表す。

- (100) thàin náu làn dàu phèn |  
 帰る 入る (内方) 部屋 中  
 yê **thán** dàuné wê ʔə- chāinbákə̀n nó lô  
 来る 見せる (強意) 3sg 最良のカレン服 (のだ) (断定)  
 「(祖母は)部屋の中に戻ってゆき、(再び)出てきて最良のカレン服を見せてくれた」  
 (V-02.116)

▷ この例は *làn* との対比が面白い。部屋の中への移動は次節で述べる *làn*(下がる)で示され、部屋の外への移動は *thán* で示されている。

- (101) thwímèinlá nó cáin **thán** tài **thán** wê  
 山犬 (題) 歩く 出る (強意)  
 ləkhôn jò θí làn ʔé  
 外 (近傍) できる もはや (否)  
 「山犬は(象の死体の中から)外へ出ることができなくなってしまった」(I-09.23)

- (102) mənái θiləphá tài **thán** ʔá wədə chī lô  
 宝石 (複) 出る 多い (強意) (婉曲) (断定)  
 「宝石がたくさん出るのである」(II-07.15)

- (103) ʔəwê cáin **thán** lé chəkhloʊn jəʊ  
 3sg 歩く (場) 外 (完)  
 「彼は外に歩いて出ていってしまった」(001.977)

- (104) pə- thòn **thán** lé khānməpā jəʊ  
 1pl 着く (場) 外国 (完)  
 「私達は外国に出て来ている」(IV-03.4)

下の例は抽象的である。誹謗中傷を受ける立場や親に守られる立場を「囲まれた空間」として捉えている。

- (105) bê cháiphúchá jò mə- phònphlè **thán** lé  
 (目的) 農民 この (非現) 開放される (場)  
 chəkhlaín càiθəri lànphí lə- phlóʊn nó θò ...  
 言葉 品位 低い 一 ～個 (のだ) (目的)  
 「農民が自分たちへの誹謗中傷からのがれるためには…」(IV-09.7)

- (106) cáinǵá **thán** dè mōphā wílá |  
 離れる (共) 父母 庇護  
 cáinkhlā **thán** dè mō dè phā làcú  
 歩む (共) 母 (列挙) 父 影  
 「父母の庇護から離れ、母や父の影から歩み出す」(IV-03.3)

この用法に含めてよいと考えられるものに、「音」が外に向けて発散することを表す次のような例がある。

- (107) ʔəwədə yánkò **thán** ʔàʔàʔà yòʊn ...  
 3se 泣く (擬音語) (継起)  
 「彼(赤ちゃん)はワンワン泣いて…」(I-01.28)

- (108) ʔè mwē cəxwà thókò dú **thán** mòn phədú nótā ...  
 (条件) (繫) 王 サイチョウ 打つ 鉦 大きな (前提)  
 「もし王であるサイチョウが鉦を打ち鳴らすと…」(II-02.15)

- (109) ʔè dèin **thán** nó |  
 (条件) 弾く (前提)  
 hə- chónná máʊ wē kò yà dè lō  
 1pl 聞く 心地よい (強意) (毎) ～人 (毎') (断定)  
 「(カレンの竖琴を)弾くと、誰もが聞いて心地よい」(III-09.2)

- (110) θwíwò nó nī **thán** wē háhàhá  
 (人名) (題) 笑う (強意) (擬音語)  
 「トゥイーウォーはハハハと笑った」(IV-04.300)

- (111) ʔəwê ʔáncà **thán** chəchá ʔəyāinʔəcón  
 3se 尋ねる 病気 事柄  
 「彼は病気のことについて(思い切って)尋ねた」(I-03.23)

#### 18.12.4 thán(4) <完成>

事象の末端への到達を表す。

- (112) mə- ké **thán** wê ʔəkhúʔəwì lō  
 (非現) 成る (強意) 水蒸気 (断定)  
 「(湯を沸かすと、水が)水蒸気になるだろう」(I-02.9)
- (113) hə- thīkhān phən jò ʔəkhājò  
 1pl 国 中 この 今  
 ʔánlè **thán** θà kò mēin dè chī lō  
 変える (再帰) (毎) ~種類 (毎') (婉曲) (断定)  
 私達の国では今、何もかもが変わりきってしまっています」(014.12)
- (114) thīláyān nó phī **thán** khwái yòn ...  
 塩 (題) 溶ける (徹底) (継起)  
 「塩は水に溶けきって...」(I-02.11)
- (115) klāin **thán** wê ʔə- xé ʔáinʔáinlé nó lō  
 研ぐ (強意) 3sg 刀 鋭く (のだ) (断定)  
 「(彼は)自分の刀を鋭く研ぎあげた」(II-02.27)
- (116) tain **thán** chən wê thīkəmlən θí dè cé nó yòn ...  
 作る (皆) (強意) 井戸 (複) (共) 機械 (のだ) (継起)  
 「皆で機会を使って井戸を作り上げて...」(II-04.26)
- (117) ʔəchônʔəthō pāin **thán** θān néin nó yòn ...  
 時間 満ちる 三 年 (のだ) (継起)  
 「(そうしているうち)3年の時間が経って...」(II-14.8)
- (118) thàθəwàikhloŋ ʔəθàklà nó cən **thán** wê  
 磁石 真ん中 (題) 縛る (強意)  
 dè phī lə- bōn nó lō  
 (共) 紐 一 ~本 (のだ) (断定)  
 「磁石の真ん中を紐で縛りあげた」(III-01.21)
- (119) lé màukhú nó thīkhólón pəkòŋ **thán** θà ʔèʔá tā ...  
 (場) 空 (題) 氷 集める (再帰) たくさん (前提)  
 「空に氷の粒がたくさん集まると...」(III-05.4)

- (120) búθân nó ʔánphôn thán wê mì yòn ...  
 新米 (題) 炊く (強意) ご飯 (継起) ...  
 「新米は、炊きあげたのち...」(III-14.13)
- (121) yòn thán phàdú jàu bâ  
 終わる 大きい (完) (疑)  
 「かなり仕上がりましたか」(001.3363)
- (122) lənénjò mə- pàu thán thàin  
 今年 (非現) 開く (再度)  
 phlòun lálē dē chəxíchəlà θəphjān  
 カレン 文学 (列挙) 文化 祭典  
 「今年もまたカレン文学と文化の祭典を首尾良く開く予定だ」(013.7)

### 18.13 làn

動詞 làn 「くだる」「さがる」に由来する。bàn とも発音される。làn の用法は、その表す意味により、次のように分類することができる。

#### 18.13.1 làn(1) <下方>

動作や移動が下方方向に向かうことを示す。

- (123) wāplàn phèn nó lì làn chinàn ʔópwài bá xì  
 原っぱ 中 (題) 行く 座る 休む (催促) (禁止)  
 「原っぱの中に下りて行って座って休んだりするな」(III-12.8)
- (124) khwái làn phí nə- phú nən béin ʔèphlé  
 投げる (裨益) 2sg 子供 (少数) ~羽 はやく  
 「お前の子供を何羽かはやく投げおろせ」(I-01.7)
- (125) klà nó dá làn wê thwí θi nótā ...  
 カラス (題) 見える (強意) 犬 死ぬ (前提)  
 「カラスは(空の上から)下に死んだ犬を見つけたので...」(I-01.21)
- (126) ʔəwê lì dí làn lé klà ʔə- θwí phèn nó lô  
 3se 行く 卵を生む (場) カラス 3sg 巢 中 (のだ) (断定)  
 「彼(カッコウ)はカラスの巢の中に卵を生みに行った」(I-03.39)
- (127) ʔəθi cáin jù làn lé chái phèn ...  
 3pl 出る 飛ぶ (場) 田 中  
 「彼ら(鳥)は(巣から)出て田んぼの中に飛び降りてゆき...」(II-01.14)

- (128) chə- dò lán thá dè phòu nótā ...  
CHə 仕掛ける (保持) (共) 網 (前提)  
「(魚をとる) 網がしかけてあったので...」(II-05.13)
- (129) pə- bláin lán khwái chəkònchəθò nó ...  
1pl 脱ぐ (徹底) 衣服 (前提)  
「衣服を脱いでから...」(II-13.7)
- (130) ʔə- wēkhwā bàu lán mì  
3sg 兄 よそう 飯  
「彼のお兄さんはご飯をよそった」(II-14.22)
- (131) ʔədà nó nə- mə- dà lán bèθí lê  
ゆか (題) 2sg (非現) 敷く どのように (疑)  
「(宮殿の) 床はどのように敷くのですか?」(II-02.37)
- (132) chə- chən lán θân  
CHə 降る ~したばかり  
「雨が降ったばかりだ」(II-05.13)
- (133) lé càkhô phàn nó xwí lán wê dè thàmáu yòn ...  
(場) 紙 中 (題) 撒く (強意) (共) 鉄粉 (継起)  
「紙の上に鉄粉を撒いて...」(III-01.24)
- (134) θéin yàkhī lán phō  
木 傾く (臨場)  
「木が傾いた」(III-03.50)
- (135) mùmmé xāin lán wēdá lô  
太陽 傾く (強意) (断定)  
「日が傾いてきた」(I-06.64)
- (136) xīphàn nó pō lán bá khléinθàucà láí yòn ...  
(人名) (題) 読む (不抗) (人名) 手紙 (継起)  
「ファイバウンはクレインタウチャーの手紙を読んで...」(IV-04.390)
- (137) cáin lán lé mōkhó  
歩く (場) さっき  
「さっき(家の外に)下りていった」(V-02.17)

▷ 高床式の家のため、外に出るには階段を下りる。下りることよりも外に出ることに重点を置く場合は、cáin thán を使う。(103) を参照のこと。

## 18.13.2 lən(2) &lt; 状態の変化 &gt;

状態動詞に付いて、その動詞が表す状態の程度が甚だしくなることを表す。18.12.2 で述べたように、何かが減少するような場合に多く lən が付くようである。以下に例を挙げる。

- (138) chə- mə- khài lən lō  
CHə (非現) 暗い (断定)  
「暗くなるよ」(I-06.81)

- (139) jáijái θáwɪnθà pwài lən θà ləcələcè chī  
やがて 心 疲れた 心 少し (婉曲)  
「やがて心が疲れてきた」(014.15)

▷ pwài θà は「疲れている」の意の成句。

- (140) ?è mwē pə- ?è ?ókí khléin lən thī nótā ...  
(条件) (繋) 1pl (条件) 置く 冷たい 水 (前提)  
「もし水を置いておいて冷たくすると…」(I-02.10)

- (141) ɕán lən khwái wē chī lō  
貧しい (徹底) (強意) (婉曲) (断定)  
「貧しくなってしまった」(II-14.8)

- (142) bē pə- təwân phèn chəchəu chəchā mə- ɕà lən θò ...  
(目的) 1pl 村 中 病気 (非現) 少ない (目的)  
「私達の村の中に病気が少なくなるように…」(V-01.110)

## 18.13.3 lən(3) &lt; 内方向への移動 &gt;

移動する物体が囲まれた空間の外から中へ移動することを表す。

- (143) khliθá nó lì bá náu lən  
弾丸 (題) 行く 当たる 入る  
lé thópəyú ?ə- khâin phèn nó ?əkhúcòn ...  
(場) フクロウ 3sg 尻 中 (のだ) (理由)  
「弾丸がフクロウの尻に当たって入ってしまったので…」(I-03.5)

- (144) ?əwədə lì náu lən lé phôwɪn phèn  
3se 行く 入る (場) 網 中  
「彼は網の中に入って行った」(II-05.14)

- (145) yêthəwɪn thán thàin | náu lən thàin lé yéin dwè  
立つ (上方) (再度) 入る (再度) (場) 家 中  
「(大叔父は) また立ち上がって、家の中に入っていった」(V-02.7)

(146) thàin náu làN dàu phòN

帰る 入る 部屋 中

「(彼女は) また部屋の中に入っていった」(V-02.116)

次のような làN も、ここに含まれると考える。これらの例に見える làN は、移動する物体が誰かの領域の中に入ることを表している。

(147) thàin thòN yéin | phómú ?əpî mómú?wà dè

帰る 着く 家 娘 小さいもの (人名) (列挙)

phókhwà ?éθwíwò ?ánʔá làN jè

息子 (人名) 出迎える 1SG

「家に着くと、末娘のムームーワーと息子のエートゥイーウォーが私を出迎えてくれた」(V-03.84)

(148) ?əwê ?ə- yê làN ?ò |

3se (条件) 来る (条件')

lò bá jə- lì phúmècà má ?ə- yéin ?ò xō ...

行く (再度) 1sg 行く (人名) 3sg 家 (遠方) XO

「彼が来たら、私はブーネーシャマーの家に行ったと伝えて下さい」(001.652)

(149) mə- kè θòUN làN dáwê lái

(非現) 書く 送る (願望) 手紙

「(あなたにこの) 手紙を書いて送ります」(IV-04.332)

(150) ?ókhò làN wè khíchìphòN nó chàì

待つ (備え) 虎 その CHAI

「虎を待ち受けなさい」(III-03.51)

#### 18.13.4 làN(5) <再帰的な動作>

動作や心理作用の影響が主語の指示対象そのもの (あるいは指示対象そのものを含む集合) に及ぶことを示す。多くの場合、後述する θà (18.60.1) と共に使われる。

(151) kətò làN lā nə- θà nó chàì

心配する (願望) 2sg (再帰) (のだ) CHAI

「(他人のことでなく) 自分のことを心配せよ」(II-11.11)

(152) cúu làN θà lé thī klà

浸す (再帰) (場) 水 間

「水の中に浸りなさい」(IV-07.42)

(153) bènóθò ?əwêdá ?àu xī làN ?ə- θà nó lô

そのように 3se ほめる 美しい 3sg (再帰) (のだ) (断定)

「そのように、彼は自画自賛した」(II-05.12)



- (154) khlài pàdú lāN ʔə- θà lānāN θí ...  
 カメ 過大評価する 3sg (再帰) (逆接) (類似)  
 「カメは自分自身を課題評価していたけれども…」(II-11.20)
- (155) ʔəphlòunphú θè jò ʔè dócā thánthô thán nāncè |  
 人 (複) (題) (条件) 栄えた 発展した (変化) 少し  
 θànáN lāN θà lô  
 忘れる (再帰) (断定)  
 「人間というものは少し偉くなると、(昔の自分を) 忘れてしまう」(V-03.64)
- (156) ʔé lāN pə- chiphú mwē ʔé lô  
 愛する 1pl 民族 (繋) (否) (断定)  
 「(このような人は) 自分たちの民族を愛しているとは言えない」(IV-01.91)
- (157) ʔəwē chônmon lāN ʔə- θà ...  
 3sg 考える 3sg (再帰)  
 「彼は自分自身のことを考えた」(I-03.29)
- (158) ʔəwədə có lāN jū ʔə- θà ...  
 3sg 熟考する (試行) 3sg (再帰)  
 「彼はよく反省してみた」(I-08.11)

## 18.14 thàin

動詞 thàin 「帰る」に由来する。dàin または nàin と発音されることもある。

動詞助詞 thàin の用法は、その表す意味により、下の thàin(1) から thàin(4) のように分類することができる。

### 18.14.1 thàin(1) < 元の位置への移動 >

移動する物体が元の位置に移動することを表す。

- (159) jə- chəmə thòn thàin lé thəʔàn  
 1sg 仕事 着く (場) (地名)  
 「またパアンに赴任になったのだ」(V-03.40)
- (160) jwà ʔəljā yê thán kəljān thàin lé thî klà ...  
 鏡 光 来る (上方) 帰る (場) 水 中  
 「鏡の光は水の中で反射し…」(II-10.8)
- (161) ʔókí thàin pəlān | bē ná jò lə- θí bá θò  
 置く 瓶 (比定) 聞く 1SG (否) できる (否') (比定')  
 「私の (声が) 聞こえないかのように、瓶を (元の場所に) 戻した」(V-03.17)

- (162) jə- θwī ʔè yà yòN nó |  
 1sg 巢 (条件) 壊れる (題)  
 nə- mə- bá lò thàin jə- θwī nó lô  
 2sg (非現) (当為) 返す 1sg 巢 (のだ) (断定)  
 「もし私の巢が壊れたら、あなたは私の巢を(直して)返さなければならない」(II-02.20)

#### 18.14.2 thàin(2) < 繰り返し >

同じ事象あるいは同種類の事象が繰り返すことを表す。「また～する」「再び～する」「何度も～する」。

- (163) jə- bá ʔó thàin nāN néin dài  
 1sg (当為) いる (少数) 年 また  
 「また 1 年ほど居続けなければならない」(001.3354)
- (164) jə- bá màlú thàin láí nāN néin dài  
 1sg (当為) 学ぶ 文字 (少数) 年 また  
 「あと 1 年くらいまた勉強しなければならない」(001.3354)
- (165) nə ʔəkhâjò mə- nī thàin phó lə- yà lô chī nê  
 2SG 今 (非現) 得る 子供 一 ～人 (断定) (婉曲) NE  
 「あなたは今度また子供が生まれるんですよね？」(009.19)
- (166) mə- θóuN thán thàin phjā lé chəlàn θân ʔò  
 (非現) 建てる (完成) 僧院 (場) 場所 新しい (遠方)  
 「新しい場所にまた僧院を建てる予定です」(010.8)
- (167) nāN thán thàin nə ʔáʔá lé lô  
 覚えている (完成) 2sg たくさん (断定)  
 「あなたのことを何度も思い出します」(011.12)

#### 18.14.3 thàin(3) < 事象の追加 >

既に話題にのぼった事象とは別の事象が累加的に生起することを表す。「次は～をする」「今度は～をする」「そして～をする」。

- (168) ʔəkhânó jə- phó ʔó lə- yà yòN |  
 その時 1sg 子供 いる 一 ～人 (継起)  
 jə- dòn nī thàin ʔəpī lə- yà jò  
 1sg 妊娠する 得る 末子 一 ～人 この  
 「その時私は子供が一入いて、今度はこの末っ子を妊娠していました」(V-04.186)

- (169) jə- lón cò phí jə- cú |  
1sg 差し出す (遠隔) (裨益) 1sg 手

pàθijā thònnáin lóθà |  
紹介する 覚える (相互)

?əyòn bòn làn θài lə- khwé yòn lə- khwé |  
そして 注ぐ (下方) 酒 ー ～杯 終わる ー ～杯

lòthàin thàin ?əyāin?əcòn lānlì |  
喋る 物事 古い

nī thàin tàxótàxó  
笑う (擬音語)

「私 (と彼) は握手をし、互いに自己紹介をし、酒を何杯も注ぎ、古いことを喋り、そして呵々大笑した」(V-03.50)

- (170) khānpəjàn phèn lé thikhî lə- khô nó  
ビルマ 中 (場) 北 ー ～面 (題)

pəcā bánànnàn lè làn nī wê yákhóyān dè  
人 一部 混ぜる (下方) (努力) (強意) 岩塩 (共)

thî nó yòn | ?ánlú làn thàin wê chəkhū klà nó |  
水 (のだ) (継起) 干す (下方) (強意) 暑さ 間 (前提)

ləkhāinjò ké thán thàin thilá θí chī lô  
最後 成る (完成) 塩 できる (婉曲) (断定)  
「ビルマの北のほうでは一部の人たちは岩塩と水を混ぜ、今度は日に干して、最後にはそれが塩になる」(II-03.17)

- (171) mà?án xàv nó dō  
作る 焼き畑 (題) (別個)

phé làn kháu làn θéin lé làthāinkháu-phú phèn nó yòn |  
切る (下方) 切る (下方) 木 (場) タインカオプー月 中 (のだ) (継起)

bá ?ánlú xāin thàin là lə- béin blé |  
(当為) 干す 乾く 月 ー ～枚 半

dè thòn thàin làθənlàtà phèn nó |  
そして 着く トウンラター月 中 (前提)

xū thá xàv nó lô  
燃やす (保持) 焼き畑 (のだ) (断定)  
「焼き畑のやり方は、まずタインカオプー月に木を切り、次は1ヶ月半ほど乾かし、今度はトウンラター月になったら、燃やすのである」(III-02.23)

## 18.14.4 thàin(4) &lt; 返答、応酬 &gt;

相手の行動に対する反応を表す。「～しかえす」。

- (172) còntàní ?è khlàu càibò |  
 (人名) (条件) 暇な (条件')  
 ?ánmôn [C kè phí thàin lái nān béin] ɛ̃  
 命じる 書く (裨益) 手紙 (少数) ~枚 XO  
 「チョンタニ君に、もし暇なら返事を書くよう言ってください」(016.31)

- (173) nə- bá lònən thàin jə bē nó thò ?é  
 2sg (当為) 言い勝つ 1SG (比定) それ (比定') (否)  
 「そうやって悪口を言い返すべきじゃないわ」(001.3356)

- (174) ?əwē jāin bá wūthān nó yòn |  
 3se 踏む (無意) コブラ その (継起)  
 dē wūthān phlà thàin ?ə- khaN nó chū lô  
 そして コブラ 咬む 3sg 足 (のだ) (婉曲) (断定)  
 「彼(象)はコブラを踏んでしまい、コブラは彼の足を咬みかえした」(I-09.11)

- (175) xīphàn jū thàin khléinθàucà mólaimòlài  
 (人名) 見る (人名) にやにやと  
 「(見つめられたので) ファイパウンはクレイタウチャーをにやっとしながら見つめかえした」(IV-04.198)

- (176) nānθwíwəθú jàuján thàin phlòunkhəmlón θèyòn ...  
 (人名) 敬礼する 群衆 (継起)  
 「ナウン・トゥイーウォートゥーは(喝采を受けて) 群衆に敬礼し...」(V-04.86)

## 18.15 kədà &lt; 逆向き &gt;

名詞 kədà「裏側」に由来する。動作の向きが別の何らかの動作の向きと逆であることを表す

- (177) ?ánmôn [C ?àiθài thàin kədà θā lé ?ə- lāndà ?ò] lô  
 命ずる 修験者 帰る (新局) (場) 3sg 場所 (遠方) (断定)  
 「(王は) 修験者に自分の家に戻るよう命じた」(III-04.22)

- (178) xīphàn wāin kədà ?ə- khú  
 (人名) ひねる 3sg 頭  
 「ファイパウンは後ろを振り返った」(IV-04.344)

- (179) ?əwē cá kədà thàin θà  
 3sg 方向変換する (元位) (再帰)  
 「彼は向きなおった」(III-03.33)

(180) ʔə- mâ chó yòN nó |  
3sg 妻 持ち上げる 終わる (前提)

ʔəwê chó kədà  
3se 持ち上げる

「妻が(子供を)抱き、今度は彼(夫)が(取り返して)抱いた」(021.96)

▷ 「妻」が「夫」から子供を受け取って抱いたときとは逆に、今度は「夫」から「妻」へということを表している。

(181) thònnó xíphàn ʔáncà kədà thàin khléinθàucà nó ...  
そして (人名) 尋ねる (返答) (人名) (前提)  
「そしてファイパウンがクレイタウチャーに聞き返したところ...」(IV-04.254)

▷ クレイタウチャーがファイパウンに尋ね、それを受けてファイパウンが逆に尋ね返したということを表している。

(182) láí píðakáθēnpòun nó θi  
書 大蔵経 (題) (類似)

khlē kədà chúkè thàin wê lé phlòun khô  
翻す 書く (元位) (強意) (場) カレン 側

yòN wê láuchêin chī lô  
終わる (強意) 全部 (婉曲) (断定)

「大蔵経もカレン語に翻訳するという作業がすべて終わったのである」(III-08.8)

▷ 「翻訳する」は khlē kədà である。翻訳の作業には実際には逆向きの変化は生じないので、比喩的な表現であると考えられる。なお、東部ポー・カレンには、ビルマのパガン王朝時代(11-14c)に、タトン(Thaton)でモン人の王に仕えていたブーダイコー /phúðàikò/ というカレン人が、大蔵経をカレン語に訳したという伝説がある。

## 18.16 ló < 学習 >

(1) 動詞が表す動作自体のやり方を学ぶ(教える)こと、あるいは、(2) 動詞が表す動作によって何かを学ぶ(教える)ことを表す。

まず(1)に当てはまる例を挙げる。

(183) kè ló láí  
書く 文字  
「字を書くことを学ぶ」

(184) khlàin ló pjáu mèin phlòun chəkhlaín ləcè  
話す (専念) (自然) カレン 言葉 少し  
「このところちょっとカレン語の会話を勉強しているんですよ」(001.2546)

- (185) ʔədài lə- cā dài bá ʔəkhâ nó |  
 翼 (否) 老いた まだ (否) 時 (題)  
 ʔánmôn [C jù lú wê lé θéinthàin pháphá nó lô ]  
 命ずる 飛ぶ (強意) (場) 木の枝 低い物 (のだ) (断定)  
 「翼がまだ堅くなっていないときに、(母鳥は子供に) 低いところの木の枝で飛ぶこ  
 とを学ぶように命ずる」(IV-07.29)

- (186) mà lú lái  
 する 字  
 「字 (の読み書き) を学ぶ ; 字 (の読み書き) を教える」

次に (2) に当てはまる例を挙げる。

- (187) ʔəθiwê dá bá chà bēnó ʔá blàn ʔəkhúcòn |  
 3pe 見える (不抗) CHə そのような 多い ~ 回 (理由)  
 dá lú wēdá tā ...  
 見える (強意) (前提)  
 「彼らはそのようなことを何度も経験したので、(植物の栽培の仕方を) 見て学んだ  
 のである」(II-04.7)

- (188) pəcā [R lāinlòn lé phənθà nàin ] ləphá  
 人 往来する (場) 道 傍ら (複)  
 yê lə- yà lə lú phí lə- mēin |  
 来る 一 ~ 人 語る (裨益) 一 ~ 種類  
 yê lə- yà lə lú phí lə- mēin chū lô  
 来る 一 ~ 人 語る (裨益) 一 ~ 種類 (婉曲) (断定)  
 「道を行く人たちが、(舟の作り方を) 1 人来ては語って教え、1 人来ては語って教え  
 した」(I-08.8)

## 18.17 dòn < 模倣 >

動詞の表す動作が他者の動作の模倣であることを表す。

- (189) kè dòn lái  
 書く 文字  
 「文字を真似て書く」
- (190) yê thàin tàin dòn wê chū lô  
 来る 帰る 作る (強意) (婉曲) (断定)  
 「帰ってきてから真似て作ってみた」(IV-05.43)

(191) jə- wà lə dòn

1sg 夫 語る

「私の夫が語ってくれました」(023.20)

▷ 「夫」がある人から聞いた話を(その人が話したとおりに)話してくれた、ということ。

## 18.18 kràN

klàN とも発音される。次に挙げる3種類の用法がある。

### 18.18.1 kràN(1) <根拠のなさ>

動作を表す動詞に付き、さしたる理由もなくその動作を行うことを表す。「意味もなく～する」「むやみに～する」。

(192) nəθí lə jā kràN bá thî

2pl 行く 泳ぐ (催促) 水

lé thîkhló phən ?ò ləxì bó

(場) 川 中 (遠方) (禁止) ～しなさいよ

「お前たち、川の中ではむやみに泳ぐなよ」(I-06.42)

(193) hə jò lə kwè klàN chə θi

人 この 語る (遊び) CHə 習慣がある

「こいつはやたらと冗談を言うクセがある」

(194) jə- jū klàN dàlô

1sg 見る (断定)

「漫然と見てただけだよ」(IV-04.60)

(195) mə ?án klàN báθà θən ?wí nān pəcá

(非現) 食べる (欲求) おかず おいしい (少数) ～食

「無性においしい料理が食べたくなってきたなあ」(V-03.140)

(196) cáin klàN wê lé mēinlá phən nó ...

歩く (強意) (場) ジャングル 中 (前提)

「ジャングルの中をあてもなく歩いていたところ...」(III-04.5)

(197) lə klàN chə bê jò θò xì

語る CHə (比定) これ (比定') (禁止)

「そんなことをやたらと言わないで」(IV-04.167)

(198) θəupərai mə- chônmon klàN nə lé chəphlū mî

警官 (非現) 思う 2SG (強調) 狂人 ～ですよ

「警官は君を気違いだと思いこんだかもしれない」(IV-04.txt32)

### 18.18.2 kràN(2) < 傾向 >

動詞が表す事象が生起する頻度の高さを表す。「～しがちな」「～する習慣がある」。

(199) ké klàN θi

成る 習慣がある

「よくあることだ」

(200) mə- lánthipā klàN

(非現) 転ぶ

「(そんなことをしていると) ころぶよ」(002.55)

(201) nə- ʔè lì | nə- mə- cōnkàin klàN θi

2sg (条件) 行く 2sg (非現) 病気の 習慣がある

「(そのような都会に) 行くと、あなた病気になるよ」

(202) ʔó klàN pəθai ʔé l̥

ある あまり (否) (断定)

「あまり存在しないことが多い」(IV-09.11)

(203) mə- ʔánlá klàN chə- ʔā

(非現) 叱る CHə (疑)

「(奥さんに) 叱られることが多いのか？」(V-03.71)

### 18.18.3 kràN(3) < 意外性 >

動詞が表す事象の生起が意外であることを表す。「意外にも～する」「どういうわけか～だ」。

(204) nəθi khāN nó mə- thòN klàN chī bádòN

2sg 国 (題) (非現) 着く (婉曲) たぶん

「あなたの国にひょっとしたら行けるかもしれない」(011.32)

(205) bəθiθò lê↔ nə- yá klàN lé thəʔàn jò

どのように (疑) 2sg 移る (場) (地名) (近傍)

「いったいどうしてまたパアンに移ってきたのかね？」(V-03.39)

(206) mə- cəuN kràN ʔā θijā ʔé

(非現) 退屈な (疑) 知る (否)

「(彼女は) ひょっとして退屈してしまっているかも知れない」(001.835)

### 18.19 θân < 最前、最近 >

動詞 θân「新しい」に由来する。動詞の表す事象が生起してあまり時間が経っていないことを表す。「～したばかり」。



- (207) jə- thòN θâN cəpâN khâ dáʔò ...  
 1sg 着く 日本 時 (過去)  
 「私が日本に来たばかりのころは…」
- (208) chə- chəN làn θâN  
 CHə 雨が降る (下方)  
 「雨が降ったばかりだ」(II-05.13)
- (209) [R dú thán θâN ] phūcəpài θè  
 大きい (変化) 若者 (複)  
 「世に出たばかりの若者たち」(IV-03.27)
- (210) lé kò t̃ thán θâN ʔəkhâ dáʔò ...  
 (場) 世界 できる (完成) 時 (過去)  
 「天地開闢して間もないころ」(II-04.2)
- (211) ʔəwê bá wī θâN θèyòN | bá dài jè  
 3se 当たる (先行) (継起) 当たる また 1SG  
 「彼が先に(病気に)なって間もなく、私にもうつった」(002.834)

## 18.20 θύ < 内密 >

動詞の表す事象が他者に知られないことを表す。「こっそり～する」「ひそかに～する」「静かに～する」。

- (212) kòkí θύ  
 置く  
 「隠す」(001.2042)
- (213) lòthàin kànkà θύ wê chə  
 喋る 噂する (強意) CHə  
 「(彼らは)隠れて相談した」(II-02.14)
- (214) kài θύ méthi ʔəblànblàn  
 拭く 涙 何度も  
 「(彼女は)陰で(泣いて)涙を何度も拭った」(V-04.36)
- (215) lì thán ʔókí θύ θà  
 行く (上方) 置く (再帰)  
 「(彼は木のてっぺんに)登って身を隠した」(III-03.32)
- (216) lì yê ʔú θύ làn wê  
 風 来る 吹く (下方) (強意)  
 「風が静かに吹き下ろしてきた」(V-05.8)

- (217) mwē náu cà lán θú θà mômó lô ʔəkhúcòN |  
 (繫) 入る 混ぜる (帰的) (再帰) 同じ (断定) (理由)  
 ʔəwē bá jūthô θā wē lé ʔəjàin nó lô  
 3se (当為) 眺める (新局) (強意) (場) 遠く (のだ) (断定)  
 「(タイに) 密入国してまぎれこんでいるということは同じなので、(同じカレン人が  
 タイ人の警官に暴力を受けているのを) 遠くから手をこまねいて見ているしかなかっ  
 た」(IV-07.17)

## 18.21 ʔú < 違法、反道徳 >

動詞 ʔáNʔú 「盗む」に由来する。動作が法や道徳的規範に反していることを表す。

- (218) tháu ʔú láinmí  
 乗る 汽車  
 「こっそり (切符を買わずに) 汽車に乗る」(004.486)
- (219) mə- bá thàin ʔú bá  
 (非現) (当為) 帰る (疑)  
 「こっそり (許可を取らずに) 帰るべきだろうか」(V-04.17)
- (220) lì jō ʔú mǎncòθàjô phómú nó lò bóun lə- jā  
 行く 見る (人名) 娘 (題) 語る 勇敢な もはや JA  
 「(恋人を裏切って) ターヨーおじさんの娘をこっそり見に行っちゃってこと、言えな  
 いんでしょ？」(V-05.53)

## 18.22 cò < 遠隔 >

行為者と被動者 (または何らかの影響を受けるもの) が距離的・時間的に離れていること  
 を表す。

- (221) jə- dá cò wè  
 1sg 見える (備え)  
 「私は将来を見据えているのだ」
- (222) jə- lón cò phí jə- cú  
 1sg 差し出す (裨益) 1sg 手  
 「私は (握手をするために) 手を差し出した」(V-03.50)
- (223) thwí gā nó lò cò thán wē lái  
 犬 老いた (題) 語る (上方) (強意) トンビ  
 「老いた犬は (木の上の) トンビに向かって話しかけた」(I-01.6)

- (224) láí      nó      yêN      cò [C thwí      cā  
 トンビ (題) 聞こえる      犬      老いた  
 lò      chò      bê      nó      θò ]      yòN ...  
 語る CHə (比定) それ (比定') (継起)  
 「トンビは老いた犬がそのように言うのを聞いて...」(I-01.10)
- (225) hə- jū      cò lé      ?əjàin xílà      wê      cwámā      lô  
 1pl 見る      (場) 遠く      美しい (強意) 大変      (断定)  
 「(その山は) 遠くから見ると大変美しい」(V-06.21)
- (226) ?əθiwê      phā      kò      cò      ?əθí      lô  
 3pe 父 呼ぶ      3PL (断定)  
 「彼らの父は、彼らに呼びかけた」(I-06.77)
- (227) cò      kè      cò láí      jò      xū      béin      thánbà      jàu  
 兄さん 書く      手紙 (題) 六      ~ 枚 達する (完)  
 「私が手紙を書くのは6枚目だ」(V-04.4)
- (228) cō      ?ó      lānāN      lé      ?əjàin      θí |  
 兄さん いる (逆接) (場) 遠く (類似)  
 nán      cò      bá      ?wà?wà      kō      nì      dè      lô  
 思い出す (無意) (人名) (毎) ~ 日 (毎') (断定)  
 「私は遠くに住んでいるが、ワーワーのことは毎日思い出している」(V-05.99)

## 18.23 lì < 慣れ >

動詞が表す動作をし慣れていることを表す。「~し慣れている」「いつも~しつけている」。

- (229) jə-      dó      lì      wè      tápôuN  
 1sg 撮る      (備え) 写真  
 「私は写真は前から撮り慣れている」(001.2346)
- (230) jə-      lì      lì      ?ə-      yéin  
 1sg 行く      3sg 家  
 「私は彼の家に行きつけている」(001.2345)
- (231) [R jə-      ?áN      lì ]      kó  
 1sg 食べる      菓子  
 「私がいつも食べている菓子」(001.2345)

- (232) lə- dá lì bá nó |  
 (否) 見える (否') (前提)  
 mə- təmjàN kənê  
 (非現) 奇妙な KANE  
 「見慣れていないと奇妙(に感じる) かもしれないですね」(V-03.7)

## 18.24 jū < 試行 >

動詞 jū 「見る」に由来する。動詞の表す動作を試行することを表す。

- (233) mə- ʔán jū  
 (非現) 食べる  
 「食べてみます」(002.61)
- (234) lì jū bálê  
 行く なぜ  
 「行ってみたらどうですか？」(004.218)
- (235) nə- lì khlàindəwN jū bá nāN thí ɸ̌  
 2sg 行く 話す (催促) (少数) ～回 XO  
 「行って話してみてごらんよ」(IV-04.83)
- (236) nə- mə- còN jū báθà dè jè càibò ...  
 2sg (非現) 試す (欲求) (共) 1SG (条件)  
 「あなたが私と(力を)競ってみたいのなら...」(III-03.13)
- (237) ʔáncà jū mèiN wê ʔə lə- thí dò  
 尋ねる (自然) (強意) 3SG ー ～回 (別個)  
 「(彼は)彼女にもう一度尋ねてみた」(V-04.161)
- (238) phâθúyè thóxòN jū dè khāNməpā  
 (人名) 比べる (共) 外国  
 lé [R ʔəwê thòN bá] θè nó chī lô  
 (関) 3se 着く (経験) (複) (のだ) (婉曲) (断定)  
 「パートゥーゲーは(カレン州を)自分の行ったことのある諸外国と比べてみた」(V-04.49)
- (239) jə- mə- ʔánmêN [C təwāNphúchā tàin dòn jū  
 1sg (非現) 命ずる 村人 作る (模倣)  
 bê jə- ʔò bá chəthī nó θò ] nāN thí  
 (比定) 1sg 飲む (不抗) 液体 あの (比定') (少数) ～回  
 「私が飲んだ液体のようなものを作ってみよう、村人に頼もう」(IV-05.39)

## 18.25 khwái &lt; 徹底 &gt;

動詞 khwái 「投げる」に由来する。wái と同発音する。動作の仕方や状態の変化が徹底していることを表す。また、そこから取り返しがつかないというニュアンスを伴うことがある。「～してしまう」「きちんと～する」「徹底的に～する」「完全に～する」。

まず、意志動詞に付いた例を挙げる。

- (240) pàu lán khwái jə- chàin nān thí  
 掛ける (下方) 1sg シャツ (少数) ～回  
 「俺のシャツをきちんと掛けておいてくれ」

- (241) nə- ʔò ʔwí nó màláu khwái | ʔōN lô  
 2sg 飲む おいしい (題) 注文する 終わる (断定)  
 「あなたが好きなのを注文してしまえば、それでいい」

- (242) jə- cáin lán khwái chəmə jàu  
 1sg 出る (外方) 仕事 (完)  
 「私は仕事をやめてしまいました」(012.18)

- (243) nəwədə nə- ʔè θamé ʔò |  
 2se 2sg (条件) 恐れる (条件')  
 lì ʔà ʔó khwái wê lé ʔəjàin ʔò bó  
 行く 移る いる (強意) (場) 遠く (遠方) ～しなさいよ  
 「お前は(人間が)恐いのなら、遠くにやり住んでしまえ」(I-04.24)

- (244) nənməN khwái ʔəθí nòpà ʔəthíʔəthí  
 接吻する 3pl 頬 一回ずつ  
 「彼らのほっぺたに一回ずつキスをしてやった」(V-03.89)

- (245) pətháu khwái nə- chəkhlaín nó jāN  
 止める 2sg 言葉 その ～しなさい  
 「もう話すのをやめなさい」(V-03.119)

- (246) nə- mə- ʔò báθà θài phəphəNəθò |  
 2sg (非現) 飲む (欲求) 酒 そんなに  
 ʔò khwái thàin ʔəláu bálê bò  
 飲む (再度) 全部 なぜ BO  
 「そんなに酒が飲みたいのだったら、全部飲んでしまいなさいよ」(V-03.127)

- (247) chə- klò nī khwái ráucài  
 CHə 剥がす (引寄) 仏像  
 「仏像は剥がされてしまった」(V-06.61)

- (248) tápôun lé jə- dú dá lú yéin ?ò nó  
写真 (関) 1sg 撮る (保持) (場) 家 (遠方) (題)

jə- phúlân khwái ?əwê jàu  
1sg 与える 3se (完)

「あの家で撮った写真は彼にやってしまった」(003.913)

- (249) nə- thônxi yàyon khwái jə- θwí  
2sg 蹴る 壊れる 1sg 巢

「あなたは私の巢を完全に蹴り壊してしまった」(II-02.24)

- (250) pə- ?ánxú lànmau khwái ?è yòn ...  
1pl 焙る 粉々になる (条件) 終わる

「(植物を) 粉々の灰になるまで(火で) あぶり終えたら...」(II-03.14)

- (251) thau chéin khwái ?ə- mé ?ə- θwá  
磨く 清潔な 3sg 齒 3sg 齒

?è lə- yòn bá | mí wê nân blân ?é  
(条件) (否) 終わる (否') 寝る (強意) (少数) ～回 (否')

「齒をきれいに磨かないうちは、決して寝ない」(II-08.13)

- (252) ?è chônkàin nó | pə- bá ?ópwaí khwái xèxè lō  
(条件) 病気の (題) 1pl (当為) 休む ゆっくり (断定)

「もし病気になったら、ゆっくり休まなければならない」(II-13.16)

- (253) nə- chə̀lò ?è ?ó | lō khwái ?èphlé  
2sg 言葉 (条件) ある 語る 早く

「言いたいことがあるなら早く言ってしまいなさい」(IV-04.224)

- (254) kəlôn kè khwái láí lə- blái  
急ぐ 書く 手紙 一 ～枚

「急いで手紙を 1 枚書いた」(IV-04.393)

次に、無意志動詞に付いた例を挙げる。

- (255) thíláyân nó phlī thán khwái yòn ...  
塩 (題) 溶ける (完成) (継起)

「塩は完全に溶け去って...」(I-02.11)

- (256) pəθí chəklàin lànphái khwái ləmlái  
1pl 言葉 消える 一瞬

「私達の会話は一瞬途絶えてしまった」(V-03.57)

- (257) ʔə- mēnphlē nó θi yàʔòN khwái wē chī lō  
 3sg 櫂 (題) (類似) 壊れる (強意) (婉曲) (断定)  
 「彼の舟の櫂も完全に壊れてしまった」(I-08.16)
- (258) [R ʔòN khwái ] là lə- béiN ʔò  
 終わる 月 一 ～枚 (遠方)  
 「先月」
- (259) ʔəlū bəiθwá khwái láu jàu  
 声 詰まる 完全に (完)  
 「声が完全に詰まってしまった」(V-05.6)
- (260) ʔwàʔwà θəuNθà théphà khwái láu jàu  
 (人名) 内臓 割れる 完全に (完)  
 「ワーワーはひどく気落ちしていた」(V-05.87)
- (261) θi khwái nó ɛú tháu lō  
 死ぬ (題) 平和な (最上) (断定)  
 「死んでしまうのが一番楽だ」(V-05.89)
- (262) jə- làNCàN khwái bóuNpwèmə jàu  
 1sg 遅れる ボクシングの試合 (完)  
 「私はボクシングの試合に間に合わなかった」(004.351)
- (263) jə- phó lànthé θi khwái láu jàu  
 1sg 子供 落ちる 死ぬ 全部 (完)  
 「私の子供は全員、(木から)落ちて死んでしまった」(II-02.24)
- (264) təcwī khwái ʔəkhúCòN | θəuN phí khlàu ləN ʔé  
 遅い (理由) 送る (裨益) 暇な もはや (否)  
 「遅くなってしまったので、(品物を)送るための時間がなくなってしまった」(009.37)
- (265) ʔəwədə phòNphlè khwái lé  
 3se 逃れる (場)  
 mí [R ʔánlé chə ] nó chī lō  
 火 食う CHə (のだ) (婉曲) (断定)  
 「彼は火の災禍から逃れることができたのだ」(II-11.16)

## 18.26 lā < 願望 >

文の表す事象が生じることを話し手が望んでいることを表す。「～してもらいたい」「～してほしい」。この助詞が用いられた文では、否定の助詞として常に ləxi (xi) を用いる。このことから、この助詞が使われた文は命令文の一種であると考えられる。lā を用いた命令文は、通常の lā を用いない命令文とは異なる特徴を持つ。通常の命令文は、主語が二人称である。次の例を見ていただきたい。

(266) ʔán

食べる

「食べよ」

この文の主語が二人称であることは、次のように主語を顕在化させれば分かる。次の (b)(c) のように、一人称や三人称の主語の場合、この文は命令文として成り立たない<sup>4</sup>。

(267) a. nə- ʔán

2sg 食べる

「お前が食べよ」

b. \*jə- ʔán

1sg 食べる

c. \*ʔəwê ʔán

3se 食べる

一方、lā を用いた文は、主語がいかなる人称であってもよい。

(268) a. jə- ʔán lā

1sg 食べる

「私に食べさせてほしい」

b. nə- ʔán lā

2sg 食べる

「お前に食べてほしい」

c. ʔəwê ʔán lā

3se 食べる

「彼に食べてほしい」

上述したとおり、これらの否定は次のように xì を用いて表す。

(269) a. jə- ʔán lā xì

1sg 食べる (禁止)

「私に食べさせないでほしい」

b. nə- ʔán lā xì

2sg 食べる (禁止)

「お前には食べないでほしい」

c. ʔəwê ʔán lā xì

3se 食べる (禁止)

「彼には食べないでほしい」

<sup>4</sup>もちろん、(b) と (c) の文は「私が食べた」「彼が食べた」という意味では適格である。



- (270) a. \*jə- ʔáN lā ʔé  
1sg 食べる (否)
- b. \*nə- ʔáN lā ʔé  
2sg 食べる (否)
- c. \*ʔəwê ʔáN lā ʔé  
3se 食べる (否)

通常の命令文とのもう一つの違いは、通常の命令文では次のように意志動詞しか用いることができないのに対し、

- (271) a. nə- ʔáN  
2sg 食べる  
「お前が食べろ」
- b. \*nə- xílà  
2sg 美しい

lā を用いた命令文では、無意志動詞も用いることができるという点である。

- (272) a. nə- ʔáN lā  
2sg 食べる  
「お前が食べろ」
- b. nə- xílà lā  
2sg 美しい  
「お前に美しくなしてほしい」

なお、以上述べた lā の特性は、次節で述べる dáwê と共通する。

以下に lā が用いられた様々な例を人称別に見ていく。ただし、主語が顕在していない場合、人称が何であるかの判別が難しいことがある。まず一人称主語と考えられる例を挙げる。

- (273) yəN bá lā chàì  
聞こえる (催促) CHAI  
「聞かせてほしい」(001.1340)
- (274) pə- mə- lì bá lā chàì  
1pl (非現) 行く (催促) CHAI  
「私達に行かせてくれ」(001.2221)
- (275) jə- mə- lò lā nàN thí  
1sg (非現) 語る (少数) ～回  
「私にちょっと話させてください」

- (276) nəθí lə wè ʔàíθàí ʔə- nā thō nō nê  
 2pl 語る (備え) 修験者 3sg 鼻 高い (題) NE  
 jə- mə- dá lā nāN thí xō  
 1sg (非現) 見える (少数) ～回 XO  
 「お前たちが言っている鼻の高い修験者に、一度会わせてくれ」(006.53)

- (277) jə- yōN bá lā xì  
 1sg 聞こえる (催促) (禁止)  
 「どうか聞かせないでほしい」

次は二人称主語と考えられる例である。

- (278) nə- mī lā thōN jò  
 2sg 寝る (場) ここ  
 「ここで寝なさいよ」

- (279) lə phí lā jə chàì  
 語る (裨益) 1SG CHAI  
 「私に話してください」(II-06.15)

- (280) ʔó chón lā chàì  
 いる 元気な CHAI  
 「(あなたが) 元気でありますように」

▷ ʔó chón lā chàì は、出会ったときの挨拶あるいは別れの挨拶としてよく使われる表現である。chón は chôn と発音することもある。「元気な」の意の chón が chôn と発音されることは通常ない。このことは、この表現が定型句化していることの一つの証拠となり得る。

- (281) ʔəmətəphlá ʔē ʔó |  
 間違い (条件) ある  
 plètò lā jə nāN thí chàì  
 許す 1SG (少数) ～回 CHAI  
 「もし間違いがあれば許してください」(V-04.79)

- (282) lé mí lə- ʔán dàì bá ʔəkhā jò  
 (場) 火 (否) 食べる まだ (否') 時 この  
 cáin wè lā ʔējàin chàì  
 逃げる (備え) 遠くに CHAI  
 「火事の起きていない今のうちに、遠くに逃げてください」(II-11.10)

- (283) mabò phí wī lā jə- chəmə nāN thí bō  
 手伝う (裨益) (先行) 1sg 仕事 (少数) ～回 XO  
 「私の仕事を手伝ってください」(IV-04.424)

(284) lō θijā bá lā  
 (使役) 知る (催促)  
 「僕に教えてくれないか」(V-01.9)

(285) mə- xwè phí lā ʔəθān nān béin ɓâ  
 (非現) 買う (裨益) 新品 (少数) ～枚 (疑)  
 「(シャツの) 新しいのを一着買ってくださいませんか？」(V-03.127)

▷ この例のように疑問を表す ɓâ と共起することもある。

次は三人称主語と考えられる例である。

(286) ʔəwê lì lā chài  
 3se 行く CHAI  
 「彼に行ってほしい」

(287) thî θiləphá yê thán lā lé khólon khó jò chài  
 水 (複) 来る (上方) (場) 山 頂上 (近傍) CHAI  
 「水がこの山の頂きに沸いてきますように」(III-06.24)

(288) chəkhlaïn təlòn θà təlòn ʔó lā kō yà dè  
 言葉 正直な 心 正直な ある (毎) ～人 (毎')  
 「正直な言葉や正直な心がどんな人にもあってほしい」(IV-01.82)

(289) ʔəwê lì lā xì  
 3se 行く (禁止)  
 「彼には行ってほしくない」

次に挙げる例の主語は二人称であるか三人称であるか判然としない。

(290) dó thán lā thədòn chāinsān ʔèyì  
 畳む (完成) 腰巻き シャツ 良く  
 「腰巻きやシャツをきちんと畳んでほしい」(I-sen.73)

(291) còcò lā nò phèn ʔèchèinpràn kò mūnì dè chài  
 うがいする 口 中 清潔に (毎) ～日 (毎') CHAI  
 「うがいして口の中を毎日清潔にされたし」(II-08.27)

(292) lé pə- chəphú phānkhó nó  
 (場) 1pl 民族 上 (題)  
 ʔókí lā chəθəwɪntəθàòn kō yà dè chài  
 置く 忠誠心 (毎) ～人 (毎) CHAI  
 「自分達の(カレン)民族に(あなた方は)みな忠誠心を持ってほしい」(IV-01.86)

- (293) θətài lán lā θà kō yà dè chàì  
 注意する (帰的) (再帰) (毎) ~人 (毎') CHAI  
 「みな注意してください」(IV-08.28)
- (294) lòn thúxòN lòn màpjáu lā xì phú bé  
 従う 真似する 従う 追いかける (禁止) 子供 ~よ  
 「子供たちよ、(快樂の誘惑には) 付き従うな」(IV-07.52)
- (295) yê thán prênxò lā lé  
 来る (上方) 披露する (場)  
 lānthô jò nāN thí chàì  
 舞台 (近傍) (少数) ~回 CHAI  
 「(次の出場者は) 舞台上がって演技してください」(V-04.72)
- (296) mà yàxòN lā ləxì  
 (使役) 壊れる (禁止)  
 「壊さないでくれ」(V-06.63)

## 18.27 dāwê <願望>

lā と同じく、様々な動詞に付き、文の表す事象が生じることを話し手が望んでいることを表す。lā と同じく、この助詞が用いられた文は、否定の助詞として ləxì (xì) を用いることから、この助詞が使われた文はやはり命令文の一種だと考えられる。主語がいかなる人称であってもよいことも、lā と同じである。

- (297) a. jə- ʔán dāwê  
 1sg 食べる  
 「私に食べさせてほしい」
- b. nə- ʔán dāwê  
 2sg 食べる  
 「あなたに食べてほしい」
- c. ʔəwê ʔán dāwê  
 3se 食べる  
 「彼女に食べてほしい」

上の文の否定は次の通りである。

- (298) a. jə- ʔán dāwê xì  
 1sg 食べる (禁止)  
 「私に食べさせないでほしい」
- b. nə- ʔán dāwê xì  
 2sg 食べる (禁止)  
 「あなたには食べないでほしい」

- c. ʔəwê xilà dāwê xì  
 3se 食べる (禁止)  
 「彼女には食べないでほしい」

lā の場合と同様、動詞は意志動詞であっても無意志動詞であってもよい。

- (299) a. nə- ʔán dāwê  
 2sg 食べる  
 「お前が食べる」

- b. nə- xilà dāwê  
 2sg 美しい  
 「お前に美しくなってほしい」

このように、dāwê は統語的あるいは意味的特徴において lā と似ている。二つの違いは、lā のほうが丁寧に願望を表明する場合に使われる傾向があるということ、dāwê は、事象が成立することに満足せず、なかばあきらめを感じているときにしばしば使われること、などである。しかし、次のように lā と dāwê が共起することがある。

- (300) nə- ké cəxwà ké lā dāwê  
 2sg 成る 王 可能な  
 「あなたが王様になれますように」(004.267)

したがって、二つの助詞が完全に相反する意味を表すとは考えにくい。

以下に dāwê を用いた例を見ていく。まず一人称主語の例を挙げる。

- (301) jə- mə- lì chōn phí dāwê  
 1sg (非現) 行く 迎える (裨益)  
 「私に迎えに行かせてください」(I-03.17)

- (302) ʔè θi dè nè | θi dāwê  
 (条件) 死ぬ (共) 2SG 死ぬ  
 「あなたと死ぬのなら死んでもいい」(001.1228)

- (303) jə- mə- dànέ dāwê lō  
 1sg (非現) 見せる (断定)  
 「私がお見せしましょう」(III-01.36)

- (304) ʔè mwē nə- lì phú jè nó |  
 (条件) (繫) 2sg 行く 背負う 1SG (題)  
 mə- lì dāwê  
 (非現) 行く  
 「もしあなたが私を背負ってくれるのなら、行きましょう」(III-04.18)

- (305) mə- kè θôUN làn dāwê lái  
 (非現) 書く 送る (内方) 手紙  
 「(あなたにこの) 手紙を書いて送ります」(IV-04.332)

- (306) nə- chəmə nɔ́ jə- mə- bò phí **dáwê** thòN ʔə- yòN  
 2sg 仕事 (題) 1sg (非現) 助ける (裨益) (限界) 3sg 終わる  
 「あなたの仕事は私が最後までお手伝いしましょう」(IV-04.426)

- (307) jə- ʔánjâ **dáwê** lô  
 1sg 謝る (断定)  
 「私に謝らせてください」(V-01.102)

- (308) mənmuàNàN mə- yê **dáwê**  
 姪 (非現) 来る  
 「私 (=話し相手の姪) は必ず来ますからね」(IV-04.148)

次は二人称主語の例である。

- (309) nə- θi **dáwê**  
 2sg 死ぬ  
 「死んでしまえ」
- (310) nə- mə- ʔó chón **dáwê**  
 2sg (非現) いる 健康な  
 「あなたが健康でありますよう」

次は三人称主語の例である。

- (311) ʔəwê lì **dáwê**  
 3se 行く  
 「彼に行かせてくれ」
- (312) ʔə- nākùr wà **dáwê** lô  
 3sg 耳 動く (断定)  
 「耳が動きますように」(I-01.24)
- (313) chə- khō **dáwê** | chə- chòN **dáwê** |  
 CHə 暑い CHə 降る
- jə- mə- lì  
 1sg (非現) 行く  
 「暑くてもいい、雨が降ってもいい、俺は行く」(001.1229)
- (314) xīphàn ʔəcá xilà **dáwê** kō blàN dè chàì  
 (人名) 人生 美しい (毎) ~回 (毎) CHAI  
 「ファイバウンの人生が常に美しくありますように」(IV-04.381)

- (315) bɛ̃ phũmũnàɴ ʈà ʔó ʈò  
 (比定) 妹 心 ある (比定')  
 mə- bá ké thán dǎwê kō mɛ̀iɴ dè nê  
 (非現) (当為) 成る (完成) (毎) ~種類 (毎') NE  
 「君の思うとおりに、すべてがなりますように」(V-01.51)
- (316) chônmon dǎwê  
 考える  
 「(思いたければ) 思わせておけばいいさ」(IV-04.32)
- (317) thôn kòkəjàɴ lànʔó lə- chāɴ |  
 (限界) 世界 朽ちる 一 段階  
 ʔó dǎwê nāɴ ʔà xì  
 いる (少数) ~人 (禁止)  
 「この世が終わるまで、(あいつのような男が) 現れませんように」(V-05.121)

## 18.28 mɛ̀iɴ < 自然な成り行き >

外的環境の大きな変化がなければ、自然な成り行きとして動詞の表す事象が生じることを表す。「(~などの事情で)~することになった」「そのまま~することになった」「知らず知らずのうちに~になった」。

- (318) pətháu lúʔò pətháu léjò | jái mɛ̀iɴ ləpĩ ɓ̃  
 止まる あちら 止まる こちら 久しい 少し XO  
 「(バスが) あっちに止まったりこっちに止まったりして、少し遅くなってしまったんですよ」(001.401)
- (319) khlàin ló pjáu mɛ̀iɴ phloun chəkhlaĩn ləcè  
 話す (学習) (専念) カレン 言葉 少し  
 「(そういうわけで) ここのところちょっとカレン語の会話を勉強しているんですよ」(001.2546)
- (320) mə- théphà mɛ̀iɴ dài ɓ̃  
 (非現) 割れる また (疑)  
 「(こんなことをしていると皿が) 割れてしまいますでしょうかねえ？」(001.2550)
- (321) jə- mə- ʔê mɛ̀iɴ lô  
 1sg (非現) 来る (断定)  
 「(成り行き上しかたがないから) これからうかがいます」(001.2550)
- (322) mə- pəu thán mɛ̀iɴ phloun láilē ʈəphjāɴ chĩ lô  
 (非現) 開く (完成) カレン 文学 祭り (婉曲) (断定)  
 「(例年のごとく) 今年もまたカレン文学の祭りを開くことになりました」(013.9)

- (323) ləjailəm̄ xiphàn ʔə- θàbòn láu m̀èin chī l̄  
 間もなく (人名) 3sg 命 尽きる (婉曲) (断定)  
 「間もなくファイブンは息をひきとった」(IV-04.452)

- (324) jə- θón ʔə məkhó thələn m̀èin læcè  
 1sg 諭す 3SG さっき 過ぎる 少し  
 「私がさっき彼を教え諭したやり方は、(知らず知らずのうち) 少し度が過ぎてしまっ  
 た」(V-03.112)

- (325) θwíw̄θú n̄ m̄wē m̀èin múmú ʔə- phómú Ɂâ θj̄â ʔé  
 (人名) (題) (繫) (人名) 3sg 娘 (疑) 知る (否)  
 「トゥイーウォートゥーはムームーの娘かも知れない」(V-04.169)

▷ この例では、「トゥイーウォートゥーがムームーの娘だ」ということが状況から判断した最  
 も自然な推論であることが m̀èin によって表されている。

- (326) lānkhāin n̄n bl̄n càibò | chəxwà θj̄â m̀èin dù  
 最後 (少数) ~ 回 (条件) 王 知る DU  
 「(人々がその噂を知ってゆき、) 最後には、王の知るところとなった」(006.47)

- (327) lì θ̄uɣ̄n̄ m̀èin n̄- phūkhwā khléinθàucà dè ʔéθwíw̄  
 行く 送る 2sg 弟 (人名) (列挙) (人名)  
 nī yà jò lé kl̄n phàdú Ɂwèj̄inmjò ʔò  
 二 ~ 人 この (場) 仏塔 大きな (固有名詞) (遠方)  
 nān thī Ɂ̄  
 (少数) ~ 回 XO  
 「このままクレイタウチャーとエートゥイーウォーのふたりをシュエインミョー・パ  
 ゴダにちょっと送っていってください」(IV-04.176)

- (328) θàucà n̄ lì lé xiphàn yéin ʔò |  
 (人名) (題) 行く (場) (人名) 家 (遠方)  
 l̄thāin chà dè xiphàn |  
 シャベる CHə (共) (人名)  
 mī m̀èin lé xiphàn yéin ʔò n̄ l̄  
 寝る (場) (人名) 家 (遠方) (のだ) (断定)  
 「タウチャーはファイブンの家に行って彼女と話をし、そのまま彼女の家に泊まっ  
 た」(IV-04.307)

- (329) phāθúyè nī yāin |  
 (人名) 得る 力  
 chónkí thán m̀èin mā chī  
 鳥肌 上がる (非常) (婉曲)  
 「パートゥーゲーは元気づけられて、(知らず知らず) 鳥肌が立った (=感動した)」  
 (V-04.92)



## 18.29 θâ &lt; 新局面 &gt;

文の表す事象がそれまでとは異なる新しい局面を形成することを表す。「(以前とは違ってかわって) もう ~ だ」。ビルマ語に訳すと、助詞 /-tô/ に対応することが多い。

- (330) ʔəwədə́ bá ʔó θú thàin θâ wê xèxè lō  
 3se (当為) いる (内密) (追加) (強意) 静かに (断定)  
 「彼は今度は静かにだまっているしかなかった」(II-05.10)

- (331) pái wái θâ rədijò  
 消す (徹底) ラジオ  
 「もうラジオを消しなさい」(002.113)

▷ pái はビルマ語 /peiʔ/ の借用。

- (332) thàin θâ bálê bò  
 帰る なぜ BO  
 「もう帰ったらどうだ」(002.430)

- (333) ʔó θâ θôn nwê lō  
 ある 三 ~ 週間 (断定)  
 「もうあと三週間しかない」(003.999)

- (334) khlàin θâ xèxè  
 話す ゆっくり  
 「(今からは) ゆっくり話してくれ」(IV-04.75)

- (335) khlàin thán θâ nān yà lòn ʔé  
 話す (外方) (少数) ~ 人 もはや (否)  
 「もはや誰も声を出さなかった」(V-01.103)

- (336) chəkhàin ʔó | lò θâ ləkhàin  
 話し ある 語る 後で  
 「話があるなら後で話しなさい」(V-03.42)

- (337) ʔəkhəpəjò lì θâ lə- mèin chī  
 意味 行く 一 ~ 種類 (婉曲)  
 「(言ったことが) 別の意味になってしまった」(V-04.167)

- (338) [C nānxwàkhlóun jò mwē ʔəjáu dó tháu ]  
 (鳥の1種) (題) (繫) 年齢 大きい (最上)  
 kəchān dè chəʔàu θijā θâ wê lō  
 象 (列挙) 猿 知る (強意) (断定)  
 「ナンホワクロン鳥が一番年を取っているということ、象と猿はついに知ったのだった」(III-10.19)

- (339) cōkhléin mə- thàin kèyòkhó lô càibò |  
 (人名) (非現) 帰る 明日 (断定) (条件)  
 xíphàn mə- ?ó θā dè phlòuN lé  
 (人名) (非現) いる (共) 誰 (疑)  
 「あなたが明日帰るのなら、私は (今後は) 誰と一緒にいればよいのだろう」(IV-04.312)

- (340) hənānkəchā ké thán thàin mōphā má |  
 自分達 成る (完成) (追加) 父母 ～してはじめて  
 [C lé hə- yàn pī khā hə- phā θè  
 (場) 1pl 姿 小さい 時 1pl 父 (複)  
 ?é hò phəbàu lê ] θijā θā  
 愛する 1PL どれほど (疑) 知る  
 「自分達が親になって初めて、自分が小さいころ父たちが自分をどれほど愛していたか知るのだ」(V-03.93)

主語の指示対象が新しい局面を作り出す原因であるとき、しばしば主語の倒置が生じる。次の例を見られたい。

- (341) ?ó θā △ ?əxí dè ?əphài  
 ある 骨 (列挙) 皮  
 「骨と皮しか残っていなかった」(V-01.78)  
 (342) ?óthō θā △ ?əthàin xāin θè thəmā lô  
 残る 枝 乾いた (複) 専ら (断定)  
 「(木々は葉が落ちて) みな乾いた枝だけになってしまっていた」(V-05.5)

## 18.30 plò

plàn または pràn と同発音する。おそらく動詞 pràn 「清潔な」に由来する。次のような用法がある。

### 18.30.1 plò(1) <無価値>

動詞の表す事象が生起することに何らかの価値観から見た価値がないことを表す。「無意味にも～する」「ただ～する」。

- (343) mə- láu plò cì  
 (非現) 失う 金  
 「お金を無駄に失うことになる」(004.412)  
 (344) nə- mə- khōyó plò thəmāthəmā nó chī lô  
 2sg (非現) 焦げる 必ず (のだ) (婉曲) (断定)  
 「(山火事が起きたら) あなたはきっと(何もできずに) 丸焦げになるだけさ」(II-11.10)

- (345) pə- ʔəcá mə- xôuN plò klàn bá khó  
 1pl 人生 (非現) 崩れる (傾向) (不抗) (未来)  
 「私達の人生は台無しになってしまうだろう」(IV-03.35)
- (346) bê lə- lənʔú lənklá plò bá θò  
 (目的) (否) 枯れる 朽ちる (否') (目的')  
 nə nə jə jə lən bá ʔətà kō yà dè lō  
 2SG 2SG 1SG 1SG 下りる (不抗) 義務 (毎) ~人 (毎') (断定)  
 「(カレン民族が) 意味もなく消滅してしまわないように、あなた達と私達には(それを防ぐ) 義務がある」(IV-09.58)

### 18.30.2 plò(2) <無料>

無料で何かを得ることを表す。「ただで~する」。

- (347) ʔè nī plò | ʔán láuchêin  
 (条件) 得る 食べる すべて  
 「(金を払わずに) ただでもらえるのなら全部食べる」(004.100)
- (348) mənī plò nī vā  
 取る 可能な (疑)  
 「ただでもらっていいですか?」(002.998)

## 18.31 ɕàu

動詞 ɕàu 「驚く、はっとする」に由来する。次のような用法がある。

### 18.31.1 ɕàu(1) <驚愕>

動詞の表す事象の生起を話し手が予想していなかったことを表す。「驚いたことに~だ」。

- (349) thái khó nó | phí ɕàu  
 切る 頭 (前提) 短い  
 「髪の毛を切ったら短くなってしまった」
- (350) ʔánphôn mì khūyó ɕàu  
 炊く ご飯 焦げる  
 「ご飯を炊いたら焦げてしまった」
- (351) thòn ɕàu phlòuN thíkhān lə- blàn ...  
 着く カレン 国 ー ~回  
 「思いがけずカレン州に到着して...」(V-04.49)

- (352) ʔə- phú dó ɕàʊ pàʊpàʊpàʊ  
 3sg 子供 叩く (擬音語)  
 「なんと、子が(父親を)パシッパシッパシッと叩いた」(020.79)

- (353) phlòʊnmúɕā bádòʊ dè θwíwòθú mō lə- yà  
 中年女性 似ている (共) (人名) 母 ー ~人  
 phâθúyè dá bá ɕàʊ wê chī lô  
 (人名) 見える (不抗) (強意) (婉曲) (断定)  
 「トゥイーウォートウーの母らしき中年女性を、パートゥーゲーは思いがけず目撃した」(V-04.122)

### 18.31.2 ɕàʊ(2) <信念のなさ>

確たる信念もなく動作を行うことを表す。「何となく ~ する」。

- (354) yê ɕàʊ lə- thí jò | thòʊ mèn  
 来る ー ~ 回 (前提) 着く (自然)  
 「今回、何とはなしに来てみたら、着いてしまった」(003.948)
- (355) mwē ʔè tàʊ ɕàʊ thón ní |  
 (繋) (条件) 作る コマ 一度  
 mō yánpʰù yáyè  
 (非現) 鳴る よく  
 「もしコマでも作ってみたりしたら、よく鳴るだろうなあ」(018.12)

### 18.32 ɕòʊ <共同>

動作を表す動詞に付き、その動作を少数の複数人数で行うことを表す。主語は単数の場合と複数の場合とがある。

- (356) lì ɕòʊ klòʊ dòʊnjān  
 行く 仏塔 (地名)  
 「ドンインのパゴダに一緒に行く」(004.419)
- (357) lə- nímū ʔəθí nó ləthàʊ ɕòʊ lóθà ...  
 ー 日 3pl (題) 喋る (相互)  
 「ある日彼らは相談して…」(III-10.4)
- (358) jə- ləthàʊ ɕòʊ chəkhlaʊ báchâindálé  
 1sg 喋る 話し ~ について  
 nəθí yê cáinkwè ʔəcòʊ dàì  
 2pl 来る 訪問する 事柄 まだ  
 「私はあなた方が遊びに来たことについて(彼らと)まだ話しているのですよ」(012.25)

- (359) mə- thàin ʔó ɕòN dè nè thōNʔəthōN dài x̄  
 (非現) 帰る いる (共) 2SG 必ず また XO  
 「帰ってきてから必ずあなたをおもてなししますからね」(V-04.19)

▷ ʔó ɕòN は文字通りの意味は「いっしょにいる」だが、「もてなす」という意味の慣用句としても使われる。

### 18.33 kòuN < 共同 >

動作を大勢で行うことを表す。ɕòN と違い、主語は常に複数である。動詞 kòuN 「集まる」に由来する。

- (360) ʔəθí ɣè kòuN  
 3pl 動く  
 「彼らはみんなで活動している」
- (361) pəphlòuNphú θè dá kòuN lóθà khā ...  
 カレン民族 (複) 会う (相互) 時  
 「カレン人が大勢集まったときには...」(V-03.5)
- (362) θéin phàdú lə- thóuN ʔəkhí jò thúphólíphú chōN làn kòuN ...  
 木 大きな 一 ～本 先 (題) 小鳥 とまる (下方)  
 「大きな1本の木の先に小鳥たちがとまっていて...」(IV-05.12)
- (363) thúlèinʔwà lə- mèin nó dò  
 鷺 一 ～種類 (題) (別個)  
 ʔó kòuN wê dè ʔədón nó lô  
 いる (強意) (共) 群れ (のだ) (断定)  
 「鷺だけは群れをなして集まっていた」(II-01.12)
- (364) thúʔərèinphú θí làn kòuN  
 (鳥の一種) (類似) 下りる  
 cò ʔán khwái wê chəphúxā θí nó ʔəkhúcòn ...  
 つつく 食べる (徹底) (強意) 虫 (複) (のだ) (理由)  
 「アレインブー鳥も、皆で(地面に)下りて害虫をつついて食べてしまうので...」(II-01.27)
- (365) phlòuN chèphú néinthánθân nó bònáinjò  
 カレン 民族 新年 (題) 現在  
 phlòuN chèphú θí mà kòuN wê ʔá thán jàu  
 カレン 民族 (複) する (強意) 多い (変化) (完)  
 「カレン人の新年祭は、最近(大勢で)集まってすることが多くなってきた」(III-11.21)

## 18.34 kón &lt; 共同 &gt;

kòuN と同様に、動作を表す動詞に付き、その動作を大勢の複数人数で行うことを表す。kòuN との違いは明らかではない。

- (366) thú khəmlōuN chāmwē ?ó nó bá yê kón  
鳥 群衆 すべての いる (題) (当為) 来る  
「すべての鳥の民衆たちは、毎日、来なければならなかった」(II-02.7)

- (367) ?əθiwē bá lì kón wē dài chī lô  
3pe (当為) 行く (強意) また (婉曲) (断定)  
「彼らは皆、また出かけていかなければならないのだった」(II-02.15)

- (368) yê ?ò kón wē ?á?alé chī lô  
来る 飲む (強意) たくさん (婉曲) (断定)  
「(彼らは) やってきて(酒を) たくさん飲んだ」(IV-05.19)

## 18.35 xáu &lt; 共同 &gt;

動作を少数で行うことを表すという点では、先に述べた còN と同様である。còN との違いは、xáu が「親密さ」を表すということである。主語は単数の場合と複数の場合とがある。

- (369) lókwè xáu  
遊ぶ  
「(私は幼いころ彼女と) 一緒に遊んだ」(V-04.34)

- (370) mənphōklò phúkhwā còpìcì ?ó xáu phjā dè hà phlé lô  
(人名) 息子 (人名) いる 僧院 (共) 1PL 一緒に (断定)  
「マウンポークローの息子のチョーピーチーは私達と一緒に僧院に入った」(V-02.71)

- (371) cəcəθéin lə- yà dè θəukhó phómú tìntìnkhaiN ?ó xáu yòN ...  
(人名) 一 ~人 (列挙) 軍人 娘 (人名) いる (継起)  
「チョーチョーテインと軍人の娘のティンティンカインは一緒になって(=結婚して)...」(V-05.85)

## 18.36 chèn

次の二つの用法がある。

## 18.36.1 chèn(1) &lt; 協力 &gt;

動作を協力して行うことを表す。主語は複数である。「(誰かを; 何かを) 手伝う」という意味を持つ動詞 màchènの後部音節はほぼ確実にこの助詞と共通の起源を持つ。この màchèn

を、動詞 mà 「する」 に助詞 chèn が付いたものと解釈することはできない。理由は次の通りである。動詞助詞 chèn は動詞の項の取り方を変更しない。従って、もし màchèn を mà 「する」 に助詞 chèn が付いたものだとすると、 màchèn jè 「私を助ける」 から chèn を取り除いても適格な形式が得られるはずだが、実際には mà jè とは言わない(「私をいじめる」という意味では使えるが)。したがって、 màchèn は一つの独立した動詞だと考えたほうがよい。

- (372) tàin thán chèn wè thikəmlôn θí dè cé nó yòn ...  
 作る (完成) (強意) 井戸 (複) (共) 機械 (のだ) (継起)  
 「(彼らは) 協力して機械で井戸を作り...」 (II-04.26)

- (373) wé pràn chèn təwân phənθà  
 掃く きれいな 村 道  
 「村の道を皆できれいに掃いてください」 (I-sen.22)

- (374) təwânphú θí khəwɪn chèn məlōncón yòn jàu  
 村人 (複) 掘る 水路 終わる (完)  
 「村人たちは水路を掘り終わった」 (I-sen.35)

- (375) bá klìcì chèn wê lô  
 (当為) 努力する (強意) (断定)  
 「(その民族の構成員すべてが) 努力しなければならないのである」 (III-07.21)

- (376) hə- bá pətòn chèn kō yà dè lô  
 1pl (当為) 創造する (毎) ~人 (毎') (断定)  
 「私達は(子孫のためになることを) 皆が協力して作り出さなければならないのである」 (IV-01.113)

- (377) pə- mə- bá jū yì chèn kō yà dè lô  
 1pl (非現) (当為) 見る 良い (毎) ~人 (毎') (断定)  
 「私達は(カレンの文字を) 見守って良くしていなければならないのである」 (IV-10.16)

### 18.36.2 chèn(2) <一斉>

同一時間に大勢が同じ動作をする、あるいは、同じ状態を呈することを表す。

- (378) thú khəmlōun θí ɕ θàthó chèn ɕ  
 鳥 民衆 (複) 喜ぶ  
 ɕ ʔédò chèn ɕ wê bənʔò ʔəkhúcòn ...  
 愛する (強意) そのように (理由)  
 「鳥たちはそのように皆喜んだので...」 (II-02.45)

- (379) təmjàN chəN bá ʔəθíʔə- θà kò yà dè nó lô  
 奇妙な (無意) 3pl 心 (毎) ~人 (毎') (のだ) (断定)  
 「みな一斉に驚いたのだった」(II-10.10)

▷ təmjàN θà は「驚く」という意味の慣用句。

- (380) mūdómànthô ləphá lò làn ʔánθón chəkhlaìN  
 目上の人 (複) 語る (下方) 諭す 言葉  
 chônna chəN kò yà dè lô  
 聞く (毎) ~人 (毎') (断定)  
 「(新年の祭りで村の偉い人たちが) 話す言葉を (村人達が) 一斉に聞くのである」  
 (III-11.15)

- (381) pə- láí jò ʔè lə- yəwɪŋkhəN |  
 1pl 文字 この (条件) (否) 堅固な  
 chə- mə- nūtòuN ʔánkó chəN pə- láí jò  
 CHə (非現) 笑う 非難する 1pl 文字 この  
 「私達の文字がもし堅固なものでなければ、(他の民族が) 私達の文字を嘲り笑うだ  
 ろう」(IV-10.14)

### 18.37 thàu < 続行 >

動詞の表す動作を続行することを表す。「~し続ける」。

- (382) bá klìcì thàu  
 (当為) 努力する  
 「引き続き努力しなければならない」
- (383) ʔán thàu θí nāN wāN dō  
 食べる 薬 (少数) ~回 (別個)  
 「もう 1 回続けて薬を飲みなさい」
- (384) lò thàu jāN phókhwā  
 語る ~しなさい 息子  
 「続けて話しなさい、息子よ」(V-03.115)

### 18.38 thāN < 常時 >

動詞の表す事象が常時あるいはある期間ずっと生起することを表す。

- (385) nāʔí làn thāN  
 鼻汁 下りる  
 「鼻汁がいつも垂れている」



- (386) bá pàθətài thān  
(当為) 気を付ける  
「いつも気を付けていなければならない」(004.506)
- (387) yê thān klə lə  
来る いつも (断定)  
「(彼は)いつも来てばかりいる」(003.941)
- (388) jə lə- yà mə- bá kə thān lái  
1SG — ～人 (非現) (当為) 書く 手紙  
lé nə- ʔú klə lə jābò  
(場) 2sg 所 いつも (断定) JABO  
「私はあなたのところへいつも手紙を書かなければならないですよ」(V-04.6)
- (389) ʔə thān wə ʔəwə mó  
飲む (強意) 3se 煙草  
[<sub>R</sub> ʔú ʔə- cú nī bòn chàu ] nó chī lə  
ある 3sg 手 二 ～本 間 (のだ) (婉曲) (断定)  
「(彼は)2本の指の間にはさんだ煙草をずっと吸っていた」(V-04.199)

### 18.39 pjáu < 専念 >

ある期間に間断なく動作を行うことを表す。pjá と同発音する。動詞 pjáu 「付いていく」に由来する。

- (390) θàucà kə pjáu xīphàn  
(人名) 呼ぶ (人名)  
「タウチャーはファイパウンに呼びかけ続けた」(IV-04.448)
- (391) jə pjáu wə ʔə- phómúí nó kō nì dè lə  
見る (強意) 3sg 娘 その (毎) ～日 (毎') (断定)  
「(彼らは) 娘の世話を毎日ずっとしている」(IV-04.354)
- (392) nīdò pjáu khléinθàucà dè ʔéθwíwò lə chəkhlaín nó ...  
微笑みかける (人名) そして (人名) 語る 言葉 (題)  
「(彼女は) クレイタウチャーにずっと微笑みかけた。そこでエートゥイーウォーの言った言葉は...」(IV-04.39)
- (393) ʔəθíwéʔə- mō khə  
3pl 母 (対比)  
chà pjá ʔə- phú chāin kàin khòkhə |  
縫う 3sg 子供 シャツ 布 一方では

thó wà pjá cháu khòkhô  
揺らす 揺れる 揺りかご 一方では  
「彼らの母は、子供のシャツを縫いながら、一方では揺りかごを揺らしいていた」  
(V-03.95)

- (394) xīphàn jōthwê pjáu thàin kâ nó |  
(人名) 見つめる (再度) 自動車 その  
thōN ʔə- làn mā lə- chāN  
(限界) 3sg 消える — ~ 段階  
「見えなくなるまで、ファイパウンはずっとその車を見つていた」(IV-04.343)

## 18.40 wê < 強意 >

強意を表す。

- (395) θàυ θà wê (=θàυ wê θà)  
移動する (再帰)  
「(彼は別の場所へ) 移動した」(001.3501)
- (396) kəphjā jò kò wê lé phlòuN khô pīθò lè  
もの この 呼ぶ (場) カレン 側面 どのように (疑)  
「これはカレン語で何と呼びますか？」(002.260)
- (397) lò thá wè wê ʔəwê mə- yê  
語る (保持) (備え) (強意) 3se (非現) 来る  
「彼は(私に) 来ると言っていた」(004.220)
- (398) lé ʔəwī dáʔò díθú lə- béin  
(場) 以前 (過去) カエル — ~ 枚  
ʔó wê lé mēinlá klà nó lô  
いる (場) 森 間 (のだ) (断定)  
「昔、カエルが 1 匹、森の中に住んでいた」(III-03.3)
- (399) múmú pətháu mēin wê ʔə- chəkhlaín  
(人名) とめる (自然) (強意) 3sg 言葉  
「ムームーは話すのをやめてしまった」(V-04.142)

wê は、しばしば、可能を表す分離型動詞連続の V1 に付いて、「他の場合はともかくとして V1 が表す事象については可能である」ということを表す。

- (400) ná wê θí  
聞く できる  
「(外国語を) 聞いて分かることは分かる (=読んだら分からないかもしれないが、聞いた場合には分かる)」(001.3503)

- (401) ʔán wê θí mà lê  
 食べる できる (非常) (疑)  
 「ずいぶん食べられるものだね (=食べること以外はともかくとして、食べる能力は高いんだね)」(004.248)
- (402) ʔánkèin yê thàin wê bóuɪn ʔé chī  
 頼む 来る 帰る 勇敢な (否) (婉曲)  
 「帰る許可をもらう勇気がなくなってしまった (=帰る許可をもらうということに関しては、勇気がなくなった)」(V-04.31)

### 18.41 wêdá < 強意 >

様々な動詞に付き、強意を表す。wê に似ているが、wêdá は格式張った文体で出てくることが多い。口調を整えるための (euphonic) 働きもあると思われる。

- (403) thī lé mächəməi phèn nó ʔəljɔ̄ yān wêdá lô  
 水 (場) 海 中 (題) 味 塩辛い (断定)  
 「海の中の水は味が塩辛い」(I-02.8)
- (404) təphūwē nī yà lì wêdá lé ʔə phā càn ʔò lô  
 きょうだい 二 ~人 行く (場) 3sg 父 小屋 (遠方) (断定)  
 「姉と弟の二人は父の小屋へと向かった」(I-06.35)
- (405) pə- təwān nó mwē wêdá  
 1pl 村 (題) (繫)  
 pəmàcháiphú dè pəmàklòphú θí ʔə- təwān lô  
 稲作民 (列挙) 沖積地稲作民 (複) 3sg 村 (断定)  
 「私達の村は農民の村です」(I-10.13)

### 18.42 tèt < 甚だしさ >

程度の甚だしさを表す。tètèt あるいは tətèt とも言う。タイ語 /thé/ 「本当の」と語源的に関係がある可能性がある。

- (406) mə- bá pàdú jàuján tèt lô  
 (非現) (当為) 尊敬する 敬う (断定)  
 「(目上の人)は敬わなければならない」(III-10.6)
- (407) mwē tèt lô  
 (繫) (断定)  
 「まさにその通りだった」(III-12.22)
- (408) thú ʔəlèin ká tèt ʔə- θà ...  
 鳥 コマドリ 難しい 3sg 心  
 「コマドリは大変恥ずかしい思いをして...」(IV-07.51)

- (409) mwē phlòuN ch̀̀phó cúlāN yìʔwà  
 (繫) カレン 民族 作品 素晴らしい  
 hə- l̀ ḱ t̀ təcā l̀  
 1pl 語る 可能な 確かに (断定)  
 「カレン民族の一級の民芸品だと、確かに言うことができる」(V-02.146)

- (410) ʔédú t̀ cō ʔəkhúcòn ...  
 愛する 兄 (理由)  
 「あなたのことをとても愛しているから…」(V-05.70)

- (411) C máu mjâC C máu tət̀ C  
 快適な 非常に 快適な  
 「非常に楽しい」(V-04.53)

### 18.43 māt̀ < 甚だしさ >

様々な動詞に付き、程度の甚だしさを表す。

- (412) ʔó māt̀ jūjèin  
 いる 静かな  
 「大変静かだった」(003.807)

▷ この文で māt̀ は ʔó の後に付いているが、意味的には jūjèin を修飾している。

- (413) ʔó māt̀ wē xwíçàuxwíçàu  
 いる (強意) すがすがしく  
 「とてもすがすがしい気分だった」(V-04.58)

- (414) nə- m̀bò m̀ch̀n j̀ ʔá māt̀ ʔəkhúcòn |  
 2sg 助ける 助ける 1SG 多い (理由)  
 chə- khōuN chə- tà dú māt̀ ch̄ l̀  
 CHə 感謝する CHə 感謝する 大きい (婉曲) (断定)  
 「大いに手伝ってくれて大変ありがとうございます」(012.31)

- (415) ʔəθí yéin ḱ māt̀ hòt̀ l̀  
 3pl 家 成る ホテル (断定)  
 「彼らの家はまるでホテルのようだ」

▷ ḱ māt̀ ～ は「まるで～のようだ」という意味を表すイディオム。

### 18.44 dáchəθà < 詠嘆 >

様々な動詞に付き、詠嘆を表す。dáθà と同発音される。あるいは dáchə と同言う。

- (416) bádòN nó ʔəwê ʔó máu dáchəθà lô  
 似ている (題) 3se いる 快適な (断定)  
 「彼は健康そうです」(012.39)
- (417) bádòN mū nī thàin θí dáchəθà lô  
 似ている (非現) 得る (再度) できる (断定)  
 「(盗まれた物は) また帰って来ることでしょう」(015.11)
- (418) ʔè lə- mwē bá | lé yàmú mənmuʔnàn xíphàn yéin ʔò  
 (条件) (否) (繫) (否') (場) おばさん 姪 (人名) 家 (遠方)  
 θí mənkhwā thàin mī θí dáθà lô  
 (類似) 甥 帰る 寝る できる (断定)  
 「そうでなければ、私の姪のファイパウンの家に、あなたが泊まってもいいんですよ」  
 (IV-04.139)
- (419) cōkhléin θí ʔó máu chōnkhlain dáθà yìyìbábá lô  
 (人名) (類似) いる 快適な 健康な 良く (断定)  
 「チョークレインもたいへん元気です」(IV-04.373)
- (420) bēnóθò cōkhléin θíjā dáθà lô  
 そのように (人名) 知る (断定)  
 「そのように僕は理解している」(IV-04.463)
- (421) nəθí mə- ʔótháú báθà jə- yéin θí | nī dáchə lô  
 2pl (非現) 泊まる (欲求) 1sg 家 (類似) 可能な (断定)  
 「あなた方が私の家に泊まりたければ、それも大丈夫ですよ」(017.22)
- (422) jə- chī jə- chá ʔəphānkhú [R làn bá jè] mjàncēinʔətà  
 1sg 民族 1sg 民族 上 下りる (不抗) 1SG 責務  
 ləphá yòntháú dáchə lô  
 (複) 終わる (断定)  
 「私の民族に対しての、私に課せられた責任は果たしたのです」(V-04.214)
- (423) miphô lò jè θí lətháú dáchə lô  
 (人名) 語る 1SG (類似) 的を射る (断定)  
 「ミーポーの言っていることも、的を射ている」(V-05.48)

## 18.45 chón < 強制 >

動作を無理に行うことを表す。動詞 chón「強い」に由来する。「無理やり～する」。

- (424) kò chón ʔəwê  
 呼ぶ 3se  
 「彼を無理に連れていった」

- (425) phâθúyè phí chón ?əkhúcòn |  
 (人名) 与える (理由)  
 bá màn̄ mēin wê  
 (当為) 受け取る (自然) (強意)  
 「パートゥーゲーが無理やり与えたので(彼女は)受け取った」(V-04.114)

## 18.46 báθà &lt; 欲求 &gt;

欲求を表す。「～したい」。wáθà とも発音される。動詞 báθà 「欲する」に由来する。この助詞が使われたとき、動詞の表す事象がいかなる時点のものであれ、しばしば動詞の前に非現実法を表す動詞助詞 mə- が置かれる。

- (426) mə- chíchâ báθà chī vā  
 (非現) 排尿する (婉曲) (疑)  
 「おしっこしたいか？」(004.80)
- (427) nə- ?è mī wáθà | mī  
 2sg (条件) 寝る 寝る  
 「寝たければ寝なさい」(002.583)
- (428) mə- ?ó báθà bē ?əθí ?ó θò nānm̄lái nà  
 (非現) いる (比定) 3pl いる (比定') 瞬時 ~ だなあ  
 「少しだけでも彼らのようになりたいものだな」(V-03.64)
- (429) nə- mə- ?ánlō báθà jè dài vā  
 2sg (非現) 嘘をつく 1SG また (疑)  
 「君はまた私に嘘をつきたいのか？」(V-05.40)
- (430) jə- θà cáicáu | lì báθà ?é  
 1sg 心 混乱した 行く (否)  
 「いやになった。行きたくない」(003.155)
- (431) dà ?ánlū báθà ?ə thī ?é  
 (使役) 浴びる 3SG 水 (否)  
 「(私は彼が風邪をひいているので) 彼に水浴びをさせたくない」
- (432) ?ólən̄m̄ū chə?àv mə- θijā báθà phā chəkhlān  
 ある日 猿 (非現) 知る 父 言葉  
 「ある日、その猿は父の言葉(の意味を)知りたくなった」(III-12.18)
- (433) phlòuN chəphú θí ?è dúcā báθà nó |  
 カレン 民族 (類似) (条件) 発展する (題)  
 bá kləc̄ jū láipərən̄ nó lō  
 (当為) 努力する 見る 新聞 (のた) (断定)  
 「カレン人も、もし発展したいのなら、努力して新聞を読まねばならない」(III-07.25)

## 18.47 thá &lt; 保持 &gt;

動詞が表す事象の生起によって生じた何らかの結果を保持することを表す。「～しておく」「～してある」。dá とも発音されるので、後述する動詞助詞 dá と区別が難しいことがある。ビルマ語の動詞 /thá-/ 「置く」の借用か？ポー・カレン語には thá という音形の動詞はない。

- (434) jə- chôn mÓN thá jə- mə- lù khāN pəjàN  
 1sg 考える 1sg (非現) 行く 国 ビルマ  
 「私はビルマに行こうと考えている」

- (435) nə- láifəu nó mánáin thá wè  
 2sg 本 (題) メモする (備え)  
 「ノートにメモしておきなさい」

- (436) jūjā thá wè jàu  
 慣れている (備え) (完)  
 「もう慣れている」

- (437) chəʔəu phón thá lānkəthá ʔə- khāN nó xáixái chī lō  
 猿 持つ ハゲワシ 3sg 足 その しっかりと (婉曲) (断定)  
 「猿はハゲワシの足をしっかりと持っておいた」(III-12.26)

- (438) kəlì hə- bá θí thá chē láí nó lō  
 ～すべき 1pl (当為) できる 民族 文字 (のだ) (断定)  
 「私たちは(カレン)民族の文字を習得しておくべきである」(IV-09.37)

- (439) ʔánphôn thá θôn nó lê  
 料理する おかず 何 (疑)  
 「何のおかずが作ってあるのか？」(V-03.136)

- (440) chām wē chəʔánchəʔə ʔó nó  
 すべて 食べ物 ある (題)  
 bá kà bài thá dè ʔəkhókhláu θí nó lō  
 (当為) かぶせる ふさがる (共) 蓋 (複) (のだ) (断定)  
 「すべての食べ物は蓋で覆いをしておかなければならない」(II-12.17)

- (441) kèyòkhó jə- ʔè càu nè nó | pəxá thá ʔèkhôn  
 明日 1sg (条件) 引く 2SG (題) ふんばる しっかりと  
 「明日おれがおまえを引っぱったら、しっかりとふんばっておいてくれ」(III-03.26)

- (442) [R chē phîphû ləwī khlothō lān thá ] cútlan yì  
 民族 祖先 以前 残す (下方) 技術 良い  
 「(カレンの)祖先が残しておいてくれた良い技術」(IV-01.118)

thá は他動詞に付くことが多いが、次のように自動詞に付くこともある。

- (443) kòkəjàn khódà jò mənī chəphú θí kō ch̀ dè nó  
 地球 表面 この 人間 民族 (複) (毎) 民族 (毎') (題)  
 ʔəθí láilē dè chəkhlaín nó ʔó dá wè cháucháu lô  
 3pl 文学 (列举) 言葉 (題) ある (備え) 代々 (断定)  
 「この世界においてはどの民族も文学と言葉は代々受け継がれているものである」  
 (IV-06.3)

## 18.48 wè < 備え >

きたるべき何らかの事態に対する備えとして、動詞が表す事象の生起によって生じた結果を持続させることを表す。thá と似ているが、thá には何かに備えるという意味合いはない。thá と共起することもある。「前もって～する」「あらかじめ～する」。

- (444) ləpəŋən thá wè x̄  
 知らせる (保持) XO  
 「あらかじめ知らせておいてください」
- (445) kəlôn mī wè  
 急ぐ 寝る  
 「急いで寝ておきなさい」
- (446) mə- ʔánphônʔán wè mī  
 (非現) 炊く ご飯  
 「(帰ってすぐ食べられるように) ご飯を作っておきましょう」(002.63)
- (447) cānbò jə- lə wè nə jā  
 だから 1sg 語る 2SG JA  
 「だから言っておいたでしょう？」(V-03.128)
- (448) jū wè ʔəthi phóli ɣé  
 見る 正確に 若者 ～よ  
 「若者たちよ、しかと見ておきなさい」(V-02.96)
- (449) jə- mə- lə wè x̄  
 1sg (非現) 行く XO  
 「私、先に行っておくね」(003.778)
- (450) chəchá ʔè ʔó | pə- bá bjàn wè lô  
 病気 (条件) ある 1pl (当為) 治す (断定)  
 「病気があれば、治しておかなければならない」(I-sen.91)



- (451) pəphlòuN ch̀ìphó jò láí ʔó wè jàu lànân ʔí ...  
 カレン 民族 (題) 文字 ある (完) (逆接) (類似)  
 「カレン民族には前から文字はあるのだけれども…」 (IV-10.4)

- (452) [R pə- ʔí thá wè ] pə- láí lə- cóN nó  
 1pl できる (保持) 1pl 文字 — ～箇所 (題)  
 ʔí mə- ké thán wè chəplòplè lô  
 (類似) (非現) 成る (完成) (強意) 無駄 (断定)  
 「習得しておいた文字も、無駄になってしまおうだろう」 (IV-01.43)

## 18.49 wī < 先行 >

wì とも発音される。動詞が表す事象の生起が他の何らかの事象の生起よりも早いことを表す。「先に～する」。下に例を挙げる。

- (453) kəlà lə- ʔáN mì dàí bá |  
 時 (否) 食べる ご飯 まだ (否')  
 ʔijà khwái wī nə- cúí nó  
 洗う (徹底) 2sg 手 その  
 「ご飯を食べる前に、あなたのその手を洗いなさい」 (001.3519)
- (454) ká ʔəjò lə- phlóuN dè ʔəjò lə- phlóuN  
 自動車 これ — ～個 (列举) これ — ～個  
 mə- cáin lán wī khòkhô phlóuN lê  
 (非現) 出る (外方) どちら ～個 (疑)  
 「こちらの車とこちらの車、どちらが先に出ますか？」 (001.1770)
- (455) pə- mə- dá bá wī lé [C thilápjàuφhó  
 1pl (非現) 見える (無意) (補) 泡  
 ʔí yê ké thán ] nó chū lô  
 (複) 来る 成る (完成) (のだ) (婉曲) (断定)  
 「(湯を沸かすと) まず泡ができるのが見える」 (II-09.2)
- (456) nân mə- kò pjà làn wī yàmú mèn Ɂ̃  
 姉 (非現) 呼ぶ (提示) (下方) おばさん 名前 XO  
 「まず、おばさんの名前を言いますね」 (IV-04.117)
- (457) mə- bá lì wī lé xīphân ʔó nāN thí  
 (非現) (当為) 行く (場) (人名) ところ (少数) ～回  
 「まずちょっとファイパウンのところに行かなければならない」 (IV-04.422)

- (458) chòlè khì θí jò hə- tàì wī ʔəméjā θí yì ʔé  
 (強調) 時代 (複) この 1pl 出る 前 (類似) 良い (否)  
 「今の時代は、(流行を追って) 先頭に立つのも良くない」(V-05.59)

もし、誰か(何か)より早いということが言いたければ、比較の対象を表す名詞句を、比較を表す動詞助詞 *dá* を用いて導入する必要がある。次の例を見よ。

- (459) jə- yê wī dá ʔəwê dàì  
 1sg 来る (比較) 3se まだ  
 「私は彼より早く来た」(001.3515)

*wī* は、命令を表す文において、使われることがよくある。「他のことをするよりもまずはこのことをせよ」ということを表すのだと思われる。しかし、実際には、丁寧な命令を表しているようにも見える。下に例を示す。これらの *wī* が元来の意味を保っているのか、それとも失ってしまっているのかは不明である。

- (460) ʔópwài wī  
 休む  
 「どうぞ休んでください(注:来客に対して言う決まり文句)」

- (461) ʔókhò wī nānmlái  
 待つ 一瞬  
 「ちょっと待ってください」

- (462) plètò wī còkhléin  
 許す (人名)  
 「僕(=チョークレイン)を許してくれ」(IV-04.335)

## 18.50 kwè <遊び>

動詞が表す動作を冗談や遊び心であることを表す。「～して遊ぶ」「冗談で～する」。語源的には動詞 *lókwè* 「遊ぶ」と関係がある。*lókwè* そのものが、今では意味を失ってしまった形態素 *ló* に *kwè* が付いたものである可能性がある。

- (463) mwē lə kwè dālō  
 (繋) 語る (断定)  
 「からかったんだよ」(002.995)

- (464) ʔólənīmū khłài nó lì xáin kwè  
 ある日 亀 (題) 行く めぐる  
 lé kò phàdú phòn nóṭā ...  
 (場) 森 大きな 中 (前提)  
 「ある日、亀が大きな森の中を散歩していると…」(II-11.4)

- (465) chə- xáin wèinwàn kwè wānkəpò ʔó wê nótā ...  
 CHə めぐる ぶらつく 境内 いる (強意) (前提)  
 「(その仏塔は) 境内を散策する人が多く、...」(V-06.41)
- (466) ʔán khwái mì θèyònláu lòthàin kwè chə  
 食べる (徹底) ご飯 (継起) しゃべる CHə  
 「ご飯を食べてから、おしゃべりを楽しんだ」(IV-04.149)
- (467) mənkhwā θè ləyájò thàin mī kwè  
 甥 (複) 今晚 帰る 寝る  
 lé yàmú yéin ʔò kō yà dè bá jā  
 (場) おばさん 家 (遠方) (毎) ~人 (毎') 正しい JA  
 「あなた達みな、今夜はおばさんの家に遊びにきて泊まりますか?」(IV-04.138)

## 18.51 mábá < 過誤 >

máwá, məwá と同発音される。また、má とも言う。動作を不注意や過ちで行ったことを表す。意志動詞に付いた場合には無意志化する。「あやまって ~ する」。

- (468) jə- ʔán máwá nə- kú  
 1sg 食べる 2sg 菓子  
 「あなたの菓子を間違って食べてしまった」
- (469) ʔəwê ʔán məwá chāndí  
 3sg 食べる 鶏卵  
 「彼は卵を間違って食べた (= 「卵にあたった」 の意)」
- (470) mōkhó lì xwè ʔán má θiθá  
 さっき 行く 買う 食べる キンマ  
 「さっき不注意にもキンマを買って食べてしまった」(IV-04.183)

## 18.52 bá

動詞 bá 「当たる、ぶつかる」に由来する。wá と同発音される。下に挙げるような五つの用法がある。

### 18.52.1 bá(1) < 無意志 >

多く意志動詞に付き、動詞の表す動作を無意志的に行うことを表す。「うっかり ~ する」「つい ~ する」「思わず ~ する」。

- (471) còʔéθà nó kànkà bá nə- mēin chī  
 (人名) (題) 噂する 2sg 名前 (婉曲)  
 「チョーエーター氏もついついあなたの名前を口にします」(016.18)

(472) pàdú jàuján bá nə- phānkhú θɛ̀yòN |  
尊ぶ 敬う 2sg 上 (継起)

ʔánʔàv bá nə chà mā  
ほめる (非常) (非常)

「あなたを思わず尊敬してしまうし、ついほめてしまいます」(017.11)

(473) phlòvN mə- chònmón bá nə phlòvN chîphú lə- yà lō  
人 (非現) 考える 2SG カレン 民族 — ～人 (断定)

「人はあなたをカレン民族だと考えてしまうでしょう」(017.13)

(474) jāin bá wê díθúú nó lō  
踏む (強意) 蛙 (のだ) (断定)

「(虎は) うっかり蛙を踏んでしまった」(III-03.7)

(475) jə- klí jū bá xāxòN lə- thí  
1sg 横目で見 見る 周囲 — ～回

「私は思わず周囲を横目で見た」(V-03.31)

(476) thānxá bá wê lé thúchānchîphú ʔə- θwî nó |  
蹴る (強意) (強調) (鳥の名) 3sg 巢 (前提)

lānxōnlāncān khwái wê yòN ...  
崩れる (徹底) (強意) (継起)

「彼はチャンチー鳥の巣をうっかり蹴飛ばしてしまったので、(巣は) 崩れてしまい…」  
(II-02.23)

(477) ʔē mwē nə- thāv nāin bá nə- nā chī càibò  
(条件) (繋) 2sg 拭く (再度) 2sg 鼻 (婉曲) (条件')

ʔəxā θiləphá mə- báýá nū nə chī lō  
菌 (複) (非現) 伝染する (執拗) 2SG (婉曲) (断定)

「(他人が鼻を拭いたハンカチで) つい鼻を拭くと、菌が伝染するのである」(II-13.15)

< 無意志 > を表す bá は無意志動詞に付くこともある。この場合の無意志動詞は、心理や感情を表す動詞であり、その心理や感情が理性では抑えられないことを表す。

(478) kətò bá chī  
心配する (婉曲)

「心配される」(009.33)

(479) θājū thán bá ʔə- θú kəchān nō lō  
懐かしむ (変化) 3sg 友 象 (のだ) (断定)

「(ライオンは) 友人の象のことが懐かしくなってきた」(I-04.27)

- (480) còláiNθéiN θè chərâ θàNkhâ lāiNphú θè nó  
 (人名) (複) 先生 僧侶 (地名) (複) (題)  
 nó thán bá nò kò yà dè lî  
 思い出す (変化) 2SG (毎) ~人 (毎') (断定)  
 「チョーライテインやラインプーの僧院長たちはあなたのことが思い出されるそうです」(008.14)

### 18.52.2 bá(2) < 不可抗力 >

様々な動詞に付き、動詞の表す事象の生起が不可抗力的であることを表す。「~することになってしまう」。例えば、ʔán bá (食べる-bá) は、食べたいか食べたくないかに関わらず、食べるという動作を行う状況が生じることを示す。この bá は、一見、「義務」あるいは「機会」といった意味を表しているようにも見えることが多い。実際、日本語に訳した場合、「~しなければならない」と訳せる場合があり、これは「義務」を表しているように見え、一方「~することができる」と訳せる場合は「機会」を表しているように見える。しかし、これは日本語から見るとそのように見えるだけなのであって、あくまでも bá は不可抗力的ということを表しているのである。

- (481) jə- dá bá nò | jə- θà xwî  
 1sg 会う 2SG 1sg 心 軽い  
 「あなたにお会いできて嬉しいです」
- (482) mə- thàin làn bá ʔəkhâ bêθî lê  
 (非現) 帰る (下方) 時 どのような (疑)  
 「いつ帰らなければならないのか」(IV-04.15)
- (483) hə- mə- lò thàin bá ʔə- chəkhōunchətà dè nó lê  
 1pl (非現) 返す (返答) 3sg 恩 (共) 何 (疑)  
 「私たちは彼女の恩をどうやって返すべきだろうか」(IV-04.151)
- (484) còphâθúyè lə- yà ʔó bá khāN jàin lānāN ...  
 (人名) — ~人 いる 国 遠い (逆接)  
 「チョーパートウーゲーは遠い国に住んでいなければならないのだけれども...」(V-04.34)
- (485) lé təwān phən nó təwāNphú θîləphá dòn bá wê θài ʔé  
 (場) 村 中 (題) 村人 (複) 作る (強意) 酒 (否)  
 「村の中で村人は酒造を行ってはならない」(I-10.11)
- (486) pə- chîphú ʔè thòn bá chənà ləyàyà  
 1pl 民族 (条件) 着く 災難 誰か  
 ʔánkhhōnthəbà chən lóθà kō yà dè  
 協力する (皆) (相互) (毎) ~人 (毎')  
 「我々の民族が誰か災難に遭っていたら、みな協力してほしい」(IV-01.89)

- (487) chəchâ ʔè jái nó | pə- bjàn bá ká wê lô  
 病気 (条件) 久しい (題) 1pl 治す 難しい (強意) (断定)  
 「病気が慢性化すると、治すことは難しい」(I-sen.92)
- (488) láí nó yêN bá wê klà lò chə bēnóθò yòN ...  
 トビ (題) 聞こえる (強意) 烏 語る CHə そのように (継起)  
 「トビには烏がそのように言ったのが聞こえて...」(I-01.14)
- (489) jə- ʔè thàin bá dòuN thəʔàn |  
 1sg (条件) 帰る 町 (地名)  
 ʔəθí ʔáncà nə- pərəNʔəcón kò blàn dè chū lô  
 3pl 尋ねる 2sg 消息 (毎) ～回 (毎') (婉曲) (断定)  
 「私がパアンに帰る機会があると、皆にあなたの消息を尋ねられます」(008.12)
- (490) jə- mə- ʔán bá jə- chá bləbló lô  
 1sg (非現) 食べる 1sg 餌 腹一杯の (断定)  
 「私は餌を腹一杯食べることができるだろう」(I-09.17)
- (491) bē mə- nū bá thī lōnlōNXwèXwè θò ...  
 (目的) (非現) 得る 水 十分に (目的')  
 「水が十分に得られるように...」(II-06.13)
- (492) lì bá wê ɕúɕúmaúmaú kò blàn dè chū lô  
 行く (強意) 平和に (毎) ～回 (毎') (婉曲) (断定)  
 「毎回、平和に旅ができています」(III-06.16)

### 18.52.3 bá(3) < 経験 >

経験を表す。

- (493) nəθí cáin bá xèinxèinlé jàu  
 2pl 歩く 広く (完)  
 「あなた方は既に色々なところに行ったことがある」(009.13)
- (494) nə- thòN bá wè jàu mwē jā  
 2sg 着く (備え) (完) (繋) JA  
 「あなたはもう前に行ったことがありますよね？」(001.649)
- (495) chələ phlòθánā nó mwē nəθí  
 (強調) ゴキブリ (題) (繋) 2pl  
 jū bá thithíchàchà blànblàn jàu chū bá  
 見る 正確に 何度か (完) (婉曲) (疑)  
 「ゴキブリについてですが、あなた方はじっくりと見たことが何度かありますか？」  
 (II-06.3)

- (496) dá bá nàN phôn ?é  
 見える (少数) ～回 (否)  
 「1度も見たことがない」(002.436)

- (497) kəbàn θəN thəN θí hə- lə- tháu bá nàN phôn dài  
 船 三 ～階 (類似) 1pl (否) 乗る (少数) ～回 まだ  
 「3階建ての船なんて1度も乗ったことがないのだから」(IV-04.13)

#### 18.52.4 bá(4) <判断の基準点の導入>

状態動詞に付き、直後の名詞句の指示対象が、判断の基準点(すなわち「～にとって」)であることを表す。判断の基準点を表す名詞句を目的語として導入する働きを持つ。例えば、yì bá ?ə (良い-bá-3SG)「彼にとっては良い」とあれば、「良い」と判断するための基準点は ?ə 「彼」である。「～にとっては...だ」。

- (498) máu bá ?ə lə- blàN  
 心地よい 3SG ー ～回  
 「一度、彼にとっては楽しかった」(V-04.31)

- (499) [R mə- ?wí bá ?ə- nò ] θəN yì θəN bá  
 (非現) 美味な 3sg 口 おかず 良い おかず 正しい  
 「彼の口に合いそうな良いおかず」(II-14.7)

- (500) lé [R mə- máu bá ?əθí θà ] ∅ nó  
 (強調) (非現) 心地よい 3pl 心 (題)  
 lòn pjáu wēdá lô  
 追う 従う (強意) (断定)  
 「彼らの心楽しく思えること(ばかり)追いかけてしまうのだ」(IV-03.27)

- (501) phô?wà ?ó bá dè wēcò nó |  
 (人名) いる (不抗) (共) 兄 (前提)  
 máu bá phô?wà θà cwá mā lô  
 心地よい (人名) 心 (非常) (非常) (断定)  
 「パワー(=私)はあなたと一緒にいることができると、とっても楽しい(=そのことがパワーの心には大変心地よい)」(V-01.10)

- (502) làláu mūnì bá ?án dè já?úthi jò  
 月末 日 (当為) 食べる (共) 魚醤 (題)  
 təmjàN bá nò bā  
 奇妙な 2SG (疑)  
 「月末(の給料日)に魚醤(だけ)で(ご飯を)食べることが、あなたにとってはそんなに奇妙なのですか？」(V-03.141)

### 18.52.5 bá(5) < 催促 >

命令や勧誘を表す文に用いて、催促を表す。

- (503) nə- jō bá chəmú lə- yà nó  
 2sg 見る 女 一 ～人 あの  
 「お前、あの女をみてしろ」(IV-04.42)

- (504) lə θijā bá lā wēcò  
 語る 知る (願望) 兄  
 「僕に話して教えてくれ」(V-01.9)

- (505) θánán bá phô?wà xì wēcò  
 忘れる (人名) (禁止) 兄  
 「私(=パワー)のことを忘れないで、お兄さん」(V-01.12)

- (506) pàpī bá jè ləxì  
 見下す 1SG (禁止)  
 「私を見下さないでくれ」(III-03.12)

- (507) θà yē thán bá nân xì ʙō  
 心 来る 上がる 姉 (禁止) XO  
 「私に立腹しないで」(IV-04.205)

▷ θà yē thán は「怒る」という意味の慣用句。

- (508) ?è mwē bònó | lì lə bá wè kəchân bònáinjò lô  
 (条件) (繋) そのような 行く 語る (備え) 象 今 (断定)  
 「そういうことなら、これから象に話しに行こうじゃないか」(III-03.18)

- (509) nə- ?ē dá chū dù | ləpərən bá ?əwêθí  
 2sg (条件) 会う (婉曲) (条件') 知らせる 3PL  
 [C jə- nó thán bá ?əθí kò nì dè]  
 1sg 覚えている (変化) 3PL (毎) ～日 (毎')  
 「もし彼らに会ったら、私が彼らを毎日思い出していると伝えてください」(012.9)

## 18.53 nī

動詞 nī「得る」に由来する。下に挙げるような4種類の用法がある。

### 18.53.1 nī(1) < 努力 >

主に動作動詞に付き、努力を伴ってその動作を行うことを表す。「努力して～する」「わざわざ～する」「一所懸命～する」「わざわざ～する」。



- (510) dá lú nī wēdá tā ...  
 見える (学習) (強意) (前提)  
 「(努力して) 見て学び…」 (II-04.7)
- (511) pə- bá klìcì ʔánxú ㄟ màlúㄟ ㄟ màdònㄟ nī wēdá lō  
 1pl (当為) 努力する 探す 学ぶ 真似る (強意) (断定)  
 「私たちは努力して学ばなければならない」 (I-05.4)
- (512) chônmon wē mə- tàin nī  
 考える (強意) (非現) 作る  
 khli nân phlóun nó chū lô  
 舟 (少数) ～個 (のだ) (婉曲) (断定)  
 「舟を1艘作ってやろうと考えた」 (I-08.5)
- (513) chəʔánphônthiláchā θiləphá khóun lànʔáun nī lé  
 塩づくり職人 (複) 掘る へこむ (場)  
 mächəmainàin ʔò yòn ...  
 海岸 (遠方) (継起)  
 「塩づくり職人は、海岸に(穴を)一生懸命掘り…」 (II-03.16)
- (514) ʔəθí ʔókho nī wē  
 3pl 待つ (強意)  
 chəchən thī xwē thī θiləphá nó lô  
 雨 水 雨 水 (複) (のだ) (断定)  
 「彼らは雨水をじっと待った」 (II-04.12)

### 18.53.2 nī(2) <引き寄せ>

行為者の領域に人や物を引き寄せることを表す。自動詞に付いた場合、引き寄せる対象を表す名詞句を目的語として導入する。使われる自動詞は、移動を表す動詞であることが多い。一方、他動詞に付いた場合、目的語の指示対象を引き寄せることを表す。使われる他動詞は、移動する物を被動者として取るような動詞である。

まず自動詞に付いた例を挙げる。「～を連れて…する」。

- (515) ʔəwē yē nī ʔə- mâ jàu  
 3se 来る 3sg 妻 (完)  
 「彼は妻を連れて来た」
- (516) lānkəthá jù nī chəʔàu phō  
 ハゲタカ 飛ぶ 猿 (臨場)  
 「ハゲタカは猿を連れて飛び立った」 (III-12.28)

- (517) phón nū jò cəxwà mákútá yòn |  
 捕える 得る モン人 王 (人名) (継起)  
 thàin nū thán wê lé dòun pəkàn ?ò lô  
 帰る (上方) (強意) (場) 町 (地名) (遠方) (断定)  
 「(アノヤーター王は) モン人の王マヌーハーを捕まえて、パガンへと連れて帰った」  
 (III-08.12)

- (518) cáin khà?án wê chəphúchəxā yòn |  
 歩く 撃つ (強意) 動物 (継起)  
 yê thàin nū bú lán wê  
 来る 帰る 養う (下方) (強意)  
 phómā kò néin kò là dè lô  
 妻子 (毎) 年 (毎) 月 (毎) (断定)  
 「出かけて行って動物を撃ち、いつも(それを)持って帰って来て妻子を養っていた」  
 (III-04.3)

次に他動詞に付いた例を挙げる。

- (519) θàucà kò nū thàin θwíwò  
 (人名) 呼ぶ (元位) (人名)  
 「タウチャーはトゥイーウォーを再び呼び寄せた」(IV-04.63)

- (520) ?əwê lì ləmōn nū ?àiθài  
 3se 行く 招く 修験者  
 「彼は修験者を招くために行った」(006.58)

- (521) lì chōn nū chəlá θóθānwò nó lô  
 行く 出迎える 先生 カッコウ (のだ) (断定)  
 「(烏は医者である) カッコウを出迎えに行った」(I-03.21)

- (522) chərā thàu thán nū thàθəwài  
 先生 出す (外方) 磁石  
 「先生は磁石を取り出した」(III-01.19)

- (523) θàucà nó phón phəyôun nū thàin xîphàn tā ...  
 (人名) (題) つかむ 抱く (元位) (人名) (前提)  
 「タウチャーはファイパウンを抱き寄せて...」(IV-04.234)

- (524) khîchîphōn nó phón nū kəchân mī |  
 虎 (題) つかむ 象 尾  
 càu wê chī lô  
 引く (強意) (婉曲) (断定)  
 「虎は象のしっぽをつかみとって、引いた」(III-03.29)

## 18.53.3 nī(3) &lt; 執拗 &gt;

無意志動詞に付き、動詞の表す事象が執拗に生じることを表す。病気の症状や性癖を表す動詞に付くことが多い。

- (525) chəchā mə- báya nī pə jō wēdā lō  
 病気 (非現) 伝染する 1PL 容易な (強意) (断定)  
 「病気が我々に容易に伝染するだろう」(II-13.14)

- (526) thópəyú nō chônkàin nī wē tā |  
 梟 (題) 虚弱な (強意) (前提)  
 ʔichā θí lòn ʔé lō  
 大便をする できる もはや (否) (断定)  
 「梟は身体が弱ってしまい、大便をすることができなくなってしまった」(I-03.5)

- (527) ʔə- khóxwí mə- jòun |  
 3sg 頭 (非現) 痛む  
 ʔə- nāthi cò nī wē chū lō  
 3sg 鼻水 分泌する (強意) (婉曲) (断定)  
 「(風邪を引くと) 頭が痛んで、鼻水が出るのである」(II-13.10)

- (528) ʔè mwē pə- ʔán ʔè ʔá nō |  
 (条件) (繋) 1pl 食べる (条件) 多い (題)  
 pə- mé pə- θwā chā nī mə- jō wē nō chū lō  
 1pl 歯 1pl 歯 痛い (非現) 容易な (強意) (のだ) (婉曲) (断定)  
 「(甘い物を) たくさん食べると、歯が痛くなるということが容易に起こる」(II-08.20)

- (529) ləkhāinnō thwí cā jūjā nī wē tā |  
 その後 犬 老いた 慣れる (強意) (前提)  
 yē ʔánkèin ʔán láithēin phú nō kò nì dè lō  
 来る 頼む 食べる 鳶 子 (題) (毎) 日 (毎') (断定)  
 「その後、老いた犬はクセになってしまっ、毎日、鳶の子を食べたいとせがみに来るようになった」(I-01.12)

## 18.53.4 nī(4) &lt; 判断の基準点の導入 &gt;

状態動詞に付き、次に来る名詞句の指示対象が、判断の基準点であることを表す。判断の基準点を表す名詞句を目的語として導入することができる。bá(4) と類似の働きをする。bá(4) との違いは明らかではない。

- (530) mə- yì nī pə kō yà dè chū lō  
 (非現) 良い 3SG (毎) ~人 (毎') (婉曲) (断定)  
 「(そのことは) 私たちすべてにとって良いのである」(II-13.18)

- (531) mə- yì nī pə- ʔəcá kō blàn dè chī lō  
 (非現) 良い 1pl 人生 (毎) ～回 (毎') (婉曲) (断定)  
 「(上に述べたことを実践すれば) 私たちの人生にとって常に良いのである」(IV-03.25)

- (532) jáijái chə- mə- khài nī hò khó  
 やがて CHə (非現) 暗い 1PL (未来)  
 「やがて(日が暮れて) 暗くなるよ」(IV-04.179)

- (533) ʔə- chē phlòun nó làn mā nī ʔə jàu lō  
 3sg 民族 カレン (題) 消える 3SG (完) (断定)  
 「カレン民族は(カレンの文化を大切にしない人にとっては) 消えてしまった(も同然だ)」(IV-06.8)

- (534) jáʔúrthi lə- pà bá | lànchái làn mēin nī hò ʔó ʔé  
 魚醬 (否) 含まれる (否') 満足させるような 1PL ある (否)  
 「(料理に) 魚醬が入っていないければ、我々にとって満足できるようなものにはならない」(III-13.10)

## 18.54 khè < 代行 >

主語の指示対象が他者に代わって何かを行う(あるいは何らかの状態を帯びる)ことを表す。「代わりに～する」。この助詞が付くと、動詞の項の取り方に変化が生じる。自動詞に付いた場合、「代行の相手」を表す名詞句が、動詞複合体の目的語として現れることができる。次の例を見よ。

- (535) ʔəwê lì khè jə  
 3se 行く 1SG  
 「彼は私の代わりに行った」

他動詞に付いた場合、「代行の相手」を表す名詞句が、第一目的語として現れることができる。動作の被動者を表す名詞句は第二目的語として現れる。次の例を見よ。

- (536) ʔəwê màlú khè jə lái  
 3se 教える 1SG 文字  
 「彼は私の代わりに文字を教えた」

下に様々な例を挙げる。

- (537) ʔəwê yê mà khè jə  
 3se 来る する 1SG  
 「彼は僕の代わりに来てやってくれた」(001.1872)

- (538) jə- kətò khè bá nà  
 1sg 心配な (無意) 2SG  
 「私はあなたに代わって心配している」(001.1506)

- (539) [C jə- yán khè nè] nə- θijā ?é  
 1sg 泣く 2SG 2sg 知る (否)  
 「お前の代わりに俺が泣きを見たのをお前は知らない」(001.1872)
- (540) nə- pō khè phí jə láí xō  
 2sg 読む (裨益) 1SG 手紙 XO  
 「私の代わりに手紙を読んでくれ」
- (541) klà nó bá lò khè phí thópəyú ?ədi?əmə  
 烏 (題) (当為) 返す (裨益) 梟 借金  
 「烏は梟の借金を代わりに返さなければならなかった」(I-03.40)
- (542) nə- bá kətō khè jə- yān ?ó nān mēin ?é  
 2sg (当為) 心配な 1sg ～のため ある (少数) ～種類 (否)  
 「あなたが私のために代わって心配する必要はないのだ」(II-11.11)
- (543) yəN [C phlòun khlàin] θí | ká khè θà wē  
 聞こえる カレン 話す (類似) 難しい 心 (強意)  
 「カレン人(同土)が話しているのを聞いても、(話している人に代わって)恥ずかしがる」(IV-06.19)
- ▷ ká θà は「恥ずかしい」という意味の慣用句。

## 18.55 phílân < 裨益 >

wílân と同発音する。また、phí あるいは wí と同音。動詞の表す事象の生起が誰かの利益となることを表す。「～してやる」「～してあげる」。動詞 phílân 「与える」に由来する。この助詞は動詞の項の取り方に变化を与える。自動詞に付いた場合、次のように、受益者を表す名詞句は動詞複合体の目的語として現れる。

- (544) jə- lì phílân ?ə  
 1sg 行く 3SG  
 「私は彼のために行ってあげた」

他動詞に付いた場合、次のように、受益者を表す名詞句は動詞複合体の第一目的語として現れる。他動詞の被動者を表す名詞句は第二目的語として現れる。

- (545) ?əwē pō phílân jə láí  
 3se 読む 1SG 本  
 「彼は私に本を読んでもらった」

二つの目的語を取る動詞の場合、その受領者と受益者は同一である。

- (546) ?əwē lò phílân jə pòun  
 3se 語る 1SG 昔話  
 「彼は私に昔話を話してくれた」

動詞の被動者を表す名詞句を側置助詞 *dè* で示すことも可能である。これは二つの目的語を取る動詞の第二目的語を *dè* で示せるのと同じである。

- (547) ʔəwê pō phûlân jə dè lái  
 3se 読む 1SG (共) 本  
 「彼は私に本を読んでもくれた」

受益者を表す名詞句には、側置名詞 ʔəyāN 「～のため」が付くことがある。

- (548) jə- lì phûlân ʔə- yāN  
 1sg 行く 3sg ため  
 「私は彼のために行ってあげた」

- (549) ʔəwê pō phûlân jə- yāN lái  
 3se 読む 1sg ため 本  
 「彼は私に本を読んでもくれた」

受益者は、植物を含む生物でなければならない。次の例では、植物が受益者になっている。

- (550) lé ʔə- yéin thài nó  
 (場) 3sg 家 横 (題)  
 θáun lán wê chətháun chəbòn yòn |  
 植える (下方) (強意) 植物  
 kháun wê nán | chû phí wê thî | dè  
 掘る (強意) 草 入れる (強意) 水 そして  
 bwé lán phí wê yákhúchá θí nó chî lô  
 盛る (下方) (強意) 肥料 (複) (のだ) (婉曲) (断定)  
 「(彼は) 家の横に植木を植え、雑草を除去し、水をかけてやったり肥料を盛ってやったりしている」(II-08.6)

本動詞の *phûlân* も植物の受益者を目的語として取ることができる: *phûlân chətháun chəbòn thî* (与える-植物-水)「植物に水をやる」。しかし、無生物の受益者を目的語として取ることはできない: \**phûlân phənθà thî* (与える-道路-水)。同様に、動詞助詞 *phûlân* も、無生物の受益者を目的語として取ることはできない: \**chû phûlân phənθà thî* (入れる-*phûlân*-道路-水)。したがって、無生物の受益者を表す目的語を取ることはできないという点で、本動詞の *phûlân* と動詞助詞の *phûlân* は同じ特徴を持つ。

以下に様々な例を挙げる。

- (551) jə- mə- lò phí nə nāN mēin xō  
 1sg (非現) 語る 2sg (少数) ～種類 XO  
 「あなたに(アイディアを)一つ話してあげましょう」(006.30)
- (552) məbò phí wī lā jə- chəmə nāN thî Ɂō  
 手伝う (先行) (願望) 1sg 仕事 (少数) ～回 XO  
 「私の仕事をちょっと手伝ってくださいな」(IV-04.424)

(553) [R ʔóthō lānkhāin] cōwē

残る 後 兄

chūitōN jāthəpā **phí** bá xīphāN ʔəyāN nó chī lō

祈る 祈る (不抗) (人名) ため (のだ) (婉曲) (断定)

「生き残った僕は、ファイバウンのために祈らなければならない」(IV-04.469)

(554) chə- náθí **phí** pə- yāN nāN yà ʔé

CHə 理解する 1pl ため (少数) ~人 (否)

「人々は私たちのことを誰も理解してくれない」(IV-09.22)

(555) mōphā mə- θōuN **phí** lé ʔəyì khō dù

母と父 (非現) 送る (場) 良さ 側面 DU

「お父さんとお母さんはお前を良いほうへと向かわせてあげようとしているのだ」

(V-03.106)

(556) lō **phîlân** jə nāN wāN dō

語る 1SG (少数) ~回 (別個)

「私にもう一度言ってください」(001.3498)

(557) nə- kōuNbò **phí** jə bá nāN mēin ʔé Ɂā

2sg 案ずる 1SG 正しい (少数) ~種類 (否) (疑)

「私のために一計を案じてくれることはできないか」(I-03.7)

(558) pə- ʔəcá jə mwē mə-

1pl 人生 (題) (繫) (非現)

yē ʔántāin nī **phîlân** pə mwē ʔé

来る 準備する (努力) 1PL (繫) (否)

「私たちの人生は、私たちのために(勝手に)準備をしてくれたりしないのである」

(IV-03.8)

(559) lì khlàindóuN **phí** jə nāN thí bálé

行く 会話する 1SG (少数) ~回 なぜ

「私のためにちょっと(彼女と)話しに行ってくれないか」(IV-04.69)

(560) làn thàin ʔə- phó θè khō |

下りる (追加) 3sg 子供 (複) (対比)

mə- khlàin ló **phí** phlòuN mwē làn ʔé lō

(非現) 話す (学習) カレン (繫) もはや (否) (断定)

「(彼らの) 子供には、カレン語で話して教えてあげるといこともなくなってしまうのだ」(IV-06.10)

(561) lì lō bá ʔə nó |

行く 語る (不抗) 3SG (前提)

thâin phí nà dè nə- mèin θè  
編む 2SG (共) 2sg 名前 (複)

「彼に言いに行けば、(工芸品に) お前の名前を編み込んでくれるよ」(V-02.38)

(562) còkhùmèinlá tàin phí jà  
(人名) 作る 1SG

「チョーキーメインラーが私に作ってくれた」(V-02.52)

(563) təkàphûcā mabò mächèn phí lā nè cì |  
檀家 助ける 助ける (願望) 僧侶 金

mə- θáun phjā ʔəyān  
(非現) 建てる 僧院 ため

「檀家の皆さん、僧院を建てるため、私 (=僧侶) のために金を工面してください」  
(010.9)

上に挙げたすべての例では、主語が裨益者 (benefactor) を表している。しかし、次の例の主語は裨益者を表していない。この文の主語は文脈から考えて phlòun chəxíchələ 「カレン文化」である。一方、裨益者は、後世にカレン文化を残そうとしている現代人である。このように主語と裨益者にずれが生じることがどの程度一般的なのかは今のところ不明である。

(564) bē mə- ʔóthō phlân thâin  
(目的) (非現) 残る (再度)

phóli ʔəyān mə- θí θò |  
子孫 ため (非現) できる (目的')

hə- bá pətòn chèn kō yà dè lô  
1pl (当為) 創る (皆) (毎) ~人 (毎') (断定)

「(カレン文化が) 子孫のために残ることができるよう、私たちはみな協力して創りあげていかなければならないのだ」(IV-01.113)

### 18.56 pjà < 提示 >

動作を誰かに提示すること、あるいはその動作によって誰かに何らかの事柄を深く理解させようとすることを表す。「～してみせる」。おそらくビルマ語の補助動詞 /pyâ-/ の借用であり、話者の中にはこの助詞が「ポー・カレン語らしくない」という意識を持つ者もいる。しかし、実例が少なからず出てきているので、参考のために以下に示しておく。動詞の項の取り方を変更する特性があるかなど、詳しいことは現段階では分からない。

(565) nə- lò pjà phí phlòun chè ʔəyān  
2sg 語る (裨益) カレン 民族 ため

「あなたはカレン民族のために語ってみせてくれた」(016.30)



- (566) nə- dàʊné pjà lā chàì chərâ  
 2sg 見せる (願望) CHAI 先生  
 「見せてください、先生」(III-01.17)

## 18.57 dá

Ɂá と同発音する。次のような二つの用法がある。

### 18.57.1 dá(1) < 限定 >

動詞の表す事象が生起する範囲を何らかの尺度に基づいて限定する。「...のみ～する」。限定の範囲を表す名詞句が動詞複合体の目的語として現れることができる。下は自動詞に付いた例である。

- (567) ʔəθí yê dá ʔəkhwâ lô  
 3pl 来る 男 (断定)  
 「彼らは(男と女がいるうちの)男しか来なかった」

次は他動詞に付いた例である。

- (568) ʔəθí ʔáN dá kú lô  
 3pl 食べる 菓子 (断定)  
 「彼らは菓子しか食べなかった」

次の(569)のように、限定の範囲を表す名詞句が目的語とは異なる名詞句である場合、元々の目的語はもはや現れることができない。(570)を見られたい。

- (569) ʔəθí ʔáN dá ʔəkhwâ lô  
 3pl 食べる 男 (断定)  
 「彼らは(男と女がいるうちの)男しか食べなかった」

- (570) \*ʔəθí ʔáN dá ʔəkhwâ kú lô  
 3pl 食べる 男 菓子 (断定)  
 「彼らは(男と女がいるうちの)男しか菓子を食べなかった」

下に dá が使われた文の例を挙げる。

- (571) phî jò ɕ bà dá càìɔ ɕ bà dá thɔɔ  
 おばあさん この 拝む 仏 拝む 法  
 「このおばあさんは仏や仏教の教えしか信仰していない」(024.54)

- (572) ʔó dá θəN yà lô  
 いる 三 ～人 (断定)  
 「3人しかいない」(001.0214)

- (573) kətò lən dá nə- θà nó chàì  
心配する (帰的) 2sg (再帰) その CHAI  
「自分のことだけを心配しなさい」(II-11.14)

- (574) jə- pō máu dá ʔə- láíʔàv lō  
1sg 読む 快適な 3sg 本 (断定)  
「私は彼の (書いた) 本しか読んでいて楽しくない」(001.0218)

動詞複合体の目的語として、主語と同一指示の名詞が現れた場合、「自分で～する」ということを表す。

- (575) tàin dá ʔəwê lə- yà nó lō  
作る 3se ー ～人 (のだ) (断定)  
「(彼は) 自分 1 人で作った」(I-08.21)

- (576) nəθí ʔè kətò lən θà nó |  
2pl (条件) 心配な (帰的) (再帰) (題)  
kóvən dá nəθíwê chàì  
案じる 2pe CHAI  
「お前達は (そんなに) 心配なら、自分たち自身で考えなさい」(III-15.14)

- (577) mwē pəkəchā dè pə- ʔəcá  
(繋) 私たち自身 (列挙) 1pl 人生  
bá ʔántàin lən dá pəθàdápə lō  
(当為) 創る (内方) 私たち自身 (断定)  
「私たち自身および私たちの人生は、自分で築き上げなければならない」(IV-03.9)

あるいは、「ひとりでに～する」ということを表す。

- (578) ʔwà dá ʔəwê θí ʔé  
白い 3se できる (否)  
「(米粒は) ひとりでには白くならない」(I-05.5)

### 18.57.2 dá(2) < 比較 >

多く状態動詞に付き、比較の対象よりもその動詞が表す状態の程度が甚だしいことを表す。この dá が用いられた動詞複合体は、比較の対象を表す名詞句を目的語として取ることができる。

- (579) ʔəjò yì dá ʔəʔò  
これ 良い あれ  
「これはあれより良い」

(580) ʔəjò yì dá  
これ 良い  
「こちらのほうが良い」

(581) həməŋī θəuŋθà nó nə- θijā dá hə dài lō nê  
人類 心 (題) 2sg 知っている 1PL まだ (断定) NE  
「人間の心については、あなたのほうが私たちより(よく)知っていますよね」(009.13)

(582) cōkhleín wê ké phlòunkhwâ nó |  
(人名) 3se 成る 男 (前提)  
kháŋkhâ cà dá xīphàn θè dài  
踏み出す 広い (人名) (複) まだ  
「チョークレインは男性だから、ファイパウン達よりも歩幅が広い」(IV-04.259)

## 18.58 náin < 比較 >

dá(2) と同じく、状態動詞に付いて、比較の対象よりもその状態の程度が甚だしいことを表す。やはり dá と同じく、náin が用いられた動詞複合体は、比較の対象を表す名詞句を目的語として取ることができる。dá との違いは、náin が古風かつ格式張っているということである。したがって、民話の中や書かれた文章の中では使われることがあるものの、日常の会話では náin が使われることはあまりない。ポー・カレン語西部方言では、比較表現において、この náin と同一起源と思われる nàin が用いられる。

(583) nò thō náin nâ  
口 高い 鼻  
「口が鼻より高い」(III-04.1)

▷ 口が軽いことを表す諺。

(584) bêθò mə- dàupàin náin ʔəphlòun θò ...  
(目的) (非現) 満たされた 人 (目的')  
「他人より満たされた状態になるように...」(IV-03.16)

(585) nə- klòn náin nə- wē θè xì  
2sg 悪い 2sg 兄 (複) (禁止)  
「お前は、お前の兄達より愚かにはなるな」(IV-07.38)

(586) [R chəʔé lə- ʔó lòn bá] m̄ lə- nì nó  
愛 (否) ある もはや (否') 日 一 ~日 (題)  
khá náin ʔələin lá dài  
苦い (植物の1種) 葉 まだ  
「愛がなくなった日には、(恋人の態度が)アレインの葉よりも苦くなっているのだ」  
(V-05.102)

## 18.59 tháu &lt;最上&gt;

状態を表す動詞に付き、その状態が何らかの集合の中で最も甚だしいことを表す。動詞 tháu 「尽きる」に由来する。「最も～な」。動詞 tháu 「尽きる」に由来する。

(587) jə- ʔé tháu nə lô  
1sg 愛する 2SG (断定)  
「私はあなたを最も愛している」

(588) ʔə- mɛin dú tháu  
3sg 名 大きい  
「彼は一番有名だ」(V-06.30)

(589) [C lə- lò bá] nó yì tháu lô  
(否) 語る (否') (題) 良い (断定)  
「言わないのが一番良い」(003.474)

(590) pə ləphá jò mwē pō ʔəjáu dú tháu lê  
1pl (複) (題) (繫) 誰 年齢 大きい (疑)  
「私達の中で誰が一番年上なのか」(III-10.9)

(591) cəcəθéin ʔè yê thàin |  
(人名) (条件) 来る 帰る  
θəuθə máu tháu nó mwē wê ʔwəʔwə lə- yà lô  
肝臓と心臓 快適な (題) (繫) (強意) (人名) 一～人 (断定)  
「チョーチョーテインが帰って来ると、一番嬉しがっているのはワーワーなのだ」  
(V-05.38)

(592) chələ dūlā jò mwē [R hə-  
(強調) 蠅 (題) (繫) 1pl  
bá θámé tháu ] phóxā lə- mɛin nó lô  
(当為) 恐れる 昆虫 一～種類 (のだ) (断定)  
「蠅というのは最も恐れるべき昆虫である」(II-12.2)

この助詞 tháu が使われると、動詞の前に接頭辞 ʔə- がついて、動詞複合体全体が名詞化することがよくある。以下に例を示す。

(593) mwē [NP ʔə- ʔé tháu ] thithò nī yà  
(繫) (名詞化) 愛する 友人 二～人  
「(私達)2人は、最も親しい友人である」(V-03.37)

(594) [NP ʔə- yì tháu ] nó chənó lê  
(名詞化) 良い (題) 何 (疑)  
「一番良いものは何か」(003.739)

## 18.60 θà

名詞 θà 「心臓、心」に由来する。次のような用法がある。

## 18.60.1 θà(1) &lt;再帰&gt;

他動詞に付き、被動者が行為者そのものであることすなわち「再帰」を表す。他動詞は意志動詞か無意志動詞かを問わない。

ポー・カレン語では、限定を表す動詞助詞 dá (18.57.1 参照) が現れた場合を除いて、主語と同一指示の目的語が現れた次のような文は非文法的である。

- (595) \*ʔəwê<sub>i</sub> ch̀è l̀àN ʔəwê<sub>i</sub>  
3se 刺す (再帰) 3se

この文を文法的な文にするには、動詞助詞 θà を用いて次のようにする必要がある。

- (596) ʔəwê ch̀è l̀àN θà  
3se 刺す (帰的)  
「彼は自分を突き刺した」

再帰を表す θà が付くと目的語は決して現れない。なお、再帰を表す θà は、再帰的動作を表す l̀àN (18.13.4 参照) と共起することが多い。

θà には次のように主語と同一指示の第一形代名詞が付くことがある。

- (597) ʔəwê ch̀è l̀àN ʔə- θà  
3sg 刺す (帰的) 3sg  
「彼は自分を突き刺した」

- (598) jə- ch̀è l̀àN jə- θà  
1sg 刺す (帰的) 1sg  
「私は自分を突き刺した」

ʔə- θà は元来は「彼の心」、jə- θà は元来は「私の心」という意味である。代名詞が付くことから、動詞助詞の θà は名詞であったときの特性を一部分残しているといえることができる。

以下に様々な例を挙げる。

- (599) cú ʔ l̀àN θà lé thí klà ʔò  
ひたす (帰的) (場) 水 間 (遠方)  
「水の中からだをひたす」(I-03.24)

- (600) ʔəwê ʔókí θú khwái θà nó l̀ò  
3se 置く (内密) (徹底) (のだ) (断定)  
「彼は身を隠した」(I-03.33)

(601) ʔəwədə́ cón thán thàin ʔə- **θà** nótā ...  
 3se 伸ばす (完成) (追加) 3sg (前提)  
 「彼が身体を伸ばすと…」 (II-02.23)

(602) ʔəwədə́ ʔàu xī làn ʔə- **θà** nó lô  
 3se 褒める 美しい (帰的) 3sg (のだ) (断定)  
 「彼は自慢したのだった」 (II-05.12)

(603) kətò làn lā nə- **θà** nó chàì  
 心配する (帰的) (願望) 2sg (のだ) CHAI  
 「自分のことを心配しなさい」 (II-11.11)

(604) khlài pàdú làn ʔə- **θà** lānân θí ...  
 亀 敬う (帰的) 3sg (逆接) (類似)  
 「亀は自分のことを過大評価していたのだが…」 (II-11.20)

(605) lì thán ʔùkhlēin làn **θà**  
 行く (上方) 転がす (下方)  
 「(丘の上まで) 登って行って、転がり下りなさい」 (III-03.40)

(606) khlú θí dí θí jò chəjòkhâ thî θài khâ  
 貝 (複) 蛙 (複) (題) 夏 水 乾く 時  
 bən làn **θà** lé pháí lá  
 沈める (帰的) (場) 泥 下  
 「貝や蛙たちは、夏に水が乾くと泥の下にもぐるのだ」 (III-14.17)

(607) thúʔəlēin ʔən lə- θíjâ làn **θà**  
 鳥の 1 種 愚かな (否) 知る (帰的)  
 「愚かなアレイン鳥は身の程を知らなかった」 (IV-07.49)

(608) lənàn nó dò thənphūwē lə- càu pəkòun thán **θà**  
 一部 (題) (別個) 兄弟 一 ~ 群 集める (完成)  
 「一部の人たちは、兄弟同士で集まる」 (III-14.20)

これまでに **θà** が自動詞に付いた例が二つ見つかった。以下に挙げた文である

(609) cáin wēinwân **θà** lə- yà  
 歩く ぶらぶらする 一 ~ 人  
 「1人でぶらぶら歩いていた」 (IV-07.3)

(610) ʔəwədə́ mí dòunkòun wē ʔə- **θà** θànnàkhlon  
 3se 寝る ちぢこまる (強意) 3sg 一晩中  
 「彼は一晩中ちぢこまって寝ていた」 (II-02.23)

▷ この例で ?ə- θà が dòunkòun に付いているのか、mí dòunkòun 全体に付いているのかを判別するのは難しい。後者であったとしても、この動詞連続は自動詞としての特徴を持つので、ここでの議論に支障はない。

これらの例では、θà を取り除いてしまっても、文の意味にさほど大きな違いは生じない。したがってなぜここで θà が使われているのかは難しい問題であるが、どちらの例とも身体の動きを表す動詞であってしかも意志動詞であるところに問題を解く鍵があるかもしれない。自分の意志で身体を動かすことが、自分の身体に影響を及ぼす他動的動作と捉えられたために θà が用いられている可能性がある。

### 18.60.2 θà(2) < 自発 >

他動詞に付き、その動詞によって引き起こされる結果が自然発生的に生じることを表す<sup>5</sup>。使われる他動詞は意志動詞であり、θà が付くと無意志動詞化する。θà(1) と同じく、前に代名詞の第一形が現れることがある。

この θà が使われると元の目的語が主語の位置に立ち、動詞複合体は自動詞としての特徴を持つようになる。まず例を見ていただきたい。

(611) ?əwê pàu thán pàitərân  
3se 開ける (完成) 窓  
「彼は窓を開けた」

(612) pàitərân pàu thán θà  
窓 開ける (完成)  
「窓が開いた」

(611) の文の目的語と同一の名詞句が (612) の文では主語として現れている。かつ、(612) では目的語の位置に名詞句は現れることができない。θà(1) でも目的語が現れない、すなわち自動詞化する現象が見られたが、θà(2) では自動詞化だけではなく、主語の転換までもが生じるのである。主語の転換が生じるという点で、この現象を広い意味での態 (voice) の現象と捉えることも不可能ではない。しかし、第 4 章で述べたとおり、本論文ではポー・カレン語に態という文法範疇を認めない。

なお、第 15 章 15.3.1 に述べたとおり、θà が用いられた動詞複合体は、自然発生的な事象を表す自動詞が存在しない場合の、すき間を埋めるような役割を担うことがある。

以下に自発を表す θà の例を挙げる。

(613) yéin chānlé làn θà lé thíkhlo ?ənàin  
家 並べる (帰的) (場) 川 岸  
「川岸に家が並んでいる」(I-10.7)

(614) ?ə- cúthái nó wái khwái ?ə- θà  
3sg ハサミ (題) ねじる (徹底) 3sg  
「彼 (=蟹) のハサミはねじれてしまった」(II-05.16)

<sup>5</sup> 再帰を表す形式が自発を表すようになるという現象は、通言語的に観察される (Shibatani 1985, 柴谷 1997 を参照)。したがって、θà の自発を表す用法は、再帰を表す用法より後に生じた可能性が高い。

(615) θéiN wī ?ò thán θà

木 根 剥く (完成)

「木の根がむきだしになった」(III-03.46)

(616) ?əjôn θiləphá ?ánlè thán θà mwēbò lō

色 (複) 変える (完成) ～というわけだ (断定)

「(そのような理由で雲の) 色が変わるというわけである」(III-05.9)

(617) chə?əwɪN jò mwē wēdā

雲 (題) (繫) (強意)

[<sub>R</sub> thikhólón ?əphlóunphú pəkòun θà ] lə- mēin lō

氷 粒 集める 一 ～種類 (断定)

「雲というのは、氷の粒が集まったものである」(III-05.3)

(618) chə?əwɪN bèblài ?ə- khúthò nó

雲 綿 3sg 先端 (題)

thū tərài θà bêthò bèblài thò

巻く 回る (比定) 綿 (比定')

「綿雲の先端は、綿のようにねじれている」(III-05.46)

(619) chə- mà ?ə- θà bèjò nó ...

CHə する 3sg このように (前提)

「このようなわけで...(直訳:このようになって)」(II-02.26)

(620) kəchân θi kló nó ?úpàu thán wē tã |

象 死ぬ 死体 (題) 腐る (完成) (強意) (前提)

?əkhâin nó bàithái θà láukhlà chī lō

尻 (題) 塞ぐ 全部 (婉曲) (断定)

「死んだ象の死体は腐ってしまって、尻(の穴が)ふさがった」(I-09.22)

## 18.61 lóθà < 相互行為 >

主語の指示対象が相互的な事象の参加者であることを表す。wóθà, bóθà と同発音される。「互いに～する」「～しあう」。θà という音節を含んでいることから、前節の再帰や自発を表す θà(元の意味は「心」)と語源的に関連する可能性があるが、ló の語源が不明であるので、現段階で結論を出すことはできない<sup>6</sup>。

この助詞を用いた文では、相互行為の参加者を表す名詞句の導入方法に二通りある。まず、相互行為の参加者のうちの一方を主語名詞で指示し、残りの参加者を側置助詞 dè に導かれた斜格補語で指示する方法である。

<sup>6</sup>様々な言語において、再帰を表す形式と相互行為を表す形式との間に関連性が認められる。ポー・カレン語でも、θà と lóθà の間に語源的関連が認められても不思議ではない。



- (621) jə- máu lóθà dè ʔəwê [自動詞]  
 1sg 快適な (共) 3se  
 「私は彼と仲が良い (直訳=私は彼と互いに快適である)」

- (622) jə- dú lóθà dè ʔəwê [他動詞]  
 1sg 殴る (共) 3se  
 「私は彼と殴りあった」

もう一つは、相互行為の参加者すべてを主語名詞で指示する方法である。

- (623) hə- máu lóθà [自動詞]  
 1pl 快適な  
 「私達は仲が良い (直訳=私達は互いに快適である)」

- (624) hə- dú lóθà [他動詞]  
 1pl 殴る  
 「私達は殴りあった」

他動詞の場合、lóθà は動詞の項の取り方を変更することがある。すなわち、被動者が相互行為の参加者そのものであるなら、被動者を表す名詞句は目的語として現れることができない。下の例を見ていただきたい

- (625) a. jə- dú lóθà dè ʔəwê  
 1sg 殴る (共) 3se  
 「私は彼と殴りあった」

- b. \*jə- dú lóθà ʔəwê  
 1sg 殴る 3se

- (626) a. hə- dú lóθà  
 1pl 殴る  
 「私達は殴りあった」

- b. \*hə- dú lóθà hə  
 1pl 殴る 1PL

各 (b) は、相互行為の相手を指示する名詞句を目的語位置に置いたものであり、非文法的である<sup>7</sup>。しかし、被動者が相互行為の参加者でないならば、被動者を表す名詞句は目的語として現れることができる。次のとおり。

- (627) jə- phón lóθà cú dè ʔəwê  
 1sg つかむ 手 (共) 3se  
 「私は彼と手を取りあった」

<sup>7</sup>(626b) は、主語と同一指示の目的語が現れているという点でも非文法的である。再帰を表す θà の項 (18.60.1) を参照されたい。

- (628) hə- phón lóθà cút  
1pl つかむ 手  
「私達は手を取りあった」

以下に lóθà が使われた例を見ていく。まず、自動詞に付いた例を挙げる。

- (629) ləkhâinjò ʔəθíwê ʔó kòun ʔó dèin lóθà tā ...  
その後 3pe いる (皆) いる 混じる (前提)  
「その後、彼らは一緒に暮らして...」(II-04.17)

- (630) phóθá ʔəjò máu lóθà dè ʔəwê  
子供 これ 快適な (共) 3se  
「この子供は彼と親しい(直訳:この子供は彼と互いに快適だ)」(001.2358)

- (631) nī thán lóθà  
笑う (外方)  
「(彼らは2人で)笑いあった」(001.2361)

下に挙げる例の動詞は自動詞ではあるが、主語の指示対象との関係を表す名詞句を意味的に要求する動詞である。

- (632) thólèinʔwàphú jò báchâin lóθà dè xîphàn nó lê  
(鳥の1種) (題) 関係がある (共) (人名) 何 (疑)  
「レインワー鳥が私(=ファイパウン)と何の関係があるというの?」(IV-04.222)

- (633) ʔəjò mômó lóθà dè ʔəjò ʔé  
これ 同じ (共) これ (否)  
「これはこれと同じではない」(001.2436)

次に他動詞を見ていく。最初に挙げるのは、被動者が相互行為の参加者そのものであるため、被動者を表す名詞句が目的語として現れることができない例である。

- (634) ʔáin lóθà  
かむ  
「かみつきあう」(「喧嘩する」という意味の慣用句としても用いられる)

- (635) chān xwì lóθà  
鶏 闘う  
「鶏が闘う」(xwì は闘鶏で鶏が闘うことを表す動詞)

- (636) nəθí dá lóθà phənphên dài jā  
2pl 会う 何度か また JA  
「あなた方はその後何度か会いましたか」(012.8)

- (637) hə- bá θà thán lóθà bá bá nê  
 1pl (当為) 怒る 正しい (疑) NE  
 「俺達は互いに腹を立てあっていいもんかね?」(001.687)
- ▷ θà thán (θà 「心」+ thán 「上がる」) は怒りの対象を表す名詞句を目的語として取ることができる。θàthán ʔəwê 「彼に腹を立てている」。
- (638) ʔəwê dē ʔəwê ʔàn bádòn lóθà lē  
 3se (列举) 3se 姿 似ている (断定)  
 「彼と彼は姿形が似ている」(001.706)
- (639) phlòun dē nāwátá dákòn lóθà  
 カレン (列举) SLORC 出会う  
 「カレンと SLORC(国家法秩序回復委員会; ビルマの軍事政権) が会談をした」  
 (001.1231)
- (640) ʔəθí ʔəthíʔəθò lə- ʔà dē lə- ʔà nó ʔékwi lóθà  
 3pl 友人 — ～人 (列举) — ～人 (題) 愛する  
 「彼ら友人同士は互いに愛し合った」(001.2119)
- (641) bá nācàu lóθà lô bá nê həʔà  
 (当為) 遠慮する 必要な (疑) NE おい  
 「互いに遠慮する必要などあるかね(いやない)」(001.2355)
- (642) lə- kləkhlan lóθà bá  
 (否) 理解する (否')  
 「相互の理解がうまく行ってなかったからだ」(003.760)
- (643) lə- təwān dē lə- təwān bádòn lóθà ʔé  
 — 村 (列举) — 村 似ている (否)  
 「村によって異なっている」(III-14.5)
- (644) pə- chiphú ləphá nēʔán lóθà bē mə- θí θò  
 1pl 民族 (複) 信じる (目的) (非現) できる (目的')  
 「私達の民族(に属する人のこと)は互いにできるかぎり信じなさい」(IV-01.81)
- (645) pə- ɕòkəlôn phòunwòun lóθà  
 1pl 急ぐ 抱く  
 「私達は(会った)とたんに抱き合った」(V-03.37)
- (646) thònnáin lóθà jā nê  
 覚える JA NE  
 「互いに(互いを)覚えておきましょうよ」(V-03.49)

- (647) plètò lóθà bá ké wê klà lô jābò  
 許す (当為) 可能な (強意) いつも (断定) JABO  
 「いつも互いを許すことができないならいんですよ」(V-04.233)

次に挙げるのは、被動者が相互行為の参加者ではないため、被動者を表す名詞句が目的語として現れることができる例である。ただし、これらの実例において目的語が現れているとは限らない。

- (648) bē lə- θijā lóθà bá còN θò ...  
 (比定) (否) 知る (否') 事情 (比定)  
 「まるで互いに事情を知らないかのように…」(001.755)

- (649) lò lóθà bánā  
 語る なごやかな  
 「おしゃべりがなごやかだった」(001.719)

- (650) phón lóθà bá dachəθà lô ɓâ  
 つかむ 正しい (詠嘆) (断定) (疑)  
 「互いに収穫はあったか (直訳:互いに [互いから何かを] つかむことができたか)?」  
 (004.494)

- (651) ?è dá lóθà lə- yà mé  
 (条件) 見える — ～人 顔  
 lə- yà mé nó | ?áin lóθà lô  
 — ～人 顔 (題) かむ (断定)  
 「互いの顔を見ると喧嘩している」(009.49)

▷ 二つめの lóθà は、被動者が相互行為の参加者そのものになっている例。

- (652) C mabò C mächəN lóθà chəphàichəmə θí thán wēdá lô  
 助ける 助ける 仕事 できる (変化) (強意) (断定)  
 「互いに仕事を助けることができるようになったのだ」(II-04.17)

- (653) ?əθiwē ?ánnànpà khwái lóθà cì  
 3pl 分ける (徹底) 金銭  
 「彼らはお金を互いに分けた」(II-14.5)

- (654) kèyòkhó jè dè khîchiphōN ?ánthà lóθà  
 明日 1SG (列挙) 虎 賭ける  
 「明日、俺と虎が (金などを) 賭けるのだ」(III-03.20)

最後に特殊な例を挙げておく。lóθà を使った場合、ふつうは主語が相互行為の双方または一方を指示する。ところが、下の例では主語の指示対象が相互行為の参加者になっておらず、相互行為の参加者を非主語 (lə- yà dè lə- yà 「一人と一人」) が表している。実は、この文から lóθà を取り去ってもかまわない。おそらく、主語の有生性よりも非主語の有生性が高いために非主語への注意度が高まり、その結果 lóθà が使われたのではないか。

(655) chəchə jò báyá lóθà

病気 この 伝染する

lə- yà dè lə- yà jô mā lô

一 ～人 (列挙) 一 ～人 易しい (非常) (断定)

「この病気はひとりからひとりに伝染しやすいのである」(II-13.4)

## 18.62 動詞助詞全体のまとめ

動詞助詞の特徴を表にしてまとめておく。それぞれの動詞助詞が付いたときに動詞複合体に何らかの変化が生じるかを三つの観点に関して比較できるようにしてある。三つの観点とは、(1) 項を変更するか、(2) 無意志動詞の意志動詞化あるいは意志動詞の無意志動詞化が生じるか、(3) 動態動詞の状態動詞化あるいは状態動詞の動態動詞化が生じるか、である。‘+’は、その観点に関与的でないことを示す。「項の変更」の欄に‘+’とあるのは、動詞複合体に項の変更が何らかの形で生じるという意味である。「意志性」の欄に「意志」とあれば、無意志動詞の特徴を持つ動詞複合体が意志動詞の特徴を帯びること、「無意志」とあれば、意志動詞の特徴を持つ動詞複合体が無意志動詞の特徴を帯びることを表す。「動態/状態」の欄に「動態」とあれば、状態動詞としての特徴を持つ動詞複合体が動態動詞の特徴を帯びること、「状態」とあれば、動態動詞の特徴を持つ動詞複合体が状態動詞としての特徴を帯びることを表す(実際には状態動詞化を引き起こすものはないようである)。

意志動詞化しているのか無意志動詞化しているのかは、動詞複合体を命令文として使えるかどうかを基準としている。例えば次の動詞複合体が命令文として使われることはない。

(656) ʔán báθà mù

食べる (欲求) ご飯

「ご飯が食べたい」

したがって、báθàは無意志化を引き起こすと言える。ただし、願望を表す lā と dáwê については、これそのものが無意志動詞を命令文として機能させる働きを持っているので、命令文になれるかどうかを論じても意味がない。そこで表の中では「関与なし」とした。

動態動詞化しているか状態動詞化しているかは、副詞 phléphlé「速く」あるいは xèxè「ゆっくり」を共起させられるかを基準としている。例えば動詞 yì「良い」は、これだけでは phléphlé を共起させることができないが、状態の変化を表す thán を付けると、共起させることができるようになる。

(657) yì thán phléphlé

良い (変化) 速く

「速く良くなった」

この基準に基づくと、状態動詞化を引き起こす動詞助詞は一つも見つからなかった。

## (1) 動詞の前に付くもの

	項の変更	意志性	動態/状態
mə- < 非現実 >	-	-	-
lə- < 否定 >	-	-	-
bá < 当為 >	-	無意志	-
dàv < 使役 >	+	意志	動態
mà < 使役 >	+	意志	動態
phílân < 使役 >	+	意志	動態
kò < 使役 >	+	意志	動態
lò < 使役 >	+	意志	動態
γê < 漸次的変化 >	-	-	動態
lòn < 無分別 >	-	-	-
?ánγú < 違法、反道德 >	-	-	-

## (2) 動詞の後に付くもの

	項の変更	意志性	動態/状態
thán(1) < 上方 >	-	-	-
thán(2) < 状態の変化 >	-	-	動態
thán(3) < 外方向への移動 >	-	-	-
thán(4) < 完成 >	-	-	-
làn(1) < 下方 >	-	-	-
làn(2) < 状態の変化 >	-	-	動態
làn(3) < 内方向への移動 >	-	-	-
làn(4) < 直示の中心への移動 >	-	-	-
làn(5) < 再帰的な動作 >	-	-	-
thàiN(1) < 元の位置への移動 >	-	-	-
thàiN(2) < 繰り返し >	-	-	-
thàiN(3) < 事象の追加 >	-	-	-
thàiN(4) < 返答、応酬 >	-	-	-
kə̀dà < 逆向き >	-	-	-
lú < 学習 >	-	-	-
dòn < 模倣 >	-	-	-
kràn(1) < 根拠のなさ >	-	無意志	-
kràn(2) < 傾向 >	-	無意志	-
kràn(3) < 意外性 >	-	無意志	-
thân < 最前、最近 >	-	無意志	-
thú < 内密 >	-	-	-
γú < 違法、反道德 >	-	-	-
cò < 遠隔 >	-	-	-
lì < 慣れ >	-	無意志	-

jō < 試行 >	-	-	-
khwái < 徹底 >	-	-	-
lā < 願望 >	-	-	-
dáwê < 願望 >	-	-	-
mèin < 自然な成り行き >	-	-	-
θā < 新局面 >	-	-	-
plò(1) < 無価値 >	-	-	-
plò(2) < 無料 >	-	-	-
çàu(1) < 驚愕 >	-	無意志	-
çàu(2) < 信念のなさ >	-	無意志	-
çòN < 共同 >	-	-	-
kòuN < 共同 >	-	-	-
kón < 共同 >	-	-	-
xáu < 共同 >	-	-	-
chòN(1) < 協力 >	-	-	-
chòN(2) < 一斉 >	-	-	-
tháu < 続行 >	-	-	-
thân < 常時 >	-	-	-
pjáu < 専念 >	-	-	-
wê < 強意 >	-	-	-
wêdá < 強意 >	-	-	-
tè < 甚だしさ >	-	-	-
mātè < 甚だしさ >	-	-	-
dáchəθà < 詠嘆 >	-	無意志	-
chón < 強制 >	-	-	-
báθà < 欲求 >	-	無意志	-
thá < 保持 >	-	-	-
wè < 備え >	-	-	-
wī < 先行 >	-	-	-
kwè < 遊び >	-	-	-
mábá < 過誤 >	-	無意志	-
bá(1) < 無意志 >	-	無意志	-
bá(2) < 不可抗力 >	-	無意志	-
bá(3) < 経験 >	-	無意志	-
bá(4) < 判断の基準点の導入 >	+	-	-
bá(5) < 催促 >	-	-	-
nī(1) < 努力 >	-	-	-
nī(2) < 引き寄せ >	-	-	-
nī(3) < 執拗 >	-	-	-
nī(4) < 判断の基準点の導入 >	+	-	-
khè < 代行 >	+	-	-

phílân < 裨益 >	+	-	-
pjà < 提示 >	?	-	-
dá(1) < 限定 >	+	-	-
dá(2) < 比較 >	+	-	-
náin < 比較 >	+	-	-
tháu < 最上 >	-	-	-
θà(1) < 再帰 >	+	-	-
θà(2) < 自発 >	+	無意志	-
lóθà < 相互行為 >	+	-	-

ところで、動詞助詞は次のように、一つの動詞複合体の中にいくつも現れることができる。

- (658) mə- bá mà khléin khwái thá wè wê thî  
 (非現) (当為) (使役) 冷たい (徹底) (保持) (備え) (強意) 水  
 「水をあらかじめ冷たくしておかなければならないだろう」

複数の動詞助詞が現れたとき、どのような順序で並べられるかについてはまだ分かっていないことが多い。非現実法を表す mə- と否定を表す lə- が一番最初に現れるということは決まっている (mə- と lə- は共起しない)。また、上の bá(当為) と mà(使役) の語順、あるいは、wè(備え) と wê(強意) の語順にも見えるように、意味的に動詞が表す事象そのものに関連の強いものは動詞の近くに置かれ、話者の主観的判断に関わるようなものは動詞から遠い位置に置かれる傾向があるようである<sup>8</sup>。しかし、次の (a)(b) のように、順序を替えることのできるものもある。

- (659) a. jō cò làn thikhló  
 見る (遠隔) (下方) 川  
 「遠くの川を見下ろす」
- b. jō làn cò thikhló  
 見る (下方) (遠隔) 川  
 「遠くの川を見下ろす」

したがって、動詞助詞の少なくとも一部のものは、順序の入れ替えが可能なのが確実である。だとすると、数十個もある動詞助詞の並べ方は膨大な数にのぼる可能性がある。この問題は本論文で扱える範囲を越えていると思われるため、今後の課題としたい。

<sup>8</sup>英語の助動詞の配列においてもこれと似た原則が観察される (Foley and Van Valin 1984:pp.225-234 など参照)。



## 第Ⅴ部

### 副詞と感嘆詞



## 第19章 副詞

副詞は、単独で文を形成することができるが、動詞助詞を付けることができず、動詞の項になることもできない語である。副詞には、(1) 動詞句の中に現れるもの、(2) 文頭に現れるもの、の二つがある。

### 19.1 動詞句の中に現れるもの

この位置に現れる副詞は元々数が多く、現在の時点で把握できているものは、全体の中のごく一部であると考えられる。加えて、生産的な派生手続きによって動詞から副詞を作ることのできるのも、非常に数が多い。動詞からは接頭辞 ?è によって、あるいは繰り返しによって作ることができる。接頭辞 ?è による派生は第5章を、繰り返しによる派生は第7章を参照していただきたい。

以下に、副詞が使われた例を文ごと挙げていく。もちろん、ここに挙げる例は副詞の中のごく一部に過ぎない。

#### 19.1.1 動詞からの派生による副詞

動詞からの派生による副詞の使われた例を挙げる。

- (1) chəphàichəjá θí ?án wè ?á?á ?é  
肉 (類似) 食べる (強意) 多く (否)  
「肉もたくさんは食べない」(II-08.14)

▷ ?á?á は ?á 「多い」からの繰り返しによる派生。

- (2) ?ó wè xèxè θí nàN blàn ?é  
いる (強意) 静かに 習慣がある (少数) ～回 (否)  
「(私の祖父は) 決してじっとしていない」(II-08.4)

▷ xèxè は xè 「静かな」からの繰り返しによる派生。

- (3) θài làn thá thílá tántán yòN ...  
注ぐ (下方) (保持) 塩 厚く (継起)  
「塩を厚くまぶして…」(III-13.19)

▷ tántán は tán 「厚い」からの繰り返しによる派生。

- (4) dɔ́ thán lā thədòN chàIN ʔèyì  
 畳む (完成) (願望) 腰巻き シャツ 良く  
 「腰巻きやシャツを上手に畳みなさい」(I-sen.73)

▷ ʔèyì < ʔè + yì(良い)。

- (5) ʔókí nò phəN ʔèchêinpràn  
 置く 口 中 清潔に  
 「口の中を清潔に保て」(II-08.1)

▷ ʔèchêinpràn < ʔè + chéipràn(清潔な)。

### 19.1.2 動詞からの派生によらない副詞

以下の例における副詞は、派生によって作られたものではない。

- (6) chə- khléIN chā  
 CHə 寒い 非常に  
 「とても寒い」(003.657)

- (7) jə- kàv chā mā  
 1sg 咳をする 非常に (非常)  
 「ひどく咳が出る」(001.1660)

- (8) jə- pāçàv bá nò chā mà nā  
 1sg 遠慮する (無意) 2SG 非常に (非常) ~ だなあ  
 「あなたに大変申しわけないなあ」(001.2777)

- (9) θà jū lāN bá xīphàN mjā  
 恋しい (内方) (無意) (人名) 非常に  
 「ファイパウンのことがとても恋しい」(IV-04.375)

- (10) tòuntòUN ʔókhò nò mjā  
 お母さん 待つ 2SG 非常に  
 「お母さんはあなたをすごく待ったのよ」(V-04.120)

- (11) phôʔwà khōlàu θà cwá mā lô  
 (人名) 心配な 心 非常に (非常) (断定)  
 「私はとても心配です」(V-01.13)

- (12) jáphú θədánphú θiləphá bá θàmé  
 小魚 小海老 (複) (当為) 恐れる  
 ʔəwê nó cwá mā lô  
 3se (題) 非常に (非常) (断定)  
 「小魚や小海老達が彼を恐れること、甚だしかった」(II-05.4)

- (13) jə- θón ʔə məkhó thələn mèin læcè  
 1sg 諭す 3SG さっき 過ぎる (自然) 少し  
 「さっき俺が彼を叱ったやり方は少し度が過ぎた」(V-03.112)
- (14) nə- cón nó phlòun kànkà klə̀ lə̀ chī  
 2sg 事 (題) 人 噂する いつも (断定) (婉曲)  
 「あなたの事は、人々がいつも噂しています」(009.16)
- (15) jə- lə- lə̀ bá láuchêin θí ...  
 1sg (否) 語る (否') 全部 (逆接)  
 「私が全部は言わなくても(分かるよね)」(011.23)
- (16) ʔəwê θà mə- máu ɕútkhléin lékòun  
 3se 心 (非現) 快適な 平和な とても  
 「たぶん彼はとても喜ぶでしょう」(012.40)
- ▷ lékòun はおそらくビルマ語 /lɛʔkòun/ 「最大限に」の借用。
- (17) pə- bá dàulàn ʔán dè thilá nó thəmā lə̀  
 1pl (当為) 入れる 食べる (共) 塩 (題) 一般的に (断定)  
 「(食べ物に) 塩を入れなければならないのは一般的である」(II-03.3)
- (18) cáin wè lā tātā khlài Ɂé  
 逃げる (備え) (願望) 急いで 亀 よ  
 「急いで逃げておきなさい、亀よ」(II-11.14)
- (19) ʔə- méθá xī təɕā  
 彼女の 顔 美しい かなり  
 「彼女の顔はかなり美しい」(IV-04.49)
- (20) ʔəkhājò chə- khū təɕā lən ʔé chī lə̀  
 今 CHə 暑い かなり もはや (否) (婉曲) (断定)  
 「今はもうあまり暑くありません」(012.13)
- (21) mənphôklò phókhwā còpìcì ʔó xáu phjā dè hə phlé lə̀  
 (人名) 息子 (人名) いる 共に 僧院 (共) 1PL 一緒に (断定)  
 「マウンポークローの息子のチョーピーチーは私達と一緒に僧院に入った」(V-02.71)
- ▷ phléphlé とも言う。
- (22) phlòun phədú pìpì mî  
 人 大きい もっぱら ~ だなあ  
 「偉い人ばかりだなあ」(V-03.59)

- (23) cō            lì        lé        màncò    θàjō    yéin    tã |  
 お兄さん   行く   (場)   おじさん   (人名)   家   (継起)  
 yê        thàin   phlài   ləpî   chī  
 来る   帰る   遅い   少し   (婉曲)  
 「僕はターヨおじさんの家に行って、帰って来るのが遅くなったんだよ」(V-05.52)

▷ lə- 「一」と pî(小さい)の複合。

- (24) jə-        dá            mŭkhó  
 1sg   見える   さっき  
 「俺はさっき見たよ」(IV-04.58)

- (25) chə-    chən    θēinnīkhlòN  
 CHə   降る   一日中  
 「雨が毎日降っています」(012.14)

▷ nì は「日」。θēin と khlòN の語源は分からない。

- (26) ʔəwədə    mī        dòunkòUN    wê        ʔə-    θà        θànnàkhlòN    nó        ʔəkhúcòN ...  
 3se        寝る   縮こまる   (強意)   3sg   (再帰)   一晩中        (のだ)   (理由)  
 「彼は、一晩中縮こまって寝ていたので...」(II-02.23)

▷ nà は「夜」。θàN と khlòN の語源は分からない。

- (27) θà            təcā        θèinθèinnì    θàNθànnā    lə-    blàn ...  
 干拓する   確かに   毎日            毎晩            一   ~ 回  
 「毎日毎晩きちんと干拓したところ...」(III-15.32)

以下は擬音語・擬態語のたぐいである。

- (28) ʔəwê    nò    nó    mə-    lə    wáθà    cwàcwàcwàcwà    lō  
 3se    口   (題)   (非現)   語る   (欲求)   ペチャクチャ        (断定)  
 「彼の口はペチャクチャしゃべりたがっていた」(006.35)

- (29) nī        thàin    tàxótàxó ...  
 笑う   (再度)   ワハハ  
 「ワハハとまた笑った」(V-03.50)

- (30) mídòUN    phàn    θùrîθùrî  
 ランプ   光る   チラチラと  
 「ランプがチラチラと光る」(V-03.98)

- (31) khlàigàn    ʔùr    khlēin    làn    θà    θō        khlùrkhlàkhlùrkhlà    yòN ...  
 亀の一   回す   回る   (帰的)   (再帰)   音がする   カラカラ        (継起)  
 「亀は、カラカラと音を立てて回り...」(III-03.48)

- (32) nī thán mùlaimùlài  
 笑う (上方) ニヤニヤ  
 「(彼は) ニヤニヤ笑った」 (IV-04.43)

### 19.1.3 名詞を修飾する場合

動詞句の中に現れるタイプの副詞のうち、動詞の繰り返しによって派生されたものは、名詞の後に置かれて名詞を修飾することもある。これらは名詞句の中の、名詞に後置される関係節と同じ位置に現れる (第8章を参照)。

- (33) mí bjàbjà  
 火 弱く  
 「弱い火」

- (34) jáʔúthî yìyì  
 魚醬 良く  
 「良い魚醬」

- (35) yàuphòun kàkà  
 腹 腹一杯に  
 「満腹の腹」

- (36) thî chéinchéiplànplàn  
 水 清潔に  
 「清潔な水」

## 19.2 文頭に現れるもの

副詞の中には、文頭に現れるものがある。これらは決して動詞句の中には現れない。また、これらが従属節の中に現れることはない。大別して、「文と文の文脈的な関係を表すもの」と「話者の心情を表すもの」の二種類がある。

### 19.2.1 文と文の文脈的な関係を表すもの

dè 順接を表す。「そして」。dē と同発音される。側置助詞の dē および名詞修飾助詞の dē と同源であろう。

- (37) dè jə- ʔánlū thî  
 そして 1sg 浴びる 水  
 「そして私は水浴びをした」

**lānân** 逆接を表す。「しかし」「けれども」「しかるに」。lānānbò という形もある。一般助詞の **θí** がしばしば後に付く。lā の部分は là と発音されることもある。従属節助詞の **lānân** とは、明らかに同源である。

- (38) **lānân** **θí** **lé** **khólòn** **ʔədàndí** **nó**  
 しかし (類似) (場) 山 頂上 (題)  
**thi** **mə-** **ʔó** **wêdá** **thònkho** **lê**  
 水 (非現) ある (強意) どこ (疑)  
 「しかし、山の頂上の、どこに水があるのだろうか?」(III-06.30)

- (39) **lānānbò** **phâθúyè** **θà** **máu** **mjà** **máu** **tè**  
 しかし (人名) 心 快適な 大変 快適な 大変  
 「しかし、パートウーゲーは大変嬉しかった」(V-04.51)

- (40) **lānānbò** **θí** **bádòn** **ké** **lán** **lòn** **ʔé**  
 しかし (類似) ~ のようだ 可能な (変化) もはや (否)  
 「しかし、もう無理のようだ」(008.10)

**cānbò** 理由を表す。「だから」「ゆえに」。cānbò と発音されることもある。

- (41) **cānbò** **ʔəkhâjò** **chə-** **khū** **təcā** **lòn** **ʔé** **chī** **lô**  
 だから 今 **CHə** 暑い かなり もはや (否) (婉曲) (断定)  
 「だから、今はもうあまり暑くありません」(012.13)

- (42) **cānbò** **phlòuN** **ʔéchôn** **nə** **kò** **yà** **dè** **lô**  
 だから 人 愛する 2SG (毎) ~ 人 (毎') (断定)  
 「だから皆があなたを愛しています」(017.14)

**ʔəkhúcòn** 理由を表す。「だから」「ゆえに」。従属節助詞の **ʔəkhúcòn** と明らかに同源である。

- (43) **ʔəkhúcòn** **kəbànjùchā** **θiləphá** **bá**  
 だから パイロット (複) (当為)  
**yàxè** **wê** **chəʔəuNnbèblai** **nó** **klə** **lô**  
 避ける (強意) 積乱雲 (題) いつも (断定)  
 「だからパイロットが積乱雲を避けなければならないのはいつものことなのだ」(III-05.54)

- (44) **ʔəkhúcòn** **nó** **pəphlòuN** **chìphú** **θèləphá**  
 だから (題) カレン 民族 (複)  
**bá** **ké** **thán** **thàin** **wê** **chì** **xāxòn** **nó**  
 (当為) 成る (完成) (追加) (強意) 民族 他 (題)



ʔó wê ʔáʔále chī lō

いる (強意) たくさん (婉曲) (断定)

「だから、カレン人が他の民族になってしまうというケースも多いのである」(IV-01.13)

ʔèyòn 話題の転換を表す。「それから」「次に」。ʔèyòn とも発音される。ʔè は仮定を表す従属節助詞 ʔè に由来する。yòn は動詞 yòn 「終わる」に由来する。従って、元々は「終わったなら」「終われば」という意味である。

(45) ʔèyòn thānp̄hūwē nī yà  
それから 兄弟 二 ~人

thān wēdá lé ʔə- yéin ʔò lō  
帰る (強意) (場) 3pl 家 (遠方) (断定)  
「それから兄弟2人は、家に帰った」(II-14.21)

(46) ʔèyòn ʔəp̄i lə- yà nō dō  
それから 末子 一 ~人 (題) (別個)

chān ʔəyì ʔó nān bēin lōn ʔé  
シャツ 良い物 ある (少数) ~枚 もはや (否)  
「ところで、下の子はいいシャツが1枚もなくなってしまったのよ」(V-03.127)

thōnnō 順接を表す。「そして」「それから」。後に一般助詞の t̄a や má が現れることがある。thōn は動詞 thōn 「着く」に由来する。nō は指示代名詞の nō に由来する。つまり元々の意味は「そこに至って」。thōnnōyòn(yòn は動詞 yòn 「終わる」に由来)、thōnnōθō(θō は側置助詞 bē...θō に由来?) という形もある。

(47) thōnnō ʔəwē lì thōn bá wē lé  
そして 3se 行く 着く (不抗) (強意) (場)

θéin phādú ʔə- khānthai nō ...  
木 大きな 3sg 足下 (継起)  
「そして彼は大きな木の根もとに行き着いて...」(IV-05.7)

### 19.2.2 話者の心情を表すもの

現在までに見つかっている副詞のうちこのような性質を持つものは、以下に挙げる四つのみである。

kəbá 懸念を表す。「運が悪いと(〜だ)」「ややもすると(〜だ)」。

(48) kəbá mə- jān bá ʔí  
下手すると (非現) 踏む (無意) 糞  
「下手をすると糞を踏んでしまうよ」(003.64)

- (49) *kəbá*      *hə jò mə- mwē thəmlá θí*  
 ひょっとして 人 この (非現) (繋) 強盗 (類似)  
*ʔə- θí θí mə- θí chī*  
 (条件) 可能な (類似) (非現) 可能な (婉曲)  
 「ひょっとするとこいつは強盗かもしれない」(001.3270)

▷ *ʔə- θí θí mə- θí chī* は、「～かもしれない」ということを表す慣用句。動詞句内に現れる副詞と同様の機能を持つ。字義通りには「可能であるなら可能だろう」の意。

***kəl̩*** 義務・当為を表す。「すべからく (～すべきだ)」「ぜひとも (～すべきだ)」。動詞の ***kəl̩***「似合っている」に由来する。

- (50) ***kəl̩*** *hə- bá θí thá ch̩ láí nó l̩*  
 ぜひ 1pl (当為) できる (保持) 民族 文字 (のだ) (断定)  
 「ぜひとも私達は(カレン) 民族の文字をできるようにしておかねばならない」(IV-09.37)

- (51) ***kəl̩*** *cháiphúchá mə- bá ʔántàin thán thàin θà*  
 必ず 農民 (非現) (当為) 作る (完成) (追加) (再帰)  
*ʔəθân l̩*  
 新しく (断定)  
 「必ずや、農民は、自分達を新しく作りかえなければならない」(IV-09.7)

スゴー・カレン語および西部ポー・カレン語においては、これと同源の語が、動詞の直前に現れて当為を表す「助動詞」的な要素になっている。

- (52) *nə- krəʔ lē* [Sgaw Karen]  
 2sg (当為) 行く  
 「あなたは行くべきだ」
- (53) *nə- krəʔ lé* [Western Pwo Karen]  
 2sg (当為) 行く  
 「あなたは行くべきだ」

***thəmjànū*** 非難の気持ちを表すときに用いる。

- (54) ***thəmjànū*** *l̩ dè nə- ʔəcòN nó*  
 (断定) (共) 2sg 原因 (題)  
*jə- bá cán bá já*  
 1sg (当為) 貧しい (当為) 破れる  
 「あなたのせいで私は苦勞をした」(001.683)

▷ *bá cán bá já* は、「苦勞をする」ということを表す慣用句。

kəjāN 希望を表す。「できれば(～したい)」「できるなら(～したい)」。

- (55) kəjāN jə- ʔáNchâ wáθà ʔé  
 できれば 1sg 売る (欲求) (否)  
 「できるなら売りたいありません」(020.53)

### 19.3 副詞的に使うことのできる名詞

名詞句の中には、文中で副詞と同様の機能を持つことのできるものがある。それは、lənijò「今日」、mūyá「昨日」、kèkhó「明日」、təyá「一昨日」、kètòkhó「明後日」、məyī「去年」、təyī「一昨年」などの時を表す名詞、および、助数名詞句である。

- (56) jə- yê thàN thòN mūyá  
 1sg 来る 帰る 着く 昨日  
 「私は昨日帰ってきた」

- (57) phlòuNmwi yê θɔN yà  
 客 来る 三 ～人  
 「客が3人来た」



## 第20章 感嘆詞

他の様々な言語と同様、ポー・カレン語には非常に多くの感嘆詞がある。以下に代表的な感嘆詞を挙げておく。

ʔà — 驚いたとき、何かに気付いたとき、感動を感じたときなど、新たな感情が去来したときに使う。ʔá あるいは ʔā と発音される。これと同様の働きを持つものに ʔò や ʔò がある。「ああ」「おや」「あら」「あっ」。

- (1) ʔà mwē nà  
(繋) ~ だなあ  
「あっ、そうだ」

pápà — ひどく驚いたときに使う。2音節目の pà の数は任意で、pápàpà, pápàpàpà, pápàpàpàpà, pápàpàpàpàpà ... などとなることもある。「おや」「おやおや」「おやまあ」。

- (2) pápàpà pə- lə- dá bá jái jàu nê  
1pl (否) 会う (否') 久しい (完) NE  
「おやまあ久しぶりですね」

ké — 決意を表明するとき、あるいは他人を誘うときに用いる。「さあ」。

- (3) ké jə- mə- thàin lô  
1sg (非現) 帰る (断定)  
「さあ僕は帰ることにしよう」

- (4) ké hə- lì lô  
1pl 行く (断定)  
「さあ行こう」

ʔínê — ʔínê と発音される。納得したときに用いる。「ああ」「うん」。

- (5) mwē jā  
(繋) JA  
「そうだろう?」  
— ʔínê  
「うん」

**hé** — **hê** とも発音される。また、**wé** や **wê** とも発音される。遠くにいる人に呼びかけるときに用いる。「おい」「おい」。

- (6) **hé** **phā**  
お父さん  
「おい、お父さん」(I-06.38)

- (7) **wê** **khléin** **wê** **khléin**  
(人名) (人名)  
「おいクレイン、おいクレイン」(IV-04.397)

**hé** — **hē** あるいは **hè** とも発音される。とがめるときに用いる。「おい」「こら」。

- (8) **hè** **nó** **lê**  
何 (疑)  
「おい、何だと？」(V-03.103)

**tánà** — 昔話を語る前に発する決まり文句。「さて」。

- (9) **tánà** **lé** **ʔəwī** **dáʔò** **khwâ** **ʔó** **lə-** **yà**  
(場) 以前 (過去) 男 いる — ~人  
「さて、昔、男が1人いた」

**hə̀nʔón** — 何らかの意見を否定するときに用いる。**hùhú** とも発音される。「いや」「いいえ」。

- (10) **hə̀nʔón** **təmjan** **nān** **cón** **ʔé**  
奇妙な (少数) ~箇所 (否)  
「いや、まったく奇妙ではない」(V-03.5)

**hə̀yà** — 相手の意見に賛成できないときに用いる。「おい」「おいおい」「おやおや」。

- (11) **hə̀yà** **mwē** **chônmon** **nó** **lê** **nê**  
(繋) 考える 何 (疑) NE  
「おい、何を考えているんだ」(V-03.68)

- (12) **bá** **lò** **châ** **lòthà** **bá** **ʔá** **nê** **hə̀yà**  
(当為) 語る 痛い (相互) 正しい (疑) NE  
「互いに悪口を言い合うべきときかね、おい」(001.2191)

## 第 VI 部

### 従属節に関連する諸問題





## 第21章 従属節助詞

従属節には、副詞節、補文、関係節の3種類がある。このうち補文(第22章参照)は補語の役割を担う節であり、関係節(第23章参照)は名詞を修飾する節である。関係節と補文以外の従属節を副詞節と定義する。

従属節助詞(subordinate clause particle)は、これら従属節を文中に導入する働きを持つ。ただし、補文を表す *lé* と *dè* だけは、補文を導入するのではなく、補文を表すだけの機能しか持たないと考える。

以下に従属節助詞を挙げてその機能を記述する。なお、21.1 から 21.21 までが副詞節を導入する助詞である。21.22 は関係節を導入する助詞、21.23 は補文を表す助詞、21.24 は補文を導入する助詞である。

### 21.1 ?è

条件を表す副詞節を導入する。*?è* あるいは *?ə-* とも発音される。「もし～なら」「～すると」。従属節の動詞句の直前に現れる。

*?è* が使われた節には、非現実法を表す *mə-* が決して現れない。次の例に現れている動詞助詞 *báθà* は *mə-* とともに使われることが多い。しかし、この例で *mə-* を使うことはできない。

- (1) *nə- ?è (\*mə-) mî báθà | thàin*  
2sg (非現) 寝る (欲求) 帰る  
「寝たければ帰りなさい」

*?è* の用いられた例を下に挙げる。

- (2) *hə θí ?è khlàu | kànkà nə- ?əyāincón klə lə*  
1pl (類似) 暇な 噂する 2sg 事柄 いつも (断定)  
「私達も、暇があるとあなたの噂をしています」(011.19)

- (3) *?əwədə nɔ ?è lə- θàwīθà mī bá |*  
3se (題) (否) 腹が空く ご飯 (否')  
*?án nān blān ?é*  
食べる (少数) ～回 (否')  
「彼は腹が減っていなければ決して食べなかった」(II-14.10)

- (4) ʔè dá lóθà lə- yà mé lə- yà mé nó |  
見える (相互) — ～人 顔 — ～人 顔 (題)

ʔáin lóθà lə  
咬む (相互) (断定)

「(私達は) 互いの顔を見ると喧嘩してしまう」(009.49)

- (5) wēcò θí ʔə- dá bá phôʔwà yán nó |  
兄 (類似) 見える (不抗) (人名) 泣く (題)

θà máu ʔé  
心 快適な (否)

「僕も、パワーが泣いているのを見ると、つらいよ」(V-01.20)

- (6) chə- ʔə- chən ʔò |  
CHə 降る (題)

ʔánláu khwái jə- chāin nān thí  
取り込む (徹底) 1sg シャツ (少数) ～回

「もし雨が降ってきたら、私の服を取り込んでください」(001.301)

しばしば ʔè は、(7) のように、コピュラ動詞 mwē の前で用いられ、mwē の補文が条件の内容を表す。この場合、補文の中に ʔè がもう一度現れることがある。補文の中の ʔè は論理的には必要のないものである。そのため、これは省いてもかまわない。

- (7) ʔè mwē [C chəʔáwɪnkàijè (ʔè) tán ] tā |  
(繫) 綿雲 厚い (題)

mūmé dè là nó pə- dá bá ké ʔé  
太陽 (列挙) 月 (題) 1pl 見える (不抗) 可能な (否)

「綿雲が厚いと、太陽や月は見ることができない」(III-05.32)

ʔè が使われた従属節の後には、dùr や bò という音節が置かれることがある。dùr と bò は取り除いてもかまわない。これらは文助詞の dùr および bò と形は同じであるが、文助詞が持つ、話し手の態度を表す働きはない。したがって、起源は同じかもしれないが、文助詞とは別の形式と考えるべきであろう。本論文では、dùr と bò を、ʔè を補助する特別な形式だと考えておく。

- (8) ʔè ʔó dùr | dàu ʔán  
ある (使役) 食べる

「もしあるのなら、食べさせてください」(003.1015)

- (9) nə- ʔè lə bò | jə- θí mə- lì  
2sg 行く 1SG (類似) (非現) 行く

「あなたが行くなれば私も行く」

また、ʔè は、次節に述べる càibò との組み合わせで条件を表すことがある。下の例を見よ。

- (10) xíphàn ʔè lə- kò cō bá càibò |  
 (人名) (否) 呼ぶ 兄 (否')  
 phəjā ké ʔé  
 放す 可能な (否)  
 「ファイブンがお兄さんと呼んでくれないのなら、放してあげない」(IV-04.236)
- (11) ʔè cəuNθà càibò | jūphən khwái  
 退屈な 見る (徹底)  
 nə- ʔəyàn lé bidìʔòkhwè phən  
 2sg 姿 (場) ビデオテープ 中  
 「退屈だと、ビデオテープの中のアナタの姿を見るようにしてるんですよ」(011.15)
- (12) pənânchā ʔè chónkhlân càibò | pə- θəuN pə- θà θí  
 身体 健康な 1pl 肝臓 1pl 心臓 (類似)  
 mə- xwî wê chī nó mwē nəθí θíjā chī bâ  
 (非現) 軽い (強意) (婉曲) (題) (繫) 2pl 知る (婉曲) (疑)  
 「からだ健康だと、心が楽しくなることをあなた方は知っていますか?」(I-07.13)
- ▷ θəuN θà xwî 「肝臓と心臓が軽い」は、「楽しい」の意の慣用句。

ʔè は、逆接を表す従属節助詞の lānân(後述)と同時に現れて「譲歩」を表すことがある。

- (13) jə- mī ʔè thō lānân θí |  
 1sg 尾 長い (逆接) (類似)  
 jə- kí ʔá ʔé  
 1sg 垢 多い (否)  
 「確かに私の尾は長いかもしれないが、垢は多くない(=好みはうるさくない)」
- ▷ kí ʔá は「好みがうるさい」の意の慣用句。

- (14) jəwêdá jə- cū jə- khán ʔè lə- ʔó bá lānân θí |  
 1se 1sg 手 1sg 脚 (否) ある (否') (逆接) (類似)  
 nə- bá kətò khè jə- yāN ʔó nāN mēin ʔé  
 2sg (当為) 心配する (代行) 1sg ため ある (少数) ~種類 (否)  
 「確かに、私は手も足もないけれども、お前は私のことを心配する必要はない」(II-11.11)

## 21.2 càibò

ʔè と同じく、条件を表す副詞節を導入する。節の末尾に置かれる。cài は動詞 cài 「言う」に由来する。bò は、文助詞の bò と共通の語源を持つ可能性がある。上で述べたよう

に、ʔé に導かれた従属節の後には bò が付くことがある。この bò とも何らかの関係があるだろう。西部方言では、条件を表す従属節助詞として、bó がある。西部方言の bó は、次のように節の末尾に現れる。

## [West Pwo Karen]

- (15) nə- lé bó | jə- kə- lé  
 2sg 行く もし 1sg (非現) 行く  
 「あなたが行けば私も行きます」

東部方言の bò は西部方言の bó と間違いなく同源であろう。しかし、東部方言の bò には、西部方言の bó のように単独で節を導入する働きはない。もし、bò にこのような働きがあるなら、càibò を、動詞 càì に bò が付いていると分析することが可能である<sup>1</sup>。

下に例を挙げる。

- (16) khlàin ʔèphlé càibò | jə- náθi ʔé  
 話す 速く 1sg 理解する NEG  
 「速く話すと分かりません」(002.129)

- (17) nə- lə- lì wá càibò |  
 2sg (否) 行く (否')  
 kəchāklòn mə- mà θi jə  
 王 (非現) (使役) 死ぬ 1SG  
 「あなたが行かなければ王は私を殺すだろう」(006.68)

càibò が他の従属節助詞と異なる点は、主節の否定辞 ʔé を用いることができるということである。(17) は、次のように言い換えることもできる。

- (18) nə- lì ʔé càibò |  
 2sg 行く (否)  
 kəchāklòn mə- mà θi jə  
 王 (非現) (使役) 死ぬ 1SG  
 「あなたが行かなければ王は私を殺すだろう」

これは càì の部分が動詞に由来することと関係があるだろう。動詞 càì は次のように引用文を導くことができる。

- (19) “lə- mwē phlòun θi | bá làn mā”  
 (否) (繫) 人 死ぬ (当為) 消える  
 hə- càì ké wē lô  
 1pl 言う 可能な (強意) (断定)  
 「「死人ではないが消え去る運命だ」と言ってもよいだろう」(IV-06.14)

あらゆる発話は引用文になり得る。当然、否定辞として ʔé が用いられた文も引用文になることができる。càibò が導く副詞節は、càì が動詞の性質を完全には失っていないため、否定辞として ʔé を用いることができるのかもしれない。

<sup>1</sup>ビルマ語の shò yin (言う+～なら) を参照のこと。

## 21.3 ʔəkhúcòn

理由を表す副詞節を導入する。「～だから」「～なので」。節の末尾に置かれる。下に例を示す。

- (20) ʔəkhâjò phlòunmwì cà ʔəkhúcòn |  
 今 客 少ない  
 ʔópwaì ʔá læcèphú dàì  
 休む 多い 少し まだ  
 「今は客が少ないので、休むことがまだちょっと多い」(012.22)

- (21) lòn chəpàmaú cwá wê ʔəkhúcòn |  
 追う 快樂 大変 (強意)  
 láì lánthé khwái wê læ- néin nó lô  
 学業 落ちる (徹底) (強意) 一 ～年 (のだ) (断定)  
 「快樂にばかり耽っていたので、落第してしまった」(V-01.59)

- (22) chì dúb kòkəjàn khúdà jò  
 民族 大きい 地球 表面 この  
 ʔə- chì láilè ðè pàdú pàprè wê ʔəkhúcòn |  
 3sg 民族 文学 (複) 尊敬する 広める (強意)  
 ʔəí chìphú ðè dúcā wê lô  
 3pl 民族 (複) 栄える (強意) (断定)  
 「世界の大きな民族は、自分達の文学を尊重し広めているので、彼らの民族は繁栄しているのである」(IV-01.22)

- (23) ʔəwê ʔó læ- ké lòn bá ʔəkhúcòn |  
 3se いる (否) 可能な もはや (否)  
 ʔəwê pətèin thán wê ʔàiθài  
 3se 申す (外方) (強意) 修験者  
 「彼は居ても立ってもいられなくなって、修験者に申し上げた」(006.17)

- (24) jə- læ- yì bá ʔəkhúcòn | jə- ʔé tháu phôʔwà  
 1sg (否) 良い (否') 1sg 愛する (最上) (人名)  
 læ- yà mæ- bá θi lô  
 一 ～人 (非現) (当為) 死ぬ (断定)  
 「私が良くなかったために、愛するパワーは死ななければならないのだ」(V-01.95)

## 21.4 yòn

wòn と発音されることもある。副詞節を導入し、従属節が表す事象と主節が表す事象が、継起的にあるいは同時的に生起することを表す。「～して」。節の末尾に置かれる。起

源的には動詞 yòN 「終わる」に由来する。まず継起を表す例を示す。この場合、yòN の付いた節が先行する事象を表す。

- (25) ləkhâin lə- nì thwí cā nó lì làn ʔó wê  
 後 一 ～日 犬 老いた (題) 行く (下方) いる (強意)  
 lé thîkhlónàin nó yòN |  
 (場) 川岸 その  
 chéθi ʔə- θà nó lô  
 死んだふりをする 3sg (再帰) (のだ) (断定)  
 「あくる日、老いた犬は川岸に行って、死んだふりをした」(I-01.20)
- (26) ʔəwədə lì chōN làn lé thwí yànthài ʔò yòN |  
 3se 行く とまる (下方) (場) 犬 傍 (遠方)  
 mə- cò ʔán wê thwí θi ʔə- mékhli nó...  
 (非現) つつく 食べる (強意) 犬 死ぬ 3sg 目玉 (前提)  
 「彼(=鳥)は犬のそばにとまり、死んだ犬の目をつついて食べようとしたところ...」  
 (I-01.23)
- (27) təphúwē nī yà tháu thán khli yòN |  
 兄弟 二 ～人 乗る (上方) 舟  
 lì wê lé ʔə- phā càn ʔò lô  
 行く (強意) (場) 3sg 父 小屋 (遠方) (断定)  
 「兄弟 2 人は舟に乗り、父親の小屋へ行った」(I-06.25)
- (28) pàu thán pàitəlân yòN |  
 開ける (完成) 窓  
 chəphúxā náu làn wê ləpòun mā lô  
 虫 入る (内方) (強意) たくさん (非常) (断定)  
 「窓を開けると、虫がたくさん入ってきた」(001.1020)
- (29) chəkhleín khlaú nī yòN |  
 寒さ 捕らえる (執拗)  
 ʔè chônkaín nó |  
 (条件) ひどい (題)  
 pə- bá ʔópwài khwái xèxè lô  
 1pl (当為) 休む (徹底) ゆっくり (断定)  
 「風邪をひいてひどくなったら、ゆっくり休まなければならない」(II-13.16)

yòN は、次のように、同時的な事象を表すこともできる。下の例の「グラグラしやすい」という状態と「折れやすい」という状態は、同時に存在する状態である。

- (30) pə- mé pə- ʰwâ ləló jô wê yòN |  
 1pl 齒 1pl 齒 ぐらつく 容易な (強意)  
 phó khwái ʰí mə- jô wêdâ chī lô  
 折れる (徹底) (類似) (非現) 容易な (強意) (婉曲) (断定)  
 「(固い物を食べ過ぎると) 私達の歯はグラグラしやすく、また折れやすくもなる」  
 (II-08.21)

## 21.5 ʰə̀yòN

yòN と同様の機能を持つ。節の末尾に置かれる。「～して」。ʰə̀wòN と同発音される。yòN の部分はおそらく動詞 yòN 「終わる」に由来する。ʰə̀ は複数を表す助詞 ʰə̀ と同じ発音であるが、同源かどうかは分からない。下に例を示す。

- (31) jə- cáin thán kəlôuN ʰə̀yòN |  
 1sg 出る (外方) 仕事  
 dá lóà dè kòtìnkàin nō blàn dài ʔé  
 会う (相互) (共) (人名) (少数) ～回 まだ (否)  
 「私は仕事をやめてから、コーティンカインにまだ一度も会っていません」(012.38)
- (32) jə- thán nē ʰə̀yòN | yê thàin thòN  
 1sg 上る 僧侶 来る 帰る 着く  
 ləkōuN lé chinī ʰân lə- nì dáʔò chī lô  
 (地名) (場) 十二 ～日 一 ～日 (過去) (婉曲) (断定)  
 「私は出家をして、ヤンゴンに12日に帰ってきました」(015.6)
- (33) ʔəwê nó lònàin ʔə- mâ ʰə̀yòN |  
 3se (題) 語る 3sg 妻  
 ʔə- mâ nó ʔó xè ʰí ʔé chī  
 3sg 妻 (題) いる 静かな できる (否) (婉曲)  
 「彼は(見てきたことを) 妻に語り、妻は(それを聞いて) 居ても立ってもいられなくなった」(006.43)

ʰə̀yòN は yòN と同様に、同時的な事象を表すこともできる。下の例の「尊敬する」と「賞賛する」という事象は同時に発生する事象である。

- (34) pàdújàuján bá nə- phânkhu ʰə̀yòN |  
 尊敬する (無意) 2sg 上  
 ʔánʔàu bá nè châ mā  
 賞賛する (無意) 2sg (非常) (非常)  
 「あなたを尊敬しているし、賞賛したい」(017.11)

## 21.6 lānân

副詞節を導入し、逆接を表す。「～なのだが」「～だけれども」。lānân と同発音される。また、くだけた会話では nân とだけ発音されることもある。この助詞が使われると、節の後に一般助詞の θí が置かれることが多い。この助詞は、普通は節の末尾に現れる。しかし、(39)～(41) のように動詞の直後に置かれることもある。

- (35) jə- ʔò θàì lānân | jə- mən mwē ʔé  
 1sg 飲む 酒 1sg 酔っている (繋) (否)  
 「俺は酒を飲んだが、酔ってはいない」(V-03.109)

- (36) jə- nā thō lānân θí |  
 1sg 鼻 長い (類似)  
 dē nè bāchāin nān mēin ʔé  
 (共) 2SG 関係ある (少数) ～種類 (否)  
 「私は鼻が長いが、お前とは何の関係もない」(006.29)

- (37) jə- phū nō ʔəjáu thánbà wē xóchí jàu lānân θí |  
 1sg 祖父 (題) 年齢 なる (強意) 八十 (完) (類似)  
 ʔóchón ʔókhlāin wē yìyibábá dài lô  
 健康な 健康な (強意) 優れて まだ (断定)  
 「私の祖父は年齢が 80 になったが、まだ大変健康である」(II-08.2)

- (38) péinchān lə- pà bá lānân θí |  
 金 (否) 含まれる (否') (類似)  
 jə- l̩ lô  
 1sg 行く (断定)  
 「お金はなかったが、私は行った」(001.2088)

- (39) dá lānân chəkáchəyè θí |  
 遭う 困難 (類似)  
 wēcò θàmé nān mēin ʔé lô  
 兄 恐れる (少数) ～種類 (否) (断定)  
 「困難に遭っても、僕はまったく恐れない」(V-01.48)

- (40) hāmənī bēnɔ̀θò mwē lānân phlòun θí |  
 人間 そのような (繋) カレン (類似)  
 hə- dàulàn lé phlòun cəran phən tháujâ ʔé lô  
 1pl 入れる (場) カレン 統計 中 相応しい (否) (断定)  
 「そのような人は、カレン人であっても、カレン人の中に入れる価値がない」(IV-06.22)



- (41) láipàuv ʔó lānān ləpòun θí |  
 本 ある 沢山 (類似)  
 jə- pō máu ʔé  
 1sg 読む 快適な (否)  
 「本はたくさんあるが、好きな本がない」(001.2226)

## 21.7 bê ... θò

「目的」を表す副詞節を導入する。「～するように」「～になるように」。bêθò ... θò という形もある。bê や bêθò が節の初頭に置かれ、θò が節の末尾に置かれる。ときとして、節の最初と最後に置かれる形式のうち一方のみが現れることもある。「類似」を表す側置助詞の bê ... θò 「～のように」を参照せよ。

bê ... θò が表すことのできる「目的」は、主節の主語の指示対象が意志によってはコントロールできない事象である。従って、主節と従属節の主語が同一指示の場合、(42) のように、従属節の動詞は無意志動詞である。主語が同一指示でない場合には、(43) のように、意志動詞であってもかまわない。

- (42) bê jə- mə- θí θò | jə- kləcə  
 1sg (非現) できる 1sg 努力する  
 「私は、できるようになるよう、努力した」
- (43) bê ʔəwə mə- mà láí θò | jə- ʔánláu ʔə  
 3se (非現) する 文字 1sg 叱る 3SG  
 「彼が勉強するよう、私は彼を叱った」

主節と従属節の主語が同一指示で、かつ従属節に意志動詞を用いたいときには、bê ... θò を使うことができない。このような場合は、側置名詞 ʔəyān を修飾する節によって「目的」を表現する必要がある。

- (44) \*bê jə- mə- xwè já θò | jə- lì phjâ  
 1sg (非現) 買う 魚 1sg 行く 市場
- (45) jə- mə- xwè já ʔəyān | jə- lì phjâ  
 1sg (非現) 買う 魚 ため 1sg 行く 市場  
 「私は魚を買うために市場に行った」

下に使用例を挙げる。

- (46) bê mə- chēinphlî θò |  
 (非現) 清潔な  
 pə- bá thəu pə- mé dè thîlá nó lô  
 1pl (場) こする 1pl 歯 (共) 塩 (のだ) (断定)  
 「(歯が) きれいになるように、私達は歯を塩で磨かなければならない」(I-07.5)

- (47) thədòN chàin ɛ̀ân chəkòNchə̀θò nɔ́ θí  
 腰巻き シャツ 腰巻き 着物 (題) (類似)  
 bêθò ʔəkí lə- ʔó bá θò |  
 垢 (否) ある (否)  
 pə- bá ʔánchújwà kòNθò wêdá lɔ́  
 1pl (当為) 洗う 身に付ける (強意) (断定)  
 「腰巻きやシャツなどの着物も、垢がないように、洗って身に付けなければならない」(I-07.8)

- (48) bê mə- θíjâ bá thíchà θò |  
 (非現) 知る (不抗) 確かな  
 jə- mə- lì ʔópwài jū nāN blāN  
 1sg (非現) 行く 休む (試行) (少数) ～回  
 「確かめるために、一度、(そこに行って) 休息してみよう」(III-12.15)

- (49) bê tawāN mə- dúɛāthánthô θò |  
 村 (非現) 発展する  
 phôʔwà káu mà lā  
 (人名) 努力する する (願望)  
 「村が発展するよう、パワーに努力してほしい」(V-01.21)

- (50) bê nə lə- ɣà mə- kləNkhlāN θò |  
 2sg ー ～人 (非現) 理解する  
 jə- mə- lò phí thàin jābò  
 1sg (非現) 語る (裨益) (再度) JABO  
 「あなたが理解できるように、私は話してあげましょう」(V-04.162)

- (51) mà wī ʔə | nə- xóthò mə- phlōN θò  
 する (先行) 3SG 2sg 八年生 (非現) 合格する  
 「8 年生試験に合格するよう、それ (=勉強) を優先してしなさい」(V-03.119)

## 21.8 dè

dē とも発音される。「理由」「即時性」「同時性」を表す副詞節を導入する。節の初頭に置かれる。

### 21.8.1 dè(1) <理由>

理由を表す。「～だから」「～ので」。

- (52) dè jə- phú jə- lì ʔá |  
 1sg 子供 1sg 孫 多い

dè ʔə- kəthái | dè nə- cú nə- khán thô nó |  
 3sg きつい 2sg 手 2sg 脚 長い (題)

mwē nə- mī lé θwī phòN jò mə- θi Ɂá  
 (繫) 2sg 寝る (場) 巢 中 この (非現) できる (疑)  
 「私の子供は多いし、狭いし、あなたの手足は長いのだから、この巣の中で寝ることなどできるだろうか」(II-02.20)

(53) ʔənânchā mə- yâN nə- yà jò |  
 彼女自身 (非現) 聞こえる 2sg ~人 この

dè nə- lū θô  
 2sg 声 うるさい  
 「彼女にお前の声が聞こえるよ、お前の声は大きいから」(IV-04.74)

### 21.8.2 dè(2) <即時性>

従属節が表す事象が生起した直後に、主節の表す事象が生起することを表す。「~するやいなや」「~したらすぐに」。

(54) dè kəbàn ʔótháu yòN |  
 船 止まる 終わる

yàmú khlàN thán  
 おばさん 話す (外方)  
 「船が止まるとすぐに、おばさんは話し出した」(IV-04.144)

(55) dè náu làn phjá phòN |  
 入る (内方) 店 中

phlòuN ləwāN ləphá klíphá thán jə lə- thí  
 人 周辺 (複) 横目で見 (上方) 1SG 一 ~回  
 「(私が) 店に入ったとたん、周りの人々が私をちらっと横目で見た」(V-03.11)

(56) dè cáN làn cōN | mà mâ lô dùr  
 出る (下方) 学校 取る 妻 (断定) DU  
 「(私は) 学校を出てすぐに結婚したのだから」(V-03.76)

(57) dè ʔəθiwē cáN làn | ʔə- thìθò θè  
 3pe 出る (下方) 3sg 友人 (複)

ké thán phlòuN phàdú láu jàv  
 成る (完成) 人 偉大な 尽きる (完)  
 「彼らが卒業したときには、彼らの友人は既に偉くなっていた」(V-03.116)

## 21.8.3 dè(3) &lt; 同時性 &gt;

主節が表す事象と同時に、従属節が表す事象が生起することを表す。「～しながら」「～するのと同時に」。従属節には、lə- khô「一方では」あるいは khòkhô「一方では」という表現が現れることが多い。

- (58) xíphàN nó lò chà | dè yáN khòkhô  
 (人名) (題) 語る CHə 泣く 一方で  
 「ファイパウンは、泣きながら語った」(IV-04.315)

- (59) dè ʔə- θàŷêthán wê chà lə- khô |  
 3sg 怒る (強意) CHə 一 ～方  
 lì thán wê lé thókò ʔə- nàN ʔò lô  
 行く (上方) (強意) (場) サイチョウ 3sg 宮殿 (遠方) (断定)  
 「彼は怒りながら、サイチョウの宮殿へ向かった」(II-02.28)

## 21.9 thòN

事象が存続する限界となる時点(これを第 11 章では終了点と呼んだ)を表す副詞節を導入する。「～するまで」。thòN とも発音される。節の初頭に置かれる。副詞節は一般的に主節の前に置かれることが多い。しかし、thòN によって形成された副詞節は、主節の後に置かれることのほうが多い。この助詞は、動詞 thòN「着く」に由来する。

- (60) jə- wài phí nə- lú |  
 1sg 紡ぐ (裨益) 2sg 糸  
 thòN jə- jáu ʔàv  
 1sg 年齢 尽きる  
 「私は、死ぬまであなたの糸を紡ぐことで、弁償します」(II-02.21)

- (61) bè θû thán | thòN ʔəthi θài yòN ...  
 干す 乾く (完成) 液体 乾く (継起)  
 「(魚肉を) 水分が蒸発するまで干して…」(III-13.14)

- (62) ʔò wêdá | thòN ʔə- blè bá ʔə- θà nó ...  
 飲む (強意) 3sg 満足する (基準) 3sg (再帰) (前提)  
 「(酒を) 満足するまで飲んで…」(IV-05.23)

- (63) nānpôʔwà jũthwê thàin còθéinlá |  
 (人名) 見る (再度) (人名)  
 thòN lə- dá ləN bá yòN ...  
 (否) 見える もはや (否) (継起)  
 「パワーは、見えなくなるまでチョーテインラーを見守って…」(V-01.28)

- (64) mə- ʔókò | thōN ʔəwê yê thàin khó  
 (非現) 待つ 3se 来る 帰る (未来)  
 「彼が来るまで待つよ」(004.34)

- (65) ʔəwêθí cò ʔán khwái  
 3pe つつく 食べる (徹底)  
 chəphúchəxā θí thōN ʔə- láu nó lô  
 昆虫 (複) 3sg 尽きる (のだ) (断定)  
 「彼ら (=鳥) は、昆虫を尽きるまで食べてしまう」(II-01.13)

- (66) nə- chəmə nə jə- mə- bò  
 2sg 仕事 (題) 1sg (非現) 助ける  
 phí dāwê thōN ʔə- yòN  
 (裨益) (願望) 3sg 終わる  
 「あなたの仕事は、終わるまで手伝ってあげましょう」(IV-04.426)

- (67) ʔəwê klìcì mà thōN ʔə- phlōN yòN ...  
 3se 努力する 行う 3sg 成功する (継起)  
 「彼は、成功するまで努力して...」(V-01.67)

- (68) jə- mə- ʔókò nè thōN ʔə- thōN lə- nàdì  
 1sg (非現) 待つ 2SG 3sg 着く 一 ~時  
 「私は1時になるまであなたを待つ」(001.353)

▷ thōN の後の ʔə- は時間を指しているものと考えられる。

## 21.10 xwè

範囲の限定を表す副詞節を導入する。節の初頭に置かれる。「~する限りでは」。xwē と同発音される。動詞 xwè 「(水などが) 満ちる」に由来する。

- (69) xwē pə- dá bá nó | ké thán thàin  
 1pl 見える (不抗) (題) 成る (完成) (追加)  
 chì xāxòN nó ʔá mā jàu chū lô  
 民族 別の (題) 多い (非常) (完) (婉曲) (断定)  
 「観察できる限りでは、(カレン人が) 別の民族になってしまったということは既に非常に多い」(IV-01.10)

- (70) xwē jə- yāin jə- bjà ʔó nó |  
 1sg 力 1sg 力 ある (題)  
 jə- tōunpàin làn θà  
 1sg 認める (帰的) (再帰)  
 「私の力のある限り、(お手伝いすることを) 誓います」(V-01.111)

- (71) xwē khlàu nó | màbò màchèn kō néin  
 暇な (題) 手伝う 手伝う (毎) ~年  
 「毎年、暇な限りは手伝った」

### 21.11 dèin

この助詞は節の初頭に付いて副詞節を導入するが、他の副詞節を導入する助詞とは異なって、主節の初頭にも現れる。どちらか一方を省くことはできない。「~するほど...する」「~であればあるほど...である」という意味を表す。発音は、dèin 以外にも、dè, dē, dī, dī などがある。

この助詞は、主節と従属節の両方に付くため、どちらが主節でどちらが副詞節なのかを判断するのが難しい。おそらくは、後に現れる節が主節なのだと考えられる。その理由は、次の (72) のように、非現実法を表す mə- が、後の節のみに現れるということである。

- (72) phlòun chəphú néinthánθân jò cūjâkèkhân khó |  
 カレン 民族 新年 (題) 今後 (未来)  
 dèin jái dèin mə- dúcā thánthô wê dài lô  
 久しい (非現) 発展した (変化) (強意) まだ (断定)  
 「カレン新年 (の祭り) は、今後でもまだどんどん発展していくだろう」(III-11.23)

- (73) dèin jái dèin lənbən khwái lô  
 久しい 埋没する (徹底) (断定)  
 「(民族は伝統技術がなければ) 時間が経つにつれて衰退してしまう」(V-02.143)

- (74) dē chū dē yì  
 早い 良い  
 「早ければ早いほど良い」(001.1283)

### 21.12 yì

副詞節を導入し、任意性を表す。節の末尾に現れる。動詞 yì「良い」に由来する。yìyì あるいは ʔəyì となることもある。「~であれ、~であれ」。必ず、二つの副詞節を対にした形、すなわち A yì B yì という形をとる (A と B は節を表す)。名詞修飾助詞の yì を参照のこと。

- (75) cōNθā yē yì | lə- yē yì |  
 学生 来る (否) 来る  
 thàin cáin nī ʔé  
 帰る 遊ぶ 可能な (否)  
 「学生が来ようが来るまいが、(家に) 遊びに帰ることはできない」(001.1356)

- (76) chələ láin θí jò | dó yì pì yì |  
 (強調) 岩山 (複) (題) 大きい 小さい  
 thən ʔó ʔá chəthəmā lō  
 洞穴 ある 多い 専ら (断定)  
 「岩山は、大きいものでも小さいものでも、洞穴があることが多い」(V-06.23)
- (77) θéinθáthî lé [R ʔə- yì] nó mwē ʔəyì |  
 果物ジュース (関) 3sg 良い (題) (繫)  
 thî lé [R ʔə- phànchêinxí] nó θí mwē ʔəyì |  
 水 (関) 3sg 清潔な (題) (類似) (繫)  
 pə- bá ʔò wê klà lō  
 1pl (当為) 飲む (強意) いつも (断定)  
 「美味しい果物ジュースであれ、清潔な水であれ、我々はいつも飲まなければならない」(II-13.17)

## 21.13 xì

yì と同様、副詞節を導入し、任意性を表す。禁止を表す副助詞 ləxì(xì) に由来する(第24章を参照のこと)。yì と同様に二つの節を対にした形を取る。ただし、A Ø B xì という形になる。

- (78) ʔəwē yê thàin | yê thàin xì |  
 3se 来る 帰る 来る 帰る  
 mwē jə- chəʔəkhō vā  
 (繫) 1sg 憂い (疑)  
 「彼が帰って来ようが、帰って来るまいが、私の心配事だろうか(いや、心配事ではない)」(V-05.30)

## 21.14 kəlä

副詞節を導入し、「～する前に」「～しないうちに」という意味を表す。節の初頭に置かれる。常に否定辞 lə- および副助詞 dài「まだ」が節内に現れる。発音は、kəlä あるいは kàlä あるいは kàlā などとなることもある。l が d で発音されることもある。パーリ語 kāla「時」の借用語である可能性が高い。

- (79) kəlä lə- ʔāN mī dài bá |  
 (否) 食べる ご飯 まだ (否')  
 θijà khwái wī nə- cú nó  
 洗う (徹底) (先行) 2sg 手 その  
 「ご飯を食べる前に、手を洗いなさい」(001.3519)

- (80) kə̀lā chə̀rā lə- yê dài bá |  
先生 (否) 来る まだ (否')  
jū wī nə- láí nó  
見る (先行) 2sg 本 その  
「先生が来る前に、本を見ておきなさい」(001.1569)

## 21.15 khə̀

副詞節を導入し、「～している最中に」という意味を表す。節の初頭に現れる。

- (81) khə̀ jə- mí | ʔəwê yê  
1sg 寝る 3se 来る  
「私が寝ているときに彼が来た」

下の (82) や (83) のように、主節なしで「X は～している最中だ」ということを表す場合もある。

- (82) khə̀ jə- ʔáN mì dài  
1sg 食べる ご飯 まだ  
「ご飯を食べている最中だ」(003.367)

- (83) mǎncò thòndú θè ʔəkòunlwē khə̀ lòthàin  
おじさん (人名) (複) グループ 話す  
thîyāinkhānyāin ʔəcòN chəʔókón ʔəcòN θè dài  
政治 こと 集会 こと (複) まだ  
「トンドゥーおじさん達のグループは、まだ政治のことや集会のことを話している最中だ」(V-03.82)

## 21.16 chə̀Nchə̀N

副詞節を導入し、「～する代わりに」「～せずに」という意味を表す。節の初頭に現れる。

- (84) chə̀Nchə̀N mə- lò phlòun xāinxòn |  
(非現) 語る 人 周り  
jū làn wī θà thòN ʔə- yòn  
見る (帰的) (先行) (再帰) (限界) 3sg 終わる  
「他人のことを言う前に、自分を完全に観察しなさい」(001.1004)
- (85) chə̀Nchə̀N jə- ʔáN kú nó |  
1sg 食べる 菓子 (題)  
jə- ʔáN mì θā  
1sg 食べる ご飯 (新局)  
「私は菓子を食わずに、ご飯を食べることにした」(001.1004)



## 21.17 nó

副詞節を導入する。従属節の末尾に現れ、主節が表す事象(=後件)の生起が、従属節が表す事象(=前件)の生起を前提としていることを表す。したがって、前件は常に後件に時間的に先行する。前件は後件の原因であることも、条件であることもあり得る。したがって、日本語には、「～したところ」「～なので」「～すると」など、様々な訳し方が可能である。語源的には、名詞修飾助詞の nó「あの」、および、そこから派生した一般助詞の nó(主題)と関係がある。

(86) lì thòn wê lé ?àiθài phjā nó |  
行く 着く (強意) (場) 修験者 道場

?àiθài θjā wêdá ?əcòn ...  
修験者 知る (強意) 事情

「(彼が) 修験者の道場に行ったところ、修験者は事情を察知して…」(III-04.16)

(87) ?ə- méθá kəda nó |  
3sg 顔 裏返る

?əwê thàin bá lən ?é  
3se 帰る 正しい もはや (否)

「彼は道に迷ってしまったので、帰ることができなくなってしまった」(006.14)

(88) ?ə- phā chōnná lə- máu bá nó  
3sg 父 聞く (否) 快適な (否')

?ə- phā lə  
3sg 父 語る

「彼のお父さんは、聞き心地が悪かったので、言った」(005.8)

(89) thàin khā lé phənθà nə- chəphóchəli θè lənmā nó |  
帰る 時 (場) 道 2sg 荷物 (複) 消える

jə- θà máu nōcè ?é chī lə  
1sg 心 快適な 少しも (否) (婉曲) (断定)

「(あなたが) 帰るときに、荷物がなくなってしまったので、私は気の毒でなりません」(015.7)

(90) pə- miyêthəwɪn thán lé kəyòkhā nó |  
1pl 起きる (上方) (場) 朝

pə- bá phlà pə- mé ?èchēin lə  
1pl (当為) 洗う 1pl 顔 清潔に (断定)

「朝起きたら、顔を清潔に洗わなければならない」(I-07.4)

## 21.18 tā

副詞節を導入する。従属節の末尾に現れる。nó と同じく、主節が表す事象(=後件)の生起が、従属節が表す事象(=前件)の生起を前提としていることを表す。語源的に、主題を表す一般助詞の tā と関係がある。tà という発音もある。

- (91) θàucà nó wàin kədà θà jō thàin wê tā |  
 (人名) (題) 振り返る (逆) (再帰) 見る (返答) (強意)  
 nānʔéxíphàn nó káθà chī  
 (人名) (題) 恥ずかしい (婉曲)  
 「タウチャーが振り返って見ると、ファイパウンは恥ずかしがっていた」(IV-04.45)

## 21.19 nótā

副詞節を導入する。節の末尾に現れる。nó や tā と同じく、主節が表す事象(=後件)の生起が、従属節が表す事象(=前件)の生起を前提としていることを表す。語源的に、主題を表す一般助詞の nótā と関係がある。nótà と同発音される。

- (92) ʔəwədə lòn ʔánxû ʔán ʔəchá nótā |  
 3sg 追う 探す 食べる 餌  
 lì thòn wê lé θéin lə- thóuin ʔəkhánthài nó lô  
 行く 着く (強意) (場) 木 一 ~本 根元 (のだ) (断定)  
 「彼は、餌を探して食べているうち、1本の木の根元に行き着いた」(I-01.3)

## 21.20 jò

副詞節を導入する。節の末尾に現れる。nó, tā, nótā と同じく、主節が表す事象(=後件)の生起が、従属節が表す事象(=前件)の生起を前提としていることを表す。語源的には、名詞修飾助詞の jò「あの」、および、そこから派生した一般助詞の jò(主題)と関係がある。

- (93) yê cəu lə- thí jò | thòn mèn  
 来る (無信) 一 ~回 着く (自然)  
 「今回、何とはなしに来てみたら、着いてしまった」(003.948)

## 21.21 θí

副詞節を導入する。逆接や譲歩を表す。「~しても」。節の末尾に現れる。一般助詞の θí「~も」に由来する。

- (94) cáin làn ʔánxû jō wê lé kəbàn ʔəphānlá lə- thən θí |  
 歩く (下方) 探す (試行) (強意) (場) 船 下 一 ~階

dá wê θwíwò ?é

見つける (強意) (人名) (否)

「(2 階建ての) 船の 1 階に下りて探してみても、トゥイーウォーは見つからなかった」(IV-04.20)

(95) wècò thòN tékəθòphjācònmòN θí |

お兄さん 着く 大学

wēcò θànáN phô?wà nāN phôn ?é nê

お兄さん 忘れる (人名) (少数) ～回 (否) NE

「僕は大学に行っても、パワーのことを決して忘れないからね」(V-01.17)

## 21.22 lé

関係節を導入する。lá あるいは lə- とも発音される。この助詞についての詳細は、第 23 章を見られたい。

(96) θéinθá thî [R lé ?ə- yì] nó

果物 水 (関) 3sg 良い その

「良い果物ジュース」(II-13.17)

## 21.23 lé と dè

補文を表す。目的語相当の補文にのみ付く。lé は lá あるいは lə- とも発音される。下に例を示す。この助詞は省略可能であり、それゆえ、補文を「導入する」あるいは「作る」機能ではなく、補文を「表す」機能しか持っていないと考えられる。

(97) jə- kətò (lé / dè) [C ?əwê mə- lì]

1sg 心配な 3se (非現) 行く

「私は彼が行くのではないかと心配している」

この助詞についての詳細は、第 22 章 22.2 を見られたい。

## 21.24 ɸâ と lê

補文を導入する。ɸâ の場合は命題の真偽が問題になっているということを表す。lê の場合は不定の内容が問題になっているということを表す。

(98) [C ?əjò yì] ɸâ θijâ ?é

これ 良い 知る (否)

「これは良いかどうか知らない」

(99) [C chənó ?ó] lê θijâ ?é

何 ある 知る (否)

「何があるのか知らない」

この助詞についての詳細は、第 22 章 22.4 を参照されたい。

## 21.25 従属節助詞に似た働きをする名詞

名詞の中には、一見、従属節助詞に見えるものがある。以下では、名詞 ?əkhâ と ?əyān を取り上げ、これらが従属節助詞ではないことを確認しておきたい。

## 21.25.1 ?əkhâ

?əkhâ は「時」という意味の名詞である。?ə は落ちて khâ となることもよくある。この名詞にはしばしば節が前置され、「～するとき」という意味を表す。

- (100) cəpān θè yê làn mànəN hə- thikhān **khâ**  
日本人 (複) 来る (内方) 征服する 1pl 国 時  
cəphāθúyè lə- yà bá ké wê pòtāchā  
(人名) — ～人 (当為) なる (強意) 運搬人  
「日本人がやって来て我々の国を征服したとき、チョーパートゥーゲーは、運搬人をやらされた」(V-04.25)

この ?əkhâ を従属節助詞と見なすことはできない。なぜなら、次の例に見られるように、「節 + ?əkhâ」には側置助詞が付くことができるからである。

- (101) lú nə- yê cáin hə- thikhān **khâ**  
(場) 2sg 来る 遊ぶ 1pl 国 時  
nə- ?áncà jè pəjàN chəkhlaín chéchin nó ...  
2sg 尋ねる 1SG ビルマ 言葉 (ビルマ語) (題)  
「あなたが私達の国に遊びに来たときに、私にビルマ語の「すぐに」を(カレン語で何と言うか) 尋ねましたが…」(012.34)

側置助詞が付くので ?əkhâ は名詞だと考えられる。?əkhâ の前に現れた節は、?əkhâ を修飾する関係節である。(100) のように、側置助詞が現れないことがあるのは、?əkhâ を主要部とする名詞句が時間的概念を表す名詞句だからである。例えば、下の例の側置助詞 lé は省くことができる。これは時間的概念を表す名詞句によく見られる現象である(第 19 章を参照)。

- (102) (lé) mūnà ?ò jə- lì khlôun  
(場) 夜 (遠方) 1sg 行く 外  
「昨晚、私は外出した」

次の (103) の mūmì 「日」や (104) の ləkhāin 「後(あと)」も、一見、従属節を導いているように見えるが、これらの名詞に前置された節は関係節である。これらも時間的概念を表す名詞句であるために、側置助詞が現れる必要がないのだと考えられる。

- (103) [<sub>R</sub> jə- lì ləkōun ] mūmì nó chə- chən chā  
1sg 行く (地名) 日 (題) CHə 降る (非常)  
「私がラングーンに行った日、雨がすごく降った」(002.720)

- (104) [<sub>R</sub> phûdàikò lə- ʔó lən bá ] ləkhâin jò  
 (人名) (否) いる もはや (否') 後 (近傍)  
 phlòun láilē θí chə- máló cà lən thàin wê  
 カレン 文字 (類似) CHə 学ぶ 少ない (変化) (追加) (強意)  
 ʔəthòthò nó lô  
 徐々に (のだ) (断定)  
 「ブーダイコーが亡くなった後、カレン文字は、学ぶ人が徐々に少なくなっていった」(III-08.20)

### 21.25.2 ʔəyāN

側置名詞の ʔəyāN(第12章参照)も、一見したところ従属節助詞に見えることがある。次のような例では、ʔəyāN が従属節を形成しているかのように見える。

- (105) jə- mə- máló láí phlòun ʔəyāN nó  
 1sg (非現) 学ぶ 文字 カレン (題)  
 jə- yê pəjàN khāN tālô  
 1sg 来る ビルマ 国 (断定)  
 「カレン語を勉強するために、私はビルマに来たのです」

しかし実際にはそうではない。上の例で「節 + ʔəyāN」の前には、様態を表す側置助詞 dè を付けることができる。下を見ていただきたい。側置助詞を付けることができるので、ʔəyāN は名詞と考えるべきである。従属節助詞だとしたら、ʔəyāN は側置助詞と共起することはできない。ここでも、ʔəyāN の前に置かれた節は、ʔəyāN を修飾する関係節だと考えることができる。

- (106) dè [<sub>R</sub> jə- mə- máló láí phlòun ] ʔəyāN nó  
 (共) 1sg (非現) 学ぶ 文字 カレン (題)  
 jə- yê pəjàN khāN tālô  
 1sg 来る ビルマ 国 (断定)

## 21.26 従属節助詞を伴わない副詞節

次に示すような音連続は、一見、二つの文からなるように見える。

- (107) ʔəθí bón nī chəbáinchəbón | cáinyà wê lô jābò  
 3sg 包む (努力) 荷物 逃げる (強意) (断定) JABO  
 「彼らは荷物をまとめて、逃げ出したのだった」(021.89)

しかし、この音連続の前半部分は副詞節だと考えられる。このように考えるのは、この前半部分を否定する場合、次のように否定辞 lə- を用いることができるからである。

- (108) ʔəθí lə- bón nī chəbáinchəbón bá | cáinyà wê lô jābò  
 3sg (否) 包む (努力) 荷物 (否') 逃げる (強意) (断定) JABO  
 「彼らは荷物をまとめずに、逃げ出したのだった」

したがって、ポー・カレン語には従属節助詞を伴わない副詞節が存在すると考えざるを得ない。lə- は従属節に現れる助詞だからである。

ところが、一方で、この音連続の前半部分を否定辞 ?é で否定することもできなくはない。だとしたらこの音連続は二つの文からなると考えなければならない。?é は主節で使われる形式だからである。

- (109) ?əθí bón nī chəbáínchəbón ?é . cáinyà wê lô jābò  
 3sg 包む (努力) 荷物 (否) 逃げる (強意) (断定) JABO  
 「彼らは荷物をまとめなかった。(しかし) 逃げ出したのだった」

この事実をどのようにどのように解釈すべきだろうか。おそらく、ポー・カレン語では、(110) のように図示できるような二つの文の連続と、(111) のように図示できるような、従属節が主節を修飾する構造との間にはっきりとした境界線がなく、連続的につながっているのではないか。

(110) [ SENTENCE ] [ SENTENCE ]

(111) [ SUBORDINATE CLAUSE ] [ MAIN CLAUSE ]

こう考えることによって、(107) の前半部分を否定する方法に二つの方法があることが最も自然に説明できると思われる。

従属節助詞を伴わない副詞節を含む文は、同一文中に関係を明示する標識なしに複数の動詞が現れるという点で動詞連続と似ている。しかし、従属節助詞を伴わない副詞節を含む構造と動詞連続とは別物だと考えなければならない。動詞連続との違いについては第 17 章 17.5 の議論を見ていただきたい。

ところで、従属節助詞を伴わない副詞節は、主節に対して様々な意味を担い得る。例えば、次の例を考えてみよう。

- (112) ?əwê ?ánc̣ḥâ khló | xwè yûchá  
 3se 売る ござ 買う 米

この文は実に様々な意味を表しうる。例えば、「彼はござを売って、米を買った」[単なる継起]、「彼はござは売ったが、米は買った」[逆接]、「彼はござを売ったので、米を買った」[理由]、「彼はござを売ると、(習慣的に) 米を買う」[条件] などなどである。すなわち、「ござを売る」という事象と「米を買う」という事象の意味的關係は、この文ではまったく限定されていないのである。これは、副詞節を否定しても同じことである。

- (113) ?əwê lə- ?ánc̣ḥâ khló bá | xwè yûchá  
 3se (否) 売る ござ (否) 買う 米

この文は、「彼はござを売らずに、米を買った」[単なる継起]、「彼はござを売らなかったのだが、米を買った」[逆接]、「彼はござを売らなかったで、米を買った」[理由]、「彼はござを売らないとき、(習慣的に) 米を買う」[条件] などなどである。

以下に、従属節助詞を伴わない副詞節と考え得る例を挙げておく。もちろん、これらは文の連続である可能性も十分にある。

- (114) jə- θà cáicáu | lì báθà ?é  
 1sg 心 乱れた 行く (欲求) (否)  
 「いやになったから行きたくない」(003.155)
- (115) nə- mà chəmə | nə- θà ləŋchái ʋà  
 2sg する 仕事 2sg 心 満足な (疑)  
 「あなたは仕事をしていて満足か？」(004.241)
- (116) jə- jò thī ləyájò |  
 1sg 運ぶ 水 今夕  
 thəljāN khā lə- béiN lô  
 天秤棒 折れる 一 ～本 (断定)  
 「私が今日の夕方水を運んでいたとき、天秤棒が折れてしまった」(I-sen.98)
- (117) pòmèinmú yê |  
 尼僧 来る  
 lōN yūchá páichāN  
 喜捨する 米 お金  
 「(私は) 尼僧が来ると、米やお金を喜捨する」(024.69)
- (118) ləthàin chà dè xīphāN |  
 語る CHə (共) (人名)  
 mī mēiN lé xīphāN yéiN ?ò  
 寝る (自然) (場) (人名) 家 (遠方)  
 「(彼は) ファイパウンと語らったあと、そのままファイパウンの家に泊まった」(IV-04.307)
- (119) thəu thāN nī phəbàin |  
 出す (外方) (引寄) 毛布  
 càu làn pjà wê jə- méjā nó lô  
 引く (下方) (提示) (強意) 私の 前 (のだ) (断定)  
 「(彼は) 毛布を取り出し、私の前に引っぱって来て見せてくれた」(V-02.82)

次のように、従属節助詞を伴わない副詞節が複数現れることもある。

- (120) chə- khléiN chà |  
 CHə 寒い 非常に  
 mī kəməūnà |  
 寝る 夜  
 jə- dòũnkòũN chà mā lô  
 1sg ちぢこまる 非常に (非常) (断定)  
 「大変寒いので、夜寝るとき、私はちぢこまっている」(003.657)





## 第22章 補文

本論文では、文中において名詞句と同等の役割を担っている従属節を補文と呼ぶ。補文には、主語相当の補文、目的語相当の補文、斜格補語相当の補文の3種類がある。任意の従属節が補文であるかどうかは、その従属節を名詞句で代替できるかどうかを見ればよい。

- (1) [<sub>C</sub> hə- khlàin bá phlòuN ] jô bâ [主語相当の補文]  
1pl 話す (不抗) カレン 容易な (疑)  
「カレン語を話すことは簡単か?」

— ?ənó jô ?é  
それ 容易な (否)  
「それは簡単ではない」

- (2) nə- θijâ [<sub>C</sub> ?əwê mwē phlòuN ] bâ [目的語相当の補文]  
2sg 知っている 3se (繋) カレン (疑)  
「あなたは彼がカレン人であることを知っているか?」

— jə- θijâ ?ənó jābò  
1sg 知っている それ JABO  
「私はそのことを知っています」

- (3) nə- mà bê [<sub>C</sub> ?əwê mà ] θò bâ [斜格補語相当の補文]  
2sg する (比定) 3se する (比定) (疑)  
「あなたは彼がしたとおりにやったか?」

— jə- mà bê ?ənó θò  
1sg する (比定) それ (比定)  
「私はそのとおりにやりました」

上の例では、それぞれの補文を、答えの文で ?ənó 「それ」で受けている。補文はこうに、名詞句で置き換え可能という特徴を持つ。以下、様々な補文を見ていく。

### 22.1 主語相当の補文

まず、主語相当の補文の例を挙げておこう。

- (4) [<sub>C</sub> hə- ?án chədòchəlá ] yì  
1pl 食べる 野菜 良い  
「野菜を食べることは良いことだ」

- (5) [C hə- khlàin phlòun] ká  
 1pl 話す カレン 難しい  
 「カレン語を話すことは難しい」

主語相当の補文は、後述する目的語相当の補文と違って、補文を表す標識が現れない。

- (6) \*lé [C hə- ʔán chədòchəlá] yì  
 (補) 1pl 食べる 野菜 良い  
 (7) \*lé [C hə- khlàin phlòun] ká  
 (補) 1pl 話す カレン 難しい

これは、主語相当の補文と目的語相当の補文の間の大きな違いである。

ところで、主語相当の補文は、表面上 (NP) V (NP) V (NP) という形を取るという点で分離型動詞連続と一見似ている。分離型動詞連続の例を挙げておく。

- (8) ʔəwê khlàin phlòun phlé  
 3sg 話す カレン 速い  
 「彼のカレン語の話し方は速い」

しかし、第 17 章 17.5 で論じているとおり、主語として補文を取った構造と分離型動詞連続との間には、次のような違いがある。第一に、補文の場合は、補文を代名詞で置き換えることができるが、分離型動詞連続の場合は補文に対応する部分、すなわち V1 とそれを取りまく名詞句を代名詞で置き換えることはできない。第二に、補文の場合は、分裂文化によって補文を後置することができるが、分離型動詞連続の場合は、V1 とそれを取りまく名詞句を後置することができない。第三に、補文の場合は補文の中の動詞を否定できるが、分離型動詞連続の場合は V1 を否定することができない。したがって、主語として補文をとった構文と分離型動詞連続は形の上では似ているけれども、構造的には別のものだと考えられる。

このような構造上の差異は、何に起因するのだろうか。次の二つの文を比べてみよう。

- (9) < chəphúchəli jò kəmən thán> yì [補文]  
 植物 この 繁る (完成) 良い  
 「この植物が繁っているのは良いことだ」

- (10) < chəphúchəli jò kəmən thán> yì [動詞連続]  
 植物 この 繁る (完成) 良い  
 「この植物は良く繁っている」

この二つの文は、表面的にはまったく同一だが、(9) は主語部分に補文が現れた構造であり、(10) は動詞連続である。< > で括った部分は、前者では補文であり、後者では、動詞連続の「主語 + 最初の動詞句」である。この二つの意味的差異を見てみると、(9) では、二番目の動詞 yì「良い」という動詞が表す状態の持ち主は、「この植物が繁る」という事象そのものである。一方で、(10) の yì の表す状態の持ち主は、「この植物が繁る」という事象そのものではなく、敢えて言うのであれば、「この植物の繁り方」だろう。すなわち、こ

の二つの構造の違いは、*yì* の表す状態の持ち主が何であるかに起因すると言ってよい。*yì* の表す状態の持ち主が事象そのものである場合、上で < > で括った部分が補文として機能するのである。

主語相当の補文を取ることでできる動詞は、状態動詞である。以下に、例をいくつか挙げる。

- (11) [*C pə- chəphú jò mə- lənmā wè*] *nó thichà lō*  
 1pl 民族 (題) (非現) 消える (強意) (題) 確かな (断定)  
 「(このような状況が続けば) 私達の民族が消えてしまうことは確実である」(IV-01.58)

- (12) *chələ khì θí jò* [*C hə- tàì wī ʔəméjā*] *θí*  
 (強調) 時代 (複) この 1pl 出る (先行) 前 (類似)  
*yì ʔé. [C ʔóthō lānkhāin]* *θí yì ʔé*  
 良い (否) 残る 後 (類似) 良い (否)  
 「今の時代は、(他人より) 先に前に出るのも良くない。後に取り残されるのも良くない」(V-05.59)

- (13) [*C lə- nán bá*] *nó ʔə- yì tháu lō*  
 (否) 覚えている (否') (題) (名詞化) 良い (最上) (断定)  
 「思い出さないのが、いちばん良い」(014.44)

- (14) *kəphānkəphān* [*C chə- chən θēinnìkhlōn*] *θí ʔó chī*  
 時々 CHə 降る 一日中 (類似) ある (婉曲)  
 「時々、一日中雨が降るということもある」(012.14)

- (15) [*C nə- ʔò thī*] *nī*  
 2sg 飲む 水 可能な  
 「あなたは水を飲んでもよい」

- (16) [*C plètò lóthà*] *bá ké wè klà lō jābò*  
 許す (相互) (当為) 可能な (強意) いつも (断定) JABO  
 「いつも互いに許しあうことができないといけないのだ」(V-04.231)

## 22.2 目的語相当の補文

目的語相当の補文は、補文の前に、補文を表す助詞 *lé* あるいは *dè* を置くことができる。この助詞は、補文を「表す」のであって、補文を形成する機能を持つのではない。なぜなら、省略可能だからである。

- (17) *jə- kətò (lé / dè) [C ʔəwè mə- lù]*  
 1sg 心配な (補) 3se (非現) 行く  
 「私は彼が行くのではないかと心配だ」

目的語相当の補文と類似するものに、引用文がある。補文と引用文は明確に区別しておく必要がある。下の (18) は補文、(19) は引用文である。

- (18) ʔəwê lə [C ʔəwê mə- lə]  
 3se 語る 3se (非現) 行く  
 「彼は自分は行くと言った」

- (19) ʔəwê lə “jə- mə- lə”  
 3se 語る 1sg (非現) 行く  
 「彼は『私は行く』と言った」

lə「話す, 物語る, 言う」, càl「言う」, khlàin「話す」, ləpəŋəN「伝える」, ʔáncà「尋ねる」などの発話に関する動詞と、chônmon「考える」, ʔóθà「(ふと) 思う」などの思考に関する動詞は、引用文を目的語として取ることができる。目的語として取っていると考えられる根拠は、補文と同様、名詞句に代替が可能だからである。

- (20) ʔəwê lə “ʔó chón lā chàl”  
 3se 語る いる 健康な (願望) CHAI  
 「彼は『健康でありますように』と言った」

— ʔəwê lə ʔənó bā  
 3sg 語る それ (疑)  
 「彼はそれを言ったのか」

また、補文と同様、引用文の前にも lé あるいは dè が前に現れることがある。

- (21) ʔəwê lə lé / dè “jə- mə- lə”  
 3se 語る (補) 1sg (非現) 行く  
 「彼は『私は行く』と言った」

このように、目的語位置に現れた引用文は補文と類似している。

補文と引用文を識別するためには、(1) 補文では同一の対象を指示する直示表現が主文と同一になるのに対して引用文では同一になるとは限らない、および、(2) 補文には文助詞が現れないが引用文には文助詞が現れる、という二つの差異を利用することができる。

第一の差異に関しては、上の(18)と(19)を見ていただきたい。(18)の文で、主文の ʔəwê と補文の ʔəwê は同一の人物を指示している。ところが、(19)では、同一の人物を指示しているにもかかわらず、主文では三人称単数代名詞の ʔəwê が使われ、引用文においては一人称代名詞の jə- が使われている。発話をそのままコピーするのが引用文であるから、引用された発話の発話者が文全体の発話者と異なるのであれば、直示表現が異なるのも当然である。

第二の差異における、引用文には文末助詞が現れるという特徴は、ありとあらゆる発話が引用文になり得ることを反映したものである。次の引用文を見られたい。

- (22) ʔəwê lə “jə nó”  
 3se 語る 1SG (題)  
 「彼は『私は...』と言った」

- (23) ʔəwê lə “jə ʔán ʔé. ʔò θí ʔò ʔé”  
 3se 語る 1sg 食べる (否) 飲む (類似) 飲む (否)  
 「彼は『私は食べなかった。飲みもしなかった』と言った」

(22) の引用文は文としては不完全な言語形式であるし、(23) の引用文は複数の文からなる。このように、ありとあらゆる発話は引用文になることができる。したがって、当然のことながら、文末助詞を従えた完全な文を引用することもできる。一方で、文末助詞は文に付くものなので、従属節の一種である補文には、現れることができない。例えば、文末助詞の *x̄* を用いて確かめてみよう。(18) と (19) に *x̄* を入れると、前者は不適格になるが、後者は適格である。

(24) \*ʔəwê l̄ [C ʔəwê mə- l̄ x̄ ]  
3se 語る 3se (非現) 行く XO

(25) ʔəwê l̄ “jə- mə- l̄ x̄ ”  
3se 語る 1sg (非現) 行く XO  
「彼は『私は行くよ』と言った」

このように、補文と引用文とは別のものである。しかし、次の二つの文のように、補文と引用文は表面上まったく同じ形を取ることが可能なので、補文であるか引用文であるかを区別することが難しいこともあり得る。

(26) ʔəwê l̄ [C mə- l̄ ]  
3se 語る (非現) 行く  
「彼は行くと言った」

(27) ʔəwê l̄ “mə- l̄ ”  
3se 語る (非現) 行く  
「彼は『行く』と言った」

以下に目的語相当の補文を取る動詞を見ていく。以下では動詞を意味的に共通性のあるものごとにまとめて分類しておいたが、この分類は、使役を表す動詞を除くと、あくまでも便宜的なものである。

### 22.2.1 発話等を介した情報の授受に関する動詞

*l̄* 「話す, 物語る, 言う」, *cài* 「言う」, *l̄pəŋ* 「伝える」, *ʔáncà* 「尋ねる」, *tōunpàin* 「約束する」などの動詞である<sup>1</sup>。

(28) jə- l̄ thá ʔəθí [C l̄áláu khó mə- yê thàin  
1sg 語る (保持) 3PL 月末 (未来) (非現) 来る 帰る  
chó phí ʔəθí khauchwē nān phên ]  
持つ (裨益) 3PL そば (少数) ~回  
「私は彼らに、月末になったらそばを買ってきてやると言っていた」(V-03.88)

<sup>1</sup>動詞 *khàin* 「話す」は、引用文を目的語として取ることができるが、補文は取らないようである。

- (29) pə- lǝ bá ké dè [C ʔəθí màbòmàchèn  
1pl 語る (不抗) 可能な (補) 3pl 助ける  
cháichā θí ] nó chī lǝ  
農民 (複) (のだ) (婉曲) (断定)  
「彼ら(鳥たち)が農民を助けてくれているとすることができる」(II-01.16)
- (30) lǝ ɣêN jǝ [C mǝ- lì cáin wī  
語る 聞こえる 1SG (非現) 行く 遊ぶ (先行)  
lé ʔǝ- lì ʔó nānchūphó ] lǝ  
(場) 3sg 孫 所 少し (断定)  
「(彼女は)私に、彼女の孫のところに少し行ってくる、と言ったよ」(V-02.18)
- (31) [C lǝkà khúda ʔəyitháuv chǝjǝ lǝ- jǝ ] hǝ- cài lānān θí ...  
この世 表面 最良 夏 一 夏 1pl 言う (逆接) (類似)  
「この世で一番良いのは夏だと人は言うけれども...」(V-05.11)
- (32) lǝpǝrǝN bá ʔəwêθí [C jǝ- nó thán bá ʔəθí  
伝える (催促) 3pe 1sg 覚えている (変化) (無意) 3PL  
kò nǝ dè lǝ ] nó chī lǝ  
(毎) ~日 (毎') (断定) (のだ) (婉曲) (断定)  
「私が毎日彼らのことを思い出していますよと、彼らに伝えてくださいよ」(012.9)
- (33) ʔəwê ʔáncà [C nī lǝ- nī ]  
3se 尋ねる できる (否) できる  
「彼はできるかどうか聞いた」
- (34) thǝpǝyúí nó tǝuNpǝin lǝn θà lé [C ʔəwê  
梟 (題) 約束する (帰的) (再帰) (補) 3se  
mǝ- phǝlǝn chǝkǝlǝ ] nó chī lǝ  
(非現) 与える 謝礼 (のだ) (婉曲) (断定)  
「梟は、謝礼を払うことを約束した」(I-03.20)

▷ tǝuNpǝin は、おそらく、モン語 (Mon) の tǝnpap 「承知する」に由来する。

## 22.2.2 視覚に関する動詞

jū 「見る」, dá 「見える」などの視覚に関する動詞である。

- (35) thán jū wê [C lé θéin phádú khī nó  
上る 見る (強意) (場) 木 大きな 先 (題)  
ʔó dè ʔəthǝphèn ]  
ある (共) 穴  
「(猟師は木に)上って、(その)大きな木の先に穴があるのを見た」(IV-05.14)

- (36) [<sub>C</sub> càN ʔó θōN phlóUN ] nó  
 小屋 ある 三 ～個 (題)  
 mwē nə- dá chī bá  
 (繫) 2sg 見える (婉曲) (疑)  
 「小屋が三つあるのがお前は見えるか?」(I-06.32)
- (37) təwəphjāphú θiləphá ʔəθí mə- dá báθà  
 生徒 (複) 3pl (非現) 見える (欲求)  
 lé [<sub>C</sub> còthōN mə- dàUNé làn lāNlāNʔəthícON ] nó ...  
 (補) (人名) (非現) 見せる (下方) 虹 (前提)  
 「生徒達は、チョートンが虹を見せてくれるのを見たくて...」(II-10.6)
- (38) dá bá wē [<sub>C</sub> phlóUNchəphú chə- màdəUNmàNà  
 見える (不抗) (強意) カレン人 CHə いじめる  
 lé khāNməpā klà ] nótā ...  
 (場) 外国 間 (前提)  
 「外国でカレン人を人々がいじめているのを見て...」(IV-07.60)
- ▷ この例では、目的語の phlóUNchəphú が主題化されて補文の初頭に現れている。つまり、補文の中でも主題化は生じる。
- (39) lə- dá [<sub>C</sub> nə- yē thán cáinkwè ]  
 (否) 見える 2sg 来る (上方) 遊ぶ  
 ləN bá jái phō nà  
 もはや (否') 久しい (臨場) ～だなあ  
 「あなたが来るのを見なくなって久しいなあ」(V-02.108)

### 22.2.3 聴覚に関する動詞

chōnná「聞く」, yēN「聞こえる」, nāyēN「聞こえる」などの聴覚に関する動詞である。

- (40) jə- chōnná [<sub>C</sub> ʔəwē mà thàkhú ]  
 1sg 聞く 3se する 歌  
 「私は彼が歌を歌うのを聞いた」
- (41) láí nó yēN cò [<sub>C</sub> thwí gā lò chə bēNóθò ] yòN ...  
 鳶 (題) 聞こえる (遠隔) 犬 老いた 語る CHə そのように (継起)  
 「鳶は、老いた犬がそのように言ったのを聞いて...」(I-01.10)
- (42) ʔə- phūkhwā yēN bá lé [<sub>C</sub> ʔə- wēkhwā dógā thán ]  
 3sg 弟 聞こえる (不抗) (補) 3sg 兄 豊かな (変化)  
 nótā | təmjāN bá ʔə- θà dúmā lō  
 (前提) 奇妙な (基準) 3sg 心 大変 (断定)  
 「弟は、彼の兄が豊かになったと聞いて、大変驚いた」(II-14.14)

- (43) jə- nāyôN cò [C dí yánkò]  
 1sg 聞こえる (遠隔) 蛙 鳴く  
 「蛙が鳴くのが聞こえる」(I-sen.5)

- (44) nānpô?wà lə- yà yôN bá [C ôânwànphú xwèin] nó |  
 (人名) — ~人 聞こえる (不抗) 郭公 鳴く (前提)  
 jū- bá ?ə- θà cwámā lō  
 切ない (無意) 3sg 心 大変 (断定)  
 「ナウンパワーは、郭公が鳴くのを聞いて、大変切なくなった」(V-01.33)

#### 22.2.4 思考に関する動詞

chônMÓN「考える」, ?óθà「(ふと) 思う」, nè「信じる」, mûlá「望む」、jāthəpā「祈念する」などの思考に関する動詞である。

- (45) [C mə- bá thōuncà mə- bá yán klò lō] nó  
 (非現) (当為) 堪える (非現) (当為) 泣く いつも (断定) (題)  
 múphú chônMÓN làn thàin θà ɓ̄  
 少女 考える (帰的) (再度) (再帰) XO  
 「(道を誤ったら) 堪え忍ばなければならない、そしていつも泣かなければならない  
 ということを、少女達よ、考えておきなさい」(IV-08.11)

- (46) jə- ?óθà bá [C mwē nə- lì thán ?ó  
 1sg 思う (無意) (繫) 2sg 行く (上方) いる  
 lé ?əphānkhú lə- thôn ?ò chī jā ]  
 (場) 上 — ~階 (遠方) (婉曲) JA  
 「私は、お前が上の階に行っているのだろうか、と思ったよ」(IV-04.24)

- (47) jə- ?óθà bá [C nə- ké thán  
 1sg 思う (無意) 2sg 成る (完成)  
 dòunkənân mənncà θè jàv ] mî  
 町 マネージャー など (完) ~だよ  
 「私は、お前が町レベルの管理者になっているものだとしてっきり思っていたよ」(V-03.54)

- (48) mà dá ?əθí θà [C jə- thánthô cwámā jàv ] bádôn  
 する (限定) 3pl 心 1sg 発展する 大変 (完) たぶん  
 「たぶん、私が出世したのだと思ったのだろう」(V-03.55)

▷ mà θà は「考える」という意味の慣用句。

- (49) jə- nè?án [C ?əwē mə- lì]  
 1sg 信じる 3se (非現) 行く  
 「私は彼が行くことを信じている」



- (50) jə- mûlā [C nə- ʔánʔàu] mwē ʔé  
 1sg 望む 2sg 誉める (繋) (否)  
 「私は、あなたが誉めてくれるのを期待しているのではない」(V-04.229)

- (51) jə- jāthəpā [C ʔəwē mə- thánthô]  
 1sg 祈る 3se (非現) 発展する  
 「私は彼の発展を祈っている」

▷ モン語 rəətənəə に由来する。同じ意味を、ビルマ語からの借用語 chūtōn を用いて表すことも多い。こちらはビルマ語の shù táun-「祈る」に由来する。

### 22.2.5 知識や記憶に関する動詞

θíjā「知る」、nán ~ nó「覚えている」、θànáN ~ θàno「忘れる」などの動詞。

- (52) klā nó θíjā bá wē [C thópəyú ʔə- chəkhlaín  
 烏 (題) 知る (不抗) (強意) 梟 3sg 言葉  
 lə- tòlòn bá] nó | θàyəthán chə ʔəkhúcòn ...  
 (否) まっすくな (否') (前提) 怒る CHə (理由)  
 「烏は、梟の言葉が本当ではなかったことを知って怒ったので...」(I-03.35)

- (53) khəmlōN θí θíjā wē [C təwānpʰú chə làn lāintən |  
 民衆 (類似) 知る (強意) 村人 刺す (下方) あか汲み  
 mə- θà θàì nóN] nó lə- blāN tā ...  
 (非現) 汲む 乾く 池 (題) 一 ~ 回 (前提)  
 「(魚の) 民たちも、村人があか汲み(泥かき器)を設置して、池を干拓しようとして  
 いることを知って...」(III-15.7)

- (54) [C cəphāθúyè lə- yà dòunlɛkà khúda jò  
 (人名) 一 ~ 人 世界 表面 この  
 mwē ʔó dàì lə- ʔó dàì] nó  
 (繋) いる まだ (否) いる まだ (題)  
 ʔəwē lə- θíjā ləN  
 3se (否) 知る もはや  
 「チョーパートウーゲーがこの世にまだいるのかいないのか、彼女はもう分からなかった」(V-04.24)

- (55) jə- nán thán thàin [C ʔəwē mə- lì kèkhó]  
 1sg 覚えている (変化) (再度) 3se (非現) 行く 明日  
 「私は、彼が明日行くことを思い出した」

- (56) jə- θànáN [C ʔəwē lì məyī]  
 1sg 忘れる 3se 行く 昨年  
 「私は、彼が去年行ったことを忘れていた」

## 22.2.6 喜び、好き嫌い、心配、恐れ、後悔などの様々な感情に関する動詞

θà xwî 「嬉しい」、bá θà 「気に入る」、khū θà 「不安な」、kətò 「心配な」、jônwē 「憂慮する」、θàmé 「恐れる」、thəŋôN 「後悔する」などの動詞。

- (57) [C jə- dá bá nè] jə- θà xwî  
 1sg 会う (不抗) 2SG 1sg 嬉しい  
 「私はあなたに会えて嬉しい」(002.21)

▷ 厳密には、θà xwî は単語ではなく、θà 「心」+xwî 「軽い」という構成の慣用句。

- (58) mwē jə nó | lé [C thókò ké thán cəxwà] jò  
 (繫) 1SG (前提) (補) サイチョウ 成る (完成) 王 (題)  
 jə- bá θà làn ?é  
 1sg 気に入る もはや (否)  
 「私としては、サイチョウが(鳥の)王になっているのは、もういやだ」(II-02.32)

▷ 厳密には、bá θà は単語ではなく、bá 「当たる」+θà 「心」という構成の慣用句。

- (59) ?èyòndò [C ?àiθài θi mə- ?ánlá ?è] nó  
 そして 修験者 (類似) (非現) 叱る 3SG (題)  
 ?əwē khū θà ?əkhúcòN ...  
 3se 不安な (理由)  
 「そして、修験者も自分を叱るのではないかと不安だったので...」(006.90)

▷ 厳密には、khū θà は単語ではなく、khú 「暑い」+θà 「心」という構成の慣用句。

- (60) khū θà [C cəxwà mə- mà θi ?è] nó |  
 不安な 王 (非現) (使役) 死ぬ 3se (前提)  
 ?əwē bá thàin phú ?àiθài nó ...  
 3se (当為) 帰る 背負う 修験者 (前提)  
 「王が自分を殺すことを恐れて、彼は修験者を背負って帰らねばならず...」(III-04.20)

- (61) ?è cáin chəkhū klà ?á?á nó |  
 (条件) 歩く 暑さ 間 多く (題)  
 kətò lé [C kəlàv thán thàin] chī  
 心配な (補) ぶり返す (完成) (再度) (婉曲)  
 「暑い中をたくさん歩くと、(病気が)ぶり返すのが心配なんですよ」(IV-04.130)

- (62) thònnó θàucà kətò bá [C xīphàn mə- thàin]  
 すると (人名) 心配な (無意) (人名) (非現) 帰る  
 「するとタウチャーは、ファイパウンが帰ってくるのではないかと心配になった」(IV-04.227)

- (63) jônwē [C ʔəcá mə- lənjwà]  
 憂慮する 人生 (非現) 墮落する  
 「人生がダメになってしまうことを憂慮している」(IV-07.1)
- (64) jə nɔ́ jə- θámé [C mə- ʔánm̄n̄ʔán jə] nɔ́ lɔ́  
 1SG (題) 1sg 恐れる (非現) 使役する 1SG (のだ) (断定)  
 「私は、(人間が) 自分をこき使うことを恐れているのだ」(I-04.19)
- (65) bá thəŋôn thàin dè [C ʔəcá phô xī lənjí dɔ́ |  
 (当為) 悔いる (再度) (補) 人生 花 美しい 枯れる 遂に  
 m̄in phlɔ́ lə- xī]  
 名前 有名な (否) 美しい  
 「人生の美しい花がしまいには枯れてしまつて悪名だけが残ったことを悔いなければならぬ」(IV-08.16)

### 22.2.7 使役を表す動詞

第 28 章で TYPE 2 と呼んでいる使役構文を作る動詞である。TYPE 2 の使役構文を作る働きのある動詞には、ʔánm̄n̄ 「命ずる」、plètɔ́ 「許可する」(plè という形もある)、phílàn 「与える」がある。

- (66) jə- ʔánm̄n̄ [C ʔəwê lɔ́]  
 1sg 命じる 3se 行く  
 「私は彼に行くように命じた」
- (67) jə- plètɔ́ [C ʔəwê lɔ́]  
 1sg 許す 3se 行く  
 「私は彼に行くことを許可した」
- (68) jə- phílàn [C ʔəwê lɔ́]  
 1sg 与える 3se 行く  
 「私は彼に行かせてやった」

このタイプの使役構文に見られる特徴の詳細については、第 28 章を見られたい。下に若干の実例を示す。

- (69) ʔánm̄n̄ [C jə- lɔ́ khlàindóun]  
 命じる 1sg 行く おしゃべりするする  
 「(彼は) 私に、行っておしゃべりするよう命じた」(IV-04.72)
- (70) jə- mə- ʔánm̄n̄ [C təwānp̄hóchā tàin dòn jū  
 1sg (非現) 命ずる 村人 作る (模倣) (試行)  
 bē jə- ʔò bá chəthi nɔ́ θò] nàn thí  
 (比定) 1sg 飲む (不抗) 液体 あの (比定') (少数) ~回  
 「私が飲んだ液体のようなものを作ってみよう、村人に頼もう」(IV-05.39)

- (71) plê BÀN wê [C lî wê lú  
 許す (下方) (強意) 行く (強意) (場)  
 phjāmúçā təwāN ʔò ] jāwò  
 おばあさん 村 (遠方) JABO  
 「(彼は彼らに) おばあさんの村へ行くことを許した」(026.33)

### 22.2.8 繫辞動詞 mwē

mwē あるいは mə- も発音する。いわゆる繫辞動詞 (copula verb) である。主語の指示対象が、目的語の表す属性を持つことを表す。

- (72) jə- mwē phlòuN  
 3sg (繫) カレン  
 「私はカレン人だ」

文を強調したいとき、その文をこの mwē の補文にして表現することがしばしばある。次の例を見られたい。

- (73) ʔəwê mwē [C ʔə- mə- lî ]  
 3se (繫) 3sg (非現) 行く  
 「彼は(絶対に)行く」

主文の主語と、補文の主語は常に同一指示である。上の例では、主文の ʔəwê と補文の ʔə- が同一指示になっている。

補文を取った mwē の否定には、動詞を繰り返すという特殊な方式が使われることがある。

- (74) mwē [C { ʔəwê / ʔə- } mə- lî ] mwē ʔé  
 (繫) 3sg(強) / 3sg(弱) (非現) 行く (繫) (否)  
 「彼は(絶対に)行く」

ここでは、補文の後でもう一度 mwē が繰り返され、それに否定辞の ʔé が付くという形で否定文が作られている。

下に mwē が補文を取った例をいくつか挙げておく。

- (75) mwē [C jə- má ]  
 (繫) 1sg 誤った  
 「俺が間違っていたのだ」(V-01.97)

- (76) mwē [C pô tàin ] lê  
 (繫) 誰 作る (疑)  
 「一体、誰が作ったのか?」(V-02.48)

- (77) bònáinjò nó mənçòthòndú lə- yà mwē [C ʔə- nán dài  
 現在 (題) (人名) ー ～人 (繫) 3sg 覚えている まだ

ʔə- chəkhlaɪn dāi ] bā nō θijā ʔé kənê  
 彼の 言葉 まだ (疑) (題) 知る (否) KANE  
 「今、トンドゥーおじさんが自分の (言った) 言葉をまだ覚えているかどうか分らないわな」(V-03.66)

- (78) khinθitā mwē [C ʔə- ʔé ʔə ] mwē ʔé  
 (人名) (繫) 3sg 愛する 3SG (繫) (否)  
 「キンティーターは、彼を愛しているのではない」

- (79) cō lə- yà mwē [C mə- chônna ] mwē ʔé  
 (人名) — ~人 (繫) (非現) 聞く (繫) (否)  
 「あなたは (私の言うことを) 聞いてはくれないだろう」(V-05.114)

### 22.2.9 現実法・非現実法の対立

上で、様々な目的語相当の補文を見てきた。目的語位置に現れる補文は、現実法 (realis modality)・非現実法 (irrealis modality) の対立を持つが否かという点において、異なる振る舞いを見せる。一般的に補文は、現実法・非現実法の対立を持つ。次の例を見られたい。

- (80) a. jə- dá [C ʔəwê klí ]  
 1sg 見える 3se 走る  
 「私は彼が走るのを見た」  
 b. jə- dá [C ʔəwê mə- klí ]  
 1sg 見える 3se (非現) 走る  
 「私は彼が走ろうとするのを見た」

補文の表す事象が、主文の表す事象に時間的に後続するとき、補文には非現実法を表す動詞助詞 mə- が現れる。上の (b) を見られたい。ところが、上で「使役を表す動詞」として挙げた動詞が取る補文、つまり、第 28 章で「TYPE 2 の使役構文」と呼んでいる構文の補文においては、mə- が決して現れない。

- (81) a. jə- ʔánmâN [C ʔəwê lì ]  
 1sg 命じる 3se 行く  
 「私は彼に行くように命じた」  
 b. \*jə- ʔánmâN [C ʔəwê mə- lì ]  
 1sg 命じる 3se (非現) 行く

上の例で、「命じる」という事象と「行く」という事象の時間的関係を考えれば、「命じる」ほうが「行く」に先行しているはずである。ところが、補文には mə- が決して現れない。このような特徴を持つのは、被使役行為を表す補文だけである。第 28 章では、この事実に基づいて TYPE 2 の使役構文を定義している。

実は、上で見てきた動詞のうち、thəŋôN「後悔する」が取る補文には、普通、mə- が現れない(例文 (65) を参照)。しかし、この動詞の補文に mə- が現れないことと、使役構文

に  $mə-$  が現れないことの間には、根本的な違いがある。使役構文の場合、補文が表す事象が、主文が表す事象に時間的に後続しているにもかかわらず、 $mə-$  が生じ得ないのである。一方、 $thəŋôN$  の場合には、「後悔する」という心理の性質上、補文の表す事象が、主文の表す事象に先行するということはある得ない。過去に生じた事象についてのみ、「後悔する」という心理が発生し得るからである。すなわち、 $thəŋôN$  の場合に  $mə-$  が現れないのは、将来起こることを後悔することはできないという現実上の時間的順序を反映している。使役構文の場合には、 $mə-$  が現れないことの原因を、このような時間的順序に帰することができない。使役構文に  $mə-$  が現れないのは、構文上の要請であると思われる。

使役構文の補文のみにこのような制限が現れるのは、使役という事象そのものの性質に関係している可能性がある。使役という事象において、使役者 (causer) は、被使役者 (causee) に何らかの形で働きかける。そして、この働きかけがなければ被使役者は動作を開始しないはずである。つまり、使役者の動作は被使役者の動作に直接的な影響力を持っている。このような性質が、補文において  $mə-$  が出現しないという現象につながっているのではないだろうか<sup>2</sup>。

### 22.3 斜格補語相当の補文

一部の側置助詞は、補文を取ることができる。現在、補文を取ることが確認できている側置助詞は、 $dè$  と  $bèθò$  である。下に例を挙げる。

- (82)  $ʔánbú$   $làn$   $ʔəθí$   $θà$   $dè$  [ $C$   $lòn$   $khà$   $ʔán$   $chəphúchəxā$ ] ...  
 養う (下方) 3pl (再帰) (共) 追う 撃つ 食べる 動物  
 「(彼らは) 動物を捕まえて食べることで生活していた」(II-04.3)

▷ この  $dè$  は手段を表している。

- (83)  $jə-$   $pō$   $bá$   $nə-$   $lái$   $lə-$   $béin$   $nó$  |  
 1sg 読む (不抗) 2sg 手紙 一 ~ 枚 (前提)  
 $bê$  [ $C$   $phlòun$   $pwàiθà$   $khà$   $ʔò$   $bá$   $thi$   $khléin$   $lə-$   $khwà$ ]  $θò$   
 (比定) 人 疲れる 時 飲む (不抗) 水 冷たい 一 ~ 杯 (比定)  
 $khléinchó$   $khwái$   $lé$   $θà$   $phən$   
 涼しい (徹底) (場) 心 中  
 「あなたの手紙を読んだところ、疲れた人が冷たい水を 1 杯飲んだかのように、心の中が涼しくなりました」(009.7)

### 22.4 $bâ$ や $lê$ の現れる補文

補文の末尾には、しばしば、「疑問」を表す文末助詞と同形の  $bâ$ ( $bá$ とも発音される) や  $lê$ ( $lé$ とも発音される) が現れることがある。次の例を見られたい。なお、 $bâ$  や  $lê$  の現れた目的語相当の補文は、主題化されて文頭位置に現れることが多い。

<sup>2</sup>Foley and Van Valin (1984:268-272) は、通言語的に、使役を表す構文において節と節の統語的連結の緊密さが最も強くなると言っている。ポー・カレン語のこの現象も、このような傾向の一つの現れと考えられるだろう。

- (84) ʔəjò yì *bâ* θijâ ʔé  
 これ 良い 知る (否)  
 「これは良いかどうか知らない」

- (85) chənó ʔó *lê* θijâ ʔé  
 何 ある 知る (否)  
 「何があるのか知らない」

先に、補文と引用文の差異についての議論において、文末助詞は補文の中に現れないということを述べた。この *bâ* や *lê* が文末助詞だとすると、文末助詞が補文の中に現れないとする一般化に反することになる。この問題をどのように考えるべきだろうか。

さて、文末の *bâ* や *lê* が持っている「疑問」を表す機能とは、厳密に考えると次のように捉えられる。すなわち、ある文において文末に *bâ* や *lê* が現れたとき、*bâ*(および *lê* の一部の用法) の場合は文の表す命題の真偽について、*lê* の場合は不定になっている何らかの内容について、聞き手が話し手に情報を与えなければならない、ということである。例えば、次の例における *bâ* と *lê* は、聞き手の答えを待ち受けているという信号になるので、これを耳にした聞き手は命題の真偽や不定の内容についての自分の考えを提示しなければならない。

- (86) ʔəjò yì *bâ*  
 これ 良い (疑)  
 「これは良いですか？」

- (87) chənó ʔó *lê*  
 何 ある (疑)  
 「何がありますか？」

文末の *bâ* や *lê* の働きは基本的には上記のようなものだと考えられる。もちろん、語用論的には、これらが文末に現れた文は、疑問だけでなく、感嘆、納得、確認などの様々な意味を持ち得る。

一方、(84) や (85) のような補文の *bâ* と *lê* は、聞き手に対して情報の提供を要求しない。*bâ* の場合は命題の真偽が問題になっているということを表しているだけであるし、*lê* の場合は不定の内容が問題になっているということを表しているだけである。したがって、このような文に対して、聞き手は、命題の真偽や不定の内容についての考えを提示する必要がない。つまり、補文に現れる *bâ* や *lê* の機能は、文末助詞の *bâ* や *lê* とは根本的に異なるのである。

そこで、本稿では、補文の末尾に現れた *bâ* や *lê* は文末助詞ではなく、補文を導く助詞なのだと考えることにする。補文を導入するとともに、*bâ* の場合はその文において命題の真偽が問題になっているということ、*lê* の場合はその文において不定の内容が問題になっていることを表す。この *bâ* や *lê* は、補文を「表す」機能を持つ *lé* や *dè* と違って、補文を「導入する」機能を持っていると考えられる。なぜなら、上の (84) や (85) から *bâ* や *lê* と取り除いてしまうと、文そのものが成り立たなくなってしまうからである。

(88) \*ʔəjò yì θúâ ʔé  
これ 良い 知る (否)

(89) \*chənó ʔó θúâ ʔé  
何 ある 知る (否)

結局、補文の中に文末助詞が現れないという一般化は放棄する必要がない。

ʔâ や lê は、どのような動詞の補文にも現れることができるとは限らない。現段階で分かっているのは、次のような動詞である。

• 主語相当の補文

thíchà 「確かな」

(90) [<sub>C</sub> jə- mə- lì ] ʔâ thíchà dài ʔé  
1sg (非現) 行く 確かな まだ (否)  
「私が行くかどうかまだ確実ではない」

• 目的語相当の補文

lò 「話す, 物語る, 言う」

(91) [<sub>C</sub> ʔə- mŭphā phîphû θè  
彼の 父母 祖父母 (複)  
mwē phlòun ] lê lò wê ʔé  
(繋) 誰 語る (強意) (否)  
「彼は、自分の父母や祖父母が誰なのか、言わなかった」(V-04.178)

kətò 「心配する」

(92) [<sub>C</sub> thîphàn lə- yà pàthipàθò hò khlàindóun hò  
(人名) ー ~人 つきあう 1PL 話す 1PL  
mə- θi ] ʔâ nó kətò bá dàlô  
(非現) できる (題) 心配する (無意) (断定)  
「ティパウンが俺達と付き合ったり話をしてくれることができるかどうか、心配しているのだ」(001.3634)

θúâ 「知る」

(93) [<sub>C</sub> ʔəwədə ʔəkí ʔá | ʔánmênʔán hò  
3sg 垢 多い 使役する 1PL  
bê thókò θò chī ] ʔâ θúâ dài ʔé  
(比定) サイチョウ (比定') (婉曲) 知る まだ (否)  
「彼が好みがるさくて、サイチョウのように私達をこき使うかどうかは、まだ分からない」(II-02.35)



- (94) [<sub>C</sub> láiphlóun báʔóun nó mwē nó] lê  
 単語        ???        (題) (繫) 何  
 lə- θijá bá | ʔáncà jū phúnbə nó lô  
 (否) 知る (否) 尋ねる (試行) 大叔母 (のだ) (断定)  
 「バーオンという単語は何なのか分からなかったの、大叔母さんに聞いてみた」  
 (V-02.33)

実は、時として、相手に対して情報を求める文において、θijá ʔé「知らない」が用いられることがある。市場で次のような表現を聞くことがある。

- (95) ʔəjò cá lê θijá ʔé  
 これ いくら 知る (否)  
 「これはいくらですか?」

θijá ʔé を用いると、婉曲な表現になるという。これは一見、補文中の lê が相手に対して情報を求めないとした、上での議論に対する反例のようにも見える。しかし、本稿では、この θijá ʔé を、婉曲を表すための一種のイディオムであると考ええる。

## 22.5 目的語として補文を取る動詞の特殊なもの

目的語として補文を取る動詞の中には、補文との関わりにおいて統語的に特殊な振る舞いをする動詞がある。現在までに見つかっているのは、bàu「近い」、bádòn「似ている」の二つである。

まず、例を見ておく。最初の bàu は、補文が表す事象が近い将来に生起することを表す。

- (96) bàu [<sub>C</sub> ʔəwê mə- yê thàin]  
 近い 3se (非現) 来る 帰る  
 「彼が帰って来るのも近い」

bádòn は、補文の表す事象の生起が推量されたものであることを表す。

- (97) bádòn [<sub>C</sub> ʔəwê mə- yê thàin]  
 似ている 3se (非現) 来る 帰る  
 「彼は帰って来るようだ」

これらの文は統語的に特殊である。なぜなら、これらの文の主語の位置が空いているにもかかわらず、この位置に何らかの名詞を置くことはできないからである。ポー・カレン語は、文脈によって復元可能な名詞を「省く」ことのできる言語である。したがって、主語の位置に名詞が現れないということはよくあることであるが、その場合は、そこにしかるべき主語名詞を復元することが可能である。ところが、上の例では、主語の位置に復元可能な名詞が存在しない。このような現象は、ここで述べる種類の文にしか観察できない。その意味で、このような文は、ポー・カレン語の文法の中で非常に特殊であると言える。

実は、これらの文はもう一つの意味で特殊である。これらの補文の主語は、主文の主語の位置に置くことができる<sup>3</sup>。

<sup>3</sup>この現象は、生成文法理論等では繰り上げ (raising) の概念を用いて説明されるだろう。

- (98) ʔəwê **bàu** [C mə- yê thàin]  
 3se 近い (非現) 来る 帰る  
 「彼が帰って来るのも近い」

- (99) ʔəwê **bádòn** [C mə- yê thàin]  
 3se 似ている (非現) 来る 帰る  
 「彼は帰って来るようだ」

このとき、補文には決して、主語が現れることはできない。

- (100) \*ʔəwê **bàu** [C ʔə- mə- yê thàin]  
 3se 近い 3sg (非現) 来る 帰る

- (101) \*ʔəwê **bádòn** [C ʔə- mə- yê thàin]  
 3se 似ている 3sg (非現) 来る 帰る

補文を含めて、ポー・カレン語の従属節には、主語名詞句が現れることのできない従属節は存在しない。したがって、この点においても、**bàu** と **bádòn** が取る補文は特殊である。

下に、**bàu** と **bádòn** が補文を取った例を挙げる。

- (102) **bàu** thán [C chə- mə- chèn] jàu  
 近い (変化) CHə (非現) 降る (完)  
 「もうすぐ雨が降る」

- (103) **bàu** thán [C θwíwòθú mə- thàin] |  
 近い (変化) (人名) (非現) 帰る  
 khâ thán khán ʔəkhâ nó ...  
 踏み出す (上方) 脚 時 (題)  
 「トゥイーウォトゥーが帰ろうとして脚を踏み出したとき...」(V-04.122)

- (104) lé ʔəwê **bàu** thán [C mə- θi] khâ nó  
 (場) 3se 近い (変化) (非現) 死ぬ 時 (題)  
 kò nī thàin wê ʔə- phú nī yà nó lô  
 呼ぶ (引寄) (元位) (強意) 3sg 子供 二 ~人 (のだ) (断定)  
 「(老人は) 死期が近づいたとき、2 人の子供を呼び寄せた」(II-14.2)

- (105) ʔəwê **bádòn** [C mə- lì lô]  
 3se 似ている (非現) 行く (断定)  
 「彼は行くようだ」(003.408)

- (106) θən lə- dù jò **bádòn** [C ʔán ʔwí læcè]  
 おかず 一 ~個 この 似ている 食べる 美味な 少し  
 「このおかずはちょっとおいしそうだ」(001.705)

- (107) báðòN [C ké lán] lə- ʔé  
 似ている 可能な (完成) もはや (否)  
 「もはやできないようだ」(008.10)

なお、báðòN は、しばしば、「付け足し」(afterthought) によって文の後に置かれることがある。

- (108) ʔəwê mə- lì báðòN  
 3se (非現) 行く 似ている  
 「彼は行くだろう、たぶん」

- (109) chə- mə- chən lô báðòN  
 CHə (非現) 降る (断定) 似ている  
 「雨が降るだろう、たぶん」



## 第23章 関係節

ポー・カレン語には以下に定義するように3種類の関係節がある。この章では、これらがどのように使い分けられているかを、実際のテキストを調査することによって明らかにする。

### 23.1 ポー・カレン語の関係節の定義と種類

まず最初に「関係節」の定義を行う。ポー・カレン語には、「名詞(句)」と「動詞文として成立可能な構造」が並置され、全体として名詞句になる構造が、次に図示するように2種類ある。

- (a) [名詞句 [名詞(句)] [動詞文として成立可能な構造]]
- (b) [名詞句 [動詞文として成立可能な構造] [名詞(句)]]

(a) と (b) の違いは、[名詞(句)] と [動詞文として成立可能な構造] の順序である。(a) と (b) のような構造における [動詞文として成立可能な構造] の部分を「関係節」と呼ぶ。また、[名詞(句)] の部分を「主要部名詞」と呼ぶ。なお、(a) の場合には、関係節を導く標識 *lé* が介在する [名詞句 [名詞(句)] *lé* [動詞文として成立可能な構造]] のような構造も含む。

これがポー・カレン語の関係節の定義である。この定義にあてはまるものには次のものがある。

- 1) 関係節を表す標識が現れないもの。これには次の2種類がある。
  - 1-1) 関係節が主要部名詞の後に現れるもの。これを「後置型」と呼ぶ。
  - 1-2) 関係節が主要部名詞の前に現れるもの。これを「前置型」と呼ぶ。
- 2) 関係節を表す標識が現れるもの。これを「標識介在型」と呼ぶ。関係節は常に主要部名詞の後に現れる。

この3種類のうち、1-1の「後置型」と2の「標識介在型」が上の定義の(a)に相当し、1-2の「前置型」が(b)に相当する。このように、ポー・カレン語の関係節には、関係節が主要部名詞の前に置かれるものと後に置かれるものがある。

ところで、語順の普遍性についての先駆的研究である Greenberg (1966:91) は次のように述べる。

*Universal 24* If the relative expression precedes the noun either as the only construction or as an alternate construction, either the language is postpositional, or the adjective precedes the noun or both.

つまり、関係節を名詞の前に置くことができる言語は、後置詞を持つ、ないしは、形容詞を名詞の前に置くということである。ポー・カレン語の場合、前置詞に相当するのは側置助詞である。側置助詞には、名詞の後に置かれるものはない。また、adjective という用語を、ポー・カレン語においては「単独で現れた状態動詞」と解釈することにすれば、後で見るように、単独で現れた動詞は名詞に後続するので(ただし主要部名詞が主語に相当する場合)、形容詞は名詞の前には置かれないということになる。したがって、ポー・カレン語は、Greenberg の提案した普遍性への反例となる可能性がある。

以下では、上で示した「後置型」「前置型」「標識介在型」の具体例を見ていく。なお、関係節を含む名詞句全体の後には、しばしば名詞修飾助詞の *nó* 「その、あの」が置かれる。

### 23.1.1 後置型 (postnominal type)

後置型は、名詞の後ろに直接置かれるタイプの関係節である。

- (1) *pəcā* [<sub>R</sub> *lāinlòn lé phənθà nàin*] *ləphá*  
 人 行き来する (場) 道 端 (複)  
 「道ばたを行き来する人」(I-08.8)

- (2) *ʔəcá* [<sub>R</sub> *pətòn lé jâ*]  
 人生 築く (場) 前  
 「これから築く人生」(IV-03.11)

- (3) *cì* [<sub>R</sub> *mə- xwè ʔán kháuchwē*]  
 金 (非現) 買う 食べる 中華ソバ  
 「中華ソバを買って食べる金」(V-03.88)

後置型の関係節は述部のみからなる。次のように主要部名詞と関係節の間に主語が入ることはできない。

- (4) *\*cì* [<sub>R</sub> *jə- mə- xwè ʔán kháuchwē*]  
 金 1sg (非現) 買う 食べる 中華ソバ

なお、次のような関係節は上記の説明に対する反例に見えるが、[<sub>R</sub> *chəθíchəbá ʔó ʔá*] は二重主語文の述部に相当するので、主要部名詞と関係節の間に主語が入っているのではない。

- (5) *həmənī* [<sub>R</sub> *chəθíchəbá ʔó ʔá*]  
 人 技能 ある 多い  
 「技術の高い人」(I-05.13)

### 23.1.2 前置型 (prenominal type)

前置型は、名詞の前に置かれるタイプの関係節である。後置型と違って、関係節は主語を伴ってもよい(主要部名詞が関係節内の主語に相当する場合を除く)。

- (6) [R ʔó phlòuN khānkəŋân phən] khólonphàθəN  
 ある カレン 州 中 ドーナ山脈  
 「カレン州にあるドーナ山脈」(V-06.8)

- (7) [R jə- θəuN] lái nó  
 1sg 送る 手紙 その  
 「私が送ったその手紙」(V-04.5)

なお、まれではあるが、後置型および前置型の主要部名詞はゼロになる場合がある。

- (8) φ [R ʔó thōNjò] nó jə- báθà  
 ある ここ (題) 1sg 欲しい  
 「ここにあるやつが私は欲しい」

- (9) [R jə- ʔánphôn dá] φ nó  
 1sg 炊く (保持) その  
 thàin chó wái θā  
 帰る 運ぶ (徹底) (新局)  
 「私が炊いたの(ご飯)をさあ持って帰りなさい」

ただし、このようなゼロ名詞の使用は、文脈からゼロ名詞が何を指示するのかが明らかの場合にのみ限られる。また、「正しくない」用法と見なされることもあるようである。

### 23.1.3 標識介在型 (marked type)

標識介在型は、後置型と同様、主要部名詞の後に置かれるタイプの関係節である。後置型との違いは、関係節を導く助詞 lé が関係節の前に置かれるということと、関係節の主語が現れ得るということである。

- (10) θéinθá thî lé [R ʔə - yì] nó  
 果物 水 (関) 3sg 良い その  
 「良い果物ジュース」(II-13.17)

- (11) khānməpā lé [R ʔəwê thòn bá] θè nó  
 外国 (関) 3se 着く (経験) (複) その  
 「彼が行ったことのある外国」(V-04.49)

標識介在型において特徴的なのは、(10) に示したように、関係節化された名詞に対応する代名詞が関係節内で繰り返されることがあるということである。他の例を挙げる。

- (12) θàimū lé [R ʔə - mà yàyon bú] θiləphá nó  
 幼虫 (関) 3sg (使役) 壊れる 稲 (複) その  
 「稲を食い荒らす幼虫」(II-01.16)

- (13) chəkhlichəθá lé [R ʔə - ləŋkhəu ləŋchéin] θi  
 種 (関) 3sg こぼれる こぼれる (複)  
 「こぼれた種」(II-04.6)

- (14) phlòuN lé [R jə- dɔ ʔə ] nɔ  
 人 (関) 1sg 殴る 3SG その  
 「私が殴った人」

- (15) phlòuN lé [R jə- li dè ʔə phléphlé] nɔ  
 人 (関) 1sg 行く (共) 3SG 一緒に その  
 「私が一緒に行った人」

ただし、次の例に見られるように、代名詞の存在は必須ではない。

- (16) búxā lé [R mà yàyon bú ] θiləphá nɔ  
 米の虫 (関) (使役) 壊れる 稲 (複) その  
 「稲を食い荒らす虫」(II-01.15)

- (17) phlòuN lé [R jə- dɔ ] nɔ  
 人 (関) 1sg 殴る その  
 「私が殴った人」

- (18) phlòuN lé [R jə- li phléphlé] nɔ  
 人 (関) 1sg 行く 一緒に その  
 「私が一緒に行った人」

#### 23.1.4 主要部内在型の関係節は存在するか?

ところで、次のような例は、一見、主要部内在型関係節 (internal relative clause; Keenan 1985 などを参照) であるかのように見える<sup>1</sup>。

- (19) máimái tháu chàinkè ʔəkhəjò nɔ  
 (人名) 乗る バイク 今 その  
 「マイマイが今乗っているバイク」(ビデオ劇 *khúʔwàjānlúthò* の台詞)

もし、主要部内在型だとすると、次のような構造を持つことになる。(下線部が主要部名詞)

- (20) [R máimái tháu chàinkè ʔəkhəjò] nɔ  
 (人名) 乗る バイク 今 その

しかし、次に挙げる (a) は適格だが、(b) は不適格である。

- (21) a. [R jə- tháu lé dàu phən] khánphài nɔ  
 1sg はく (場) 部屋 中 草履 その  
 「私が部屋の中ではいている草履」

<sup>1</sup>チベット・ビルマ系の言語では、チベット語などに主要部内在型関係節が存在するとされる (白井 1998 参照)。



- b. \*<sub>[R jə- tháu kʰánphài lé dàu phòn ]</sub> nó  
 1sg はく 草履 (場) 部屋 中 その

(a) は前置型の関係節である。(b) が不適格なのは、関係節の後に置かれるべき主要部名詞が関係節内部に置かれた形になってしまっているからだと考えられる。したがって、ポー・カレン語に主要部内在型関係節は存在しないと見るべきである。おそらく (19) は、前置型の関係節であり、次のような構造を持つと考えられる。

- (22) <sub>[R máimái tháu ]</sub> chàinkè ʔəkhâjò nó  
 (人名) 乗る バイク 今 その

ʔəkhâjò 「今」は、chàinkè ʔəkhâjò 「今のバイク」が言えることから<sup>2</sup>、chàinkè 「バイク」のみあるいは máimái tháu chàinkè 「マイマイが乗っているバイク」全体を修飾する名詞句だと考えるべきだろう。

## 23.2 調査と考察

### 23.2.1 関係節の使用の実態

Purser and Saya Tun Aung (1922) は、形容詞が名詞を修飾する例として後置型に相当する例を挙げるものの、名詞を修飾する節 (Purser and Saya Tun Aung は adjective clause と呼ぶ) としては標識介在型の次の例のみを挙げている (p.216)。前置型についての報告はまったくない。この理由としては、扱った方言が違う可能性および歴史的変化による差異の可能性がある。当時の発音は分からないため、翻字により示しておく<sup>3</sup>。

- (23) < li4 1A0 [<sub>R y pha0 kwe5 we3</sub>] nO2  
 本 (関) 1sg 父 書く (強意) その

qO2 1A0 c pwE1 kho2 lO3 >  
 ある (場) 机 上 (断定)

「私の父が書いた本は机の上にあります」(翻字は加藤 [2001c] で用いた方式による)

しかし、上で既に見たように、現代のポー・カレン語東部方言においては3種類の関係節が使用されている。これらがいかなる条件によって使い分けられているのかを明らかにする必要がある。ところが困難なことに、同じ内容を表すのにこれら3種類の関係節すべてを用いることができる場合が少なくない。次の例を見よ。

- (24) a. chəphúchəxā [<sub>R mà yàʔòn chə θí</sub>] nó  
 昆虫 (使役) 壊れる CHə 傾向がある その

<sup>2</sup>ʔəkhâjò は第8章で述べた名詞句の構造の中の「側置助詞句」の位置に現れている。ʔəkhâjò の前には側置助詞 lé が現れて、chàinkè lé ʔəkhâjò とも言える。時を表す名詞は、このように、側置助詞なしで名詞を後から修飾することがある。

<sup>3</sup>Purser and Saya Tun Aung (1922) はポー・カレン語の語彙集であるが、巻末にポー・カレン語文法の概略を載せている。表記は、加藤 (2001c) が「キリスト教ポー・カレン文字」と呼ぶ文字によって行っている。この本は残念なことに、語彙集にも文法説明にも、東部方言の形式と西部方言の形式が入り混ざっていて、明確な区別がされていない。文法説明は基本的に西部方言の文法に基づいている。

- b. [<sub>R</sub> mà yà̀yòN chə̀ θí ] chə̀phúchə̀xā nó (II-01.22)  
 (使役) 壊れる CHə̀ 傾向がある 昆虫 その
- c. chə̀phúchə̀xā lé [<sub>R</sub> ʔə- mà yà̀yòN chə̀ θí ] nó  
 昆虫 (関) 3sg (使役) 壊れる CHə̀ 傾向がある その  
 「物(農作物)に損害を与える性質を持つ昆虫」

そこで筆者は、これらの使用の実態を知るために、(i) 主要部名詞の関係節における統語役割、(ii) 関係節の長短、という二点に着目し、手持ちのテキスト資料<sup>4</sup>における関係節の現れを調査した。

ところで、加藤(2001a)における調査で、筆者は語彙化した事例を関係節に含めて考えた。意味が特殊化し、個々の単語の意味からは全体の意味を導き出せなくなる現象を語彙化と呼ぶ(影山 1993:8 などを参照)。名詞に関係節が付いた構造はしばしば語彙化する。本論文では、語彙化したものは関係節に含めずに考える。以下に例を挙げる。

- (25) thîlá [ chə̀N ] (塩 + 甘い)「砂糖」(I-02.13)
- (26) lōuN [ jì ] (石 + 緑色の)「ヒスイ」(II-07.15)
- (27) thà [ θə̀wài ] (鉄 + 吸う)「磁石」(III-01.1)
- (28) já [ ʔú ] (魚 + 腐る)「ガビ(魚醬)」(V-03.127)
- (29) mū [ thán ] (太陽 + 上る)「東」(III-17.21)
- (30) θə̀N [ ʔə̀ ] (おかず + 飲む)「スープ」(V-03.47)
- (31) lái [ thū ] (文書 + 巻く)「貝葉」(III-08.10)
- (32) chə̀bóuN [ ʔán búθə̀Nkhú ] (祭り + 食べる + 新米)「新米を食べる祭り(新嘗祭)」  
 (III-14.3)
- (33) lân [ làn ʔə̀ thî ] (雷神 + 下りる + 飲む + 水)「虹(下りてきて水を飲む雷神)」(II-10.1)
- (34) lái [ jōkwè ] (本 + 見て遊ぶ)「娯楽本」(III-07.12)

加藤(2001a)ではこのような語彙化したものを含めて調査を行ったのだが、そのために分析が非常に煩雑になり、関係節を取り巻く問題の本質が見えにくくなってしまった。そこで本論文では語彙化した事例を関係節の分析では扱わないことにした。本論文においては、語彙化した事例を形態論の複合において扱っている(第6章を参照されたい)。

さて、調査の結果を表1に示す。

以下、調査において着目した(i) 主要部名詞の関係節における統語役割、(ii) 関係節の長短、という二つの観点について説明する。

<sup>4</sup>本章の調査では、第30章に掲げた資料のうち、005 から 017、I-01 から I-10、II-01 から II-14、III-01 から III-17、IV-01 から IV-10、V-01 から V-06 を用いた。

(表 1) 関係節の出現回数 (主要部名詞の関係節内における統語役割別)

統語役割	関係節の種類	関係節の長短
主語 (subject)	後置型 241 (81%)	長 66
		短 175
	前置型 42 (14%)	長 42
		短 0
	標識介在型 15 (5%)	長 13
		短 2
小計	298	
目的語 (object)	後置型 4 (4%)	長 2
		短 2
	前置型 84 (92%)	長 81
		短 3
	標識介在型 3 (3%)	長 3
		短 0
小計	91	
斜格補語 (oblique)	後置型 2 (5%)	長 2
		短 0
	前置型 35 (92%)	長 35
		短 0
	標識介在型 1 (3%)	長 1
		短 0
小計	38	
非節内要素 (non-clause internal element)	後置型 3 (15%)	長 3
		短 0
	前置型 16 (80%)	長 16
		短 0
	標識介在型 1 (5%)	長 1
		短 0
小計	20	
総計	447	

- (i) の「主要部名詞の関係節における統語役割」は、主要部名詞が関係節のがわから見てどのような統語役割を持つかという観点である。例えば、次の (a) における主要部名詞は、(b) の文を見れば明らかなように、関係節の主語に相当する要素である。なお、以降、「主要部名詞が関係節の主語に相当する」ということを、「主要部名詞が 主語である」というように簡略に表現する場合がある (主語以外も同様)。

(35) a. phlòunchìphú [R ʔó dòun θəròun phàn] ləphá  
 カレン民族 いる 町 タトン 中 (複)  
 「タトンの町にいたカレンの人々」(III-08.9)

b. phlòunchìphú ʔó dòun θəròun phàn  
 カレン民族 いる 町 タトン 中  
 「カレンの人々はタトンの町にいた」

また、次の (a) における主要部名詞は、(b) の文を見れば明らかなように、関係節の目的語に相当する要素である。

(36) a. [R pə- θí thá wè] láí nó  
 1pl できる (保持) (備え) 文字 その  
 「私たちが既に習得している文字」(IV-01.36)

b. pə- θí thá wè láí jò  
 1pl できる (保持) (備え) 文字 この  
 「私たちは既にこの文字を習得している」

また、次の各例の (a) における主要部名詞は、各 (b) を見れば分かるとおり、関係節の斜格補語に相当する。

(37) a. [R jə- dú ʔəwê] lé nó  
 1sg 叩く 3se 棒 その  
 「私が彼を叩いた棒」

b. jə- dú ʔəwê dè lé  
 1sg 叩く 3se (共) 棒  
 「私は彼を棒で叩いた」

(38) a. [R nə- lə chə] ʔəthí nó  
 2sg 話す CHə 回数 その  
 「おまえが話す回数」(IV-04.291)

b. nə- lə chə lə- thí  
 2sg 話す CHə 一 回  
 「おまえは 1 回話す」

ただし、名詞が目的語であるか斜格補語であるかを判断するのはときとして難しい。

- (39) [<sub>R</sub> jə- l̩ ] yéin nɔ̌  
 1sg 行く 家 その  
 「私が行った家」

というのは、この例における yéin 「家」は、動詞の目的語としても斜格補語としても出現可能だからである。次を参照せよ。

- (40) jə- l̩ (lé) ʔə- yéin  
 1sg 行く (場) 3sg 家  
 「私は彼の家に行った」

本論文では、このような例は目的語に含めて考える。

次のように、主要部名詞が関係節内のいかなる要素にも相当しないものもある。このような名詞句を「非節内要素」と呼ぶ。

- (41) [<sub>R</sub> phlòʊn dòʊnləkòʊn θɛ̌ l̩ tháʊnli tòʊn  
 人 ヤンゴン (複) 行く 踊る ドン  
 lé cìnkəpù ] bìdìʔòkhwè nɔ̌  
 (場) シンガポール ビデオテープ その  
 「ヤンゴンの人たちがシンガポールに行ってドン [カレンの民族舞踊] を踊った (のを撮った) ビデオテープ」 (016.34)

なお、加藤 (2001a) では、「所有者名詞」という項目を立てた。例を示す。

- (42) ʔàìθàì [<sub>R</sub> ʔə- nâ thô ] nɔ̌  
 仙人 3sg 鼻 長い その  
 「鼻の長い仙人」 (III-04.5)

考え方によっては、このような例においては主要部名詞が関係節内の主語の所有者に相当すると見なすことができる。そのため、加藤 (2001a) では「所有者名詞」という統語役割を別個に設定してその頻度を数えた。しかし、ポー・カレン語においては、このような項目を設定する必要がない。なぜなら、このような文の主要部名詞は、二重主語文の最初の主語に対応すると考えることができるからである。すなわち、対応する文として次のような文を考えることができる。

- (43) ʔàìθàì ʔə- nâ thô  
 仙人 [subject 1] 3sg 鼻 [subject 2] 長い  
 「仙人は鼻が長い」

ポー・カレン語では、所有者名詞に相当する名詞を主要部名詞として関係節で修飾できるのは、このような二重主語文の場合のみである。その証拠として次の例を見られたい。

- (44) jə- θáʊn thìθò ʔə- yéin  
 1sg 建てる 友人 3sg その  
 「私は自分の友人の家を建てた」

この下線部を主要部名詞とした関係節は、次に示すように不可能である。

- (45) \* $[_R \text{ jə- } \theta\acute{\alpha}\text{uN } \text{ ?ə- } \text{ yéin } ] \text{ thì}\theta\grave{\text{o}} \text{ n}\acute{\text{o}}$   
 1sg 建てる 3sg 家 友人 その  
 (私が家を建てた友人)

- (46) \* $\text{thì}\theta\grave{\text{o}} \text{ lé } [_R \text{ jə- } \theta\acute{\alpha}\text{uN } \text{ ?ə- } \text{ yéin } ] \text{ n}\acute{\text{o}}$   
 友人 (関) 1sg 建てる 3sg 家 その  
 (私が家を建てた友人)

すなわち、ポー・カレン語の関係節を考えると、主要部名詞の統語役割として「所有者名詞」という項目を設定する必要はない。これは「主語」に含めて考えるべきものである。

• (ii) の「関係節の長短」は、関係節が動詞一個のみからなるかどうかという観点である。次の例で見ると、(a) が「短い関係節」、(b) が「長い関係節」である。このように、関係節が動詞のみからなる場合、短い関係節と考え、動詞以外の要素を含む場合には、長い関係節と考える。

- (47) a.  $\text{thì } [_R \text{ khléin } ]$   
 水 冷たい  
 「冷たい水」  
 b.  $\text{thì } [_R \text{ khléin } \text{ châ } ]$   
 水 冷たい 非常に  
 「たいへん冷たい水」

以下、調査結果について考察してゆく。

### 23.2.2 後置型と前置型

調査の結果を見ると、全体的な傾向として、Purser and Saya Tun Aung (1922) にも挙げられた標識介在型の使用が少ないことが分かる。標識介在型よりも後置型あるいは前置型のほうが、現代のポー・カレン語東部方言においては、より一般的であると言ってもよいかもしれない。そこで、まずここでは後置型および前置型について考察し、標識介在型については後で別個に扱う。

後置型および前置型の出現頻度を比較すると、主要部名詞の統語役割が主語である場合と、非主語の場合（目的語・斜格補語・非節内要素）とで、大きな違いがあることが分かる。主語の場合には後置型が多いの対し、非主語の場合には前置型が多い。以下では、主語の場合と非主語の場合に分けて論じていく。

#### 主語の場合

主要部名詞が主語の場合、後置型が 298 例中 241 例 (81%) と、圧倒的に多い。したがって、この場合、後置型が好まれると言ってよいだろう。後置型の例を挙げる。

- (48) thìkhlân [R mēin]  
 湯 沸く  
 「沸いた湯」(II-09.5)
- (49) ʔəmī [R phàthô]  
 尾 長い  
 「長い尾」(II-06.17)
- (50) ʔəphlòun [R ʔò chò] ləphá  
 人 飲む 物 (複)  
 「酒を飲んでいる人々」(V-03.29)
- (51) thú [R màchən mənī] θiləphá  
 鳥 助ける 人間 (複)  
 「人間を助ける鳥たち」(II-01.1)
- (52) ʔəkhúthò [R lə- bádòN lóthà bá] nó  
 先端 (否) 同じ (相互) (否') その  
 「(磁石の)異なる極」(III-01.42)
- (53) lì [R ʔódèin wè lé thî klà] θiləphá  
 空気 混じる (備え) (場) 水 間 (複)  
 「水の中に混じっている空気」(II-09.7)
- (54) chəʔəwɪnkàijè [R ʔó lé ʔəthô] nó  
 綿雲 ある (場) 高所 その  
 「高いところにある綿雲」(III-05.25)
- (55) lənànnàn [R lì ʔó dòun phèn] θè  
 一部 行く 住む 町 中 (複)  
 「都会に出て行って住んでいる人の一部」(IV-06.15)
- (56) phlòun pəjànkhān [R ʔáɲyú náu làn θàinkhān phèn] lə- yà  
 カレン ビルマ国 こっそり 入る (内方) タイ国 中 一 ~人  
 「タイに密入国したビルマ側のカレン人のひとり」(IV-07.7)
- (57) phlòun [R cìcá ʔó] θèləphá  
 人 財産 ある (複)  
 「財産のある人たち」(017.18)
- (58) thîkhān dòunthān [R chəkhū chəkhléin báɲɔ] ləphá nó  
 国 地域 暑さ 寒さ 均等な (複) その  
 「温暖な国や地域」(III-16.3)

一方、前置型は出現数が少なく、298 例中 42 例である (14%)。前置型の使用が少ない傾向は、上の (48) や (49) のように関係節が単独の動詞からなる場合、つまり、短い関係節の場合に顕著である。今回の調査では、前置型の中に短い関係節が見つからなかった。また、これまで収集したデータの中にもまったく見あたらないので、単独の動詞は、主語に相当する名詞を前から修飾できない可能性が高い。

頻度は少ないけれども、前置型の存在は重要である。なぜなら、以下に述べるとおり、前置型と後置型の選択は気まぐれではなく、主要部名詞の特定性 (specificity) が関連していそうだからである。本論文では「特定性」を、「与えられた文脈において名詞が唯一の対象を指示する可能性の度合い」と定義する。しかし特定性を客観的に測ることは難しい。そこで、固有名詞<sup>5</sup>、代名詞、および代名詞で修飾された名詞は特定性が高いと思われ、かつ、客観的に他と区別することもできるので、これらを本論文では高特定性名詞(こうとくていせいめいし)と呼び、特定性を測る一助としたい。下に主語に相当する高特定性名詞が主要部名詞になっている例を挙げる。

- (59) [<sub>R</sub> ʔóth̃ thàin ] jə̀ lə- yà  
残る (追加) 1SG — ~人  
「残された私」(V-03.145)

- (60) [<sub>R</sub> ʔó phlòun khānkə̀nān phən ] khólònp̄hàθə̀n  
ある カレン 州 中 ドーナ山脈  
「カレン州にあるドーナ山脈」(V-06.64)

- (61) [<sub>R</sub> ʔé ch̄ichá ] phâθúyè̀ lə- yà  
愛する 民族 (人名) — ~人  
「自分の民族を愛するパートゥーゲー」(V-04.34)

- (62) [<sub>R</sub> lì ʔó bá khānmə̀pā khô ] phâθúyè̀ lə- yà  
行く 住む (経験) 外国 (対比) (人名) — ~人  
「外国に住んでいたことのあるパートゥーゲー」(V-04.63)

- (63) [<sub>R</sub> xilà ch̄einpràn t̄è ] ʔə- mé nó  
美しい 清らかな (非常) 3sg 顔 その  
「美しく清らかな彼女の顔」(V-05.18)

- (64) [<sub>R</sub> θə̀n blān thánbà ] ch̄iθàbāncúkhiláibéin  
三 回 なる (雑誌名)  
「3 号目になる <若き民族の力> 誌」(IV-02.3)

- (65) [<sub>R</sub> θàucà lə- ʔó bá ] cō  
誠実さ (否) ある (否') お兄さん  
「誠実さのないお兄さん」(V-05.116)

<sup>5</sup>一般名詞であっても、物語において特定の登場人物を指す場合には固有名詞と見なす。



主要部名詞が主語の場合の前置型 42 例を見ると、うち 12 例において上のような高特定性名詞が主要部になっている。一方の後置型の場合、前置型を許す可能性のある「長い」関係節 66 例を見ると、うち、高特定性名詞が主要部になっているのは次の 2 例のみであった。

- (66) khìchìphōN [R ʔó lé θéiN khìcōN]  
 トラの種類 いる (場) 木 先端  
 「木のてっぺんにいたトラ」(III-03.46)

- (67) ʔò thân wê ʔəwê mó [R ʔó ʔə- cú nī bòn chàu] nó  
 飲む (常時) (強意) 3se 煙草 ある 3sg 指 二本 隙間 その  
 「2本の指にはさんだタバコをずっと吸い続けた」(V-04.199)

まとめると、前置型では関係節 42 例のうち 12 例において主要部名詞が高特定性名詞であり (すなわち、高特定:非高特定=12:30)、後置型では 66 例 (長い関係節のみ) のうち 2 例のみが高特定性名詞である (すなわち、非高特定:高特定=2:64)。

(表 2) 主要部名詞の特定性が高いか

	Yes	No	計
前置型	12 (28.6%)	30 (71.4%)	42 (100.0%)
後置型	2 (3.0%)	64 (97.0%)	66 (100.0%)
計	14 (13.0%)	94 (87.0%)	108 (100.0%)

この結果には統計的有意差が認められた ( $\chi^2=14.84$ ,  $df=2$ ,  $p<0.001$ )。したがって、前置型の場合には、後置型に比べて高特定性名詞が主要部名詞になっていることが多いと言える。

まだ推測の域を出ないけれども、主要部名詞が高特定性名詞であることが多いということから、主要部名詞が主語である場合の前置型関係節の機能は、主要部名詞の指示範囲を限定することではなく、主要部名詞の指示対象に何らかの新しい情報を付け加えることであるのかもしれない。このような機能は、英語の非制限的関係節 (non-restrictive relative clause) を思い出させる。まだ結論は出せないが、これは十分にあり得ることだと思う。

しかし、長い前置型関係節 42 例のうち、30 例の主要部名詞は高特定性名詞ではない。次のような普通の名詞である。

- (68) [R thəlōN khwái lé ʔəlānkhâiN] ʔəyāiNʔəcōN  
 過ぎる (徹底) (場) 後ろ 事柄  
 「既に過ぎ去ってしまったこと」(V-05.19)

- (69) [R yê lānkhâiN] phúdiNpí θiləphá  
 来る 後ろ 若者 (複)  
 「将来の若者たち」(III-07.14)

- (70) [R mə- dócā ciklā thəjəpràthâ wê dò] khānkhān  
 (非現) 栄える 販わう 知れ渡る (強意) 今後 地域  
 「今後発展する地域」(III-17.27)

- (71) [<sub>R</sub> dú thán lànkhaiN ] phúdi prí 0iləphá  
 大きい (変化) 後ろ 若者 (複)  
 「今後偉くなっていく若者たち」(III-07.14)

これらの例において前置型が用いられている理由は明確ではない。ただ、先行文脈で同一の名詞が現れている、あるいは、話し手が特定の指示対象を念頭に置いている、などの条件により、このような例における主要部名詞の特定性が高まっている可能性はあるだろう。この問題については今後の課題としたい。

なお、先に述べたように、短い関係節の場合には後置型しか用いられないため、高特定性名詞の場合にも後置型しか現れない。次のような例がある。

- (72) kəchâN [<sub>R</sub> 0i ] ?ə- ?òN phəN  
 象 死ぬ 3sg 腹 中  
 「死んだゾウの腹の中」(I-09.22)

- (73) chə?àv [<sub>R</sub> chinàN ]  
 猿 座る  
 「座っているサル」(III-12.19)

今回の調査では、短い後置型関係節 175 例のうち 7 例の主要部名詞が、高特定性名詞であった。

以上の議論をまとめておく。

- 主要部名詞が主語の場合、後置型と前置型とでは、基本的には後置型のほうが好まれる。特に、短い関係節の場合には後置型しか使えない可能性がある。
- 長い関係節の場合には前置型も現れる。これは主要部名詞が高特定性名詞である場合に好まれる選択である。

## 非主語の場合

調査の結果を見ると、主要部名詞が非主語(すなわち目的語・斜格補語・非節内要素)の場合には、主語の場合と違い、前置型が多く使われていることが分かる。目的語の場合には 91 例中 84 例(92%)、斜格補語の場合には 38 例中 35 例(92%)、非節内要素の場合には 20 例中 16 例(80%)が、前置型だった。したがって、非主語の場合、前置型が好まれると言ってよいだろう。以下に、目的語・斜格補語・非節内要素の順に例を挙げる。

### • 目的語

- (74) [<sub>R</sub> ?wà?wà chônmon thá wè ] lə- cón nó  
 (人名) 考える (保持) (備え) ー ~箇所 その  
 「ワーワーが前から考えていた一件」(V-05.88)

- (75) [<sub>R</sub> nè?án tē ] cō  
 信じる (非常) お兄さん  
 「(ワーワーが)信じていた彼氏(恋人)」(V-05.95)

- (76) [<sub>R</sub> nə- phī tàin ʔán ] kú  
 2sg 祖母 作る 食べる 菓子  
 「お前のおばあさんが作って食べる菓子」(V-02.13)
- (77) [<sub>R</sub> thāin dè ɛ̃a ] klònləkōun yàn  
 編む (共) 竹ひご シュエダゴンパゴダ 絵  
 「竹ひごで編んだシュエダゴンパゴダの絵」(V-02.24)
- (78) [<sub>R</sub> jə- lə ] chəkhlaín nó  
 1sg 語る 話 その  
 「私が語った話」(006.94)
- (79) [<sub>R</sub> ʔəθiwê θáun làn thá ] chəpúchəbòn θiləphá  
 3pe 植える (下方) (保持) 植物 (複)  
 「彼らが植えておいた植物」(II-04.9)
- (80) [<sub>R</sub> hə- bá θámé tháu ] phúxā  
 1pl (当為) 恐れる (最上) 昆虫  
 「我々が最も恐れなければならない昆虫」(II-12.2)
- (81) [<sub>R</sub> pə- θá thán θá làn ] lì  
 1pl 呼吸する (上方) 呼吸する (下方) 空気  
 「私たちが吸ったり吐いたりする空気」(II-13.3)
- (82) [<sub>R</sub> thón làn thàin ] bú  
 精米する (下方) (再度) 米  
 「精米した米」(III-02.26)
- 斜格補語
- (83) [<sub>R</sub> θānkhlaín làn ] ʔəklà lə- nì  
 水祭り 下りる 真ん中 一 ~日  
 「水祭りが行われる真ん中の日」(V-06.39)
- (84) [<sub>R</sub> θəwài chə ] ʔəyāin  
 吸う CHə 力  
 「(磁石が)物を吸い寄せる力」(III-01.10)
- (85) [<sub>R</sub> dùlā yē ké thán θí ] chəʔəlānklè  
 蠅 来る 成る (完成) 傾向がある 場所  
 「ハエが発生しやすい場所」(II-12.16)
- (86) [<sub>R</sub> θéinthò ʔó ] wāplàn  
 切り株 ある 原っぱ  
 「切り株がある原っぱ」(III-12.4)

- (87) [<sub>R</sub> phíθətài mǔphó ] láibləi  
 注意を促す 少女 手紙  
 「少女達に警告する手紙」(IV-08.1)

• 非節内要素

- (88) [<sub>R</sub> ké thán nī θài ] ʔəkhánthài  
 成る (完成) (努力) 酒 始まり  
 「(水が) 酒になった始まり」(IV-05.1)

- (89) [<sub>R</sub> thàθəwài càulé chə ] ʔəyāin  
 磁石 引く CHə 事柄  
 「磁石が物を引っばるということ」(III-01.1)

- (90) [<sub>R</sub> bòn làn θài ] θɔ̃  
 注ぐ (下方) 酒 音  
 「酒をつぐ音」(V-03.57)

- (91) [<sub>R</sub> mùmé chəc̣ lán ] ʔəljāphàn  
 太陽 反射する (下方) 光  
 「太陽 (の日差し) が反射した光」(II-10.18)

- (92) [<sub>R</sub> mǐdòuN phàn θùrǐθùrǐ ] ʔənàin  
 電球 光る チラチラ 傍ら  
 「電灯がチラチラと光るかたわら」(V-03.98)

- (93) [<sub>R</sub> phlòuN dòuNləkòuN θè lì thóuNlī tōuN  
 人 ヤンゴン (複) 行く 踊る ドン  
 lé cìnkəpùr ] bìdǐʔòkhwè nó  
 LOC シンガポール ビデオテープ その  
 「ヤンゴンの人たちがシンガポールに行ってドン [カレンの民族舞踊] を踊った (のを撮った) ビデオテープ」(016.34)

ところで、主要部名詞が主語の場合、短い前置型関係節は現れにくいということを先に見たが、非主語の場合は短い前置型関係節も現れることがある。

- (94) [<sub>R</sub> ʔé ] thǐθò  
 愛する 友人  
 「愛する友」(016.49)(目的語)

このように、主要部が非主語のときに前置型が好まれるのは明らかだが、後置型も見てみる必要がある。後置型の例を挙げる。

• 目的語

- (95) thədò [R thâin nī dè θéinklànklaínlê]  
 キンマ入れ 編む (努力) (共) (木の一種)  
 「インド菩提樹 (の一種) で作ったキンマ入れ」(V-02.59)

- (96) ʔəcá [R pətòn ləjâ]  
 人生 築く 将来  
 「これから築く人生」(IV-03.11)

● 斜格補語

- (97) cì [R mə- xwè ʔán khaúchwē]  
 金 (非現) 買う 食べる 中華ソバ  
 「中華ソバを買って食べる金」(V-03.88)

● 非節内要素

- (98) θà [R ʔé phlòun chḥ phlòun chəxilà]  
 心 愛する カレン 民族 カレン 文化  
 「カレン民族やカレン文化を愛する心」(V-04.214)

意味的に見ると、主要部名詞が非主語の場合、前置型では関係節が個別的な事象および一般的な事象の両方を表すことができるのに対して、後置型の関係節は一般的な事象しか表さないという傾向があるようである。例えば、次の (a) の前置型関係節は、特定の時間・場所において特定の行為者が草履を部屋の中で履いたということ、例えば、「私が昨日、部屋の中で履いた」という個別的な事象と、特定の場所・時間・行為者に限定しない「部屋の中で履く」という一般的な事象の両方を表すことができるが、(b) の後置型関係節は後者の一般的な事象しか表すことができない。

- (99) a. [R tháu lé dào phən] khañphài nó  
 履く (場) 部屋 中 草履 その  
 「(私が昨日) 部屋の中で履いた草履 / 部屋の中で履くための草履」
- b. khañphài [R tháu lé dào phən] nó  
 草履 履く (場) 部屋 中 その  
 「部屋の中で履くための草履」

おそらく、主要部名詞が非主語の場合に前置型が多く現れているのは、前置型のほうが後置型よりも意味的に限定されないということに関連しているように思われる。このような意味的特徴は、後置型の関係節が主語に従えることができないことに起因するのかもしれない。行為者が「抑圧」されることによって、特定の行為者による行為ということが意識されなくなり、そのために一般的な事象を表すという性質が生じるのではないか。一方、主要部が主語の場合には、主要部名詞として主語が現れているためか、後置型であっても、個別的な事象も一般的な事象も表すことができるようである。

以上をまとめると次のとおりである。

- 主要部名詞が非主語（目的語・斜格補語・非節内要素）の場合、後置型と前置型とでは、前置型のほうが好まれる。

- 意味的に見ると、前置型は個別的な事象と一般的な事象の両方を表せるのに対し、後置型は一般的な事象しか表さない。この意味上の違いが、前置型が好まれるという傾向につながっているように思われる。

### 23.2.3 標識介在型

最後に標識介在型を見てみよう。下に、主要部の統語役割別に標識介在型の例を挙げる。

#### • 主語

- (100) θéinθá thî lé [R ʔə- yì] nó  
 果物 水 (関) 3sg 良い その  
 「良い果物ジュース」(II-13.17)

#### • 目的語

- (101) khānməŋā lé [R ʔəwê thòN bá] θè nó  
 外国 (関) 3se 着く (経験) (複) その  
 「彼が行ったことのある外国」(V-04.49)

#### • 斜格補語

- (102) jádòʔwà lé [R ʔəwêdá thàv ʔə- nāthi yòN] nó  
 ハンカチ (関) 3se 拭く 3sg 鼻水 終える その  
 「彼（風邪の患者）が鼻水を拭き終えたハンカチ」(II-13.15)

#### • 非節内要素

- (103) θí xwè lé [R ʔəwê bjàn blá thúpəyú] nó  
 薬 値段 (関) 3se 治す 治る フクロウ その  
 「彼がフクロウを治してやった薬代」(I-03.34)

調査の結果を見ると、標識介在型は、現代ポー・カレン語東部方言においてはあまり好まれないとの印象さえ受ける。標識介在型が現れたのは、全 447 例中、20 例のみ (4%) だった。

実は、標識介在型が使われる条件については分からないことが多い。しかし、次に挙げる 3 点は明らかである。

第一点として、二つの目的語を取る動詞の場合に、第一目的語を主要部名詞としたいときには、前置型ではなく標識介在型を用いなければならないということが挙げられる。例えば次のとおりである。

- (104) thìθò lé [R jə- phîlân láipàv] lə- yà  
 友人 (関) 1sg 与える 本 ー ～人  
 「私が本をやった友人」

同じことを前置型の関係節を用いて表現することはできない。

- (105) \*[<sub>R</sub> jə- phílân (láíʔàù) ] thìthò lə- yà  
 1sg 与える 本 友人 ー ～人

láíʔàù を括弧でくくっているのは、この関係節から第二目的語を取り去っても適格にならないことを示している。実は、今回のテキストを用いた調査においては、第一目的語が主要部名詞になった例が一例も見つからなかった。したがって、第一目的語が主要部名詞になった関係節自体がポー・カレン語では好まれないという可能性もある。第一目的語の場合に前置型を用いることができない理由は、第一目的語と第二目的語が表面上、普通とは逆の語順で現れることによる違和感である可能性がある。しかし、(105) から第二目的語を取り去っても適格にならないことから、このことだけが原因ではないだろう。この問題の解決にはもう少し時間を要しそうである。

第二点は構造の明確化である。下の例を見られたい。

- (106) ʔəθí mə- dá báθà [<sub>R</sub> nə- dú phí  
 3pl (非現) 見える (欲求) 2sg 撮る (裨益)  
 ʔəθí ] ʔəyàn nɔ́ chī lɔ́  
 3PL 写真 その (婉曲) (断定)  
 「彼らは、あなたが(彼らに)撮ってあげた写真を見たがっています」

- (107) ʔəθí mə- dá báθà ʔəyàn lé  
 3pl (非現) 見える (欲求) 写真 (関)  
 [<sub>R</sub> nə- dú phí ʔəθí ] nɔ́ chī lɔ́  
 2sg 撮る (裨益) 3PL その (婉曲) (断定)

前置型の(106)では、関係節部分の文中における役割が、主要部名詞である ʔəyàn 「写真」が現れるまで分からない。というのは、動詞 dá は補文を取る動詞なので、関係節の部分に補文と解釈される可能性があるからである。(107)のように標識介在型の関係節を用いれば、主要部名詞が動詞の直後に現れ、なおかつ関係節を導く助詞 lé がその直後に現れるので、文の構造がたちどころに分かる。よって、標識介在型の関係節は、構造を明確化したいときに使われるという可能性がある。

第三点として、標識介在型については、ポー・カレン語話者自身の「格式ばった言い方」であるとの内省報告があることを指摘しておきたい。具体的な場面としては、大勢の前での演説や物語の語りなどに使われる。確かに筆者の印象でも、くだけた会話体において標識介在型が使われることは極めて少ないように思われる。標識介在型が、格式張った文体と結びついている可能性は否定できない。

## 23.3 まとめ

終わりに、本章の考察で明らかになった重要な点を以下に列挙する。

- 主要部名詞が主語である場合、後置型が多く使われる。前置型も使われることがあるが、前置型は高特定性名詞の場合に好まれる選択である。

- 主要部名詞が非主語の場合、前置型が多く使われる。
- Purser and Saya Tun Aung (1922) で報告された型である標識介在型の出現頻度はあまり多くない。

主要部名詞が主語の場合にのみ後置型が多く使われ、非主語の場合には前置型が多く使われるのはなぜだろうか。ポー・カレン語の基本語順では主語が動詞の前に現れ、非主語が動詞の後に現れるということが、名詞と関係節の順序に影響している可能性はあると思う。しかし、基本語順と同じであるということは逆に、ある音連続が関係節を用いた構造であることを気づきにくくする要因にもなりかねないことには留意しなければならない。

主要部名詞が主語である場合の前置型は、英語の非制限的關係節に似て、主要部名詞の指すものに新しい情報を付け加えるという機能を持っていることを示唆した。しかし、この推測が本当だとすれば、なぜ名詞の前に置かれた関係節がこのような機能を持ち得るのかについては、答えがまったく見出せていない。

主語の場合を除けば前置型が多用されることについては、「関係節」が主要部名詞に前置されるタイプの言語であるビルマ語との接触も原因として考慮に入れる必要があるだろう。下にビルマ語の例を挙げる。

[Burmese]

(108) θù yé dē sà  
 彼 書く (現実法) 手紙  
 「彼が書いた手紙」

ビルマのカレン系言語を見ていると、ビルマ語の影響は様々なレベルで無視できない要因として働いているように思われる。ただ、このことを実証するのは難しい。ビルマ人の居住者が多いため言語の接触も頻繁であるはずの西部方言 (イラワジデルタ方言) においては、かえって標識介在型に相当する関係節が多く使われるという印象を筆者は抱いており、このことは言語接触について云々することの難しさを物語っている。

このように、本章で明らかになった傾向の原因を特定するのは難しい。これを究明する作業は今後の大きな課題として残されている。



## 第VII部

### その他の助詞



## 第24章 副助詞

動詞句の後に付いて、動詞句を拡張する働きを持つのが副助詞(adverbial particle)である。このうち一部のものは述語名詞句に付いて、名詞述語を拡張する場合もある。

以下では、副助詞を意味的な観点から便宜的に、(A) 程度にかかわるもの、(B) 様態にかかわるもの、(C) 事象のアスペクト的把握にかかわるもの、(D) 否定にかかわるもの、(E) 話し手の態度にかかわるもの、に分類して見ていく。

副助詞は、おおむね、上の (A)(B)(C)(D)(E) の順に並べられるようであるが、配列順序に関して詳しいことはまだ分かっていない。

副助詞のうち話し手の態度にかかわるものは特に、文助詞に似た機能を持っている。文助詞と副助詞の大きな違いは、否定を表す *ʔé* を除けば副助詞が従属節の中に現れることができるのに対して、文助詞は従属節の中に現れないということである。しかし、副助詞が文末に現れた場合、その副助詞が文助詞として機能しているということもあり得ないことではない。もしかすると、副助詞と文助詞の間には明確な境界線がないということも十分にあり得ることである。この問題は非常に難しい問題である。ここでは指摘するだけにとどめたい。

### 24.1 程度にかかわるもの

#### 24.1.1 *mā*

*mā* とも発音される。程度がやや強いことを表す。

- (1) *jə- ʔánjâ mā lô*

1sg 謝る (断定)

「私は強く謝りたいと思います」(006.69)

- (2) *lənìjò jə- chəbóuN yì mā*

今日 1sg 運 良い

「今日、私はけっこう運が良い」(I-09.16)

- (3) *ʔəwêθí yánkò wê θí ʔá mèiN mā chī lô*

3pl 鳴く (強意) できる 多い ~種類 (婉曲) (断定)

「彼ら (=鳥) は何種類もの鳴き方ができる」(II-01.17)

- (4) *chəphóxā náu làn wê læpòuN mā lô*

虫 入る (内方) (強意) たくさん (断定)

「虫がたくさん入ってきたのだ」(001.1416)

### 24.1.2 kī

程度が非常に強いことを表す。bī とも発音される。ときに chəkī という形も使われる。

- (5) ʔəxwè khà kī

値段 高い

「値段が非常に高い」(004.312)

- (6) jə- jū nə bāN kī mədè

1sg 見る 2SG 若い ~ですよ

「あなたは見たところ非常に若いよ」(002.951)

- (7) jə- ʔáNxiú nə mjâ ʔá nì kī jàv

1sg 探す 2SG 非常に 多い ~日 (完)

「私は何日もあなたを探しまくった」(V-04.139)

- (8) jái nó jái chəkī jàv chī nê

久しい (題) 久しい (完) (婉曲) NE

「(時間が) 経ったかということ、かなり経っていたんですね」(V-03.61)

### 24.1.3 pəθàì

否定を表す助詞と共に使われ、否定をやわらげる働きをする。「あまり～でない」「あまり～しない」。

- (9) jə- mà ʔwí pəθàì ʔé

1sg 取る 嬉しい (否)

「私はあまり気に入らない」(001.2477)

- (10) bóuN pəθàì ʔé

勇気がある (否)

「あまり勇気がない」(001.2784)

- (11) pəjàN chəʔáNchəʔə ʔáN θí pəθàì ʔé

ビルマ 食べ物 食べる できる (否)

「ビルマの食べ物はあまり食べられない」(002.449)

- (12) jè jò jə- ʔé jə- mâ θí pəθàì ʔé

1SG (題) 1sg 愛する 1sg 妻 できる (否)

「私は、自分の妻をあまり愛することができない」(009.46)

## 24.2 様態にかかわるもの

### 24.2.1 phō

発話が行われている眼前で事象が生起しているということを生き生きと表現する。wō とも発音される。「今まさに～する」「今まさに～した」。

- (13) θéin yàkhī lān phō  
木 倒れる (下方)  
「木が倒れるぞー / 木が倒れたぞー」(III-03.50)
- (14) ká phō lə- blān jò  
難しい ー ～回 この  
「今回は難しいことになったな」(IV-04.420)
- (15) [C lə- dá [C nə- yê thán cáinkwè ]  
(否) 見える 2sg 来る (上方) 遊ぶ  
lān bá ] jái phō nà  
もはや (否') 久しい ～だなあ  
「あなたが遊びに来るのを見なくなって久しいなあ」(V-02.108)
- (16) thōn phō . ?əwè thōn phō  
着く 3se 着く  
「着いた。彼は着いたのだ」(V-04.39)
- (17) cəxwà phókhwā lì dá wō  
王 息子 行く 見える  
「(それを) 王の息子は行って見てしまった」(020.37)
- (18) jə- lə- chōnná mōphā chəkhlaín bá |  
1sg (否) 聞く 父母 言葉 (否')  
jə- dákhōn chənà phō  
1sg 会う 災難  
「私は父母の言葉を聞かなかったから、災難に遭ってしまったのだ」(III-12.24)

## 24.2.2 bjān

完璧に消滅することを示す (?)。

- (19) mǐjò ?è ?ó nó |  
猫 (条件) ある (題)  
jū θi lānmā bjān chū lô  
鼠 (類似) 消える (婉曲) (断定)  
「猫がいると、鼠がすっかりいなくなる」(I-sen.93)
- (20) nə- lānmā mātè bjān lô mǐ  
2sg 消える 大変 (断定) ～ですね  
「しばらくぶりですね (直訳:あなたはすっかり消えてしまいましたね)」(003.1011)

### 24.2.3 pōuN

「急激」「突然」を表す。「急に～する」「いきなり～する」。

- (21) lánthìphā pōuN

転ぶ

「いきなり転んでしまった」(003.608)

- (22) phó khwái pōuN

折れる (徹底)

「(歯が) いきなり折れてしまった」(001.3010)

- (23) khóxwí lánblè pōuN

頭 砕ける

「(事故で) 頭が砕けてしまった」(001.3082)

- (24) bá ?é. təphlá pōuN

当たる (否) はずれる

「(矢が) 当たらなかった。それてしまった」(001.3185)

- (25) thələn nə- yéin pōuN

過ぎる 2sg 家

「あなたの家を行き過ぎてしまった」(003.655)

- (26) thōuN cà wái pōuN jàu

受ける 負ける (徹底) (完)

「負けてしまったよ」(003.681)

### 24.2.4 tō

「不運さ」を表す。「不運にも～する」「折り悪しくも～する」。

- (27) θà cā nó |

年齢 老いた (継起)

?ó lə- máu nī bá tō

いる (否) 快適な (執拗) (否')

「(彼は) 年老いて、病気になってしまったのです」

- (28) mī má tō lō↔ nī yà nó

寝る 熟睡する (断定) 二 ～人 (題)

「(ちょっと) 寝ていたら、熟睡してしまった、二人は」(025.24)

- (29) mə- klí báθà lánân θí |

(非現) 走る (欲求) (逆接) (類似)

lànthìphā tō

転ぶ

「走りなかったんだけど、転んでしまったのだ」(003.927)

## 24.3 事象のアスペクト的把握にかかわるもの

### 24.3.1 dài

同じ事象の累加を表す。具体的には、同じ事象が再び生起すること、あるいは、ある時点で生起した事象が、後続する時点においても継続していることを表す。「再び～する」「依然として～している」「依然として～だ」。

動態動詞の場合、「再び～する」という読みと、「依然として～している」という二つの読みが可能である。ただし、dú「殴る」、θi「死ぬ」のような瞬時に終わる事象を表す動詞の場合、後者の読みが可能なのは、事象が複数回生起するときのみである。

(30) ʔəwê ʔán dài

3se 食べる

「彼はまた食べた / 彼はまた食べている」

(31) ʔəwê dú dài

3se 殴る

「彼はまた殴った / 彼はまた殴っている」

(32) phlòun θi dài

人 死ぬ

「人がまた死んだ / (人々が) まだ死んでいる」

状態動詞の場合、「依然として～だ」という読みだけが可能である。

(33) ʔəwê pì dài

3se 小さい

「彼はまだ小さい」

(34) ʔəjò cícá dài

これ 汚い

「これはまだ汚い」

否定を表す助詞と共に用いられると、依然として事象が生起していないことを表す。

(35) jə- lì dài ʔé

1sg 行く (否)

「私はまだ行かない」

(36) ʔəwê dú dài ʔé

3se 大きい (否)

「彼はまだ大きくない」

dài は同一節中に 2 回現れることがある。動詞の直後と動詞句の最後尾である。次の文を見ていただきたい。動詞の直後の dài は取り去ってしまってもかまわない。同一節中に 2 回現れることができるのは、副助詞の中で dài だけに見られる特徴である<sup>1</sup>。

- (37) [C bònáinjò nó màncò thòndú lə- yà  
現在 (題) おじさん (人名) ー ~人  
mwē ʔə- nán (dài) ʔə- chəkhlaɪn dài ] ɛ̃a  
(繫) 3sg 覚えている 3sg 言葉 (疑)  
nó θijā ʔé kənê  
(題) 知る (否) KANE  
「今もトンドゥーおじさんが自分自身の言葉を覚えているかは分からない」(V-03.66)

二つ現れた場合が一つしか現れない場合と意味的にどのように異なるかは今のところ分かっていない。

dài の用例を見ていくと、再び生起した事象が以前に生起した事象と必ずしも同じでない場合がある。

- (38) θànkha phũcài lānpʰó màbòmàchèn |  
僧侶 お坊さん (地名) 助ける  
lì thòn lú cəithò dài  
行く 着く (場) (地名)  
「ラインプーのお坊さんも手伝ってくれて、チャイトーまでも行ってくれたのだよ」  
(015.10)

この文例は、「お坊さんがチャイトーに行く」という事象が再び起こったということを言っているのではない。様々な形で手伝ってくれたお坊さんが、「チャイトーに行く」という行為によっても手伝ってくれたということを言っているのである。この文で「チャイトーに行く」という行為は、何種類もある「手伝う」という行為の中の一つとして捉えられており、「チャイトーに行く」ことによって「手伝う」という行為が繰り返されたと捉えられている。したがって、dài が表す「同じ事象の累加」という意味における「同じ事象」というのは厳密な意味での同一の事象を意味しない。ゆるやかな意味での同一性であるということをもふまえておく必要がある。次のような例も同じように捉えることができる。

- (39) kəbànjù θí bá θàmé dài lō  
飛行機 (類似) (当為) 恐れる (断定)  
「(積乱雲は) 飛行機でさえもが恐れなければならない」(III-05.53)

この例でも、「飛行機が恐れる」ということが繰り返されるのではない。「普通の人間が恐れる」という前提があり、「技術の粋を尽くした飛行機でさえ恐れる」ということが、事象の累加として捉えられている。二つの事象は、「恐れる」という点で共通しているのであり、それゆえ「同じ事象」として捉えられるのである。

もう一つ、比較を表す文で dài が頻繁に使われることを指摘しておかなければならない。

<sup>1</sup> スゴー・カレン語では、語源的かつ意味的にポー・カレン語の dài に対応する diʔ, jəu に対応する lí, lə̀n に対応する lə は、3 個とも同一節中に 2 回現れることができる。Kato (1991) 参照のこと。



- (40) ʔəjò yì dá ʔənó **dài**  
 これ 良い (比較) それ  
 「これはそれよりも良い」(001.1221)

この **dài** も「同じ事象の累加」という枠の中で捉えることができる。「良さ」を有しているという点で、「これ」と「それ」が共通だとして、「これ」のほうが良いとしたら、「これ」には「良さ」がより多く付け加わっているのだと捉えることができるだろう<sup>2</sup>。

以下に **dài** が用いられた様々な例を見ていく。

- (41) jə- θà bānklán **dài**  
 1sg 年齢 若い  
 「私はまだ若い」(001.750)
- (42) jə θí jə- lə bá **dài** ʔé  
 1SG (類似) 1sg 語る 正しい (否)  
 「私もまだ知りません」(001.655)
- (43) jə- chəphàichəmə yòn **dài** ʔé  
 1sg 仕事 終わる (否)  
 「私の仕事はまだ終わっていない」(001.1022)
- (44) jə- chəchā ké thán **dài** dò  
 1sg 病気 成る (完成) (別個)  
 「私の病気がまた出た」(001.1202)
- (45) phàjàin **dài** bá  
 かなり遠い (疑)  
 「まだかなり遠いですか?」(003.109)
- (46) ʔó **dài** θən nwē **dài**  
 ある 三 ~ 週  
 「まだ3週間ある」(003.1000)
- (47) nəθí dá lóθà phənphən **dài** jā  
 2pl 会う (相互) 何度か JA  
 「あなたがたはその後また会いましたよね」(012.8)
- (48) lənìjā jə- thàin thòn lé thəʔàn **dài**  
 先日 1sg 帰る 着く (場) (地名)  
 「先日私はまたパアンに帰った」(012.24)

<sup>2</sup>なお、日本語で「これはそれよりもまだ良い」と言うと、「これ」と「それ」は共にあまり良くないのだが、あえて比べると「これ」のほうが良い、というニュアンスがあるが、ポー・カレン語の **dài** を用いた比較の文にはこのような否定的なニュアンスはない。

- (49) còʔéphlòuN lə- yà θànáN hò **dài** ʔé mî  
 (人名) — ～人 忘れる 1PL (否) ～ですね  
 「チョーエーブロンは私達のことを忘れてはいないのだね」(014.17)
- (50) jə- yê thòN mòkhú **dài** lô  
 1sg 来る 着く さっき (断定)  
 「私はまださっき来たばかりです」(V-02.110)
- (51) lì **dài** xì  
 行く (禁止)  
 「まだ行くな」(003.60)
- (52) múmú lə- chə nāN mèiN **dài** ʔé  
 (人名) 語る CHə (少数) ～種類 (否)  
 「ムームーはまだ何も言っていなかった」(V-04.146)
- (53) jáijái khó nə- phlòuNchì jò mə- ʔó **dài** bá  
 しばらく (未来) 2sg カレン民族 (題) (非現) いる (疑)  
 「しばらく経ったとき、あなたのカレン民族はまだ存在しているのだろうか」(IV-06.6)
- (54) mū lə- nì khó jə- mə- yê thàin chōN nè **dài**  
 日 — ～日 (未来) 1sg (非現) 来る 帰る 迎える 2SG  
 「そのうちまたお前を迎えに来るよ」(V-04.13)
- (55) [<sub>R</sub> chəʔé lə- ʔó ləN bá ] mū lə- nì nó  
 愛 (否) ある もはや (否') 日 — ～日 (題)  
 mə- khá náin ʔəlèin lá **dài**  
 (非現) 苦い (比較) (植物の名) 葉  
 「愛がなくなった日には、(恋人の男が私に対して) アレインの葉よりも苦くなる (= 辛くあたる) だろう」(V-05.102)

なお、dài は、次のように述語名詞句に付くこともある。

- (56) ʔəwê phú **dài**  
 3se 子供  
 「彼はまだ子供だ」

### 24.3.2 jàu

この助詞は、基準時点 (=多くは発話時点) より前に生起した事象そのもの、あるいは、その事象の生起によってもたらされた何らかの影響が、基準時点まで継続していることを表す。

事象が時間的な幅を持っているものとして捉えられた場合、その事象そのものが基準時点まで継続していることを表す。これを「事象継続の読み」と呼ぶことにする。

(57) ʔəwê ʔán mì jàu  
 3se 食べる ご飯  
 「彼はもうご飯を食べている」

(58) ʔəwê θà cā jàu  
 3se 年齢 老いた  
 「彼はもう年老いている」

(57) のような継続可能な動作や、(58) のような状態の場合、単一の事象であってもこの読みが可能である。次の例に見える dú「殴る」や θi「死ぬ」のような瞬時に終わる事象を表す動詞の場合、事象継続の読みが可能なのは、事象が複数回生起するときのみである。

(59) ʔəwê dú ʔə phú jàu  
 3se 殴る 3sg 子供  
 「彼はもう子供を殴り始めている」

(60) phlòuN θè θi jàu  
 人間 (複) 死ぬ  
 「人々が死に始めている」

(59) は「殴る」という行為を何度も行っている状況であるし、(60) は複数の人間が死んでいるという状況である。

一方、事象が一つの点として捉えられた場合、事象の生起によってもたらされた何らかの影響が基準時点まで継続していることを表す。これを「影響継続の読み」と呼ぶ。この読みは、状態動詞としての特徴を持った述部には生じない。

(61) ʔəwê ʔán mì jàu  
 3se 食べる ご飯  
 「彼はもうご飯を食べた」

(62) ʔəwê dú ʔə phú jàu  
 3se 殴る 3sg 子供  
 「彼はもう子供を殴った」

(63) ʔəwê θi jàu  
 3se 死ぬ  
 「彼はもう死んだ」

「影響」が何であるかについては、文脈が限定されなければ無数の解釈が可能である。(61) の場合、例えば「彼」はご飯を食べて腹一杯になった状態にあるという解釈が一例である。(62) の場合は、例えば「彼」が子供を殴った結果、子供が怪我をしてしまってその状態が続いているという解釈、次の (63) の場合は、「彼」が死んでしまって基準時点においては既に生き返らせることはできないという解釈、等々が可能である。

事象そのものあるいは事象生起の影響が基準時点まで継続しているという事象把握の仕方は、英語などに見られる完了 (perfect) の事象把握の仕方に似ている (Comrie 1976 を参照)。助詞 *jàu* は、完了を表す助詞であると言ってもよいかもしれない。

ところで、上で「基準時点」としたものは、発話時点であることが多い。しかし「発話時点」としないのは、次のように、発話時点とは異なる時点が基準となることがあるからである。

- (64) ʔəkhâ nŏ jə- chəmə yòN jàu  
 時 その 1sg 仕事 終わる  
 「その時私の仕事は終わっていた」

- (65) kèkhó jə- chəmə mə- yòN jàu  
 明日 1sg 仕事 (非現) 終わる  
 「明日、私の仕事は終わっているだろう」

(66) では「その時」、(67) では「明日」が基準時点である。

以下、事象継続の読みと影響継続の読みの実例をそれぞれ挙げていく。まずは事象継続の読みの例を挙げる。

- (66) mǎnchònnā ʔŏ jàu  
 鉦 鳴る  
 「鉦 (かね) が鳴り始めた」 (001.2521)

- (67) bátəkè jàu bá  
 順調な (疑)  
 「順調になったか?」 (002.378)

- (68) ʔəkhâjò hə- thikhāN chə- chəN lǎN jàu  
 今 1pl 国 CHə 降る (下方)  
 「現在、私達の国ではもう雨が降っている」 (012.11)

- (69) jə- blè jàu  
 1sg 腹一杯の  
 「私はもう腹一杯だ」 (001.779)

- (70) yì jàu  
 良い  
 「良くなった」 (IV-04.828)

- (71) jə- náθí jàu θàucà  
 1sg 理解している (人名)  
 「もう分かったよ、タウチャー」 (IV-04.292)

- (72) θānwòphú ʔè xwèiN thán wê jàu lô  
 郭公 (複) 鳴く (外方) (強意) (断定)  
 「カッコウ達も鳴き始めている」 (V-01.32)

次は影響継続の読みの例である。

- (73) ʔəwê ʔánlè thán θà jàu  
3se 変える (完成) (再帰)  
「彼は変わってしまった」(001.296)
- (74) jə- cà nà jàu  
1sg 負ける 2SG  
「私はお前に負けた」(001.862)
- (75) ʔəwê ké thán chârâmú jàu  
3se 成る (完成) 女教師  
「彼女は先生になった」(001.1646)
- (76) chəchən tháu jàu  
雨 やむ  
「雨がやんだ」(001.3318)
- (77) chəchâ blá jàu ɛâ  
病気 治る (疑)  
「病気は治ったか?」(002.605)
- (78) jə- cáin lán khwái chəmə jàu  
1sg 出る (外方) (徹底) 仕事  
「私はもう仕事をやめた」(012.18)
- (79) nə- dákhòn dè jə- θómú títi jàu nè  
2sg 会う (共) 1sg 女友達 (人名) NE  
「あなたは私の友達のティーティーにもう会いましたよね」(014.25)
- (80) pə- thòn thán lé khānməpā jàu  
1pl 着く (外方) (場) 外国  
「私達は外国に来ている」(IV-03.4)
- (81) cəcəθéinlá yê thàin jàu  
(人名) 来る 帰る  
「チョーチョーテインラーは帰ってきている」(V-01.79)

なお、jàu は、次のように述語の位置に現れた名詞句に付くこともある。

- (82) ʔəwê chârâ jàu  
3sg 教師  
「彼はもう教師になった」

jàu は否定辞とは決して共起しない。否定を表す助詞が現れた場合には次節に述べる lən を用いる。

## 24.3.3 lə̀N

事象がある時点で生起しなくなり、基準時点に至るまで継続して生起していないことを表す。「もう～しない」。この助詞は否定を表す副助詞 ʔé, lə̀xì を用いた主節、あるいは、動詞助詞 lə̀- を用いた従属節にしか現れない。これら否定を表す助詞が使われた節をここでは「否定節」と呼び、否定を表す助詞が使われていない節を「肯定節」と呼ぶことにする。下に lə̀N を用いた例を示す。

- (83) jə-    báN    lə̀N    ʔé  
       1sg    若い            (否)  
       「私はもはや若くない」

- (84) jə-    lì        lə̀N    ʔé  
       1sg    行く        (否)  
       「私はもう行かない」

▷ この文は、過去のある時点から現在に至るまで「行かない」という状況が続いたとも解釈できるし、「今後は決まっていけない」という決意を表す文であるとも解釈できる。後者の解釈の場合、基準時点は未来の任意の時点であると考えられる。

- (85) jə-    lə-    lì        lə̀N    bá    ʔəkhúçòn ...  
       1sg    (否)    行く        (否')    (理由)  
       「私はもう行かないので...」

- (86) lì        lə̀N    xì  
       行く        (禁止)  
       「もう行くな」

「事象がある時点で生起しなくなり、基準時点に至るまで継続して生起していないこと」というのは、裏を返せば、「ある事象が生起しないということがある時点で開始し、基準時点までそのことが継続する」と読みかえることができる。これは先に見た jàu の表す「事象継続の読み」と似ている。なおかつ、jàu は肯定節にしか現れず、lə̀N は否定節にしか現れない。つまり jàu と lə̀N は、節が肯定節であるか否定節であるかという条件に従って相補分布を示す。以上のことから、jàu と lə̀N は、肯定節に使われるか否定節に使われるかが違うだけで、表す意味は同じであると考えることができる。

下に lə̀N を用いた文の例を挙げる。

- (87) hə-    mà    lə̀N    ʔé  
       1pl    取る        (否)  
       「もういりません」(005.18)

- (88) ʔəwê    thàin    bá        lə̀N    ʔé  
       3se    帰る    正しい        (否)  
       「彼は(道に迷って)帰れなくなってしまった」(006.14)



jə- lɪ cōN ké lən ʔé  
 1sg 行く 学校 可能な もはや (否)  
 「私は病気なので、学校にはもう行けない」(001.84)

第 18 章 18.1 の mə- についての記述で述べているとおり、ʔé が使われた節は現実法 (realis) と非現実法 (irrealis) の区別を失う。すなわち、動詞助詞 mə- が現れない。例えば、

(96) kəkʰó jə- mə- ʔáN  
 明日 1sg (非現) 食べる  
 「明日私は食べる」

に対応する否定文は、

(97) kəkʰó jə- ʔáN ʔé  
 明日 1sg 食べる  
 「明日私は食べない」

である。従って、

(98) jə- ʔáN ʔé  
 1sg 食べる  
 「私は食べない / 私は食べていない / 私は来なかった」

は、「(過去において) 私は食べなかった」「(未来において) 私は食べない」「(現在) 私は食べていない」「(習慣的に) 私は食べない」などの様々な解釈が可能である。

以下にいくつか例文を挙げておく。

(99) jə- nɔ́ lô nāN mèn ʔé  
 1SG (題) 欲する (少数) ～種類  
 「私は何もいない」(001.2356)

(100) chə- cəuN nə- θà ʔé ʋâ  
 CHə 退屈な 2sg 心 (疑)  
 「退屈じゃないか?」(002.19)

(101) pə- bá θamé chə ʔɔ́ nāN mèn ʔé chī lô  
 1pl (当為) 恐れる CHə ある (少数) ～種類 (婉曲) (断定)  
 「我々が恐れるべきものは何もない」(001.2184)

(102) ʔəkwa ʔɔ́ ʔé  
 問題 ある  
 「どういたしまして (直訳:問題ありません)」

▷ 礼を言われたときに返す言葉。

なお、名詞文を否定するとき、通常は次のようにいわゆる繫辞動詞 (copula verb) の mwē が必要である。



- (103) ʔəwê mwē phlòuN ʔé  
 3se (繫) カレン  
 「彼はカレン人ではない」

ただし、そんな会話では次のように mwē が省かれることもある。話者によっては、このような文を正しくないと判断する。

- (104) ʔəwê phlòuN ʔé  
 3se カレン  
 「彼はカレン人ではない」

#### 24.4.2 ləxì

否定の命令に使われる助詞。xì と同発音される。動詞 yì 「良い」に否定辞の lə- が付いたものが起源であると考えられる。つまり xì の部分は元来 yì であった。このことは、スゴー・カレン語の対応する形式が təyē であり、また、西部ポー・カレン語の対応する形式が ləyé であることから推測できる。

肯定の命令文においては無意志動詞を用いることはできないが、ləxì を用いた命令文においては、次のように無意志動詞を用いることができる。

- (105) klòN ləxì  
 悪辣な  
 「悪人になるな」

本論文で動詞の意志性を判断するときのテストは、あくまでも、動詞をそのまま命令文として使えるかというテストである。ləxì を付けた段階で「そのまま」という条件に抵触する。したがって、ləxì が現れた文を意志性のテストに用いることはできないということを強調しておきたい。

以下に ləxì を用いた文の例を見ていく。

- (106) kətò chə nàN mèiN ləxì  
 心配する CHə (少数) ～種類  
 「何も心配するな」(III-15.18)

- (107) ʔán mì dè cúci ləxì  
 食べる ご飯 (共) 左手  
 「ご飯を左手で食べるな」(I-sen.14)

- (108) ʔókíth̄ cháichā dè kəlòunchā ləxì chàì  
 置き去りにする 農民 (列举) 労働者 CHAI  
 「農民と労働者を置き去りにするな」(I-sen.59)

- (109) mà bē jò θò xì  
 する (比定) これ (比定)  
 「こんなことはするな」(IV-04.68)

- (110) ʔánlō nācè xī bō  
嘘をつく 少しだけ XO  
「少しも嘘をつかないでくださいよ」(IV-04.283)
- (111) yán xī xīphàn  
泣く (人名)  
「泣くな、ファイバウン」(IV-04.317)
- (112) nə- klòN náin nə- wē θè xī  
2sg 悪辣な (比較) 2sg 兄 (複)  
「お前は、お前の兄より悪い人になるな」(IV-07.38)
- (113) nəθí lè jā kràN bá thī  
2pl 行く 泳ぐ\* (無根) (催促) 水  
lé thīkhól phèn ʔò ləxī bó  
(場) 川 中 (遠方) ~よ  
「お前たち、川の中に入って泳いだりするなよ」(I-06.42)
- (114) nə lə- yà dákhòN bá  
2SG ー ~人 出会う (催促)  
ʔəcá bē mūtòuN jò ləxī  
人生 (比定) 母 この  
「お前はお母さんのような人生には遭遇しませんように」(V-05.17)
- (115) cō ʔəthàibòN phlòuN chəphú phānkhó nó  
兄 血筋 カレン 民族 上 (題)  
chəʔé làn cə bá xī  
愛情 落ちる 下がる (催促)  
「あなたの民族であるカレン人に対しては、愛情が減りませんように」(V-05.112)

## 24.5 話し手の態度にかかわるもの

### 24.5.1 chī

婉曲を表す。この助詞は極めて頻繁に使われる。çī あるいは jī と発音される。日常の速い会話では、chī よりも çī や jī と発音されることが多い。

- (116) jə- kəpərən nə láí ləcəphú chī lô  
1sg 書く 2SG 手紙 少し (断定)  
「私はあなたにちょっと手紙を書きたいと思います」(008.7)
- (117) ʔəkhâjò jə- ʔəpwài lé yéin chī lô  
今 1sg 休む (場) 家 (断定)  
「現在、私は家で休暇を取っています」(012.19)

- (118) nə- ʔē dá **chī** dù |  
 2sg (条件) 会う (条件')  
 ləpəŋ bá ʔəwêθí “jə- nó thán bá ʔəθí  
 伝える (催促) 3PL 1sg 覚えている (変化) (無意) 3PL  
 kò nì dè lô nó **chī** lô”  
 (毎) ~日 (毎') (断定) (のだ) (断定)  
 「もし(彼らに)会ったら、私が彼らを毎日思い出しています、と伝えてください」  
 (012.9)
- (119) ʔè mwē ʔəchón phàthô nī bòn dè ʔəchón phí nī  
 (条件) (繋) 毛 長い 二 ~本 (列挙) 毛 短い 二  
 bòn ʔè ʔó **chī** tā | mwē wêdá phlòthānā ʔəphā nó lô  
 ~本 (条件) ある (題) (繋) (強意) ゴキブリ オス (のだ) (断定)  
 「もし長い毛(=尻尾)2本と短い毛2本があったなら、(それは)ゴキブリのオスである」(II-06.18)
- (120) pə- ʔè dòn khō thán **chī** thī nó |  
 1pl (条件) 火にかける 熱い (変化) 水 (題)  
 mə- lá thán wêdá lô  
 (非現) 沸騰する (完成) (強意) (断定)  
 「水を火にかけて沸かすと、沸騰する」(II-09.4)  
 ▷ この例では **chī** は目的語の前に現れている。

主題化された要素に一般助詞の *θí* が現れると、述部に **chī** が現れることが多い。

- (121) jə θí báθà phó jàv **chī**  
 1SG (類似) 欲しい 子供 (完)  
 「私も子供が欲しくなりました」(009.26)
- (122) lənénjò θí bē xāxòN néin θè θò **chī**  
 今年 (類似) (比定) 他 年 (複) (比定')  
 「今年も、例年の通りだった」(V-05.22)
- (123) chəphàichəmə θáwN chīphó θáwN jāθàv θí  
 仕事 植える サトウキビ 植える キンマ (類似)  
 ʔó wē **chī** lô  
 ある (強意) (断定)  
 「サトウキビを植えたりキンマを植えたりする仕事もある」(III-17.18)
- (124) nə θí nə **chī** mú  
 2SG (類似) 2SG 女  
 「お前もお前だぞ、恋人よ」(V-04.196)

▷ *X θí X chī* は、ある人物 *X* の過ちを責めるときの決まり文句。日本語の「*X* も *X* だ」によく似ている。

### 24.5.2 lō

断定を表す。これも非常に頻繁に使われる助詞である。演説や書き言葉などでは特に多く使われ、文章によってはほとんどの文にこの助詞がついていることもある。

(125) jə- lō lō

1sg 行く

「私が行ったのだ」

(126) nə- kân yì mā lō nè

2sg 運 良い (非常) NE

「あなたは運がいいんですね」(002.154)

(127) ?wí mā lō x̄

美味しい (非常) XO

「とても美味しいよ」(003.76)

(128) nə- phlē khli θí chī lō jā

2sg 漕ぐ 舟 できる (婉曲) JA

「あなた、舟は漕げますよね」(I-06.16)

(129) ?ó máu lō chī jā

いる 快適な (婉曲) JA

「お元気ですよ」(008.5)

(130) ?è lə- láu cì bá nó yòN lō

(条件) (否) 失う お金 (否') (継起) 終わる

「お金がなくならなければそれでよい」(IV-04.34)

▷ ここでの yòN「終わる」は、「それで構わない」という意味で使われている。

(131) dòuNláuθòNθà nə- nā

世界 2sg 鼻

?ə- thō tháu lō ʋà θijā ?é

(名詞化) 高い (最上) (疑) 知る (否)

「この世界でああなたの鼻が一番高いかも知れない」(006.21)

この助詞は、近い将来において生起する事象を表すことがよくある。

(132) chə- mə- chəN lō

CHə (非現) 降る

「雨が降るぞ」

(133) mǎncò mə- lō lō x̄

おじさん (非現) 語る XO

「さあ話してあげよう」(006.7)

- (134) pə- mə- thàin lǎ  
 1pl (非現) 帰る  
 「さあ帰るぞ」(I-06.85)
- (135) mə- pətháu lǎ ɓ̄  
 (非現) 止める XO  
 「(手紙を書いている) もうペンを置きます」(009.50)
- (136) kɛ̀yòkhó mə- thàin lǎ mwē jā  
 明日 (非現) 帰る (繋) JA  
 「明日、帰るんですね?」(IV-04.296)

また、数や量に関わる表現と共に用い、その数や量に限定されるということを表す。

- (137) jə- lì thán lə- yà lǎ  
 1sg 行く (上方) ー ～人  
 「私は1人だけで行った」(IV-04.25)
- (138) nān phôn lǎ ɓ̄  
 (少数) ～回 (疑)  
 「(今後ご馳走してくれるのは)1回だけか?」(V-03.77)
- (139) khlaín nī phlòun chəkhlaín pìpì lǎ x̄  
 話す (努力) カレン 言葉 もっぱら XO  
 「努めてカレン語だけを話さない」(003.811)

### 24.5.3 dàlǎ

断定を表す。tǎlǎ と同発音される。最初の音節を中平調で dālǎ, tālǎ と発音することもある。

- (140) mwē cəkhleín ʔékwi xīphàn dālǎ ɓ̄á θijā ʔé  
 (繋) (人名) 愛する (人名) (疑) 知る (否)  
 「チョークレインはファイパウンを(本当に)愛しているのかしら」(IV-04.258)
- (141) yē cáinkwè mǎlmjāin dālǎ  
 来る 遊ぶ (地名)  
 「モールメインに遊びに来たのです」(IV-04.103)
- (142) jə- jū klàn dālǎ  
 1sg 見る (無根)  
 「ただ漫然と見ていただけなんだよ」(IV-04.60)

- (143) ʔəjò yàmú yê làn xwè thilá thî dālô  
 これ おばさん 来る (内方) 買う 食塩 水  
 「ええと、私は生理食塩水を買いに来たのですよ」(IV-04.443)

- (144) thán tɛkəθò ʔəkhâ láu cìçá tālô  
 上る 大学 時 失う 金銭  
 「大学に通っている時は、お金がなくなるばかりですよ」(V-03.118)

#### 24.5.4 bōlô

dālô と同じく、断定を表す (?).

- (145) jə- ʔán bōlô  
 1sg 食べる  
 「(食べたくないけれど) 食べたんですよ」(001.817)
- (146) ʔəjáu mə- ʔó nān læchîmî néin bōlô  
 年齢 (非現) ある (少数) 十二 ~年  
 「(彼女は)12 才くらいにはなるだろう」(V-04.76)

dālô と組み合わせて bōlô dālô の形で使うこともある。

- (147) lə jō wá bōlô tālô  
 語る (試行) (無意)  
 「試しに言ってみただけなんだよ」(003.860)

#### 24.5.5 nó

名詞修飾助詞の nó「あの」に由来する。「自分 (=話し手) が伝えたい情報に関して、聞き手が何らかの推定をしている」と話し手が考えていることを表す (?). 今のところこの助詞の機能は完全には把握できていない。日本語には「~のだ」と訳することができる場合が少なくない。

- (148) lænjò mwē ʔətáu mūnî nó lô  
 今日 (繫) 日曜 日 (断定)  
 「今日は日曜日なのです」(I-06.3)
- (149) phjā ʔó læ- yà nó jā  
 もの いる 一 ~人 JA  
 「(ある所に) 人が 1 人いたんですよ」(019.16)
- (150) lé ʔəklà læ- phlóun nó  
 (強調) 真ん中 一 ~個 (題)

mwē wēdā phā ʔə- càN nŏ lô  
 (繫) (強意) 父 3sg 小屋 (断定)  
 「真ん中のやつがお父さんの小屋なのよ」(I-06.33)

(151) thònnŏ lə- phən ʔəwēdā bá θi khwái mēin wē  
 そして ー ～回 3se (当為) 死ぬ (徹底) (自然) (強意)

lé ʔə- kù phən nŏ chī lô  
 (場) 3sg 殻 中 (婉曲) (断定)  
 「そして、彼(=亀)は、自分の殻の中で死んでしまったのでした」(II-11.18)

(152) càdìθāN nŏ ʔŏ thəlōN khwái ʔá néin ʔá là yōN |  
 ライオン (題) いる 過ぎる (徹底) 多い ～年 多い ～月 (継起)

θājū thán bá ʔə- θŏ kəchāN nŏ lô  
 懐かしい (変化) (無意) 3sg 友 象 (断定)  
 「ライオンは、(1人で)暮らし出して何年何ヶ月と過ぎたとき、友人の象のことが懐かしくなったのだった」(I-04.27)

(153) lānāNθi ʔəwē mà lə- bá nāN mēin bá nŏ ʔəkhúcōN |  
 しかし 3se する (否) 正しい (少数) ～種類 (否') (理由)

kəljāN thāin θā wē lé ʔəlāNʔəklē kŏ phādŏ ʔŏ lô  
 帰る (元位) (新局) (強意) (場) 故郷 島 大きな (遠方) (断定)  
 「しかし、彼(=ライオン)は、何もすることができなかったので、故郷の大きな島へと帰っていったのだった」(I-04.33)

(154) ʔəwēθi cŏ ʔāN wē chəphúxā lé θéin béin lá  
 3se つつく 食べる (強意) 昆虫 (場) 木 皮 下

θi nŏ ʔəkhúcōN | mwē ʔəwēθi màbōN màchōN wē  
 (複) (理由) (繫) 3pe 助ける 助ける (強意)

chəməθéinchā θi kŏ nì dē nŏ lô  
 林産業者 (複) (毎) ～日 (毎') (断定)  
 「彼ら(=鳥)は、樹皮の下の虫たちを食べるので、毎日、林産業者たちを助けているのである」(II-01.8)

(155) pə- ʔè báθā wūchá ʔwà nŏ | bá dàulāN lé  
 1pl (条件) 欲しい 米 白い (継起) (当為) 入れる (場)

chōuN phən nŏ yōN | pə- klēcì ʔānchū chī tā |  
 臼 中 (継起) 1pl 努力する 搗く (婉曲) (継起)

ʔəwēdā mə- ké thāN wūchá ʔwà chī lô  
 3se (非現) 成る (完成) 米 白い (婉曲) (断定)  
 「もし白い米が欲しければ、臼の中に入れて、懸命に搗いて(初めて)、それは白い米になるのである」(I-05.6)







- (7) jə- ʔó θéin wī lòn jò |  
 1sg いる 木 根 上 (近傍)  
 nə- dá jə ʔé ɸâ  
 2sg 見える 1SG (否)

「俺は木の根の上にいるのだが、お前には俺が見えないのか?」(III-03.8)

ɸâ は疑問を表すが、ɸâ が使われた文が語用論的にも常に疑問の文として使われるとは限らないことは注意すべきである。ɸâ が使われた文は、疑問以外の様々な語用論的意味を表し得る。例えば、次の例は、「そうなのか?」という疑問を表す文として以外に、相手の主張に対する納得の印(すなわち相づち)としても使うことができる。

- (8) mwē ɸâ  
 (繋)  
 「そうですか」

また、次の例は、ɸâ を用いることによって、命題に対する強い反対の態度を表している。

- (9) [C hə- bá θàthán lóθà] bá ɸá nê  
 1pl (当為) 怒る (相互) 正しい NE  
 「私達が互いに腹を立てあっているのは、正しいことかね?(いや正しくない)」  
 (001.687)

このように、文末助詞の ɸâ が用いられていても、常にその文が疑問を表すとは限らない。しかし、意味論的には ɸâ は疑問を表すと考える。

なお、下のような補文の後に現れた ɸâ は、従属節助詞と考える。これについての詳しい議論は、第 22 章 22.4 を見られたい。

- (10) [C ʔəjò yì] ɸâ θíjâ ʔé  
 これ 良い 知る (否)  
 「これは良いかどうか知らない」

## 25.2 lê

lê あるいは lē とも発音される。語源的にはおそらく、ビルマ語の /-lé/ と関係がある。lê には疑問を表す lê(下の lê(1)) と感嘆を表す lê (下の lê(2)) とがある。

### 25.2.1 lê (1)

ɸâ と同様に疑問を表す。ɸâ との違いは、lê が基本的には疑問語が現れた文で用いられるということである(第 27 章を参照)。lê は、疑問語によって示された不定の内容について、聞き手が話し手に情報を与えなければならないということを表す。下の二つの文を対比せよ。

- (11) ʔəjò yì ɸâ  
 これ 良い  
 「これは良いですか?」

- (12) chənó yì lê  
何 良い  
「何が良いですか?」

以下に lê を用いた例を挙げる。

- (13) nə- nī já xwè béin lê  
2sg 得る 魚 いくつ ~枚  
「何匹の魚を捕まえた?」(I-06.68)

- (14) mə- ʔəʔáN nó lê  
(非現) 飲み食いする 何  
「何を食べますか?」(V-03.42)

- (15) nə- yê thàin lé cəpāN khāN chəçái lê  
2sg 来る 帰る (場) 日本 国 いつ  
「あなたはいつ日本から帰って来たんですか?」(V-04.133)

- (16) mwē θàucà mə- lò nó lé  
(繫) (人名) (非現) 語る 何  
「タウチャーは何を言うつもりなの?」(IV-04.214)

- (17) mwē chônmon nó lê nê  
(繫) 考える 何 NE  
「何を考えているのかね?」(V-03.68)

- (18) jô bēθi lê θwíwò  
容易な どのように (人名)  
「どう簡単だというのだ、トゥイーウォー?」(IV-04.154)

文末助詞の lê は意味論的には疑問を表すが、lê が用いられた文が語用論的に常に疑問を表すとは限らないのは、bə と同様である。例えば次の文を見られたい。

- (19) phlòuN mə- lì lê  
誰 (非現) 行く  
「誰が行くというのだ」

この文は、基本的には「誰が行くのか」ということを表す疑問の文であるが、「誰も行かないだろう」という主張を表すために用いることもできる。このように、lê の場合も、文が常に疑問を表すとは限らない。

実は lê は、疑問語が現れていない文でも用いられる場合がある。この場合の lê は bə と同様に、命題の真偽を問うていることを表す。ただし lê の場合、非常に強い疑念を表す。

- (20) nə- bá kəlôn chə phōphôjò lê  
2sg (当為) 急ぐ CHə このように  
「お前は(本当に)こんなに急がなければならないのか?」(001.1582)

- (21) nə- mâ yê lê  
 2sg 妻 来る  
 「(一体) お前の妻は来てるのか?」

強い疑念を表すことから、時に lê が用いられた文はしばしば反語的な意味合いを持ち、否定辞と同様の効果を文にもたらしることがある。下の例を見ていただきたい。

- (22) phlòun bá θijâ jò nāN yà lê  
 人 (当為) 知る 1SG (少数) ~人  
 「他人が誰ひとりとして私のことを知っているはずがない」(V-03.31)

名詞修飾助詞 nāN は、否定文で使われると、皆無であることを表す。この文の nāN も皆無を表しており、これは、lê が使われていることの効果によるものである。

なお、下のような補文の後に現れた lê は、先ほどの ɛâ と同様、従属節助詞と考える。これについての詳しい議論は、第 22 章 22.4 を見られたい。

- (23) [C chənó ʔó] lê jə- θijâ ʔé  
 何 ある 1sg 知る (否)  
 「何があるのか私は知らない」

### 25.2.2 lê (2)

詠嘆を表す。程度の甚だしさを表す副助詞の mā(mà) と共起することが多い。

- (24) mwē nə- thòn phlài mà lê θó  
 (繋) 2sg 着く 遅い (非常) 友  
 「来るのが何と遅いじゃないか、友よ」(IV-04.279)
- (25) ləyájò ʔəphlòun ʔá mà lê  
 今夜 人 多い (非常)  
 「今夜は人が多いなあ」(V-03.9)
- (26) kəcài mwē phlé mà lê θó  
 仏 (繋) 速い (非常) 友  
 「ああ、(君が子供をもうけるのが) はやいなあ、友よ」(V-03.75)
- (27) θí mà lê bò  
 できる (非常) BO  
 「よくやり遂げたものだなあ」(V-04.218)
- (28) mwē pə- chəbóun láʔən châ mà lé cōkhléin  
 (繋) 1pl 運 醜い 大変 (非常) (人名)  
 「私達の運は何て悪いのでしょうか、チョコレートイン」(IV-04.406)

## 25.3 nê

聞き手の同意を期待するときに用いる。nê ととも発音される。日本語では、しばしば「ね」で訳することができる。

- (29) nə ʔəkhâjò mə- nī thàin  
2SG 今 (非現) 得る (再度)

phú lə- yà lô chī nê  
子供 一 ～人 (断定) (婉曲)

「あなたは、今度また子供をひとりさずかるんですよね?」(009.19)

- (30) nə dakhòn dè jə- θúmú títí jàu nê  
2sg 会う (共) 1sg 女友達 (人名) (完)

「あなたはもう私の女友達のティーティーと会いましたよね?」(014.25)

- (31) là lə- béin jò chə- khū təcā nê  
月 一 ～枚 この CHə 暑い かなり

「今月はかなり暑いですね」(IV-04.6)

- (32) θwíwò yàmú ʔèinçú jò  
(人名) おばさん (人名) (題)

ʔə- θàuthəjā yì chā mā lô nê  
3sg 誠意 良い 大変 (非常) (断定)

「トゥイーウォーのおばさんのエインシューは、とても誠意のある人だね」(IV-04.150)

- (33) wəcò thòn tékəθòphjācònmòn θí |  
お兄さん 着く 大学 (逆接)

wəcò θànan phôʔwà nān phôn ʔé nê  
お兄さん 忘れる (人名) (少数) ～回 (否)

「僕は大学に行っても、パワーのことを決して忘れないからね」(V-01.17)

- (34) nə θijā ʔé bá  
2sg 知る (否) (疑)

「お前は知らないのか?」

—— θijā nê  
知る

「知ってるさ」

- (35) mə- mwē bá nê  
(非現) (繫) (疑)

「本当かね?」(IV-04.57)

▷ 話者は、相手の言ったことに対して強い疑義を抱いている。mə- mwē ʁá の部分は、nè がなければ「そうなのか?」の意の疑問を表す。全体としては、「話し手が疑問を抱いたということが当然である」ということに同意を求める文となる。

- (36) mwē ʔé nê  
(繫) (否)  
「(君の意見は) 間違ってるね」(IV-04.76)

## 25.4 kənê

おそらく nê と同様の機能を持つ。nê を使うか kənê を使うかは、idiolect による差異である可能性もある。kənê と同発音される。

- (37) yê lé θáwɪnpɰhlà ʔəyāin khô nó |  
来る (場) 植える 事柄 (対比) (前提)  
pàkà ʔé chī kənê  
注目する (否) (婉曲)  
「作物の栽培のことになると、気をとめなかったんですよ」(V-03.61)

## 25.5 jā

話し手が信じている情報を、聞き手に確認するときに用いる。「(~です) よね」。否定を表す副助詞の ʔé と疑問を表す文末助詞の ʁâ が融合同化して発生したのではないかと考えられる。

- (38) ʔó máu lô chī jā  
いる 快適な (断定) (婉曲)  
「お元気ですよ?」(008.5)
- (39) nə phlē khli θi chī lô jā  
2sg 漕ぐ 舟 できる (婉曲) (断定)  
「舟、漕げるよね?」(I-06.16)
- (40) ké phūkhwā θi lì lô jā  
さあ 弟 (類似) 行く (断定)  
「さあ、あなたも行くでしょう?」(IV-04.178)
- (41) hə yê thàin lòn tháu nī thàin  
1pl 来る 帰る 追う 乗る (努力) (追加)  
kəbàn nàN thí ké jā  
船 (少数) ~回 可能な  
「今度は船に乗って帰って来るのもいいでしょう?」(IV-04.10)

- (42) cānbò jā- lō wē nō jā  
 だから 1sg 語る (備え) 2SG  
 「だから言っておいたでしょう?」(V-03.128)
- (43) lé phjā jō jā pā  
 棒 物 この お父さん  
 「この棒 (が重要) なんだけどね、お父さん」(020.64)

jā はしばしば nê と共に使われる。

- (44) thōnnáin lōthā jā nê  
 覚える (相互)  
 「(我々は) 互いに (互いのことを) 覚えておこうじゃないか」(V-03.49)

この文は、「互いに覚えておく」という動作を行うことを聞き手に確認し、同時に同意を求めているのだと考えられる。

## 25.6 jābò

文の表す命題が真であることに話し手が確信を持っているということを表す。jāwò あるいは jābò とともに発音される。語源的には、同じく文末助詞の jā および bò の連続したものであるが、jābò 全体の表す意味は、これらを単に合成するだけでは導くことができない。よって、jābò 全体で一つの単語であると見なす。

- (45) ʔənó jābò  
 それ  
 「まったくその通りですな」
- (46) máu wē jābò  
 快適な (強意)  
 「楽しいに決まってるでしょ!」(V-01.6)
- (47) dá hō θí lōN ʔé wē jābò  
 会う 1PL できる もはや (否) (強意)  
 「どうせもう私とは会えないんですよ!」(001.1487)
- (48) nō ʔē θijā | yōN lō jābò  
 2sg (条件) 知る 終わる (断定)  
 「あなたが分かっているのなら、それでいいのよ」(V-05.41)
- (49) bē nō lō yā mō klōnkhlāN θō |  
 (目的) 2SG 一 ~ 人 (非現) 理解する (目的)  
 jā- mō lō phí thāin jābò  
 1sg (非現) 語る (裨益) (再度)  
 「あなたが分かるように、話してあげますよ」(V-04.162)

▷ jǎbò を使うことによって、「必ず」という意味合いが生じている。

- (50) plètò lóthà bá ké wê klà lǎ jǎbò  
 許す (相互) (当為) 可能な (強意) いつも (断定)  
 「(僕たち二人は)いつでも互いに許すことができない決まってるよ」  
 (V-04.233)

jǎbò は、しばしば、強い勧誘を表すために用いられる。「勧誘」の意味は、話し手と聞き手を動作主とする事象が生起するということを、確信を持って主張することから、語用論的に生じるのだと考えられる。

- (51) kèyò khó thàin tháuv jǔ jǎbò  
 明日 (未来) 帰る 乗る (試行)  
 「明日、(船に)乗って帰ってみよう」(IV-04.14)

- (52) wēcò ?ē nǐ θítékəθò bwé khó |  
 お兄さん (条件) 得る 医科大学 学位 (未来)  
 ?ó thōN dòun ləkōun | pàuv thán θítàuv  
 住む (場) 町 (地名) 開く (完成) 医院  
 thōN θitā yéin nó jǎbò  
 (場) (人名) 家 (のだ)  
 「あなたが医科大学の学位を取ったら、(私達は)ヤンゴンに住んで、私 (=ティーダー) の家で医院をやしましょうよ」(V-01.50)

## 25.7 xǎ

話し手の意向や事情を聞き手に理解してもらいたいときに用いる。xǎ あるいは jǎ ととも発音される。

- (53) mǎ- pətháuv lǎ xǎ  
 (非現) 止める (断定)  
 「(手紙を書くのを)そろそろ止めますね」(009.50)
- (54) mǎ- thàin ?ó còN dè nǎ thōN?əthòn dàì xǎ  
 (非現) 帰る いる (皆) (共) 2SG 必ず また  
 「また必ずあなたのところに帰ってきますからね」(V-04.19)
- (55) màncò mǎ- phúlân nǎ ljāθài jò xǎ  
 おじさん (非現) 与える 2SG 贈り物 この  
 「おじさんは君にこの贈り物をあげるからね」(V-04.106)
- (56) [R cǎ mǎ- yé thàin ] mǔmì  
 お兄さん (非現) 来る 帰る 日



ʔwàʔwà ʔókhò jū lán b̄

(人名) 待つ 見る (内方)

「あなた(=お兄さん)が帰って来る日を私(=ワーワー)は待ちこがれています」(V-05.76)

(57) pətháu lú ʔò pətháu lé jò | jái mēin ləp̄ b̄

止まる (場) あそこ 止まる (場) ここ 久しい (自然) 少し

「(バスが)あっちに止まったりこっちに止まったりして、遅れてしまったんですよ」(001.2548)

x̄ は命令文でしばしば用いられる。

(58) kè phí thàin lái nān bēin b̄

書く (裨益) (返答) 手紙 (少数) ~ 枚

「手紙をまた書いてくださいよ」(011.35)

(59) θàŷêthán bá nān xì b̄

腹を立てる (催促) お姉さん (禁止)

「私(=お姉さん)に腹を立てないでね」(IV-04.205)

## 25.8 b́

x̄ と同様の働きを持つ(?)。

(60) nəwədə nə- ʔè θàmé ʔò |

2sg 2sg (条件) 恐れる (題)

lì yà ʔó khwái wê lé ʔəjàin ʔò b́

行く 渡る 居る (徹底) (強意) (場) 遠く (遠方)

「(人間が)恐いのだったら、遠くに行って暮らす方がいい」(I-04.24)

(61) nəθí lì jā kràn bá thī lé

2pl 行く 泳ぐ (無根) (催促) 水 (場)

thíkhlo phən ʔò ləxi b́

川 中 (遠方) (禁止)

「お前達は川の中でやたらと泳ぐんじゃないよ」(I-06.42)

## 25.9 jē

これも x̄ と同様の働きを持つ(?)。

(62) jə- yē ʔánxū chəθíjānāθí ləcələmwè jē

1sg 来る 探す 知識 少し

「私はちょっと調査をしに来たんですよ」(001.1445)

## 25.10 kǎ

命令文で用いられる。強い催促の気持ちを表す。

- (63) yê thàin kǎ  
来る 帰る  
「帰ってきてくれ」

- (64) klìcì tǎcà kǎ  
努力する 確かに  
「しっかり頑張ってくれたまえ」(001.1542)

## 25.11 wê

命令文で用いられる。せかすときに用いる。

- (65) lǎ xèxè wê θwíwò  
語る 小聲で (人名)  
「小聲で話さないよ、トゥイーウォー」(IV-04.73)

- (66) bòn lǎn wê  
注ぐ (下方)  
「(酒を) 早く注げよ」(V-03.18)

- (67) ?è θǵǵǵ | ?ó xè wê  
(条件) 知る いる 黙って  
「知ってるんだったら黙ってろよ」(V-03.45)

## 25.12 jǎn

命令文で用いられる。目下の者に優しく命令するときに用いる (?)。

- (68) lǎ thàin nǎn wǎn dǒ jǎn  
語る (再度) (少数) ～回 (別個)  
「もう一度言ってごらん」(V-03.103)

- (69) màprǎnxòn dè nǎ- phū nī yà nó jǎn  
演じる (共) 2sg 弟 二 ～人 (のだ)  
「あなたの弟と2人で演じてごらん」(V-04.246)

## 25.13 dǔ

聞き手への反論を表す。

- (70) jə- dá mōkhó.  
1sg 見える さっき  
nə- jō thī phàjái chī dū  
2sg 見る 確かな 久しく (婉曲)  
「(君はあの女性を見ていないと言ったが) 俺はさっき見たぞ。君はしばらくしげしげと見ていたぞ」(IV-04.58)
- (71) θò nó θò lānān θí  
友人 (題) 友人 (逆接) (類似)  
cì nó θò ʔé dū  
お金 (題) 友人 (否)  
「友達は友達だが、お金は友達と関係がない (注:友人にツケを頼まれた店員が拒否の態度を示しながら)」(V-03.25)
- (72) dè cáin làn cōN mà mǎ lô dū  
～してすぐ 出る (下方) 学校 取る 妻 (断定)  
「学校を出てすぐ結婚したのだから (当然だ)(注:もう2人も子供ができたのかと言われて)」(V-03.76)
- (73) nə- chəbóuN yì mà lô nè ʔwàʔwà.  
2sg 運 良い (非常) (断定) NE (人名)  
nə- chəʔétàN mwē wēdǎ tékəθò cōNθā dū  
2sg 恋人 (繫) (強意) 大学 学生  
「あなたはとても運がいいわ、ワーワー。あなたの恋人は大学生なんだもの」(注:ある男性と関係がないと言い張る聞き手に対して)(V-05.42)

## 25.14 chə

chə- とも発音される。おそらく、代名詞の chə と同源である。この助詞は、文助詞の中で唯一、文頭に置かれ、何かに対する根拠・理由を言いたいときに用いられる。この助詞が使われると、文末に前節で述べた dū が現れることが多い。

- (74) chə phóθá dǎi lô dū  
子供 まだ (断定) DU  
「まだ子供なのだから (そんなに叱るなよ)」(V-03.110)
- (75) chə- nə- phǎ lə- bá dū  
2sg 当てる (否) 正しい DU  
「(このお金はもらっておくよ。) あなたは (なぞなぞの答えを) 当てられなかったのだから」(019.24)
- (76) chə- cəxwǎ θǎ cǎ bǎN dū  
王 年齢 老いた (変化) DU  
「(若返りの薬が欲しいのは当然だ。) 王は年老いているのだから」(020.50)

## 25.15 nà

文に述べられた主張が、話し手個人の主観に基づいて述べられていることを表す。

- (77) lə- dá [C nə- yê thàin cáinkwè] lən bá  
(否) 見える 2sg 来る 帰る 遊ぶ もはや (否')

jái phō nà

久しい (臨場)

「あなたが遊びに来るのを久しく見ていないなあ」(V-02.108)

- (78) nə- ʔó báθà ʔəθí ʔó θò nānmlái nà  
2sg いる (欲求) (比定) 3pl 居る (比定') 瞬時

「彼らが生活しているように、少しでも生活してみたいな」(V-03.64)

- (79) hə jò mà kəlôun |  
人 この する 仕事

hə- mà pjáu ʔə- khâin máu mā nà

1pl する 従う 彼の 後 快適な (非常)

「この人が(先頭に立って)仕事をすると、一緒に仕事をするのが楽しいな」(001.3757)

## 25.16 bò

疑問や詠嘆の口調をやわらげるために用いる。wò あるいは Bò と発音される。

- (80) phūkhwà θè ʔó təwân khô lê bò  
弟 (複) 住む 村 どこ (疑)

「あなた達はどの村に住んでいるの?」(IV-04.100)

- (81) lənijò là láu wêdá bò  
今日 月 尽きる (強意)

「(店に人が多いのは)今日が月末だからなのだな」(V-03.9)

- (82) mwē pô phló phí nə- mēin lê bò  
(繫) 誰 名付ける (裨益) あなたの 名前 (疑)

「誰があなたの名前を付けてくれたの?」(V-04.100)

- (83) θí mà lê bò  
できる (非常) (詠嘆)

「よくやり遂げたものだなあ」(V-04.218)

- (84) mən bá bá wò  
生きている 正しい (疑)

「(そんな薬を与えただけで病人が)生きていられるだろうか」(023.36)

## 25.17 mî

断定を避けて口調をやわらげる。しばしば否定文で使われる。mû あるいは mō とも発音される。

- (85) còʔéphlòuN lə- yà θànáN hò dàì ʔé mî  
 (人名) — ～人 忘れる 1PL まだ (否)  
 「チョーエープロンはまだ私達を忘れていなかったんだね」(014.17)
- (86) θaupərái mə- chônMÓN klàn nè lé chəphlū mî  
 警官 (非現) 考える (無根) 2SG (強調) 狂人  
 「警官は君を気遣いだと思ったかもしれないよ」(IV-04.32)
- (87) jə- ʔóθà bá [C nə- ké thán  
 1sg 思う (無意) 2sg 成る (完成)  
 dòuNkəNāN mənNècà θè jàu ] mî  
 町 マネージャー など (完)  
 「私は、お前が町レベルの管理者になっているものだとしてっきり思っていたよ」(V-03.54)
- (88) phlòuN thikhāN dòuN thəʔāN θí  
 カレン 国 町 (地名) (類似)  
 thánthō nāN mēin ʔé mî  
 発展する (少数) ～種類 (否)  
 「カレン州のパアン市も、全然発展していないなあ」(V-04.62)

## 25.18 chài

話し手の懇願する気持ちを表す。しばしば、願望を表す動詞助詞の lā とともに使われる。

- (89) ʔókíthō cháichā dè kəlòuNchā ləxì chài  
 取り残す 農民 (列举) 労働者 (禁止)  
 「農民と労働者を置いてきぼりにしないでください」(I-sen.59)
- (90) kətò làn dá nə- θà nó chài  
 心配する (帰的) (限定) 2sg (再帰) (のだ)  
 「自分のことだけを心配しなさいよ」(II-11.14)
- (91) yēN bá lā chài  
 聞こえる (不抗) (願望)  
 「聞かせてほしい」(001.1340)

- (92) ʔəmátəphlá ʔē ʔó |  
 間違え (条件) ある  
 plètò lā jò nāN thí chàì  
 許す (願望) 1SG (少数) ～回  
 「もし間違えがあれば許してください」(V-04.79)

- (93) thî ʔiləphá yê thán lā lé khólòN khó jò chàì  
 水 (複) 来る (上方) (願望) (場) 山 頂上 この  
 「水がこの山の頂きに沸いてきますように」(III-06.24)

## 25.19 lāchài

chài と同様に、話し手の懇願を表す。25.18 で chàì は願望を表す動詞助詞の lā と共起することが多いことを述べた。lā は動詞助詞であるから、動詞の直後に置かれる。したがって、もし目的語や副詞的要素があれば、これらの要素の前に現れる。次の例を見られたい。

- (94) jō lā ʔəjò chàì  
 見る (願望) これ CHAI  
 「これを見てください」

ところが、目的語や副詞的要素がない場合、lā と chàì が連続してしまう。その結果、lā と chàì が一つの助詞のように再分析され、lāchài という文末助詞が生まれたと考えられる。次は lāchài の例である。

- (95) ʔwíʔàchèn kwè láì lé jə- ʔó  
 すみません 書く 手紙 (場) 私の ところ  
 nō blàn lāchài  
 (少数) ～回  
 「すみませんが、私のところにもまた手紙を書いてください」(008.16)

- (96) thònnáin nī kò yà dè lāchài  
 覚える (努力) (毎) ～人 (毎')  
 「皆さん、(このことを) 覚えてくださいね」(III-01.51)

目的語や副詞的要素を欠いた次のような文の場合、lā と chàì が 1 単語なのか 2 単語なのかの判別は難しい。

- (97) ʔó chón lā chàì  
 居る 健康な  
 「ごきげんよう」

## 25.20 báwô

文の表す情報について、話し手が確信を持ってないということを表す。wáwô あるいは báwô とも発音される。

(98) ?ó mēin nān chíjē néin jàu báwô

ある (自然) (少数) 十五 ~ 年 (完)

「かれこれ 15 年近くになるだろうか」(V-03.37)

(99) mwē jàməto jàməká jàməlá θèθí wáwô nè

(繫) (神の名) (神の名) (神の名) (複) NE

「ヤーマトー、ヤーマカー、ヤーマラーなどの神々だったのでしょね」(025.32)

## 25.21 lòwê

文の表す情報の源が話し手ではないこと、すなわち伝聞を表す。動詞 lò 「語る」に強意を表す動詞助詞の wê が付いたものに由来する。すなわち、元々は「(誰かが)~と語った」という意味である。

(100) θéin phàdó mēinláθônklà pìpì lò lòwê

木 大きな ジャングル ばかり (断定)

「大きな木、そしてジャングルばかりだったそう」(021.92)

(101) ?əwê mjòn bān nī ?ə- mēinçā thí lò lòwê

3sg 引っぱり出す (外方) (引寄) 3sg 姑 一気に (断定)

「彼は、姑を一気に引っぱり出したそう」(020.47)

(102) θànkha nó ?ó lú thà ?ò xô lòwê

僧侶 (題) いる (場) 上 (遠方) (対比)

「坊さんは上ビルマに住んでいるそうです」(024.3)

基本的な語順に従えば、「~と語った」という意味を表す lò wê は、補文の前に現れる。

(103) lò wê [C ?əwê mə- lì]

語る (強意) 3se (非現) 行く

「彼は行くと言った」

しかし、伝聞を表す lòwê は、文末にしか現れない。これは文末に現れて伝聞を表すビルマ語の助辞 /tê/ の影響である可能性がある。同様の現象は、ビルマ国内の他の SVO 型言語にも生じている。例えばシャン語 (Shan) では、「言う」という意味の動詞 wā が文末に置かれ、伝聞を表す。

## 25.22 dé

lòwê と同様、文の表す情報の源が話し手ではないこと、すなわち伝聞を表す。ほぼ確実に、ビルマ語の助辞 /tê/ の借用である。

(104) lə- phên jò mǎncò θàbjò ʔē yê |  
 — ～回 この おじさん (人名) (条件) 来る

dàu ʔò θài ləxì dé

(使役) 飲む 酒 (禁止)

「今度タービョーおじさんが来たら酒を飲ませるな、という命令です」(V-03.23)



## 第26章 一般助詞

ここに分類する助詞は、特定の品詞に限定されない様々な要素に付く。様々な要素とは、補語(主語・目的語・斜格補語)、側置助詞句、動詞句、分離型動詞連続の「主語 + V1 動詞句」、従属節、分裂文の前提部である。このように様々な要素に付くので、これを一般助詞(*general particle*)と呼ぶことにする。ほとんどの一般助詞は、修飾される要素の後に付くが、*thōN* のみは前に付く。一般助詞には大きく分けて、主題化された要素にしか付かないものと、主題化された要素以外にも付くものの二つがある。

### 26.1 主題化された要素にしか付かないもの

主題として現れ得る要素は、第4章の4.4で述べているとおり、補語(すなわち主語・目的語・斜格補語)、側置助詞句、分離型動詞連続の「主語 + V1 動詞句」、従属節、分裂文の前提部である。

このタイプの一般助詞が主題化された要素にしか付かないことを *θí* 「～も」を例に取って見てみよう。下の例で、*θí* は主題化された目的語名詞 *kú* に付いている。

- (1) *kú*     *θí*     *jə*     *ʔán*  
菓子 (類似) 1sg 食べる  
「菓子も私は食べた」

この *θí* が主題化された要素に付くことは、名詞 *kú* が動詞の後に置かれている場合に、*θí* をこれに付けることができないという事実から明らかである。

- (2) \**jə*     *ʔán*     *kú*     *θí*  
1sg 食べる 菓子 (類似)  
「菓子も私は食べた」

つまり、「菓子も食べた」ということを言いたければ、ポー・カレン語では目的語を主題化して表現するしかない。

ところで、第3章で筆者は、一般助詞を「何らかの統語的単位を導入する機能を持たないもの」に分類した。主題化された要素にしか付かない一般助詞は、主題という単位を導入しているように見えるかもしれないが、そう捉えることは間違いである。なぜなら、次の文から主題を表す *nó* を取り除いてもかまわないからである。

- (3) *kú*     (*nó*)     *jə*     *ʔán*  
菓子 (題) 1sg 食べる  
「菓子は私が食べた」

つまり、この *nó* は、主題を導入しているのではなく、主題を単に表しているだけに過ぎないと考えられる。

## 26.1.1 nó

主題そのものを表す。名詞修飾助詞 nó「あの、その」に由来する。

この nó が名詞修飾助詞 nó と意味が異なっていることは、ʔənó「それ」などと共起することから分かる。

- (4) ʔənó nó ʔwí  
あれ 美味な  
「あれはおいしい」

一般助詞 nó は、基本的に主題を表す。時として nó は対比を表すために用いられているかのように見えることがある。

- (5) nà nó nə- lè nə- mâ mə- θí bádòn.  
2SG 2sg なだめる 2sg 妻 (非現) できる たぶん  
jè nó θí ʔé  
1SG できる (否)  
「あなたは奥さんをなだめるのが上手そうですね。私はうまくありません」(009.48)

しかし、このようなニュアンスは、主題を持つ文を並置したときに付随的に生じるものであって、nó の本質的な機能とは関係がないと考える。

以下に様々な例を見ていく。まず、補語の後に付いた例を挙げる。

## ● 主語

- (6) jè nó jə- jū yòn jàu  
1SG 1sg 見る 終わる (完)  
「私はもう見終わった」(016.35)
- (7) nà nó mwē təlápònɲàchā  
2SG (繫) 知識人  
lə- yà lō | mwē bā  
一 ~ 人 (断定) (繫) (疑)  
「あなたは知識人のひとりですよ?」(009.14)

## ● 目的語

- (8) nə- còN nó phlòuN kànkà klè lō chī  
2sg 事柄 人 噂する いつも (断定) (婉曲)  
「あなたのことはいつも人々が噂しています」(009.16)
- (9) màncò ʔə- yéiN nó dón wē dè chəxé lō  
叔父 3sg 家 困う (強意) (共) 竹垣 (断定)  
「叔父さんの家は竹垣で囲ってある」(I-sen.9)

- (10) kəbàn dè láinmí nɔ́ θí  
 船 (列挙) 汽車 (類似)  
 nân wê dè thî ʔəkhúʔəʔwì θí θí chū lɔ́  
 運転する (強意) (共) 水 蒸気 (類似) できる (婉曲) (断定)  
 「船や汽車も、水蒸気で運転することができる」(I-02.18)

● 斜格補語

- (11) lə- néin lə- phôn nɔ́ mə- dá báθà nə- cúlān  
 一 ～年 一 ～回 (非現) 見える (欲求) 2sg 筆跡  
 「1年に1回は、あなたの書いた字を見たい」(011.37)

次は側置助詞句に付いた例である。

- (12) lé mēinlā klà nɔ́ θéin pəjí yê mé thán  
 (場) ジャングル 間 木 チーク 来る 芽生える (上方)  
 ʔá wê ʔəkhúcòn | mēinlā θiləphá mwē wê  
 多い (強意) (理由) ジャングル (複) (繫) (強意)  
 lé [C ʔəlũʔəxwè dú wê] lɔ́  
 (補) 価値 大きい (強意) (断定)  
 「ジャングルの中にも、チークの木がたくさん生えるので、ジャングルは価値の高いものと言える」(II-07.14)

次は分離型動詞連続の「主語 + V1 動詞句」に付いた例である。

- (13) jə- phlân nɔ́ θí dài ʔé  
 1sg 与える できる まだ (否)  
 「お渡しすることはまだできません」(001.3754)
- (14) nân lɔ́ θí |  
 運転する (断定) できる  
 pjîn nɔ́ θí ʔé  
 直す できる (否)  
 「(自動車を) 運転することだけはできますが、修理はできません」(001.2185)

次は従属節に付いた例である。

- (15) pə- ʔè lì cáinyà ʔó lé  
 1pl (条件) 行く 逃げる 住む (場)  
 ʔəjàin ʔò nɔ́ | mə- yì wê lɔ́  
 遠く (遠方) (非現) 良い (強意) (断定)  
 「私達は遠くに逃げて生活したならば、それが良からう」(I-04.20)

次は分裂文の前提部に付いた例である。

- (16) θáũNθà máu tháu nɔ́ mwē wē ʔwàʔwà lə- yà lɔ́  
心 快適な (最上) (繫) (強意) (人名) ー ～人 (断定)  
「(チョーチョーテインが帰ってくると) 一番うれしいのはワーワーなのだ」(V-05.38)

- (17) ʔán wēdà ʔáʔálé nɔ́ mwē chədòchəlá nɔ́ lɔ́  
食べる (強意) たくさん (繫) 野菜 (のだ) (断定)  
「(お祖父さんが) たくさん食べるのは野菜である」(II-08.15)

- (18) chə- bá tōũN chəchəN klà nɔ́ mwē jə  
CHə (当為) 堪える 雨 間 (繫) 1SG  
「雨の中で堪え忍ばなければならないのは私である」(IV-09.20)

### 26.1.2 nɔ́ 以外の主題を表す一般助詞

上で述べた nɔ́ 以外にも、主題を表す助詞がいくつかある。これら相互の違いは今のところ分かっていない。しかし、主題を表す助詞が複数あることによって、次のような主題を複数持つ文において同じ形式の連続を避けることができるという利点があるということは確かである。

- (19) báchâinlé chɨ̀bòn ʔəpɨ θələphá nɔ́ ʔəkhâjò  
～に関して 民族 小さいもの (複) 現在  
lé chɨ̀bòn ʔədú θələphá nɔ́ʔò  
(強調) 民族 大きいもの (複)  
ʔánjũ lənbài khwái wē chɨ̀bòn ʔəpɨ θələphá nɔ́  
飲み込む 塞がる (徹底) (強意) 民族 小さいもの (複)  
ʔá wē jəũ chɨ  
多い (強意) (完) (婉曲)  
「小さい民族に関しては、現在、大きい民族が、小さい民族を飲み込んでしまうということが多い」(IV-01.7)

jò

名詞修飾助詞 jò 「この」に由来する。

- (20) chəmàʔánchái jò bá màʔán wē  
稲作 (当為) 生業とする (強意)  
lé yáŋkhú chədà phèn lé gú nàin  
(場) 土地 表面 中 (場) 川 傍  
「稲作は、川のそばの土地で行わなければならない」(III-02.3)

- (21) pə- chəphú chəkhlaín jò mwē wē  
 1pl 民族 言葉 (繋) (強意)  
 chəbòn chəxilà chəbòn ʔəmèinʔəθá lə- mèin chī lô  
 民族 文化 民族 印 ー ~種類 (婉曲) (断定)  
 「民族の言葉というのは、民族の文化あるいは民族の象徴の一つである」(IV-01.28)

ʔò

名詞修飾助詞 ʔò 「あの」に由来する。

- (22) ʔənó ʔò kèyòkhó má xō  
 それ 明日 ~になってはじめて XO  
 「それについては、明日になってから(やろうね)」(V-04.156)

tā

これは昔話の語りや、かしこまった場面でよく使われる。

- (23) yéin tā chəmə ʔá ʔé  
 家 仕事 多い (否)  
 「家では忙しくない(直訳:家は仕事が多くない)」

nótā

前述の nó と tā を合成した形式である。

- (24) hələmjā nótā ʔəwē mī wái  
 獵師 3SG 寝る (徹底)  
 thōN ʔàiθài phjā nó lə- nà θèyòN ...  
 (場) 修験者 寺 その ー ~夜 (継起)  
 「獵師は、その修験者の道場に1晩泊まってから...」(006.34)

nóʔò

名詞修飾助詞 nó および ʔò に由来する。

- (25) mōphā ʔó nóʔò jə- phəʔò thá cì nó lô  
 父母 ところ 1sg 預ける (保持) お金 (のだ) (断定)  
 「父母のところには、お金を預けてあるのです」(001.2)

### 26.1.3 θí

主題化された要素の表す対象物や事象が、何らかの点で他の対象物や事象と類似する特徴を持っていることを表す。「~も」「~もまた」。まずは典型的な例を見られたい。

- (26) nə- ʔè lì |  
 2sg (条件) 行く  
 jə θí mə- lì  
 1SG (非現) 行く  
 「あなたが行くなら私も行く」

この文では、「行く」という動作を行う点において「私」が「あなた」と類似の特徴を持つということが表されている。

しかし、θí の用例をつぶさに当たっていくと、必ずしも類似の特徴を持たないものに θí が使われることもあることに気付く。次のような事例である。

- (27) mǐjə ʔè ʔó nó |  
 猫 (条件) ある (題)  
 jū θí làn mā bjān chū lō  
 鼠 消える すっかり (婉曲) (断定)  
 「猫がいると、鼠はすっかりいなくなる」(I-sen.93)

この例で一見、「鼠」は「猫」と類似の特徴を持たない。「猫」についての「いる」という事象と「鼠」についての「いなくなる」という事象は相反する特徴を持っている。しかし、この二つの事象には因果関係があり、その点で密接な関係を持つと言える。おそらく、ポー・カレン語は、因果関係で結ばれた事象の間に、他の事象との間には見いだせない緊密性を見出し、その緊密性を類似のものと解釈するのではないだろうか<sup>1</sup>。

以下に θí を用いた様々な例を見ていく。まず補語に付いた例を挙げる。

#### ● 主語

- (28) jə θí báθà phú jəu chū  
 1SG 欲しい 子供 (完) (婉曲)  
 「私も子供が欲しくなった」(009.26)
- (29) chərāmú θéin pū θí kləcə bō wē chū lō  
 女教師 (人名) 努力する 手伝う (強意) (婉曲) (断定)  
 「テインプー先生も努力して手伝ってくれています」(015.12)
- (30) mənkhwā θí kəkhaïn khó yē cáinkwè thàin chū bō  
 甥 後で (未来) 来る 遊ぶ (再度) (婉曲) XO  
 「あなた達も、そのうちまた遊びにきてくださいね」(IV-04.329)

#### ● 目的語

- (31) ʔəkhəpəjə θí jə- θijā jəu  
 意味 1sg 知る (完)  
 「私は意味も分かった」(006.101)

<sup>1</sup> ビルマ語の助辞 -lé「～も」も、このような場合に使われることがある。

- (32) còntàpí θí nán thán thàin chū  
(人名) 覚えている (変化) (再度) (婉曲)  
「チョンターニーのことも、(私は) 思い出しています」(011.27)
- (33) phlòun láí θí khô màlú phí bá ?é  
カレン 文字 (対比) 教える (裨益) 正しい (否)  
「カレン文字も、(一部のカレン人は子供に) 教えることができない」(IV-06.29)

▷ 分離型動詞連続の V1 の目的語の主題化である。

- (34) jə- mō yéin θí θóuN ?əθāN yòN jàu  
1sg 母 家 建てる 新しいもの 終わる JAU  
「私の母の家も、新しいものを建て終わった」(009.40)

▷ 厳密には、jə- mō yéin ?əθāN(1sg-母-家-新しいの)「私の母の家の新しいの」という名詞句の一部分を主題化している。

### ● 斜格補語

- (35) [R nə- phí thá] miphəN θí  
2sg 与える (保持) 炊飯器  
hə- dòn mì kō nì dè lō  
1pl 炊く ご飯 (毎) ~日 (毎') (断定)  
「あなたがくれた炊飯器も、(それを使って) 私達は毎日ご飯を炊いています」(011.28)
- (36) pə- thikhāN pə- dòun təwāN pə- chī pə- chá ?əyāN θí  
1pl 国 1pl 町 村 1pl 民族 1pl 民族 ため  
pə- màbò mächəN mə- ké thán wē chī nó lō  
1pl 助ける 助ける (非現) 可能な (変化) (強意) (婉曲) (のだ) (断定)  
「私達の国や町や村や民族のためにも、手助けとなることができるのである」(I-07.15)

次は側置助詞句に付いた例である。

- (37) lé yéin phəN θí ?ó  
(場) 家 中 ある  
「家の中にもある」

次は分離型動詞連続の「主語 + V1 動詞句」に付いた例である。

- (38) ?əyòN pə- ?è ?óchón?ókhlaN nó |  
そして 1pl (条件) 健康な (題)  
pə- màlú láilē θí θí wē phlé chī lō  
1pl 学ぶ 文字 できる (強意) 速い (婉曲) (断定)  
「そして、健康であれば、勉強するにおいても、できるようになるのが速いのである」(I-07.14)

次は従属節に付いた例である。

- (39) nə- ʔè dákʰòn còntàpí θí |  
 2sg (条件) 会う (人名)  
 ㄘ lə́ phíㄘ ㄘ thàin phíㄘ ㄅㄛ  
 語る (裨益) 語る 裨益 XO  
 「チョンターニーに会ったなら、(よろしく) 言ってください」(017.24)
- (40) ʔənânkəchā nó tàin khî lə- θí bá lānân θí |  
 彼自身 (題) 作る 舟 (否) できる (否') (逆接)  
 ʔəwê kò nī chərá nàɴ yà ʔé  
 3se 呼ぶ (引寄) 教師 (少数) ~人 (否)  
 「彼自身は舟を作ることはできないのだが、先生を一人も呼ばなかった」(I-08.6)

次は分裂文の前提部に付いた例である。

- (41) phlòuɴ yê thàin θàin khān θí kō nì dè lō chū  
 人 来る 帰る タイ 国 (毎) ~日 (毎') (断定) (婉曲)  
 「人々がタイから帰ってくるのも毎日のことである」(009.53)

#### 26.1.4 khô

対比・対照を表す。「面、側(かわ)、側面」という意味の名詞 ʔəkhô に由来する。xô とも発音される。

まず補語に付いた例を挙げる。

##### ● 主語

- (42) chəʔàv khô θámé [ㄘ mə- lánthé θí] ʔəkhócòn ...  
 猿 恐れる (非現) 落ちる 死ぬ (理由)  
 「猿は落ちて死ぬことを恐れたので…」(III-12.30)
- (43) jə- chəphàichəmə khô yòn dài ʔé  
 1sg 終わる 終わる まだ (否)  
 「私の仕事はまだ終わっていない」(IV-04.421)

##### ● 目的語

- (44) phlòuɴ lái khô dō mà ʔé  
 カレン 文字 (別個) 行う (否)  
 「カレン文字はというと、書くことができない」(IV-06.21)

##### ● 斜格補語



- (45) cūjâ khó khô θədánphú jáphú θíləphá  
 将来 (未来) 小エビ 小魚 (複)  
 mə- ʔóçúʔóbà bá wê chī lô  
 (非現) 平和に暮らす 正しい (強意) (婉曲) (断定)  
 「これからは、小エビは小魚たちは平和に暮らすことができるだろう」(II-05.13)

次は側置助詞句に付いた例である。

- (46) lé θàucà ʔə- θà phən khô nó  
 (場) (人名) 3sg 心 中 (題)  
 báθà θijâ chəmú mèn jáithà jàu  
 欲する 知る 女 名 久しい (完)  
 「タウチャーの心の中はというと、女の名をずっと知りたかった」(IV-04.62)

次は分離型動詞連続の「主語 + V1 動詞句」に付いた例である。

- (47) pə- bá thàin làn thàin khô jàin chī  
 1pl (当為) 帰る (下方) (再度) 遠い (婉曲)  
 「私達は遠くに帰らなければならない」(IV-04.7)

次は従属節に付いた例である。

- (48) jə- dú ʔè yòn khô ʔò |  
 1sg 殴る (条件) 終わる (題)  
 nəθí dú bəin θā kō yà dè  
 2pl 殴る (追加) (新局) (毎) ~ 人 (毎')  
 「私が殴り終わったら、お前達がみな殴れ」(020.75)
- (49) làn thàin ʔə- phú θè khô |  
 下がる (追加) 3sg 子供 (複)  
 mə- khlàin lú phí phlouN mwē lòn ʔé lô  
 (非現) 話す (学習) (裨益) カレン (繫) もはや (否) (断定)  
 「子供の代になると、(その子供に親たちが) カレン語を話してやらない」(IV-06.10)

次は分裂文の前提部に付いた例である。

- (50) nə- lò khô nó “jū yì ʔé”  
 2sg 語る (題) 見る 良い (否)  
 「お前は口では(彼女が)美しくないと言う(直訳:お前の言うのは「見たところ美しくない」)」(IV-04.71)

- (51) phâθúyè ʔə- θóuNθà  
 (人名) 3sg 心  
 máu khô lə- mèn ɕán khô lə- mèn dō  
 快適な ー ～種類 貧しい ー ～種類 (別個)  
 「パートウーゲーの心は、嬉しいのが一面、悲しいのがまた一面だった」(V-04.169)

### 26.1.5 má

「～であって初めて」あるいは「～さえ」という意味を表す。ビルマ語 -hmâ 「～であって初めて」の借用である可能性が高いが、頻繁に使われる。

まず補語に付いた例を挙げる。

- (52) chərāmú má yê dài ʔé dū  
 女教師 来る まだ (否) DU  
 「先生でさえまだ来ていないのに。(もう来たの?)」(V-05.24)
- (53) ʔəkhājò má nū là lə- khô dài lô  
 今 得る 月 ー 半分 まだ (断定)  
 「(ここに来てから) 今でまだやっと半月です」(001.2439)

次は側置助詞句に付いた例である。

- (54) lé ʔəwêdà ʔə- θàlànʔò khâ nó má  
 (場) 3se 3sg 腹が減る 時 その  
 yê thàin ʔán θā wê lô  
 来る 帰る 食べる (新局) (強意) (断定)  
 「お腹がすいて初めて、食べに帰ることにした」(II-14.11)

次は従属節に付いた例である。

- (55) bá ʔəkhâ lò má | lò bálê  
 当たる 時 語る 語る なぜ  
 「話す時がきたら、話しなさい」(V-03.110)
- (56) pə- ʔè pàdú jàuján làn θà bənóθò má |  
 1pl (条件) 尊ぶ 敬う (帰的) (再帰) そのように  
 pəcháiphúchā jò chəpəjó chəbáθà mə- dàupàin lô  
 農民 (題) 目的 希望 (非現) 満ち足りた (断定)  
 「私達(=農民)がそのように自分たち自身を敬ってはじめて、農民の目的や希望はかなえられるのである」(IV-09.36)

má はしばしば θí と並べて使われ、この場合には常に「～さえ」という意味を表す。(57) は補語に付いた例、(58) は分離型動詞連続の「主語 + V1 動詞句」に付いた例である。

- (57) ʔəkhàjò θí má yê nāN dùr dàì ʔé  
 今 来る (少数) ～匹 まだ (否)  
 「今になってさえまだ1匹も来ていない」(009.24)

- (58) ʔópwaì θí má khlàu ləN ʔé  
 休む 暇な もはや (否)  
 「もう休む暇さえない」(009.64)

### 26.1.6 thōN

má と同様に、「～さえ」という意味を表す。thòN と同発音される。おそらく、動詞 thòN 「到着する」に由来する。一般助詞のうち、この助詞だけが修飾される要素の前に付く。以下に例を挙げる。(59) は補語(主語)に付いた例、それ以外は分離型動詞連続の「主語 + V1 動詞句」に付いた例である。

- (59) xiphàn chəchâ nó thōN chârâ dàutà θí  
 (人名) 病気 (題) 先生 医師 (類似)  
 bjàn wê nī ləN ʔé  
 治す (強意) 可能な もはや (否)  
 「ファイパウンの病気は、お医者の方でさえ、もう治すことができなかった」(IV-04.451)

- (60) thōN nāN cáin θí θí ləN ʔé  
 お姉さん 歩く (類似) できる もはや (否)  
 「私(=お姉さん)はもう歩くことさえできません」(IV-04.195)

- (61) θàucà nó thōN khlaín thán θí thánbà ləN ʔé  
 (人名) (題) 話す (外方) (類似) 出る もはや (否)  
 「タウチャーは、話そうとしても(言葉が)もはや出なかった」(IV-04.215)

### 26.1.7 B̄

B̄ あるいは w̄, w̄ と同発音される。B̄bò, B̄wò という形もある。対比・対照を表す。「～についてはどうか?」と尋ねる疑問文にのみ使われる。平叙文で使われることはない。この助詞の用法は、ビルマ語の助詞 /kó/ の用法に似ている。

- (62) ʔəjò B̄  
 これ  
 「これは(どうですか)?」

- (63) ləwài nɔ̌ 𑜋𑜰𑜫 mwē pɔ̌ ləwài phí lê bò  
 詩 (題) (繫) 誰 詩を作る (裨益) (疑) BO  
 「詩は、誰が作ってくれたんだね?」(V-04.102)

- (64) mənkhwà 𑜋𑜰𑜫 nə- mēin bēθi lê  
 甥 2sg 名前 どのような (疑)  
 「君は、名前は何ていうの?」(V-04.243)

### 26.1.8 nê

nê とも発音される。聞き手の注意を喚起するために使われる (?)。日本語に訳す場合、「これはね、僕が買ってきたんだよ」などというときの「ね」で訳することができる場合が多い。文助詞の nê を参照のこと。

- (65) lənəjò nê mənɔ̌ mə- ləθàin pòun nān pòun  
 今夜 おじさん (非現) 語る 昔話 (少数) ~ 編  
 「今夜はね、おじさんが君たちに昔話を一つ語ってあげよう」(006.4)

- (66) jə nɔ̌ nê jə- lì báθà ʔé  
 1SG (題) 1sg 行く (欲求) (否)  
 「私はね、行きたくないんです」

## 26.2 主題化された要素以外にも付くもの

以下に見る二つの助詞は主題化されていない要素にも付く。もちろん主題化された要素にも付く。

### 26.2.1 dɔ̌

今まで話題にのぼっていた物や事象とは別個の物や事象であることを表す。  
 まず補語に付いた例を挙げる。

#### ● 主語

- (67) cəθéinlá khô dɔ̌ mà wê lə- bá lən nān mēin ...  
 (人名) (対比) する (強意) (否) 正しい もはや (少数) ~ 種類  
 「チョーテインラーはというと、何もすることができず...」(V-01.91)

- (68) múmú dɔ̌ dá bá lái nɔ̌ |  
 (人名) 見える (不抗) 手紙 (前提)  
 θəwɪnθà lə- máu |  
 心 (否) 快適な

θóuNθà bá cǎN phō

心 (当為) 貧しい (臨場)

「ムームーはというと、手紙を見て、楽しくなくなり、いやな気分になった」(V-04.23)

(69) kòtə̀ràì khə̀ə̀n nō dō

(地名) 郡 (題)

ʔə̀lɛ ʔó wē θə̀Nthōnnjə̀lə- mǎin nō lō

広さ ある (強意) 三千二百一 マイル (のだ) (断定)

「コーカレイ郡はというと、広さが 3201 平方マイルある」(III-17.8)

#### ● 目的語

(70) bá thán θə̀phjāN lə- mēin dō

(当為) 上る 講習 — ～種類

「もう 1 種類の講習に通わなければならない」(009.50)

#### ● 斜格補語

(71) lə- mēin dō nōʔò yē mēin lā

— ～種類 (題) 来る (自然) (願望)

lé nə̀kəchā θí mwē ʔə- yì tháu lō

(強調) あなた自身 (類似) (繫) (名詞化) 良い (最上) (断定)

「もう一つ (の方法として) は、あなた自身が来るのでも良い」(013.11)

次は側置助詞句に付いた例である。

(72) jə- mə- thàin ʔóxáu dè phlòunmú dō

1sg (非現) 帰る 結婚する (共) 女性

「私は帰って別の女性と結婚する」(V-04.9)

次は分離型動詞連続の「主語 + V1 動詞句」に付いた例である。

(73) khə̀N khō dō jái chī nō |

堅い (対比) 久しい (婉曲) (前提)

jə- xwè nī chī lō

1sg 買う (引寄) (婉曲) (断定)

「長持ちするので (直訳: 堅牢さという点では長続きするので) 私は買い取ったのだ」  
(V-02.64)

次は従属節に付いた例である。

- (74) pə- ʔè báθà nó dō |  
 1pl (条件) 欲する (題)  
 pə- bá kl̥c̥ ʔánxú máló màdòn nī wēdā lō  
 1pl (当為) 努力する 探す 学ぶ 真似る (努力) (強意) (断定)  
 「もし(教養が)欲しいのであれば、努力して研究し、学んで獲得しなければなら  
 ない」(I-05.4)

次は動詞句に付いた例である。

- (75) θwíwò ʔáncà thán thàin dō  
 (人名) 尋ねる (外方) (返答)  
 「トゥイーウォーは今度は尋ね返した」(IV-04.97)
- (76) ləkhâin khô θí pəcā yê  
 後 (対比) (類似) 人 来る  
 lō ló phí ʔò dō chī lō  
 語る (学習) (裨益) 3SG (婉曲) (断定)  
 「その後も、人々がやって来て彼にまた(別の方法で)教えるのであった」(I-08.15)
- (77) θànkhá ɓó ʔə- təwân ʔə- mēin θijâ ʔé dō  
 僧侶 (題) 3sg 村 3sg 名 知る (否)  
 「その僧侶については、今度は(私は)彼の村の名前も知らない」(024.2)
- (78) ʔəwē dá chò nān mēin ʔé dō  
 3se 見える CHə (少数) ~種類 (否)  
 「今度は彼には何も見えなかった」(024.25)
- (79) ləɣájò θí bá náu làn ʔwíkòɣaphjâ dō  
 今夕 (類似) (当為) 入る (内方) (店の名)  
 「今日の夕方、ウィーコーガーに入らねばならなかった」(V-03.7)
- (80) hə- lō kwè bá θí  
 1pl 語る (遊び) (無意) (類似)  
 bóɰN lən ʔé dō ʔé lə- ɣà jò  
 勇気がある もはや (否) (人名) ー ~人 この  
 「これからうっかり冗談も言えないよ、エーさんよ」(V-03.130)

## 26.2.2 khó

発話時点より後の時点、あるいは発話時点より後に生起する事象を表す。xó とも発音される。

まず、補語に付いた例を見る。この助詞は主語や目的語には付かない。

- (81) kèyò **khó** mà bējòthò  
 明日 行う このように  
 「明日、このようにしなさい」(IV-04.9)
- (82) kèkhâin **khó** má lǝ thàin thà  
 今後 ～はじめて 語る (返答) (新局)  
 「また今度話すことにするよ」(V-03.119)

次は従属節に付いた例である。

- (83) nǝ- ʔè blá thàin **khó** |  
 2sg (条件) 治る (追加)  
 nǝ- mǝ- bá phúlân chəkəlò  
 2sg (非現) (当為) 与える 謝礼  
 lé thóthânwǝ ʔó nó lǝ  
 (場) 梟 ところ (のだ) (断定)  
 「あなたは治ったら、フクロウに謝礼を渡さなければなりません」(I-03.17)
- (84) ʔè thà thî **khó** |  
 (条件) 汲み出す 水  
 jálũ jádôn ləphá cáin wèinwá mòthò nón phèn nó chàì  
 鰻 鰻の1種(?) (複) 出る 暴れる 騒ぐ 池 中 あの CHAI  
 「(村人が)水を汲み出したら、ウナギ達は池の中に出て騒いでください」(III-15.20)
- (85) wēcò ʔē thòn lé phjācònmòn **khó** |  
 兄 (条件) 着く (場) 大学  
 thànán bá phǝʔwà xì  
 忘れる (催促) (人名) (禁止)  
 「あなたが大学に入っても、パワーのことを忘れないでね」(V-01.12)

次は動詞句に付いた例である。

- (86) pǝ- ʔəcá mǝ- xòun plǝ klàn bá **khó**  
 1pl 人生 (非現) 墮落する 無駄に (傾向) (不抗)  
 「(そんなことをしていたら)私達の人生は、無駄に墮落することになるよ」(IV-03.35)
- (87) páichân nó mǝ- jǝ bá **khó**  
 お金 (題) (非現) 減る (不抗)  
 「お金がそのうち減ってってしまうよ」(023.25)

▷ jǝ はビルマ語 /yǝ-/ 「減る」の借用。

## 26.3 一般助詞を用いた慣用表現

一般助詞のうち、*nó* と *khô* と *θí* には、

V GP V (V=verb, GP=general particle)

という一種の慣用表現がある。前後二つの V は同じ動詞である。

*nó* の場合、この慣用表現は留保を表す。すなわち、動詞の表す内容について、話し手が全面的には認めたくないときにこの表現を用いる。例えば、次のとおり。

- (88) *jə- báθà ?é. yì nó yì*  
 1sg 気に入る (否) 良い 良い  
 「私は気に入らない。(しかし) 良いことは良い」

*khô* の場合、この慣用表現は、他の事柄についてはともかくとして、動詞の表す内容は認めることができるということを表す。例えば、次のとおり。

- (89) *jō xîlà ?é. ?wí khô ?wí*  
 見る 美しい (否) 美味な 美味な  
 「(この料理は) 見かけは美しくない。(しかし) 美味しい」

*θí* の場合、他の事柄も認めることができるし、動詞の表す内容も認めることができるということを表す。例えば、次のとおり。

- (90) *xîlà θí xîlà. ?wí θí ?wí*  
 美しい 美しい 美味な 美味な  
 「(この料理は) 美しいし、美味しくもある」



## 第VIII部

### その他の重要な文法現象



## 第27章 疑問語

ポー・カレン語には疑問を表す文助詞(第25章参照)が二つある。一つは *ɸâ*、もう一つは *lê* である。通常の疑問文には次のように *ɸâ* が使われる。

- (1) *ʔəjò yì ɸâ*  
これ 良い (疑)  
「これは良いですか?」

しかし、文中に特定の単語が存在すると、その文の末尾には *lê* が現れる。次の文には、そのような単語の一つである *chənó* があるため、文末に *ɸâ* ではなく *lê* が用いられている。

- (2) *chənó yì lê*  
何 良い (疑)  
「何が良いですか?」

このように *lê* の出現を惹起する単語を疑問語(interrogative word)と呼ぶ。

疑問語が属する品詞は一つではない。これまで、名詞と副詞に属する疑問語が見つまっている。

### 27.1 名詞に属するもの

#### 27.1.1 *chənó*

「何」。くだけた会話では *nó* となることもある。また、同様にくだけた会話で *lê* の直前に現れた場合、*lê* と融合して *chəlê* となることがある。

- (3) *ʔənó mə- chənó lê*  
あれ (繋) 何 (疑)  
「あれは何ですか?」(001.2622)
- (4) *nə- yê mà chənó lé kəθənî jò lê*  
2sg 来る する 何 (場) 停車場 この (疑)  
「あなたはこの停車場に何をしに来たのですか?」(001.997)
- (5) *nə- mə- lì xwè ʔán chənó lê bò*  
2sg (非現) 行く 買う 食べる 何 (疑) BO  
「あなたは何かを買って食べに行くんですか?」(001.3578)

- (6) lənɲò m̄ chənó lê  
 今日 日 何 (疑)  
 「今日は何曜日ですか?」(002.219)

- (7) nə- mə- lə nó lê  
 2sg (非現) 語る 何 (疑)  
 「あなたは何を言うつもりなのですか?」(IV-04.285)

- (8) chənó kàicà ʔó lê  
 何 用事 ある (疑)  
 「何の用事があるんですか?」

### 27.1.2 p̄

「誰」p̄ とともに発音される。

- (9) p̄ ləphá jò mwē p̄ ʔəjáú dɔ́ tháú lé  
 1PL (複) (題) (繋) 誰 年齢 大きい (最上) (疑)  
 「私達のうちで誰が一番年上なのか?」(III-10.9)
- (10) mwē p̄ mə- yê ʔáŋkhônthəbà chən hə lê  
 (繋) 誰 (非現) 来る 助ける (皆) 1PL (疑)  
 「誰が我々を助けに来てくれるだろうか(いや来てくれない)」(IV-01.93)
- (11) mwē p̄ phló phí nə- mēin lê bə  
 (繋) 誰 名付ける (裨益) 2sg 名前 (疑) BO  
 「誰があなたの名前を付けてくれたんですか?」(V-04.100)

資料の中に、p̄ と文助詞の lê とが融合した例が出てきている。

- (12) mwē p̄lê yāin mə- chón lê  
 (繋) 誰 力 (非現) 強い (疑)  
 「誰が力が強いだろうか?」(III-03.21)

これは、

- (13) mwē p̄ lê  
 (繋) 誰 (疑)  
 「誰ですか?」

のような文が多く使われていくうちに、隣接する p̄ と lê が 1 単語と見なされてしまったため、現れた形である可能性が高い。このような形式の出現頻度など詳しいことについては、今後の調査に待ちたい。

## 27.1.3 pòwê

「誰のもの」の意。

- (14) mə- pòwê lê  
 (繋) 誰のもの (疑)  
 「誰のものですか?」(004.253)

- (15) mái pòwê lê  
 恋人 誰のもの (疑)  
 「誰の恋人ですか?」(004.255)

## 27.1.4 phlòuN

pô と同じく、「誰」を表す。pô と phlòuN の違いは明らかではない。

- (16) mwē nə- ləthain chə də phlòuN lê  
 (繋) 2sg 喋る CHə (共) 誰 (疑)  
 「お前は誰と話しているの?」(V-04.119)

## 27.1.5 khòkhô

「どの～」の意。この疑問語は抽象数詞に属する(第10章を参照のこと)。したがって、後に助数名詞に従える。

- (17) nə- báθà chā khòkhô mēin lê  
 2sg 欲する 大変 どの ～種類 (疑)  
 「あなたはどれが一番欲しいですか?」(001.1770)

## 27.1.6 xwē

xwē と同発音される。「いくつの～」の意。この疑問語も抽象数詞に属する。したがって、後に助数名詞に従える。

- (18) ?ó xwē yà lê  
 いる いくつの ～人 (疑)  
 「(人間は)何人いますか?」(001.3575)

## 27.2 副詞に属するもの

## 27.2.1 bēθíθò

「いかに」「どのように」。θò を取り除いて bēθí あるいは pəθí とも言う。話者によっては píθò と言う。

- (19) lānlānʔəthícón yê thán ké nó  
虹 来る 上る 成る (題)  
mwē ʔəkhánthài bēθíθò lê  
(繫) 基礎 どのように (疑)  
「虹ができるのは、原理はどのようなものですか?」(001.1857)
- (20) ʔəkhêinʔəkhâ bēθíθò lê nó θijâ thán wêdá chī lō  
時期 どのように (疑) (題) 知る (変化) (強意) (婉曲) (断定)  
「(作付けをする時期が)いつごろか、分かってきたのである」(II-04.11)
- (21) hə- mə- khlàindóuN bá bēθí lê  
1pl (非現) 話す (不抗) どのように (疑)  
「僕たちはどうやって話せばいいの?」(IV-04.89)
- (22) jō bēθí lê  
容易な どのように (疑)  
「どう簡単だというの?」(IV-04.154)
- (23) phūkhwâ θè mēin bēθí lê  
兄弟 (複) 名前 どのように (疑)  
「君たち兄弟は、名前は何?」(IV-04.111)
- (24) nə- mēin pəθí lê  
2sg 名前 どのように (疑)  
「君は、名前は何?」(IV-04.237)

### 27.2.2 ㄎㄚ

「いくら」「どれくらい」。西部ポー・カレン語の shéiʔà に対応することから、語源的には chàì + ʔá「多い」に由来すると思われる。\*chàì は現在の東部ポー・カレン語では失われてしまっているが、おそらく、「どのくらい」を表す接頭辞であった。なお、\*chàì はスゴー・カレン語の síʔ に対応する。

- (25) páichân láu ㄎㄚ jàu lê  
お金 尽きる どれくらい (完) (疑)  
「お金はいくらかかったか?」(001.3115)

### 27.2.3 phōphôbàu

ㄎㄚ と同様、「いくら」「どれくらい」を表す。ㄎㄚ よりも格式張っている。phôbàu とも言う。

- (26) jə- lō pjà ʔəθí [C hāmənīphlòuN khānməpā lə- yà θí  
1sg 話す (提示) 3PL 人 外国 一 ~人 (類似)

kè láí phlòuN θí phōphōbàu ] lê  
 書く 文字 カレン できる どれくらい (疑)  
 「私は、外国人でさえどのくらいカレン語が書けるかを話して聞かせています」(016.9)

- (27) [C lé hə- yàN pî khā hə- phā θè  
 (場) 1pl 姿 小さい 時 1pl 父 (複)  
 ?é hà phəbàu ] lê θijā θā  
 愛する 1PL どれくらい (疑) 知る (新局)  
 「自分達が小さいときに親たちがどれほど自分達を愛していたかを(親になってはじめて) 知った」(V-03.93)

#### 27.2.4 ɕɛɕé

時を尋ねる。「いつ」。西部ポー・カレン語の shéi?jéi? に対応することから、語源的には chài(どのくらい) + jái「久しい」に由来すると思われる。元の形を幾分か保った chəɕái という形も使われる。

- (28) bá dòcéθà ɕɛɕé lê  
 (当為) 受験する いつ (疑)  
 「試験はいつ受けなければならないのか?」(V-03.99)
- (29) nə- yê thàin lé cəpāN khāN chəɕái lê  
 2sg 来る 帰る (場) 日本 国 いつ (疑)  
 「あなたはいつ日本から帰ってきたんですか?」(V-04.133)

#### 27.2.5 khô

場所を尋ねる。「どこ」。

- (30) nə- mə- lì khô lê  
 2sg (非現) 行く どこ (疑)  
 「あなたはどこに行くの?」(IV-04.437)
- (31) nāN θè mə- thàin khô lê  
 お姉さん (複) (非現) 帰る どこ (疑)  
 「あなた方はどこに帰るんですか?」(IV-04.98)

khô と同様の意味を持つ語に cəinkhô がある。cəin の部分はおそらく、\*chài「どのくらい」に由来する。違いは明らかでない。(cəinkhô のほうが古くさいイメージか?)

- (32) phlòthānā ?ədídòuN nó ?ó wêdā cəinkhô lê  
 ゴキブリ 卵囊 (題) ある (強意) どこ (疑)  
 「ゴキブリの卵囊はどこにありますか?」(001.3131)

### 27.2.6 khòkhô

「どちら」「どれ」。抽象数詞の khòkhô(前述) も参照のこと。

- (33) mwē mə- khléin tháu khòkhô lê  
 (繫) (非現) 冷たい (最上) どれ (疑)  
 「どれが一番冷たいだろうか?」(003.758)

### 27.2.7 bánó

「なぜ」「どうして」。おそらく語源的に、báの部分は動詞の bá「当たる、ぶつかる」に由来し、nó の部分は chənó「何」と関係がある。単に bá とも言う。

- (34) nə- kəchí chòchōchòchō nó mwē bánó lê  
 2sg くしゃみする しょっちゅう (題) (繫) なぜ (疑)  
 「あなたがしょっちゅうくしゃみしているのはなぜですか?」(002.916)

日常会話では、bánó(nó) lê を文頭に置いた「倒置文」が頻繁に現れる。

- (35) bánó lê khlàindəwɪn lə- bəwɪn  
 なぜ (疑) 話しかける (否) 勇気のある  
 「なぜか、話しかける勇気がないのは?」(IV-04.79)

- (36) bá lê nə- khaN bá khā nó  
 なぜ (疑) 2sg 脚 (当為) 折れる (題)  
 「なぜだ、あなたの脚が折れたのは?」(001.679)

bánó (bá) は、しばしば相手が行動を起こすことを促すための表現に用いられる。理由を尋ねる表現がこのような語用論的意味を持つという点で、英語の why don't you ... に似る。

- (37) jō ʔə bá lê  
 見る 3SG なぜ (疑)  
 「彼を見てみなさいよ」(V-03.116)

- (38) lì jō bá lê  
 行く (試行) なぜ (疑)  
 「行ってみたら?」(004.218)



## 第28章 使役構文

本章では、ポー・カレン語の二つのタイプの使役構文(定義は以下を参照)を概観する。以降、使役構文において使役者(causer)を導入する役割を持つ要素を使役要素(causative element)と呼び、被使役事象を表す動詞を被使役動詞と呼ぶ。本章では特に、使役要素と被使役動詞の共起関係、および被使役者(causee)の意味にスポットを当てる。最終的には、被使役動詞の意志性および被使役者の有生性が、ポー・カレン語の使役構文において重要な役割を果たしていることを示す。

### 28.1 使役構文の二つのタイプ

ポー・カレン語の使役を表す構文には二つある。一つは、使役要素と被使役動詞が並置されて、これ全体が動詞複合体となり、その後に動詞複合体の目的語として被使役者を表す名詞句が置かれるタイプである。これをTYPE 1と呼ぶ。

TYPE 1: [動詞複合体 使役要素 被使役動詞] 被使役者

もう一つのタイプは、使役を表す要素が補文を取り、被使役者を表す名詞句が補文の主語として現れるタイプである。これをTYPE 2と呼ぶ。

TYPE 2: 使役要素 [補文 被使役者 被使役動詞]

次の(1)がTYPE 1の例、(2)がTYPE 2の例である。

- (1) jə- [ dà lì ] ?əwê  
1sg (使役) 行く 3se  
「私は彼に行かせた」
- (2) jə- ?ənməN [C ?əwê lì]  
1sg 命ずる 3se 行く  
「私は彼に行くことを命じた」

それぞれの厳密な定義は、以下のそれぞれのタイプの説明において行う。

### 28.2 TYPE 1

使役要素と被使役動詞が並置されるタイプである。使役要素と被使役動詞の間にはいかなる要素の介在をも許さない。

このタイプの「使役構文」は、動詞複合体の目的語が、動詞複合体を構成するいずれかの動詞の論理的主語と同一指示であるという特徴によって定義することができる。例えば、(1) で、動詞複合体の目的語である ʔəwê 「彼」は、動詞複合体の構成要素である lì 「行く」の論理的主語と同一指示である。この点で、(1) の文は、次に挙げるような文と根本的に異なる。

- (3) jə- bá jŭkhwā ʔəwê  
1sg (当為) 世話する 3se  
「私は彼の世話をしなければならない」

この文では、動詞複合体の目的語 ʔəwê は、動詞 jŭkhwā の論理的主語と同一指示ではない。したがって、この文は使役構文ではない。

TYPE 1 は、2 種類のタイプに分けることができる。一つは、使役を表す要素が動詞助詞である場合であり、もう一つは、使役を表す要素が一般の動詞である場合である。以下、それぞれについて見ていく。

### 28.2.1 使役助詞を用いる場合

使役を表す動詞助詞 (動詞助詞については第 18 章参照) を、以降、使役助詞と呼ぶ。代表的な使役助詞には dà がある (dàv, dài あるいは də- とも発音される)。dà は正真正銘の助詞であると考えられる。その理由は以下に挙げるとおりである。

- 単独で使われることがない。
- 対応する動詞がない。(ただし、同形の動詞に「戦う、攻撃する」という意味の dàv があることはあるが、同源かどうかは不明である)
- 発音が極めて弱くなり、də- となることさえある。つまり、音韻面において動詞への従属度が高まっている。

使役助詞を用いた場合、被使役者が現れる位置について、以下に記述するような現象が観察される。被使役動詞が自動詞の場合、被使役者を表す名詞句は、動詞複合体の目的語として現れる。

- (4) jə- dà klí ʔəwê  
1sg (使役) 走る 3se  
「私は彼を走らせた」

次に、被使役動詞が目的語を一つ取り得る動詞である場合には、被使役者を表す名詞句は動詞複合体の第一目的語として現れる。

- (5) jə- dà ʔán ʔəwê mì  
1sg (使役) 食べる 3se ご飯  
「私は彼にご飯を食べさせた」

この場合、第二目的語は、道具・手段などを表す側置助詞 dè を用いて導入することもできる。

- (6) jə- dà ʔán ʔəwê dè mì  
 1sg (使役) 食べる 3se (共) ご飯  
 「私は彼にご飯を食べさせた」

最後に、被使役動詞が目的語を二つ取り得る動詞である場合には、元の第一目的語と第二目的語はそのままの位置にとどまり、被使役者を表す名詞句は側置助詞 dè を用いて導入される。

- (7) jə- dà phílân ʔəwê láíʔàu dè jə- phā  
 1sg (使役) 与える 3se 本 (共) 1sg 父  
 「私は父に頼んで彼に本を渡してもらった」

ここで仮に、一つの目的語を取る動詞(動詞複合体)の目的語、および、二つの目的語を取る動詞(動詞複合体)の無生物目的語を「直接目的語」と呼び、かつ、二つの目的語を取る動詞複合体の有生物目的語を「間接目的語」と呼ぶならば、上で述べた現象は、被使役行為を表す動詞の結合価が増えるに従って、被使役者を表す名詞句が「直接目的語 → 間接目的語 → 斜格名詞句」のように「格下げ」される現象であるというように捉えることができる。もしそうであるとするなら、これは Comrie (1976) が提示した世界の諸言語の一般的傾向と合致する<sup>1</sup>。実際、筆者は以前、Kato (1999) においてそのような主張をした。しかし、そもそも、ポー・カレン語の二重目的語文における有生物目的語を「間接目的語」と呼んでよいのかという疑問が生じる。ポー・カレン語では、二重目的語文における無生物目的語を側置助詞 dè によって斜格補語に換えることができるのであって、その意味では、有生物目的語のほうがむしろ「直接目的語」と呼ばれるのにふさわしい。したがって、ポー・カレン語のパターンが Comrie (1976) の主張した通言語的な傾向に従っていると簡単に断言することはできない。

さて、被使役動詞として様々な結合価の動詞が現れるということは、使役要素がそれだけ生産的に用いられるということの証しである。残念ながら、被使役動詞として二つの目的語を取り得る動詞が現れることができるのは、dà のときだけである。しかし、使役要素の中には、被使役動詞として少なくとも自動詞と他動詞の出現を許すものがある。それは、mà 「する」<sub>ト</sub>、phílân 「与える」<sub>ト</sub>、kò 「呼ぶ」<sub>ト</sub>、lò 「語る」の四つである。下にこれらを用いた文の例を挙げる。

- (8) a. jə- mà θi ʔəwê  
 1sg する 死ぬ 3se  
 「私は彼を殺した」  
 b. jə- mà pjò ʔəwê mì  
 1sg する 吐く 3se ご飯  
 「私は彼にご飯を吐かせた」
- (9) a. jə- phílân mì ʔəwê  
 1sg 与える 寝る 3se  
 「私は彼を寝させてやった」

<sup>1</sup>Comrie (1976) の説に關してのその後の議論の展開については、Comrie (1981)、Song (1996)、Van Valin and LaPolla (1997) などを参照されたい。

- b. jə- phílân pō ʔəwê láíʔàv  
 1sg 与える 読む 3se 本  
 「私は彼に本を読ませてやった」

- (10) a. jə- kò mí ʔəwê  
 1sg 呼ぶ 寝る 3se  
 「私は彼に泊まりに来るよう言った」

- b. jə- kò ʔán ʔəwê mì  
 1sg 呼ぶ 食べる 3se ご飯  
 「私は彼を呼んでご飯をごちそうした」

- (11) a. jə- lò nī ʔəwê  
 1sg 語る 笑う 3se  
 「私は彼を笑わせた」

- b. jə- lò ʔân ʔəwê pòvN  
 1sg 語る 聞こえる 3se 昔話  
 「私は彼に昔話を語って聞かせた」

このような、自動詞も他動詞も現れ得るという現象は、使役要素として一般の動詞を用いた使役表現(後述)では観察できない。

- (12) a. jə- dú θi thwí  
 1sg 殴る 死ぬ 犬  
 「私は犬を殴り殺した」

- b. \*jə- dú pjò thwí mì  
 1sg 殴る 吐く 犬 ご飯  
 (私は犬を殴ってご飯を吐かせた)

本論文では、このように自動詞も他動詞も現れることが可能になっているのは、mà, phílân, kò, lò が、dà と同じ使役助詞に近づいているからであると考え、文法化の一例と見なすことにする。そこで、本論文では、dà に mà, phílân, kò, lò を加えた五つを使役助詞と呼ぶ。以下にこれら五つの使役助詞について考察していく。

### 28.2.1.1 dà

dàv あるいは dàì と発音される。また、速い発音では弱化して də- となることもある。ポー・カレン語西部方言 (/dəwʔ/) やスゴー・カレン語 (/dúʔ/) との対応から考えると、dàv が元来の発音だと考えられるが、現在では dà と発音されることのほうが多い。

dà は、被使役動詞が意志動詞である場合も無意志動詞である場合も使うことができる。下に示すのは意志動詞の例である。

- (13) jə- dà phû ʔəwê  
 1sg (使役) 跳ぶ 3se  
 「私は彼にジャンプさせた」
- (14) jə- dà klí ʔəwê  
 1sg (使役) 走る 3se  
 「私は彼を走らせた」
- (15) jə- dà ʔán jə- thwí chá  
 1sg (使役) 食べる 1sg 犬 餌  
 「私は犬に餌を食べさせた」
- (16) jə- dà ʔánɣú ʔəwê chà  
 1sg (使役) 盗む 3se CHə  
 「私は彼に盗みをやらせた」

一方で、次のように無意志動詞の場合にも用いることができる。

- (17) jə- dà θi ʔəwê  
 1sg (使役) 死ぬ 3se  
 「私は彼に死なせた」

Kato (1999) では、dà は無意志動詞と共起しないので、無意志動詞の場合には使役助詞として mà 「する」を用いるなどしなければならないとした。確かに話者によってはそのような判断を示す場合がある。しかし一方で、「使える」との判断を示す話者もいる。その場合、dà は、「間接的な」使役を表すようである。mà と対比することによって、dà を使った場合の意味の特徴を見てみよう。まず次の例では、mà を使った (b) は、直接手をかけて殺す場合であるが、dà を使った (a) の場合、食事を与えないなどして殺す状況を表す。

- (18) a. jə- dà θi ʔəwê  
 1sg (使役) 死ぬ 3se  
 「私は彼に死なせた」
- b. jə- mà θi ʔəwê  
 1sg (使役) 死ぬ 3se  
 「私は彼を殺した」

次の例では、mà を使った (b) は、直接押すなどして転ばせる状況を表すが、dà を使った (a) は、例えばゆかをすべりやすくしておいて転ばせるような状況を表す。

- (19) a. jə- dà lánthîphā ʔəwê  
 1sg (使役) 転ぶ 3se  
 「私は彼を転ばせた」
- b. jə- mà lánthîphā ʔəwê  
 1sg (使役) 転ぶ 3se  
 「私は彼を転ばせた」

次の例では、mà を使った (b) は、机の上に置いてあった本を払い落とすような状況を表すが、dà を使った (a) は、本を落ちやすいところに置いておいて、自然に落ちるのを待つような状況を表す。

(20) a. jə- dà lánthé láipàu  
1sg (使役) 落ちる 本  
「私は本を落とした」

b. jə- mà lánthé láipàu  
1sg (使役) 落ちる 本  
「私は本を落とした」

次の例では、mà を使った (b) は、家をダイナマイトを使ったりして直接壊す状況を表すが、dà を使った (a) は、風雨にさらして自然に壊れるのを待つような状況を表す。

(21) a. jə- dà yàyon yéin  
1sg (使役) 壊れる 家  
「私は家を壊した」

b. jə- mà yàyon yéin  
1sg (使役) 壊れる 家  
「私は家を壊した」

このように、使役要素として mà を用いた場合には、被使役者に直接働きかける状況を表すが、dà を用いた場合には、間接的に働きかける状況を表すのである。しかし、Kato (1999) にも記したとおり、無意志動詞のときには dà を用いることができないと考える話者がいることも事実である。このような判断の差が何に起因するものであるかは今のところ分からない。

なお、今まで示してきた例から分かるとおり、dà を用いた場合の被使役者は、有生物でも無生物でも構わない。被使役動詞が無意志動詞のときの容認度が下がる話者の場合、事実上、被使役者は有生物に限られるが、これは、被使役動詞が意志動詞であることに起因するものであり、dà そのものの性質ではない。

### 28.2.1.2 mà

mà は、動詞としては「する、行う」という意味を持つ。動詞としての mà は、次のように一つの目的語を取る。

(22) jə- mà kəloun  
1sg する 仕事  
「私は仕事をした」

使役助詞としての mà が共起する動詞は、次に示す例に見られるように、無意志動詞である。先ほど見たように、dà と異なって、直接的な使役を表す。

- (23) jə- mà θi ʔəwê (=18b)  
 1sg (使役) 死ぬ 3se  
 「私は彼を殺した」
- (24) jə- mà thé phli  
 1sg (使役) 切れる 糸  
 「私は糸を切った」
- (25) jə- mà yân thán θân  
 1sg (使役) 塩辛い (変化) おかず  
 「私はおかずを塩辛くした」
- (26) jə- mà có châin  
 1sg (使役) 濡れている シャツ  
 「私はシャツを湿らせた」
- (27) jə- mà yàʔòn yéin (=21b)  
 1sg (使役) 壊れる 家  
 「私は家を壊した」
- (28) jə- mà nī ʔəwê  
 1sg (使役) 笑う 3se  
 「私は彼を笑わせた」
- (29) jə- mà pjò ʔəwê mì (=8b)  
 1sg (使役) 吐く 3se ご飯  
 「私は彼に (指を突っ込むなどして) ご飯を吐かせた」

mà は次に示すように意志動詞とは共起しない。

- (30) \*jə- mà chinàn ʔəwê  
 1sg (使役) 座る 3se  
 (私は彼を座らせた)
- (31) \*jə- mà lì ʔəwê  
 1sg (使役) 行く 3se  
 (私は彼を行かせた)
- (32) \*jə- mà ʔán ʔəwê mì  
 1sg (使役) 食べる 3se ご飯  
 (私は彼にご飯を食べさせた)
- (33) \*jə- mà dú ʔəwê phóθá  
 1sg (使役) 殴る 3se 子供  
 (私は彼に子供を殴らせた)

以上のように、mà は無意志動詞と相性が良く、意志動詞とは共起しにくいという特徴を持つ。

なお、以上の例からも分かるとおり、mà を用いた場合の被使役者は、有生物でも無生物でも構わない。

### 28.2.1.3 phılân

phılân は、動詞としては「やる、与える」という意味を持つ。動詞の phılân は phılân あるいは phí と発音されることがあるが、使役助詞の phılân も phılân あるいは phí と発音されることがある。動詞としての phılân は、次のように二つの目的語を取り得る。

- (34) jə- phılân ʔəwê khòthá  
1sg 与える 3se マンゴー  
「私は彼にマンゴーをやった」

使役助詞としての phılân は、被使役動詞が意志動詞であるか無意志動詞であるかに関わりなく使うことができる。次の (35)(36) は意志動詞の例である。

- (35) jə- phılân klí ʔəwê  
1sg (使役) 走る 3se  
「私は彼に走らせてやった」
- (36) jə- phılân ʔánphôn ʔəwê mì  
1sg (使役) 炊く 3se ご飯  
「私は彼にご飯を炊かせてやった」

また、次の (37)(38) は無意志動詞の例である。

- (37) jə- phılân mên thán ʔəwê  
1sg (使役) 生きている (変化) 3se  
「私は彼を生き返らせてやった」
- (38) jə- phılân xî thán ʔəwê  
1sg (使役) 美しい (変化) 3se  
「私は彼女を美しくしてやった」

phılân が今まで見てきた dà や mà と異なるのは、使役行為が「誰かのため」であるという裨益の意味が加わることである。被使役者が有生物である限り、受益者は被使役者と同一である。ところが、下の例のように、被使役者として無生物が現れることが時にある。その場合には、受益者は被使役者とは同一でない。

- (39) jə- phılân khū thán thî ʔəwê ʔəyàn  
1sg (使役) 暑い (変化) 水 3se ため  
「私は彼のために水を沸かしてやった」



- (40) jə- phúlân phàn thán dàuphòn  
 1sg (使役) 明るい (変化) 部屋の中  
 「私は(彼女のために) 部屋の中を明るくしてやった」

(39) では、被使役者は thî 「水」であるが、受益者は ?əwê 「彼」である。(40) では、被使役者は dàuphòn 「部屋の中」であるが、受益者は、文中には現れていない何者かである。このように、被使役者が無生物の場合には、受益者は被使役者とは異なる有生物である。

ただし、話者によっては、被使役者 = 受益者でなければならないという意識を持っており、(39) や (40) が良くないと判断する場合がある。このような話者の場合は、被使役者は次の (41)(42) に挙げるような、有生物でなければならない。受益者は、(41) のような人間である場合以外に、(42) のような動物である場合もある。

- (41) jə- phúlân jā jə- phó thî  
 1sg (使役) 泳ぐ 1sg 子供 水  
 「私は子供に泳がせてやった」

- (42) jə- phúlân jā jə- thwí thî  
 1sg (使役) 泳ぐ 1sg 犬 水  
 「私は自分の犬に泳がせてやった」

このような判断の差が、何に起因するものであるかは、現段階では分からない。

#### 28.2.1.4 kò

kò は、動詞としては「誘う」または「呼ぶ(声をかけるの意)」という意味である。次のように一つの目的語を取る。

- (43) jə- kò ?əwê  
 1sg 呼ぶ 3se  
 「私は彼を誘った/呼んだ」

使役助詞としての kò を使った場合、被使役動詞は意志動詞でも無意志動詞でもよい。kò は、「誰かを呼び寄せて何かをさせる」あるいは「誰かに呼び掛けて何かをさせる」という状況を表す。次の (44)(45) は意志動詞と共起した例である。

- (44) jə- θò kò mî jə  
 1sg 友人 (使役) 寝る 1SG  
 「友人が私に泊まりにくるよう言った」

- (45) jə- kò ?án ?əwê mî  
 1sg (使役) 食べる 3se ご飯  
 「私は彼を食事に招待した」

また、次の (46) は無意志動詞と共起した例である。

- (46) jə- kò nɔ́ thán ʔəwê  
 1sg (使役) 目覚める (完成) 3se  
 「私は彼に声をかけて目覚めさせた」

使役助詞 kò の使用において重要なのは、被使役者が人間でなければならないということである。したがって、次の (47) は適格な文であるが、「犬」が被使役者となっている (48) は非文である。

- (47) jə- kò yê thán jə- phó  
 1sg (使役) 来る (上方) 1sg 子供  
 「私は子供を呼んで (家に) 上がらせた」

- (48) \*jə- kò yê thán jə- thwí  
 1sg (使役) 来る (上方) 1sg 犬  
 「私は自分の犬を呼んで (家に) 上がらせた」

これとまったく同じ選択制限は、動詞の kò にも見られる。

- (49) jə- kò nī thán jə- phó  
 1sg 呼ぶ (引寄) (元位) 1sg 子供  
 「私は子供を呼び寄せた」

- (50) \*jə- kò nī thán jə- thwí  
 1sg 呼ぶ (引寄) (元位) 1sg 犬  
 「私は犬を呼び寄せた」

(48) が適格でないのは、動詞 kò の選択制限の特徴を、使役助詞 kò がそのまま引き継いでいるためであろう。

#### 28.2.1.5 lə

lə は、動詞としては「語る」という意味である。次のように二つの目的語を取る。

- (51) jə- lə ʔəwê pòun  
 1sg 語る 3se 昔話  
 「私は彼に昔話を語った」

使役助詞としての lə は、誰かに話しかけて、話しかけた相手に何らかの状況を引き起こすことを表す。被使役動詞は無意志動詞でなければならない。次の (52)(53) を見ていただきたい。

- (52) ʔəwê lə châ jə  
 3se (使役) 痛い 1SG  
 「彼は私の悪口を言った (直訳:彼は私に語って私を痛くさせた)」

- (53) jə- lə yəN ʔəwê pòuN  
 1sg (使役) 聞こえる 3se 昔話  
 「私は彼に昔話を語って聞かせた」

被使役動詞として意志動詞を用いることはできない。

- (54) \*ʔəwê lə klí jə  
 3se (使役) 走る 1sg  
 (彼は私に走るよう言った)

使役助詞 lə の被使役者は、普通、人間を含む動物でなければならない。これは、語った内容を聞くことができる者でなければならないということだろう。

- (55) jə- lə yəN jə- thwí  
 1sg (使役) 聞こえる 1sg 犬  
 「私は自分の犬に話して聞かせた」

- (56) \*jə- lə yà yòN ʔə- yéin  
 1sg (使役) 壊れる 3sg 家  
 (私は彼の家に話しかけて壊した)

### 28.2.2 一般の動詞を用いる場合

ここまで見てきたのは、使役要素として使役助詞を用いる場合だったが、ここで見るのは使役要素として一般の動詞を用いる場合である。先ほど述べたように、使役要素として一般の動詞を用いた場合、被使役動詞は自動詞に限られる。

実は、このタイプの使役構文は、第 17 章において、連結型動詞連続の中の主語非同一型として論じたものである。主語非同一型は、V2 の論理的主語が動詞複合体の目的語と同一指示になるので、TYPE 1 の使役構文の定義に合致し、使役構文と見なすことができる。ここで今一度例を見ておこう。

- (57) jə- ché θi ʔəwê  
 1sg 刺す 死ぬ 3se  
 「私は彼を刺し殺した」

- (58) jə- ʔáin blè kú  
 1sg かむ 砕ける 菓子  
 「私は菓子をかみ砕いた」

- (59) chəphúxā ʔán yà yòN bú  
 虫 食べる 壊れる 稲  
 「虫が稲を食い荒らした」

- (60) jə- dú káin lé  
 1sg 殴る 曲がる 棒  
 「私は棒をたたき曲げた」

- (61) jə- ʔókí ɕú lán thìkhlân  
 1sg 置く 冷たい (変化) 茶  
 「私は茶を置いて冷ました」

動詞連続についての議論で述べたとおり、主語非同一型の連結型動詞連続における V2 は必ず無意志動詞であり、意志動詞が V2 になることはないのだった。

- (62) \*jə- dó chinàn thwí  
 1sg 殴る 座る 犬  
 「私は犬を殴って座らせた」

- (63) \*jə- chán khwè jə- phó  
 1sg 押す 這う 1sg 子供  
 「私は子供を押して這わせた」

一般動詞が使役要素となった場合、例を見ればわかるとおり、被使役者は有生物でも無生物でも構わない。

### 28.3 TYPE 2

次に TYPE 2 の考察に移る。TYPE 2 では、被使役者は使役要素の目的語の位置に現れた補文内の主語として現れる。このタイプにおいて、使役要素として現れる動詞には、ʔánmân 「命ずる」、plètò 「許可する」(plè とも言う)、phílân 「与える」がある。

- (64) jə- ʔánmân ʔəwê lì  
 1sg 命じる 3se 行く  
 「私は彼に行くように命じた」

- (65) jə- plètò ʔəwê lì  
 1sg 許す 3se 行く  
 「私は彼に行くことを許可した」

- (66) jə- phílân ʔəwê lì  
 1sg 与える 3se 行く  
 「私は彼に行かせてやった」

このタイプの使役構文は、目的語の位置に補文を取る構文の中で、補文に現実法 (realis modality) ・非現実法 (irrealis modality) の対立が生じないものという定義ができる。目的語の位置に補文を取る構文には、他に次のようなものがある。

- (67) jə- lə [C ʔəwê lì]  
 1sg 語る 3se 行く  
 「私は彼が行ったと言った」

- (68) jə- θijâ [C ʔəwê lì]  
 1sg 知る 3se 行く  
 「私は彼が来たことを知っている」

- (69) jə- dá [C ʔəwê klí]  
 1sg 見える 3se 走る  
 「私には彼が走るのが見えた」

このような補文は、現実・非現実の対立を示す。換言すると、非現実法を表す動詞助詞 mə- を補文内部の動詞に前接することができる。

- (70) jə- lə [C ʔəwê mə- lì]  
 1sg 語る 3se (非現) 行く  
 「私は彼が行くだろうと言った」

- (71) jə- θijâ [C ʔəwê mə- lì]  
 1sg 知る 3se (非現) 行く  
 「私は彼が来ることを知っている」

- (72) jə- dá [C ʔəwê mə- klí]  
 1sg 見える 3se (非現) 走る  
 「私には彼が走ろうとしているのが見えた」

補文内の動詞に mə- がついた場合、補文の動詞が表す事象は、主文動詞が表す事象よりも時間的に遅れて発生することが示される。ところが、TYPE 2 の使役構文においては事情が異なる。(64) から (66) では、それぞれ、「行く」という行為よりも、「命ずる」「許す」「(行く機会を) 与える」という行為のほうが時間的に先行しているはずである。ところが、それにもかかわらず、これらの補文内の動詞に mə- をつけることはできない。

- (73) \*jə- ʔánmân ʔəwê mə- lì  
 1sg 命じる 3se (非現) 行く

- (74) \*jə- plètò ʔəwê mə- lì  
 1sg 許す 3se (非現) 行く

- (75) \*jə- philân ʔəwê mə- lì  
 1sg 与える 3se (非現) 行く

このような振る舞いを基準として、目的語位置に補文を取る文のうち、補文内の動詞に mə- を付けることのできないものを TYPE 2 の使役構文として認定することができる<sup>2</sup>。補文内の現実法・非現実法の対立については、第 22 章もご覧いただきたい。

<sup>2</sup>補文の内部に現実法・非現実法の対立が見られないということは、補文が主文に強く従属していることを示すのだと思われる。このことを支持する証拠の一つとして、主文と補文が別々に時間を表す語句をとることができないという事実が挙げられる。

\*lənijò jə- ʔánmân ʔəwê lì kèkhó  
 今日 1sg 命じる 3se 行く 明日  
 (今日、私は彼に明日行くよう命じた)

これは、例えば英語で次のように言えるのと対照的である。

Yesterday Fred persuaded John to wash his car tommorrow.

次に、被使役者を表す名詞句は、主文動詞の目的語ではなく、補文の中の主語であることを示したい。その根拠は以下に示す三つである。ʔáNmôN を例にとって示すことにする。

(i) 被使役者を表す名詞句の前にポーズを入れることは可能であるが、後にポーズを入れることはできない。(ポーズを # で示す)

- (76) a. jə- ʔáNmôN # ʔəwê lì  
1sg 命じる 3se 行く
- b. \*jə- ʔáNmôN ʔəwê # lì  
1sg 命じる 3se 行く

(ii) 使役要素に後続する部分全体を主題化することはできるが、被使役者を表す名詞句だけを残して主題化することはできない。

- (77) a. ʔəwê lì nó jə- ʔáNmôN  
3se 行く (題) 1sg 命じる  
「彼が行けということを私は命じたのだ」
- b. \*lì nó jə- ʔáNmôN ʔəwê  
行く (題) 1sg 命じる 3se  
「行けということを私は彼に命じたのだ」

(iii) 補文を表す助詞 lé は、被使役者を表す名詞句の前にのみ現れることができる。

- (78) a. jə- ʔáNmôN lé ʔəwê lì  
1sg 命じる (補) 3se 行く
- b. \*jə- ʔáNmôN ʔəwê lé lì  
1sg 命じる 3se (補) 行く

これと同じことは、plè と phílân にもあてはまる。以上の理由により、被使役者を表す名詞句は、主文の動詞の目的語ではなく、補文の主語であると考えられる。

下に三つの動詞を個々に見ていく。

### 28.3.1 ʔáNmôN

ʔáNmôN は「命ずる」という意味である。ʔáNmôN を用いた文では、補文の動詞は意志動詞でなければならない。そのため、下に示す (80) は不適格である。

- (79) jə- ʔáNmôN ʔəwê chìnàn  
1sg 命じる 3se 座る  
「私は彼に座るよう命じた」

- (80) \*jə- ʔánm̩əN ʔəwê lánthiphā  
 1sg 命じる 3se 転ぶ  
 「私は彼に転ぶよう命じた」

また、被使役者は人間でなければならない。そのため、次の (82) は不適格である。

- (81) jə- ʔánm̩əN jə- phú ʔán m̩  
 1sg 命じる 1sg 子供 食べる ご飯  
 「私は子供にご飯を食べるよう命じた」

- (82) \*jə- ʔánm̩əN jə- thwí ʔán m̩  
 1sg 命じる 1sg 犬 食べる ご飯  
 「私は飼い犬にご飯を食べるよう命じた」

### 28.3.2 plètò

plè とも言う。plètò は、「許可する」「許す」という意味である。ʔánm̩əN の場合と同様に、補文の動詞は意志動詞でなければならない。したがって、次の (84) は不適格である。

- (83) jə- plètò ʔəwê chinàn  
 1sg 許す 3se 座る  
 「私は彼に座ることを許した」

- (84) \*jə- plètò ʔəwê θi  
 1sg 許す 3se 死ぬ  
 「私は彼に死ぬことを許した」

また、被使役者が人間でなければならないことも、ʔánm̩əN の場合と同じである。したがって次の (86) は不適格である。

- (85) jə- plètò jə- phú ʔán m̩  
 1sg 許す 1sg 子供 食べる ご飯  
 「私は子供にご飯を食べるのを許した」

- (86) \*jə- plètò jə- thwí ʔán m̩  
 1sg 許す 1sg 犬 食べる ご飯  
 「私は飼い犬にご飯を食べるのを許した」

### 28.3.3 phílân

phílân は「与える」という意味である。phlân とも発音される。TYPE 1 で見た使役助詞の phílân と同じく、これが用いられると、裨益の意味を含む。ただし、TYPE 2 では、受益者は常に被使役者である。この phílân は裨益を表すという点で、TYPE 1 の phílân と同じであるため、両者は、次のように互いにパラフレーズが可能な場合が多い。

- (87) a. jə- phúlân lì ʔəwê (TYPE 1)  
 1sg (使役) 行く 3se  
 「私は彼に行かせてやった」

- b. jə- phúlân ʔəwê lì (TYPE 2)  
 1sg 与える 3se 行く  
 「私は彼に行かせてやった」

- (88) a. phúlân jāin jə nə- cháikā (TYPE 1)  
 (使役) 踏む 1SG 2sg 輪タク  
 「あなたの輪タクを私にこがせてください」

- b. phúlân jə- jāin nə- cháikā (TYPE 2)  
 与える 1sg 踏む 2sg 輪タク  
 「あなたの輪タクを私にこがせてください」

しかし、次のような点で、TYPE 2 の phúlân は、TYPE 1 の phúlân と異なる。

まず、TYPE 1 では、被使役動詞は意志動詞でも無意志動詞でもあり得た。ところが、TYPE 2 では、被使役動詞は意志動詞でなければならない。したがって、次の (89b) は不適格である<sup>3</sup>。

- (89) a. jə- phúlân xī thán ʔəwê (TYPE 1)  
 1sg (使役) 美しい (変化) 3se  
 「私は彼女を美しくしてやった」

- b. \*jə- phúlân ʔəwê xī thán (TYPE 2)  
 1sg 与える 3se 美しい (変化)

次に、TYPE 2 では、ʔánmân や plètò の場合と同じく、被使役者は人間でなければならない。一方、TYPE 1 では、被使役者は無生物でもかまわない。また、被使役者は受益者でなければならないという意識を持つ話者であっても、動物の被使役者までは許容する。

- (90) a. jə- phúlân jā jə- thwí thî (TYPE 1)  
 1sg (使役) 泳ぐ 1sg 犬 水  
 「私は自分の犬に泳がせてやった」

- b. \*jə- phúlân jə- thwí jā thî (TYPE 2)  
 1sg 与える 1sg 犬 泳ぐ 水

このように、TYPE 1 の phúlân と TYPE 2 の phúlân は振る舞いが異なるのである<sup>4</sup>。

<sup>3</sup>Kato (1999) では、TYPE 2 の phúlân が、無意志動詞を補文にとることもできるとしたが、その後の追調査の結果、無意志動詞の場合に容認度が極端に下がることが分かった。

<sup>4</sup>LaPolla (p.c.) によれば、通言語的な傾向から見て、TYPE 2 の phúlân のほうが TYPE 1 よりも古く、TYPE 1 の phúlân は TYPE 2 から発生した可能性があるという。



## 28.4 まとめ

以上の議論を表にまとめると次のようになる。「——」は「無指定」を表す。

使役要素の種類	動詞の意志性	被使役者の種類
TYPE 1		
使役助詞 dà	——	——
使役助詞 mà	無意志	——
使役助詞 phílân	——	—— (話者によっては「生物」)
使役助詞 kò	——	人間
使役助詞 lǝ	無意志	動物
一般動詞	無意志	——
TYPE 2		
ʔánmôn	意志	人間
plètò	意志	人間
phílân	意志	人間



## 第29章 類似要素反復

ポー・カレン語には、意味的な共通点を持つ2個の要素を、要素間の関係を表す標識を用いずに並べるという表現方法がある。この表現方法を本論文では類似要素反復と呼ぶ。類似形反復と同様の現象は他の東南アジア諸語にも広く観察される。カレン系言語に限ると、Bwe Karen 語については Henderson (1997 vol.II:xiv-xv) が elaborate expression という用語で、Kayah 語については Solnit (1997:271-287) が parallelism という用語で報告している。

類似要素反復の例を挙げよう。

- (1) nī      phó   nī      mâ  
得る   子   得る   妻  
「妻子を持つ」(001.2671)

この例では、二つの要素 nī phó と nī mâ が並べられている。どちらも「動詞 + 目的語」であるという点で、同一の統語的特徴を持つ。全体の意味は各要素の意味を足し合わせた意味になる。

類似要素反復の一般的な特徴を以下に列挙する。

- 類似要素反復はしばしば表現の文体的価値を高める働きをする。したがって、くだけた会話で類似要素反復が現れることは相対的に少なく、逆に、かしこまった場面における発話ではより頻繁に現れる。
- 類似要素反復によって並べられる要素は実に様々である。しかし、常に二つの要素の統語的特徴は一致しており、全体としての統語的特性も各要素の統語的特性を引き継ぐ。
- 類似要素反復によって並べられる2要素の順番は、基本的には自由である。
- 二つの要素は、どちらも2音節以上を含み、かつ、同じ音節数から成る。ただし、それぞれの要素が非常に長い場合に限り、音節数が多少異なることもある。

以下に類似要素反復の例を、反復される要素の種類別に挙げる。各要素を    で囲んで示す。なお、反復される要素の種類は、ここに挙げたもの以外にも存在する可能性が十分にある。

## 29.1 様々な例

### 29.1.1 名詞句の反復

単独の名詞から成る名詞句

- (2) ㄿ thóphó ㄿ líphó  
小鳥 リス  
「小鳥とリス」(II-11.13)

- (3) ㄿ chəkhō ㄿ chəkhléin  
暑さ 寒さ  
「暑さと寒さ」(001.496)

通常、名詞の列挙には名詞修飾助詞の *dè* 等が用いられる。

- (4) thóphó *dè* líphó  
小鳥 と リス  
「小鳥とリス」

しかし、時として *dè* を用いない列挙も使われることがあり、このような場合と類似形反復の区別は難しい。

- (5) thóphó, líphó  
小鳥 リス  
「小鳥とリス」

「代名詞 + 名詞」から成る名詞句

- (6) ㄿ ?ə- cú ㄿ ?ə- khán  
3sg 手 3sg 足  
「彼の手と足」(II-11.6)

- (7) ㄿ ?ə- cì ㄿ ?ə- thôn  
3sg 銀 3sg 金  
「彼の金と銀」(II-14.8)

- (8) ㄿ ?ə- mō ㄿ ?ə- phā  
3sg 母 3sg 父  
「彼の母と父」(IV-01.11)

- (9) ㄿ jə- phó ㄿ jə- lì  
1sg 子 1sg 孫  
「私の子と孫」(015.26)

## 29.1.2 動詞句の反復

## 単独の動詞から成る動詞句

- (10) ㄘ pàdóㄘ      ㄘ jàujánㄘ  
 尊敬する      尊敬する  
 「尊敬している」(017.11)
- (11) ㄘ ?ékwiㄘ      ㄘ ?échêㄘ  
 愛する      愛する  
 「愛する」(017.19)
- (12) ㄘ nênmêㄘ      ㄘ nêncàㄘ  
 香る      香る  
 「香る」(I-02.7)
- (13) ㄘ lèthàiㄘ      ㄘ kànkàㄘ  
 喋る      噂する  
 「お喋りする」(II-02.14)
- (14) ㄘ pàkàㄘ      ㄘ θàméㄘ  
 気にとめる      恐れる  
 「気にする」(III-03.10)
- (15) ㄘ báchíㄘ      ㄘ bá?àㄘ  
 くしゃみする      鼻がつまる  
 「くしゃみしたり鼻がつまったりする (=風邪をひく)」(001.642)
- (16) ㄘ dócāㄘ      ㄘ thánthêㄘ  
 豊かな      向上した  
 「発展している)」(001.1211)

## 「動詞 + 目的語」からなる動詞句

- (17) ㄘ mà      cháíㄘ      ㄘ mà      klòㄘ  
 作る    田      作る    沖積地の農地  
 「稲作を営む」(I-10.19)
- (18) ㄘ θàu      nìㄘ      ㄘ θàu      nàㄘ  
 動かす    日      動かす    夜  
 「延期する」(001.484)

「動詞 + 斜格補語」から成る動詞句

- (19) ㄘㄛ́tháu lú ㄖㄛ̀ㄊㄠ ㄘㄛ́tháu lé jòㄊㄠ  
止まる (場) あそこ 止まる (場) ここ  
「(バスが) あちらこちらに止まる」(001.246)

「動詞助詞 (前置されるもの) + 動詞」から成る動詞句

- (20) ㄘㄚ́ klìcìㄊㄠ ㄘㄚ́ ㄖㄚ́nxûㄊㄠ  
(当為) 努力する (当為) 探す  
「努力したり (知識を) 探求したりしなければならない」(I-05.21)

- (21) ㄘㄉㄠ ㄖㄚ́ㄋㄊㄠ ㄘㄉㄠ ㄖㄛ̀ㄊㄠ  
(使役) 食べる (使役) 飲む  
「ご馳走する」(001.1246)

「動詞 + 動詞助詞 (後置されるもの)」から成る動詞句

- (22) ㄘㄠ́ thánㄊㄠ ㄘㄠ́ lànㄊㄠ  
呼吸する (上方) 呼吸する (下方)  
「息を吸ったり吐いたりする」(II-09.7)

- (23) ㄘㄠ́ phû thánㄊㄠ ㄘㄠ́ phû lànㄊㄠ  
跳ぶ (上方) 跳ぶ (下方)  
「跳んだり跳ねたりする」(001.633)

29.1.3 「主語 + 動詞」の反復

- (24) ㄘㄠ́ phài xâinㄊㄠ ㄘㄠ́ já xâinㄊㄠ  
皮 乾く 肌 乾く  
「皮膚が乾燥する」(001.3535)
- (25) ㄘㄠ́ éin phōnㄊㄠ ㄘㄠ́ wá phōnㄊㄠ  
木 破裂する 竹 破裂する  
「(山火事で) 木や竹が割れる」(II-11.13)

29.1.4 分離型動詞連続の反復

- (26) ㄘㄠ́ lò yìㄊㄠ ㄘㄠ́ khlain báㄊㄠ  
語る 良い 話す 正しい  
「話し方が上手だ」(016.20)

- (27) ㄟ ʔán jənㄟ ㄟ ʔò xwèㄟ  
 食べる 十分な 飲む 満ちた  
 「食生活が満ち足りている」(I-10.19)

- (28) ㄟ ʔó xúㄟ ㄟ ʔó xànㄟ  
 いる 団結した いる 平らな  
 「一致団結する」(001.225)

### 29.1.5 「主語 + 分離型動詞連続」の反復

- (29) ㄟ jə- jā thî θiㄟ ㄟ jə- thán θéinkhî θiㄟ jàv  
 1sg 泳ぐ 水 できる 1sg 上る 木のとっぺん できる (完)  
 「私はすでに泳ぎもできるし、木のとっぺんに登ることもできる」(001.1880)

上の例では、thî の部分と θéinkhî の部分の音節数が異なっている。このように、各要素が長い場合、それぞれの音節数が異なることもある。

### 29.1.6 副詞の反復

- (30) ㄟ ʔəphliláiㄟ ㄟ ʔəchêinprànㄟ  
 清潔に 清潔に  
 「清潔に」(I-07.3)

- (31) ㄟ ʔəthîㄟ ㄟ ʔèklàㄟ  
 正確に 明確に  
 「正確かつ明確に」(I-sen.70)

### 29.1.7 従属節の反復

- (32) mənī chəphú lə- mèn nó  
 人間 民族 一 ～種類 (題)  
 ㄟ ʔè lə- pō láipəŋənㄟ  
 (条件) (否) 読む 新聞  
 ㄟ ʔè lə- jō láipəŋənㄟ bá nó ...  
 (条件) (否) 見る 新聞 (否') (題)  
 「ある民族が、新聞を読まないということであれば、(その民族は発展しているとは言えない)」(III-07.8)

## 29.2 動詞を含む要素の反復について

上の 29.1.2、29.1.3、29.1.4、29.1.5 で述べた類似要素反復は、いずれも動詞を含む要素の反復である。これらに従属節において否定する場合、次のように全体の前に一つだけ lə- を置くこともできるし、

- (33) lə-      ㄘ pàkàㄘ              ㄘ θàméㄘ      wê      bá      ʔəkhúcòn ...  
 (否)      氣にとめる      恐れる      (強意)      (否')      ~なので  
 「虎が蛙を気にも留めなかったので…」 (III-03.10)

次のように各要素の前に一つずつ lə- を置くこともできる。

- (34) lə-      ㄘ pàkàㄘ              lə-      ㄘ θàméㄘ      wê      bá      ʔəkhúcòn ...  
 (否)      氣にとめる      (否)      恐れる      (強意)      (否')      ~なので  
 「虎が蛙を気にも留めなかったので…」

加藤 (1998) ではこれらを動詞連続の一種と見なした。そして、lə- を各要素の前に置くことを根拠とし、動詞連続の一つのタイプと考えて「並列型」の動詞連続と名付けた。しかし、これらが一定の文体的意味合いを帯びている (すなわち洗練された表現である) こと、また、意味的に類似する要素の連続であることを考えると、これらを動詞連続という現象の中で取り扱うべきではなく、類似要素反復という操作によって作られたものと考えのほうが適切である。したがって、本論文では、このような構造体について、動詞連続を扱った章では論じていない。

## 29.3 単独では使われない形態素を含む類似要素反復

類似要素反復で使われる要素の中には単独では使われない形態素を含むものがある。例えば次の例で、前部要素に現れた形態素 thî はこれ単独では用いることができない。

- (35) ㄘ hə-      thîㄘ      ㄘ hə-      khānㄘ      (代名詞 + 名詞句)  
          1pl      ?              1pl      国  
 「私達の国」 (IV-07.19)

thî は「水」という意味では使われるけれども、単独で「国」に似た概念を表すことはない。おそらく、過去のある時点で thî は「国」に似た概念を表し、かつ単独で使うことのできる名詞だったのではないか。そのような名詞が何らかの理由で元の意味を失ったものの、類似要素反復の中でのみ残ったのではないか。このような類似要素反復は、多かれ少なかれイディオム化していると考えられる。なぜなら、前部要素と後部要素を交換することができないからである。

- (36) \*ㄘ hə-      khānㄘ      ㄘ hə-      thîㄘ  
          1pl      国              1pl      ?

以下に、単独では使われない形態素を含む類似要素反復の例を挙げる。逐語訳に「？」を付したのが単独では使われない形態素である。このような形態素を文法の中でどのように扱うべきかについては後で論じる。

- (37) ㄘ yà yònㄘ      ㄘ yà cáㄘ      (動詞の反復)  
          壊れる              ?  
 「壊れる」 (001.1383)



- (38) ㄟ hə- lānㄟ ㄟ hə- kləㄟ (「代名詞 + 名詞」の反復)  
1pl 場所 1pl ?  
「私達の場所 (故郷)」(IV-07.19)
- (39) ㄟ pə- méㄟ ㄟ pə- θwāㄟ (「代名詞 + 名詞」の反復)  
1pl 齒 1pl ?  
「私達の齒」(001.2006)
- (40) ㄟ ?ə- thìㄟ ㄟ ?ə- θòㄟ (「代名詞 + 名詞」の反復)  
3sg ? 3sg 友人  
「彼の友人」(II-10.5)
- (41) ㄟ thī yāinㄟ ㄟ khān yāinㄟ (「名詞 + 名詞」の反復)  
? 事柄 国 事柄  
「国情」(V-03.57)
- (42) ㄟ dè thìㄟ ㄟ dè θòㄟ (「側置助詞 + 名詞」の反復)  
(共) ? (共) 友  
「友人と」(I-sen.21)
- (43) ㄟ lə phíㄟ ㄟ thāin phíㄟ (「動詞 + 動詞助詞」の反復)  
語る (裨益) ? (裨益)  
「話してやる」(017.24)
- (44) ㄟ nī yāinㄟ ㄟ nī bjàㄟ (「動詞 + 目的語」の反復)  
得る 力 得る ?  
「元気が出る」(001.1389)
- (45) ㄟ mə cháiㄟ ㄟ mə nàㄟ (「動詞 + 目的語」の反復)  
作る 田 作る ?  
「稲作を行う」(001.2495)
- (46) ㄟ jō thīㄟ ㄟ jō chàㄟ (連結型動詞連続の反復)  
見る 確かな 見る ?  
「確かめる」(001.1466)
- (47) ㄟ ?ó ɛúㄟ ㄟ ?ó bàㄟ (分離型動詞連続の反復)  
いる 平和な いる ?  
「平和な」(001.225)
- (48) ㄟ ?á mēinㄟ ㄟ ?á cēinㄟ (助数名詞句の反復)  
多い ~種類 多い ?  
「多くの種類」(III-07.12)

以下の例における  $\theta\acute{o}uN$  は「肝臓」という意味である。これらの例においてこの語は「心」という意味で使われている可能性がある。しかし、対になって使われている  $\theta\grave{a}$ 「心臓」が単独でも「心」という意味で用いられるのに対して、 $\theta\acute{o}uN$  は単独では「心」という意味では用いられない。このようなものも、広い意味での「単独では使われない要素」と考えることができる。

- (49)  $\subset \text{?}\theta\text{-} \quad \theta\acute{o}uN \supset \quad \subset \text{?}\theta\text{-} \quad \theta\grave{a} \supset \quad (\text{「代名詞 + 名詞」の反復})$   
           3sg   ?                   3sg   心  
           「彼の心」(I-04.10)

- (50)  $\subset \theta\acute{o}uN \quad máu \supset \quad \subset \theta\grave{a} \quad l\grave{a}N \supset$   
           ?           快適な       心   暖かい   (「主語 + 動詞」の反復)  
           「嬉しい」(016.7)

▷ 全体として「嬉しい」ことを表すイディオム。

- (51)  $\subset d\grave{o}N \quad \theta\acute{o}uN \supset \quad \subset d\grave{o}N \quad \theta\grave{a} \supset \quad (\text{「動詞 + 目的語」の反復})$   
           真似る   ?                   真似る   心  
           「同情する」(017.16)

▷ 全体として「同情する」ことを表すイディオム。

下の例では、前部要素が  $\theta\acute{o}uN$  を含み、後部要素も単独で用いられることのない形態素  $\theta\acute{o}$  を含んでいる。

- (52)  $\subset \theta\acute{o}uN \quad \text{?}w\acute{i} \supset \quad \subset \theta\grave{a} \quad \theta\acute{o} \supset$   
           ?           楽しい       心   ?   (「主語 + 動詞」の反復?)  
           「嬉しい」(017.9)

▷ 全体として「嬉しい」ことを表すイディオム。

## 29.4 対応する二音節語との関係について

類似要素反復には、対応する二音節語が見出されることがある。すなわち、類似要素反復を  $\subset A_1 A_2 \dots A_n \supset \subset B_1 B_2 \dots B_n \supset$  (A と B はそれぞれ前部要素と後部要素に含まれる任意の音節。数字は最初の音節から数えた順番) と表すと、 $A_i B_i$  という構成を持つ二音節語が存在する場合がある ( $i$  は任意の正の整数。つまり、音節  $A_i$  と音節  $B_i$  は、それぞれの要素における順番が同じである)。

対応する二音節語を持つ類似形反復を下に挙げる。対応する二音節語を「*cf.*」の後に示す。

- (53)  $\subset j\theta\text{-} \quad ph\acute{o} \supset \quad \subset j\theta\text{-} \quad l\grave{i} \supset \quad (=9) \quad cf. \quad ph\acute{o}l\grave{i} \text{「子と孫; 子孫」}$   
           1sg   子                   1sg   孫  
           「私の子と孫」(015.26)

- (54) ㄘ mà cháíㄟ ㄘ mà klòㄟ (=17) *cf.* cháiklò 「水田」  
 作る 田 作る 沖積地の農地  
 「稲作を営んでいる」(I-10.19)
- (55) ㄘ 0éin phōNㄟ ㄘ wá phōNㄟ (=25) *cf.* 0éinwá 「木と竹」  
 木 破裂する 竹 破裂する  
 「(山火事で)木や竹が割れる」(II-11.13)
- (56) ㄘ ʔán jəNㄟ ㄘ ʔò xwèㄟ (=27) *cf.* jəNɲwè 「満ち足りた」  
 食べる 十分な 飲む 満ちた  
 「食生活が満ち足りている」(I-10.19)
- (57) ㄘ ʔó xûㄟ ㄘ ʔó xàNㄟ (=28) *cf.* xûɲàN 「団結した; 平らな」  
 いる 団結した いる 平らな  
 「一致団結する」(001.225)
- (58) ㄘ ʔethîㄟ ㄘ ʔèklàㄟ (=31) *cf.* thiklà 「明確な」  
 正確に 明確に  
 「きちんと」(I-sen.70)

以下の諸例は、一方の要素に単独では用いられない形態素を含む。

- (59) ㄘ hə- lāNㄟ ㄘ hə- klèㄟ (=38) *cf.* lāNklè 「場所」  
 1pl 場所 1pl ?  
 「私達の場所(故郷)」(IV-07.19)
- (60) ㄘ ʔə- thîㄟ ㄘ ʔə- 0òㄟ (=40) *cf.* thî0ò 「友人」  
 3sg ? 3sg 友人  
 「彼の友人」(II-10.5)
- (61) ㄘ thî yāinㄟ ㄘ khāN yāinㄟ (=41) *cf.* thîkhāN 「国」  
 ? 事柄 国 事柄  
 「国情」(V-03.57)
- (62) ㄘ lə phîㄟ ㄘ thàin phîㄟ (=43) *cf.* ləthàin 「話す」  
 語る (裨益) ? (裨益)  
 「話してやる」(017.24)
- (63) ㄘ nī yāinㄟ ㄘ nī bjàㄟ (=44) *cf.* yāinbjà 「力」  
 得る 力 得る ?  
 「元気が出る」(001.1389)
- (64) ㄘ jū thîㄟ ㄘ jū chàㄟ (=46) *cf.* thîchà 「確実な」  
 見る 確かな 見る ?  
 「確かめる」(001.1466)

- (65) ㄟ ʔə- θóuNㄟ ㄟ ʔə- θàㄟ (=49) cf. θóuNθà 「心」  
 3sg ? 3sg 心  
 「彼の心」(I-04.10)

- (66) ㄟ θóuN yìㄟ ㄟ θà ʔwàㄟ cf. θóuNθà 「心」; yìʔwà 「清らかな」  
 ? 良い 心 白い  
 「心が清らかな」(I-04.10)

このような類似要素反復は、対応する二音節語を分解することによって作られると考えることはできるだろうか。このように考えることには二つの利点があるように見える。

第一は配列順序の問題である。類似要素反復の配列順序は、最初に述べたとおり、基本的には自由である。例えば、

- (67) ㄟ ləthàNㄟ ㄟ kànkàㄟ  
 話す 噂する  
 「お喋りする」(II-02.14)

は、順序を逆にして次のようにしてもよい。

- (68) ㄟ kànkàㄟ ㄟ ləthàNㄟ  
 噂する 話す  
 「お喋りする」(001.1708)

ところが、順序が自由ではない場合がある。例えば次の例は前部要素と後部要素を逆にすることができない。

- (69) ㄟ ʔə- mūㄟ ㄟ ʔə- phāㄟ  
 3sg 母 3sg 父  
 「彼の母と父」(IV-01.11)

- (70) \* ㄟ ʔə- phāㄟ ㄟ ʔə- mūㄟ  
 3sg 父 3sg 母

この原因の一つとして考えられるのは、mūphā「両親」という二音節語の存在である。筆者が知り得る限りでは、対応する二音節語が存在する場合、類似要素反復はその二音節語に対応する順序で要素を並べなければならない。このことを説明するためには、二音節語を分解して類似形反復を作ったと考えると便利に見える。

第二は、単独では使われない形態素を含む反復の問題である。

- (71) ㄟ hə- thîㄟ ㄟ hə- khāNㄟ (=35)  
 1pl ? 1pl 国  
 「私達の国」(IV-07.19)

この類似要素反復には、対応する thîkhāN「国」という二音節名詞がある。この二音節語を分解してこの類似要素反復が作られたと考えれば、意味を持たない要素 thî の由来が説明しやすくなるように見える。

このように、対応する二音節語を統語レベルで分解して類似要素反復を作るという操作を考えることは可能だろうか。結論を先に言うと、この考え方には無理がある。その理由は二つある。

第一に、二音節語は分解することができないのが普通だからである。例えば、yàuphòun「腹」という単語がある。この語の最初の音節は単独でも「腹」という意味を持つ。一方、2 番目の音節は何の意味も持たない。これを次のように二つに分解することはできない。

- (72) \* C ʔə- yàu C ʔə- phòun C  
3sg 腹 3sg ?

第二に、単独では使われない形態素を含む類似要素反復の中には、対応する二音節語を持たない場合があるからである。例えば次の例を見ていただきたい。

- (73) C ʔó ɛ́ú C C ʔó bà C (=47)  
いる 平和な いる ?  
「平和な」(001.225)

- (74) C θóun ʔwí C C θà thó C (=52)  
心? 楽しい 心 ?  
「嬉しい」(017.9)

- (75) C pə- mé C C pə- θwâ C (=39)  
1pl 歯 1pl ?  
「私達の歯」(001.2006)

- (76) C mà cháí C C mà nà C (=45)  
作る 田 作る ?  
「稲作を行う」(001.2495)

- (77) C ʔá mèin C C ʔá cèin C (=48)  
多い ~種類 多い ?  
「多くの種類」(III-07.12)

(73) の下線部に対応する動詞 \*ɛ́úbà、(74) の下線部に対応する動詞 \*ʔwíthó、(75) の下線部に対応する名詞 \*méθwâ、(76) の下線部に対応する名詞 \*cháínà、(77) の下線部に対応する助数名詞 \*mèincèin は存在しない。したがって、これらの例の単独では使われない形態素についての説明は依然として不可能である。

したがって、本論文では、二音節語を統語レベルで分解して類似要素反復を作るという操作を認めない。それでは上で見た二つの問題、すなわち、配列順序の問題と単独では使われない形態素の問題は、どのように解決したら良いだろうか。

配列順序の問題については、類似要素反復を作るとき、もし対応する二音節語があるならば、それを参照して配列順序が決定されるのだと考えれば良い。

次に、単独では使われない形態素を含む類似要素反復については次のように考える。(71) の thî や (73) の bà のようなものは、統語レベルにおいて、通常の名詞や動詞と同じよ

うに振る舞うので、語と見なさざるを得ないだろう。筆者はこれらを意味を持たない語であると考え、これらは辞書 (lexicon) に単独の項目として掲載することにする。そして辞書には、これらが成句的な類似要素反復でのみ使われる語であるという記述を行っておき、ペアになる語を記載する。次は辞書における記述の方法の一例である。

(78) thî 名詞。成句的な類似形反復のみに使われる語。khāN「国」との組み合わせで、  
 ㄘ ... thî ... ㄘ ㄘ ... khāN ... ㄘ の順序で用いられる。

(79) bà 動詞。成句的な類似形反復のみに使われる語。ǵú「平和な」との組み合わせで、  
 ㄘ ... ǵú ... ㄘ ㄘ ... bà ... ㄘ の順序で用いられる。

(80) chà 動詞。成句的な類似形反復のみに使われる語。thî「確実な」との組み合わせで、  
 ㄘ ... thî ... ㄘ ㄘ ... chà ... ㄘ の順序で用いられる。

ところで、上の ㄘ ... ǵú ... ㄘ ㄘ ... bà ... ㄘ からは、繰り返しを用いて、ǵúǵúbàbà「平和に」という副詞を作ることができる。したがって、第 7 章で述べたように、AABB タイプの副詞は、AB という動詞から作られると考えるよりも、A から作られた AA という副詞と、B から作られた BB という副詞が複合したものだと思えるほうがよい。

## 29.5 類似要素反復の拡張

基本的に類似要素反復は二つの要素に関わる手続きである。しかし、類似要素反復を繰り返すことによって、より大きな構造体を作ることができる。例えば下の例では、四つの要素が、類似要素反復を 2 度行うことによって配列されている。

(81) ㄘ ㄘ θóuN xwîㄘ ㄘ θà jôㄘㄘ ㄘ ㄘ máu θóuNㄘ ㄘ máu θàㄘㄘ  
 ? 軽い 心 易しい 快適な ? 快適な 心

kò yà dè yòn ...

(毎) ~ 人 (毎') (継起)

「(祭りで) みな楽しんでから...」(III-11.19)

## 第IX部

### 付録





## 第30章 分析に用いた資料

本論文での分析に用いた資料の一覧をここに掲げておく。以下の資料は筆者によってすべて簡略化した発音記号によって電子化してある。なお、文字資料を電子化したもののすべては、元資料では仏教ポー・カレン文字で書かれている。

1の「筆者が調査等で集めたデータ」は、筆者が調査で集めたデータおよび友人からもらったポー・カレン語の手紙を電子化したものである。

2は、パアンで出版されているポー・カレン語の教科書『ポー・カレン語読本第1課程』に載せられた文章を電子化したものである。

3は、パアンで出版されているポー・カレン語の教科書『ポー・カレン語読本第2課程』に載せられた文章を電子化したものである。

4は、パアンで出版されているポー・カレン語の教科書『ポー・カレン語読本第3課程』に載せられた文章を電子化したものである。

5は、雑誌『若き民族の力』掲載の文章を電子化したものである。この雑誌は、タイに住むビルマ国籍の東部ポー・カレンの人々によって不定期に発行されているポー・カレン語の雑誌である。主にエッセイや短編小説からなる。本論文でデータとして用いたのはこの雑誌の第7号(1996年12月)である。

6は、雑誌『大学カレン語雑誌』掲載のポー・カレン語東部方言による文章を電子化したものである。この雑誌は、1978年にラングーン大学のカレン学生委員会によって出版された。ビルマ語、スゴー・カレン語、西部ポー・カレン語、東部ポー・カレン語の4言語で書かれた様々な文章を載せている。主にエッセイや短編小説からなる。

本論文では、例文をこれらの資料から引く場合、和訳の後に資料番号を付した。例えば、(007.2)とあれば、資料番号007の2個目の文を指す。あるいは、(IV-04.353)とあれば、資料番号IV-04の353個目の文を指す。例文に資料番号を付したのは筆者自身の便宜のためであるが、このデータ一覧を参照すれば、どのようなジャンルの文章に現れた文であるかの見当がつくだろう。資料番号を付していない例文は、未整理の例文である。

### 1 筆者が調査等で集めたデータ。

001 — 調査で得た作例、会話の中で耳にした文など様々な用例を電子化し、単語ごとに配列したもの

002 — 調査で得た作例、会話の中で耳にした文など様々な用例を電子化したものの一つ

003 — 調査で得た作例、会話の中で耳にした文など様々な用例を電子化したものの一つ

004 — 調査で得た作例、会話の中で耳にした文など様々な用例を電子化したものの一つ

- 005 — thwí khâinphôn 「犬の尻の穴」(調査で採集した民話。1997 年 2 月にパアンで採集)
- 006 — nò thô náin nâ 「口が鼻より高い」(調査で採集した民話。1998 年 2 月にパアンで採集)
- 007 — 筆者が友人からもらったポー・カレン語の手紙
- 008 — 筆者が友人からもらったポー・カレン語の手紙
- 009 — 筆者が友人からもらったポー・カレン語の手紙
- 010 — 筆者が友人からもらったポー・カレン語の手紙
- 011 — 筆者が友人からもらったポー・カレン語の手紙
- 012 — 筆者が友人からもらったポー・カレン語の手紙
- 013 — 筆者が友人からもらったポー・カレン語の手紙
- 014 — 筆者が友人からもらったポー・カレン語の手紙
- 015 — 筆者が友人からもらったポー・カレン語の手紙
- 016 — 筆者が友人からもらったポー・カレン語の手紙
- 017 — 筆者が友人からもらったポー・カレン語の手紙
- 018 — mǎnkǎnthàin 「タマリンドの枝」(調査で採集した民話。2000 年 11 月にパアンで採集)
- 019 — cǐcǐ chǎ 「なぞなぞ」(調査で採集した民話。2000 年 11 月にパアンで採集)
- 020 — dǒ bǎn lǎn thǎ kǎ 「叩くと若くなる」(調査で採集した民話。2000 年 11 月にパアンで採集)
- 021 — hǎ- phǔ ʔǎ 「子供はできるさ」(調査で採集した民話。2000 年 11 月にパアンで採集)
- 022 — thǎin bǎlǎ kǎin 「木はなぜ曲がっているの?」(調査で採集した民話。2000 年 11 月にパアンで採集)
- 023 — mǎthǎkǎdǎn 「王子が死んだ話」(調査で採集した民話。2000 年 11 月にパアンで採集)
- 024 — thǎnkǎ mǎn thǎn thǎin 「僧が生き返った話」(調査で採集した民話。2000 年 11 月にパアンで採集)
- 025 — phlǎdn bǎ thǎnkǎ dǎ phlǎdn bǎ jwǎ 「仏教徒とキリスト教徒」(調査で採集した民話。2000 年 11 月にパアンで採集)

## 2 『ポー・カレン語読本第 1 課程』 phlǎdn láin pǎ lǎ- chǎn

ここから採った資料は次のとおり。これらの資料番号にはローマ数字の I を付す。

- I-01 — thwí láin thǎin dǎ klǎ 「山犬とカラス」(民話)
- I-02 — thǎ ʔǎyǎin 「水について」(エッセイ)
- I-03 — klǎ bǎ lǎ thǔpǎyǔ ʔǎmǎ 「フクロウの借金を返さなければならなかったカラス」(民話)
- I-04 — cǎdǐthǎn dǎ kǎchǎn 「ライオンと象」(民話)
- I-05 — wǎchǎ bǎ ʔǎnchǎn pǎnpǎ bǎ ʔǎnxǎn 「粳米は搗かなければならない、知識は探求しなければならぬ」(エッセイ)

- I-06 — lì cáinkwè lé phā chái phèn 「お父さんの田んぼに遊びに行く」(会話形式の読み物)
- I-07 — ?ó chón ?ókhlaín ?əyāin 「健康について」(エッセイ)
- I-08 — chərā ?á ké thán nówá 「先生が多くてしゃもじになってしまった」(こ  
とわざの解説)
- I-09 — thwí wūthân dè kəchân 「犬とコブラと象」(民話)
- I-10 — pə- təwân ?əyāin 「私たちの村について」(エッセイ)
- I-sen — この読本に載せてある様々な短文を電子化したもの。

### 3 『ポー・カレン語読本第2課程』 phlòòn láí pō nī chān

ここから採った資料は次のとおり。これらの資料番号にはローマ数字の II を付す。

- II-01 — thó mà chòn mənī thí ləphá 「人間を助ける鳥たち」(エッセイ)
- II-02 — thókò dè thóçá 「トゥーコー鳥とトゥーシャー鳥」(民話)
- II-03 — thílá 「塩」(エッセイ)
- II-04 — θóuIN ?án θóuIN ?ò chə yē ké thán lé kánthài ?əyāin 「農耕の始まり」  
(エッセイ)
- II-05 — θədán θwí dú 「うぬぼれの強いエビ」(民話)
- II-06 — phlòthánā 「ゴキブリ」(エッセイ)
- II-07 — pə- thíkhān 「私たちの国」(エッセイ)
- II-08 — ?ókí nò phèn ?è chēinpràn 「口を清潔に保て」(エッセイ)
- II-09 — mà khū thán thī 「水をわかす」(エッセイ)
- II-10 — lân làn ?ò thī cóN 「虹」(エッセイ)
- II-11 — khlaì dè wū 「カメとヘビ」(民話)
- II-12 — dūlā 「八エ」(エッセイ)
- II-13 — chə- khleín khlaù nī bá chí bá ?à 「伝染するかぜ」(エッセイ)
- II-14 — ?án lé ?ə- ?wí nó 「おいしいものを食べよ」(民話)

### 4 『ポー・カレン語読本第3課程』 phlòòn láí pō θəN chān

ここから採った資料は次のとおり。これらの資料番号にはローマ数字の III を付す。

- III-01 — thà θəwài càulé chə ?əyāin 「磁石の吸引力について」(エッセイ)
- III-02 — mà ?án chái xàù ?əyāin 「農業について」(エッセイ)
- III-03 — díθút dè khìchìphōN 「カエルとトラ」(民話)
- III-04 — nò thō náin nā 「口が鼻より高い」(民話)
- III-05 — chə- ?əuIN 「雲」(エッセイ)
- III-06 — həlmjā kò thán thī 「水と呼んだ獵師」(民話)
- III-07 — láipərēN 「新聞」(エッセイ)
- III-08 — phlòòn láí thàibòn 「ポー・カレン文字の起源」(エッセイ)
- III-09 — phlòòn nādèin 「カレンの竖琴」(エッセイ)
- III-10 — dú náin hò nó ?ò bá jàuján 「目上の人には敬わなければならない」(エッ  
セイ)

- III-11 — phlòun néin thán thân 「カレンの正月」(エッセイ)  
 III-12 — mō phā chə- khlain bá chōnná 「親のことばは聞かなければ」(民話)  
 III-13 — já?úthi 「魚醬」(エッセイ)  
 III-14 — ?án búu thân khú 「初物の米を食べる」(エッセイ)  
 III-15 — jáphlāthôn 「ヤープラートン魚」(民話)  
 III-16 — wá 「竹」(エッセイ)  
 III-17 — phlòun khān kōnān 「カレン州について」(エッセイ)

5 『若き民族の力』 chḥ̄ θàbān cúkhī ここから採った資料は次のとおり。これらの資料番号にはローマ数字の IV を付す。

- IV-01 — chḥ̄ khōnnōn ?əthai chíjē phlōn 「民族が強固になるための 15ヶ条」(エッセイ)  
 IV-02 — chə- khlain khōuntà 「謝辞」(編集後記)  
 IV-03 — cān mé wèkhè chə- jəuñcāu 「眼をしっかりと開け。誘惑に負けるなかれ」(エッセイ)  
 IV-04 — θijā ?échēn làn mā θà mēn 「愛を知りそして命を失った」(短編小説)  
 IV-05 — ké thán nī θai ?əkhánthai 「酒のはじまり」(エッセイ)  
 IV-06 — lə- mwē phlōun θi bá làn mā 「死人ではないが、消え去る運命にある」(エッセイ)  
 IV-07 — jōnwē ?əcá mə- lānjwà 「人生墮ちることを心配して」(エッセイ)  
 IV-08 — lé ?ò, phí θətai múphú láiblai 「書簡：少女たちに警告する」(エッセイ)  
 IV-09 — cháí phú chā 「農民たち」(エッセイ)  
 IV-10 — chḥ̄ θàbān cúkhī ?ə- chəlò 「若き民族の力によせて」(序文)

6 『大学カレン語雑誌』 /tɛ?kəθò kəyìn mè?gəzín/ (ビルマ語による標題)

ここから採った資料は次のとおり。これらの資料番号にはローマ数字の V を付す。

- V-01 — plètò lā chàì kō yà dè 「みなさん許してください」(短編小説)  
 V-02 — phlōun cúlān 「カレンの技術」(エッセイ)  
 V-03 — təmjān nó təmjān lānān θi 「奇妙なことは奇妙なのだけど」(短編小説)  
 V-04 — ?ó chón lā chàì θwíwòwò 「<民族の血>さん、お元気で」(短編小説)  
 V-05 — mà yà?òn búu mwē búxā 「米を食いあらすのは害虫だ」(短編小説)  
 V-06 — phlōun khān lānkłè thōn ?á tē 「鍾乳洞の多いわがカレンの土地」(エッセイ)

## 第31章 テキスト

この章では、各単語の品詞についての情報を付してポー・カレン語の昔話4篇(資料番号 020, 018, 021, 019)を提示する。この章ではポー・カレン語を次のように示す。

(xx) l̥            j̥ō  
      行く;v (試行);vp  
      行ってみた。

グロスのセミコロンの後に示した v や vp などの略号は、各単語の品詞を表す。助詞については助詞の下位区分を示し、一部の特殊な名詞についても下位区分を示す。下に略号の一覧を掲げる。

### 助詞以外

n 名詞  
v 動詞  
a 副詞  
i 感嘆詞

### 助詞

ap 側置助詞  
sp 従属節助詞  
gp 一般助詞  
np 名詞修飾助詞  
vp 動詞助詞  
av 副助詞  
se 文助詞

### 特殊な名詞

nu 数詞  
nc 助数名詞  
Ln 場所名詞  
an 側置名詞

## 31.1 テキスト 1 「叩くと若くなる」(資料番号 020)

- (1) phjāmú cā ʔə- phómú nó  
女;n 老いた;v 3sg 娘;n (題);gp

dàikhâ dè lùlèin nó  
結婚させる;v (具);ap 詐欺師;n のだ;av  
ある老いた女の娘を [その女が] 詐欺師と結婚させたのだ。

▷ lùlèin はビルマ語 lùlèin の借用。

- (2) dàikhâ dè lùlèin nótā(↑) |  
結婚させる;v (具);ap 詐欺師;n (前提);sp

lùlèin nótā cāv dá lé ʔə- lé  
詐欺師;n (題);gp こする;v (保持);vp (強調);np 3sg 棒;n

nī cúkhó lə- kàv jò  
ほど;ap 腕;n 一;nu 部分;nc この;np  
詐欺師と結婚させたところ、[あるとき] 詐欺師は腕一つぶんほどある棒をこすって  
いた。

- (3) cāv wê ʔə- lé nó |  
こする;v (強意);vp 3sg 棒;n (前提);sp

ʔəwê lò ló wè ʔə- mènçā nó  
3sg 語る;v (学習);vp (備え);vp 3sg 姑;n のだ;av  
こうして棒をこすりながら、彼は姑に入れ知恵をしておいた。

- (4) ʔəwê mènçā nó ʔəwê pàké ʔə- mâ  
3se 姑;n (題);gp 3se させる;v 3sg 妻  
姑に、彼は妻のふりをさせた。

- (5) lé ʔə- mâ nó ʔəwê kòkí dá wè  
(強調);np 3sg 妻 (題);gp 3se 置く;v (保持);vp (備え);vp

lú(↑) dò phèn ʔò  
(場);ap 部屋;n 中;Ln (遠方);np  
妻には、部屋の中にいさせた。

- (6) cāv dá lé nótā(↑) |  
なでる;v (保持);vp 棒;v (前提);sp

cəxwà phúkhwà [lì](v1) [dá](v2) phō  
王;n 息子;n 行く;v 見る;v (臨場);av  
棒をなでていると、そのとき、王の息子が通りかかってそれを見た。

- (7) “nə- mō mà chəlē ↔  
 2sg (非現);vp する;v 何;n  
 nə- lé jò”  
 2sg 棒;n この;np

bōkənè

ということだ;se

「お前は何をしようとしているのだ、その棒は」と言った。

- (8) “lé jò” lō wē  
 棒;n この;np 語る;v (強意);vp

“phlòuN θà cā θí  
 人;n 年齢;n 老いた;v (類似);gp

[ dŭ ](v1) [ bāN BāN ](v2) θà ké(ノ)”  
 殴る;v 若い;v (変化);vp 年;n 可能な;v

「この棒は」彼は答えた。「老いた人も、殴ると若くすることができる」

- (9) ?ə- mēiŋcāmú nŏ ?əwē pāké ?ə- mā  
 3sg 姑;n (題);gp 3se させる;v 3sg 妻;n  
 姑には妻のふりをさせた。

- (10) ?ə- mā mōmō nŏ kŏkí wē lŭ dò phàn ?o  
 3sg 妻;n 本当の;v (題);gp 置く;v (強意);vp (場);ap 部屋;n 中;Ln あの;np  
 本当の妻は部屋の中にかくれさせていた。

- (11) ?əwē thàv BāN jāN  
 3se 出す;v (外方);av 知恵;n  
 彼は悪知恵をしぼったわけだ。

- (12) lānthéwáθà phō cəxwà phŭ ?əméjā nŏ  
 つまり;a ちょうど;np 王;n 子供;n 前;Ln (題);gp  
 ?ə- mā jò ?ə- θà cā(ノ) jābò  
 3sg 妻;n この;np 3sg 年齢;n 老いた;v なのだよ;se  
 つまり、王の息子の前では彼の妻 [らしき人] は年を取っているわけだ。

- (13) “mō mwē Bā” cəxwà phŭkhwā lō  
 (非現);vp (繫);v (疑);se 王;n 息子;n 語る;v  
 「本当か？」王の息子は言った。

- (14) “<?à> mwē nā” lō wē  
 えっ;i (繫);v よ;se 語る;v (強意);vp  
 「えっ?そうですよ」[詐欺師は] 言った。

- (15) “mə- mwē bā lə- mwē bā |  
 (非現);vp (繫);v (疑);se (否);vp (繫);v (疑);se  
 nə- dú jū wá ní jō”  
 2sg 殴る;v (試行);vp (催促);vp 一度;nu+nc くださいよ;se  
 「本当かどうか、お前一度殴ってみよ」

▷ ní は、漠然と少ない数を表す語 nān と助数名詞 thí「～回」の融合したもので、「一回、一度」を表す。

- (16) ʔəwē mjòN bāN nū ʔə- mēiŋcā thí(↗) lô  
 3se 引き出す;v (外方);vp (引寄);vp 3sg 姑;vp 一気に;a (断定);av  
 lò wē  
 語る;v (強意);vp  
 彼は姑を [部屋の中へ] 一気に引っぱっていったそうだ。

- (17) dài cáin làn wái lé yéin khlôun nó |  
 (使役);vp 出る;v (下方);vp (徹底);vp (場);ap 家;n 外;Ln (前提);sp  
 dài klí wái phlòpài  
 (使役);vp 走る;v (徹底);vp ひたすら;a  
 [そして姑を] 家の外に出てゆかせ、ひたすら逃げさせた。

- (18) ʔəwē [ thàin ](v1) [ dú ](v2) dàin khló lú ʔò  
 3se 帰る;v 殴る;v (追加);vp ござ;n (場);ap あちら;n  
 pàupàupàu θōN thí |  
 パンパンと;a 三;nu 回;nc  
 ʔəwē thàu bāN nū dàin  
 3se 出す;v (外方;vp) (引寄;vp) (再度);vp  
 “bānklán jābò”  
 若い;v なのだよ;se  
 彼はというと [部屋の中に] 戻って向こう側でござをパンパンパンと 3 回たたいた。[それから] 彼は [本当の妻を] 引っぱり出した。[そして] 「ほら若いでしょう」[と言った。]

- (19) bānklán thònnóthò nó |  
 若い;v そのように;a (前提);sp  
 <pā> cəxwà phúkhwā ʔánkèin xwè tək̀lè lô jābò  
 なんと;i 王;n 息子;n 頼む;v 買う;v その場で;a (断定);av なのだよ;se  
 そのように若くなったので、なんとまあ、王の息子はその場で [棒を] 買うことを申し出た。

▷ ʔánkèin は動詞句を目的語として取ることのできる動詞である。「～することを申し出る」ことを表す。この場合は xwè を目的語として取っている。



- (20) chə- cəxwà θà ċā b́án d̀ùnó  
 なのだから;se 王;n 年齢;n 老いた;v (変化);vp なのだから;se  
 [父である] 王が年老いているからだ。
- (21) lànthébaθà  
 つまり;a  
 [ dú ](v1) [ b́án làn ](v2) ké phòphônó |  
 叩く;v 若い;v (変化);vp 可能な;v それほど;a  
 mə- [ thàin ](v1) [ [ dú ](v1) [ b́án làn ](v2) ](v2) báθà  
 (非現);vp 帰る;v 叩く;v 若い;v (変化);vp (欲求);vp  
 phā nàN th́í jī jābò  
 父;n 少数;nu 度;nc (婉曲);av なのだよ;se  
 つまり、叩いてそれほど若くできるのなら、[王宮に] 帰ってから父君を叩いて若く  
 してあげたいと思ったわけだ。
- (22) l̀ùl̀èin nó l̀ò  
 詐欺師;n (題);gp 語る;v  
 “kəjāN jə- ʔáNchā wáθà ʔé”  
 できれば;a 1sg 売る;v (欲求);vp (否);ap  
 「私としては、売りたいありません」と詐欺師は言った。
- (23) “jə- mâ phjā jò ʔə- θà ʔè ċā lán nó |  
 1sg 妻;n もの;n この;np 3sg 年齢;n (条件);sp 老いた;v (変化);vp (題);gp  
 jə- lé jò(↑) l̀ò ↔ mə- [c jə- mà b́án b́àN θà ] ”  
 1sg 棒;n この;np (断定);av (繋);v 1sg (使役);vp 若い;v (変化);vp 年齢;n  
 「この私の妻が年老いたときには、やはりこの棒によってですから、[妻の] 年齢を  
 若くできるのは」
- ▷ コピュラ動詞 mwē (mē あるいは mə- とも発音される) は、後に補文を取って補文内の主張を強調する働きをする。ただしこのような役割を担う mwē の一部はほとんど助詞化している可能性もある。以降、このような働きを示す mwē の後に現れた補文には [c ] を付さない。
- (24) “<ʔàʔá> nəwêdá nó nə- [ tàin ](V1)  
 いや;i 2se (題);gp 2sg 作る;v  
 [ θi(↗) ](V2) jàu” cəxwà phókhwā l̀ò  
 できる;v (完);av 王;n 息子;n 語る;v  
 “mwē lé jə- phā θà ċā(↗) lə- yà jò  
 (繋);v (強調);np 1sg 父;n 年齢;n 老いた;v 一;nu 人;nc この;np  
 mwē ʔè b́án làn lā tè nāN th́í”  
 (繋);v (条件);sp 若い;v (変化);vp (願望);vp 非常に;vp 少数;nu 度;nc

bōkənè

というわけだ;se

「いやいや、お前は[棒を]自分で作れるだろう」王の息子は言った。「私の年老いた父が若くなってくればなあ」

(25) thònnóθò nó

そのように;a (題);gp

“ʔè mà ʔò | mà(↗) kənè”

(条件);sp 取る;v (条件');sp 取る;v よ;se

すると「ほしいなら持っていけばいいよ」[と詐欺師は言った。]

(26) “ǵá lê↔ nə- mə- mà”

いくら;a (疑);se 2sg (非現);vp 取る;v

「いくら取るのか？」[王の息子が言った。]

(27) “θâNphāN(↗) lî”

三百;nu (断定);av

「300 チャットです」

(28) thònnóθò lə- thí nótā

そのように;a 一;nu 度;nc (題);gp

cəxwà phókhwâ chē wái cì pjàpjàpjàpjà tà |  
王;n 息子;n 精算する;v (徹底);vp 金;n チャリンチャリン;a (前提);sp

cəxwà phókhwâ thàin nī wē  
王;n 息子;n 帰る;v (引寄;vp) (強意);vp

lú ʔə- nū wəN ʔēbò  
(場);ap 3sg 宮殿;n 中;Ln のだよ;se

こうして、王の息子はチャリンチャリンと金を払って、[棒を] 持って宮殿へと帰っていったのだ。

▷ chē はビルマ語 /chè/ 「精算する」の借用。

(29) thàin nī lú nū wəN nó |

帰る;v (引寄;vp) (場);ap 宮殿;n 中;Ln (前提);sp

ʔə phā kəchā ʔáncà “nə- mə- mà chələ <phókhwâ>  
3sg 父;n 主;n 尋ねる;v 2sg (非現);vp する;v 何;n 息子;n

lé lə- bəN jò nī(↑)nì jò lə- bəN” bōkənè  
棒;n 一;nu 本;nc この;np ほど;ap これ;n 一;nu 本;nc というわけだ;se

宮殿に帰ると、「何をするつもりか、息子よ。これほどの棒一本で」と父親である主が尋ねたのだ。

- (30) “lé phjā jò jā <pā> phlòun θà cā θí  
棒;n もの;n この;np ね;gp 父;n 人;n 年齢;n 老いた;v (類似);gp  
[ dó ](v1) [ báN ɁàN ](v2) θà ké(ノ)”  
叩く;v 若い;v (変化);vp 年;v 可能な;v  
「この棒はね、お父さん、老いた人も叩けば若くなることができるんだ」
- (31) “<?à> mǝ- mwē Ɂâ <phúkhwâ>”  
おお;i (非現);vp (繋);v (疑);se 息子;n  
「おお、本当か、息子よ」
- (32) “mwē <pā>  
(繋);v 父;n  
jǝ- dá wá mǝmǝ”  
1sg 見える;v (不抗);vp 本当に;a  
nǝθò jī jābò ← ?ǝwē lǝ  
このように;a (婉曲);av なのだよ;se 3se 語る;v  
「本当です、お父さん。確かに見たのですから」かくのごとくだ、彼が言ったのは。
- (33) “?ǝkhǝnthò nótā jǝ- dá mǝmǝ <pā>” lǝ wē  
効能;n (題);gp 1sg 見える;v 本当に;a 父;n 語る;v (強意);vp  
「効能は私が確かに見たのですから、お父さん」彼は言った。
- (34) “?è dá wá wò | ” ?ǝ- phā lǝ  
(条件);sp 見える;v (不抗);vp (条件');sp 3sg 父;n 語る;v  
“kèkhó nó bǝchǝinlé(↑) phlòun θà cā nó  
明日;n (題);gp 関して;ap 人;n 年齢;n 老いた;v (題);gp  
[ cáin ](v1) [ cǝnǝ ](v2) wá kò(ノ) yà dè jābò”  
歩く;v 宣伝する;v (催促);vp 毎;nu 人;nc 毎';nu なのだよ;se  
「見たのなら、」父は言った。「明日、年老いた人に対して、すべての人に歩いて知  
らせようじゃないか」  
▷ cǝnǝ はビルマ語 /cǝnǝ/ の借用。
- (35) <pā> thǝnnǝθò nó  
ああ;i そのように;a (題);gp  
[ cáin ](v1) [ cǝnǝ ](v2) θǝmjǝ nó |  
歩く;v 宣伝する;v 一体全体;av (前提);sp  
hǝ- [ lǝ ](V1) [ θí ](V2) lǝN ?é  
1pl 語る;v できる;v もはや;av (否);ap  
ああ、こうして知らせて歩いたところ、とんでもないことになった。

- (36) báləǹǹǹ yê dè nùthò  
一部;n 来る;v (具);ap 杖;n  
ある者は杖をついてやってきた。
- (37) bákəǹǹǹ [ yê ](v1) [ tháu ](v2) dè láin  
一部;n 来る;v 乗る;v (具);ap 車;n  
ある者は牛車に乗ってやってきた。
- (38) phlòuN θà cā jābò  
人;n 年齢;n 老いた;v なのだよ;se  
そりゃ老人だからね。
- (39) bāN ɸàN wáθà dù  
若い;v (変化);vp (欲求);vp なのだから;se  
若くなりたいだろうよ。
- (40) dè nùthò ʔó | dè láin ʔó |  
(具);ap 杖;n いる;v (具);ap 車;n いる;v  
ʔó dè chəlê kò(↗) mèin kənè  
いる;v (具);ap 何;n 毎;np 種;nc よ;se  
杖で来るのもいれば、牛車で来るのもいる、それこそあらゆる方法でやってきた。
- (41) thònnóθò nó “kòuN(↗) jāu ɸà”  
そのように;a (題);gp 集まる;v (完);av (疑);se  
そこで「集まったか？」[と王は言った。]
- (42) “kòuN(↗) jāu”  
集まる;v (完);av  
「集まりました」
- (43) “ʔè kòuN |” cəxwà l̀  
(条件);sp 集まる;v 王;n 語る;v  
“jə- bá dú wī.  
1sg (当為);vp 叩く;v (先行);vp  
jə- dú ʔè yòN ɸô ʔò |  
1sg 叩く;v (条件);sp 終わる;v (対比);gp (題);gp  
nəθí dú ɸàin θā kò(↗) yà dè'  
2pl 叩く;v (追加);vp (再帰);vp 毎;np 人;nc 毎';np  
「集まったなら」王が言った。「私が最初にやる。私が終わったら、お前達がみなやりなさい」
- (44) chā làn ʔəmèin bē nó θò jābò  
下す;v (下方);vp 命令;n (比定);ap それ;n (比定');ap なのだよ;se  
そのように、命令を下したというわけだ。

▷ chà はビルマ語 /châ/ の借用。ʔəmèin はビルマ語 /ʔämèin/ の借用。

- (45) thònnóθò      nó  
 そのように;a (題);gp  
 “ʔè      kòuN      ʔò |      jə-      mə-      dú      wī      xō”  
 (条件);sp 集まる;v (条件');sp 1sg (非現);vp 叩く;v (先行);vp よ;se  
 「みな集まったなら、私が最初に叩くぞ」
- (46) <ᵛūjā(／)bò>      ʔələcón      nó      θà      ɕā      myā      nó |  
 何と;i      民衆;n (題);gp 年齢;n 老いた;v 大変;av (前提);sp  
 [lò](v1)      θí      [θí](v2)      ʔé  
 語る;v (類似);gp できる;v (否);ap  
 まったくもって、一方の民衆達は、そりゃ年老いていたものだから、[来たときの苦  
 労は]語るに尽くせぬほどだ。
- (47) bá      tháu      dè      láin  
 (当為);vp 乗る;v (具);ap 車;n  
 牛車で来たりしなければならない。
- (48) [ [ ʔê ](v1)      [ cáin ](v2)](V1)      [ thòn ](V2)      ʔé  
 来る;v      歩く;v      着く;v      (否);ap  
 歩いて来たら来られるわけがない。
- (49) thònnóθò      lə-      thí      nó  
 そのように;a 一;nu 度;nc (題);gp  
 dú      ɸô      jābò  
 叩く;v (対比);gp なのだよ;se  
 こうして、[まず王を]叩くことになったわけだ。
- (50) ʔə-      phú      dú      ɕàu      pàupàupàu      θəN      thí      nó |  
 3sg 子供;n 叩く;v (無信);vp バシッバシッバシッ;a 三;nu 度;nc (前提);sp  
 cəxwà      khwàindàin  
 王;n 死ぬ;v  
 息子がバシッバシッバシッと3回叩くと、王は息絶えてしまった。
- (51) phjā      [R ʔê      dè      láin ]      θè      mōkhó  
 もの;n      来る;v (具);ap 車;n (複);np さっき;n  
 [ mà ](V1)      láin      [ khlàu ](V2)      nāN(↑)      yà      ʔé  
 取る;v      車;n      暇な;v      少数;nu 人;nc (否);ap  
 先ほど牛車で来た老人たちは、誰一人として牛車に乗り込む暇などなかった。

- (52) [ [ thàin ](v1) [ cáin(v2) ] dàin ](V1) thòn(V2) pìpì  
 帰る;v 歩く;v (再度);vp 着く;v 全部;a  
 全員、自分の足で帰ることができたそう。

## 31.2 テキスト 2 「タマリンドの枝」(資料番号 018)

- (1) <ké> phjākhwā ʔó lə- yà  
 さて;i 男;n いる;v 一;nu 人;nc  
 さて、男が一人いた。
- (2) phjākhwā lə- yà nóṭā(↑)  
 男;n 一;nu 人;nc (題);gp  
 chə- phàn ʁán | chə- phàn ʁán |  
 CHə 明るい;v (変化);vp CHə 明るい;v (変化);vp  
 jō thán mǎnklón thàin lòn nó |  
 見る;v (上方);vp タマリンド;n 枝;n 上;Ln (前提);sp  
 phjāphû cā ʁó dá tā |  
 爺さん;n 老いた;v (題);gp 見える;v (前提);sp  
 “mē phóthá phjā nó  
 (繫);v 独身男;n もの;n (題);gp  
 ʔə- chəpân ʔó mân(↗) jàv” lə wê  
 3sg 智恵;n ある;v 確かな;v (完);av 語る;v (強意);vp  
 その男は、夜が明けるたびにタマリンドの枝を[思慮深そうに]見上げていたので、  
 ある年輩の男性がそれを見て、「この独身男が智恵のあるのは確かだ」と言った。
- ▷ mân はビルマ語 /hmàn/ 「正しい」の借用。
- (3) “dē jə- phómú nó jə- mə- dàikhâ ní”  
 (具);ap 1sg 娘;n (題);gp 1sg (非現);vp 結婚させる;v 一度;nu+nc  
 わしの娘と結婚させようではないか。
- (4) léjái ʔəwê dàikhâ wái wê jābò  
 しばらくして;a 3se 結婚させる;v (徹底);vp (強意);vp なのだよ;se  
 しばらくたって、彼は[その男と娘を]結婚させた。
- (5) dàikhâ wê θèyòn nó |  
 結婚させる;v (強意);vp (前提);sp (題);gp

lé chəphàn phjā phóθá nó  
(場);ap 夜明け;n もの;n 独身男;n (題);gp

jū mǎnklán thàin lòn nó |  
見る;v タマリンド;n 枝;n 上;n (前提);sp

mwē jân chəlê chəlê nó θǵjā ?é  
(繫);v 知恵;n 何;n 何;n (題);gp 知る;v (否);ap  
結婚させてからも、夜明けになると独身男はタマリンドの枝を見上げていたので、  
どのような智恵があるのだろうか [と思った]。

▷ θǵjā ?é は「～だろうか」「～かしら」という意味を表す。

- (6) phjāphû cā thîn nó  
おじいさん;n 老いた;v 思う;v (題);gp

[C mwē ?ə- jân phàdú ]  
(繫);v 3sg 知恵;n 大きい;v  
じいさんは [婿が] 智恵者だと思っていた。

▷ thîn はビルマ語 /thìn/ 「考える」の借用。理由もなくふと考える場合には、この thîn を用いる場合が多い。

- (7) léjái phjāphû cā nó  
しばらくして;a おじいさん;n 老いた;v (題);gp

?áncà ?ə- má wō  
尋ねる;v 3sg 婿;n (臨場);av  
しばらくして、じいさんは婿に尋ねた。

- (8) “mwē chəlê <nān wà> ↔  
(繫);v 何;n 娘;n 夫;n

chə- phàn b́án | chə- phàn b́án |  
CHə 明るい;v (変化);vp CHə 明るい;v (変化);vp

nə- jū mǎnklón thàin lòn nó”  
2sg 見る;v タマリンド;n 枝;n 上;Ln (題);gp  
娘の夫よ、なぜだ、お前が夜が明けるとタマリンドの枝を見上げるのは?

- (9) <pápàpà> ?əwê lò wêdá mwē cābò  
なんとまあ;i 3se 話;v す (強意);vp (繫);v このように;a  
なんとまあ、婿はこうに答えた。

- (10) “mǎnklón thàin phjā nó nê  
タマリンド;n 枝;n もの;n あの;np ～はね;gp

mwē ?è tàin càu thón ní |  
(繫);v (条件);sp 作る;v (無信);vp コマ;n 一度;nu+nc

mō yánp̄hù yáyè(↗)”  
 (非現);vp 鳴る;v かなり;a  
 あのタマリンドの枝ですがね、もしコマを作ったらずいぶんといい音がするだろう  
 なあ。

### 31.3 テキスト 3 「子供はできるさ」(資料番号 021)

- (1) <ké> phjāmú cā dè ʔə- wà lə- yà  
 さて;i 女;n 老いた;v (列挙);np 3sg 夫;n 一;nu 人;nc  
 dè ʔə- phó lə- yà kənè  
 (列挙);np 3sg 子供;n 一;nu 人;nc だよ;se  
 さて、中年女とその夫、それからその子供の話だ。
- (2) lə wê dòun təwân wən nó  
 語る;v (強意);vp 町;n 村;n 中;Ln (題);gp  
 lə wê chə- cáicáu  
 語る;v (強意);vp CHə 混乱した  
 [あるとき、ある] 地方が混乱したそうだ。
- (3) chə- bá chəcəuchəchā  
 CHə ぶつかる;v 病気;n  
 病気がはやったのだ。
- (4) [ ʔó ](V1) dòun təwân wən [ bóun ](V2) lən ʔé  
 いる;v 町;n 村;n 中;Ln 勇気がある;v もはや;av (否);ap  
 もはや[その] 地方に住んでいる勇気はない。
- (5) lə wê “mə- bá cáinyà wái jābò”  
 語る;v (強意);vp (非現);vp (当為);vp 逃げる;v (徹底);vp なのだよ;se  
 「逃げなければならないな」と言った。
- (6) dòun təwân wən nó həməni lə- nì nì  
 町;n 村;n 中;Ln (題);gp 人間;n 一;nu 日;nc 日;nc  
 [ θi ](V1) [ xwè ](V2) nó | xwè nó jī lō  
 死ぬ;v 満ちる;v (前提);sp 満ちる;v のだ;av (婉曲);av (断定);av  
 町や村の中では毎日毎日、人が死んであふれて、[死体で] 満ちた。
- (7) ʔəθiwē lə wóθà | thəmənwà nó bənòbānā nó |  
 3pe 語る;v (相互);vp 夫婦;n (題);gp 同意する;v (前提);sp



lànthé báà bón nī chəbáin chəbón |

つまり;a 包む;v (努力);v 荷物;n

cáin(↑)yà wái wê lô jābò

逃げる;v (徹底);vp (強意);vp (断定);av なのだよ;se

彼らは、そこで、話し合い、夫婦ふたりとも同意したので、結局、荷物をまとめて逃げ出した。

(8) cáin yà wái wê nó |

逃げる;v (徹底);vp (強意);vp (前提);sp

cáin yà cəu ləthí lô

逃げる;v (無信);vp ひたすら;a (断定);av

逃げ出して、そして、ひたすら逃げ続けた。

(9) lànthé báà dá dòuN təwān nān phlóuN ?é

結局;a 見つける;v 町;n 村;n 少数;nu 個;nc (否);ap

結果、町や村は一つも見つからなかった。

(10) θéin phádó mèin láθônklà pìpì lô lò wê

木;n 大きな;v ジャングル;n ばかり;a (断定);av 語る;v (強意);vp

大きな木、そしてジャングルばかりだったそうだ。

(11) jáijái bān chó wè ?ə- phú

しばらくすると;a 持ち上げる;v (強意);gp 3sg 子供;n

ké lə- ?é

可能な;v もはや;av (否);ap

やがて、子供を抱くことができなくなった。

(12) phjā ?əphû cā nó

もの;n おじいさん;n 老いた;v (題);gp

chó ?ə- phú lə- ké wá nó |

持ち上げる;v 3sg 子供;n (否);vp 可能な;v (否');vp (継起);sp

?ə- mâ chó

3sg 妻;n 持ち上げる;v

男が子供を抱けないので、妻が抱いた。

(13) ?ə- mâ chó yòN nó |

3sg 妻;n 持ち上げる;v (前提);sp (題);gp

?əwê chó kədà |

3se 持ち上げる;v (逆);vp

chó kədà dàin ké lə- ?é

持ち上げる;v (逆);vp (再度);vp 可能な;v もはや;av (否);ap

妻が抱き終わると、彼が再び抱こうとしたが、もはや抱くことはできなかった。

- (14) <ʔūjābò> khlòth̄ wái pōUN  
 なんと;i 置いていく;v (徹底);vp (意外);av  
 [そこで] なんと [子供を] 置き去りにした。
- (15) ʔə- mâ l̄ “phóθá lə- yà Ɂàwò(↗)”  
 3sg 妻;n 語る;v 子供;n 一;nu 人;nc ~は?;ge  
 妻は言った、「子供はどうするの？」
- (16) “<hà> phóθá.  
 えっ;i 子供;n  
 ʔəkwà ʔó ʔé <phlòUNmú Ɂā>.  
 問題;n ある;v (否);ap 女;n 老いた  
 hə- bá cáIN chəjái.  
 1pl (当為);vp 歩く;v 遠く;n  
 mwē nè dè jə ʔè ʔó nó |  
 (繋);v 2SG (列挙);np 1SG (条件);sp いる;v (題);gp  
 hə- phó ʔó(↗)” ʔəwē l̄  
 1pl 子供;n いる;v 3se 語る;v  
 「子供？問題ないさ、妻よ。我々は遠くまで行かなければならないんだ。お前と俺  
 さえいれば、子供はできるからな」と彼は言った。

## 31.4 テキスト 4 「なぞなぞ」(資料番号 019)

- (1) lúdáʔò chəxwà ʔó lə- yà jā(↗)  
 昔;a 王;n いる;v 一;nu 人;nc なのだよ;se  
 昔、王が一人いた。

▷ 「王」は chəxwà とも cəxwà とも発音される。おそらくシャン語からの借用。cf. ビルマ語 /səbwá/

- (2) phlòUN ɁəɁò chə nó |  
 人;n なぞかけする;v CHə (前提);sp  
 ʔəwē [phà](V1) [bá](V2) pìpì  
 3se 当てる;v 当たる;v 全部;a  
 人がなぞなぞを出すと、彼はすべて正しく当てることができた。

- (3) cānbò ʔəwê nɔ́  
 だから;a 3se (題);gp  
 nèʔán ʔàn θà nɔ́ʔò |  
 信じる;v (内方);vp (再帰);vp (前提);sp  
 thōN ʔə- thikhāN wòN nɔ́  
 (場);ap 3sg 国;n 中;Ln (題);gp  
 phlòuN [R [ cìcò ] (V1) chə [ bá ] (V2) ]  
 人;n なぞかけする;v CHə 当たる;v  
 ʔè ʔó jī ʔò nɔ́ |  
 (条件);sp いる;v (婉曲);av (条件');sp (題);gp  
 ʔəwê mə- ʔánthà  
 3se (非現);vp 賭ける;v  
 だから彼は自信があったので、もし彼の国になぞなぞのうまい人間がいるならば、賭けをすることにした。
- (4) chəxwà nɔ́ mə- ʔánthà ləmêN  
 王;n (題);gp (非現);vp 賭ける;v 千;nu  
 王は1000チャット賭ける。
- (5) phlòuN nɔ́ ləphàn lô θí  
 人;n (題);gp 百;nu (断定);av (類似);gp  
 ʔəwê [ ʔánthà ] (V1) [ bóuN ] (↗) (V2)  
 3se 賭ける;v 勇気がある;v  
 相手は100チャットだけだが、王は賭けをする勇気がある。
- (6) phjā ʔó lə- yà nɔ́ jā  
 もの;n いる;v 一;nu 人;nc のだ;av なのだよ;se  
 ある男がいた。
- (7) ʔəwê mə- cìcò wáθà chəxwà nɔ́  
 3se (非現);vp なぞかけする;v (欲求);vp 王;n (題);gp  
 nàN ní  
 少数;nu 度;nc  
 彼は王になぞなぞを出してみたかった。
- (8) chəxwà nɔ́ [ cìcò ] (V1) [ bóuN ] (↗) (V2) wê jābò  
 王;n (題);gp なぞかけする;v 勇気がある;v (強意);vp なのだよ;se  
 王は応じる勇気があった。
- (9) chəxwà nɔ́ ləmêN θí  
 王;n (題);gp 千;nu (類似);gp

chəxwà [ thàu lán ](V1) bóuN(ノ)(V2)  
 王;n 出す;v (外方);vp 勇気がある;v  
 王は 1000 チャットだが、それでも出す勇気があった。

(10) phlòuN lú ?ò nó ləphàn lô  
 人;n (場);ap あそこ;n (題);gp 百;nu (断定);av  
 相手はたった 100 チャットである。

(11) “<?é> ?è mwē cājò |  
 さあ;i (条件);sp (繋);v このような;a  
 lù lán wē lú chəxwà ?ó ?ò jābò”  
 行く;v (上方);vp (強意);vp (場);ap 王;n ところ;Ln (遠方);np なのだよ;se  
 lò bāN wē nó jābò  
 語る;v (完成);vp (強意);vp のだ;av なのだよ;se  
 「さあ、それでは王様のところに行こうではないか」と言った。[そして王のところ  
 へと向かった]。

(12) “lémwēbò <chəxwà> ” lò wē  
 このような;a 王;n 語る;v (強意);vp  
 「こういうなぞなぞです、王様」と言った。

(13) “lú(↑) ?əwī dá?ò” lò wē “chə- ?ó lə- dù |  
 (場);ap 以前;n (過去);np 語る;v (強意);vp CHə いる;v 一;nu 匹;nc  
 ?ə mī ?ó nī bòn |  
 3sg 尻尾;n ある;v 二;nu 本;nc  
 wà nī bòn láu(ノ).  
 震える;v 二;nu 本;nc 両方;np  
 mwē chənó lê”  
 (繋);v 何;n (疑);se  
 「昔、」彼は言った「こういう生き物がいました。しっぽが 2 本あって、2 本とも震  
 えている。何でしょう」

(14) <pā> chəxwà nó [ phà ](V1) lə- mèn mèn [ bá ](V2) ?é  
 ああ;i 王;n (題);gp 当てる;v 一;nu 種類;nc 種類;nc 当たる;v (否);ap  
 ああなんと、王が何かを答えても当たらない。

(15) [ phà(ノ) ](V1) lə- mèn mèn [ bá ](V2) ?é  
 当てる;v 一;nu 種類;nc 種類;nc 当たる;v (否);ap  
 やはり何かを答えても当たらない。

(16) “mwē dānlāin bā”  
 (繋);v ヤモリ;n (疑);se  
 「ヤモリか？」

- (17) “mwē ʔé”  
(繫);v (否);ap  
「違います」
- (18) “mwē khàu ɓâ”  
(繫);v オオトカゲ;n (疑);se  
「オオトカゲか？」
- (19) “mwē ʔé”  
(繫);v (否);ap  
「違います」
- (20) “mwē tɔ̀tè ɓâ”  
(繫);v トッケー;n (疑);se  
「トッケーか？」
- (21) “bá ʔé”  
当たる (否);ap  
「間違っています」
- (22) phà(↗) lə- mèin mèin nê  
当てる;v 一;nu 種類;nc 種類;nc よ;se  
[王は] あれこれと答えてみた。
- (23) bá ʔé  
当たる;v (否);ap  
当たらない。
- (24) “<ké chəxwà> nə- [ phà ](V1) [ bá ](↗)(V2) ɓâ”  
さあ;i 王;n 2sg 当てる;v 当たる;v (疑);se  
「さあ王様、当てることはできますか？」
- (25) “[ phà ](V1) [ bá ](V2) ʔé”  
当てる;v 当たる;v (否);ap  
「当てられない」
- (26) “nə- [ phà ](V1) lə- [ bá ](V2) wá ʔò |  
2sg 当てる;v (否);vp 当たる;v (否');vp (条件);sp  
nə- pháichân ləmôn nó  
2sg 金;n 千;nu (題);gp  
jə- ʔán wái jàu jābò.  
1sg 食う;v (徹底);vp (完);av なのだよ;se

chə- nə- [phà](V1) lə- [bá](V2) dù”  
 CHə 2sg 当てる;v (否);vp 当たる;v なのだから;se  
 「王様が当てることができないのなら、王様のお金 1000 チャットは私がいただきます。当てることができなかったわけですから」

▷ pháichān はビルマ語 paiʔshàn の借用。固有の語彙では cì という (元来は「銀」の意味) が、最近はあまり使わないようである。

- (27) <ké> chəxwà nɔ́ ʔáncà nàin ʔə jābò  
 さて;i 王;n (題);gp 尋ねる;v (返答);vp 3SG なのだよ;se  
 さて、王は彼に尋ね返した。

- (28) “<ké> ʔə mwē cājòθò |  
 さて;i (条件);sp (繋);v このような;a  
 jə nɔ́ jə- [phà](V1) [bá](V2) ʔé.  
 1SG (題);gp 1sg 当てる;v 当たる;v (否);ap  
 phà nàin nè ʔə nàN thí dɔ́”  
 当てる;v (返答);vp 2SG その;np 少数;nu 度;nc (別個);gp  
 「さて、この様子では、私は当てることができない。今度はお前が答えを言ってみよ」

- (29) ʔəwē ʔáncà nàin phjā [R cìcò chə] chā nɔ́ |  
 3se 尋ねる;v (返答);vp もの;n なぞかけする;v CHə 主;n (題);gp  
 “jə θí khô jə- [phà](V1) [bá](V2)  
 1SG (類似);gp (対比);gp 1sg 当てる;v 当たる;v  
 ʔə ké ʔé jɪ” ʔəwē lə  
 (題);gp 可能な;v (否);ap (婉曲);av 3se 語る;v  
 王がなぞなぞを出した男に尋ねると、「私も答えが分からないのです」と言った。

- (30) [phà](V1) lə- [bá](V2) wá ʔò |  
 当てる;v (否);vp 当たる;v (否');vp (条件);sp  
 chəxwà ʔán nàin wē ʔə páichān ləphān dɔ́  
 王;n 食う;v (返答);vp (強意);vp 3sg 金;n 百;nu 今度;gp  
 答えが出せなかったので、王は彼の金 100 チャットを召し上げた。

- (31) ʔəwē mjá khwīphān jàu  
 3se 儲ける;v 九百;nu (完);av  
 [結局] 彼は 900 チャットを儲けた。

▷ mjá はビルマ語 /myaʔ/ の借用。

## 第32章 語彙

本章ではポー・カレン語 (Pwo Karen) の東部方言と西部方言の基礎語彙を対照して示す。この対照語彙表によって、東部ポー・カレン語 (ポー・カレン語東部方言) と西部ポー・カレン語 (ポー・カレン語西部方言) の異同の一端を感じ取っていただきたい。

基礎語彙表についての注意事項は以下のとおりである。

- EP は東部方言を示し、WP は西部方言を示す。同一項目に意味的に対応する形式が二つ以上ある場合には、「,」で区切って並べた。東部方言 (EP) の形式はパアン方言 (Hpa-an dialect)、西部方言 (WP) の形式はチョウンビョー方言 (Kyonbyaw dialect) のものである。チョウンビョー (Kyonbyaw; Kyonpyaw; Burmese /còunbyò/) は、パテイン (Pathein; Bassein) の北東約 80km に位置する都市で、エーヤーワディー管区 (Ayeyarwadi division; Irrawadi division) に属する。第3代ビルマ大統領マン・ウィンマウン (Mann Win Maung) の故郷でもある。
- 掲載項目は服部編 (1957) 『基礎語彙調査票』の必須項目 (457 項目) を中心に選んである。総項目数は約 840 である。項目の選択にあたっては藪 (1982) を参考にした。項目番号に A,B, ... がついているものは藪 (1982) が独自に付加した項目である (原著では小文字で示してある)。また、a,b, ... がついているものは筆者が独自に付け加えた項目である。
- 意味的に対応するスゴー・カレン語形式 (Sgaw Karen) も参考のため可能な限り挙げてある。(SK ... ) のように括弧でくくって示す。スゴー・カレン語の表記は加藤 (1993) で用いたものを少し改変して用いる。挙げてあるのはパアン方言 (Hpa-an dialect of Sgaw Karen) の形式である。これは 1991 年 3 月にタイ国メーサリアン (Mae Sariang) でパアン方言を調査したときの資料に基づく。調査協力者はプータームー (Phu Tah Moo) さん (男性) である。なお、借用語の可能性の高い項目は、参考のために現代ビルマ語 (Modern Burmese) や現代モン語 (Modern Mon) などの形式を付記する場合がある。モン語形式は坂本 (1994) の表記によっている。

次に、チョウンビョー方言の音素目録を示す。次のページを見ていただきたい。

## チョウンビョー方言 (Kyonbyaw dialect) の音素目録

## 子音

p   θ   t   c   k   ʔ  
 ph   th   kh  
 ʃ   dʃ  
 b   ð  
       s   ɕ   x  
       sh  
       z   ʎ  
 m   n   ɲ   ŋ   ɴ  
 w       j  
       l  
       r

## 母音

i   i̥   ʉ   u  
 e   ə   o  
 ɛ   a   ɔ

## 声調

má   [44]  
 mà   [11]  
 mâ   [41]  
 (maʔ   [41])  
 (mə   atonic)

## すべての韻母

i   i̥   ʉ   u       ai   au  
 e   ə   o  
 ɛ   a   ɔ

      əɴ       eɪɴ   əʉɴ   ouɴ       iʔ       eiʔ   əʉʔ   ouʔ  
       aɴ       aɪɴ       auɴ       eʔ       oʔ  
               aʔ

チョウンビョー方言の音素について、以下に注意すべき点を述べる。

この方言の音節構造は C1(C2)V1(V2)(C3)/T と表すことができる。C2 として現れることのできるのは、w, j, l, r の 4 種類である。一方、C3 として現れることのできるのは、ʔ, ɴ の 2 種類である。ɴ はパアン方言と同じく口蓋垂鼻音である。完全な閉鎖は形成せずに母音の最後尾を鼻音化することもある。パアン方言と違って、口蓋垂鼻音が完全に脱落することはない。



この方言には ʙ:b および d:d の対立がある。b や d は比較的最近になって生じてきたものと思われる。b の例としては、bá「私達」、bá「中」などがある。パアン方言 pə「私達」および phən「中」と比較せよ。

また、この方言には有声歯間閉鎖音 ð がある。これも比較的最近になって生じてきたものと思われる。この音素を持つ例としては、ðei?「まだ」がある。パアン方言 dàì「まだ」と比較せよ。

? で終わる音節（促音節;stopped syllables）は常に下降調でかつ短く発音される（[41]）。これについての解釈には、(1) 促音節は声調を持たないが自動的に [41] で発音されるとする解釈、(2) 促音節には mâ と同じ声調のみが現れ得るとする解釈、(3) 促音節のピッチはあくまでも別個の声調であり ? は声調に付随する特徴であるとする解釈、以上三つの可能性があり得るが、どの解釈が正しいかについては今後の検討を要する。本論文では、母音記号の後に ? を置くことのみにより促音節を表すことにする。このように表記すると (2) の解釈は排除しているかのように見えるかもしれないが、これはあくまでも表記上の便宜である。

チョウンビョー方言の調査協力者は Dahlia Win さん (女性) である。

## 東西ボー・カレン語の対照基礎語彙

## &lt; 人体 &gt;

1. 頭 head EP khú, khúxwí WP khò, khòkhwì (SK khò)
- 1-a. 頭が痛い head aches EP khúxwí jòun WP khòkhwì jéin
- 1-b. 髪をとかす to comb EP khwí khú WP khwì khò (SK khwí khò)
- 1-c. 櫛 comb(n) EP θicàn WP θicán (SK θi)
- 1-1. 髪の毛 hair EP khóthú WP khòthwì (SK khòthú)
- 1-2. 頭がはげた bald EP méthóun khlè WP khò khlá (SK khò klá)
- 1-3. 脳 brain EP khúnáu WP khònou? (SK khònú?)
2. たい forehead EP méthóun WP me?θəđ (SK mè?tùkhò)
3. 目 eye EP mé WP me? (SK mè?)
- 3-a. 目を開ける open eyes EP cán mé WP sàñ me? (SK sà mè?)
- 3-b. 目を閉じる close eyes EP béin mé, bí mé WP bèin me? (SK bí mè?)
4. まゆげ eyebrow EP mémán WP me?thú (SK mè?tù)
5. 涙 tear EP méthí WP me?thì (SK mè?thí)
6. めくらの blind EP mé bló WP me? òlàu (SK mè? bló)
7. 鼻 nose EP nā WP nàphù (SK nāsē)
- 7-a. 鼻がつまる be choked up EP nā bài, nā bá?à WP nā òei?, shə- áá?àn
8. 耳 ear EP nā WP nā (SK nā)
9. つんぼの deaf EP nā ?àn WP nā ?ó (SK nātə?ó)
- 9-a. 耳が遠い EP nā xən WP nā xə
10. 口 mouth EP nò WP no? (SK nó?, thá?khò)
11. 唇 lip EP nòphài WP no?phlú (SK plū)
12. 舌 tongue EP phlì WP phlé (SK plē)
13. 唾の dumb EP ?ón?à WP ?əu??a? (SK ?ú??á?)
14. 歯 tooth EP mé WP θwà (SK mé)  
cf. Burmese /θwá/ (注)EP に対応する WP 形式 mài は「動物の牙 (きば)」の意。
15. 唾液 saliva EP nòthí WP no?thì
16. 息をする breathe EP θá WP θà (SK θá, kəθá)
17. 声 voice EP ?əlū WP ?əlú (SK kəlù)
18. 咳をする cough EP kàu WP òàkou? (SK kú?)
19. くしゃみする sneeze EP kəchí WP ya?shè (SK shé)
20. あくびする yawn EP kàn thán WP ká thàn, kó thàn (SK təkó thò) (注)EP の thán および WP の thàn は動詞助詞。
21. あご jaw EP khá, kháthəun WP khàla? (SK khá)
22. 顔 face EP méθá WP me?θà (SK mè?θà)
23. 頬 cheek EP nòpà WP me?pà (SK bó?pā)
24. ひげ EP nòchón (口ひげ mustache), kháphlù (あごひげ beard) WP no?shàun (口ひげ mustache), khàla?shàun (あごひげ beard) (SK nó?shú, kháshú)
25. 首 neck EP khóbòn WP kho?óáun (SK kò?bó)
26. 喉 throat EP khóju WP kho?júphlāun (SK kó?jú)
27. 肩 shoulder EP cúthàikhú WP kho?òei?thei? (SK phibákhò)
28. 腕 arm EP cúdu WP sùdù (SK súdú)
29. ひじ elbow EP cúnòunkhāin WP sùnòunkhāin (SK súnàkhí)
- 29-1. 手首 wrist EP cúkhó WP sùđéin (SK súdékò?)
30. 手 hand EP cú WP sù (SK sú)
31. 指 finger EP cúbòn WP sùnóun (SK súná)
32. 爪 nail EP cú mí WP sù mì (SK súmē)
33. 胸 breast EP θànā WP θa?nà (SK θá?nápà)
34. 乳房 breast (of woman) EP nū WP nú (SK nù)
- 34-3. 肺 lung EP bòthò WP po?θo? (SK pəθó)
35. 心臓 heart EP θà WP θa? (SK θá?)
36. 腹 belly EP yàuphòun WP you?phòun (SK hóphá)
- 37-1. 腸 intestines EP xwái WP xwei? (SK pyí?)
- 37-2. 胃 stomach EP phū WP phù (SK kəphú)
38. 肝臓 liver EP θəun WP θə (SK θú)
39. へそ navel EP ðì WP ðé (SK dé)
40. 背中 back EP khlòunchān WP khlòunsàunkhò (SK khló)
41. 腰 waist EP jāndèin WP jāndéin (SK jòdé)
42. 尻 buttock EP kháin WP kháin (SK khi)
- 42-1. 糞 (大便) excrement EP chə?í WP shə?ə?è
- 42-2. 糞 (大便) をする void excrement EP ?íchā WP ?èshà (SK ?èshá)
- 42-4. 小便 urine EP chəchí WP ?əshì
- 42-5. 小便する urinate EP chíchā WP shishà (SK shishá)
- 42-6. おならをする break wind, pass gass EP nān ?í WP nó ?è
- 42-7. 陰茎 penis EP thí WP thè
- 42-7a. 睾丸 testicles EP ðíthā WP ðíthā
- 42-6. 陰門 vulva EP lēin WP lēin
- 42-11. もも thigh EP kithōn WP kípà (SK kídú)
43. ひざ knee EP khántəunkhú WP kídú (SK khólekho)
44. 脚 leg EP khán WP khàn (SK khò)

45. 足 foot EP kánjàθà WP kànlúkhò  
 46. びっこをひく limp EP cáin khlètòkhlètò WP ya?pha? shìthòshìthò (SK há? tək̀lè)  
 47. からだ body EP mōcā WP mōcā (SK nòkhó)  
 48. 毛 hair EP ?əchón WP ?əshàun (SK shù)  
 49. 皮膚 skin EP ?əphài WP ?əphei? (SK phí?)  
 50. 膿 pus EP ?əphí WP ?əphì (SK ?əphí)  
 51. 汗 sweat EP khəθwè WP khòθwè (SK kəpə)  
 52. 垢 dirt EP ?əkí WP ?əki (SK tàbà?á)  
 53. 血 blood EP θwí WP θwí (SK θwí)  
 54. 骨 bone EP ?əxwí WP ?əxwí (SK ?əxí)  
 55. 肉 flesh EP ?əjá WP ?əjà (SK ?əjà)  
 56. 力 strength EP ?əyāin, ?əyāin?əbjà WP ?əyāin, ?əyāin?əbà? (SK ?əyì?əbá)  
 57. 見る look at EP jū WP jò (SK kwà)  
 57-a. 見える see EP dá WP dā (SK thí)  
 58. かぐ smell (vt) EP nənəmən WP nə?wì (SK ná)  
 59. 聞く listen EP chónná WP kho?nà (SK kənà)  
 59-a. 聞こえる hear EP yən WP yə (SK hú)  
 60. 笑う laugh EP nī WP ní (SK nī)  
 61. 泣く cry EP yán WP yàn (SK hò)  
 62. 叫ぶ shout EP kòcà WP ko?cà? (SK kó?pəθú)

<衣>

63. きもの clothes EP chəkòncəθò WP shəkáunshəθo? (SK tàkútàkà)  
 64. 着る clothe (shirt, coat, shoes, etc.) EP θò WP θo? (SK θó?)  
 64-a. はく (腰布, スボンなど) clothe (sarong, trousers, etc.) EP kòn WP káun (SK kú)  
 65. 脱ぐ take off EP kwè làn WP kwè lán (SK bè lə)  
 66. はだかの naked EP ?əbóun WP lóunkóun (SK bèshé)  
 66-1. ぼうし hat, cap EP khóláu WP khòlou? (SK khòphlò)  
 66-1a. 笠 bamboo hat EP khómó WP khòmo? (SK khòmò?)  
 66-1b. (ぼうしを) かぶる wear (hat) EP khláu WP khlú  
 66-1c. 傘 umbrella EP khómó WP sáun  
 66-1d. ターバン turban EP khúphəun WP khòphə  
 66-2. シャツ shirt EP cháin WP pəlou? (SK shékā) cf. Mon /pa?lɔ?/  
 66-3. 腰布 sarong EP thədòn (男用), ní (女用) WP càn (男用), nì (女用) (SK thékū, ní)  
 66-8. ぞうり sandal EP kánphài WP kànphèi? (SK khòphí?)  
 66-10. 布 cloth EP chəkàinjá WP shəkáinja? (SK tàkínà?) cf. Mon /yàt/

68. 針, くぎ needle, nail EP thà WP tha? (SK thá?)  
 69. 糸 thread EP lúkhú WP lùkhú (SK lú)  
 70. 縫う sew EP chà WP sha? (SK shá?)

<食>

71. 食べ物 food EP chə?ánchə?ò WP shə?ànshə?áu (SK tà?ətà?ə)  
 71-1. ご飯 rice EP mì (炊いた米; 食事), yúchá (炊く前の米), bú (脱穀前の米, 稲) WP mé (炊いた米; 食事), yúshà (炊く前の米), bú (脱穀前の米, 稲) (SK mē, húθa?, bú)  
 71-1a. おかず side dish EP θən WP θə (SK kəθú)  
 71-1b. 餅米 glutinous rice EP mì?àin WP mé?àin (SK pə?í)  
 71-1c. わら straw EP ləkhán WP láukhàn (SK lə)  
 71-7. 豆 bean EP pē WP thò, pè (SK pəthó?) cf. Burmese /pé/  
 72. 小麦粉 flour EP còun WP kòməu? (SK kókəmə) cf. Burmese /jəun/  
 72-a. やまいも yam EP néthī WP nàithī (SK nwétì)  
 72-b. さといも taro EP xúthī WP xùthī (SK khùtì)  
 72-c. キュウリ cucumber EP thiθá WP thiθà (SK dí)  
 72-d. ダイコン radish EP báthī WP fàthī  
 72-2. とうもろこし corn EP búikhê WP búikhê (SK búikhê)  
 73. 肉 (食べ物としての) meat EP chəjá WP ?əjà (SK tàjà)  
 73-1. たまねぎ, にんにく onion, garlic EP θənkəhúá WP θəkhòθà  
 74. 実 fruit EP ?əθá WP ?əθà (SK tãθà)  
 75. 種 seed EP ?əθáθà WP ?əθàkhli (SK tàkhli)  
 76. 卵 egg EP ?ədí WP ?ədí (SK tàdí)  
 77. 塩 salt EP thílá WP thílà (SK ?íθá)  
 77-a. 胡椒 pepper EP xwáiθá WP xwei?θà (SK mòyi?phó)  
 77-b. トウガラシ chillie EP chəyéθá WP shəyàiθà  
 77-c. 魚醤 fish sauce EP já?úthī WP shəyànthì  
 77-1. 砂糖 sugar EP thiláchəun WP thilàshə  
 77-3. 油 oil EP θú WP θò (SK θó)  
 78. 脂 grease EP ?əθú WP ?əθò (SK θó)  
 79. 乳 milk EP chənūthī WP shənūthì (SK tànūthí)  
 79-a. 牛乳 cow's milk EP wəbéinnūthī WP khláunūthì (SK klənnūthí)  
 80. 水 water EP thí WP thì (SK thí)  
 80-2. 湯気 steam EP ?ə?wì WP ?ə?wì  
 80-3. 緑茶 green tea EP thikhlan WP thikhlan (SK thikhló)  
 80-3b. 茶葉 tea leaf EP láphà WP la?pha?  
 80-3c. そそぐ to pour EP khè làn WP kái lán

- 80-5A. スープ soup EP 0ànʔò WP 0àthì  
 80-7. 酒 liquor EP 0ài WP ʔaʔthì (SK 0iʔ, ʔàʔthì)  
 80-7a. ひかえる, 避ける abstain (liquor) EP dúu WP dúu (SK dúu)  
 80-8. 酒に酔う drunk EP mèn 0ài WP mó ʔaʔthì (SK mú 0iʔ)  
 80-9. たばこ tobacco EP mó WP 0imoʔ (SK mòʔ, ná0úʔ)  
 80-9a. たばこを吸う to smoke EP ʔò mó WP ʔáu 0imoʔ  
 80-9b. キンマ betel EP phūlá WP phūlá  
 80-9c. 菓子 confectionery, bread EP kú WP kò (SK kò)  
 81. 料理する cook EP ʔánphôn WP ʔànphaun (SK phó)  
 81-a. 煮る boil, simmer EP ʔánxwī WP ʔànxxwī  
 81-1. 焼く roast EP ʔánká WP ʔànkà (SK ká)  
 81-1a. あぶる broil, toast EP ʔánxú WP ʔànxò  
 81-1b. 揚げる, 炒める fry, deep-fry EP ʔánchè, cò (Burmese /cò/ の借用語。日常会話ではこれを使うことが多い) WP ʔànsheʔ (SK shéʔ)  
 81-1c. 蒸す steam EP ʔányòun WP ʔànyòun (SK hó)  
 81-1d. 炒る parch EP ʔánwé WP ʔànweʔ  
 81-3. 生の raw EP 0èin WP 0èin (SK 0i)  
 82. 熟する ripe EP mēin WP mēin (SK mí)  
 83. 食べる eat EP ʔán WP ʔàn (SK ʔú)  
 84. なめる lick EP ʔánlāin WP ʔànlāin (SK lè)  
 84-a. なめる (飴玉などを) keep in the mouth (candy) EP ʔánmù WP ʔànmó  
 84-b. 飲み込む swallow EP jū lán WP jú lán  
 85. かむ chew EP ʔáin WP ʔàin (SK ʔè)  
 85-a. かみくだく chew to pieces EP ʔáin blè WP ʔàin bleʔ (SK ʔè bléʔ)  
 86. 飲む drink EP ʔò WP ʔáu (SK ʔó, ʔú)  
 87. 吸う suck EP ʔánchàu (口で直接), 0əwài (ストローなどで) WP ʔáushouʔ (口で直接), sweiʔ (ストローなどで) (SK shúʔ)  
 88. 吐く vomit EP pjò WP pjoʔ (SK bʔóʔ) cf. Burmese /pyó/  
 89. (つばを) 吐き出す spit EP thúphlè WP thòphleiʔ (SK thúʔpyèʔ)  
 90. 腹減った hungry EP 0àwī mī, lànʔò mī WP 0aʔ6ái mé (SK 0àwī)  
 90-a. 腹いっぱい full EP blè WP 6lé (SK blē)  
 91. のどが乾いた thirsty EP 0àwī thī WP 0aʔ6ái thī (SK 0ú0áʔ)  
 92. おいしい tasty EP ʔwí WP ʔwì (SK wī)  
 93. 甘い sweet EP chān WP shà (SK shá)  
 93-1. 塩辛い salty EP ʔán WP ʔàn (SK hó)  
 93-1A. 辛い hot, spicy EP ʔé WP ʔài (SK hē)  
 94. 苦い EP khá WP khà (SK khá)  
 94-1. すっぱい sour EP cháin WP shàin (SK shì)  
 94-2. くさい bad smelling EP nən WP nó (SK nó)  
 95. くさった rotten EP ʔúpàu (肉などが), nənčí (汁などが) WP ʔù (肉などが), nòshàin (汁などが) (SK ʔú)  
 95-1. かび mould EP xən WP xó  
 < 住 >  
 96. 家 house EP ʔéin WP jèin (SK hí)  
 96-a. ビル building, edifice EP tàu WP tuʔ (SK tóʔ) cf. Burmese /taiʔ/, Mon /taək/  
 96-b. 小屋 hut, shed EP càn WP cán  
 96-c. 便所 toilet EP hàidài WP shəlānkhàin  
 97. 建てる build EP 0əun WP 0à (SK 0ú)  
 98. ドア, 窓 door EP pàitərān WP tərān (SK pétró) cf. Mon /taʔraŋ, paptəʔraŋ/  
 98-1. 部屋 room EP dāu WP dōuʔ (SK dōʔ) (注) タイ (Thai) 側のボー・カレン語では家 (house) を表す。  
 98-2. ゆか floor EP ʔéindā WP 0èinpà (SK 0èbàkhò, phúdákhò)  
 98-2A. ごさ mat EP khló WP khlāu (SK khló)  
 98-3. 柱 pillar, post EP tən WP tó (SK tò) cf. Burmese /təin/, Mon /taəŋ/  
 99. 壁 wall EP chədón WP shədāun (SK tādú)  
 99-a. 寝台 bed EP khà WP khaʔ (SK kháʔ)  
 99-b. テーブル table EP cəpwē WP səpwé (SK səpwé) cf. Burmese /zəbwé/  
 100. 屋根 roof EP ʔéinkhú WP jèinkhò (SK hikhó)  
 101. 火 fire EP mí WP mè (SK mè)  
 102. 煙 smoke EP mikhú WP mèkhú (SK mèʔúkhú)  
 103. 灰 ash EP phèinkhlámú WP phléinkhà (SK phāshá (Burmese Sgaw), phékhà (Thai Sgaw))  
 103-2. 薪 firewood EP 0éinmú WP 0èinmú (SK 0èimú)  
 104. (火を) 消す extinguish EP mà 0i mí WP má 0i mè (SK mā 0i mè)  
 104-a. (電灯を) 消す turn off EP mà lànphái mí WP má lánphaiʔ mè (SK mā ləpàʔ mè)  
 104-b. 火をつける to light EP dwé mí WP thouʔ mè  
 105. 燃える burn EP mí ʔán (ex. ʔéin mí ʔán 家が燃える) WP mè ʔàn (SK mè ʔó)  
 105-a. 火がつく catch on fire EP mí khè WP mè khái (EP との対応では khái が予想されるが、実際には khái が使われる) (SK mè kē)  
 106. 座る sit EP chinān WP shānān (SK shēn)  
 107-1. 横たわる lie down EP mīnān WP mīnān (SK mīn)  
 108. 眠る sleep EP mí WP mì (SK mí)  
 108-a. うとうとする sleepy, nod EP mikhēin WP mikhēin (SK mikhé)  
 109. 夢を見る dream EP mīmō WP mīmān (SK mīmò)

- 109-1. めざめる wake EP nó òa WP  
nàn òa? (SK phúθinô)
110. 起きる (寝た状態から) get up EP yētháun WP  
yáithò (SK yēshóthò)
111. 立つ, 立っている stand EP chitháun WP  
shóthò (SK shóthò)
- 111-1. 井戸 well EP kəmlān WP thiphá (SK  
thípū, thíkəmlá)
- 111-2. 垣根 hedge EP thó WP thəná (SK  
kərá)
112. 閉める shut EP mà bài, pái (Burmese  
/pei?/ の借用。日常会話ではこれを使うことが多い)  
WP pha? bəi? (SK ká? bí?)
113. 開ける open EP pàu thán WP wái thán  
(SK ?ó? thó)
114. 住む live EP ?ó WP ?àu (SK ?ó, ?óshó?)

< 道具 >

- 114-a. うちわ fan EP nówíthú WP nòphou?pha?çù
- 114-2A. 機械 machine EP cé WP se? (SK  
sé?kəhá) cf. Burmese /se?/
- 114-3. 鏡 mirror EP jwà WP nwá (SK  
mè?thíkəlá)
- 114-5. 皿 dish EP thwé WP fàin
- 114-6. 匙 spoon EP nútəun WP nòthəun (SK  
nútə)
115. つぼ pot EP mōn (大きいもの), nōun (小  
さいもの) WP màun (大きいもの), nōun (小  
さいもの) (SK θəpā, kó, kəti)
116. 鍋 pan EP θənpəhən (炒め物用の鍋), miphən (炊  
飯用の鍋) WP pháθə (炒め物用の鍋), phómé (炊  
飯用の鍋) (SK θəpā)
- 116-3. こぼれる to spill out EP lənkəu WP  
lənkəu?
117. 包丁 knife EP xé (包丁), dō (斧) WP  
xe? (包丁), dāu (斧) (SK xè?, dó)
118. 刃 edge EP xémé WP ?əwà (SK  
xè?kəná)
- 118-1. 臼 mill EP chəun WP shəun (SK  
shà)
- 118-4. つく pound EP thōn (小さい物を), ?ánchú (大  
きい物を), (ex.) thōn já (魚をつく) WP  
dō? (SK tò)
- 118-13. 研ぐ whet EP klāin WP klāin (SK  
klé)
119. 土ぼこり dust EP pháimú WP phei?məu?,  
phóməu? (SK phákmú)
120. 拭く wipe EP kái WP kei?dōu? (SK  
thwá)
- 120-a. こする rub EP thəu WP thou?
- 120-b. 掃く sweep EP wé WP we? (SK wè?)
- 120-1. 箱 box EP təlá WP təlá (SK təlá)  
cf. Mon /ka?la/
- 120-3. かご basket EP dàn WP dán (SK tò)
- 120-3a. かごを頭にのせて運ぶ carry a basket on one's  
head EP tàn dàn WP jú dán
- 120-3b. ゆりかご cradle EP cháu WP  
shou? (SK sù?)
- 120-4. 袋 bag EP thəun WP thəun (SK thə)
121. つな, ひも rope, cord EP phli WP  
phlú (SK plí)
122. 魚とりの網 fishing net EP cáan WP  
sān (SK sô)
- 122-1. 杖 walking stick EP nútə WP  
nòtho? (SK nútə?bó)
123. 棒つき stick of wood EP lébən WP  
nòkhú (SK nòké) cf. Mon /lè?/
- 123-a. しゃもじ rice paddle EP nówá WP  
nòwa? (SK nútókwa?)

< 生活・戦い >

- 123-3. 生まれる be born EP phà thán WP  
lānphlāi, ?əuphlāi (SK ?óphlé)
125. 育つ grow EP dú thán (人, 植物が) WP  
xó thán (人が), kái thán (植物が) (SK dō thó)
- 125-a. 芽が出る sprout EP mé thán WP  
mài thán
126. 生きている alive EP mən WP mò (SK  
mú)
127. 太った fat EP bán WP fàun (SK bó)
128. やせた thin EP xwē WP xwé (SK xē)
129. 疲れた (全身が) tired (all the body) EP  
pwai òa WP pwí òa? (SK bwí? óá?)
- 129-a. 疲れた (身体の一部が) tired (a part of the  
body) EP xwíkāin WP ké
130. 病気の sick EP càuchā, chōnkāin WP  
sou?shà, kò òa? (SK shóké)
131. 傷 wound EP chəchāphənlān WP  
?əphālan (SK pūlō)
- 131-a. きずあと scar EP ?əxəunlān WP  
?əxəunlān
132. 痛い pain EP chā WP shà (SK shá)
133. かゆい itchy EP òa WP òa? (SK óá?)
- 133-a. くすぐったい ticklish EP kwí WP  
kwí (SK kòkwí)
134. 掻く scratch EP khwá WP kwa? (注:  
無気音) (SK wà?)
- 134-1. 薬 medicine EP θí WP θəinxwí (SK  
kəθí)
135. 治す cure EP bjān WP blān (介子音の  
違いに注意) (SK jáblá)
- 135-1. 治る get well, be cured EP blá WP  
blā (SK blá) cf. Mon /plèəh/
136. 殺す kill EP mà θí WP má θí
137. 死ぬ die EP θí WP θí (SK θí)
- 137-2. 墓 tomb EP θwákhú WP θwàkhò
138. 神 god EP (chə)ná (精霊), pō (守護神), là ~  
wilà (靈魂), θəlēθəkhà (悪霊), chəmənxā (魔  
女), jwà (キリスト教の神) WP kəlo?kəla? (精  
霊), ròuncái (精霊?), kəshájwà (キリスト教の  
神) cf. Mon /ka?lok/
- 138-a. おばけ, 幽霊 ghost EP tēphlē WP  
shəməxwà?
- 138-b. 信仰する believe in (religion) EP bà WP  
fā
- 138-c. 僧侶 buddhist monk EP θānkhā WP  
θānkhā cf. Pali sangha (注)EP では  
僧侶が来る (come) ことを kəpàと 言う (cf. Mon  
/pa?/'出迎える (receive, greet)'. また僧侶が死ぬ  
ことを pòと 言う (cf. Mon /pə/ )

- 138-d. 仏塔 pagoda EP klòn, cài WP kláun, cài cf. Mon /c̥yac/  
 139. けんかする quarrel EP ʔáin lóθà WP teʔ loʔθaʔ (SK ʔè lòʔθáʔ)  
 139-1. 戦争する fight, make war EP dàu WP dəuʔ (SK dúʔʔ)  
 139-2. 勝つ win EP nən WP nó (SK mānə) cf. Burmese /nàin/  
 139-3. 負ける defeat EP cá WP sà (SK cú, xá)  
 140. 逃げる run away EP cáinɣà WP sàinphloʔ (SK xè thò kwiʔ)  
 141. 追いかける pursue EP lòn WP láun (SK lū)  
 142. 刀 sword EP xé phādú WP xeʔ phaʔdò (SK xèʔ)  
 144. 弓 bow EP khlí WP khli (SK khli)  
 145. 矢 arrow EP phlá WP phlá (SK plà)

## &lt; 人間・人間関係 &gt;

146. 人間 EP phlòun, mənī (人間を表す格式ばった言い方) WP pəcá (SK pyākəpɔ)  
 146-a. ボー・カレン人 Pwo Karen EP phlòun, phlòuncū (格式ばった言い方) WP phlóun, mōtheiʔ (「母方」の意), phlóuncō (格式ばった言い方) (SK pyō)  
 146-b. ビルマ人 Burmese EP pəjàn WP dāunwóun, pəján (SK pəjɔ)  
 146-c. タイ人 Thai EP θáin (シャン人 Shan に対する呼称も θáin) WP tháin (注) カレン州やモン州に住むビルマ人、カレン人、モン人、パオ人たちは、ビルマ語でもタイ人を /cán/ (=Shan) と呼ぶ。  
 146-d. モン人 Mon EP jù WP jókhrô  
 146-e. スゴ・カレン人 Sgaw Karen EP càn WP phātheiʔ (「父方」の意) (SK sɣɔ)  
 146-f. 西部ボー・カレン人 West Pwo Karen EP bānklán WP なし  
 146-g. パオ人 Pao EP tònθú WP なし cf. Burmese /tāunθū/  
 146-h. 中国人 Chinese EP tərəu WP tərəuʔ cf. Burmese /təyouʔ/  
 146-i. インド人 Indian EP khùlà WP khólá cf. Burmese /kəlá/  
 146-j. 民族 race EP ch̥ WP sh̥ (SK sə)  
 147. 男 male EP ʔəkhwá WP ʔəkhwà (SK ʔəkhwá)  
 147-a. オス male animal EP ʔəphā WP ʔəphà  
 148. 女 female EP ʔəmú WP ʔəmù (SK ʔəmù)  
 148-a. メス female animal EP ʔəmū WP ʔəmó  
 149. 子供 child EP phú WP phò (SK phó)  
 149-a. 未婚男性 unmarried male EP phúθákhwá WP phòθákhwà  
 149-b. 未婚女性 unmarried female EP phúθámú WP phòθámù  
 149-c. 少女 maiden, girl EP ʔəmúnàn WP mùnánphò (SK mùkənɔ)  
 150. 若い young EP θà bán WP θaʔ bən, θaʔ sheiʔ (SK θáʔ bó, θáʔ sà)  
 151. 年取った old EP θà cā WP θaʔ cā (SK θáʔ pyà)  
 152. 父 father EP phā, pàpà (幼児語), tàpà (幼児語) WP phā (SK pà)  
 153. 母 mother EP mū, mūtòun (幼児語), tòuntòun (幼児語) WP mô (SK mò)  
 153-1. 父母 parents EP mūphā WP môphā (SK mòpà)  
 153-2,3. 義父母 parents-in-law EP mèincā WP mèincā  
 153-3a. まま父 stepfather EP phājā WP phājā  
 153-3b. まま母 stepmother EP mūjā WP môjā  
 153-4. 祖父 grandfather EP phū WP phù (SK phú)  
 153-5. 祖母 grandmother EP phī WP phì (SK phì)  
 153-6. おじ uncle EP mən WP mán  
 153-7. おば aunt EP ɣā WP ɣá (SK mùɣà)  
 154. 息子 son EP phókhwá WP phòkhwà (SK phókhwá)  
 155. 娘 daughter EP phómú WP phòmù (SK phómù)  
 155-1. 孫 grandson, granddaughter EP lì WP lí (SK lī)  
 156. 年上の兄弟姉妹 elder sibling EP wē WP wái (SK wè)  
 157. 年下の兄弟姉妹 younger sibling EP phū WP phù (SK pù)  
 157-5. 従姉妹, 従兄弟 cousin EP təkhwá WP təkhwà  
 157-a. きょうだい sibling, brother(s) and sister(s) EP təphúwē WP thəphúwái (SK dópùwè)  
 158. 夫 husband EP wà WP wá (SK wā)  
 159. 妻 wife EP mā WP mà (SK má)  
 159-a. 夫婦 husband and wife EP thónmən wà WP thòbòwá (SK dómowā)  
 159-b. 王 king EP cəxwà, chəxwà WP səxwá (SK sɔpā) cf. Sawbwa of Shan  
 159-c. 奴隷 slave EP xōn WP xáun  
 159-3. 結婚する marry EP ʔójáu, thán cā WP ʔəuxəuʔ, thán cā (SK ʔòxùʔ)  
 159-3a. 家族 family EP yéinxānchā WP jèinphòxānphò  
 159-6. 友人 friend EP thìθò, yòphán WP thíθoʔ, lòθaʔ (SK tìθəkóʔ)  
 159-7. 敵 enemy EP θənà WP dūrđá cf. Mon /hnaʔ/ (SK dūrđá)  
 159-10. 名 name EP ʔəmèin WP ʔəmèin (SK ʔəmī)  
 159-10a. 名づける give a name EP phló WP phloʔ

## &lt; 社会・職業・生産 &gt;

160. 村 village EP təwān WP təwān (SK θəwó) cf. Mon /kwan/  
 160-a. 国 country EP thikhān WP thikhān (SK kò)  
 160-1. 町 city EP dòun WP wēin (SK wè) cf. Mon /dəŋ, waəŋ/, Thai /wian/

- 160-2. 市場 market EP phjá WP zé (SK phjá) cf. Mon /phyá/, Burmese /zé/
162. 撃つ shoot EP khà WP kha? (SK khá?)
- 162-a. バチンコ slingshot EP khlichānp hóun WP kòun
- 162-2. 釣る to fish EP ?ánkhwê WP ?ánkhwê (SK təkhwé)
- 162-4. 貧しい poor EP cǎn WP cǎn (SK phýô)
- 162-4a. 金持ちの rich EP 0èthi (n. rich person) WP kàidō (v) cf. Burmese /0əthé/, Mon /sethi/, Pali /seThi/
163. 盗む steal EP ?ányú WP ?ányù (SK hui)
- 163-2. 田 rice-field EP cháí WP shei? (SK sí?)
- 163-3. 畑 field EP xàu WP xəu? (SK xú?, khú?)
164. 仕事する work EP mà kəlóun WP má shəmə (SK mā tà mā)
165. 休む rest EP ?ópwaí WP ?àupwí (SK ?òbyí?)
- 165-1. 耕す to plow EP thê WP thê cf. Mon /thəa/, Burmese /thè/, Thai /thái/
- 165-2. 蒔く to seed EP xwí WP xwí (SK phýí)
- 165-3. 稲を刈る reap rice EP kàu bú WP kou? bú (SK kú?)
- 165-3a. 稲を植える plant rice EP phlà bú WP phla? bú (SK phlá?)
166. 剥く peel EP kú lán, ?ò thán WP kù lán, ?o? thàn (SK ?ó? thò)
- 166-a. はがす knock off (ex. bark of a tree) EP klò WP klo?
- 166-b. つける fix, attach EP khəðà, thò bàu WP tho? 6ou?
- 166-c. とりつける furnish, install EP thán thán WP thê thàn
- 166-1. 編む knit EP tháin WP tháin (SK thé)
- 166-3. 織る weave EP thà WP tha?

<移動・交通>

167. 行く go EP lì WP lé (SK lē)
168. 来る come EP yê WP yài (SK hé)
- 168-1. 帰る return EP tháin WP tháin (SK kē)
- 168-2. 残る remain EP ?óthō WP ?àuthān (SK ?òtē)
- 168-3. ついていく follow EP pjáu WP pho? (SK pò?)
169. 出る go out EP cáin WP sàin (SK há? thò)
170. 入る enter EP náu WP nəu? (SK nui?)
171. (道を) 曲がる turn EP káin phàn0à WP khe? phə0a? (SK tərí?)
- 171-3. 着く arrive EP thòn WP tháun (SK tū)

172. 止まる stop EP pətháu WP ?àuthō (SK pətù?, shókətò) cf. Mon /tə?, pətə?/
- 172-1. 越える go beyond, cross EP khān WP khān (SK khó)
173. 歩く walk EP cáin WP ʔa?pha? (SK há?phá?)
174. 走る run EP klí WP sàin (SK xē)
175. 速い fast EP phlé WP khlāin (SK khlé)
176. 遅い slow EP xē WP cāu (SK kəbē?, kəjō)
- 176-a. ゆっくり slowly EP xēxē WP cāucāu
177. 這う creep, crawl EP cwà (蛇, ヤモリなど), khlāin (ワニなどが), khwē (赤ちゃんが) WP swá (人間, 蛇, ヤモリ), khwái (大型の動物が) (SK swá)
- 177-1. 乗る ride EP tháu WP thou? (SK dó?)
- 177-2. 運ぶ carry EP chó WP sho? (SK sò?)
- 177-2a. 持ち上げる lift EP jò WP jo? (SK jò?) cf. Thai yók
178. 道 road EP phàn0à WP phán0a? (SK klé)
179. 橋 bridge EP thòn WP tháun (SK tō) cf. Mon /ha?tòn/
180. 車 (牛車, 馬車など) carriage EP lāin WP lāin (SK lê)
- 180-a. 車を運転する drive a carriage EP nān lāin WP nān lāin (SK nó)
181. 車輪 wheel EP lāinpēin WP 6éin (SK khôrí?) cf. Burmese /béin/
182. 舟 boat EP khli WP khli (SK khli)
- 182-a. 船 ship EP kəbàn WP kə6án (SK kəbó) cf. Mon /ka?baŋ/
- 182-2. 舟をこぐ row a boat EP phlē khli WP wa? khli

<言語・伝達>

183. ことば language EP chəkhlaín WP shəkhlaín (SK klò?)
184. 話す speak EP khlāin WP khlāin (SK kətō)
185. 言う say EP cài WP sei? (SK sí?)
- 185-a. 語る tell EP lò WP láu
- 185-1. 黙る keep silent, say nothing EP ?ó xēxē WP ?àu kəsú
186. 尋ねる ask EP ?áncà WP ?ànsàn (SK 0ikwà)
- 186-1. 答える answer EP thàinlò WP láu tháin (注) WP の tháin は「再び～する」ことを表す助詞。元来の意味は「帰る」(cf. 168-1)。EP では ləthàin というと単に「語る」ことを表し、「答える」は thàinlò と言う。
- 186-1a. 返事する reply to EP wídáun WP wáinđáun
- 186-3. 嘘をつく to lie EP ?ánlò WP ?ànlaù
- 186-4. 本当 truth, real thing EP təçà WP təçá
- 186-5. 文字 letter, writing EP láí WP lei? (SK lì?) cf. Mon /ləc/
- 186-6. 書く write EP kē, kwē WP kwé (SK kwé?)

- 186-7. 読む read EP pō WP phō (SK phá?)  
cf. Mon /pòh/, Burmese /pha?/  
186-8. 紙 paper EP càkhô WP sa?khàu (SK  
sá?khó) cf. Burmese /se?kù/, Mon  
/cakkhau/  
187. 呼ぶ call EP kò WP ko? (SK kó?)  
187-1. 命令する order, command EP ?ánmân WP  
?ànmò (SK mǎ)

## &lt; 遊び・芸術 &gt;

189. 遊ぶ play EP lókwè WP lòkwé (SK  
lò?kwé)  
190. 歌う sing EP mà thàkhú WP θa??wì (SK  
θá?wì)  
191. 踊る dance EP thóuwlī WP yáthələin (SK  
yēkəli)

## &lt; 授受 &gt;

192. やる give EP phílân, phlân WP phèlân,  
phlân (SK hē)  
(EP) jə- phlân ?əwè kú  
1sg やる 3se 菓子  
「私は彼に菓子をやった」  
(WP) jə- phlân ?əwè kò  
1sg やる 3se 菓子  
「私は彼に菓子をやった」  
192-1. 手に入れる get EP nī WP nē (SK nē)  
192-2. 売る sell EP ?ánchâ WP ?ànshà (SK  
shá)  
192-3. 買う buy EP xwè WP xwé (SK pyē)  
192-4. 貸す, 借りる lend, borrow EP ?ánlôn WP  
?ànlaun (SK hētə̀lò)  
192-5. (金で) 貸す, 借りる lend, borrow (with money)  
EP ?ánlèin WP ?ànleín (SK hētə̀lò)  
192-5a. お金 money EP páichân WP sé cf.  
Burmese /pai?shàn/ (SK sé)  
192-6. 送る send EP θòun WP θoun (SK  
shyó, có)

## &lt; 対人動作・対物動作 &gt;

193. 会う meet EP dákhôn, tònnon WP  
dàlo?, dákhaun (SK thí(Burmese Sgaw),  
tókj?(Thai Sgaw))  
194. 待つ wait EP ?ókhò, ?ánkhò WP  
kho? (SK ?òkhó?)  
194-1. 真似る imitate, mimic EP màdòn WP  
máďaun  
194-2. ほめる praise EP ?àu WP ?ou?  
194-3. 叱る scold EP ?ánlá WP ?ànla?  
195. 殴る, たたく hit, strike EP dó WP dô (SK  
dó)  
195-a. たたく knock (door) EP dóthó WP  
dòtho? (SK dótə̀kló?)  
195-b. 抱く embrace EP phòunγòun WP wá  
195-1. 頼む ask, request EP ?ánkèin WP  
?ánkéin (SK xé)  
195-2. 手伝う help EP màchòn WP máshó (SK  
māsā)  
195-2a. 救う save EP plài WP má pháunphle?  
(SK mā pūphlé?) cf. Mon /prac/

- 195-a. ぶつかる bump EP báthài WP fàthei?  
196. かみつく bite EP ?áin WP ?àin (SK  
?è)  
197. 取る take EP mǎnt WP mǎnè (SK  
mǎnè, hí?nè)  
198. 持つ, つかむ hold EP kái WP phàun (SK  
phó)  
199. つかまえる catch EP phón WP phàun (SK  
phó)  
200. 放す release EP kwéphaĵā WP phlā (SK  
plā)  
201. 投げる throw EP khwái WP khwei? (SK  
kwí?)  
201-1. 棄てる throw away EP khwáicò WP  
khwei?co?  
202. さわる (無意志的に) touch (unvolitionally) EP  
bá, báthài WP fà, fàthei? (SK bá)  
202-a. さわる (意志的に) touch (volitionally) EP  
kái WP phàun  
203. こする rub EP thàu WP thou? (SK  
thú?)  
204. (ピンなどを) 振る shake EP cùcú WP  
θuwá (SK wiwà)  
204-a. ゆする rock, swing (vt) EP thúwà WP  
thòwa?  
204-b. ゆれる rock, swing (vi) EP wàthó WP  
wátho?  
205. 押す push EP chán WP shàn (SK shó)  
206. 引く pull EP càu WP cou? (SK thú?)  
206-a. 引きずる drag, trail EP càulé WP  
cou?tə̀le?  
207. しぼる squeeze EP bài WP ƒei? (SK  
bí?)  
207-a. はさむ put something between two things EP  
thái WP thei? (SK ti?)  
208. 背負う carry on one's back EP phú WP  
plù (SK wí)  
209. 蹴る kick EP thè (足の甲で), thên (足のひら  
で) WP thò (足の甲, ひらで) (SK təkłà?,  
thú)  
210. 踏む step on, tread on EP jāin WP  
jāin (SK jò)  
210-2. なくなる be lost EP làn mā WP  
lām mā (SK hāmā)  
211. かくす hide, conceal EP kòkíθú WP  
?àukèθù (SK pà? khúθú)  
212. さがす seek EP ?ánxú WP jòxwā (SK  
xú)  
213. みつける find EP dá WP đā (SK thí)  
214. 見せる show EP dàné WP đəu?nài (SK  
dú?nè)  
215. 置く put EP kòkí (口語的), ?ókí (格式ばっ  
ている) WP ?àukè (SK pà?)  
215-1. 包む wrap EP bôn WP ƒaun (SK bó)  
215-2. 広げる unfold EP dà làn WP  
đá lán (SK dá)  
215-2a. たたむ to fold EP dó WP đō (SK  
dó)  
215-4. 入れる put in EP chú lán WP thēin lán



- 215-4a. よそう ladle (cooked rice) EP bàu làn WP 6əu? lán
- 215-5. 出す put out EP thəu thán WP thəu? thán (SK thú?)
- 215-5a. 追い出す drive out, expel EP năn WP năn (SK nó)
216. 集める collect EP pəkòu WP səu?kàun (SK thəphyô) cf. Mon /pa?kom/
217. 作る make EP tain WP táin (SK té)
218. こわす break(vt) EP mà yà?yòn WP mà ya?yáun (SK mā há?yô)
- 218-a. こわれる break(vi) EP yà?yòn WP ya?yáun (SK há?yô)
- 218-b. 割れる break(vi)(as dish, glass) EP thəphà WP thəphə? (SK thəphə?)
- 218-c. 欠ける break off(vi)(as edge) EP phó WP pho? (SK pho?)
- 218-d. ひびが入る crack(vi) EP xè WP xái (SK xē)
219. 直す mend, repair EP tain yì WP má yé (SK bəyô)
220. 裂く tear EP càn WP càn (SK phýô)
- 220-a. 裂ける be torn EP já WP ja? (SK jà?)
221. 曲げる bend EP bò káin WP 6o? kàinkhwán (SK bó? kē)
- 221-a. 曲がる to be bent EP káin WP kàinkhwán (SK kē)
222. 折る bend to break EP bò khā WP 6o? khā (SK bó? kà)
- 222-a. 折れる to be broken (long thing) EP khā WP khā (SK kà)
223. 洗う wash EP ?ánθijà(手足, 皿などを), ?ánchújwà(衣類などを), phlā(顔を), ?ánphlú(頭を) WP θuwa?(手足, 皿などを), ?ánshòwa?(衣類などを), phlā(顔を), ?ánphlú(頭を) (SK 6é手足・皿を, shýu衣類を, plā mê? 顔を, pyí 頭を)
- 223-a. 水浴びする bathe EP ?ánlū thī WP ?ánlū thī (SK lū thī)
224. 巻く wind, roll EP thúu tərài(紙などを), khú(糸などを) WP thú khlēin(紙などを), 6áin(糸などを) (SK thú)
225. むすぶ tie EP kàthəu(糸を結ぶ), cənthəu(物を何かにゆわえつける), 6àin(何かを糸で束ねる) WP ka? (糸を結ぶ), só(物を何かにゆわえつける) (SK sá)
226. ほどく untie EP kwé làn WP kwé lán (SK xē lā)
227. かぶせる, おおう cover EP kà bài, khà bài WP pho? 6ei? (SK ká? bi?, kà bí?)
228. ふくらむ swell EP kà thán(風船などが), phó thán(水疱などが) WP phò thán(風船などが), 6ó thán(水疱などが) (SK kəphó thō)
229. 突き刺す stab, pierce EP chè WP she? (SK shé?)
- 229-a. 引き抜く pull out EP thè WP the? (SK thè?)
230. 切る cut EP mà thé(糸などを), phé thé(木などを), dán thé(魚などを), thái(髪の毛を) WP má the?(糸などを), phe? the?(木などを), dân the?(魚などを), thei?(髪の毛を) (SK dō, kló)
- 230-a. 切れる to be cut EP thé WP the? (SK tē?)
- 230-b. 剃る shave EP lòu WP lóu
231. 混ぜる mix EP lè dèin WP lái xəu? (SK xá xù?)
- 231-a. こねる knead EP chīcà WP shī6o? (SK sixá)
232. 掘る dig EP khəu WP khə (SK khú)
- < 一般動作 >
233. する do EP mà WP má (SK mā)
- 233-1. 始まる begin (vi) EP tài thán WP sa? thán (SK sá? thō) cf. Mon /tac/ 'go out'
- 233-2. 終わる end EP yòn WP yáun (SK wī)
234. うごく move (vi) EP wà WP yáiwā? (SK wá?)
- 234-a. 移動させる move something to another place(vt) EP θau WP θau? (SK θú?)
- 234-b. 移動する move to another place(vi) EP θau θà WP θau? θa?
- 234-2. 転ぶ fall down EP lánthíphā WP lánthíphā
235. 跳ねる jump EP phú WP phú (SK phú)
236. のぼる go up EP thán WP thán (SK thō)
237. おりる go down EP làn WP lán (SK lā)
238. 落ちる fall EP lánthé WP lánthe? (SK lōtē?)
- 238-a. ぶら下がる hanging, pendent EP lánchè WP lánshái
239. 濡れた wet EP có WP 6àsau (SK bácó)
240. 乾いた dry EP xáin(魚など), θu(洗濯物, 池など) WP xáin(洗濯物, 魚など), θwì(池など) (SK xé, θú)
- 240-1. 比べる compare EP thúxòn WP jôxáun
- 240-2. 選ぶ choose EP lwí WP rwí (SK rwé) cf. Burmese /ywe/, Mon /rui/
- 240-3. 慣れる get used EP jújā WP jíjā
- 240-6. 変える change EP ?ánlè WP ?ánlái
- < 知識・精神活動 >
241. 考える think EP chônmon WP sháunmàun (SK shókəmə)
242. 知る know EP θijā WP θējā (SK θēná)
- 242-1. わかる understand EP ná θi WP nàthē (SK nàpà)
243. 忘れる forget EP θànó WP θa?nàn (SK θá?pēnó)
- 243-1. 思い出す remember EP nó thán WP nán thán (SK θēnō thō)
- 243-1a. 覚える memorize EP thònán WP tháunnán

244. 教える teach EP málú phí WP 0àunlò (SK 0òlò)
- 244-1. 教わる, 学ぶ learn EP málú WP málò (SK málò)
245. 恐れる fear EP 0àmé WP 0a?mài (SK plī)
- 245-a. 注意する be careful EP pà 0ətài WP thò ʔə0aʔ
- 245-1. 驚く bet surprised EP càu (驚かされたりしてドキッとする), təmjàn bá 0à (驚嘆する) WP cəuʔ (驚かされたりしてドキッとする), thómithómà (驚嘆する) (SK kəmókəmə)
246. 好む like EP bá0à WP ʔài (SK ʔé) (注) ボー・カレン語で「好む」を一語で言い表すのは難しい。ここで挙げた EP bá0à は「欲しい want」、WP ʔài は「愛する love」の意に近い。それでは「好む」はどのように表現されるのか? 一例を挙げると、食べ物であれば「食べておいしい」、娯楽などであれば「して楽しい」ということを分離型動詞連続を用いて表す。これがボー・カレン語において「好む」という心理を表現する最も一般的な方法である。
- (EP) jə- ʔán khò0á ʔwí  
1sg 食べる マンゴー おいしい  
「私はマンゴーが好きだ」
- (WP) jə- ʔàn khoʔ0à ʔwì  
1sg 食べる マンゴー おいしい  
「私はマンゴーが好きだ」
- (EP) jə- p5 láíʔàu jò máu  
1sg 読む 本 この 楽しい  
「私はこの本が好きだ」
- (WP) jə- phò leiʔouʔ jó məwʔ  
1sg 読む 本 この 楽しい  
「私はこの本が好きだ」
- 246-a. 愛する love EP ʔé WP ʔài (SK ʔé)
- 246-b. 楽しい, 心地よい happy, amused, comfortable EP máu WP məwʔ (SK mùʔ)
- 246-1. 嫌う, 憎む dislike EP 0àŷáin WP 0aʔŷáin, méléi (SK 0áʔhé)
247. 喜ぶ glad EP 0àxwí WP 0aʔxwí (SK 0áʔphyí)
- 247-1. 悲しむ sad EP 0àlàn WP 0aʔlàn (SK 0áʔʔúʔ)
- 247-3. 信ずる believe EP nèʔán WP náí (SK nàʔ)
248. 怒る get angry EP 0àthán WP 0aʔthán (SK 0áʔ thó)
- 248-1. ゆるす forgive EP plètò WP phlá
- 248-2. 恥ずかしがる be ashamed EP ká0à WP meʔmái (SK mèʔshyáʔ)
- 248-3. 心配する be anxious EP kətò WP khàinkeiʔ
- 248-4. がまんする be patient EP thōun WP thōun (SK tù)
- 248-5. 馬鹿な stupid EP kəthú WP ʔəuʔʔaʔ
249. 心 heart, mind EP 0à WP 0aʔ (SK 0áʔ)
- 249-1. きちがい insane, mad EP phlū WP phlū (SK plū)
250. 空 sky EP mākú WP mouʔkhò (SK múkhò)
251. 雲 cloud EP chəʔəun WP shəʔə (SK tàʔə)
252. 霧 fog EP chàn WP shán (SK pəs)
253. 雨が降る to rain EP chən WP shá (SK sū)
254. かみなり thunder EP lân WP làn (SK ló)
- 254-a. かみなりが鳴る to thunder EP lân xwèin WP làn xwéin (SK ló pyē)
255. 稲妻が光る to lighten EP lân wēdài WP làn wāideiʔ (SK ló phláʔ)
256. 虹 rainbow EP lânlanʔəthi (「水を飲みに下りたかみなり」の意) WP lân (「かみなり」に同じ) (SK təkwe)
257. 雪 snow EP なし WP なし
258. 氷 ice EP thikhólón (「凍った水」の意) WP thilóun (「水の石」の意) (SK thikhólò)
259. 凍る freeze EP khólón WP khleínlanʔaʔ (SK lō0əkā)
260. 溶ける melt EP phlī làn WP phī thàn (SK pyi)
261. 太陽 sun EP mūmé WP múmeʔ (SK mūmēʔ)
262. 月 moon EP là WP lá (SK lá)
263. 星 star EP cá WP cà (SK shá)
264. 光 light EP chəphàn WP shəphán (SK tàkəp5)
265. かげ shade EP làcú WP làdú, shədú (SK tàkədú)
266. 明るい light, bright EP phàn WP phán (SK kəp5)
267. 暗い dark EP khài WP khiʔ (SK khiʔ)
268. 風 wind EP lì WP lí (SK kəli)
269. 風が吹く wind blows EP lì ŷé, lì ʔú WP lí yài, lí ʔù (SK kəli ʔú)
- 269-1. 静かな silent EP jūjēin WP kəsú
- 269-1a. うるさい noisy EP 0àu WP 0ouʔ
270. (客観的に) 暑い hot (objectively) EP khū WP khò (SK kò)
- 270-a. (主観的に) 暑い hot (subjectively) EP khūʔwì WP khò0əwí (SK kò0əwáʔ)
271. (客観的に) 寒い cold (objectively) EP khleín WP khleín (SK khú)
- 271-a. (主観的に) 寒い cold (subjectively) EP ŷōn WP ŷāun (SK yò)
272. 暖かい warm EP lən WP ló (SK là)
- 272-1. 地面 ground, land EP yánkhú WP yánkhò (SK hòkhò)
- 272-1a. 地震が起きる to earthquake EP yánkhú wà WP phùshì yú
273. 山 mountain EP khólón, lân (岩山) WP khóláun (SK kəsə)
274. 森, ジャングル forest EP mēnlá WP cəʔ (SK pyà)
275. 野原, 平原 field, plain EP jwāpràn, wāpràn WP shəplánphó (SK plópū)

&lt; 地学 &gt;

276. 湖,沼 lake EP nóN WP nàun (SK nó)  
 276-a. 池 pond EP kəmə WP kəmə  
 cf. Mon /kaʔma/  
 277. 川 river EP cúkhló, thíkhló WP ʔíkhloʔ,  
 thíkhloʔ (SK thíkló) cf. Mon /bi/  
 278. 泡 bubble EP pjəu WP thiʔəluʔ (SK  
 thíʔəbyé, sípóló)  
 279. 沈む sink EP lənbən WP lánbá (SK  
 lənbá)  
 280. 浮かび上がる float EP thánphó WP  
 thànphó (SK thóphó)  
 281. 流れる flow EP lánjwà WP lánjwá (SK  
 ləjwá)  
 282. 川岸 shore EP cúnàin WP thikhloʔnàin  
 (SK kənī)  
 283. 海 sea EP máchəməi WP pànle (SK pólé)  
 cf. Mon /saʔmasaʔmac/, Burmese /pɪnlə/  
 284. 波 wave EP ləpò WP ləpó (SK ləpó)  
 cf. Mon /lèəʔpoh/  
 285. 島 island EP kò WP klóun (SK kóʔ)  
 cf. Mon /taʔkəʔ/, Thai /kəʔ/  
 286. 石 stone EP ləun WP loun (SK là)  
 286-a. 石灰 limestone EP bən WP ʔó  
 287. 砂 sand EP pətì WP meʔ (SK méʔ)  
 cf. Mon /haʔtvi/  
 288. 土,泥 soil, mud EP pháí WP pheíʔ (SK  
 píʔ)  
 288-3. 鉄 iron EP thà WP thaʔ (SK tháʔ)  
 288-4. 金 gold EP thôn WP thàun (SK thú)  
 288-5. 銀 silver EP cì WP sé (SK sé)  
 288-6. 銅 copper EP thōN WP thāun (SK  
 tò)

< 植物 >

289. 木 tree EP théin WP thèin (SK thè)  
 290. 草 grass EP nán, nó WP nàN (SK nò)  
 290-a. 草をむしる pick off grass EP thè nó WP  
 theʔ nàN  
 291. 幹 trunk EP théin ʔətháun WP  
 thèin ʔəthà (SK ʔəthú)  
 292. 樹皮 bark EP théinphài WP thèinphèiʔ (SK  
 ʔəbè)  
 293. 茎 stem EP ʔəbònxwí WP ʔəbáunxwì (SK  
 ʔəbó)  
 294. 枝 branch EP ʔəthàin WP ʔətháin (SK  
 thédé)  
 295. 葉 leaf EP ʔəlá WP ʔəlà (SK ʔəlá)  
 295-1. つる creeper, vine EP mū WP mú  
 295-2. 棘 prickly, thorn EP chəchúí WP  
 shəshù (SK tàshyú)  
 296. 花 flower EP phó WP phau (SK phó)  
 297. 根 root EP ʔəwī WP ʔəwí (SK ʔəyì)  
 298. 生える grow, come out EP mé thán WP  
 mài thàn (SK mé thó)  
 298-1. 実がなる bear fruit EP ʔá thán WP  
 ʔà thàn (SK ʔà thó)  
 299. 枯れる wither EP lánji WP lánjeiʔ (SK  
 ləpwiʔ)

- 299-a. ココヤシ coconut EP phlò WP  
 phláu (SK xō)  
 299-b. サトウキビ sugar cane EP chípó WP  
 shípóʔ (SK thípóʔ)  
 299-1. 竹 EP wá WP wà (SK wá)  
 299-2. きのこと mushroom EP xəN WP xó

< 植物 >

300. 動物 animal EP chəphúchəli WP  
 shəphòshəxá (SK shəphókòphó)  
 301. 鳥 bird EP thú WP thò (SK thò)  
 302. 魚 fish EP já WP jà (SK nà)  
 303. 虫 insect EP chəphúchəxá WP shəphòshəxá  
 (SK tàphóxà)  
 304. 犬 dog EP thwí WP thwì (SK thwì)  
 304-1. 猫 cat EP mỳò WP mỳáu (SK ʔəmỳj)  
 304-2. 馬 horse EP kəthí WP ʔè (SK kəthé)  
 304-3. 牛 cattle, etc. (注) 両方言とも地域によって  
 様々な呼び方がある EP khlí, wəbèin,  
 chənəN WP khláu, shəméin (SK klò)  
 cf. Mon /kləə/  
 304-3a. 水牛 buffalo EP pənā WP pənā (SK  
 pənā)  
 304-6. 豚 pig EP thò WP thoʔ (SK thóʔ)  
 304-7. 鶏 chicken EP chān WP shān (SK  
 shó)  
 304-9. 虎 tiger EP khí WP ʔó (SK bəʔó)  
 304-14. 猿 monkey EP chəʔəu WP shəʔouʔ (SK  
 tãʔúʔ)  
 304-15. 兎 rabbit EP pədè WP pədāi (SK  
 pədé) cf. Mon /haʔtai/  
 304-16. 鼠 mouse EP jū WP jù (SK jù)  
 304-17. 象 elephant EP kəchān WP kəshān (SK  
 kəshó)  
 304-21. 蟹 crab EP chwé WP shwè (SK  
 shwé)  
 304-22. 蝦 shrimp EP ʔədán WP ʔədān (SK  
 ʔədó)  
 305. 貝 shellfish EP khrú WP khrò (SK  
 khlo)  
 305-a. 貝がら shell EP kù WP kú  
 305-4. 鵞鳥 (ガチョウ) goose EP thúthà WP  
 thòthá (SK thòdè)  
 305-5. 山鳩 rufous turtle-dove EP lwī WP  
 lwí (SK lwí)  
 305-6. 鴉 (カラス) crow EP klà WP klaʔ  
 305-7. 雀 sparrow EP thúxwài WP thòxweiʔ,  
 thòʔouʔphò (SK thòphíʔ)  
 305-8. 蝶々 butterfly EP jânkòphèin WP  
 phidòʔkhá (SK səkəpè)  
 306. アリ ant EP thəunxwī WP thú (SK  
 tà)  
 306-1. 蜘蛛 spider EP kànchò WP khān (SK  
 kəpō)  
 306-2. 蜜蜂 bee EP nì WP nè (SK kənè)  
 307. 蚊 mosquito EP cícòN WP shəphò (SK  
 pəsō)  
 307-a. 蚊帳 mosquito net EP ʔòun WP  
 tənau cf. Mon /kaʔnao/

308. ハエ fly EP diùlā WP dūlā (SK θābūlā, θābīlā)
- 308-a. ゴキブリ cockroach EP phlɔ́0ánā WP phláu0à
310. しらみ louse EP θáun WP θà (SK θú)
311. ヘビ snake EP wū WP yú (SK yù)
- 311-1a. ヤモリ house lizard EP dānlāin WP dānlāin
- 311-1b. カメ turtle EP khlài WP khlei? (SK khlí?)
- 311-1A. カエル frog EP dí WP dē (SK dē)
312. つの horn EP ?ənòun WP ?ənóun (SK ?ənā)
314. 尾 tail EP ?əmī WP ?əmə (SK ?əmə)
315. くちばし beak EP ?əno WP ?əno? (SK ?əno?)
316. つばさ wing EP ?ədài WP ?ədei? (SK ?ədi?)
317. 羽毛 feather EP thúchón WP thòshàun (SK ?əshú)
318. 巢 nest EP ?əθwī WP ?əθwī (SK ?əθwī)
319. 飛ぶ to fly EP jù WP jú (SK jū)
320. 泳ぐ swim EP jā thī WP jā thī (SK pò thī)
- 320-1. 鳴く cry (animals or insects) EP yánkò WP yánkò?
- 320-1a. 吠える bark (dog) EP màn WP mán (SK mō)
- 320-2. 卵を生む lay eggs EP dí làn WP dī lán (SK dī lō)
- 320-3. 飼う raise, rear EP ?ánbú làn WP ?ànlú (SK bú lō)
- <形・色・音・匂>
321. 円い round (circle) EP wànkhwàn WP khwán (SK kəwō)
- 321-a. 丸い round (sphere) EP póunlóun, phóunlóun WP phlòun (SK phlō)
322. すどい (包丁の刃など) sharp EP ?áin (85. 「かむ」に同じ) WP nəu? (170. 「入る」に同じ) (SK ?è)
- 322-a. とがっている (針など) sharp-pointed EP cù WP sú (SK sú)
323. 鈍い dull EP lànłai WP lánlei? (SK lū)
- 323-1. 平らな flat EP xú, xúxàn WP xán (SK pō)
324. 穴 (壁などの突き抜けた穴) hole EP chəphōun WP ?əphōun
- 324-a. 穴 (地面などの突き抜けていない穴) hollow EP chəphən WP ?əphá (SK tàpū)
- 324-1. くぼんだ be hollow EP làn?óun WP lán?òun (SK lōpā)
325. まっすぐな straight EP lòn WP láun (SK lō)
- 325-4. 物 thing EP chə, chā WP shā (SK tà)
326. 大きい big EP dú WP xó (SK dō)
327. 小さい small EP pī WP shei? (SK shí?)
328. 長い long EP thau WP thō (SK thō)

- 328-a. (時間が) 長い long (time) EP jái WP jei? (SK jì?)
329. 短い short EP phɛ WP phè (SK phú)
- 329-a. (時間が) 短い short (time) EP mō WP mō
330. 厚い thick EP tán WP tàn (SK tō)
331. 薄い thin EP bən WP ố (SK bú)
332. 色 color EP ?əljā, ?əjón WP ?əlwè (SK ?əlwè) cf. Mon. /lèəʔjèəh/, Burmese /ʔəyàun/
333. 赤い red EP yò, wò WP yáu (SK yō)
334. 青い blue EP lá WP pjà (SK lá)
335. 黄色い yellow EP bàn WP ốán (SK bó)
336. 緑色の green EP jī WP jè (SK láhé)
337. 白い white EP ?wà WP ốwá (SK wá)
338. 黒い black EP 0ən WP 0ə (SK 0ú)
- 338-a. 茶色い brown EP làu WP lou? (SK xá?)
- 338-1. 塗る to paint EP yú WP yù (SK phú)
339. 音 sound EP ?əθō WP ?əθau (SK tàθō)
340. におう to smell EP nən WP nà (SK nó)

## &lt;性質&gt;

- 340-4. 勇気のある brave EP bóun (一時的な気持), dū (恒常的性格) WP bà (一時的な気持), dú (恒常的性格) (SK bú, dú)
- 340-8. 怠ける lazy EP cóun WP cə (SK kə)
341. 強い strong EP chón WP shàun (SK shū)
343. 正しい correct, right EP bá WP ốà (SK bà)
- 343-A. 間違った wrong EP má WP ốàmà (SK kəmā)
344. 良い good EP yì, tēinnēin WP yé, məŋá (SK yē)
- 344-A. 似合う, ふさわしい to suit, to fit EP kəlɔ́ WP kri? (SK krə?) cf. Mon. /kraək/
345. 悪い bad EP ?ən WP ?á (SK ?ə)
- 345-1. 易しい easy EP jō WP jàu (SK jō)
- 345-2. 難しい difficult EP ká WP kà (SK kō)
- 345-2a. 困難 difficulty, hardship EP chəkáchəyè WP shəkàshəyái
- 345-4. きつい tight EP kəthái WP ka? (SK xí?)
- 345-5. ゆるい loose EP khlán WP khlàn (SK kló) cf. Burmese /chàun/ (Written Burmese khyon), Mon. /khlan/
346. すべっこい smooth EP phlī WP phlè (SK blé)
347. 古い old EP lānlī WP lānlí (SK lī)
348. 新しい new EP 0ān WP 0àn (SK 0ó)
349. 美しい beautiful EP xīlā WP xīlá (SK xīlā)
- 349-1. みにくい ugly EP lá?ən WP xòxā
350. 清潔な clean EP pràn, chēin WP plán, shēin (SK kəshyó)

351. 汚い dirty EP cícá WP ʔàθaʔlò (SK báʔó) (注)WP 形式に対応する EP の ʔàlò は「気味が悪い detest, loathsome」の意。EP 形式に対応する WP の形式は存在しない。
352. 固い hard EP nòn WP náun (SK kō)
- 352-a. 堅固な firm, solid EP khân WP khà cf. Burmese /khàin/, Mon /khaəŋ/
353. 柔らかい(綿など) soft (as cotton) EP pháu WP phou? (SK kəpùr?)
- 353-a. 柔らかい(調理した肉など) soft (as meat) EP bè WP ʔái
- 353-b. 柔らかい(肌が) soft (as skin) EP bán WP ʔàn
- <空間>
- 353-1. 場所 place EP ʔəlān WP ʔəlān (SK təlò)
354. 前 front EP ʔəméjā WP ʔəmeʔjā (SK ʔəməʔjā)
355. 後 back EP ʔəlānkhân WP ʔəlānkhân (SK ʔəlòkhí)
356. 間 between EP ʔəklā, ʔəθàklā WP ʔəklā (SK ʔəklā)
357. 上 upside EP ʔəphānkhó WP ʔəphānkhò (SK ʔəphókho)
358. 下 downside EP ʔəphānlā WP ʔəphānlā? (SK ʔəphólā?)
359. 中 inside EP ʔəphān WP ʔəphā (SK ʔəpū)
360. 外 outside EP khôn WP khāun (SK ʔəkhól)
361. 右 right EP ʔəxò WP sùthwè (SK súthwé)
362. 左 left EP ʔəcí WP sùsè (SK súsè)
363. 先端 point, tip EP ʔəkhúthò WP ʔəkhútho? (SK ʔəđókho)
- 363-a. 端(はし) edge EP ʔənáin WP ʔənáin
364. 近い near EP bàu WP ʔou? (SK búʔ)
365. 遠い far EP jàin WP jáin (SK jī)
366. 高い high EP thó WP thāu (SK thó) cf. 328
367. 低い low EP phí WP phì (SK phú) cf. 329
368. 深い deep EP jó WP joʔ (SK jòʔ)
369. 浅い shallow EP chū WP phì (SK dō)
370. 広い wide EP lē WP lái (SK lè)
371. 狭い narrow EP ʔéin WP ʔain (SK ʔi)
372. いっしょに together EP phléphlé WP màunxáun (cf. 455) (SK ʔəkóʔəkóʔ)
373. 満ちた full EP xwè WP xwé (SK pyē)
374. 空っぽの empty EP plòplò WP ʔókhól (SK ʔókól)
- 374-a. 暇な free EP khlàu WP khāu (SK khúʔ)
- 375-1. 東 east EP mūthán WP mūthàn (SK mūthò)
- 375-2. 西 west EP mūnáu WP mūnəu? (SK mūnùʔ)
- 375-3. 南 south EP máithàkhó WP mūkhèin, líkhì (SK kəlthíʔ)

- 375-4. 北 north EP khánthàilā WP líthei? (SK kəlīsòʔ) (注)南と北の呼び方は地域によって異なることが多く、両方言とも 375-3, 375-4 は一例にすぎない。また南と北の呼び方を知らないボー・カレン人も多い。スゴー・カレン語でもこれと似た傾向がある。

<時間>

376. 朝 morning EP kəyò, kəwò WP yáukhāu (SK mùyō)
- 376-1. 正午 noon EP mūtháun WP mūthò (SK mūthú)
377. 昼間 daytime EP kəmərchā WP mūshā (SK mūshā)
378. 夕方 evening EP kəyā WP mūyā (SK mūhā)
379. 夜 night EP kəməūnā WP mūnā (SK mūnā)
380. 早い early EP chū WP shò (SK shó)
- 380-a. 朝早い early in the morning EP yò, wò WP yáu (SK yō)
381. おそい late EP təcwī, phlāi WP jeiʔnān, nāuca? (SK phlīʔ, sēkhí) cf. Burmese /nauʔcā-/
382. 今 now EP ʔəkhājò WP ʔójó (SK khéʔ)
383. ~する前に before EP kəā... dài bá WP ləkhləuʔ... deiʔ ʔà (注)EP の kəā はおそらく Pali kāla の借用(第 21 章参照)。一方、WP の ləkhləuʔ は khləuʔ 「間に合う」に否定辞がついたもの。
- (EP) kəā ʔəwè lə- yê dài  
とき 3se (否) 来る まだ
- bá | jə- mə- lì  
(否') 1sg (非現) 行く  
「彼が来る前に私は行く」
- (WP) ləkhləuʔ ʔəwè lə- yài deiʔ  
前 3se (否) 来る まだ
- ʔà | jə- kə- lé  
(否') 1sg (非現) 行く  
「彼が来る前に私は行く」
- 383-a. 以前 before, formerly EP ʔəwī WP ʔəyū
384. あとで afterwards EP ʔəlānkhân, ləkhân WP ʔəlānkhân, ləkhân (SK ló khí)
385. いつも always EP klə WP kəthixān (SK thóbó)
386. しょっちゅう often EP chùchùchùchù, ləthəlàiləthəlàl WP khoʔmaʔkhoʔmaʔ (SK tənéʔnéʔ)
- 386-1. ときどき sometimes EP kəblānkhā WP ʔəkəcàcà
387. 今日 today EP lənijò WP kənijó (SK tənīʔ)
388. 昨日 yesterday EP mūyā WP mūyā (SK məhákəʔ)
- 388-a. 一昨日 the day before yesterday EP təyā WP təyāní, kəyāní
389. 明日 tomorrow EP kəkhó WP kòmūshāiní (SK khémūshè)

- 389-a. 明後日 the day after tomorrow EP kètòkhó  
WP kòtəshàini
390. 毎日 everyday EP kò nì dè, 0èi0èini WP  
ko? ní dè?, kònikòni (SK kó? ní dè?)
391. 日 day EP mūni WP múni (SK múni)
- 391-A. 時間 time EP ʔəchónʔəthɔ̃, ʔəkhèinʔəkhá  
WP ʔəshàʔəthɔ̃, ʔəkhèinʔəkhá  
(SK tàshókətɔ̃)
- 391-1. 一週間 one week EP lə- nwé WP kə-  
nwí (SK tə- nwí)
- 391-2. 月 month EP là WP lá (SK lá)
392. 年 year EP néin WP nèin (SK ní)
- 392-a. 昨年 last year EP məyɪ WP mánkánèin
- 392-b. 来年 next year EP nān néin dɔ̃ WP  
nān nèin dɔ̃?
- 392-c. 暑期 hot season EP chəjòkhá WP  
shəjəukhá
- 392-d. 雨期 rainy season EP chəchənkhá WP  
shəshókhá
- 392-e. 涼期 cool season EP chəyōnkhá WP  
shəyāunkhá
- 392-1. 年齢 age EP ʔəyáu WP 0a? (SK 0á?)  
cf. Mon /ʔayək/, Pali /āyu/
- <数・量>
393. 数える count EP ná WP wí (SK yì)
394. 1 EP lón / lə- WP là / kə- (SK  
tá) (注)EP,WP ともにスラッシュの左は  
単独で使われる場合の形。スラッシュの右は助数  
名詞が後続する場合の形。以下同様。併記しない  
場合はどちらも同じ形が使われる。
395. 2 EP ní / nī WP nì / ní (SK khí)
396. 3 EP 0əN / 0əN WP 0ə / 0ə (SK 0á)
397. 4 EP lí WP lí (SK lwì)
398. 5 EP jɛ WP jái (SK jè)
399. 6 EP xú / xū WP xù / xú (SK  
xú)
400. 7 EP nwé / nwē WP nwì / nwí (SK  
nwí)
401. 8 EP xó WP xo? (SK xó?)
402. 9 EP khwɪ WP khwì / khwí (SK khwí)
403. 10 EP ləchí WP kəshì (SK təshí)
404. 20 EP nīchí WP níshì (SK khíshí)
405. 100 EP ləjà, ləphān (物の価格についてのみ  
使われる形) WP kəjá (SK təkəjā)
- 405-11. 1,000 EP ləthôn, ləməN (物の価格に  
ついてのみ使われる形) WP kəthəun (SK  
təkəthó)
- 405-14. 10,000 EP ləlá WP kəla?
406. 回 time EP phān, blān WP cà, blān (SK bló)
- 406-a. 1個 (一般的) one thing EP lə- dùn WP  
kə- dú (SK tə- dú)
- 406-b. 1回 one time EP lə- phān WP kə-  
cà (SK tə- bló)
- 406-c. 1枚 one flat thing EP lə- béin WP  
kə- bèin (SK tə- bè)
- 406-d. 1個 (丸いもの) one round thing EP lə-  
phlóun WP kə- phlóun (SK tə- phlá)

- 406-e. 1本 one long thing EP lə- bòn WP  
kə- báun (SK tə- bó)
- 406-f. 1人 one person EP lə- yà WP kə-  
yá (SK tə- yā)
- 406-g. 1匹 one animal EP lə- dùn WP kə-  
dú (SK tə- dú) (注)両方言とも哺乳  
類を数えるときにはこれを用いるが、鳥類・爬虫  
類・昆虫などを数えるときには EP béin, WP  
bèinを用いる (cf.406-c)。ただし蛇を数えるとき  
には EP bòn, WP báunを用いる (cf.406-e)
- 406-h. 1台 one vehicle EP lə- khú WP kə-  
khò (SK tə- khò)
- 406-5. 二人目 second person EP nī yà lə-  
yà WP ní yà kə- yà (SK khí yā tə- yā)
407. 全部 all EP láuchéin WP thə ʔəlou  
(SK khélə?)
- 407-1. 誰も everyone EP kò yà dè WP  
ko? yà dè? (SK kó? yā dè?)
408. 半分 half EP lətwà WP kətwà? (SK  
təwá?)
- 408-4. 測る, 計る, 量る measure EP thú WP  
thò (SK thò)
409. 重い heavy EP xəN WP xə (SK xó)
410. 軽い light EP xwí WP xwì (SK phyí)
411. 多い many EP ʔá WP ʔà (SK ʔá)
412. 少ない few EP cə WP cə (SK syā)

## &lt;代名詞など&gt;

413. わたし I EP jə WP já (SK jā) (注)  
人称代名詞は、動詞や前置詞の目的語位置に現れ  
る形 (第二形) を挙げておく。
414. わたしたち we EP hə WP bá (6でなく b  
であることに注意) (SK pyā)
415. おまえ thou EP nə WP ná (SK nā)
416. おまえたち ye EP nəθi WP nəθi (SK  
θú)
417. 彼, 彼女 he, she EP ʔə, ʔəwə WP  
ʔəwə (SK ʔɔ̃, ʔəwé)
418. 彼ら, 彼女ら they EP ʔəθi WP ʔəwəθi (SK  
ʔəwéθè)
419. 自分 oneself EP nānkəchā WP nānkəshā  
(SK kəsà)
420. これ this one EP ʔəjò WP ʔəjó (SK  
ʔəʔi)
421. あれ, それ that one EP ʔənó WP ʔənò (SK  
ʔənè)
422. ここに here EP lé jò, thəN jò WP lə-  
jó, thəjó (SK lá ʔi)
423. あそこに, そこに there EP lé nó, thəN nó  
WP lə- nó, thənó (SK lá nè)
424. 誰 who EP pò, phlóun WP məpá (SK  
mətā)
- (EP) pò lì lé  
誰 行く (疑)  
「誰が行ったのか?」
- (WP) məpá lé lài  
誰 行く (疑)  
「誰が行ったのか?」

425. 何 what EP chənó WP mənò, mənài (SK mənū)  
 (EP) nə- ?án chənó lē  
 2sg 食べる 何 (疑)  
 「あなたは何を食べたのか？」  
 (WP) nə- ?án mənò lài  
 2sg 食べる 何 (疑)  
 「あなたは何を食べたのか？」
426. どれ which EP khòkhò+ 助動詞詞 WP thəthə- + 助動詞  
 (EP) nə- ?án khòkhò dùu lē  
 2sg 食べる どの ~ 個 (疑)  
 「あなたはどれを食べたのか？」  
 (WP) nə- ?án thəthə- dúu lài  
 2sg 食べる どの ~ 個 (疑)  
 「あなたはどれを食べたのか？」
427. どのように how EP bēthí lē, bēthíthò lē, píthò lē WP pəthè lài (SK dí? lē)  
 (EP) nə- ?án mì bēthí lē  
 2sg 食べる ご飯 いか (疑)  
 「あなたはご飯をどのように食べますか？」  
 (WP) nə- ?án mé pəthè lài  
 2sg 食べる ご飯 いか (疑)  
 「あなたはご飯をどのように食べますか？」
428. どこ where EP khó lē WP khəlài, thəlài (SK phélē)  
 (EP) nə- ?án mì khó lē  
 2sg 食べる ご飯 どこ (疑)  
 「あなたはご飯をどこで食べましたか？」  
 (WP) nə- ?án mé khəlài  
 2sg 食べる ご飯 どこで  
 「あなたはご飯をどこで食べましたか？」
429. いつ when EP cìcì lē, cìcìcì lē WP məshei? lài (SK ?əkhá phélē)  
 (EP) nə- ?án mì cìcì lē  
 2sg 食べる ご飯 いつ (疑)  
 「あなたはご飯をいつ食べましたか？」  
 (WP) nə- ?án mé məshei? lài  
 2sg 食べる ご飯 いつ (疑)  
 「あなたはご飯をいつ食べましたか？」
430. いくつ how many EP xwē WP xwē (SK pŷē) (注) 後ろに助数名詞を置いて用いる。  
 (EP) khòthá xwē phlóun lē  
 マンゴー いくつ ~ 個 (疑)  
 「いくつのマンゴーか？」  
 (WP) kho?thá xwē phlóun lài  
 マンゴー いくつ ~ 個 (疑)  
 「いくつのマンゴーか？」
- 430-1. いくら how much EP cá lē WP xwēthè lài (SK shí?á lē)  
 (EP) bá phlân cá lē  
 (当為) 払う いくら (疑)  
 「いくら払ねばならなかったのか？」  
 (WP) bá phlân xwēthè lài  
 (当為) 払う いくら (疑)  
 「いくら払ねばならなかったのか？」
431. いくつか some EP kənò, lənò WP lənánán (SK tənò)  
 (EP) kənò lənò  
 2sg 食べる いくつか (疑)  
 「あなたはご飯をいくつか食べましたか？」

- 431-a. 少し a little EP ləcè WP kəshei? (SK təcè?)
- <副詞・接続詞など>
- 431-1. とても, 非常に very EP chá, cwá, nànlé WP dōma?, ?áci, na?na?le? (SK dōmá?, ná?má?) cf. Burmese /?áji/  
 (EP) yì chá  
 良い 大変  
 「非常に良い」  
 (WP) mənà ?áci  
 良い 大変  
 「非常に良い」
- 431-1a. あまり ~ でない not very EP pəthài WP pho?nò  
 (EP) yì pəthài ?é  
 良い あまり (否)  
 「あまり良くない」  
 (WP) mənà pho?nò ?e?  
 良いそれほど (否)  
 「あまり良くない」
- 431-2. 最良の best EP yì tháu WP yé thəu? (SK yé kətə)  
 431-3. 全然 not at all EP nān ... ?é WP nān ... ?e? 両方言とも、間に助数名詞を入れ、全体を文末に置く。 (SK nó tə- ... bá)  
 (EP) phlóun ?ó nān yà ?é  
 人 いる (少数) ~ 人 (否)  
 「人が一人もいない」  
 (WP) pəcá ?àu nān yá ?e?  
 人 いる (少数) ~ 人 (否)  
 「人が一人もいない」
- 431-4. ~ すぎる too ... EP ... thəlân WP ... lə (SK ... lù?kwí?)  
 (EP) pì thəlân  
 小さい すぎる  
 「小さすぎる」(分離型動詞連続)  
 (WP) shei? lə  
 小さい すぎる  
 「小さすぎる」
- 431-5. より良い better EP yì dá WP yé nàin (SK yé nè) (注)EP の dáおよび WP の nàinはともに動詞助詞。前置詞ではない。  
 (EP) ?əjò yì dá ?əno  
 これ 良い より あれ  
 「これはそれより良い」  
 (WP) ?əjò yé nàin ?əno  
 これ 良い より あれ  
 「これはそれより良い」
432. また again EP dō, nān phān dō WP dō?, nān cà dō? (SK kədó?, nó tə- bló)
433. まだ yet, still EP dài WP dei? (SK dí?)  
 (EP) ?əwē ?án thākwiθá dài  
 3se 食べる バナナ まだ  
 「彼はまだバナナを食べている」  
 (WP) ?əwē ?án thākwiθá dei?  
 3se 食べる バナナ まだ  
 「彼はまだバナナを食べている」

434. もう already, any longer EP jàu (肯定文で),  
làn (否定文で) WP jou? (肯定文で), lá (否  
定文で) (SK lí, lā)

(EP) ?əwè lì jàu  
3sg 行く (完)  
「彼はもう行ってしまった」

(WP) ?əwè lé jou?  
3sg 行く (完)  
「彼はもう行ってしまった」

(EP) ?əwè lì làn ?é  
3sg 行く もう (否)  
「彼はもう行かない」

(WP) ?əwè lé lá ?e?  
3sg 行く もう (否)  
「彼はもう行かない」

435. もし if EP ?è... WP ... 6ó (SK mè...)

(EP) ?əwè ?è yê |  
3sg (条件) 来る

jə- lì ?é  
1sg 行く (否)  
「彼が来るなら私は行かない」

(WP) ?əwè yài 6ó |  
3sg 来る (条件)

jə- lé ?e?  
1sg 行く (否)  
「彼が来るなら私は行かない」

#### < 助詞など >

436. ~へ, ~に (到着点) to EP lə-, lé, lú WP  
lə-, lá (SK lá)

(EP) jə- lì lé ləkōun  
1sg 行く (場) ランゲーン  
「私はランゲーンに行った」

(WP) jə- lé lá təkhouN  
1sg 行く (斜) ランゲーン  
「私はランゲーンに行った」

437. ~まで till EP thōN WP thó (SK tū)  
cf. EP thōN 「着く」 WP tháun 「着く」(233-2)

(EP) thōN ?ə- thōN lə- nàdì  
まで 3sg 着く 1 時  
「1 時まで」

(WP) thó ?ə- tháun kə- nàdì  
まで 3sg 着く 1 時  
「1 時まで」

438. ~から from EP lə-, lé, lú WP lə-,  
lá (SK lá)

(EP) jə- yê lé ləkōun  
1sg 来る (場) ランゲーン  
「私はランゲーンから来た」

(WP) jə- yài lá təkhouN  
1sg 来る (斜) ランゲーン  
「私はランゲーンから来た」

439. ~で; に (場所) in EP lə-, lé, lú WP  
lə-, lá (SK lá)

(EP) jə- ?ó lé ləkōun  
1sg いる (場) ランゲーン  
「私はランゲーンにいる」

(WP) jə- ?au lá təkhouN  
1sg いる (斜) ランゲーン  
「私はランゲーンにいる」

441. ~と (共同) with EP dē, dē WP lə-,  
lá (SK dō?)

(EP) jə- lì ləkōun dē ?à  
1sg 行く ランゲーン (共) 3SG  
「私は彼とランゲーンに行った」

(WP) jə- lé təkhouN lá ?əwè  
1sg 行く ランゲーン (斜) 3sg  
「私は彼とランゲーンに行った」

442. ~と (列挙) and EP dē WP lə-, lá (SK  
dō?)

(EP) ?əjò dē ?əjò  
これ (列挙) これ  
「これとこれ」

(WP) ?əjò lá ?əjò  
これ (斜) これ  
「これとこれ」

443. ~の (所有) of, 's EP chərà ?ə- láí?àu (先生の  
本; the teacher's book) WP shərà ?ə- lei?  
?ou? (先生の本) (SK θərà ?ə- lì?) (注) 両  
方言とも「先生-[ 3sg-本 ]」という head-marking  
型の表示になっている。ただし両方言ともに 3sg  
代名詞は省略も可能。

444. ~も also, too EP θí WP lá, má (SK  
sekō?)

(EP) jà θí jə- θíjā  
1SG も 1sg 知る  
「私も知っている」

(WP) já lá jə- θèjā  
1SG も 1sg 知る  
「私も知っている」

446. ~で (道具) by means of EP dē WP lə-,  
lá (SK dō?)

(EP) jə- ?án mì dē núthōun  
1sg 食べる ご飯 (共) さじ  
「私は匙でご飯を食べる」

(WP) jə- ?àn mé lá nòthōun  
1sg 食べる ご飯 (斜) さじ  
「私は匙でご飯を食べる」

447. ない (否定辞) not EP lə- ... bá (従属節),  
?é(主節) WP lə- ... 6à (従属節), ?e?(主節)  
(SK 従属節, 主節ともに tə- ... bá)

(EP) ?əwè lə- yê bá ?əkhúcòn ...  
3sg (否) 来る (否') (理由)  
「彼が来ないので...」

(WP) ?əwè lə- yài 6à ?əcáun ...  
3sg (否) 来る (否') (理由)  
「彼が来ないので...」

(EP) jə- ?án mì ?é  
1sg 食べる ご飯 (否)  
「私はご飯を食べない」

(WP) jə- ?àn mé ?e?  
1sg 食べる ご飯 (否)  
「私はご飯を食べない」

- 447-1. ~するな Do not... EP ... (lə)xi WP ...  
ləyé (SK ... tàyē)



- (EP) (nə-) ʔán mì ləxì  
2sg 食べる ご飯 (禁止)  
「あなたはご飯を食べるな」
- (WP) (nə-) ʔán mé ləyé  
2sg 食べる ご飯 (禁止)  
「私はご飯を食べるな」
- 447-2. ~か (question) EP ... ʔá, ... lə WP  
... ʔà, ... lài (SK ʔá, lə) (注) 疑問詞  
のない文では EP ʔá, WP ʔà を、疑問詞のある文  
では EP lə, WP lài をそれぞれ文末に置く。cf.  
Burmese /lé/, Mon /ha/, Shan /hâa/
- (EP) nə- ʔó lə ləkōUN ʔá  
2sg いる (場) ランゲーン (疑)  
「あなたはランゲーンにいるのか？」
- (WP) nə- ʔau lá təkhoUN ʔà  
1sg いる (斜) ランゲーン (疑)  
「あなたはランゲーンにいるのか？」
- (EP) chənó ʔó lə  
何 ある (疑)  
「何があるのか？」
- (WP) mənò ʔau lài  
何 ある (疑)  
「何があるのか？」
448. ~だから (理由) because EP ... ʔəkhúcòN WP  
... ʔəcáUN (SK ʔəxó) (注) 447 の例文を  
参照のこと。
449. ~だけれど (逆接) although EP ... lānāN WP  
... lānānyé (SK ʔənáʔké)
- (EP) ʔəwê lə- ʔê bá  
3se (否) 来る (否)  
lānāN | jə- mà  
(逆接) 1sg する  
「彼が来なかったが私はやった」
- (WP) ʔəwê lə- ʔai ʔà  
3se (否) 来る (否)  
lānānyé | jə- má  
(逆接) 1sg する  
「彼が来なかったが私はやった」
- 449-a. ~して, そして ..., and ... EP ... ʔòN, ...  
ʔəyòN WP ... ʔáUN (SK wī) cf.  
EP ʔòN 「終わる」 WP ʔáUN 「終わる」 (233-2)
- (EP) ʔəwê ʔánlū thī ʔòN |  
3se 浴びる 水 そして  
ʔán mì  
食べる ご飯  
「彼は水浴びしてご飯を食べた」
- (WP) ʔəwê ʔánlū thī ʔáUN |  
3se 浴びる 水 そして  
ʔán mé  
食べる ご飯  
「彼は水浴びしてご飯を食べた」
450. ~させる (使役) let someone do something EP  
dà + V (dàu, dài という発音もある) WP  
dəuʔ + V (SK dúʔ)
- (EP) jə- dà ʔán ʔəwê kú  
1sg (使役) 食べる 3se 菓子  
「私は彼に菓子を食べさせた」
- (WP) jə- dəuʔ ʔán ʔəwê kò  
1sg (使役) 食べる 3se 菓子  
「私は彼に菓子を食べさせた」
452. ~したい (願望) want to EP V + báʔà WP  
mó+ V (SK mò) (注) EP における非現  
実法を表す動詞助詞 mə- は元来「~したい」の  
意味を持っていたと思われる。現在 EP では動詞  
の後に báʔà 「欲しい」に由来する動詞助詞を置く  
ことによって「~したい」を表す。
- (EP) jə- ʔán báʔà kú  
1sg 食べる (欲求) 菓子  
「私は菓子を食いたい」
- (WP) jə- mó ʔán kò  
1sg (欲求) 食べる 菓子  
「私は菓子を食いたい」
- 452-a. 文末助詞 (some sentence final particles)
- 「(行ってください) ね」 Would you ... , please?
- (EP) lì x̌  
行く ね  
「行ってくださいね」
- (WP) lé ʔò  
行く ね  
「行ってくださいね」
- 「(これは良いです) ね」 It is ... , isn't it?
- (EP) ʔəjò ʔì nè  
これ 良い ね  
「これは良いですね」
- (WP) ʔəjò ʔé nè  
これ 良い ね  
「これは良いですね」
- 452-b. ~しよう will, be going to EP mə- WP  
kə- (SK kə-) (注) WP の kə- は Sgaw  
Karen の irrealis marker kə- と同源であろう。  
EP の mə- は、452 の注に述べたように、元々は  
「~したい」という意味を持っていたものが非現実  
法を表すようになったものと思われる。
- (EP) jə- mə- ʔán  
1sg (非現実) 食べる  
「私が食べる」
- (WP) jə- kə- ʔán  
1sg (非現実) 食べる  
「私が食べる」
- 452-c. ~しなければならない must, have to EP  
bá WP ʔà (SK bá) (注) 両方言とも  
「当たる; 正しい」の意味を持つ動詞に由来する動  
詞助詞を動詞の前に置く。
- (EP) jə- bá ʔán  
1sg (当為) 食べる  
「私は食べなければならない」
- (WP) jə- ʔà ʔán  
1sg (当為) 食べる  
「私は食べなければならない」
- < 重要単語・連語 >
453. ある, いる be, exist EP ʔó WP ʔau (SK  
ʔò)
- (EP) láip̚ ʔó  
本 ある  
「本がある」

- (WP) leiʔʔouʔ ʔàu  
本 ある  
「本がある」
- 453-1. ない there is no EP ʔó ʔé WP  
ʔàu ʔeʔ (SK tə- ʔó bá)
454. できる (能力) can EP ʔí WP ʔè (SK ʔé)  
(EP) jə- pɔ̃ láí ʔí  
1sg 読む 文字 できる  
「私は文字を読むことができる」  
(分離型動詞連続)
- (WP) jə- phɔ̃ leiʔ ʔè  
1sg 読む 文字 できる  
「私は文字を読むことができる」
- 454-1. 持っている possess EP ʔó WP ʔàu (SK  
ʔò)  
(EP) láíʔàu ʔó lé jə- ʔó  
本 ある (場) 1sg ところ  
「私は本を持っている」
- (WP) leiʔʔouʔ ʔàu ló jə- ʔàu  
本 ある (斜) 1sg ところ  
「私は本を持っている」
455. 同じの same EP mómó WP màunxáun (SK  
díʔʔóʔʔóʔ)
- 455-1. 似ている similar, alike EP bádòn WP  
lányáʔ (SK lɔ̃yáʔ)
456. 他の物 other EP ʔəyũyá WP ʔəyũyá (SK  
ʔəyā)
457. ～のために for the sake of EP ʔəyān WP  
ʔəyān (SK ʔəyó)
- (EP) jə- phā ʔəyān  
1sg 父 ため  
「私の父のために」
- (WP) jə- phā ʔəyān  
1sg 父 ため  
「私の父のために」
- 457-2. ～のような as, like EP bê ... ʔò WP  
ʔó ... ʔoʔ (SK díʔ... ʔóʔ)
- (EP) bê jə- phā ʔò  
(比定) 1sg 父 (比定')  
「私の父のように/ような」
- (WP) ʔó jə- phā ʔoʔ  
(比定) 1sg 父 (比定')  
「私の父のように/ような」
- 457-4. はい yes EP mwē WP mwê (SK mè)  
(注)EP mwē, WP mwê はともにコピュラ動詞  
(copula verb)。
- 457-5. いいえ no EP mwē ʔé WP mwê ʔeʔ (SK  
tə- mè bá)
- 457-10. ありがとう Thank you EP chəkhòunchətà WP  
shəkhòunshətá (SK tà blúʔ)

## 参考文献

Anonymous

- (1989) *Pwo Kayin-Myanmar Dictionary*. (Written in christian Pwo Karen script, pp.260)  
Rangoon: Pwo Kayin Baptist Conference.

Ballard, Emilie

- (1993) *Say it in Karen*. (I-III) Chiang Mai: The Thailand Baptist Missionary Fellowship.

Benedict, Paul K.

- (1972) *Sino-Tibetan: a conspectus*. Cambridge: Cambridge University Press.

Comrie, Bernard

- (1976) *Aspect*. Cambridge: Cambridge University Press.  
(1989) *Language Universals and Linguistic Typology*. (2nd edition) Chicago: University of Chicago Press.

Cooke, J.R., E. Hudspith and J.A. Morris

- (1976) "Phlong (Pwo Karen of Hot District, Chiang Mai)." (In) William A. Smally (ed.)  
*Phonemes and Orthography: Language Planning in Ten Minority Languages of Thailand* (Pacific Linguistics Series C-43), pp.187-220.

戴慶厦, 劉菊黃, 傅愛蘭

- (1991) 「克倫語」戴慶厦, 黃布凡, 傅愛蘭, 仁增旺姆, 劉菊黃編『藏緬語十五種』pp.388-414.  
北京: 北京燕山出版社.

戴慶厦, 黃布凡, 傅愛蘭, 仁增旺姆, 劉菊黃

- (1991) 『藏緬語十五種』北京: 北京燕山出版社.

Dixon, Robert M. W.

- (1997) *The Rise and Fall of Languages*. Cambridge: Cambridge University Press.

Dryer, Matthew S.

- (1986) "Primary objects, secondary objects, and antitativity." *Language* 62.4:808-845.

Duffin, C.H.

- (1913) *A Manual of the Pwo-Karen Dialect*. Rangoon: American Baptist Mission Press.

Foley, William A. and Robert D. Van Valin, Jr.

- (1984) *Functional Syntax and Universal Grammar*. Cambridge: Cambridge University Press.

Gilmore, David

- (1898) *A Grammar of the Sgaw Karen*. Rangoon: American Baptist Mission Press, F. D. Phinney Supt.

Goral, Donald R.

- (1986) "Verb concatenation in Southeast Asian languages." Ph.D. dissertation, University of California, Berkeley.

- Greenberg, Joseph H.  
 (1966) "Some universals of grammar with particular reference to the order of meaningful elements." (In) Greenberg, Joseph H.(ed.) *Universals of Languages (second edition)*, pp.73-113. Cambridge/Massachusetts: MIT Press.
- Grierson, George A.  
 (1928) *Linguistic Suvey of India (vol.1, part II)*. Reprinted in 1990,1994 by Low Price Publications, Delhi.
- Hansell, Mark  
 (1966) "Serial verbs and complement constructions in Mandarin: a clause linkage analysis." (In) Robert Van Valin (ed.) *Advances in Role and Reference Grammar*, pp.197-233. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
- 服部四郎  
 (1957) (編)『基礎語彙調査票』東京: 東京大学言語学研究室.  
 (1960)『言語学の方法』東京: 岩波書店.
- Haudricourt, André-G.  
 (1946) "Restitution du karen commun." *BSLP* 42:103-11.  
 (1953) "A propos de la restitution du Karen commun." *BSLP* 49:129-32.  
 (1972) *Problèmes de Phonologie Diachronique*. Paris: SELAF.  
 (1975) "Le système des tons du karen commun." *BSLP* 70.1:339-43.
- Henderson, Eugenie J. A.  
 (1961) "Tone and intonation in Western Bwe Karen." *Burma Research Society Fiftieth Anniversary Publication, No. 1*, Rangoon.  
 (1979) "Bwe Karen as a two-tone language?" *Pacific Linguistics*, Series C, No.45.  
 (1997) *Bwe Karen Dictionary, with Texts and English-Karen Word List*. (2 Vols) London: School of Oriental and African Studies, University of London.
- Honda, Isao  
 (1996) "Negation: a cross-linguistic study." Ph.D. dissertation, State University of New York at Buffalo.
- 飯島茂  
 (1974) 「国民形成と少数民族問題-ビルマにおけるカレン族の悲劇-」『アジア・アフリカ言語文化研究』8:117-135.
- Jones, Robert B.  
 (1961) *Karen Linguistic Studies*. Berkley and Los Angeles: University of California Press.
- 影山太郎  
 (1993)『文法と語形成』東京:ひつじ書房.
- Karen (Pwo) Dictionary Compiling Committee (The Open Society Institute's Burma Project)  
 (199?) *Karen (Pwo)-Burmese-English Dictionary*. (pp.287) Bangkok: Karen (Pwo) Dictionary Compiling Committee. (Written in buddhist Pwo Karen script)
- 加藤昌彦 (Kato, Atsuhiko)  
 (1991) "On three Karen particles di?, lí and lō : the Karen version of 'still' and 'anymore'."『東京大学言語学論集』12:97-117.  
 (1993) 「スゴー・カレン語の動詞連続」『アジア・アフリカ言語文化研究』45:177-204.  
 (1995) "The phonological systems of three Pwo Karen dialects." *Linguistics of the Tibeto-Burman Area* 18.1:63-103.  
 (1997) 「カレン人とその言語」田村克己・根本敬編『暮らしがわかるアジア読本 ビルマ』pp.42-49. 東京: 河出書房新社.  
 (1998) 「ポー・カレン語(東部方言)の動詞連続における主動詞について」『言語研究』113:31-61

- (1999) “Two types of causative construction in Pwo Karen (the Eastern dialect).” (In) Shintani Tadahiko (ed) *Linguistic and Anthropological Study on the Shan Culture Area*, pp. 55-93. Tokyo: Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa.
- (2000) 「カレン」『世界民族事典』 pp.188-189. 弘文堂.
- (2001a) 「ポー・カレン語（東部方言）の関係節 (Relative clauses in Pwo Karen [Eastern dialect])」『東京大学言語学論集』 20:275-300.
- (2001b) 「仏教ポー・カレン文字 (Buddhist Pwo Karen script)」『世界文字辞典』 pp.847-851. 東京:三省堂.
- (2001c) 「キリスト教ポー・カレン文字 (Christian Pwo Karen script)」『世界文字辞典』 pp.333-337 東京:三省堂.
- (2002) 「ビルマにおける東部および西部ポー・カレン語の対照基礎語彙」『東京外大東南アジア学』 7:212-249.
- (2003a) “Pwo Karen.” (In) Graham Thurgood and Randy LaPolla (eds) *The Sino-Tibetan Languages*, pp.632-648. London and New York: Routledge.
- (2003b) 「カレン系言語の状況」崎山理 (編) 『消滅の危機に瀕した言語の研究の現状と課題』 国立民族学博物館調査報告 39, pp.115-125.
- Keenan, Edward L.
- (1985) “Relative clauses.” (In) Timothy Shopen (ed) *Language Typology and Syntactic Description II, Complex Constructions*, pp.141-170. Cambridge University Press.
- Keenan, Edward L. and Bernard Comrie
- (1977) “NP accessibility and universal grammar.” *Linguistic Inquiry* 8:63-99.
- LaPolla, Randy J.
- (1994) “Parallel grammaticalizations in Tibeto-Burman languages: evidence of Sapir’s drift.” *Linguistics of the Tibeto-Burman Area* 17.1:61-80.
- Lefebvre, Claire (ed.)
- (1991) *Serial Verbs: grammatical, comparative, and cognitive approaches*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
- Lehman, Frederic K.
- (1967) “Kayah society as a function of the Shan-Burma-Karen context.” (In) J. H. Steward (ed.) *Contemporary Change in Traditional Societies, Vol. II*, pp.1-104. Urbana, Chicago, and London: University of Illinois Press.
- (1979) “Who are the Karen, and if so, why? Karen ethnohistory and a formal theory of ethnicity.” (In) Ch. F. Keyes (ed.) *Ethnic Adaptation and Identity: the Karen on the Thai frontier with Burma*, pp.215-53. Philadelphia: Institute for the Study of Human Issues, Inc.
- Luce, Gordon H.
- (1959) “Introduction to the comparative study of Karen languages.” *Journal of Burma Research Society* 42.1:1-18.
- (1991) *Phases of Pre-Pagan Burma: languages and history*. Oxford: Oxford University Press.
- Lyons, John
- (1977) *Semantics*. (2 Vols) Cambridge: Cambridge University Press.
- Matisoff, James A.
- (1973) *The Grammar of Lahu*. Berkeley and Los Angeles: University of California Press.
- (2003) *Handbook of Proto-Tibeto-Burman*. Berkeley, Los Angeles and London: University of California Press.

Mazaudon, Martine

- (1985) "Proto-Tibeto-Burman as a two-tone language? Some evidence from proto-Tamang and proto-Karen." (In) Graham Thurgood, James A. Matisoff and David Bradley (eds) *Linguistics of the Sino-Tibetan area: the state of the art. Papers presented to Paul K. Benedict for his 71st birthday* (Pacific Linguistics, series C-87), pp.201-229.

Muansuwan, Nuttanart

- (2002) "Verb complexes in Thai." Ph.D. dissertation, University at Buffalo, the State University of New York.

Nichols, Johanna

- (1986) "Head-marking and dependent-marking grammar." *Language* 62.1:56-119.

Nishi, Yoshio

- (1995) "A brief survey of the controversy in verb pronominalization in Tibeto-Burman." (In) Yoshio Nishi, James A. Matisoff, and Yasuhiko Nagano (eds.) *New Horizons in Tibeto-Burman Morphosyntax*, pp.1-16. Osaka: National Museum of Ethnology.

西田龍雄

- (1964) 「R.B. ジョーンズ Jr. 著 カレン語研究:記述・比較・テキスト」(Jones 1961 に対する書評)『東洋学報』46.4:01-013.  
(1966) 「ビルマにおけるパオ族の言語について—南方パオ語パアン方言覚え書」『言語研究』50:15-33.  
(2000) 『東アジア諸言語の研究 I 巨大言語群—シナ・チベット語族の展望』京都:京都大学学術出版会.

Okell, John

- (1969) *A Reference Grammar of Colloquial Burmese*. (2 Vols) London: Oxford University Press.

Phillips, Audra

- (1996) "Dialect comparison among the Pwo Karen of Central Thailand." *Proceedings of the Fourth International Symposium on Languages and Linguistics* Vol.III:1122-1162.  
(1999) *Western Thailand Pwo Karen Text Collection*. (pre-publication draft) Thammasat University and Summer Institute of Linguistics.  
(2000) "West-Central Thailand Pwo Karen phonology." *33rd ICSTLL Papers*:99-110. Bangkok: Ramkhamhaeng University.

Phon Myint

- (1975) *bud-dha bhaa saa pui: ka rang pe caa sa muing: (1851-1970)* (The History of Palm-leaf Inscriptions of Buddhist Pwo Karens: 1851-1970 [in Burmese, pp.306]) Rangoon: Dhabye-Oo Sapedaik.

Purser, W.C.B. and Saya Tun Aung

- (1922) *A Comparative Dictionary of the Pwo-Karen Dialect*. Rangoon: American Baptist Mission Press.

坂本恭章

- (1976) 『モン語語彙集 (Mon vocabulary)』東京:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.  
(1994) 『モン語辞典 (Mon-Japanese dictionary)』東京:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.

澤田英夫

- (1989) 「現代ビルマ語における動詞配列の類型について」『言語学研究』7:73-110. 京都大学言語学研究会.  
(1999) 「ビルマ語文法 (1 年次・2 年次)」(1998 年版の補訂版)(ms.).

- Saya Kan Gyi  
 (1915) *Introduction to the Study of Sgaw Karen*. Rangoon: American Baptist Mission Press, F. D. Phinney Supt.
- Sebba, Mark  
 (1987) *The Syntax of Serial Verbs*. Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins.
- Shafer, Robert  
 (1966-67/1974) *Introduction to Sino-Tibetan*. Wiesbaden: Otto Harrassowitz.
- 柴谷方良 (Shibatani, Masayoshi)  
 (1985) "Passives and related constructions: a prototype analysis." *Language* 61.4:821-848.  
 (1997) 「言語の機能と構造と類型」『言語研究』112:1-32.
- 沈力  
 (1997) 「現代中国語の動詞構造の研究-語形成と句形成の平行性を中心に」京都大学博士論文.
- Shintani, Tadahiko L. A.  
 (2003a) "Classification of Brakaloungic (Karenic) languages in relation to their tonal evolution." Shigeki KAJI (ed.) *Proceedings of the Symposium Cross-linguistic Studies of Tonal Phenomena: historical development, phonetics of tone, and descriptive studies*, pp.37-54. Tokyo: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa.  
 (2003b) "Notes à propos de l'étymologie du mot karen." *Linguistics of the Tibeto-Burman Area* 26.1:15-21.  
 (2003c) "Les deux phases d'assourdissement des initiales sonores et de dédoublement du système tonal dans les langues karen." *Bulletin de la Société de Linguistique de Paris* XCVIII fasc. 1:409-416.
- 白井聡子  
 (1998) 「現代チベット語の名詞修飾構造」『言語研究』116:59-95
- Solnit, David  
 (1997) *Eastern Kayah Li: grammar, texts, glossary*. Honolulu: University of Hawai'i Press.
- Song, Jae Jung  
 (1996) *Causatives and Causation: a universal-typological perspective*. London and New York: Longman.
- Stern, Theodore  
 (1968) "Three Pwo Karen scripts: a study of alphabet formation." *Anthropological Linguistics* 10.1:1-39.
- Thepkanjana, Kingkarn  
 (1986) "Serial verb constructions in Thai." Ph.D. dissertation, University of Michigan.
- 角田太作  
 (1991) 『世界の言語と日本語』東京:くろしお出版.
- Van Valin, Robert D., Jr. and Randy J. LaPolla  
 (1997) *Syntax: structure, meaning and function*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Wade, Jonathan  
 (1888) *Karen Vernacular Grammar*. (2nd edition) Rangoon: American Baptist Mission Press, F. D. Phinney Supt.
- Weidert, Alfons  
 (1987) *Tibeto-Burman Tonology*. Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins.

藪司郎

- (1982) 『アツィ語彙集 (Atsi vocabulary)』 東京:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.  
(1988) 「カレン語群」『言語学大辞典』 pp.1312-1318. 東京:三省堂.

湯川恭敏

- (1999) 『言語学』 東京:ひつじ書房.



# 索引

- lé, 62
- phó, 61
- bá < 經驗 >, 346
- bá < 催促 >, 348
- bá < 当為 >, 285
- bá < 判断の基準点の導入 >, 347
- bá < 不可抗力 >, 345
- bá < 無意志 >, 343
- báchâiN, 141
- bánó, 516
- báwô, 491
- báθà < 欲求 >, 338
- bê ... θò, 137, 397
- bêθí, 513
- bêθíθò, 513
- bjāN, 457
- bó, 485
- bò, 488
- bòlô, 474
- càibò, 391
- cānbò, 380
- cholé, 165
- chənó, 511
- chè, 104
- chè < 文助詞 >, 487
- chài, 489
- chàmwē, 166
- chàn < 一斉 >, 331
- chèn < 協力 >, 330
- chènchân, 404
- chī, 470
- chón < 強制 >, 337
- cò < 遠隔 >, 310
- dá < 限定 >, 357
- dá < 比較 >, 358
- dáchəθà < 詠嘆 >, 336
- dáʔò, 175
- dáwê < 願望 >, 320
- dà < 使役 >, 286, 520
- dài, 459
- dàlô, 473
- dé, 492
- dè, 134, 170, 379, 398
- dèiN, 402
- dò, 504
- dòn < 模倣 >, 306
- dù, 486
- yê < 漸次的变化 >, 289
- yì, 183, 402
- yòN, 393
- yú < 違法、反道德 >, 310
- jàv, 176, 462
- jā, 482
- jābò, 483
- jāN, 486
- jē, 485
- jò, 170, 406, 496
- jū < 試行 >, 312
- kəbá, 381
- kəðà < 逆向き >, 304
- kəjāN, 383
- kəjē, 168
- kəlā, 403
- kəlè, 382
- kənê, 482
- kənī, 167
- kō, 486
- khā, 404

khè < 代行 >, 352  
khô, 500, 515  
khó, 506  
khòkhô, 127, 513, 516  
khwái < 徹底 >, 313  
kón < 共同 >, 330  
kò < 使役 >, 289, 525  
kò ... dè, 124  
kò ... dèmèinká, 125  
kòun < 共同 >, 329  
kràn < 意外性 >, 308  
kràn < 傾向 >, 308  
kràn < 根拠のなさ >, 307  
kwè < 遊び >, 342  
kĩ, 456  
lə- < 否定 (従属節)>, 281  
ləphá, 176  
ləxì, 469  
láu, 181  
láudè, 169  
lən, 466  
làn < 下方 >, 297  
làn < 再帰的な動作 >, 300  
làn < 状態の変化 >, 299  
làn < 内方向への移動 >, 299  
làn-, 61  
lā < 願望 >, 315  
lāchài, 490  
lānân, 380, 396  
lê, 478  
lé < 強調 >, 165  
lé < 空間・時間 >, 129  
lé < 従属節助詞 (関係節を導く)>, 407  
léと dè < 従属節助詞 (補文を表す)>, 407,  
415  
lì < 慣れ >, 311  
lô, 472  
lóthà < 相互行為 >, 364  
lò < 使役 >, 289, 526  
lòn < 無分別 >, 290  
lòwê, 491

lú < 学習 >, 305  
lú, 129  
mə- < 非現実 >, 277  
má, 502  
mábá < 過誤 >, 343  
mà < 使役 >, 287, 522  
mā, 455  
mātè < 甚だしさ >, 336  
mèin < 自然な成り行き >, 323  
mî, 489  
náin < 比較 >, 359  
nà, 488  
nān, 122  
nê, 481, 504  
nî, 140  
nī < 引き寄せ >, 349  
nī < 執拗 >, 351  
nī < 努力 >, 348  
nī < 判断の基準点の導入 >, 351  
nó, 170, 405, 474, 494  
nó?ò, 497  
nótā, 406, 497  
nú-, 60  
pə-, 60  
pəthài, 456  
pəthí, 513  
phà-, 60  
phílân, 531  
phílân < 使役 >, 288, 524  
phílân < 裨益 >, 353  
phlòun, 513  
phō, 142, 456  
phō-, 61  
phōphôbàv, 514  
píthò, 513  
pjáuv < 專念 >, 333  
pjà < 提示 >, 356  
plè, 531  
plètò, 531  
plò < 無価値 >, 326, 327  
pô, 512

- pòwê, 513  
 pōuN, 458  
 ʔə-, 58  
 ʔəcòN, 149  
 ʔəyāN, 146, 409  
 ʔəkhâ, 408  
 ʔəkhâin, 160  
 ʔəkhânthài, 161  
 ʔəkhîlôuN, 158  
 ʔəkhúcòN, 380, 393  
 ʔəkhúdà, 162  
 ʔəkhúthò, 162  
 ʔəklà, 160  
 ʔəlá, 157  
 ʔəlānkhâin, 160  
 ʔəlòN, 159  
 ʔəméjâ, 159  
 ʔənàin, 163  
 ʔəphānkhú, 154  
 ʔəphānlá, 157  
 ʔəphòN, 158  
 ʔəʔó, 150  
 ʔəthài, 161  
 ʔəxònnàin, 163  
 ʔányú < 違法、反道德 >, 290  
 ʔánmâN, 530  
 ʔé, 467  
 ʔè, 389  
 ʔè-, 60  
 ʔèyòN, 381  
 ʔò, 170, 497  
 ɸâ, 477  
 ɸâ と lê < 従属節助詞 (補文を導く) >, 407, 426, 511  
 ɸō, 503  
 ɸá, 514  
 ɸàu < 驚愕 >, 327  
 ɸàu < 信念のなさ >, 328  
 ɸècé, 515  
 ɸòN < 共同 >, 328  
 θâ < 新局面 >, 325  
 θâN < 最前、最近 >, 308  
 θà < 再帰 >, 361  
 θà < 自発 >, 363  
 θè, 176  
 θèyòN, 395  
 θí < ~ も >, 497  
 θí < 従属節助詞 >, 406  
 θí < 複数 >, 176  
 θú < 内密 >, 309  
 təkhôlé (khòkhôlé), 141  
 tàlô, 473  
 tā, 406, 497  
 tè < 甚だしさ >, 335  
 thəmjânū, 382  
 thān < 常時 >, 332  
 thāN-, 61  
 thá < 保持 >, 339  
 thán < 外方向への移動 >, 294  
 thán < 完成 >, 296  
 thán < 上方 >, 291  
 thán < 状態の変化 >, 292  
 tháu < 最上 >, 360  
 thàin < 繰り返し >, 302  
 thàin < 元の位置への移動 >, 301  
 thàin < 事象の追加 >, 302  
 thàin < 返答、応酬 >, 304  
 thəN ... θâ, 126  
 thàu < 続行 >, 332  
 thòN, 132, 400  
 thònnó, 381  
 thōN, 503  
 tō, 458  
 wê < 強意 >, 334  
 wê < 文助詞 >, 486  
 wêdá < 強意 >, 335  
 wè < 備え >, 340  
 wī < 先行 >, 341  
 xáu < 共同 >, 330  
 xāN, 182  
 xì, 403, 469  
 xō, 484

- xwè, 140, 401  
 xwē, 126, 513  
 ʔó chón lā chàì, 318
- Ballard, i  
 Benedict, 7
- Comrie, 464, 519  
 Cooke et al., ii, 7, 22
- Dahlia Win, vi, 573  
 Dixon, i  
 Dryer, 42  
 Duffin, i, ii, 5
- Foley and Van Valin, 372, 426
- Gilmore, i  
 Goral, 207  
 Greenberg, 433
- Haudricourt, 8, 22  
 Henderson, 8, 535  
 Honda, 280
- Jones, ii, 5, 8, 21, 22
- LaPolla, 103, 532  
 Lefebvre, 207  
 Linguistic Survey of India, 5  
 Luce, 8  
 Lyons, 31
- Matisoff, 7  
 Mon-Khmer, 7  
 Muansuwan, 207
- Nishi, 103
- Phillips, ii, 7, 22, 25  
 Phon Myint, ii, 12  
 Phu Tah Moo, 571  
 Purser and Saya Tun Aung, i, ii, 5, 17, 437, 442
- reduplication, 83
- Saw Hla Chit, vi  
 Saw Htalon, vi  
 Saw Thurein, vi  
 Saya Kan Gyi, i  
 Sebba, 207  
 Shibatani, 363  
 Shintani, 8  
 Solnit, i, 535  
 Song, 519  
 Stern, ii
- Taylor, 5  
 Thepkanjana, 207  
 Tibeto-Karen, 7  
 TYPE 1, 517  
 TYPE 2, 423, 425, 517
- U Pyinnyathami, vi  
 U Sandawara, vi
- V1 事象の実現が含意されない動詞連続,  
 252  
 V2 事象の実現が含意されない動詞連続,  
 228
- Van Valin and LaPolla, 51, 187, 519  
 Violet Kyaw, vi
- Wade, i  
 Weidert, 8
- アスペクト, 459
- 飯島茂, 10  
 池田一人, 10  
 意志性, 187, 517  
 意志動詞, 187  
 一般助詞, 29, 493  
 一般助詞を用いた慣用表現, 508  
 移動動詞, 227  
 意味役割, 50  
 イントネーション, 23  
 韻母, 15  
 引用文, 415

- 宇佐美洋, 23
- 裏声, 26
- 穏やかな上昇調イントネーション, 24
- 介子音, 15
- 影山太郎, 199
- 可能タイプ, 236
- 関係節, 389, 433
- 感情を表す動詞, 154
- 間接的な使役, 521
- 感嘆詞, 27, 385
- 完了 (perfect), 464
- 基礎語彙, 571
- 基本語順, 31
- 疑問, 36, 477, 478
- 疑問語, 511
- 急激な上昇調イントネーション, 25
- 狭義のカレン語, 3
- 強勢形, 95
- キリスト教スゴー・カレン文字, 10
- キリスト教ポー・カレン文字, 11
- 具体数詞, 113
- 繰り上げ, 429
- 繰り返し, 83
- 繫辞動詞, 40, 424, 468
- 軽声音節, 22
- 原因 - 結果, 210
- 現実法, 278
- 現実法・非現実法の対立, 425, 528
- 語彙的アスペクト, 187
- 項, 37
- 行為者, 50
- 後置型, 433
- 肯定節, 466
- 高特定性名詞, 444
- 再帰, 361
- 坂本恭章, 571
- 澤田英夫, 155, 207
- 使役, 423
- 使役構文, 517
- 事象, 31
- 時制, 53
- 自他の対応, 194
- 自動詞, 192
- 柴谷方良, 363
- 自発, 363
- 斜格補語, 37
- 斜格補語相当の補文, 426
- 従属節, 389
- 従属節助詞, 29, 389
- 従属節助詞を伴わない副詞節, 262, 409
- 主語, 37
- 主語相当の補文, 413
- 主語同一型, 213
- 主語の倒置, 32
- 主語非同一型, 213
- 主題, 46, 493
- 主題化, 46
- 手段 - 目的, 210
- 述語, 44
- 述部, 44
- 主動詞, 214, 254
- 主要部, 64, 433
- 主要部内在型関係節, 436
- 主要部名詞, 433
- 照応, 95
- 畳語, 83
- 状態動詞, 190
- 譲渡不可能 (inalienable), 135
- 助詞, 27
- 助数名詞, 113, 115
- 助数名詞句, 116
- 所有, 54, 135, 152
- 白井聡子, 436
- 資料の一覧, 549
- 新谷忠彦, v
- 数詞, 113
- 数量詞遊離, 120

声調, 15, 21  
 西部方言, 3, 5, 571  
 西部ポー・カレン語, 3  
 声母, 15  
 接辞, 57  
 接辞 (affix) と助詞 (particle), 57  
 前置型, 433  
  
 相互行為, 364  
 促音節の解釈, 573  
 側置助詞, 29, 129  
 側置助詞句, 43, 129  
 側置名詞, 145  
  
 態, 52  
 第一目的語, 42  
 第一形, 95  
 戴慶厦, 103  
 第二形, 95  
 第二目的語, 42  
 代名詞, 95  
 代名詞化 (pronominalization), 47, 102  
 他動詞, 192  
  
 チベット・ビルマ祖語の \*s-, 194  
 抽象数詞, 113, 122  
 チョウンビョー方言, 571  
 直接的な使役, 522  
  
 角田太作, 155  
  
 テキスト, 553  
  
 動作主性, 187  
 動詞, 27  
 頭子音, 15  
 等式文, 40  
 動詞句, 201  
 動詞句を目的語として取る構造, 202, 258  
 動詞助詞, 29, 277  
 動詞の配列規則, 222  
 動詞複合体, 201  
 動詞文, 51  
 動詞連続, 207

動詞連続と外見が類似する構造, 257  
 動態動詞, 190  
 東部方言, 3, 5, 571  
 東部ポー・カレン語, 3  
 特定性, 444  
  
 西田龍雄, 8, 194  
 二重主語文, 40  
 入破音, 16  
 認識的法, 278  
  
 パアン, 3  
 場所格交替, 195  
 場所名詞, 153  
 服部四郎, 25, 196, 571  
  
 非現実法, 53, 277  
 非制限的關係節, 445  
 非対格動詞, 199  
 否定, 35, 467  
 否定辞, 35  
 否定節, 466  
 被動者, 50  
 非能格動詞, 199  
 評言, 46  
 標識介在型, 433  
 描写タイプ, 236  
 ビルマ語との接触, 452  
 品詞, 27  
  
 複合, 63  
 複合動詞, 79  
 複合名詞, 63  
 副詞, 27, 375  
 副詞節, 389  
 副詞的要素, 201  
 副助詞, 29, 455  
 複数を表す助詞, 176  
 仏教スゴー・カレン文字, 11  
 仏教ポー・カレン文字, 12, 549  
 文助詞, 477  
 文体的価値, 535  
 文法化, 266

文末助詞, 29

分離型, 208

分裂文, 49

補語, 37

補文, 389, 413

補文と引用文, 416

末子音, 15

無意志動詞, 187

名詞, 27

名詞句, 91

名詞句を構成する要素, 91

名詞修飾助詞, 29, 165

名詞文, 51

命令文, 51, 315, 320

目的語, 37

目的語相当の補文, 415

モン語, 571

モン語の影響, 5

藪司郎, 571

有生性, 517

湯川恭敏, 120

様態 - 動作, 210

呼びかけ, 183

類似要素反復, 535

レーケー文字, 14

連結型, 208

連結型動詞連続の形態統語論上の位置づけ, 233

論理的主語, 212

論理的主語の同一指示性, 212